NIFS
KANOYA

NATIONAL
INSTITUTE OF
FITNESS AND
SPORTS
IN KANOYA

令和８年度

体育学部シラバス

鹿屋体育大学

学籍番号	氏　　名

目　　次

一般科目

【コミュニケーション科目】

総合英語Ⅰ …… (1)
総合英語Ⅱ …… (2)
総合英語Ⅲ（コミュニケーションのための英文法）…… (3)
総合英語Ⅲ（基礎英語で深める文化間理解）…… (4)
総合英語Ⅲ（英語多読・多聴）…… (5)
総合英語Ⅲ（健康とスポーツ関連の英語） …… (6)
総合英語Ⅳ（アクティブリーディング）…… (7)
総合英語Ⅳ（スポーツ英語）…… (8)
総合英語Ⅳ（旅の英語） …… (9)
総合英語Ⅳ（日常会話） …… (10)
総合英語Ⅳ（プレゼンテーション入門） …… (11)
総合英語Ⅴ（Q & A のテクニック）…… (12 ～ 13)
総合英語Ⅴ（海外留学） …… (14 ～ 15)
総合英語Ⅴ（アクティブコミュニケーション）…… (16)
総合英語Ⅵ（オリンピック）…… (17)
総合英語Ⅵ（異文化コミュニケーション） …… (18)
総合英語Ⅶ（海外で暮らす）…… (19)
総合英語Ⅶ（実践プレゼンテーション）…… (20)
中国語 …… (21)
韓国語 …… (22)
国語・文章表現法 …… (23)
ドイツ語 …… (24)
フランス語 …… (25)
日本語演習Ⅱ …… (26)
現代日本事情 …… (27)
各国文化研究 …… (注 1)

【社会・文化・自然科目】

倫理・哲学 …… (28)
人権論 …… (注 4)
ジェンダー論 …… (29)
歴史学 …… (30)
社会学 …… (31)
日本国憲法 …… (32)
日本文化論 …… (33)
異文化理解 …… (34)
生物化学論 …… (35)
身体科学論 …… (36)
環境論 …… (37)
社会に出るための経済学 …… (38 ～ 39)
バイオメカニクスを学ぶための物理・数学 …… (40)

【総合科目】

総合演習 A …… (41)
情報処理 A …… (42 ～ 43)
情報処理 B …… (44 ～ 45)
情報処理 C …… (46)
AI 入門 …… (47)
プレゼンテーション・討論Ⅰ …… (48)
プレゼンテーション・討論Ⅱ …… (49)
交流リベラルアーツ …… (注 2)

キャリア形成科目

【キャリアデザイン科目】

キャリアデザインⅠ …… (50)
キャリアデザインⅡ …… (51)
キャリアデザインⅢ …… (52)
キャリアセミナー …… (53)
キャリアコミュニケーション …… (54)
企業実習 …… (55)
キャリア対策セミナー（教員）…… (56)
キャリア対策セミナー（一般企業）…… (57)
キャリア対策セミナー（公務員）…… (58)

専門科目

【基礎科目 A】

解剖生理学 …… (59)
体育学概論 …… (60)
体育・スポーツ史 …… (61 ～ 62)
健康教育学 …… (63)
運動生理学 …… (64)
スポーツ栄養学 …… (65)
スポーツ社会学 …… (66)
スポーツマネジメント概論 …… (67)
生涯スポーツ学概論 …… (68)
スポーツ心理学 …… (69)
バイオメカニクス …… (70 ～ 71)
衛生学・公衆衛生学 …… (72)
スポーツ医学 …… (73)

【基礎科目 B】

救急処置論・実習 …… (74)
トレーニング科学概論 …… (75)
スポーツメンタルトレーニング論 …… (76)
運動学概論 …… (77)
学校保健 …… (注 4)
スポーツと法 …… (78)
コーチ学概論 …… (79)
障がい者スポーツ論 …… (80)
武道学概論 …… (81)

【応用科目】

コンディショニング論・実習 …… (82)
生涯スポーツ実践論 …… (83)
武道史 …… (84)
運動生化学 …… (85)
アスレチックトレーナー論 …… (86)
アスレチックトレーナー実習 …… (87 ～ 88)
スポーツ産業論 …… (注 4)
スポーツ文化論 …… (89)
スポーツトレーニング実践論 …… (90)
スポーツ政策論 …… (91)
武道文化論 …… (92)
身体発育発達・老化論 …… (93)
スポーツ戦術実践論 …… (94)
スポーツ調査法 …… (95)
スポーツビジネス論 …… (96)
体育・スポーツ統計学 …… (97)
スポーツマーケティング論 …… (注 4)
運動処方論 …… (98)
応用スポーツ心理学 …… (99)
イベント管理学概論 …… (100)
ヘルスプロモーション論・実習 …… (101)
スポーツ国際開発論 …… (102)

（注 1）「各国文化研究」：単位互換科目
（注 2）「交流リベラルアーツ」：単位互換科目
（注 4）本学ホームページのみ掲載

スポーツパフォーマンス研究論 …… (103)
救　急　法　実　習 …… (注3)

【実験演習科目】
体　育　学　実　験　Ⅰ …… (104～105)
体　育　学　実　験　Ⅱ …… (106～110)

【関連実技科目】
陸上・体操・水泳 …… (111～112)
バスケットボール …… (113)
サ　ッ　カ　ー …… (114)
バレーボール …… (115)
テ　ニ　ス …… (116)
卓　球 …… (117)
バドミントン …… (118)
ソフトボール …… (119)
ダ　ン　ス …… (120)
柔　道 …… (121～122)
剣　道 …… (123～124)
エアロビックダンス …… (125)
ジョギング&ウォーキング …… (126)
生涯スポーツ・レクリエーション&ゲームズ …… (127)
アウトドアスポーツ実習(夏季) …… (128)
アウトドアスポーツ実習(冬季) …… (129)
海　洋　ス　ポ　ー　ツ …… (130～131)
ラ　グ　ビ　ー …… (132)
ゴ　ル　フ …… (133)
な　ぎ　な　た …… (134)
相　撲 …… (135)
弓　道 …… (136)
野　外　活　動 …… (137)
体力トレーニング …… (138～139)

専攻科目
【専修科目】
(アスリート・コーチング系)
[競技スポーツ論・実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ]
陸　上　競　技 …… (140～147)
水　泳 …… (148～151)
体　操　競　技 …… (152～159)
バレーボール …… (160～163)
バスケットボール …… (164～175)
サ　ッ　カ　ー …… (176～180)
テ　ニ　ス …… (181～184)
海　洋　ス　ポ　ー　ツ …… (185～192)
自　転　車　競　技 …… (193～200)
野　球 …… (201～208)

(生涯スポーツ系)
生涯スポーツ学総論 …… (209)

[生涯スポーツ論・演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ]
コミュニティ・マネジメント …… (210～212)
健　康　・　体　力 …… (213～215)
野　外　教　育 …… (216～218)

(武道系)
[専修武道論・実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ]
柔　道 …… (219～223)
剣　道 …… (224～231)

【指導実践科目】
スポーツ指導実践概論 …… (232)
スポーツ指導実習
スポーツコーチ実習 …… (233)
生涯スポーツ指導実習 …… (234)
武　道　指　導　実　習 …… (235)

教職科目
【教　職】
教　師　論 …… (236)
教　育　心　理　学 …… (237)
特　別　支　援　教　育 …… (238)
道徳の理論と指導法 …… (239)
総合的な学習の時間の指導法 …… (240)
特　別　活　動　論 …… (241)
教育の方法と技術 …… (242)
教育とＩＣＴ活用 …… (243)
学校と教育の歴史 …… (244)
教育法・教育行政 …… (245)
介　護　等　体　験 …… (246)
生徒・進路指導論 …… (247)
教育相談・カウンセリング論 …… (248)
教　育　課　程　論 …… (249)

【専　門】
保健体育科教育法Ⅰ …… (250)
保健体育科教育法Ⅱ …… (251)
保健体育科教育法Ⅲ …… (252)
保健体育科教育法Ⅳ …… (253)
教　育　実　習　Ⅰ …… (254)
教　育　実　習　Ⅱ …… (255)
教　職　実　践　演　習 …… (256)

【ゼミナール】
ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ …… (257～307)

(注3)「救　急　法　実　習」: 単位認定科目

一　般　科　目

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅰ (111A1-2200)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	石原　豊一			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	25名
授業の概要	アスリートや指導者として海外でも活躍するためには、英語の基礎力は不可欠である。本科目においては、初級レベルの大学生を特に念頭に置いて作成された教材を使い、英語の基礎力を伸ばすことを目指す。教材で扱われるトピックは、大学生が日常的によく出会うもので、イラストや写真も使用され日本語のサポートもあるので、くじけることなく取り組めるようになっている。無料でダウンロードできる音声ファイルも活用し、デジタル環境を使って学習を進めていく予定である。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理							
	■認知的領域	英語の基本的文法事項について理解し、それを応用できるようになる。	○		○			○ (ﾃｽﾄ)	30
	■情意的領域	毎回の活動に主体的に取り組む。異なる国々の文化や習慣に関心を持つ。		○		○			30
	■技能的領域	英語で話し、聞き、書き、読めるようになるため、基本的四技能を身につける。また、英語の発音、読みに慣れる。			○		○		40

成績評価の基準	出席点(30%)、授業への参加(15%)、小テスト(15%)、期末試験(40%)の得点を合計し６０点以上を合格とする。小テストでは基礎力を養うため、単語テストを実施する。「授業への参加」はウェブシステムへの回答状況で評価する。なお、授業中の無断退出は出席扱いとはしない。
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：『English Day!　やさしい英語でまるごと１日過ごしてみる』(Robert Hickling, 金星堂、2023)

履修条件・ 関連科目	4月当初の英語プレイスメントテスト結果により指定された1年次生25名のみ受け入れ。国際交流センターが提示する履修条件をよく読んで履修すること。	備考(教員メッセージ含む)	タブレット(ノートパソコン、スマートフォン)必携。英語の発音、リスニングに慣れるよう自分でも音声ファイルを活用し自学すること。毎週の予習は必須。初回講義でウェブシステムの登録を行うのでテキストは必ず新しいものを事前に購入して臨むこと（教科書固有番号で学習者登録が必要）。

オフィス・アワー	月曜日：昼休み、12時40分～13時40分。

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	石原　豊一	コース・課題の説明	第1課 予習 (1時間)
2	〃	Unit 1 Getting Up 現在時制（be動詞）	第2課 予習 (1時間)
3	〃	Unit 2 Breakfast Time 現在時制（一般動詞）	第3課 予習 (1時間)
4	〃	Unit 3 Getting Ready for School (名詞)	第4課 予習 (1時間)
5	〃	Unit 4 First Class of the Day (代名詞)	第5課 予習 (1時間)
6	〃	Unit 5 Lunchtime (前置詞)	第6課 予習 (1時間)
7	〃	Unit 6 Shopping (WH疑問文)	第7課 予習 (1時間)
8	〃	Unit 7 Getting Lost 過去時制（be動詞と一般動詞）	第8課 予習 (1時間)
9	〃	Unit 8 In the Museum (現在進行形と過去進行形)	第9課 予習 (1時間)
10	〃	U nit 9 At a Cafe 未来表現（willとbe going to)	第10課 予習 (1時間)
11	〃	Unit 10 Part-Time Job (現在完了形)	第11課 予習 (1時間)
12	〃	Unit 11 After Work (助動詞)	第12課 予習 (1時間)
13	〃	Unit 12 Housework (不定詞と動名詞)	第13課 予習 (1時間)
14	〃	Unit 13 Free Time at Home (比較級と最上級)	第14課 予習 (1時間)
15	〃	Unit 14 The Weekend (接続詞)	第15課 自学 (1時間)
16	〃	期末試験（筆記、リスニング）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅱ (111A2-2200)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	石原　豊一			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	25名
授業の概要	海外で活躍するためには、今や英語の基礎力は不可欠である。この科目においては、海外で最低限のコミュニケーションを図るための基礎力を身に着けるため、基礎語彙をマスターし、200語までの平易な英文を読むことで、基礎的な文法事項を確認する。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	英語の基本的文法事項について理解し、それを応用できるようになる。		○			○		30
	■情意的領域	毎回の課題に主体的に取り組む。 異なる国々の文化や習慣に関心を持つ。	○		○				30
	■技能的領域	英語で話し、聞き、書き、読めるようになるため、基本的四技能を身につける。また、英語の発音、読みに慣れる。	○	○			○		40

成績評価の基準	出席点(30%)、平常点(授業への参加,ノート提出,小テスト；30%)、期末試験(40%)の得点を合計し６０点以上を合格とする。なお、授業中の無断退出は出席扱いとはしない。
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：『Good Grammar, Better Communication やさしく学ぶコミュニケーション英文法』 (Joan McConnell, 山内圭著, 成美堂、2022)
履修条件・ 関連科目	テスト結果により指定された1年次生25名。前後期に開講されるが、ともに25名以上の受け入れは原則不可。国際交流センターが提示する履修条件をよく読んで履修すること。
備考(教員メッセージ含む)	毎週予習が課題となるその授業で講義した次の課の問題を解いて授業に臨むこと。また、テキストは必ず購入すること。進度に関しては授業計画に示すが、学生の理解度に合わせて適宜調整する。
オフィス・アワー	月曜日：昼休み、12時40分～13時40分。

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	石原　豊一	コース・課題の説明	第1課 予習 (1時間)
2	〃	Chapter1 Laughter Is a Miracle Medicine 現在形	第2課 予習 (1時間)
3	〃	Chapter2 Florence Nightingale: Pioneer of Modern Nursing 過去形	第3課 予習 (1時間)
4	〃	Chapter3 Pearls of Wisdom 名詞・代名詞	第4課 予習 (1時間)
5	〃	Chapter4 Love Is Powerful 接続詞・前置詞	第5課 予習 (1時間)
6	〃	Chapter5 Land Farms for Fish 形容詞・副詞	第6課 予習 (1時間)
7	〃	Chapter6 The Key to Success 助動詞	第7課 予習 (1時間)
8	〃	Chapter7 The Power of Positive 動名詞	第8課 予習 (1時間)
9	〃	Chapter8 A Dog Is Man’s Best Friend 不定詞	第9課 予習 (1時間)
10	〃	Chapter9 Mushrooms Are a Miracle Food！ 比較	第10課 予習 (1時間)
11	〃	Chapter10 Protecting Man’s Best Friend 分詞	第11課 予習 (1時間)
12	〃	Chapter11 “Rice” from the Ocean 未来形	第12課 予習 (1時間)
13	〃	Chapter12 Ocean-aged Wines 受動態	第13課 予習 (1時間)
14	〃	Chapter13 Angry People Aren’t Happy People 完了形	第14課 予習 (1時間)
15	〃	Chapter14 Fast Fashon Is a “Mixed” Blessing 関係詞	第15課 自学 (1時間)
16	〃	期末試験（筆記、リスニング）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅲ（コミュニケーションのための英文法） (111A3-2201)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	田嶋　靖子			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1～4年次	受け入れ人数	35名程度
授業の概要	従来の読解・翻訳中心型の英語から、昨今はコミュニケーションで活かす事のできる英語力が求められています。これまで学んできた英文法の知識を、日常の場面を想定したフレーズに落とし込み反復的に練習することで、コミュニケーションをとる際の基礎的な英語文法・言い回しの定着を目指します。また、コミュニケーションをとる上で不可欠な、グローバルな視点を養う機会を提供します。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	基本的な英語の構造を理解し、それを日常の英語コミュニケーションに用いることができるようになる。	○	○			○		60
	■情意的領域	課題や自分で設定した自主学習目標に主体的に取り組み、意欲的に英語によるコミュニケーションに参加することができる。	○		○				30
	■技能的領域	機会に応じた時制や言い回しを用いて、間違いを恐れず英語コミュニケーションをすることができる。	○	○		○			10

成績評価の基準	授業での積極的な言語活動への参加、課題・小テストの提出状況を総合的に評価し、６０点以上を合格とする。学期末試験のスコアを１０％分として評価に用いる。		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：Say It Now! Grammar for Communication 話す・伝える英文法　高田智子・Diane H Nagatomo著金星堂 @1,800円(税別) 補助教材　適宜授業の中で紹介し、必要に応じてこちらで準備し配布します。 参考書 総合英語 Forest(フォレスト),塙タカユキ他著　㈱桐原書店, 1999 ※高校までに使用した総合的な内容の文法書が手元にあれば、そちらで十分です。 英会話 話を組み立てるパワーフレーズ 講義編, 大西泰斗　ポール・マクベイ著, NHK出版, 2021		
履修条件・ 関連科目	履修条件：総合英語Ⅱの単位を修得していること、もしくは、プレイスメントテストの結果が、TOEICスコア換算で、300以下でかつ、下位50番目より上位の結果であること。関連科目：総合英語Ⅱ、総合英語Ⅳ	備考(教員メッセージ含む)	基礎的な文法をしっかり復習・学習し、英語でのコミュケーションを楽しみましょう。
オフィス・アワー	月曜日１０：００～１０：３０　国際交流センター２階　非常勤講師控室　（国重教授研究室隣です） 英語の勉強方法に関する相談や質問等を受け付けます。メールアドレスは１回目の授業内でお知らせします。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	田嶋　靖子	Introduction　授業概要・課題・評価についての説明。 英語の基礎を見直そう！　５文型の重要性	英語学習計画について考えてみよう 指定したStreamから気づきを得よう
2	〃	Unit 1 I Commute by Train. 【現在時制・過去時制】	次週のＵｎｉｔ予習：単語・文法確認（４０分） ＋自主学習（２０分）
3	〃	Unit 2 What Are You Going To Do This Weekend?　【未来表現】	次週のＵｎｉｔ予習：単語・文法確認（４０分） ＋自主学習（２０分）
4	〃	Unit 3 Have You Ever Volunteered? 【現在完了形】	次週のＵｎｉｔ予習：単語・文法確認（４０分） ＋自主学習（２０分）
5	〃	Unit 4 Is There a Bank Near Here? 【There is／are 構文】	次週のＵｎｉｔ予習：単語・文法確認（４０分） ＋自主学習（２０分）
6	〃	Unit 5 Could I Join Your Class? 【助動詞①】 Unit 6 You Should Apply for the Program. 【助動詞②】	次週のＵｎｉｔ予習：単語・文法確認（４０分） ＋自主学習（２０分）
7	〃	Unit 7　What do the Plans Include? 【疑問詞】	次週のＵｎｉｔ予習：単語・文法確認（４０分） ＋自主学習（２０分）
8	〃	Unit 8　My New Apartment is Safer than My Old One.【比較級・最上級】	次週のＵｎｉｔ予習：単語・文法確認（４０分） ＋自主学習（２０分）
9	〃	Unit 9　Typing is Easy for Me!【動名詞】	次週のＵｎｉｔ予習：単語・文法確認（４０分） ＋自主学習（２０分）
10	〃	Unit 10　I Have Many Things to Learn. 【to 不定詞】	次週のＵｎｉｔ予習：単語・文法確認（４０分） ＋自主学習（２０分）
11	〃	Unit 11　If I Travel Abroad, I'll Take a Group Tour.【because/if節】	次週のＵｎｉｔ予習：単語・文法確認（４０分） ＋自主学習（２０分）
12	〃	Unit 12　Osamu Tezuka is Admired by Many People. 【受動態】	次週のＵｎｉｔ予習：単語・文法確認（４０分） ＋自主学習（２０分）
13	〃	Unit 13　Here is a Book Showing Various Recipes!【過去分詞・現在分詞】	次週のＵｎｉｔ予習：単語・文法確認（４０分） ＋自主学習（２０分）
14	〃	Unit 14　There is a Candidate who I Want to Support. 【関係代名詞】	次週のＵｎｉｔ予習：単語・文法確認（４０分） ＋自主学習（２０分）
15	〃	Wrap up	学期末試験に向けた総復習（1時間）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅲ（基礎英語で深める文化間理解）	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (コミュニケーション科目)
担当教員名	田嶋　靖子			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1~4年次	受け入れ人数	35名程度
授業の概要	世界を取り巻く多様な価値観や英語が使用される背景にある文化について、基礎レベルの英語を通して学び、文化間の違いに気づき、他者や多文化への理解を深めます。知識を深めることで、文化の違いを受け入れる素地を育み、学習者自身もその文化的多様性を形成する一人であるということに気づき、英語を通して自分を取り巻く文化、自分自身への関心を向け、英語を使って表現できることを目指します。受講者は、授業内で学んだことを自分自身のこととして、より深い学びに掘り下げることが期待されます。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理							
	■認知的領域	基礎的な英語の構造を理解し、コミュニケーションに用いることができる。	○			○			30
	■情意的領域	多様な文化間の違いについて新たな視座に立ち、主体的に考えることができる。	○	○	○				40
	■技能的領域	基礎的な英語の言い回しについて、例文に倣って表現することができる。	○	○					30

成績評価の基準	授業での積極的な言語活動への参加、課題・小テストの提出状況を総合的に評価し、６０点以上を合格とする。 全体で３回の課題提出を予定しており、成績評価の対象です。
テキスト、教材 参　考　書	テキスト アクロス・カルチャーズ異文化間コミュニケーションのための総合英語 Across Cultures For Better English Communication and Understanding, 本名信行 著/ Andy Kirkpatrick 著/ 竹下裕子 著, 2018年, 三修社 参考書 「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」, ブレイディみかこ, 2019年, 新潮社 総合英語 Forest(フォレスト),塙タカユキ他著　㈱桐原書店, 1999 ※高校までに使用した総合的な内容の文法書が手元にあれば、文法事項を確認するのに便利です。
履修条件・ 関連科目	履修条件：総合英語Ⅱの単位を修得していること、もしくは、プレイスメントテストの結果が、TOEICスコア換算で、300以下でかつ、下位50番目より上位の結果であること。 関連科目：総合英語Ⅱ、総合英語Ⅳ
備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	月曜日１０：００～１０：３０　国際交流センター２階　非常勤講師控室　（国重教授研究室隣です） 英語の勉強方法に関する相談や質問等を受け付けます。メールアドレスは１回目の授業内でお知らせします。

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	田嶋　靖子	Introduction：“Put your feet in someone's shoes”ってどういうこと？ 多文化社会における自分と他者について考えよう	
2	〃	Chapter 1 Whose English?　英語はだれのもの	授業内で学習した単語や文法事項を復習する。(30分)
3	〃	Chapter 3 Your Variety Is Better Than Mine. 共通語は多様なことば	授業内で学習した単語や文法事項を復習する。（30分）
4	〃	Chapter 4 What Is the Culture of English? 英語の文化とは？	授業内で学習した単語や文法事項を復習する。（30分）
5	〃	Chapter 8 English Is an Asian Language! 英語はアジアの言語	授業内で学んだ文法を使って、webclassの課題に取り組む。（60分）
6	〃	国家間や地域の格差を知る～もし世界が１００人の村だったら～ –Can we realize "Sports for All" in our world?–	授業内で学習した単語や文法事項を復習する。（30分）
7	〃	Further Reading 3 Complimenting across Cultures and Genders 誉めかたと文化・ジェンダー	授業内で学習した単語や文法事項を復習する。（30分）
8	〃	Gender and Sports Gender and Fairness in Sports: The Case of Halba Diouf ジェンダーとスポーツ	授業内で学習した単語や文法事項を復習する。（30分）
9	〃	Gender and Sports Opinion Writing	授業内で学んだ文法を使って、webclassの課題に取り組む。（60分）
10	〃	Further Reading 2 How Do I Know When It’s My Turn to Speak? 沈黙のわけ	授業内で学習した単語や文法事項を復習する。（30分）
11	〃	Chapter 10 What Does It Mean to Be Bilingual? バイリンガルとはどういうことか	授業内で学習した単語や文法事項を復習する。（30分）
12	〃	Faith and Sports 信仰 とスポーツ	授業内で学習した単語や文法事項を復習する。（30分）
13	〃	Further Reading 4 Body Language across Cultures 身振りと文化	授業内で学習した単語や文法事項を復習する。（30分）
14	〃	Chapter 12 “You Said So!” “No, We Didn’t!” 「そう言ったでしょ」「いや、言ってない」	授業内で学んだ文法を使って、webclassの課題に取り組む。（60分）
15	〃	Chapter 15 English across Cultures 異文化をつなぐ英語	授業内で学習した単語や文法事項を復習する。（30分）
16	〃	Wrap　up 学期末試験は行わない	

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅲ（英語多読・多聴） (111A3-2202)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	国重　徹			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1~4年次	受け入れ人数	35名
授業の概要	アスリートもスポーツ指導者も国際舞台で活躍するためには、英語でコミュニケーションを取るための力を持っていることが必須である。本授業では、コミュニケーションスキルのうち、まずはReading, Listeningの基本的なスキルを習得させることを目的とし、多読・多聴活動を通して、やさしい英文を大量にインプットし、学習者のreadingとlisteningのfluencyを高める。その上で、英語による多話や多書活動も行い、英語によるアウトプットの力増進へも繋げていく。本授業を通して、本学の教育目標やカリキュラムポリシーにおける「国内はもとより国際社会で活躍できる語学力とコミュニケーション能力」の涵養が期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	英語の基本的な文法事項を理解し、それをコミュニケーションにスムーズに用いることができるようになる。やさしい英文を日本語を介さず英語のまま読んだり聴いたりして理解し、概要をつかめるようになる。また、間違いをおそれず、英語を書いたり、話したりできるようになる。	○		○				60
	■情意的領域	課題に主体的に取り組む。授業内外で、自分のレベル、興味関心に合った英語の本を積極的に読んだり、聴いたりしようという姿勢を示し、読んだり、聴いたりした本については、記録用紙に意欲的に記録しようとする。	○		○				30
	■技能的領域	英語コミュニケーションに必要なスキル（Reading, Listening, Speaking, Writing）及び基本的な英文法を身につける。間違いを恐れず、英語を話したり、書いたりできる。	○		○				10

成績評価の基準	授業の最後の時間に授業内最終課題を実施し、その成績、課題、小レポート、多書・多話などの言語活動への参加、多読・多聴の語数、冊数、記録用紙の提出状況などを総合的に評価し、60点以上を合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	『Skills for Better Reading』、石谷由美子著、南雲堂 (1800円 + 税) 補助教材：『英語多読・多聴教材』（こちらで全て準備します） 参考書：『どんどん話すための瞬間英作文トレーニング』（森沢洋介著、ベレ出版）
履修条件・関連科目	履修条件：総合英語Ⅱの単位を修得していること、もしくは、プレイスメントテストの結果が、TOEICスコア換算で300以下でかつ、下位50番目より上位の結果であること。 関連科目：総合英語Ⅱ、総合英語Ⅳ
備考(教員メッセージ含む)	毎回辞書を持ってきてください。
オフィス・アワー	木曜日　昼休み及び12:40～13:00　国際交流センター2階　国重研究室

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	国重　徹	Orientation, On how to read easy English books extensively	Preview of the textbook and extensive reading (1 hour)
2	〃	Conclusion / Reasons	Review and preview of the textbook, and extensive reading (1 hour)
3	〃	Social Trend	Review and preview of the textbook, and extensive reading (1 hour)
4	〃	Result / Cause	Review and preview of the textbook, and extensive reading (1 hour)
5	〃	Several Explanations	Review and preview of the textbook, and extensive reading (1 hour)
6	〃	Comparison	Review and preview of the textbook, and extensive reading (1 hour)
7	〃	For and Against	Review and preview of the textbook, and extensive reading (1 hour)
8	〃	Classification	Review and preview of the textbook, and extensive reading (1 hour)
9	〃	History	Review and preview of the textbook, and extensive reading (1 hour)
10	〃	Process	Review and preview of the textbook, and extensive reading (1 hour)
11	〃	Cause and Effect	Review and preview of the textbook, and extensive reading (1 hour)
12	〃	Definition of a New Word	Review and preview of the textbook, and extensive reading (1 hour)
13	〃	Research	Review and preview of the textbook, and extensive reading (1 hour)
14	〃	New Products, New Service	Review and preview of the textbook, and extensive reading (1 hour)
15	〃	Final in-class tasks	Review and preview of the textbook, and extensive reading (1 hour)
16	〃	Final in-class tasks reserved for absent students	Review of the textbook, and extensive reading (1 hour)

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅲ（健康とスポーツ関連の英語） (111A3-2203)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	石原　豊一			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1～4年次	受け入れ人数	30名
授業の概要	約250語程度のわかりやすい英文で書かれた 健康・ライフスタイルについての文章を読み、健康についての理解を深める と と もに、語彙やリスニング、読解等の英語力全般を高めることをめざす。健康に関するトピックについて、自分の考えを英語で発表するための練習も行う 。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方　　法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	短い英文の内容を理解し、各話題に対し自分の考えを持ち、英語で表現できる 。	○	○			○		30
	■情意的領域	健康とライフスタイルに関する英文を読むことにより、健康に関する知識を深めるとともに、健康に関心を持つ。	○		○	○			30
	■技能的領域	授業での学生相互に行う活動を通して、英語のリスニングやスピーキングの運用能力を伸ばす。	○			○	○		40

成績評価の基準	出席(30%)、ノート提出(10%)、英単語テスト(10%)、授業中の発表(10%)、期末試験(40%)とする。合計60点以上の者を合格とする。無断での途中退席は出席と認めない。
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：『Healthy Habits for Better Life よりよい健康生活を求めて』 （Joan McConnell,　山内圭著、成美堂 2021年）

履修条件・関連科目	テスト結果でこのクラスに指定された学生等。 国際交流センターが提示する履修条件をよく読んで、履修すること。	備考(教員メッセージ含む)	ノート（大学ノートが望ましい）必携。学期末に提出してもらいます。初回の授業には教科書を購入して臨むこと。
オフィス・アワー	月曜日：昼休み、12時40分～13時40分。国際交流センター研究室。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	石原　豊一	ガイダンス、コース・課題の説明	第1章予習 (1時間)
2	〃	Chapter 1 Sleep Is Important	第2章 予習 (1時間)
3	〃	Chapter 2 Is Salt Bad for Us?	第3章 予習 (1時間)
4	〃	Chapter 3 Water Is Wonderful	第4章 予習 (1時間)
5	〃	Chapter 4 Hot Springs: A Miracle of Nature	第5章 予習 (1時間)
6	〃	Chapter 5 Healthy Lessons from the Blue Zones	第6章 予習 (1時間)
7	〃	Chapter 6 Unhealthy Habits	第7章 予習 (1時間)
8	〃	Chapter 7 Let's Dance!	第8章 予習 (1時間)
9	〃	Chapter 8 The Story of Sugar	第9章 予習 (1時間)
10	〃	Chapter 9 Companion Animals	第10章 予習 (1時間)
11	〃	Chapter 10 Music and Medicine	第11章 予習 (1時間)
12	〃	Chapter 11 Please Listen to Me!	第12章 予習 (1時間)
13	〃	Chapter 12 Let's Eat Together!	第13章 予習 (1時間)
14	〃	Chapter 13 Being Alone vs. Being Lonely	第14章 予習 (1時間)
15	〃	Chapter 14 Believe in Yourself!	第15章　自学 (1時間)
16	〃	期末試験（筆記、リスニング）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅳ（アクティブリーディング） (111B4–2203)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	国重　徹			補助担当者名	なし
単位数	2　単位	履修年次	1~4年次	受け入れ人数	25名
授業の概要	国際人として英語を使えるようにするには、まず聴くことや読むことを通して、やさしい英語をたくさんインプットすることにより、相手が口頭もしくは文書で伝えようとすることを理解できるようになることが必要となる。 本授業ではReading skillの養成を中心としながらも、他の3技能、すなわち、Listening, Writing, Speakingのskills及び英文法の力などを総合的に養成することを目的とする。同時に、多読・多聴教材を用いて大量の英語のインプット活動を行い、英語の聴解力、読解力を伸ばすことも目的とする。さらに、読み聞かせ、多書・多話などの活動を通して随時アウトプットの練習も行う。本科目は、本科目は、制定された教育目標、カリキュラムポリシーに基づいた「国内はもとより国際社会で活躍できる語学力とコミュニケーション能力を涵養する」ことを目標とする科目である。原則、授業は全て英語で行う。 【授業に含まれる活動】○・・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	さまざまなトピックについて書かれた、ある程度の長さのやさしい英文をある程度以上の速度で日本語を介さずに英語のまま読んだり聴いたりして理解し、概要をつかめるようになる。	○		○				30
	■情意的領域	課題に主体的に取り組む。意欲的に英語を聴き取ろうとする。授業内はもちろん、授業外でも、自分のレベル、興味関心に合った英語多読・多聴の本を進んで読んだり、聴いたりしようという姿勢を示し、読んだり、聴いたりした本については、記録用紙に意欲的に記録しようとする。	○		○				30
	■技能的領域	間違いを恐れず積極的に英文を音読したり、英語を話したり、書いたりすることができるようになる。	○	○	○	○			40

成績評価の基準	授業の最終回に最終授業内課題を実施し、その成績、課題、小レポート、言語活動（多読・多聴・多書・多話）への参加、多読・多聴の語数、冊数、記録用紙の提出状況などを総合的に評価し、60点以上を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：『Changing Times, Changing Worlds』（Joan McConnell他著、成美堂、1900円+税） 補助教材：『英語多読・多聴教材』（こちらで全て準備します） 参考書：『どんどん話すための瞬間英作文トレーニング』（森沢洋介著、ベレ出版）		
履修条件・ 関連科目	履修条件：総合英語Ⅲの単位を修得していること、もしくは、TOEICスコア305以上（TOEICスコア換算したTOEFLなどの資格も含む）を有していること。　関連科目：総合英語Ⅲ、総合英語Ⅴ	備考(教員メッセージ含む)	大量の英語インプットとアウトプットを楽しみましょう！
オフィス・アワー	木曜日 昼休み及び12:40～13:00　国際交流センター２階　国重研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	国重　徹	Introduction、アンケート、授業の進め方等について、多読の仕方について、評価について	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習、復習(1時間)
2	〃	Smokey Bear: A Mascot with a Message, 多読・多聴、（多書・多話は適宜）、記録、貸出　※読み聞かせは随時行う。	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習、復習(1時間)
3	〃	Overtourism is a Problem!, 多読・多聴、（多書・多話は適宜）、記録、貸出　※読み聞かせは随時行う。	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習、復習(1時間)
4	〃	Gender Equality in the Workplace, 多読・多聴、（多書・多話は適宜）、記録、貸出　※読み聞かせは随時行う。	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習、復習(1時間)
5	〃	Changing Definitions of Beauty, 多読・多聴、（多書・多話は適宜）、記録、貸出　※読み聞かせは随時行う。	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習、復習(1時間)
6	〃	Romeo and Juliet: A Tragic Story about Intolerance, 多読・多聴、（多書・多話は適宜）、記録、貸出　※読み聞かせは随時行う。	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習、復習(1時間)
7	〃	Nature and Health, 多読・多聴、（多書・多話は適宜）、記録、貸出　※読み聞かせは随時行う。	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習、復習(1時間)
8	〃	これまでの振り返り。投げ込み教材その１。	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習(1時間)
9	〃	投げ込み教材その２。多読・多聴、（多書・多話は適宜）、記録、貸出　※読み聞かせは随時行う。	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習、復習(1時間)
10	〃	Golden Years and Silver Divorces, 多読・多聴、（多書・多話は適宜）、記録、貸出　※読み聞かせは随時行う。	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習、復習(1時間)
11	〃	Trees: A Gift from Nature, 多読・多聴、（多書・多話は適宜）、記録、貸出　※読み聞かせは随時行う。	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習、復習(1時間)
12	〃	Tattoos, 多読・多聴、（多書・多話は適宜）、記録、貸出　※読み聞かせは随時行う。	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習、復習(1時間)
13	〃	Redefining Gender and Marriage, 多読・多聴、（多書・多話は適宜）、記録、貸出　※読み聞かせは随時行う。	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習、復習(1時間)
14	〃	All the Lonely People, 多読・多聴、（多書・多話は適宜）、記録、貸出　※読み聞かせは随時行う。	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習、復習(1時間)
15	〃	Final in–class tasks 多読・多聴、（多書・多話は適宜）、記録、貸出　※読み聞かせは随時行う。	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習、復習(1時間)
16	〃	Final in–class tasks reserved for absent students 多読・多聴、（多書・多話は適宜）、記録、貸出　※読み聞かせは随時行う。	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習、復習(1時間)

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅳ（スポーツ英語） (111B4–2201)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	佐賀　ターニャ			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1~4年次	受け入れ人数	25名
授業の概要	In this course, students will learn to communicate in English in the sports field situations applying the knowledge from previous levels. In the context of sports, they might encounter international situations in which they can use English as a bridge for communication between players, coaches and sports managers. 【授業に含まれる活動】○…実施あり、×…実施なし、△…授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク(○)、ディスカッション・討論(△)、プレゼンテーション・発表(○)、フィールドワーク(×)				

授業の到達目標及び成績評価の方　　法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	Students will use grammar and vocabulary learned in the previous levels to communicate in the sports field situations.	○		○				40
	■情意的領域	Attendance and participation are very important. Students will work individually and in groups.	○			○			30
	■技能的領域	Students will use what they learned in each class such as communication and presentation skills to make a presentation about the sport they are engaged in.		○		○			30

成績評価の基準	Attendance and participation 30% Classwork and homework 40% Final test/ Presentation 30%
テキスト、教材 参　考　書	Sports and Olympics in English by Tanya Saga
履修条件・関連科目	履修条件：総合英語Ⅲの単位を修得していること、もしくは、TOEICスコア305以上
備考(教員メッセージ含む)	Come to every class and do your best!
オフィス・アワー	Please contact the instructor using WebClass.

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	佐賀　ターニャ	Introduction of the class. English in the sports field.	Self–introduction. Guess who this athlete is? (30 min.)
2	〃	Present Tense review and exercises. Sports vocabulary: baseball	Presentation of “My favorite sport or player”(30 min.)
3	〃	Present Simple review and exercises. Sports vocabulary: track and field / jogging and walking	Describe “My daily activities as an athlete and student”(30 min.)
4	〃	Present Continuous review and exercises. Sports vocabulary: gymnastics / training	Describe “My best sports memory” (30 min.)
5	〃	Past Tense review and exercises. Sports vocabulary: swimming / marine Sports	Describe “My hometown and sports experience (30 min.)
6	〃	Past Tense review and exercises. Sports vocabulary: basketball / volleyball	Describe “My dream or goal” (30 min.)
7	〃	Future Tense review and exercises. Sports vocabulary: sports venues / soccer	Write about a sports topic to present (30 min.)
8	〃	Opinion Writing. Sports vocabulary: tennis / table tennis	Prepare for the final presentation “The sport I am engaged in”(30 min.)
9	〃	Making a presentation. Budo vocabulary: judo / kendo	Prepare questions about your presentation for your classmates (30 min.)
10	〃	Making questions. Grammar check and exercises. Sports vocabulary: golf / outdoor sports	Describe your presentation in the style of an opinion writing paragraph (30 min.)
11	〃	Presentations (5 students) Feedback and questions	Choose one presentation and describe it
12	〃	Presentations (5 students) Feedback and questions	Choose one presentation and describe it.
13	〃	Presentations (5 students) Feedback and questions	Choose one presentation and describe it.
14	〃	Presentations (5 students) Feedback and questions	Choose one presentation and describe it.
15	〃	Presentations (5 students) Feedback and questions	Choose one presentation and describe it.
16	〃	Traveling for sport: Practical English	Final report

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅳ（旅の英語）	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	石原　豊一			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1～4年次	受け入れ人数	35名
授業の概要	このコースでは、これまでの英語力を活用して、国際的なスポーツ現場において英語でコミュニケーションできる力を養い、かつ国際的教養を身につける。世界各国をトピックとした題材を活用して会話力、リスニング力をつけるとともに、その国々のスポーツについても紹介していく。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	すでに習得した文法と語彙を使って、スポーツ現場でのコミュニケーションができるようになる。	○		○		○		30
	■情意的領域	積極的にレッスンに参加し、グループワークで発話する。	○			○			30
	■技能的領域	コミュニケーションやプレゼンテーションのスキルなど、授業で学んだことを活用して、自分が取り組んでいるスポーツについてプレゼンテーションを行う。	○	○					40

成績評価の基準	出席（30%）、授業への参加、課題 （30%）、期末テスト（40%）
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：『Make Your Way! Communicating while Abroad：「意味順」で学ぶ大学基礎英語』 （中川浩, John Andras Molnar著、金星堂 2024年）
履修条件・ 関連科目	テスト結果でこのクラスに指定された学生等。 国際交流センターが提示する履修条件をよく読んで、履修すること。
備考(教員メッセージ含む)	授業計画は目安であり、学生の様子次第で変わることもある。 初回授業にはテキストを購入して臨むこと。
オフィス・アワー	月曜日：昼休み、12時40分～13時40分。

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	石原　豊一	ガイダンス、コース・課題の説明　Unit 1 現在形（be 動詞・一般動詞）	第2章予習 (1時間)
2	〃	Unit 2　現在進行形	第3章予習 (1時間)
3	〃	Unit 3　現在形（否定文・疑問文）	第4章予習 (1時間)
4	〃	Unit 4　命令文	第5章予習 (1時間)
5	〃	Unit 5　過去形	第6章予習 (1時間)
6	〃	Unit 6　未来表現	第7章予習 (1時間)
7	〃	Unit 7　WH疑問文	第8章予習 (1時間)
8	〃	Unit 8　助動詞	第9章予習 (1時間)
9	〃	Unit 9　現在完了形	第10章予習 (1時間)
10	〃	Unit 10　受動態	第11章予習 (1時間)
11	〃	Unit 11　最上級	第12章予習 (1時間)
12	〃	Unit 12　比較級	第13章予習 (1時間)
13	〃	Unit 13　不定詞・動名詞	第14章予習 (1時間)
14	〃	Unit 14 接続詞	第15章予習 (1時間)
15	〃	Unit 15 関係代名詞	テストに向けて自学
16	〃	期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅳ（日常会話） (111B4–2202)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	エルメス　デイビット			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1~4年次	受け入れ人数	25
授業の概要	Asking questions is a very important part of communication. The main goal of this class is to strengthen your ability to ask and answer basic questions in English using REAL English information (= information about you). We will use these questions to practice effective techniques for communication (A+I) and to improve your English fluency. 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理 （コミュニケーション力,異文化間コミュニケーション能力）							
	■認知的領域	Asking and answering questions with relevant information; presenting ideas clearly					○		30
	■情意的領域	Attendance and active participation in individual, group, and class activities	○						30
	■技能的領域	Effective Questioning and Answering skills (=Communication); Presentation skills			○	○			40

成績評価の基準	Attendance （出席）　３０％ (10%x3回) Classwork （課題、プレゼンテーション　１０％）　４０％ Final Test （期末試験）　３０％
テキスト、教材 参　考　書	Let's Chat (EFL Press) by John Pak
履修条件・関連科目	TOEIC 305–395 Prerequisite: 総合英語III
備考(教員メッセージ含む)	Please come to every class and try your best!
オフィス・アワー	授業や会議以外の時間は、通常、研究室におります。 なお、金曜日は非常勤講師のため、不在の時間があります。

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	エルメス　デイビット	Class Introduction	Review and prepare required procedures (メールマナー, WebClassなど) and materials (texbook etc.) 1時間
2	〃	Unit 1 Getting Acquainted (Part 1) Personal Information; Reporting information about classmates	Quiz: A+I; Useful Classroom Language. Review （1時間）
3	〃	Unit 2 Experiences When you were a child…? When you were in high school…?	Add 2 more lines for Reiko and Mark （1時間）
4	〃	Unit 3 Sport & Leisure Transcription (Listen and write), Q&A, Group Quiz	Writing: Quiz. What is the best answer? Review （1時間）
5	〃	Unit 4 Shopping & Money Listen & Write, Reading (big) numbers in English	Quiz: Big numbers. Review （1時間）
6	〃	Unit 5 Food What's a potluck party? Transcription (Listen & write), Group quiz	Answer + Information. Review （1時間）
7	〃	Unit 6 Travel Writing: Q&A+I, Q&A, Hotel problems in English	Quiz: Hotel Problems. Review （1時間）
8	〃	Presentation Introduction Make groups, choose a topic, gather information	Prepare presentation information （2時間）
9	〃	Presentation Preparation	Presentation planning and preparation （2時間）
10	〃	Presentation Day!	Presentation 感想（1時間）
11	〃	Unit 7 Movies & Television Writing: A+I, Q&A, Group Quiz	Quiz: Movie Descriptions. Review 1時間）
12	〃	Unit 8 Work Transcription (Listen & write), Q&A, Group Quiz	Jobs Quiz (Sports). Review （1時間）
13	〃	Unit 9 Health Transctiption (Listen & write), Q&A+I, Group Quiz, Giving health advice	Health Quiz. Review （1時間）
14	〃	Unit 11 Music & Books Transcription (Listen & write), ~written/composed/painted/created/founded by~	Review Quiz. Review （1時間）
15	〃	Course review & Final Test introduction	Study! （３時間）
16	〃	Final Test	

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅳ（プレゼンテーション入門） (111B4-2204)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	国重　徹			補助担当者名	なし
単位数	2　単位	履修年次	全学年	受け入れ人数	25名

授業の概要

グローバル化の進んだ現在、英語で効果的なプレゼンテーションをする能力がますます必要になってきている。本授業では、基本的な英語のプレゼンテーションの構成や、作り方を学び、それに基づいて実際に英語で簡単なプレゼンテーション作成活動をし、発表し、受講者も含めてお互いにレビューし合い、それに基づいてプレゼンターションを改善、再発表、再評価というサイクルで授業を展開する。本授業を通して、本学の教育目標やカリキュラムポリシーにおける「国内はもとより国際社会で活躍できる語学力とコミュニケーション能力」の涵養が期待される。なお、本授業は基本的に全て英語で実施する。

【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり
グループワーク（△）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	英語のプレゼンテーションの構成や種類、具体的な作り方、発表の仕方の基礎を理解し、実際にプレゼンテーションを作成、発表する際に、得た基礎的知識を生かせる。	○		○	○			60
	■情意的領域	プレゼンテーション作成などの課題に主体的、積極的に取り組む。間違いを恐れず、英語で相手に意味のある内容を伝えようという意欲を持つ。	○			○			20
	■技能的領域	英語によるプレゼンテーションに必要な基礎的スキル（Reading, Listening, Speaking, Writing）を身につける。効果的なプレゼンテーションに必要な論理性、構成力、話し方及び、非言語的な技能（デリバリー：姿勢、アイコンタクトなど）の基礎を身につける。	○		○	○			20

成績評価の基準	プレゼンの作成取り組み、発表（修正も含む）、課題提出等を総合的に評価し、60点以上を合格とする		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：『Writing for Presentations in English』（杉田由仁他著、南雲堂）（1700円＋税）		
履修条件・関連科目	履修条件：総合英語Ⅲの単位を修得していること、もしくは、TOEICスコア305以上（TOEICスコア換算したTOEFLなどの資格も含む）を有していること。　関連科目：総合英語Ⅲ、総合英語Ⅴ	備考(教員メッセージ含む)	基礎的な英語のプレゼンテーション技術を身につけられるよう、一緒に学びましょう。
オフィス・アワー	木曜日　昼休み及び12:40～13:00　国際交流センター2階　国重研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	国重　徹	授業のオリエンテーション、多読の仕方説明 Introduction, Chapter 1 Informative Presentations Section 1: The History of Our University, Example of an English presentation, Preparation of the first English presentation (Topic: My Favorite Sport)	Section 2の予習、発表準備、多読多聴（１時間）
2	〃	Section 2: My Favorite Country, Preparation of the first English presentation (Topic: My Favorite Sport)	Section 3の予習、発表準備、多読多聴（１時間）
3	〃	Section 3: The Four Basic Food Groups, Preparation of the first English presentation (Topic: My Favorite Sport)	Section 4の予習、発表準備、多読多聴（１時間）
4	〃	Section 4: Japan's Education System, Delivering the first English presentation (Topic: My Favorite Sport), Review and/or modification of the presentation	Section 5の予習、発表準備、プレゼンパワポ修正、多読多聴（１時間）
5	〃	Section 5: What is Science? Delivering the first English presentation (Topic: My Favorite Sport), Review and/or modification of the presentation	Section 6の予習、発表準備、プレゼンパワポ修正、多読多聴（１時間）
6	〃	Section 6: Social Networking Services, Delivering the first English presentation (Topic: My Favorite Sport), Review and/or modification of the presentation	プレゼンパワポ修正、多読多聴（１時間）
7	〃	Delivering the first English presentation (Topic: My Favorite Sport) the second time, Review and/or modification of the presentation	Section 2の予習、発表準備、プレゼンパワポ修正、多読多聴（１時間）
8	〃	Delivering the first English presentation (Topic: My Favorite Sport) the second time, Review and/or modification of the presentation, Chapter 2 Persuasive Presentations Section 1: Should Students Wear School Uniforms?　Preparation of the second English presentation (Topic will be related to sports, budo, and/or health.)	Section 2の予習、発表準備、多読多聴（１時間）
9	〃	Section 2: The Case for Organ Donation, Preparation of the second English presentation	Section 3の予習、発表準備、多読多聴（１時間）
10	〃	Section 3: Global Warming: What Is to Be Done? Preparation of the second English presentation	Section 4の予習、プレゼンパワポ修正、多読多聴（１時間）
11	〃	Section 4: Exercise and Physical Fitness, Delivering the second English presentation, Review and/or modification of the presentation	Section 5の予習、プレゼンパワポ修正、多読多聴（１時間）
12	〃	Section 5: Overpopulation: Causes and Consequences, Delivering the second English presentation, Review and/or modification of the presentation	Section 6の予習、プレゼンパワポ修正、多読多聴（１時間）
13	〃	Section 6: Hybrid or Electric? Delivering the second English presentation, Review and/or modification of the presentation	プレゼンパワポ修正、多読多聴（１時間）
14	〃	Delivering the second English presentation the second time, Review and/or modification of the presentation	プレゼンパワポ修正、多読多聴（１時間）
15	〃	Delivering the second English presentation the second time, Review and/or modification of the presentation, Review of the whole course, Answering the questionnaire, Questions and Answers	プレゼンパワポ修正（１時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅴ（Q＆Aのテクニック） (111B5-2200)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	国重　徹			補助担当者名	なし
単位数	2　単位	履修年次	1~4年次	受け入れ人数	25名
授業の概要	さまざまなテーマの英語の新聞記事や英文に基づいて英語で自分の意見を話す活動、練習、英語運用能力を高めるのに効果のあるシャドウイングの練習及び大量の英語のインプットのための多読・多聴活動を通してfluencyを高め、国際人として通用する英語力の基礎を身につける。本授業を通して、本学の教育目標やカリキュラムポリシーにおける「国内はもとより国際社会で活躍できる語学力とコミュニケーション能力」の涵養が期待される。原則として授業は全て英語で行う。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	さまざまなテーマの大量の英文を、ある程度以上の速度で日本語を介さず英語のまま読んだり聴いたりして理解し、概要をつかめるようになる。	○			○	○		30
	■情意的領域	授業内はもちろん、授業外でも、自分のレベル、興味関心に合った英語多読・多聴の本を進んで読もうという姿勢を示し、読んだ本については、記録用紙に意欲的に記録しようとする。間違いを恐れず、進んで英語で自分の意見を言おうとする。	○		○	○			30
	■技能的領域	英文を正しい発音とイントネーションで音読及び、シャドウイングできるようになる。また、英語での相手の意見を理解し、尊重した上で、積極的に英語で自分の意見を言うことができるようになる。	○	○		○	○		40

成績評価の基準	定期試験をマンツーマンのインタビュー形式で実施する。 その成績、課題、小テスト、言語活動（主にgroup discussion）への参加、多読・多聴の語数、冊数、記録用紙の提出状況などを総合的に評価し、60点以上を合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：『新ゼロからスタートシャドーイング（入門編）』（宮野智靖著、ジェイ・リサーチ出版、1400円＋税） 補助教材：『英字新聞の記事やその他のさまざまな英文』及び『英語多読・多聴教材』（こちらで全て準備します） 参考書：『どんどん話すための瞬間英作文トレーニング』（森沢洋介著、ベレ出版）

履修条件・ 関連科目	履修条件：総合英語Ⅳの単位を修得していること、もしくは、TOEICスコア400以上（TOEICスコア換算したTOEFLなどの資格も含む）こと。 関連科目：総合英語Ⅳ、総合英語Ⅵ	備考(教員メッセージ含む)	授業で渡すdiscussion用の英文（記事）は前もって必ず読み、discussion pointsについての自分の意見を英語で言えるように準備しておくこと。辞書は必ず持参すること。大量の英語インプットとアウトプットを楽しみましょう！
オフィス・アワー	木曜日 昼休み及び12:40～13:00 国際交流センター２階　国重研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	国重　徹	Introduction、アンケート、自己紹介、授業の進め方について、評価について、シャドウイングについて、多読について	discussion用の英文記事及び多読図書を読む（60分）。シャドウイングの練習（10分）。多読・多聴図書貸出。読み方指導。
2	〃	シャドウイングテスト用英文提示、discussion、英文記事提示、多読・多聴	discussion用の英文記事及び多読図書を読む（60分）。シャドウイングの練習（10分）。多読・多聴図書貸出。読み方指導。
3	〃	シャドウイングの練習、discussion、英文記事提示、多読・多聴	discussion用の英文記事及び多読図書を読む（60分）。シャドウイングの練習（10分）。多読・多聴図書貸出。読み方指導。
4	〃	シャドウイングの練習、discussion、英文記事提示、多読・多聴	discussion用の英文記事及び多読図書を読む（60分）。シャドウイングの練習（10分）。多読・多聴図書貸出。読み方指導。
5	〃	シャドウイングの練習、discussion、英文記事提示、多読・多聴	discussion用の英文記事及び多読図書を読む（60分）。シャドウイングの練習（10分）。多読・多聴図書貸出。読み方指導。
6	〃	シャドウイングの練習、discussion、英文記事提示、多読・多聴	discussion用の英文記事及び多読図書を読む（60分）。シャドウイングの練習（10分）。多読・多聴図書貸出。読み方指導。
7	〃	授業内マンツーマン面接①	discussion用の英文記事及び多読図書を読む（60分）。シャドウイングの練習（10分）。多読・多聴図書貸出。読み方指導。
8	〃	授業内マンツーマン面接②（人数等の必要に応じて）	多読図書を読む（60分）。シャドウイングの練習（10分）。多読・多聴図書貸出。読み方指導。
9	〃	面接のreview、シャドウイングテスト用英文提示、英文記事提示、多読・多聴	discussion用の英文記事及び多読図書を読む（60分）。シャドウイングの練習（10分）。多読・多聴図書貸出。読み方指導。

10	〃	シャドウイングの練習、discussion、英文記事提示、多読・多聴	discussion用の英文記事及び多読図書を読む（60分）。シャドウイングの練習（10分）。多読・多聴図書貸出。読み方指導。
11	〃	シャドウイングの練習、discussion、英文記事提示、多読・多聴	discussion用の英文記事及び多読図書を読む（60分）。シャドウイングの練習（10分）。多読・多聴図書貸出。読み方指導。
12	〃	シャドウイングの練習、discussion、英文記事提示、多読・多聴	discussion用の英文記事及び多読図書を読む（60分）。シャドウイングの練習（10分）。多読・多聴図書貸出。読み方指導。
13	〃	シャドウイングの練習、discussion、英文記事提示、多読・多聴	discussion用の英文記事及び多読図書を読む（60分）。シャドウイングの練習（10分）。多読・多聴図書貸出。読み方指導。
14	〃	シャドウイングの練習、discussion、英文記事提示、多読・多聴	discussion用の英文記事及び多読図書を読む（60分）。シャドウイングの練習（10分）。多読・多聴図書貸出。読み方指導。
15	〃	授業内マンツーマン面接①	discussion用の英文記事及び多読図書を読む（60分）。シャドウイングの練習（10分）。多読・多聴図書貸出。読み方指導。
16	〃	授業内マンツーマン面接②（人数等の必要に応じて）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅴ（海外留学） (111B5-2201)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	シレニ・ミヒャエル			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1～4年次	受け入れ人数	25
授業の概要	This class will introduce topics related to culture, language and sports. Students will practice their listening and reading skills. They will practice discussions and give presentations. 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（　○　）、ディスカッション・討論（　○　）、プレゼンテーション・発表（　○　）、 フィールドワーク（　×　）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理							
	■認知的領域	Students will apply their acquired language skills to prepare and give cohesive presentations.					○		60
	■情意的領域	Students will learn how to listen and react to people speaking in English.	○	○					20
	■技能的領域	Students will use learned language to communicate with partners and in groups, and to complete language activities.	○						20

成績評価の基準	Students will receive points for attendance and for active participation each class.
テキスト、教材 参　考　書	Keynote 2, Second Edition Split 2B with Spark Access (ISBN 9780357960509) 英和・和英辞典
履修条件・関連科目	履修条件：総合英語Ⅳの単位を修得していること、もしくは、TOEICスコア400以上
備考(教員メッセージ含む)	Please come on time and be prepared!
オフィス・アワー	質疑は授業後、若しくはメールにて受け付けます。メールアドレス：michael.sileny@gmail.com

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	シレニ・ミヒャエル	Orientation, introduction	Review (30 minutes)
2	〃	Inspired: Vocabulary and Grammar	Review (1 hour)
3	〃	Inspired: Video and Reading	Preparation (1 hour)
4	〃	Presentations	Review (30 minutes)
5	〃	Cities and Communities: Vocabulary and Grammar	Review (1 hour)
6	〃	Cities and Communities: Video and Reading	Preparation (1 hour)
7	〃	Presentations	Review (30 minutes)
8	〃	Lifestyle Choices: Vocabulary and Grammar	Review (1 hour)
9	〃	Lifestyle Choices: Video and Reading	Preparation (1 hour)
10	〃	Presentations	Review (30 minutes)
11	〃	Sports and Games: Vocabulary and Grammar	Review (1 hour)
12	〃	Sports and Games: Video and Reading	Preparation (1 hour)
13	〃	Presentations	Review (30 minutes)
14	〃	Curiosity and Discovery: Vocabulary and Grammar	Review (1 hour)
15	〃	Curiosity and Discovery: Video and Reading	Preparation (1 hour)
16	〃	Final Discussion	

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅴ（海外留学） (111B5-2201)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	エルメス　デイビット			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1~4年次	受け入れ人数	25
授業の概要	In this class, you will study useful English for school life abroad. From boarding a flight to going to the hospital,students will learn how to use keywords to communicate. 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理 （コミュニケーション力, 異文化間コミュニケーション能力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	Understand and be able to use natural English expressions for active study (=communication) abroad					○		30
	■情意的領域	Attendance and active participation in individual, group, and class activities	○						30
	■技能的領域	Effective Questioning and Answering skills; Communicative Fluency; Presentation skills			○	○			40

成績評価の基準	Attendance （出席）　３０％　(10%x3回) Classwork （課題、プレゼンテーション　１０％）　４０％ Final Test （期末試験）　３０％
テキスト、教材 参　考　書	Communicate Abroad (Cengage Learning) by Simon Cookson / Chihiro Tajima
履修条件・関連科目	履修条件：総合英語Ⅳの単位を修得していること、もしくは、TOEICスコア400以上（TOEICスコア換算したTOEFLなどの資格も含む）を有していること。関連科目：総合英語Ⅳ、総合英語Ⅵ
備考(教員メッセージ含む)	Please come to all classes and try your best!
オフィス・アワー	授業や会議以外の時間は、通常、研究室におります。 なお、金曜日は非常勤講師のため、不在の時間があります。

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	エルメス　デイビット	Class Introduction	Review and prepare required procedures (メールマナー, WebClassなど) and materials (texbook etc.) （1時間）
2	〃	Unit 1. My Suitcase is Overweight	Homework (Find a flight); Review Vocabulary and Phrases（1時間）
3	〃	Unit 2. I'm Suffering from Jet Lag	Homework (Time differences); Review Vocabulary and Phrases（1時間）
4	〃	Unit 3. Each Host Family is Different	Homework (Host family rules); Review Vocabulary and Phrases（1時間）
5	〃	Unit 4. I'm Experiencing Culture Shock	Homework (Culture(s) & Culture shock); Review Vocabulary and Phrases（1時間）
6	〃	Unit 5. My Dormitory is too Noisy	Homework (Shopping for your room); Review Vocabulary and Phrases（1時間）
7	〃	Unit 6. How Can I Make Friends	Homework (Making friends); Review Vocabulary and Phrases（1時間）
8	〃	Presentation Introduction/Preparation – NIFS in Kanoya: My School Life	Prepare Presentation English and Slides（1時間）
9	〃	Presentation Preparation – NIFS in Kanoya: My School Life	Prepare Presentation English and Slides（2時間）
10	〃	Presentations	Presentation 感想（1時間）
11	〃	Unit 7. What Should I Talk About?	Homework (Festivals and holidays); Review Vocabulary and Phrases （1時間）
12	〃	Unit 8. I Feel Homesick	Homework ('Homesick' ranking); Review Vocabulary and Phrases （1時間）
13	〃	Unit 9. How Do I Order Food?	Homework (Dollars and cents); Review Vocabulary and Phrases（1時間）
14	〃	Unit 11. I Need to Go to Hospital	Homework (Accidents and illnesses); Review Vocabulary and Phrases（1時間）
15	〃	Class review	Study! （3時間）
16	〃	Final Test	

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅴ（アクティブコミュニケーション） (111B5-2202)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	シレニ・ミヒャエル			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	1～4年次	受け入れ人数	25
授業の概要	This class will introduce topics related to culture, language and sports. Students will practice their listening and reading skills. They will practice discussions and give presentations. 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（ ○ ）、ディスカッション・討論（ ○ ）、プレゼンテーション・発表（ ○ ）、 フィールドワーク（ × ）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理							
	■認知的領域	Students will apply their acquired language skills to prepare and give cohesive presentations.				○			60
	■情意的領域	Students will learn how to listen and react to people speaking in English	○	○					20
	■技能的領域	Students will use learned language to communicate with partners and in groups, and to complete language activities.	○						20

成績評価の基準	Students will receive points for attendance and for active participation each class.
テキスト、教材 参 考 書	Keynote 2, Second Edition Split 2A with Spark Access (ISBN 9780357960493) 英和・和英辞典
履修条件・関連科目	履修条件：総合英語Ⅳの単位を修得していること、もしくは、TOEICスコア400以上
備考(教員メッセージ含む)	Please come on time and prepared!
オフィス・アワー	質疑は授業後、若しくはメールにて受け付けます。メールアドレス：michael.sileny@gmail.com

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	シレニ・ミヒャエル	Orientation, introduction	Review (30 minutes)
2	〃	Family Connections: Vocabulary and Grammar	Review (1 hour)
3	〃	Family Connections: Video and Reading	Preparation (1 hour)
4	〃	Presentations	Review (30 minutes)
5	〃	Shared Interests: Vocabulary and Grammar	Review (1 hour)
6	〃	Shared Interests: Video and Reading	Preparation (1 hour)
7	〃	Presentations	Review (30 minutes)
8	〃	Our Shared Planet: Vocabulary and Grammar	Review (1 hour)
9	〃	Our Shared Planet: Video and Reading	Preparation (1 hour)
10	〃	Presentations	Review (30 minutes)
11	〃	Stories and Storytelling: Vocabulary and Grammar	Review (1 hour)
12	〃	Stories and Storytelling: Video and Reading	Preparation (1 hour)
13	〃	Presentations	Review (30 minutes)
14	〃	Across Cultures: Vocabulary and Grammar	Review (1 hour)
15	〃	Across Cultures: Video and Reading	Preparation (1 hour)
16	〃	Final Discussion	

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅵ（オリンピック） (111B6-2200)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	佐賀　ターニャ			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1~4年次	受け入れ人数	15
授業の概要	In this course, students will learn to communicate and discuss topics related to the Olympics, applying the English knowledge from previous levels. They will use grammar, reading, writing, listening and speaking skills to communicate in an international environment related to the sports field. 【授業に含まれる活動】○…実施あり、×…実施なし、△…授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク(○)、ディスカッション・討論(△)、プレゼンテーション・発表(○)、フィールドワーク(×)				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	Students will use grammar and vocabulary learned in the previous levels and grades to communicate different topics related to the Olympics.	○		○				40
	■情意的領域	Attendance and participation are very important. Students will work individually and in groups.	○			○			30
	■技能的領域	Students will use the contents learned in each class, such as communication and presentation skills to make a presentation about a topic related to the Olympics.		○		○			30

成績評価の基準	Attendance and participation 30% Classwork and homework 40% Final Test / Presentation 30%
テキスト、教材 参　考　書	Sports and Olympics in English by Tanya Saga
履修条件・ 関連科目	TOEIC450-495 prerequisite:総合英語Ⅴ
備考(教員メッセージ含む)	Come to every class and do your best!
オフィス・アワー	Please contact the instructor using Webclass.

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	佐賀　ターニャ	Introduction of the class. Basics of communication. English and the Olympics	Self-introduction. “My Olympic topic of interest” (30 min.)
2	〃	Olympics: Summer and Winter Games. Vocabulary and terms related to the Olympics.	Communication: My experience with the Olympics.(30 min.)
3	〃	History: Origin of the Olympics.	Discussion and Opinion (30 min.)
4	〃	Olympic Movement	Discussion and Opinion (30 min.)
5	〃	Beyond the Games: Olympic values.	Discussion and Opinion (30 min.)
6	〃	Beyond the Games: Peace and sports	Discussion and Opinion (30 min.)
7	〃	Mega Events, sports tourism and marketing	Discussion and Opinion based on video clips (30 min.)
8	〃	Olympics and development.	Discussion and opinion (30 min.)
9	〃	Olympic Legacy	Choose a topic for presentation (30 min.)
10	〃	How to make a presentation and how to make questions	Prepare for presentations (30 min.)
11	〃	Presentations (3) Feedback and questions	Short report (30 min.)
12	〃	Presentations (3) Feedback and questions	Short report (30 min.)
13	〃	Presentations (3) Feedback and questions	Short report (30 min.)
14	〃	Presentations (3) Feedback and questions	Short report (30 min.)
15	〃	Presentations (3) Feedback and questions	Short report (30 min.)
16	〃	Traveling for Sports: Media Interviews	Final Report (30 min.)

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語VI（異文化コミュニケーション） (111B6-2201)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	エルメス　デイビット			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1~4年次	受け入れ人数	15
授業の概要	People around the world share common issues. However, different people think (and talk) about those issues differently. In this class, you will study about some common issues that many people face and learn English that will help you to discuss these kinds of issues better. 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方　法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理 （コミュニケーション力、異文化間コミュニケーション能力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	Expressing opinions with relevant information; presenting ideas clearly					○		30
	■情意的領域	Attendance and active participation in individual, group, and class activities	○						30
	■技能的領域	Effective discussion skills for communication; Presentation skills			○	○			40

成績評価の基準	Attendance （出席）　３０％　(10%x3回) Classwork （課題、プレゼンテーション）　４０％ Final Test （期末試験）　３０％
テキスト、教材 参　考　書	Impact Issues 2 (Pearson Japan) by Richard Day et al.

履修条件・関連科目	TOEIC 450-495 Prerequisite: 総合英語V	備考(教員メッセージ含む)	Please come to all classes, try your best, and share your opinions!
オフィス・アワー	授業や会議以外の時間は、通常、研究室におります。 なお、金曜日は非常勤講師のため、不在の時間があります。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	エルメス　デイビット	Class introduction	Review and prepare required procedures (e.g. Zoom, WebClass) and materials (texbook etc.)（1時間）
2	〃	Unit 1. First Impressions	Review Vocabulary (Glossary); Answer (A+I): "For you, which features are the most important about a person's appearance?" （１時間）
3	〃	Unit 2. Big or small?	Review Vocabulary (Glossary); Answer (A+I): What is good about living in a city?" （１時間）
4	〃	Unit 3. The Good Language Learner	Review Vocabulary (Glossary); Answer (A+I): "What are the pros of living in another country?" （１時間）
5	〃	Unit 4. Getting Ahead	Review Vocabulary (Glossary); Answer (A+I): "How do you think parents should show their love?" （１時間）
6	〃	Unit 5. Forever Single	Review Vocabulary (Glossary); Answer (A+I): "What are the benefits of staying single?" （１時間）
7	〃	Presentation Introduction	Presentation planning （１時間）
8	〃	Presentation preparation and practice	Presentation preparation and practice （2時間）
9	〃	Presentation Day	Presentation 感想 （１時間）
10	〃	Unit 6. What are friends for?	Review Vocabulary (Glossary); Answer (A+I): "What do you and your close friends usually do for each other?" （１時間）
11	〃	Unit 10. My Student Life	Review Vocabulary (Glossary); Answer (A+I): "What are the most important reasons to go to university?" （１時間）
12	〃	Unit 11. International Relationships	Review Vocabulary (Glossary); Answer (A+I): "What are some advantages and disadvantages of an international marriage?" （１時間）
13	〃	Unit 12. Create Another Future	Review Vocabulary (Glossary); Answer (A+I): "Which ideas do you think are excellent for improving the environment?" （１時間）
14	〃	Unit 15. Ask Annie	Review Vocabulary (Glossary); Answer (A+I): “What do you think about living together before marriage?" （１時間）
15	〃	Course review & Final Test introduction	Study! （３時間）
16	〃	Final Test	

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅶ（海外で暮らす） (111B7-2202)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	シレニ・ミヒャエル			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	1～4年次	受け入れ人数	15
授業の概要	This class will introduce several topics related to culture, language and sports. Students will read texts and discuss the presented topics. They will prepare and give presentations about similar topics. 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（ ○ ）、ディスカッション・討論（ ○ ）、プレゼンテーション・発表（ ○ ）、 フィールドワーク（ × ）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	Students will apply their acquired knowledge to deepen their understanding about various topics.					○		30
	■情意的領域	Students will conduct simple research about the presented topics and introduce their findings to each other.	○						30
	■技能的領域	Students will use learned language to communicate in partners and groups, and to give presentations.	○			○			40

成績評価の基準	Students will receive points for attendance and for active participation each class.
テキスト、教材 参 考 書	(texts will be prepared by the teacher) 英和・和英辞典

履修条件・関連科目	TOEIC500– Prerequisite:総合英語Ⅵ	備考(教員メッセージ含む)	Please come on time and be prepared!
オフィス・アワー	質疑は授業後、若しくはメールにて受け付けます。メールアドレス：michael.sileny@gmail.com		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	シレニ・ミヒャエル	Orientation, introduction: "What's so special about FC Barcelona?"	Reading, research (1 hour)
2	〃	In depth discussion: "What's so special about FC Barcelona?" Presentation introduction + preparation	Research, preparation (1 hour)
3	〃	Presentations Review	Review (1 hour)
4	〃	Presentations Review	Review (1 hour)
5	〃	Presentations Review, introduction: "What German Traditions Do You Know?"	Reading, research (1 hour)
6	〃	In depth discussion: "What German Traditions Do You Know?" Presentation preparation	Research, preparation (1 hour)
7	〃	Presentations Review	Review (1 hour)
8	〃	Presentations Review	Review (1 hour)
9	〃	Presentations Review, introduction: "The European Union"	Reading, research (1 hour)
10	〃	In depth discussion: "The European Union" Presentation preparation	Research, preparation (1 hour)
11	〃	Presentations Review	Review (1 hour)
12	〃	Presentations Review	Review (1 hour)
13	〃	Presentations Review, introduction: "The Strange History of Neuschwanstein Castle"	Reading, research (1 hour)
14	〃	In depth discussion: "The Strange History of Neuschwanstein Castle" Test preparation	Research, preparation (1 hour)
15	〃	Review, Q&A Test preparation	Research, preparation (1 hour)
16	〃	Test	

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅶ（実践プレゼンテーション） (111B7-2203)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	エルメス　デイビット			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1~4年次	受け入れ人数	15
授業の概要	In this class, you will learn language and skills for making successful presentations. You will use those skills to create presentations, practice them, and deliver them to groups and the class. The class aims to strengthen your ability to present effectively in English. 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理 （コミュニケーション力、プレゼンテーション力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	Understand and be able to use language and skills for presenting information			○	○			40
	■情意的領域	Attendance and active participation in individual, group, and class activities	○						30
	■技能的領域	Presentation skills; Effective Questioning and Answering skills; Communicative Proficiency				○			30

成績評価の基準	Attendance: 30% (10%x3回) Presentations: 40% (Presentations 1–6: Writeup /10; Presentation /5) Final Presentation: 30%
テキスト、教材 参　考　書	Ready to Present (National Geographic Learning) by Herman Bartelen / Malcolm Kostiuk
履修条件・関連科目	TOEIC 500– Prerequisite: 総合英語VI
備考(教員メッセージ含む)	Come to every class, try your best, and don't be shy!
オフィス・アワー	業や会議以外の時間は、通常、研究室におります。 なお、金曜日は非常勤講師のため、不在の時間があります。

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	エルメス　デイビット	Class Introduction	Review and prepare required procedures (e.g., Zoom, WebClass) and materials (texbook etc.) （1時間）
2	〃	Unit 1: Self–Introduction	Prepare Presentation 1 script （1時間）
3	〃	Presentation Skills: Eye Contact, Voice Control Presentation 1	Presentation 1 感想（１時間）
4	〃	Unit 2: An Important Person or Thing	Prepare Presentation 2 script（１時間）
5	〃	Presentation Skills: Using Facial and Hand Gestures Presentation 2	Presentation 2 感想 （１時間）
6	〃	Unit 3: Places	Prepare Presentation 3 script （１時間）
7	〃	Presentation Skills: Using Slides and Graphics; Using Hand Gestures Presentation 3	Presentation 3 感想 （１時間）
8	〃	Unit 4: Opinions	Prepare Presentation 4 script （１時間）
9	〃	Presentation Skills: Speaking with Emphasis; Using Hand Gestures Presentation 4	Presentation 4 感想 （１時間）
10	〃	Unit 5: Biography	Prepare Presentation 5 script（１時間）
11	〃	Presentation Skills: Using Hand Gestures appropriately Presentation 5	Presentation 5 感想 （１時間）
12	〃	Unit 6: Stories	Prepare Presentation 6 script （１時間）
13	〃	Presentation Skills: Using Gestures for Storytelling; Speaking with Emphasis Presentation 6	Presentation 6 感想（１時間）
14	〃	Unit 8: Final Presentation	Prepare Final Presentation script （１時間）
15	〃	Presentation Skills: Chunking; Reviewing Gestures; Making Good Slides	Prepare Final Presentation slides （１時間）
16	〃	Final Presentations	

授業科目名 (ナンバリングコード)	中国語 (111A0–2300)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (コミュニケーション科目)
担当教員名	陳　躍			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	50名程度

授業の概要	ほぼ毎年中国からの留学生と台湾からの留学生が参加しているので、留学生と交流する形で楽しく学べると思う。留学生の参加を大歓迎！！！ 中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。 【授業に含まれる活動】○…実施あり、×…実施なし、△…授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク(△)、ディスカッション・討論(△)、プレゼンテーション・発表(△)、フィールドワーク(×)

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	日中文化の相違点を知る			○				30
	■情意的領域	主体的に授業へ取り組む 日中文化の相違に興味、関心を持つ	○						30
	■技能的領域	簡単な会話と自己紹介ができる		○			○		40

成績評価の基準	授業期間における演習への参加、授業ごとの会話小テスト、レポート感想、期末テストの各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	毎回資料を配布する。 参考書：陳陳躍　南日本新聞社2006『恋文の翻訳』
履修条件・ 関連科目	特になし。
備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	非常勤のため、授業以外の時間は大学にいないので、メールで対応する。chenyue0205@yahoo.co.jp

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	陳　躍	会話練習：第１回我是上海人（授業ガイダンス） 文化事情：「空気を読まないと中国人空気を読む日本人」	予習３０分復習３０分 中国事情を聞いた感想を書く２０分
2	〃	第２回我叫王平 「ストレートに言う中国人と遠回しにいう日本人」	同様
3	〃	第３回南京路 「傍若無人な中国人と人の目ばっかり気にする日本人」	同様
4	〃	第４回几点了？ 「朝青龍を好きな中国人と白鵬を好む日本人」	同様
5	〃	第５回今天是星期几？ 「卓球を好きな中国人と野球を好きな日本人」	同様
6	〃	第６回家有几口人？ 「店員さんが神様である中国人とお客さんが神様である日本人」	同様
7	〃	第７回没関系（映画） 「『構わない』をよくいう中国人と『すまない』をよくいう日本人」	同様
8	〃	第８回香港的夏天（映画） 「なれなれしい中国人とよそよそしい日本人」	同様
9	〃	第９回四川菜很好吃 「初対面の人に給料を聞く中国人と妻にしか給料を教えない日本人」	同様
10	〃	第10 回我経常散歩 「自分の用件から言う中国人と相手の都合から聞く日本人」	同様
11	〃	第11 回牌价是多少？ 「イルカを食べる中国人とくじらを食べる日本人」	同様
12	〃	第12 回漢語難不難 家族には「有難う」言わない中国人と家族にも「有難う」いう日本人	同様
13	〃	第13 回我没吃蒜 「『私』をよく使う中国人と『思う』をよく使う日本人」	同様
14	〃	第14 回我想去超市 喧嘩を恐れない中国人と喧嘩を恐れる日本人	同様
15	〃	第15 回来我家玩? 違って当たり前と思う中国人と違いを嫌う日本人	同様
16	〃	学期末試験中国語での自己紹介発表	同様

授業科目名 (ナンバリングコード)	韓国語 (111A0-2301)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	鶴田　かおり			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	40名程度
授業の概要	この授業では、韓国語学習の基礎となるハングルの理解と、日常場面で使う基本表現の習得を図る。まず、ハングルの構造・読み方・発音を学んだ後、挨拶や自己紹介などに用いる語彙や文末表現を段階的に扱う。また、ペア音読や復習を目的とした小課題を適宜実施し、学習内容の定着を促す。これらの学びを通して、場面に合った基本表現を使い、韓国語で簡単なやり取りができる初歩的なコミュニケーション力を身につけることが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	DPで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理 （基礎的な韓国語コミュニケーション力、多文化理解と柔軟な対話能力）							
	■認知的領域	基本的な語彙や表現について理解し、短い文を自分で扱うことができるようになる。	○	○	○		○		50
	■情意的領域	コミュニケーションに必要な主体性を育み、多文化理解を深めることができるようになる。	○		○	○			30
	■技能的領域	韓国語の基本技能を身につけ、学んだ表現を身近な場面で活かすことができるようになる。	○			○			20

成績評価の基準	提出課題(30%)、音読発表(20%)、学期末試験(50%)の結果を総合して評価する。原則として1/3以上の欠席がないこと。		
テキスト、教材 参　考　書	テキストは、次のものを購入すること。 『韓国語の基礎Ⅰ』(飯田秀敏・鄭芝淑・飯田桃子著，朝日出版社，2025,定価 2,640円)		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	授業後に学習内容を振り返ることで、理解がより深まりやすくなります。自分のペースで確認しながら、韓国語の力を伸ばしていきましょう。
オフィス・アワー	授業に関する質問は、授業後またはメール(kaohakuch@gmail.com)で受け付けます。確認したい点等、適宜お問い合わせ下さい。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	鶴田　かおり	オリエンテーション、ハングルの構造、母音字母①	課題(母音字母)で復習する。(30分)
2	〃	母音字母②、子音字母①	課題(母音・子音字母)で復習する。(30分)
3	〃	子音字母②、挨拶表現①(人に出会ったとき・初対面・久しぶりに会ったとき)	課題(子音字母))で復習する。(30分)
4	〃	平音・濃音・激音、有声化、カギャ表	課題(濃音・有声化)で復習する。(30分)
5	〃	複合中声、仮名のハングル表記	課題(複合中声)で復習する。(30分)
6	〃	終声（パッチム）、挨拶表現②(人と別れるとき・お礼とその返答)	課題(パッチム)で復習する。(30分)
7	〃	連音化、音声変化(濃音化・鼻音化)、挨拶表現③(お詫び・お祝い・その他)	課題(濃音化・鼻音化)で復習する。(30分)
8	〃	音声変化(流音化・激音化)、複合終声	課題(流音化・激音化・複合終声)で復習する。(30分)
9	〃	第1課(今、韓国に住んでいます。) 本文単語の意味確認、文法解説	課題(単語書き練習)で復習する。(40分)
10	〃	第1課(今、韓国に住んでいます。) 本文・文法解説、音読練習	課題(本文書き練習)で復習する。(40分)
11	〃	第1課(今、韓国に住んでいます。) 音読練習、応用練習	音読発表の準備をする。(40分)
12	〃	第2課(趣味は何ですか。) 本文単語の意味確認、文法解説	課題(単語書き練習)で復習する。(40分)
13	〃	第2課(趣味は何ですか。) 本文・文法解説・音読練習	課題(本文書き練習))で復習する。(40分)
14	〃	第2課(趣味は何ですか。) 音読練習、応用練習、まとめ	音読発表の準備をする。(40分)
15	〃	音読発表	総合復習を行う。
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	国語・文章表現法 (111A0-3300)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	栗山　靖弘・日髙　孝・森山　勇・濵島　敬子			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	100名程度
授業の概要	本授業では，新入生が本学で学術的な学習をする上で必要不可欠なアカデミックライティングや国語力に関する基礎的な知識（認知）やスキル（技能），マナー（態度）の修得を目指すことを目標としている．具体的には，アカデミックライティングは，毎回提出する授業レポートや課題作品の作成，国語力では読書の必要性を理解し，課題の図書を読んで自己考察文を作成し，推敲や発表を行う．本授業を通して，ドキュメンテーションスキル・プレゼンテーションスキル・コミュニケーションスキル等の基礎が構築されることを期待している． 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方　　法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・語彙，文法，文章構成などの表現に必要な基礎知識について理解できる ・読書を通して身につく能力について理解し活用できる	○			○			35
	■情意的領域	・他者の文章についても興味・関心を持ち，積極的にコミュニケーションを図ること，国語や表現に関する情報を仲間と協力して探求し，要点を整理することができる	○			○			23
	■技能的領域	・自分の言葉で思いを表現することができる ・論理的で読み手に分かりやすい文章を書くことができる			○				42

成績評価の基準	授業の取組は，授業への積極的な準備や参加度（［授業レポート：3点×14回＋授業まとめレポート4点＝46点］や［課題作品：18点×3回＝54点］及び[作品発表：15点×2回]）について総合的に評価し，単位認定を行う．なお，課題を期日までに提出・準備できなかった場合は，減点の対象となる．
テキスト、教材 参　考　書	課題図書を必ず購入すること：講義開始時までに周知する。 その他、授業テキストと資料を配付する.
履修条件・関連科目	1年次に履修することが望ましい.
備考(教員メッセージ含む)	大学での学びを深めるために重要な科目である.
オフィス・アワー	栗山：随時対応：研究棟6階　教員研究室 日高・森山・濵島：授業の前後に対応

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	栗山　靖弘 日髙　孝 森山　勇 濵島　敬子	オリエンテーション：国語・文章表現法での学びとは	授業レポートの作成〔3点〕，授業資料の復習（30分）
2	〃	文章表現の基礎：文章構成と思考の流れ，クラス分け	授業レポートの作成〔3点〕，授業資料の復習（30分）
3	〃	課題A：文章を論理的に書く，「自己体験に基づく意見文」の表現法 （課題選択，主題設定，構想）	授業レポートの作成〔3点〕 課題A［18点］，構想表の作成（1時間）
4	〃	課題A：良い文章とは（グループ・ディスカッション），文章の推敲	授業レポートの作成〔3点〕，作品の下書き（1時間）
5	〃	課題A：文章表現上の留意点整理，文章の推敲	授業レポートの作成〔3点〕，作品の清書（1時間），作品の音読（30分）
6	〃	課題A：作品発表，自己評価・他者評価	授業レポートの作成〔3点〕，作品発表A[15点]，授業資料の復習（30分），課題図書の通読（1時間）
7	〃	課題B：読書の力，「課題図書からの自己考察文」の表現法	授業レポートの作成〔3点〕 課題B［18点］，課題図書の通読（1時間），構想表の作成（1時間）
8	〃	課題B：「課題図書からの自己考察文」の構想と記述	授業レポートの作成〔3点〕，作品の下書き（1時間）
9	〃	課題B：良い文章とは（グループ・ディスカッション），文章の推敲	授業レポートの作成〔3点〕，作品の清書（1時間），作品の音読（30分）
10	〃	課題B：作品発表，自己評価・他者評価	授業レポートの作成〔3点〕，作品発表A，授業資料の復習（30分）
11	〃	課題C：自分をどう表現するか ―自分の言葉で思いを伝える― 自己分析，自分史，自己PR等，様々な文種の紹介	授業レポートの作成〔3点〕 課題C［18点］，授業資料の復習と自己分析（30分），構想表の作成（1時間）
12	〃	課題C：「自己分析からの自己表明文」の構想と記述	授業レポートの作成〔3点〕，下書きの作成（1時間）
13	〃	課題C：良い文章とは（グループ・ディスカッション），文章の推敲	授業レポートの作成〔3点〕，作品の清書（1時間），作品の音読（30分）
14	〃	課題C：作品発表，自己評価・他者評価	授業レポートの作成〔3点〕，作品発表B[15点]，作品の音読（30分），授業資料の復習（30分）
15	〃	授業のまとめ，振り返りと授業評価	授業レポートの作成〔4点〕，作品発表B，授業振り返りアンケートの記入（10分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	ドイツ語 (111A0-2302)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	大野　克彦			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	40名程度
授業の概要	【授業の目標】ドイツ語の実用的なコミュニケーション能力（初歩的な会話・文法・読解・聴解など）を修得する。 【授業の運営方法】テキストや補助資料などを用いながら授業をおこなう。 【学習の効果】自分に関することを伝えたり，簡単な表現が理解できるようになることが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク(×)、ディスカッション・討論(×)、プレゼンテーション・発表(×)、フィールドワーク(×)				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理 （課題解決力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	基礎的な語句・文法・読解力を修得する。 初歩的なコミュニケーション能力を身につける。					○		60
	■情意的領域	授業に積極的に参加し，課題に意欲的に取り組む。		○		○			20
	■技能的領域	自分のことについて表現することができる。 相手のことについて尋ねることができる。		○		○			20

成績評価の基準	成績発行の必要条件は６割以上の出席率（出席回数１０回以上）。 成績評価の具体的基準は，定期試験６０％および毎時間終了時の確認テスト・授業中の発表４０％。
テキスト、教材 参　考　書	プリントを配布して授業を行う。
履修条件・ 関連科目	特になし。　　備考(教員メッセージ含む)：特になし。
オフィス・アワー	質問はメールで受け付ける。

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	大野　克彦	授業ガイダンス（演習の概要，評価方法等），アルファベットの読み方	復習：アルファベットの読み方(30分)
2	〃	つづりと発音，数字	復習：つづりと発音の対応を覚える(60分)
3	〃	第１課　動詞の不定形，人称代名詞	復習：不定形の構造を理解する(60分)
4	〃	第１課　動詞の現在人称変化	復習：動詞の変化を覚える(60分)
5	〃	第１課　平叙文，命令文，疑問文	復習：動詞の定形の位置を理解する(30分)
6	〃	第１課 練習問題，あいさつ表現	復習：動詞にかかわる文法事項を振り返る (60分)
7	〃	第２課 sein，haben の現在人称変化	復習：sein, haben の変化を暗記する(30分)
8	〃	第２課 はい・いいえの答え方，nicht の位置	復習：第２課の内容を振り返る(60分)
9	〃	第２課 練習問題，時刻の言い方，天候の表現	復習：第２課の内容を振り返る(60分)
10	〃	第３課 名詞の性，定冠詞，名詞の複数形	復習：名詞の性と男性・中性・女性の定冠詞を覚える(60分)
11	〃	第３課 不定冠詞，所有冠詞	復習：男性・中性・女性の不定冠詞，所有冠詞を覚える(60分)
12	〃	第３課 練習問題，日常使う名詞	復習：第３課の内容を振り返る(60分)
13	〃	第４課 話法の助動詞とその現在人称変化	復習：話法の助動詞の変化を覚える(30分)
14	〃	第４課 話法の助動詞を持つ文の語順	復習：助動詞の定形と本動詞の不定形の位置を理解する(30分)
15	〃	第４課 練習問題，いろいろな会話表現	復習：前期の学習を振り返る(60分)
16	〃	学期末試験	復習：アルファベットの読み方（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	フランス語 (111A0-2303)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	新納　恵子			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	30名程度
授業の概要	【授業の目標】フランス語での簡単な会話ができるようになることを目標に、フランス語の発音と聞き取りの練習、文法の基礎を習得する。 【授業の運営方法】フランス語の簡単な会話の文例、フランス文化に関連した動画などを使って授業を行なう。全員参加型のグループレッスン形式を取り入れ、各自がフランス語での簡単な会話ができるように指導する。 【学習の効果】 フランス語での自己紹介と簡単な会話ができるようになることが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（×）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	基礎的な発音、聞き取り、文法を習得し、フランス人とのコミュニケーションのために必要な文化や習慣を理解して、フランス人との初歩的な会話ができるようになる。					○		60
	■情意的領域	授業に興味を持って積極的に参加し、意欲的に会話に参加する。		○		○			20
	■技能的領域	自分がフランス語で言っていることを理解してもらうことができる。相手がフランス語で言っていることを理解することができる。相手に質問をして会話を成立させることができる。		○		○			20

成績評価の基準	成績発行の必要条件は、2／3以上授業に出席すること。 成績評価の具体的基準は、授業中の発表＋確認テストが40％、学期末試験が60％。
テキスト、教材 参　考　書	『簡単！フランス語会話-フランス語で話してみよう！』
履修条件・ 関連科目	特になし。
備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	授業後30分間質問を受け付ける。

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	新納　恵子	授業ガイダンス（授業の概要、評価の仕方の説明） フランス語の「アルファベ」の発音	復習：アルファベの発音（20分）
2	〃	日本語になったフランス語を発音する。 フランス語の綴り字の読み方	復習：単語の発音練習（20分）
3	〃	フランス語で挨拶する。(「こんにちは」「さようなら」) フランス語の基本的な挨拶　(主語人称代名詞)	復習：フランス語の挨拶（20分）
4	〃	「私は日本人です。」 (男性名詞と女性名詞の区別)　(動詞 ?tre の活用表)	復習:「私は日本人です。」という表現を覚える。(20分)
5	〃	「私は19歳です。」(年齢を言う。) (フランス語の数字 1～20 まで)　(動詞 avoir の活用表)	復習:　フランス語の数字(1から20まで)を覚える。(20分)
6	〃	「私は日本に住んでいます。」(住んでいる場所を言う) (縮約形①) (動詞 habiter の活用表)	復習:「～に住んでいる」とい表現を覚える。(20分)
7	〃	「私は鹿児島の出身です。」(出身地を言う。) (縮約形②) (動詞　venir の活用表)	復習：「～の出身です」という表現を覚える。(20分)
8	〃	「私の父は47歳です。市役所で働いています。」(職業を言う。) (所有形容詞　私の～) (動詞 travailler の活用表)	復習：「～で働いています」という表現を覚える。(20分)
9	〃	「母は自然が好きで、よく散歩をしています。」(好きなことを言う①) (動詞 aimer の活用表) (動詞　marcher の活用表)	復習：「～が好きです」という表現を覚える。（１）(20分)
10	〃	「弟は高校生です。スポーツ好きで毎日運動しています。」 (好きなことを言う②) (動詞 faire の活用表 ①)	復習：「～をする」という表現を覚える。(20分)
11	〃	「私の妹は中学生です。チーズが大好きで、毎朝パンとチーズを食べています。」(好きなことを言う③) (動詞 prendre の活用表)	復習：「～を食べる」という表現を覚える。
12	〃	「祖母は料理が好きで、毎日おいしい料理を作ってくれます。」 (～が好き、という表現) (動詞 faire の活用表 ②)	復習：「～が好きです」という表現を覚える。（２）(20分)
13	〃	「私の両親は、旅行が大好きで、よく旅行に行っています。」 (～が大好き、という表現) (動詞 aller の活用表)	復習：「～が好きです」という表現を覚える。（３）(20分)
14	〃	「私も旅行が好きで、フランスに行くのが夢です。」 (自分の夢を語る①) (動詞 vouloir の活用表)	復習：「私の夢は～です」という表現を覚える。(20分)
15	〃	「いつかフランスに行って、フランス人と話がしてみたい。」 (自分の夢を語る②) (動詞 parler の活用表)	復習：「～してみたい」という表現を覚える。(20分)
16	〃	期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	日本語演習Ⅱ	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (コミュニケーション科目)
担当教員名	和田 友美			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	留学生１、２年次	受け入れ人数	１０名程度
授業の概要	専門分野での勉学・研究には、日本語による論理的思考による理解および表現能力が不可欠である。 本授業では、大学・大学院で専門分野の勉強をしようとする留学生の為に作成された教材を使って、論理的な文章の書き方やレポート作成に必要な知識や技術を学ぶことをめざす。 【授業に含まれる活動】○・・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク(○)、ディスカッション・討論(○)、プレゼンテーション・発表(○)、フィールドワーク(×)				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理、科学的表現力	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	専門的な文章を書くために必要な表現、文章作成に必要な文法などの基本事項を学ぶ。また、自分で書いた文章を人前で発表できるようになる。	○		○	○			40
	■情意的領域	読み手の視点をもって文章を作成し、日本語での文章作成に関心を持つ。他の学生の書いた文章を読んで助言できる。	○						20
	■技能的領域	読み手の視点をもって文章を作成し、日本語での文章作成に関心を持つ。他の学生の書いた文章を読んで助言できる。	○		○				40

成績評価の基準	授業における演習の参加、レポートの課題作成や発表の評価を合計し、60%以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参 考 書	テキスト：「新訂版　留学生の為の論理的な文章の書き方」（スリーエーネットワーク　2020、　1400円+税） 補助教材：「アカデミックライティングのためのパラフレーズ演習」（鎌田美千代他著　スリーＡネットワーク　2014） 参考書：「論文作成デザイン–テーマの発見から研究の構築へ–」（細川英雄著、東京都書、2012）		
履修条件・ 関連科目	7月、12月に実施される日本語能力試験（Ｎ－１、Ｎ－２）に挑戦することが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	本授業が留学生の皆さんの大学での学習やレポート作成の支えになることを願っています。
オフィス・アワー	授業時間前後にて対応		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	和田 友美	日本語プレイスメントテスト、インタビュー、コース説明	第1課の予習（1時間）
2	〃	第1部　基礎編–文章表現の基礎知識　第1課　レポートに使われる文体	「私の日本での食生活」の作文（1.5時）
3	〃	第1部　第2課　文の基本	前回作文の書き直し（45分）
4	〃	第1部　第2課　名詞化・首尾一貫した文	「私の専門」の作文（1.5時間）
5	〃	第1部　第3課　段落に分ける　1.文章の構成0	前回の作文（私の専門）の書き直し（45分）
6	〃	第1部　第3課　2.段落内の構成	「これからの生活」の作文（1.5時間）
7	〃	第1部　第4課　「は」と「が」	前回作文の書き直し（45分）
8	〃	第1部　第4課　主題の「は」	「私の国の有名な人」の作文（1.5時間）
9	〃	第2部　研究計画書の作成　第5課　テーマを述べる　助詞相当語	前回の作文の書き直し（45分）
10	〃	第2部 第5課　研究テーマを述べる　研究テーマの重要性を述べる	「研究テーマについて」作文（1.5時間）
11	〃	第2部　第6課　理由.経過を述べる　1．理由の表現	前回の作文の書き直し（45分）
12	〃	第2部　第6課　2.時間の表現	「私が日本に来るまで」作文（1.5時間）
13	〃	第2部　第7課　定義する　1.名詞文を書く　「こと」　と　「の」	前回の作文の書き直し（45分）
14	〃	第2部　第7課　定義をする　2.定義をする	研究計画の作成（1.5時間）
15	〃	まとめ　研究計画書の完成と発表、批評	研究計画書の書き直し（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	現代日本事情	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	和田 友美			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	10名程度
授業の概要	留学生は、母国・自分自身のことについて他国（日本など）との比較を通して意識的に捉えなおし、母国の事や自分の考えを日本語で発信できる力が不可欠である。本授業では、日本の事情をきっかけとして提供し、留学生の母国の事情と比較しながらクラスの討議を通して日本の諸事情の理解を深めるとともに、母語の事情について発信できるようになることをめざす。 【授業に含まれる活動】○・・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク(○)、ディスカッション・討論(○)、プレゼンテーション・発表(○)、フィールドワーク(△)				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	日本語での情報収集、情報伝達、調査分析、原稿作成、発表などの基本的スキルを養成する。	○			○			30
	■情意的領域	日本社会・日本人の意識や行動に対して関心を持つとともに、クラスで一緒に学ぶ留学生の異なる国々の文化や習慣にも関心を持つ。	○			○			30
	■技能的領域	自分でテーマを探して調査、考察、発表できるようになる。	○		○	○			40

成績評価の基準	授業への参加、課題レポート、口頭発表の評価を合計し、60%以上の者を合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	クローズアップ日本事情15 - 日本語で学ぶ社会と文化（佐々木瑞枝著　ジャパンタイムズ2017　2500円） 中上級学習者向け日本語教材　日本文化を読む（京都日本語教育センター編著　アルク　2012　2400円）
履修条件・ 関連科目	7月、12月に実施される日本語能力試験（Ｎ－１、Ｎ－２）に挑戦することが望ましい。 日本語スピーチコンテストなどに挑戦することが望ましい。
備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	授業時間前後に対応

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	和田 友美	日本語プレイスメントテスト、インタビュー、コース説明	発表準備　資料の読解　（1時間）
2	〃	第6課　知っておきたい日本の歴史　Ｓection1	発表準備　資料の読解　（1時間）
3	〃	第6課　知っておきたい日本の歴史　Ｓection1　、2	資料の読解　小テスト準備　（1時間）
4	〃	第6課　小テスト　第7課　伝統文化体験　Ｓection1	発表準備　資料の読解　（1時間）
5	〃	第6課　小テスト　第7課　伝統文化体験　Ｓection1、2	テスト準備　資料の読解　（1.5時間）
6	〃	第7課　小テスト　やっぱり敬語が必要なわけ（橋本　治）	発表準備　資料の読解　（1時間）
7	〃	第8課　現代文化とポップカルチャー　Ｓection1	発表準備　資料の読解　（1時間）
8	〃	第8課　現代文化とポップカルチャー　Ｓection2	テスト準備　資料の読解　（1.5時間）
9	〃	第8課　小テスト　第9課　スポーツの楽しみ方　Ｓection1	テスト準備　資料の読解　（1.5時間）
10	〃	第9課　スポーツの楽しみ方　Ｓection1、2	テスト準備　資料の読解　（1.5時間）
11	〃	第9課　小テスト　シンプル　（山本　昌代）　ブブヅケ（梅棹　忠夫）	発表準備　資料の読解　（1時間）
12	〃	第10課　前進を続ける科学技術　Ｓection1	発表準備　資料の読解　（1時間）
13	〃	第10課　前進を続ける科学技術　Ｓection1、2	発表準備　資料の読解　（1時間）
14	〃	第10課　小テスト　第12課　教育と子供たち　Ｓection1	発表準備　資料の読解　（1時間）
15	〃	まとめの口頭発表	発表の振り返り（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	倫理・哲学 (112A0-1300)	授業形態	講義	授業科目区分	一般科目 (社会・文化・自然科目)
担当教員名	小川　仁志			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1	受け入れ人数	未定
授業の概要	授業の目標：哲学のあらゆる分野について一通り基礎を知り、それらの知識を使いこなせるようになる 授業の運営方法：講義を基本とするが、グループワークも取り入れる 学習の効果：哲学的思考ができるようになる 【授業に含まれる活動】○…実施あり、×…実施なし、△…授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク(○)、ディスカッション・討論(○)、プレゼンテーション・発表(○)、フィールドワーク(×)				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理 （コミュニケーション力、課題解決力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	受講者は哲学のあらゆる分野の基礎知識を修得する。				○			20
	■情意的領域	自分の人生や世の中に深いレベルで関心を持つようになる。	○						10
	■技能的領域	哲学的に物事が考えられるようになる。			○				70

成績評価の基準	成績発行の必要条件は、３分の２以上の出席率（１０回以上）。成績評価の具体的基準は、授業での発表への積極的参加２０点、対話への積極的参加１０点、最終のレポートの成績７０点。
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：必要に応じてプリントを配布 参考書：小川仁志著『当たり前を疑う100の方法』（幻冬舎）、『なぜ何も思いつかないのか？』（ワニブックス）
履修条件・ 関連科目	特になし。
備考(教員メッセージ含む)	対話を重視するので、積極的参加のできる人の履修を期待します。
オフィス・アワー	集中講義のため休み時間に対応。

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	小川　仁志	哲学とは何か？―哲学史、哲学思考、哲学で扱うテーマ、哲学界のトレンド	講義資料に基づく予習復習（１時間）
2	〃	哲学的に思考する―基本の４ステップ、本質看取	講義資料に基づく予習復習（１時間）
3	〃	問いを立てる―疑う、クリティカル・シンキング、課題発見	講義資料に基づく予習復習（１時間）
4	〃	視点を変える―物事の捉え方を変える、課題解決、アイデア創出	講義資料に基づく予習復習（１時間）
5	〃	哲学概念を知る―哲学特有の言い回し、哲学概念	講義資料に基づく予習復習（１時間）
6	〃	読み解く―現象の読み解き方、本の読み方	講義資料に基づく予習復習（１時間）
7	〃	言葉を分析する―言葉を深く理解する	講義資料に基づく予習復習（１時間）
8	〃	事柄を整理する―カテゴリーをつくる、分析哲学	講義資料に基づく予習復習（１時間）
9	〃	概念を創造する―新しい概念の創造、新しい価値の提案	講義資料に基づく予習復習（１時間）
10	〃	思考実験をする―本質をつかむ、未来を想像する	講義資料に基づく予習復習（１時間）
11	〃	倫理的に判断する―倫理のモノサシ、倫理資本主義	講義資料に基づく予習復習（１時間）
12	〃	哲学を応用する―AI哲学、ロボット哲学、宇宙哲学、世界哲学	講義資料に基づく予習復習（１時間）
13	〃	哲学をつくる―名言をつくる、思考法をつくる	講義資料に基づく予習復習（１時間）
14	〃	合意形成を促す―哲学対話、哲学カフェ、ファシリテーションスキル	講義資料に基づく予習復習（１時間）
15	〃	スポーツ倫理・哲学－スポーツの世界の正しさ、本質	講義資料に基づく予習復習（１時間）
16	〃	詩哲学の世界－詩哲学という新しい文藝のジャンル	講義資料に基づく予習復習（１時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	人権論 (112A0-1301)	授業形態	講義	授業科目区分	一般科目 (社会･文化･自然科目)
担当教員名	森　克己			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	200名程度
授業の概要	人権の意義・内容・歴史などを解説するとともに、日本国憲法や国際人憲章典・条約等の人権規定の意義・内容等を解説することにより、受講生が人権問題の考え方や基礎知識を身につける。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（×）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	現代社会における主要な人権問題の考え方を身に付ける。		○			○		50
	■情意的領域	授業に積極的に参加し、レポートに積極的に取り組む。	○		○				50
	□技能的領域								

成績評価の基準	学期末試験の成績、毎回の授業時に課されるレポートへの取組みを総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：授業時に資料を配付する。 参考書：中川義朗編・『現代の人権と法を考える』（法律文化社）		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	森：水曜日、木曜日の午後（５０８研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	〃	オリエンテーション：学習の目的、内容、方法、評価のしかた	履修要項の予習（10分以上）
2	〃	人権の意義、内容、歴史①	参考書・資料等の予習・復習（30分以上）
3	〃	人権の意義、内容、歴史②	参考書・資料等の予習・復習（30分以上）
4	〃	現代社会における人権	参考書・資料等の予習・復習（30分以上）
5	〃	子どもの人権（総論）	参考書・資料等の予習・復習（30分以上）
6	〃	子どもの人権（各論）（児童虐待）①	参考書・資料等の予習・復習（30分以上）
7	〃	子どもの人権（各論）（児童虐待）②	参考書・資料等の予習・復習（30分以上）
8	〃	定期試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	ジェンダー論 (112A0-1302)	授業形態	講義	授業科目区分	一般科目 (社会・文化・自然科目)
担当教員名	前田　博子			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	180
授業の概要	将来，教員を目指す学生，指導者を目指す学生にとって必要な科目として位置付けられます． ジェンダーの用語の背景を理解し，性別による社会的不利益について，性に関わる多様性についての理解を深めます． 受講を通してみなさん自身の認識についての気づきを得たり，広く社会におけるジェンダーバイアスに敏感になることが期待されます． 【授業に含まれる活動】○…実施あり、×…実施なし、△…授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク(×)、ディスカッション・討論(×)、プレゼンテーション・発表(×)、フィールドワーク(×)				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	ジェンダーに関する課題について「情報を得て」「理解を深め」「自身の意見を構築する」 ジェンダー課題の解決に関する取り組みについて「情報を得て」「取り入れる方策を身につける」	○		○		○		44
	■情意的領域	授業参加と課題に積極的に取り組むこと．	○		○				56
	□技能的領域								

成績評価の基準	学期末試験の成績，毎回の授業時に課されるレポートへの取組みを総合的に評価する．
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：適宜プリントを配付する 参考書：飯田貴子他編「よくわかるスポーツとジェンダー」（ミネルヴァ書房） 関朋昭編著「体育・スポーツ・健康概論　第19章　女性スポーツとジェンダー」（ナカニシヤ出版）

履修条件・ 関連科目	特になし．	備考(教員メッセージ含む)	授業開始日は４月２３日（木）です． 事前にWeb Classに登録し、授業の情報を確認してください． ＰＣ又はタブレット等を必携とし，オンラインでの授業参加が可能な状態を用意してください．

オフィス・アワー	随時，Web Classを用いて質問を受け付けます．

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	前田　博子	（オンライン実施）本時の進め方 ジェンダーに関わる用語と課題	シラバスによる予習・講義内容の復習（1時間）
2	〃	（オンライン実施）性の区分とその影響	課題による予習・講義内容の復習（1時間）
3	〃	（オンライン実施）女性施策　国際社会の動向と国内動向	課題による予習・講義内容の復習（1時間）
4	〃	（オンライン実施）女性にかかわる法整備と組織整備	課題による予習・講義内容の復習（1時間）
5	〃	（オンライン実施）ハラスメントとジェンダー	課題による予習・講義内容の復習（1時間）
6	〃	（オンライン実施）学校におけるジェンダー	課題による予習・講義内容の復習（1時間）
7	〃	性別文化としてのスポーツの課題	課題による予習・講義内容の復習（1時間）
8	〃	試験実施 まとめと今日的課題について	定期試験に向けた準備（２時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	歴史学 (112A0-1303)	授業形態	講義	授業科目区分	一般科目 (社会・文化・自然科目)
担当教員名	山田　理恵・曽我 芳枝			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	50名程度
授業の概要	本授業では、歴史的事実に対する考え方や解釈のしかたを理解し、日本の歴史を、特に近代以降の日本の対外政策に焦点をあてて考察することを通して、国際関係のなかでの日本の歴史的位置づけや日本の文化に対する理解を深め、現代がかかえる諸問題を検討し国際平和の在り方を考える。 それらによって、歴史学の考え方やとらえ方を修得するとともに、教養として必要な知識を身につけ、論理的に考え表現できる能力を身につけることが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（×）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	歴史的事実に対する考え方や解釈のしかたを理解する。 史料批判および史料吟味について論じることができる。 現代社会がかかえる諸問題を分析し、国際平和の在り方を論じることができる。			○				70
	■情意的領域	授業に積極的に参加する。 課題に意欲的に取り組む。	○			○			30
	□技能的領域								

成績評価の基準	毎授業時等に実施する課題、授業に対する積極的な取り組み方等を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	参考書は適宜紹介する。また必要に応じて資料を配付する。		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	教務課教育支援係を通して調整する。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	山田　理恵	「歴史」に親しむ―激動の20世紀を振り返りながら―	参考書等の予習および復習（30分以上）
2	〃	「歴史」とは何か	参考書等の予習および復習（30分以上）
3	〃	戦争と国際平和	参考書等の予習および復習（30分以上）
4	〃	オリンピック・パラリンピックと日本	参考書等の予習および復習、まとめ（40分以上）
5	曽我 芳枝	歴史的事実と史料（「健康」をめぐって）	参考書・資料等の予習および復習（30分以上）
6	〃	西洋文化の受容と変容	参考書・資料等の予習および復習（30分以上）
7	〃	近代における女性	参考書・資料等の復習および予習（30分以上）
8	〃	「身体」をめぐって	参考書・資料等の復習および予習（30分以上）

授業科目名 (ナンバリングコード)	社会学 (112A0–1304)	授業形態	講義	授業科目区分	一般科目 (社会・文化・自然科目)
担当教員名	北村　尚浩・日下　知明			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	100名程度
授業の概要	（前半） 社会の基礎となる集団に関する複数のトピックを取り上げ，グループディスカッションを中心に現代社会における課題を理解する． （後半） 若者論を中心に，メディア，人間関係，労働等のトピックを取り上げ，それらについて社会学的な視点から考える． 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	(前半)家族，組織，貧困，メディアなどの社会の問題について，現代社会における課題を理解する． (後半)若者論を中心に，メディア，人間関係，労働等の身近なトピックについて，社会学的な視点から解釈することができる．			○				70
	■情意的領域	授業に積極的に参加する。 課題に意欲的に取り組む 社会問題と社会学的視点に興味・関心を持つ。	○						30
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業時間内に随時実施するレポート、授業後に課されるレポート、授業に対する積極的な取り組み方等を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	参考書は適宜紹介する。また必要に応じて資料を配付する。		
履修条件・関連科目	人権論、ジェンダー論（履修しておくことが望ましい。）	備考(教員メッセージ含む)	情報端末を必携すること。対面授業において、質疑を行う場面で使用する。
オフィス・アワー	随時対応（北村：６１０研究室　日下：６０７研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	北村　尚浩	社会学とは	シラバスによる準備（1時間）講義内容の復習（1時間）
2	〃	家族の概念	課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）
3	〃	家族の様式	課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）
4	〃	格差と階層化	課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）
5	日下　知明	現代社会と若者	授業内容の復習・課題レポートの作成（1時間）
6	〃	若者と労働	授業内容の復習・課題レポートの作成（1時間）
7	〃	若者とメディア	授業内容の復習・課題レポートの作成（1時間）
8	〃	若者の人間関係	授業内容の復習・課題レポートの作成（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	日本国憲法 (112A0-1305)	授業形態	講義	授業科目区分	一般科目 (社会・文化・自然科目)
担当教員名	森　克己			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	200名程度
授業の概要	日本国憲法の主要原則を概説するとともに、基本的な憲法問題・判例の解説を行うことによって、学生が憲法と現実社会との関わりを考える上での視座並びに法学の基礎知識を身につけることができるようにすることを目標とする。 また、教員・公務員試験等の日本国憲法に関する試験問題の解き方も身につけることができるようになることも期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（×）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理							
	■認知的領域	憲法と現実社会との関わりを考える視座を身に付ける。 憲法の基本原理・判例について説明できる。					○		90
	■情意的領域	授業に積極的に参加し、復習問題に取り組む。	○		○				10
	□技能的領域								

成績評価の基準	学期末試験の成績、毎回の授業時に課される復習問題（レポート）への取組みを総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	購入すべきテキスト：森克己ほか著『基礎からわかる憲法』（第３版）（嵯峨野書院） 参考書：芦部信喜『憲法』（第５版、岩波書店）、伊藤正己『憲法入門』3024円[税込み]（第４版補訂版）		
履修条件・ 関連科目	人権論を履修することが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	森：水曜日、木曜日の午後（５０８研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	森　克己	オリエンテーション：学習の目的、内容、方法、評価のしかた	履修要項・シラバスの予習（10分以上）
2	〃	憲法とは何か	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
3	〃	現代憲法の特徴	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
4	〃	明治憲法	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
5	〃	日本国憲法の成立	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
6	〃	日本国憲法の構成	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
7	〃	国民主権	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
8	〃	民主主義	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
9	〃	象徴天皇制①	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
10	〃	象徴天皇制②	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
11	〃	基本的人権（総論①）	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
12	〃	基本的人権（総論②）	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
13	〃	基本的人権の分類・主体	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
14	〃	基本的人権の限界	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
15	〃	平和主義	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	日本文化論 (112A0-1306)	授業形態	講義	授業科目区分	一般科目 (社会・文化・自然科目)
担当教員名	中村　勇			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	100名程度
授業の概要	日本とは何か。日本人とは何か。日本文化とは何か。このような問いは古からさまざまに論じられてきたが、近年のグローバリゼーションの進展のなかで、その傾向はさらに高まり多岐にわたってきている。 本講義では、「日本文化」の基礎事項についてより深い理解を得られるように、前半は精神性、宗教、生活、芸術、クールジャパンなど様々な視点から、後半は日本の身体運動文化である伝統武術や現代武道にテーマを絞り、講義、ディスカッション、ビデオ視聴、プレゼンテーション等により授業を展開する。 本講義を通じて、受講者は日本文化に関する幅広い教養を身に付け、「日本文化とは何か」を発信できることを期待する 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理 （専門的な知識・教養、教養力、倫理的思考力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	学生が各テーマについて、基礎的知識を理解し、 それを説明することができるようになる。	○		○				40
	■情意的領域	学生が各テーマについて、基礎的知識を理解した上で、客観的視点から考察することができるようになる。	○		○				30
	■技能的領域	学生が各テーマについて、自分の意見を指示された方法で適切に表現することができるようになる。	○		○				30

成績評価の基準	授業への積極的参加姿勢およびレポートで総合的に評価する。 欠席1／3回以上は評価の対象としない
テキスト、教材 参　考　書	テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。
履修条件・ 関連科目	特になし。
備考(教員メッセージ含む)	アクティブ･ラーニングが多い集中授業です。日本文化に興味を持ち授業へ積極的に参加できる人を歓迎します。
オフィス・アワー	中村：平日午後12:00－14:00、 ただしWebClassメール等で連絡の上調整可能。（503教員室）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中村　勇	日本の風土と文化	復習として、授業内で指示した参考資料の熟読（３０分程度）
2	〃	日本の宗教・伝統行事・祭	復習として、授業内で指示した参考資料の熟読（３０分程度）
3	〃	日本の食文化・茶道	復習として、授業内で指示した参考資料の熟読（３０分程度）
4	〃	日本の芸術文化	復習として、授業内で指示した参考資料の熟読（３０分程度）
5	〃	日本の新しい文化	復習として、授業内で指示した参考資料の熟読（３０分程度）
6	〃	日本の伝統と習慣	復習として、授業内で指示した参考資料の熟読（３０分程度）
7	〃	日本の精神文化	復習として、授業内で指示した参考資料の熟読（３０分程度）
8	〃	日本のスポーツ文化（1）	復習として、授業内で指示した参考資料の熟読（３０分程度）
9	〃	日本のスポーツ文化（2）	復習として、授業内で指示した参考資料の熟読（３０分程度）
10	〃	日本の伝統武芸（1）	復習として、授業内で指示した参考資料の熟読（３０分程度）
11	〃	日本の伝統武芸（2）	復習として、授業内で指示した参考資料の熟読（３０分程度）
12	〃	武道文化（1）	復習として、授業内で指示した参考資料の熟読（３０分程度）
13	〃	武道文化（2）	予習として、前回までの授業内容を見直しておく（３０分程度）
14	〃	日本文化のこれから（1）	予習として、前回までの授業内容を見直しておく（３０分程度）
15	〃	日本文化のこれから（2）	最終課題を完成させる（60分程度）

授業科目名 (ナンバリングコード)	異文化理解 (112A0-2307)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (社会・文化・自然科目)
担当教員名	国重　徹・坂中　美郷・エルメス　デイビット・石原　豊一・幾留　沙智・日下　知明			補助担当者名	なし
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	15名程度
授業の概要	一人の人間として異文化と向き合い、平和・人権・環境など人類共通の問題解決に参加できる資質を身につけられるよう、異文化コミュニケーションの基礎知識を習得する。さらに、留学生などいろいろな文化背景の人々とコミュニケーションしていく上で手助けとなることを期待して、多様な感じ方、考え方、表現方法を体験学習的な活動を通して学生自身も体験する。なお、講師の都合で授業予定の順番が変更になることもあり得る。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	異文化コミュニケーションにおける非言語と言語の抱える問題点や価値観と態度の多様性を理解する。	○						30
	■情意的領域	多様な感じ方、考え方、表現方法を体験することで、異文化コミュニケーションにおける学生の気づきを促す。	○		○	○			30
	■技能的領域	コミュニケーションにおける多様な行動の解釈の幅を広め、異文化背景を持った人々とのコミュニケーションを継続できる。	○		○	○			40

成績評価の基準	レポート提出、授業中の発表、アクティビティ、ディスカッションなど総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：各担当教員が準備します。 参考書：『多文化社会で多様性を考えるワークブック』（有田佳代子他編著、研究社、2018) 『異文化コミュニケーション--グローバル・マインドとローカル・アフェクト』 (八島智子／久保田真弓　著、松柏社、2012) 『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション--多文化共生と平和構築に向けて』 （石井敏、久米昭元、長谷川典子、桜木俊行、石黒武人著、有斐閣、2013)		
履修条件・ 関連科目	履修条件：特に条件はないが、トビタテ留学Japanによる海外派遣や交流協定校など海外への留学、および海外青年協力隊やJICAなど海外での就職を希望する学生および外国人留学生には、特に受講を勧めたい。 関連科目：総合英語Ⅰ～Ⅶ	備考(教員メッセージ含む)	辞書は毎回持参すること。実習等で欠席の場合、事前に欠席届けを提出のこと。
オフィス・アワー	国重：木曜日昼休み及び12:40～13:00、 エルメス：水曜日15:00～16:00, 石原：月曜日昼休み、12時40分～13時40分。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	石原　豊一	ガイダンス、ネーション、民族、国民について考える：欧州の事例から	レポート（1時間）
2	〃	グローバルシティとは何か：ドバイの事例から	レポート（1時間）
3	〃	多文化共生社会とはなにか：インドネシアの事例から	レポート（1時間）
4	〃	ロシアとはなにか、スラブとはなにか？	レポート作成（1時間）
5	エルメス　デイビット	Culture and Communication Style	Review and Report (1時間)
6	〃	Cultural Values	Review and Report (1時間)
7	〃	Barriers to Communication: Discrimination	Review and Report (1時間)
8	〃	Barriers to Communication: Individual Differences	Review and Report; レポート提出(2時間)
9	坂中　美郷	私の異文化体験	レポート作成（1時間）
10	日下　知明	私の異文化体験	レポート作成（1時間）
11	国重　徹	私の異文化体験	レポート作成（1時間）
12	〃	異文化理解について考える①（イントロ、ステレオタイプの危険性について：グループワーク＆ディスカッション）	レポート作成（1時間）
13	〃	異文化理解について考える②（ステレオタイプの危険性について：宗教についてその他：グループワーク＆ディスカッション）	レポート作成（1時間）
14	〃	異文化理解について考える③ a.（海外の人から見た日本について：グループワーク＆ディスカッション） b.（異文化での生活で気づいたこと～日本では当たり前のことが海外では・・・）	レポート作成（1時間）
15	〃	異文化での生活で学んだこと～ハワイ滞在[大罪!?]記～ まとめと振り返り：異文化理解の授業で学んだこと	レポート作成（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	生物化学論 (112A0–1308)	授業形態	講義	授業科目区分	一般科目 (社会・文化・自然科目)
担当教員名	吉田　剛一郎			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	10名程度
授業の概要	生命がなりたっているしくみを化学的に理解する。生体がどのような物質からなりたっているか、それらの物質がどのようにつくられてこわされるのか、またそれらの物質が生体内でどのようなはたらきをもつのかを示す。生化学・栄養学・生理学など自然科学系分野の教養を身に付ける科目である。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理、科学的表現力 （課題解決力、科学的支援力、専門的な知識・教養）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	1．生体を構成する物質、2．生体内の物質代謝、3．遺伝情報とその発現、の３部に分けて系統的に理解することができる。			○				70
	■情意的領域	適切な受講姿勢を保ち、積極的に作業課題に取り組むことができる。	○						30
	□技能的領域								

成績評価の基準	認知的領域（レポート）：情意的領域（授業）＝７０：３０の比率で評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	講義テキスト（授業時に配付する）		
履修条件・ 関連科目	運動生化学・スポーツ栄養学・運動生理学・解剖生理学	備考(教員メッセージ含む)	自然科学系分野の基礎科目であるが、難易度は高めである。
オフィス・アワー	随時対応　３０７研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	吉田　剛一郎	オリエンテーション（授業の概要・成績評価の方法など）	授業の到達目標を復習する。（１時間）
2	〃	生物化学を学ぶための基礎知識（細胞の構造とはたらきなど）	テキストの生物化学を学ぶための基礎知識を復習する。（１時間）
3	〃	糖質（グルコース・グリコーゲンなど）	テキストの糖質を復習する。（１時間）
4	〃	脂質（脂肪・コレステロールなど）	テキストの脂質を復習する。（１時間）
5	〃	タンパク質（アミノ酸・各種タンパク質）	テキストのタンパク質を復習する。（１時間）
6	〃	水（水分の出納・酸塩基平衡）	テキストの水を復習する。（１時間）
7	〃	無機質（カルシウム・ナトリウム・カリウムなど）	テキストの無機質を復習する。（１時間）
8	〃	血液と尿（血漿と血球・尿の生成）	テキストの血液と尿を復習する。（１時間）
9	〃	（オンライン授業）ホルモンと生理活性物質（血糖、血圧、食欲等の調節）	テキストのホルモンと生理活性物質を復習する。（１時間）
10	〃	（オンライン授業）酵素（触媒作用と逸脱酵素）	テキストの酵素を復習する。（１時間）
11	〃	（オンライン授業）ビタミンと補酵素（生理作用と欠乏症）	テキストのビタミンと補酵素を復習する。（１時間）
12	〃	（オンライン授業）糖質代謝（解糖系・クエン酸回路・電子伝達系など）	テキストの糖質代謝を復習する。（１時間）
13	〃	（オンライン授業）脂質代謝（カルニチンとβ酸化）	テキストの脂質代謝を復習する。（１時間）
14	〃	（オンライン授業）タンパク質代謝（アミノ酸の利用・尿素回路）	テキストのタンパク質代謝を復習する。（１時間）
15	〃	（オンライン授業）遺伝情報（遺伝子のはたらきとタンパク質合成）	テキストの遺伝情報を復習する。（１時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体科学論 (112A0-1309)	授業形態	講義	授業科目区分	一般科目 (社会・文化・自然科目)
担当教員名	赤澤　暢彦			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	100名程度
授業の概要	将来、身体に接する機会が多いであろう体育大学の学生にとって、身体科学の知識とともに身体諸機能について科学的に考察できる能力が必要不可欠となる。本授業では、ヒトの身体が動く仕組みについて、身近なスポーツや身体活動と絡めて概説する。これにより、科学的エビデンスに基づいた競技力向上ならびに健康増進の発展に応用できる基礎的知識を習得することが期待できる。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理 （専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	ヒトの身体諸機能について科学的に理解できる. 身体諸機能について論理的に考察することができる.		○	○	○	○		50
	■情意的領域	講義に出席している. 講義中にマナーを守れている.	○		○	○			50
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業に取り組む姿勢（出席回数含めて）およびテストの成績から総合的に評価し、60点以上で合格とする。 詳しくは1回目の授業で説明する。
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて資料を配布する.
履修条件・ 関連科目	特になし。
備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	随時可能だが、事前の連絡があれば確実。（302研究室）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	赤澤　暢彦	オリエンテーション	
2	〃	筋と運動	授業の予習と復習（1時間）
3	〃	脳と運動	授業の予習と復習（1時間）
4	〃	エネルギーと運動	授業の予習と復習（1時間）
5	〃	呼吸と運動	授業の予習と復習（1時間）
6	〃	循環と運動	授業の予習と復習（1時間）
7	〃	体液と運動	授業の予習と復習（1時間）
8	〃	性と運動	授業の予習と復習（1時間）
9	〃	環境と運動	授業の予習と復習（1時間）
10	〃	遺伝と運動	授業の予習と復習（1時間）
11	〃	フィットネス	授業の予習と復習（1時間）
12	〃	トレーニング	授業の予習と復習（1時間）
13	〃	休養と運動	授業の予習と復習（1時間）
14	〃	栄養と運動	授業の予習と復習（1時間）
15	〃	健康と運動	授業の予習と復習（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	環境論 (112A0-1310)	授業形態	講義	授業科目区分	一般科目 (社会・文化・自然科目)
担当教員名	古瀬　裕次郎			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	130名
授業の概要	環境という言葉が示す意味は広義である。自然環境のみならず、生活、社会、教育、家庭、国際など、個人単位から世界規模に至るまで、環境という言葉は当てはまる。環境は私たちの人生を豊かにするか不幸にするか、健康にするか不健康にするか、様々な影響を与える。環境は有形無形であり、必ずしも目に見えるものではないため認識しにくい。本講義は公衆衛生学の応用編として、自然環境をめぐる諸問題について考察し、後半部では身近な環境問題について考察する。自然環境・社会環境・公衆衛生の変化と健康問題に対して、理解を深めることを目的とする。 【授業に含まれる活動】○・・・実施する、×・・・実施しない、△・・・授業の進捗状況や場合によって実施する グループワーク（×）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理、科学的支援力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	環境や大衆の健康（公衆衛生）について認識し、理解する。					○		100
	□情意的領域								
	□技能的領域								

成績評価の基準	学期末試験が60点以上の者を合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて都度資料を配布する。

履修条件・関連科目	衛生学･公衆衛生学（2年次）の単位を取得していない者の履修は推奨しません。	備考(教員メッセージ含む)	衛生学・公衆衛生学の単位を取得していることを前提で講義を進めます。 デバイスを使用した授業資料閲覧を推奨します。授業内で電子デバイス（QRコード提示）による資料閲覧や回答を求めることがあります。授業にはPC、タブレット、スマートフォンの持ち込みと使用を許可しますが、授業に関係のない用途での使用は認めません。 講義の難易度は高めです。
オフィス・アワー	研究棟5階　509研究室（ykose@nifs-k.ac.jp）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	古瀬　裕次郎	（オンデマンド授業）オリエンテーション	配布資料を参考に授業を復習する（30分）。
2	〃	気候危機	配布資料を参考に授業を復習する（30分）。
3	〃	原子力発電の功罪①	配布資料を参考に授業を復習する（30分）。
4	〃	原子力発電の功罪②	配布資料を参考に授業を復習する（30分）。
5	〃	災害（地震）と健康	配布資料を参考に授業を復習する（30分）。
6	〃	熱中症とスポーツ	配布資料を参考に授業を復習する（30分）。
7	〃	感染症と沈黙の春	配布資料を参考に授業を復習する（30分）。
8	〃	前半まとめ	配布資料を参考に授業を復習する（30分）。
9	〃	自動車と環境問題	配布資料を参考に授業を復習する（30分）。
10	〃	運転のマナーと運転統計	配布資料を参考に授業を復習する（30分）。
11	〃	「鹿屋ルール」を考える	配布資料を参考に授業を復習する（30分）。
12	〃	プラスチック①	配布資料を参考に授業を復習する（30分）。
13	〃	プラスチック②	配布資料を参考に授業を復習する（30分）。
14	〃	公衆衛生と環境問題	配布資料を参考に授業を復習する（30分）。
15	〃	後半まとめ	配布資料を参考に授業を復習する（30分）。
16	〃	定期試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	社会に出るための経済学 (112A0-1311)	授業形態	講義	授業科目区分	一般科目 (社会・文化・自然科目)
担当教員名	中嶋　則夫			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	―
授業の概要	我々は、個々人の（能力）に応じて様々な（教育）を受け、就職して社会人となり様々な役割を社会で果たして暮らしています。 社会には暮らしを豊かにするするために欠かせない様々な（財・サービス）を（生産）する（職業）があり、（分業）によって（効率的）に生産され、それらを（市場）で（貨幣）と（交換）して暮らしています。交換に必要な貨幣を得るには、労働を提供して受取る（所得）が必要で、就職とは、そのための手段となります。 豊かに暮らすためには、（労働）時間以外の（余暇）時間も大変重要になり、短い労働で効率的に財・サービスを生産し、余暇時間を増やせば、（スポーツ）、（文化芸術）に関係する活動を充実させることも可能となります。 本講義では、市場を活用する経済で、分業による効率的な財・サービス生産と、その（配分状態）を（価格）と（数量）の関係から、（経済学者らしく考える）姿勢で、評価することを学びます。また、豊かな暮らしに必要だが、市場での取引が機能しない財・サービスの存在と、（政府）との関連を（財政）も含め説明します。 これらの活動を集計した経済全体の規模を表す（国内総生産）という指標が、暮らしの豊かさを知る手段となることを、財・サービスの取引で決まる諸価格を総合的に測定した（物価）によって、（名目）と（実質）に区別して説明を行います。 また、国内総生産が（成長）するために必要となる（生産性を構成する四要素）を示し、その充実に必要な（政策）の視点を挙げ、その中でも（金融システム）下で（貨幣システム）を通じてなされる（貯蓄）と（投資）の重要性を（利子率）を軸に説明し、（純輸出）や（純資本流出）の考え方を含め、経済全体の活動規模と物価の関係性を（総需要）、（総供給）の観点から解説します。 これらの議論は、経済全体のパフォーマンスがどのようになるかを理解するために役立つが、それに加え、これらの情報を、われわれが受け取る所得（Y）のうち消費（C）に使わない貯蓄（S）の運用先情報として活用できることも説明します。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	経済学の専門用語の概念を理解する。 専門用語を適切に使い重要な変数間の関係性を論理的に理解する。 変数間の関係性を用いて望ましい状態を実現するための意見を述べる。	○		○		○		40
	■情意的領域	質問に対して、獲得した知識を正確に用い、説得的に口頭で回答する。				○			30
	■技能的領域	各テーマ振り返りレポート作成を適切な引用方法を用いて行う。 6つの期末課題への回答を各200文字程度に要約する。	○		○				30

成績評価の基準	定期試験60％、期末課題25％、振り返りレポート（5回程度）15％の合計点で評価します。		
テキスト、教材 参　考　書	マンキュー, N, グレゴリー/足立他訳『マンキュー入門経済学（最新版）』東洋経済新報社		
履修条件・ 関連科目	倫理・哲学、歴史学、社会学、日本国憲法などの科目の多くを履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	本授業は、授業時間以外に、15週間で60時間の自主学習時間が必要となる内容となっています。従って、指示したテキスト部分と資料に関する予習・復習に週約4時間程度行ってください。
オフィス・アワー	授業の前後に対応する。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中嶋　則夫	1経済学の十大原理 先ず、個人の意思決定がインセンティブの影響を受けることを、トレードオフ、機会費用、限界的な部分で考える、という諸要素との関係から理解する。そのように選択する個人が集まる経済で、相互に影響し合いながら財・サービスが生産され、それらが分配に至る過程で生まれる環境に評価を与え、豊かさの源泉である生産能力、取引等に使われる貨幣量が財・サービスの諸価格を通して物価に影響を与え、その物価の変動が失業とどう関係するかについて概観する。	教科書の該当箇所を授業内容の視点から予習し、授業後は、指示される課題とともに復習すること。（2時間）
2	〃	2経済学者らしく考える 科学者としての経済学者の視点で、身の回りに生じる現象を実証的に理解するための科学的方法を、事例を用いて説明する。身の回りに生じる現象を、倫理・宗教・政治哲学などの価値観に基づき規範的に評価し、良い状態を生み出す良い政策とする主張が人びとの間で一致しない原因と実証的主張が意見対立の緩和に重要な役割を果たすことを説明する。	教科書の該当箇所を授業内容の視点から予習し、授業後は、指示される課題とともに復習すること。（2時間）
3	〃	3相互依存と交易からの利益 絶対優位と比較優位の考え方を理解し、絶対優位の人々が絶対劣位の人々と分業することが生産性の向上に寄与する点を説明し、直感で誤った判断をしがちなわれわれの特性を理解するとともに、直感で辿り着けない論証の必要な知識の存在を確認する。その際、科学的方法に基づく理論をモデル化した生産可能性フロンティアも活用し、視覚的に分業の効果を確認する。	教科書の該当箇所を授業内容の視点から予習し、授業後は、指示される課題とともに復習すること。（2時間）
4	〃	4市場における需要と供給の作用 経済学の中核である、需要と供給の作用をモデル化し、人々の意思決定過程が、市場の生産と分配が生み出す状態にどのような影響を及ぼすかを議論する。人々が自由に活動した結果である均衡価格、均衡数量が生み出す状況が、それらに人為的作用が与えられた状況よりもより良い状況となる点を、説明する。	教科書の該当箇所を授業内容の視点から予習し、授業後は、指示される課題とともに復習すること。（2時間）

5	〃	5需要、供給、および政府の政策_付論弾力性 政府の様々な政策が、実証的な分析を経て、政策立案者の意図していない効果をもたらすことを説明する。また、税の負担が、経済学的な要因で生じる点についても解説を加える。	教科書の該当箇所を授業内容の視点から予習し、授業後は、指示される課題とともに復習すること。（2時間）
6	〃	6消費者、生産者、市場の効率性_付論税と効率・公平 支払許容額で測る消費者余剰と受取許容額で測る生産者余剰という新たな概念を用いて、市場を用いることの有効性を確認する。また、政府の政策実行の原資となる税の負担配分の考え方を整理し、税負担の効率と公平について考える。	教科書の該当箇所を授業内容の視点から予習し、授業後は、指示される課題とともに復習すること。（2時間）
7	〃	7外部性 売り手と買い手の意思決定によって価格と数量の関係が決まるが、それに関わらない人々に与える影響を外部性と呼び、それがある場合、均衡点で生まれる環境が必ずしも望ましい状況ではない点を確認し、その解決に向けたいくつかの方法を解説する。	教科書の該当箇所を授業内容の視点から予習し、授業後は、指示される課題とともに復習すること。（2時間）
8	〃	8国民所得の測定 われわれの受け取る所得の総計がどのように生産され、分配され、支出されるのかという、国全体の視点で、議論を深める。その際、これらの総計は、価格と数量の関係から算出されるため、単に価格のみが変化した場合、数量のみが変化した場合、どちらもが変化した場合で、その大きさの意味合いが異なるため、それらを区別する方法とその考え方について説明し、名目と実質の意味とその役割を理解する。	教科書の該当箇所を授業内容の視点から予習し、授業後は、指示される課題とともに復習すること。（2時間）
9	〃	9生計費の測定 われわれの暮らしに必要な財・サービスを獲得するために必要な所得とそれらの価格の変化を総合的に表す指標の考え方について学び、物価情報が持つ意味によって、どのような主張をする必要があるか、賃金率、利子率との関係から理解を深める。	教科書の該当箇所を授業内容の視点から予習し、授業後は、指示される課題とともに復習すること。（2時間）
10	〃	10生産と成長_付論失業 経済成長は、われわれの暮らしを豊かにする源泉となることを、生産性を決める要因との関係から、説明し、公的部門がそれらにどのように関わりながら政策を行えばいいのか、その考え方を紹介し、具体的な政策を考える際の土台を与える。	教科書の該当箇所を授業内容の視点から予習し、授業後は、指示される課題とともに復習すること。（2時間）
11	〃	11貯蓄、投資と金融システム_付論1貨幣システム・付論２貨幣の供給とインフレーションの古典派理論 金融システム下で、貨幣システムを通じてなされる、貸付資金市場における貯蓄と投資の関係の重要性を、利子率を軸に、説明し、貨幣数量と貨幣の価値の関係から長期の物価水準が決まるとする考え方を説明する。	教科書の該当箇所を授業内容の視点から予習し、授業後は、指示される課題とともに復習すること。（2時間）
12	〃	12総需要と総供給 経済における、消費、投資、政府支出、純輸出（輸出−輸入）が物価の影響を受けてどのように変化するかを検討し、それらを総需要として考え、モデル化する。また、それらの総需要に応えるために、労働を用いて生産を行うが、物価の影響を受ける短期とその影響が調整される長期に分けてモデル化し、総需要と総供給を同時に取り扱うことのできる手段を構築する。それを用いて、我々を取り巻く様々な環境変化が、暮らしに与える影響を財政、金融の面から改善する政策立案の基本的な考え方を理解し、社会の一員として適切にふるまう素養を身に付ける。	教科書の該当箇所を授業内容の視点から予習し、授業後は、指示される課題とともに復習すること。（2時間）
13	〃	13開放マクロ経済学：基本的概念 輸出（米資産からの支払い_最終的に$→￥）と輸入（日本資産からの支払い_最終的に￥→$）からなる純輸出と純資本流出から、利子率、外国為替相場の決定と財政政策、金融政策との関係を理解する。	教科書の該当箇所を授業内容の視点から予習し、授業後は、指示される課題とともに復習すること。（2時間）
14	〃	14ファイナンスの基本的な分析手法 現在価値の考えから、異なる時点での1万円の価値が異なることを知り、リスク管理では将来が不確実であるため、それから身を守る準備が重要であることを知り、資産評価では、株価が将来期待される収益を反映することを知る。	教科書の該当箇所を授業内容の視点から予習し、授業後は、指示される課題とともに復習すること。（2時間）
15	〃	15政策に必要な基礎的知識とフローの貯蓄、ストックの金融資産への活用を考えるこれまで蓄積した知識をベースに、外国為替市場、株式市場などの金融資産に関連する市場の変動が、政策に伴うマクロ経済指標と連動することが多いこと理解し、自らの資産選択の際の判断材料となることを知る。	教科書の該当箇所を授業内容の視点から予習し、授業後は、指示される課題とともに復習すること。（2時間）
16	〃	定期試験（3問から構成される）	期末課題6問（各200文字程度）中2問を定期試験問題とする。第3問は、事前に提示する。

授業科目名 (ナンバリングコード)	バイオメカニクスを学ぶための物理・数学 (112A0-1312)	授業形態	講義	授業科目区分	一般科目 (社会・文化・自然科目)
担当教員名	宮崎　輝光・成田　健造			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	―
授業の概要	スポーツバイオメカニクスは、身体運動を力学に基づいて観察する分野である。本科目の目標は、2年次配置されているスポーツバイオメカニクスを学ぶ際に求められる、力学や数学に関連する基礎知識を身につけることである。特に、線形代数や微積分の基礎的な話題を中心に取り扱う。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理 （専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	スポーツバイオメカニクスを学ぶ際に求められる，力学や数学に関する基礎を理解する.		○			○		70
	□情意的領域								
	■技能的領域	数式を含むスポーツバイオメカニクスに関する文章が読み書きできる技能を習得する.		○			○		30

成績評価の基準	基本的に毎回出席をとる。出席が2/3以上の者について、試験の成績が60点を超えていることを合格の条件とする。 合格者に対して、試験の成績、小テスト等を勘案して、総合的に評価する。
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて授業時に資料配布 参考図書 スポーツバイオメカニクス (はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ)、化学同人 スポーツバイオメカニクス 完全準拠 ワークブック，化学同人

履修条件・関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	授業内容が不明な点があった場合は、随時自習によって補うこと。
オフィス・アワー	成田：随時　研究棟8階　812教員研究室 宮崎：随時　研究棟4階　408教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	成田　健造	オリエンテーション バイオメカニクスで扱う変数の単位，割合	授業内容の復習（60分）
2	〃	関数とグラフ	授業内容の復習（60分）
3	〃	変位，速度，加速度の関係①	授業内容の復習（60分）
4	〃	変位，速度，加速度の関係②	授業内容の復習（60分）
5	〃	スポーツ現場でのバイオメカニクスや物理・数学の活用①	授業内容の復習（60分）
6	〃	スポーツ現場でのバイオメカニクスや物理・数学の活用②	授業内容の復習（60分）
7	〃	テスト①	試験内容の予習（60分）
8	〃	テスト①の振り返り、前半まとめ	テスト内容の復習（60分）
9	宮崎　輝光	動作分析に必要な知識や技術	授業内容の復習（60分）
10	〃	ベクトルとスカラー	テスト範囲の復習（60分）
11	〃	ベクトルの活用：2次元の関節角度の算出	授業内容の復習（60分）
12	〃	並進運動の力学：運動方程式など	授業内容の復習（60分）
13	〃	並進運動の力学：運動方程式など	授業内容の復習（60分）
14	〃	並進運動の力学：運動方程式など	授業内容の復習（60分）
15	〃	並進運動の力学，加速度や速度の導出	授業内容の復習（60分）
16	〃	テスト②	テスト範囲の復習（60分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合演習Ａ (113A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (総合科目)
担当教員名	栗山　靖弘・小森　大輔・日下　知明・成田　健造・村川 大輔・菊地原　守			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1	受け入れ人数	120名
授業の概要	「総合演習A」では、大学で学ぶために必要なスキルと教養を身につけることを目指す。大学での学修には、「読む・調べる・聴く・書く・話す」ことの総合的な活用が必要になる。そのための基盤を形成し、大学での学びにスムーズに接続できるようにすることを目指した授業を行う。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理 （キャリアデザイン力、課題解決力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	大学で必要とされるスキルや教養を身につけている。	○		○				30
	■情意的領域	他者の意見に耳を傾けて、コミュニケーションをとることができる。	○			○			30
	■技能的領域	情報を正確な読み取りや解釈、自分の意見の表現ができる。	○		○				40

成績評価の基準	授業での提出物、レポート、プレゼンテーションおよび話し合い等への参加を総合的に判断して評価する。
テキスト、教材 参　考　書	筒井美紀(2014)『大学選びより100倍大切なこと』ジャパンマニシスト社 →担当者が一部を抜粋して配布する。
履修条件・ 関連科目	関連科目：キャリアデザインⅠ
備考(教員メッセージ含む)	大学では、自分に必要な科目を履修し、単位を習得していくことになる。また、個々の授業では１つの「正解」を見つけたり、答えや公式を「暗記」するのではなく、自分なりのものの見方や考え方を形成することが重要である。大学のこのような特性に鑑み、本科目が設定されている。受け身ではなく、積極的な参加を期待する。
オフィス・アワー	栗山：随時。事前にメールでアポをとること。 小森：随時。事前にメールでアポをとること。 成田：随時。事前にメールでアポをとること。 日下：随時。事前にメールでアポをとること。

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	栗山　靖弘 小森　大輔 日下　知明 成田　健造	オリエンテーション：人に何かを伝えるために	★指定されたテキスト（本）の購入が必要となります。
2	〃	読む・聴く・わかる(テキスト第２章)	テキストの予習・復習(30分)
3	〃	自力で問いを立て、自力で答えを出す(テキスト第1章)	テキストの予習・復習(30分)
4	〃	「好きなことなら続けられる」のか？(テキスト第3章)	テキストの予習・復習(30分)
5	〃	学ぶために必要な技術(テキスト第４章)	テキストの予習・復習(30分)
6	〃	大学でのリテラシー(テキスト第５章)	テキストの予習・復習(30分)
7	〃	大学での学び①	授業資料および内容の復習(30分)
8	〃	大学での学び②	授業資料および内容の復習(30分)
9	〃	時事・社会問題①	授業資料および内容の復習(30分)
10	〃	時事・社会問題②	授業資料および内容の復習(30分)
11	〃	時事・社会問題③	授業資料および内容の復習(30分)
12	〃	時事・社会問題④	授業資料および内容の復習(30分)
13	〃	プレゼンテーション①発表テーマの設定	授業資料および内容の復習(30分)
14	〃	プレゼンテーション②準備	プレゼンテーションの準備(60分)
15	〃	プレゼンテーション③全体での発表	授業全体の復習(60分)

授業科目名 (ナンバリングコード)	情報処理A (113A0-2202)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (総合科目)
担当教員名	和田　智仁・今泉　拓			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	130

授業の概要

コンピュータとネットワークは現代社会に広く浸透し利用されている．学生生活においても情報の収集やレポート作成，各種手続きなどコンピュータとネットワークの利用は欠かせない．また，デジタル革新が進む中で，数理・データサイエンス・AIへの関心を高めつつ，これらを適切に理解し活用する基礎的な能力が重要となる．

本授業では，個人または情報処理演習室のパソコンを使用した演習を通じ，コンピュータとネットワークに関する基本的な知識と利用方法，およびデータサイエンスの基礎を学ぶことを目的とする．また，情報倫理や大学の情報セキュリティポリシーについて理解し，それらに沿って行動できるようになることを目標とする．

本授業により，新入生が大学生活を送るうえで身につけておきたい情報技術と，それに関連する知識を習得できる．

【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり
グループワーク（△）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）

授業の到達目標及び成績評価の方法

	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理 （科学的表現力，専門的な知識・教養）	授業期間 授業	テスト	レポート	発表	定期試験	その他	割合 %
	■認知的領域	コンピュータとインターネットの基本的な仕組みと特性について理解する． データサイエンス・AIの活用領域を知り，活用のための技術を理解する．	○	○	○		○		40
	■情意的領域	情報通信技術の活用に関心を持ち，主体的に情報を収集し，利用できる． 情報セキュリティ保全に関して積極的に参加できる．	○		○				15
	■技能的領域	目的に応じてオフィスソフトウェア等のアプリケーションを利用できる． 各種データの分析を行い，結果を適切に表現できる． 情報セキュリティに配慮し機器やシステムを利用できる．	○	○	○		○		45

成績評価の基準	授業の際に提示される課題の実施状況(50%)，技能試験・期末試験(50%)によって評価を行う． なお，本授業では10 分間で日本語の文章300 文字以上を入力できるタイプ能力の習得を必須とする．
テキスト、教材 参　考　書	授業は教科書に沿って実施しますので必ず準備してください．なお『AI入門』『情報処理B』でも同じ教科書を使用します． 保本正芳，『基礎からはじめるデータサイエンス』，noa出版, 2022, @2,200円.
履修条件・関連科目	ノートパソコンと教科書が必要です．これらを必ず準備してください． 備考(教員メッセージ含む)：クラス分けについては事前に掲示します．定員の関係上，2年生以上については希望に添えない場合があります．
オフィス・アワー	和田：メール等で確認してください 今泉：メール等で確認してください

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	和田　智仁 今泉　拓	授業ガイダンス，アカウントとパスワード	[授業前]パソコンの初期セットアップ（1時間） [授業後]情報処理演習室，パソコン，WebClassの利用方法復習（1時間）
2	〃	機器の設定，クラウドサービスの利用と多要素認証	[授業前]多要素認証に関するビデオ視聴．クラウドサービスの調査(1時間) [授業後]クラウドサービスの設定と利用を行う(1.5時間)
3	〃	社会で起きている変化・コンピュータ基礎(1)	[授業前]教科書Section 1の予習（1時間） [授業後]タイピング練習（1時間）
4	〃	データ活用を知る・社会で活用されているデータ	[授業前]教科書Section 2の予習（1時間） [授業後]スポーツ分野におけるデータ活用事例やアプリの調査を行う（1時間）
5	〃	データ活用を知る・社会で活用されているデータ～ファイル操作～	[授業前]アプリの準備，教科書Section 2の予習（1時間） [授業後]授業内容の復習（1時間）
6	〃	データ分析の基礎I・データの活用領域 ～表計算の基礎～	[授業前]教科書Section 3 Step2 Lesson1の予習（1時間） [授業後]授業内容の復習（1時間）
7	〃	データ分析の基礎II・データ活用のための技術 ～データベース活用～	[授業前]教科書Section 3 Step2 Lesson2,3の予習（1時間） [授業後]授業内容の復習（1時間）
8	〃	データ分析の基礎III・データを守るうえでの留意事項 ～グラフ～	[授業前]教科書Section 3 Step2 Lesson4の予習（1時間） [授業後]授業内容の復習（1時間）
9	〃	インターネットとメール（データ・AI活用における留意事項）	[授業前]指示された資料・ビデオの確認（1時間） [授業後]復習，メールの作法確認（1時間）

10	〃	アカデミックライティング ～文書作成ソフト導入～	[授業前]授業スライドによる予習（1時間） [授業後]授業内容の復習・レポート作成（1時間）
11	〃	アカデミックライティングII ～レポートをまとめる～	[授業前]授業資料を使ったの予習（1時間） [授業後]課題作成（1時間）
12	〃	顧客分析体験	[授業前]教科書Section 3 Step1の予習（1時間） [授業後]レポート作成（1時間）
13	〃	データを表現する・プレゼンテーション基礎I	[授業前]教科書Section 5 Lesson 1,2の予習（1時間） [授業後]課題作成（1時間）
14	〃	コンディション記録とタブレットの活用・データ・AI活用の現場	[授業前]スポーツ分野におけるクラウドサービスやアプリの調査を行う（1時間） [授業後]タブレット用アプリを自身の競技活動に活用する方法を検討しレポートにまとめる（2時間）
15	〃	総合演習（ワープロ・表計算連携，クラウド活用，データを守る上での留意事項）	[授業前]これまでの内容を全体的に復習する（1時間） [授業後]課題に取り組む（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	情報処理Ｂ (113A0-2203)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (総合科目)
担当教員名	和田　智仁・今泉　拓			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	130

授業の概要

『情報処理A』で習得した知識・技能を発展させ，より実践的な情報処理能力と情報活用能力を習得し，数理・データサイエンス・AIへの関心を高めるとともに，これらを適切に活用する能力を高めることを目標とする．
授業では卒業研究に着手することを念頭に，資料の収集，統計処理の基礎やデータ解析のための計算技術，クラウドサービスの活用，タブレット活用，レポートや論文作成のための文書作成技術などについて解説するとともに，機器を使った演習を行う．特にデータ分析に関しては，実際のデータを用いた演習行う．
本授業により，大学における学習・研究活動に必要となる技能を習得できるとともに，社会での活動に役立つ情報処理・情報活用能力を習得できる．

【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり
グループワーク（△）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理、科学的表現力 （科学的支援力，専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	論文・レポートの目的や作成手法を理解し，説明できる． 研究資料の収集，整理方法について理解する． コンピュータを使った演算方法を理解する． クラウドサービスの特性や利用法を理解する．	○	○	○		○		50
	■情意的領域	探求心を持って情報の収集と整理に取り組む． 論理的思考を養い，課題解決に応用できる．	○						10
	■技能的領域	データを計算，表示し，分析する能力を持つ． オフィスソフトウェアの応用的な活用が可能になる． レポートなどの長文を構成・作成するための技術を持つ． クラウドサービスを利用できる．	○		○				40

成績評価の基準	レポート(70%)と期末テスト(30%)の評価により情報活用能力を総合的に判断し，評価する．		
テキスト、教材 参　考　書	保本正芳，基礎からはじめるデータサイエンス，noa出版．		
履修条件・ 関連科目	情報処理A を履修しておくこと	備考(教員メッセージ含む)	パソコンと教科書を必ず持参してください
オフィス・アワー	和田：随時（メールで予約してください） 今泉：随時（メールで予約してください）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	和田　智仁 今泉　拓	オリエンテーション（授業の進め方，クラウドサービスの設定と利用）． データ分析復習（Section 3「顧客分析」）	[授業前]教科書Section 3「顧客分析」を確認する（1時間） [授業後]クラウドサービスの手順確認，顧客分析に用いた技術の復習（1時間）
2	〃	グラフの表現（教科書38～48ページ）	[授業前]教科書Section 2 STEP2「データ活用のプロセス」予習（1時間） [授業後]授業内容の復習と演習課題の実施（1時間）
3	〃	散布図・相関係数，回帰分析	[授業前]教科書Section 3 Lesson2「天気と売上の関係...」予習（1時間） [授業後]授業内容の復習と演習課題の実施（1時間）
4	〃	標本調査，標準偏差と正規分布	[授業前]教科書Section 3 Lesson3「統計的思考で...」予習（1時間） [授業後]授業内容の復習と演習課題の実施（1時間）
5	〃	質問調査の分析 ～スポーツ庁世論調査から～ ピボットテーブルの利用	[授業前]スポーツ庁の調査結果の確認（1時間） [授業後]課題に取り組む（1時間）
6	〃	質問調査の分析II ～スポーツ庁世論調査から～ ピボットテーブルの結果から適切なグラフを作る	[授業前]ピボットテーブルを使った分析手法の復習（1時間） [授業後]課題に取り組む（1時間）
7	〃	アカデミックライティングⅠ	[授業前]授業資料を使い予習を行う（1時間） [授業後]課題に取り組む（1時間）
8	〃	アカデミックライティングⅡ	[授業前]体育学研究の論文を探し書式を確認する．また投稿規定を確認する（1時間） [授業後]実際の論文を確認しながら授業内容を復習する（1時間）

9	〃	時系列データ分析I	[授業前]モーションキャプチャーシステムについて授業スライドに基づいて調査する（1時間） [授業後]課題に取り組む（1時間）
10	〃	時系列データ分析II	[授業前]資料に基づき位置情報からの速度・加速度の算出方法を確認する（1時間） [授業後]課題に取り組む（1時間）
11	〃	時系列データ分析III	[授業前]資料に基づき位置情報からの角度・各速度の算出方法を確認する（1時間） [授業後]課題に取り組む（2時間）
12	〃	スポーツとICT（AIの活用）	[授業前]競技スポーツにおけるICT・AIの活用状況を調査する（1時間） [授業後]ICT・AIについて自身の競技で利用できることを実践する（1時間）
13	〃	成績データ処理（順位付け，偏差値の算出，個票の印刷)	[授業前]教科書98～99ページの確認，スライドの確認（1時間） [授業後]課題に取り組む（2時間）
14	〃	プログラミングの基礎	[授業前] VBAとは何か．調査や試行を行う（2時間） [授業後] 課題に取り組む(2時間)
15	〃	総合演習	[授業前]これまでの授業内容を振り返り，学修内容を整理する（1時間） [授業後]試験対策を行う（1時間）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	情報処理C (113B0-2200)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (総合科目)
担当教員名	和田　智仁・今泉　拓			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3	受け入れ人数	20

授業の概要

本授業では，スポーツ科学研究におけるデータ処理を念頭に，プログラミングの基本とプログラミングによるデータ処理技術を取得することを目標とする．
プログラミング環境としてはMATLABを使用する．また後半の演習では，モーションキャプチャー，フォースプレート，各種センサー等で各自が取得したデータを題材とした実践的な分析を試みる．
また，画像解析領域での活用が進むAIを中心に，AIの活用領域，最新動向などを学ぶ．

【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり
グループワーク（×）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）

授業の到達目標及び成績評価の方法

	授業の到達目標	成績評価の方法						
		授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	授業	テスト	レポート	発表			
■認知的領域	情報のデジタル化手法を理解する． 記述されたプログラムを読み，理解できる． データの適切な表現方法を知る．	○		○	○			30
■情意的領域	プログラミングに取り組むことができる． 問題解決を目指しあらゆる方法に取り組むことができる．	○		○	○			30
■技能的領域	基礎的なプログラミングが可能となる． スポーツ科学データをコンピュータで取り扱うことができる． 自分の課題にコンピュータを活用できる．	○	○	○	○			40
一般教養・倫理、科学的支援力、専門的な知識・教養 （科学的支援力，専門的な知識・教養）								

成績評価の基準	□授業への取り組み状況（30%） □レポート等の提出状況（70%）を総合的に評価する。
テキスト、教材 参　考　書	資料などは授業前にWebClassを通じて提供する．
履修条件・ 関連科目	プログラミングに興味を持ち，意欲的に取り組むことができる者 情報処理A,情報処理B，AI入門を受講していることが望ましいが，未受講でも構わない
備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	和田：メールで予約してください 今泉：メールで予約してください

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	和田　智仁 今泉　拓	オリエンテーション（プログラミング言語）	[授業前](1時間)Matlabについて調査 [授業後](1時間)プログラミング環境の構築と試用
2	〃	情報のデジタル化I(数値の符号化)	[授業前](1時間)数値の符号化手法について調査する [授業後](1時間)授業内容の復習
3	〃	情報のデジタル化I(標本化と量子化)	[授業前](1時間)授業資料に基づく予習 [授業後](1時間)授業内容の復習
4	〃	データの取り込みとプロットI	[授業前](1時間)授業資料に基づく予習 [授業後](1時間)授業内容の復習
5	〃	データの取り込みとプロットII（配列の取り扱い）	[授業前](1時間)授業資料に基づく予習 [授業後](1時間)授業内容の復習
6	〃	MatlabプログラミングI（基本構文）	[授業前](1時間)Onlineコースを使ったプログラミング演習 [授業後](1時間)Onlineコースを使ったプログラミング演習
7	〃	MatlabプログラミングII（関数）	[授業前](1時間)Onlineコースを使ったプログラミング演習 [授業後](1時間)Onlineコースを使ったプログラミング演習
8	〃	プログラム設計・フローチャート	[授業前](1時間)Onlineコースを使ったプログラミング演習 [授業後](1時間)Onlineコースを使ったプログラミング演習
9	〃	データ構造（配列，テーブル，セル配列）	[授業前](1時間)授業資料に基づく予習 [授業後](1時間)授業内容の復習
10	〃	テーブル変数への関数の適用	[授業前](1時間)『基礎からはじめるMATLABデータ解析入門』を視聴する [授業後](1時間)授業内容の復習
11	〃	データの可視化	[授業前](1時間)MATLABを用いた可視化の手法について調査する [授業後](1時間)データの可視化を実践する（レポート）
12	〃	画像解析とAI	[授業前](1時間)授業資料を使った予習 [授業後](1時間)AIを使った画像認識デモプログラムを実施する
13	〃	スポーツデータ処理演習I	[授業前](1時間)演習用データの収集 [授業後](1時間)データ処理
14	〃	スポーツデータ処理演習II	[授業前](1時間)データ処理 [授業後](1時間)発表準備
15	〃	データ処理結果発表会	[授業前](1時間)発表準備 [授業後](1時間)最終レポート作成

授業科目名 (ナンバリングコード)	ＡＩ入門 (113A0-2306)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (総合科目)
担当教員名	和田　智仁・今泉　拓			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	1	受け入れ人数	100
授業の概要	AIは，現代社会においてその活用範囲を急速に広げ身近なものとなりつつある．今後社会で活躍していくには，このAIの基礎やその活用方法に関する知識は欠かせない．本授業では，初学者を対象として，AIの変遷や種々の手法などの基礎を学ぶことを目的とする．また，AIの実社会，特にスポーツ・武道分野での活用事例を通して，自らの専門分野でのAIの応用方法を習得することを目標とする． 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理 （一般教養：科学的支援力・専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	AIの基本的な概念や種類について理解する．	○	○	○				30
	■情意的領域	AI技術に関心を持ち，主体的に情報収集し，利用できる．	○	○	○				40
	■技能的領域	既存のAIを目的に応じて利用できる． 既存のAIを自身の専門分野に対し活用できる．	○	○	○				40

成績評価の基準	授業の際に課される課題(30%)及び試験(70%)によって評価を行う．		
テキスト、教材 参　考　書	『はじめの第一歩　基礎からはじめるデータサイエンス』保本正芳著，noa出版		
履修条件・ 関連科目	人数が60名未満の場合は情報処理演習室で実施します． 60名を超える場合は教室で開催します．この場合は，各自毎回パソコンを持参してください．	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	和田：メール等で確認ください 今泉：メール等で確認ください		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	和田　智仁 今泉　拓	オリエンテーション（AIについて）	[授業前](1時間) 教科書Section1の内容を確認する [授業後](1時間) 教科書Section1の内容を再確認する
2	〃	生成AIの利用	[授業前]（1時間）生成AIを使ってみる [授業後]（1時間）授業内容の復習
3	〃	AIと倫理	[授業前]（1時間）授業資料を使った予習．「本学における生成AIの利用について」を読む [授業後]（1時間）授業内容の復習
4	〃	回帰分析	[授業前]（1時間）教科書 Section 3 Lesson 10の予習 [授業後]（1時間）授業内容の復習
5	〃	AIの基礎（種々のAIを知る）	[授業前]（1時間）AIと分類される種々の手法を調査 [授業後]（1時間）授業内容の復習
6	〃	スポーツ・武道分野等で活用されるAI その1	[授業前]（1時間）スポーツ・武道分野で活用されるAIを調査 [授業後]（1時間）授業内容の復習
7	〃	スポーツ・武道分野等で活用されるAI その2	[授業前]（1時間）授業資料を使った予習 [授業後]（1時間）授業内容の復習
8	〃	まとめ・試験	[授業前]（1時間）総復習 [授業後]（1時間）試験の振り返り

授業科目名 (ナンバリングコード)	プレゼンテーション・討論Ⅰ (113A0-2304)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (総合科目)
担当教員名	脇谷　聖美			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2 年次	受け入れ人数	50名程度
授業の概要	本授業は，自分の専門性や魅力など伝えたいことを相手の立場に立って自分の言葉で表現できるプレゼンテーションに関する基礎理論の理解および基本スキルを培うことを目的としている．具体的には，指導や支援の場面で活かせる傾聴および相手の情況を聴き出すインタビュー・スキル，考えや専門性を伝える場面で活かせる相手を惹き付けながら理解・合意・行動へと導くプレゼンテーション・スキルなど，相互理解と円滑なコミュニケーションの力が身につく．テキストの事前精読を踏まえて，基礎理論と基本スキルは対話型講義と演習で理解し，演習は相互フィードバックをおこない自己課題を認知する．さらに，グループワークやグループディスカッションを通して，受講者間の相互理解と創造的かつ発展的な結論を出す議論の基礎力が身につくことも期待している．授業は集中授業で，２日間実施する． 【授業に含まれる活動】○（実施あり）、×（実施なし）、△（授業の進捗状況等、場合によっては実施あり） グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・相手の情況を的確に把握するためのインタビューに関する理論を理解している． ・自分の考えを的確に相手に伝えるプレゼンテーションのシナリオを理論に基づいて作成できる．	○		○				30
	■情意的領域	プレゼンテーションや討論について興味・関心を持ち，それを積極的かつ受講生同士で協力して探求する．	○			○			20
	■技能的領域	・相手の情況を効果的に把握するインタビューができる． ・相手の立場に立って，自分の魅力や考えをプレゼンテーションできる． ・討論等で，その課題を達成できる．	○			○			50

成績評価の基準	授業の取り組みは，積極的な授業参加の状況，各演習（発表）と課題レポート等は課題に対する真摯な取り組み及び出来具合について，総合的に評価し，単位認定をおこなう．
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：書籍『パーフェクト・プレゼンテーション』 ＊必携，＊授業実施日までに事前購読（学内売店），＊事前精読を前提に授業をおこなう （八幡紘芦史著、アクセス・ビジネス・コンサルティング株式会社発行、本体価格@3000円） 参考資料等は，授業時に適宜配布する． 参考図書：書籍『自分の考えをしっかり伝える技術』（八幡紘芦史著、ＰＨＰ研究所発刊、本体価格@1200円） 書籍『話ベタでも100%伝わる「3」の法則』（八幡紘芦史著、ダイヤモンド社発刊、本体価格@1400円）

履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	選択科目であるが，コミュニケーション力を効果的に方向付けるので履修することが望まれる また，テキスト精読前提で演習中心の授業をおこなうので，必ずテキストを準備し、精読をしておくこと．
オフィス・アワー	教務課・教育支援係へ相談下さい．適宜，担当教員との連絡調整をします（月～金，9:00～17:00）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	脇谷　聖美	オリエンテーション，プレゼンテーション演習，課題抽出と解決目標の設定	テキスト第1～5章の事前精読（合計10時間）
2	〃	相手の情況を聴く，インタビュー演習，プレゼンテーション演習	〃
3	〃	伝わる基本構造，プレゼンテーション演習	〃
4	〃	相手の興味を惹く話の組み立て方，プレゼンテーション演習	課題レポートの取り組み（30分）
5	〃	稔りある議論の仕方，グループディスカッション演習	〃
6	〃	グループディスカッション演習，プレゼンテーション演習	〃
7	〃	プレゼンテーション演習	〃
8	〃	受講成果プレゼンテーション，相互評価，授業の振返り	テキスト再精読，日常での実践

授業科目名 (ナンバリングコード)	プレゼンテーション・討論Ⅱ (113A0-2305)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (総合科目)
担当教員名	脇谷　聖美			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	3 年次	受け入れ人数	30人程度
授業の概要	本授業は，自分の専門性や魅力など伝えたいことを相手の立場に立って自分の言葉で表現し伝わるプレゼンテーション，ならびに参画型の活発な議論に関する基本理論を踏まえた実践的なスキルを培うことを目的としている．具体的には，仕事，就職試験，社会活動，研究・学会発表などに双方向のコミュニケーションが求められる中で，①自分の意見を分かりやすく伝える力，②相手の意見を丁寧に聴く力，③意見の違いや相手の立場を理解する力，④自分と他者や物事・環境との関係性を理解する力，⑤新しい価値を生視出す力，⑥現状を分析し目的や課題を明らかにする力，⑦ルールや約束を守る力，などが身につく.指定テキストの事前精読および「プレゼンテーション・討論Ⅰ」の受講を踏まえて，授業では演習中心で実施し，相互フィードバックで自己課題を認識し，繰り返し演習で実践的スキルを身につける．また，プレゼンテーション演習ではパワーポイントで視覚資料の作成と活用を実習する．授業は集中授業で，２日間実施する． 【授業に含まれる活動】○（実施あり）、×（実施なし）、△（授業の進捗状況等、場合によっては実施あり） ・グループワーク（○）、・ディスカッション・討論（○）、・プレゼンテーション・発表（○）、・フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理 （一般教養・倫理，コミュニケーション力，科学的表現力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・自分の考えを的確に相手に伝えるプレゼンテーションのシナリオを理論に基づいて作成できる． ・プレゼンテーションや討論について分析・評価できる．	○		○				30
	■情意的領域	プレゼンテーションや討論について興味・関心を持ち，それを積極的かつ受講生同士で協力して探求する．	○			○			20
	■技能的領域	・双方向のコミュニケーションの中で，自分の魅力や考えを効果的にプレゼンテーションできる． ・討論等を行って，その課題を達成できる．	○			○			50

成績評価の基準	授業の取り組みは，積極的な授業参加の状況，各演習と課題レポート等は課題に対する真摯な取り組み及び出来具合について，総合的に評価し，単位認定をおこなう．
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：書籍『パーフェクト・プレゼンテーション』 ＊必携，＊授業実施日までに事前購読（学内売店），＊事前精読を前提に授業をおこなう （八幡紘芦史著、アクセス・ビジネス・コンサルティング株式会社発行、本体価格@3000円） 参考資料等は，授業時に適宜配布する． 参考図書：書籍『自分の考えをしっかり伝える技術』（八幡紘芦史著、ＰＨＰ研究所発刊、本体価格@1200円） 書籍『話ベタでも100%伝わる「３」の法則』（八幡紘芦史著、ダイヤモンド社発刊、本体価格@1400円）

履修条件・ 関連科目	「プレゼンテーション・討論Ⅰ」を履修していることが望ましい．	備考(教員メッセージ含む)	選択科目であるが，卒論研究発表や就職活動の面接等を効果的に方向付けるので履修することが望まれる また，テキスト精読前提で演習中心の授業をおこなうので，必ずテキストを準備し、精読をしておくこと
オフィス・アワー	教務課・教育支援係へ相談下さい．適宜，担当教員との連絡調整をします（月～金，9:00～17:00）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	脇谷　聖美	オリエンテーション，理解度テスト，プレゼンテーション演習，課題の抽出	テキスト第1～9章の事前精読（合計15時間）
2	〃	伝わる構造と話しの組み立て方，プレゼンテーション演習	〃
3	〃	グループディスカッション演習，参画型の活発な討論の仕方	〃
4	〃	グループディスカッション演習，効果的な伝え方と視覚資料（スライド）活用	課題レポートの取り組み（30分）
5	〃	プレゼンテーション演習，プレゼンテーションの伝わる戦略立案と添削	〃
6	〃	シナリオの作成と添削，視覚資料（スライド）の作成と添削	〃
7	〃	プレゼンテーション演習（リハーサル）	〃
8	〃	受講成果プレゼンテーション，相互評価，成果獲得確認試験、授業の振返り	テキスト再精読，日常での実践

キャリア形成科目

授業科目名 (ナンバリングコード)	キャリアデザインⅠ	授業形態	講義・演習	授業科目区分	キャリア形成科目 (ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ科目)
担当教員名	中村　勇・キャリア形成支援センター			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1	受け入れ人数	小クラス12人程度
授業の概要	本授業では、新入生が本学で学生生活を送る上で必要不可欠な情報や知識（認知）、スキル（技能）、マナー（態度）の修得を目指すとともに、各自の将来をみすえたキャリアプランを構想するための基礎的な考え方や態度を身につけることを目的としている。具体的には大学生活等の情報収拾、授業レポートの作成、各課題の作成や発表を行う。本授業を通して、一年次に最低限必要な情報や知識が獲得できるとともに、自己分析力や自己表現力の基礎が構築されることを期待している。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、キャリアデザイン力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	本学の教育方針について理解できる 本学での学び方について理解し活用できる	○		○	○			45
	■情意的領域	自分自身や他学生の大学生活について興味関心を持ち、積極的にコミュニケーションを図ること、仲間と協力して情報を探求することができる	○		○	○			30
	■技能的領域	レポート作成やプレゼンテーションの基礎的な技能を学び、表現することができる	○		○	○			25

成績評価の基準	授業参加、レポート、プレゼンテーション、授業ノートについて評価し、6割以上を合格とします。原則として1／3以上の欠席がないこと。
テキスト、教材 参　考　書	テキスト・教材は授業時やWebClass等で配付します

履修条件・関連科目	1年次、前期に履修すること	備考(教員メッセージ含む)	●本授業は学内外から様々な講師を招いたスタイルのためスケジュールが前後する場合がありますので、授業時の案内、メール、WebClass上で周知します ●授業は全体で行う場合、小クラス単位で行う場合、オンライン方式で行う場合があります。スケジュール表や通知をよく確認してください。

オフィス・アワー	キャリア支援係：月～金　9時～17時 中村勇：木曜日　12時ー13時（会議等で変更あり） 小クラス担当教員の時間はそれぞれ確認すること

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中村　勇 キャリア形成支援センター	オリエンテーション	授業資料を復習し次回の予習を行う（最低30分）
2	〃	プレゼンテーション力を磨く（1）	授業資料を復習し次回の予習を行う（最低30分）
3	〃	健康的なキャンパスライフを送る（1）	授業資料を復習し次回の予習を行う（最低30分
4	〃	健康的なキャンパスライフを送る（2）	授業資料を復習し次回の予習を行う（最低30分）
5	〃	プレゼンテーション力を磨く（2）	授業資料を復習し次回の予習を行う（最低30分）
6	〃	自分の強みを知る（1）	次週の原稿を準備する（最低30分）
7	〃	自分史を振り返る（1）	プレゼンの準備を行う（最低30分）
8	〃	自分史を振り返る（2）	プレゼンの準備を行う（最低30分）
9	〃	キャリアデザインを始める（1）	授業資料を復習し次回の予習を行う（最低30分）
10	〃	キャリアデザインを始める（2）	授業資料を復習し次回の予習を行う（最低30分）
11	〃	キャリアデザインを始める（3）	授業資料を復習し次回の予習を行う（最低30分）
12	〃	自分の強みを知る（2）	授業資料を復習し次回の予習を行う（最低30分）
13	〃	自分の強みを知る（3）	プレゼンの準備を行う（一時間程度）
14	〃	キャンパスライフを考える	プレゼンの準備を行う（最低30分）
15	〃	まとめと振り返り	前期の生活を振り返り課題に取り組む（一時間程度）

授業科目名 (ナンバリングコード)	キャリアデザインⅡ (121A0-3300)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	キャリア形成科目 (ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ科目)
担当教員名	キャリア形成支援センター・金高　宏文			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	180名
授業の概要	本授業では，キャリア形成に関わる基礎的・汎用的能力の段階的修得を目指す．同時に，キャリアを考える上で一つの柱となる体育・スポーツにおける「専門性」（大学で何を学び，身につけるか）を考えるために，体育・スポーツにおける専門分野の知識や技能（ゼミナール情報を含む）を理解する．そして，その専門性がどのように実社会や職業で生かされていくのかについて考え，選択する力が身につくことを期待している． 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	キャリアデザイン力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・体育・スポーツの専門領域（学問・研究体系）について理解し，自分自身の研究の志向性を表現することができる． ・自分自身の強みを表現できる．	○		○				60
	■情意的領域	・情報提供者について興味・関心を持ち，テーマについて積極的に探求できる． ・キャリア形成について必要な情報を積極的にかつ協力的に収集できる．	○						20
	■技能的領域	・演習等で円滑なコミュニケーションを行うことができる． ・演習等で自分自身の考えを整理し，表現できる．	○						20

成績評価の基準	授業の取組みは，授業への積極的な準備（宿題）や授業態度及び課題に対する真摯な取組み及び説明力～評価する（5点×8回＝40点）．課題レポート等については内容の妥当性を評価し，単位認定を行う．		
テキスト、教材 参　考　書	PCを持参すること．授業で必要な資料は，「WebClass」よりダウンロードすること． 参考図書は，授業時に推薦する．		
履修条件・ 関連科目	１年次であること（２年次以上の履修は原則認めない）．	備考(教員メッセージ含む)	選択科目であるが、ゼミや職業の選択を効果的に方向づける内容であるため履修することが望まれる。
オフィス・アワー	授業世話人：金高（大学院棟3階・4教員研究室）木曜日　15:00-16:00		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	キャリア形成支援センター 金高　宏文	オリエンテーション、体育・スポーツにおける「専門性」と職業選択との関わり（先輩の講話）	WebClassにより復習と宿題（30分以上）
2	〃	体育・スポーツの専門領域等を知る①（体育科教育学、体育心理学） 将来の職業を考えるために･･･自己・他己分析から、自分の強み・弱みを考える	WebClassにより復習と宿題（30分以上）
3	〃	体育・スポーツの専門領域等を知る②（体育経営管理、体育方法） 将来の職業を得るために･･･自分をアピールする（履歴書等の作成）のポイント	WebClassにより復習と宿題（30分以上）
4	〃	体育・スポーツの専門領域等を知る③（運動生理学、バイオメカニクス） 将来の職業を得るために･･･大学４年間で達成すべき課題を考える①	WebClassにより復習と宿題（30分以上） レポート課題１（30点）の提出 （15分以上）
5	〃	体育・スポーツの専門領域等を知る④（測定評価、発育発達、体育社会学） 将来の職業を得るために･･･大学４年間で達成すべき課題を考える②	WebClassにより復習と宿題（30分以上）
6	〃	体育・スポーツの専門領域等を知る⑤（介護福祉・健康づくり、保健、アダプテッド・スポーツ科学、体育哲学、体育史、スポーツ人類学） 将来のキャリア等を考えるために･･･資格取得を考える	WebClassにより復習と宿題（30分以上）
7	〃	体育・スポーツの専門領域等を知る⑥（補足） 将来のキャリア等を考えるために･･･インターンシップ等を考える	WebClassにより復習と宿題（30分以上）
8	〃	将来のキャリア等を考えるために･･･専門領域やゼミナールの選択を考える 学習の振り返り	レポート課題２（30点）の提出（15分以上）

授業科目名 (ナンバリングコード)	キャリアデザインⅢ (121A0-3301)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	キャリア形成科目 (ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ科目)
担当教員名	キャリア形成支援センター・金高　宏文・国重　徹・中村　勇			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	120名
授業の概要	本授業では、キャリアデザインⅠ・Ⅱで修得した基礎的な自己分析力，自己表現力を活かし，キャリア形成に関する情報（知識）やスキル（技能），マナー（態度）の段階的修得を目指すとともに，他者理解を促す考え方や態度を身につけることを目的とする．具体的には，上級生や社会人とのインタビューワーク（交流）と受講生によるグループディスカッション（GD)により職業選択に関わる業界情報の収集，他者の立場に応じた自己表現力（ドキュメンテーションスキル・コミュニケーションスキル等）の育成を行う．本授業を通して，大学生活におけるキャリア形成に必要な知識やマナーが獲得できるとともに，他者の立場に適応した自己表現力が構築されることを期待している．授業は12ー2月で，8回開講する． 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、キャリアデザイン力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・就職活動を含めたキャリア形成の流れをインタビュー等により情報を収集し，理解する． ・職種と業界研究ができる．			○				50
	■情意的領域	・同級生，上級生，ＯＢ・ＯＧ，社会人のキャリアデザインについて興味・関心を持ち，積極的に探求できる． ・キャリア形成について必要な情報を積極的にかつ協力的に収集できる． ・各交流会に対し，積極的かつ協力的に参加することができる．	○						50
	■技能的領域	・定められた時間内でテーマに沿った話し合いを行うことができる． ・身近な他者の意見を聞き，状況を把握して自分の意見を言うことができる． ・考えたり，話し合った内容を集約し，要約や感想を書くことができる．	○						

成績評価の基準	授業の取組みは，授業への積極的な準備（宿題）や授業態度及び課題に対する真摯な取組み及び説明力について評価する（6点×7回＋8点）．課題レポート等（50点）については内容の妥当性を評価し，単位認定を行う．
テキスト、教材 参　考　書	PCを持参すること．授業で必要な資料は，「WebClass」よりダウンロードすること．

履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	選択科目であるが、職業の選択、就職活動を効果的に方向づける内容であるため履修することが望まれる
オフィス・アワー	授業世話人：金高（大学院棟・3階　4教員研究室）木曜日　15:00-16:00		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	金高　宏文 国重　徹 中村　勇	オリエンテーション GD仕事と社会について①：職種と業界・職場研究①(学外講師)	WebClassにより復習と宿題（30分以上）
2	〃	仕事と社会について②：職種と業界・職場研究②(学外講師）+GD	WebClassにより復習と宿題（30分以上）
3	〃	仕事と社会について③：職種と業界・職場研究③+GD	★レポート課題１（20点）提出 WebClassにより復と宿題（30分以上）
4	〃	多様な働き方、社会でのスポーツとの関わりを考える①：（OB・OG講話１）	WebClassにより復習と宿題（30分以上）
5	〃	多様な働き方、社会でのスポーツとの関わりを考える②（OB・OG・4年生講話２） ＋GD	WebClassにより復習と宿題（30分以上） ★レポート課題２（20点）提出
6	〃	ビジネスマナー演習：学外講師による着こなしチェック等	WebClassにより復習と宿題（30分以上）
7	〃	大学生の職業選択：4年生（15名程度）との交流会（インタビュー）	WebClassにより復習と復習（30分以上）
8	〃	授業の振り返りのグループディスカッションと授業評価	WebClassにより復習と宿題（30分以上） ★レポート課題３（10点）提出

授業科目名 (ナンバリングコード)	キャリアセミナー (121A0-3302)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	キャリア形成科目 (ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ科目)
担当教員名	キャリア形成支援センター・金高　宏文・国重　徹・隅野　美砂輝			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	80名程度
授業の概要	本授業では、制定された教育目標、カリキュラムポリシーに基づいた「キャリア形成に関わる基礎的・汎用的能力の段階的修得及び各自の進路（職業）選択に必要な情報やスキル、マナーの修得を目指すとともに、幅広い職業観が獲得できること」を目標としている。具体的には、進路選択に関する情報収集、履歴書・エントリーシートの作成・説明、採用活動動向や業界研究等に関する基礎知識の概説、基本的な面接対策（特に、プレゼンテーション）等を行う。本授業を通して、進路（職業）選択に必要な知識やマナーが獲得できるとともに、幅広い職業観を持って将来に向けて主体的に行動できることを期待している。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	キャリアデザイン力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・進路志望先について説明できる ・就職活動において必要な履歴書作成のポイントを理解し、自分自身の強みを効果的に説明できる。			○				50
	■情意的領域	・上級生やOB・OG、企業人等の職業選択や現在の職場状況について興味・関心を持ち、積極的に探求すること、情報を有効的に仲間と共有することができる。	○						32
	■技能的領域	・与えられた期間・時間内に、プレゼンテーションの準備や発表、グループディスカッションを積極的に行うことができる。 ・授業で実施した内容の要約や、感想を書くことができる。				○			18

成績評価の基準	授業の取組みは、授業への積極的な参加や授業内レポートの提出（4点/回×8回＝32点）、プレゼンテーション及び準備／振り返り（18点）、課題レポート等の提出（50点）に対する真摯な取組みについて総合的に評価し、単位認定を行う。
テキスト、教材 参　考　書	適宜必要な資料を配付する。毎回資料を配付するが、詳しい資料は「Web-Class」より授業後にダウンロードすること。参考図書は適宜紹介する。
履修条件・ 関連科目	関連科目：キャリアデザインⅢ、キャリア対策セミナー、キャリアコミュニケーション
備考(教員メッセージ含む)	選択科目であるが、職業選択や就職活動を効果的に方向づけるので是非とも履修してください。
オフィス・アワー	木曜日 昼休み及び12:40～13:00 国際交流センター２階　国重研究室

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	キャリア形成支援センター 国重　徹	・授業ガイダンス（職業志望コースの調査） ・履歴書（片面）・自己ＰＲ文・志望動機の書き方	WebClassによる復習（10分）、履歴書（片面）作成（60分）、自己PR文（1回目）の作成（60分）
2	〃	・自己PR文の発表・ブラッシュアップ ・ペアワーク and/or グループディスカッション：自己PR文の発表とブラッシュアップ	WebClassによる復習（20分）、自己PR文の修正（60分） 課題１：履歴書（片面）＋自己PR文（1回目）提出
3	〃	・業界・職種及び志望先研究の方法（外部講師もしくは4年生の話）	WebClassによる復習（20分）、志望先を研究しレポートを作成（30分） 課題２：自己PR文（2回目：修正したもの）を提出
4	〃	・業界・職種及び志望先について説明する ・ペアワーク and/or グループディスカッション：志望先の説明	WebClassによる復習（20分）、志望動機（１回目）を作成（60分） 課題３：志望先研究の提出
5	〃	・面接や発表等で大切なポイント：OB・OGによる講話、Ｑ＆Ａ ・ペアワーク and/or グループディスカッション：志望動機の発表とブラッシュアップ	WebClassによる復習（20分）、志望動機の修正、志望動機と自己PRの発表練習（40分） 課題４：志望動機（1回目）の提出
6	キャリア形成支援センター 金高　宏文 国重　徹 隅野　美砂輝	・発表①：ペア and/or グループで志望先、志望動機、自己PRを発表する。	WebClassによる復習（20分）、発表の練習（40分）
7	〃	・発表②：ペア and/or グループで志望先、志望動機、自己ＰＲを発表する。	WebClassによる復習（20分）
8	キャリア形成支援センター 国重　徹	・ペアワーク and/or グループディスカッション演習④ ・授業のまとめ：振り返りと授業評価	WebClassによる復習（20分） 課題５：志望動機（２回目：修正したもの）を提出

授業科目名 (ナンバリングコード)	キャリアコミュニケーション (121A0-3303)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	キャリア形成科目 (ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ科目)
担当教員名	野中　千尋			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	180名程度
授業の概要	社会で活動するためには、主体性・多様性・協働性が必要である。これらを念頭に、互いの違いを認め合いよりよい人間関係を築き活動するためのコミュニケーション力が求められている。そのため、本授業では講義と演習をとおして、学生から社会人・組織人に至るコミュニケーションの取り方・関わり方を具体的に学んでいく。これにより、「コミュニケーションの必要性とその表現についてわかった」から、「社会人としてのコミュニケーションがとれる」を目指し、インターンシップ・実習・就職活動・就職（社会人）・アスリート・進学・留学に向けて自信をもって臨むことを期待している。 【授業に含まれる活動】○…実施あり、×…実施なし、△…授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク(○)、ディスカッション・討論(△)、プレゼンテーション・発表(×)、フィールドワーク(×)				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	キャリアデザイン力 （（コミュニケーション力））	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・コミュニケーションの必要性と表現について理解できる。 ・理解したことを、具体的にレポートにできる。			○		○		70
	■情意的領域	・演習中、グループ内で協働性を大切にしながら意見交換をするなど積極的に取り組める。	○						10
	■技能的領域	・学内外の人と、非言語・言語のコミュニケーションをよりとれるようになる。	○		○				20

成績評価の基準	・各回の出席兼確認シートの提出・記入状況、②課題（レポート）の期限内提出・記入状況、③積極的な授業態度、④学期末試験の結果など以上4点を総合的に評価し６０点以上を単位認定とする。
テキスト、教材 参　考　書	・毎回、資料を配付する予定。（各自で、綴じ込み用ファイルを準備すること。）

履修条件・関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	・授業時間外に、レジュメを参考に復習や実践をすること。 ・課題提出については、事前にテーマ等を連絡する。
オフィス・アワー	質疑は、授業後若しくはWebClassメッセージにて受け付けます。　名前：野中　千尋		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	野中　千尋	授業ガイダンス（講義・演習の概要　心構え　成績評価等）・私たちに求められていること	-
2	〃	コミュニケーションの基本①　～声と言葉で関係を作る電話応対（様々なシーンより）	レジュメを参考に実践（30分）
3	〃	会いたくなる履歴書（履歴書作成におけるポイントの説明）	レポート１作成（3時間）
4	〃	社会人と学生との違い　　第一印象の影響	レポート１提出・レジュメを参考に復習（30分）
5	〃	コミュニケーションの基本②　～相手の心に寄り添う表情（様々なシーンより）	レジュメを参考に実践（30分）
6	〃	コミュニケーションの基本③　～心をつかむ身だしなみ（様々な業種より）	レジュメを参考に復習（30分）
7	〃	コミュニケーションの基本④　～心にせまる挨拶・お辞儀（様々なシーンより）	レジュメを参考に実践（30分）
8	〃	コミュニケーションの基本⑤　～思いが伝わる言葉づかい（様々なシーンより）	レジュメを参考に実践（30分）
9	〃	コミュニケーションの基本⑥　～相手に応える態度・姿勢（様々なシーンより）	レポート２作成・レジュメを参考に実践（30分）
10	〃	コミュニケーションの基本⑦　～形式・ルールを抑えたビジネス文章	レポート２提出・レジュメを参考に実践（30分）
11	〃	コミュニケーションの基本⑧　～互いを大切に名刺の受け渡し・お茶のいただき方	レジュメを参考に復習（30分）
12	〃	コミュニケーションの基本⑨　～次回につながる訪問の仕方	レジュメを参考に復習（30分）
13	〃	コミュニケーションの基本⑩　～信頼を深める報告・連絡・相談	レポート３作成・レジュメを参考に実践（30分）
14	〃	それぞれが拓くキャリアコミュニケーション	レポート３提出・レジュメを参考に実践（30分）
15	〃	コミュニケーションに活かすサービス・ホスピタリティー	レジュメを参考に実践（30分）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	企業実習 (121A0-6300)	授業形態	実習	授業科目区分	キャリア形成科目 (ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ科目)
担当教員名	キャリア形成支援センター			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2～3年次	受け入れ人数	30名
授業の概要	本実習では，自らの関心や将来の進路希望に応じて，企業，行政機関，非営利団体等の現場において就業体験を行うことによって，自己の職業適性やキャリアデザインにおける職業選択について深く考える契機となり，高い職業観や就業観の涵養や時代の変化に対応できる基礎的・汎用的能力が育成されることを期待している．実習は，原則として２年次が冬期・春期休業期間中，３年次では夏期・冬期・春期休業期間中に行うものとする．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、キャリアデザイン力、一般教養・倫理							
	■認知的領域	・訪問先の選択及び企業研究を行う（企業研究の作成）． ・就業体験を記述・説明する（実習日誌の作成）． ・就業体験を分析・評価する（所感文等の作成）．			○	○		○ (大学評価)	60
	■情意的領域	・事前の訪問先の選択，企業研究，実習準備を主体的，積極的に行うことができる． ・就業体験を主体的，積極的かつ協力的に取り組むことができる． ・実習後に就業体験について真摯に振り返ることができる．	○					○ (大学及び実習先評価)	20
	■技能的領域	・ビジネスマナー及び一般常識を身につける． ・社会人との円滑なコミュニケーションを行うことができる	○					○ (実習先評価)	20

成績評価の基準	設定された就業体験の日数に参加することを条件に，事前準備や企業研究等（30点），実習日誌（20点），事後報告や所感文等（20点）及び実習先の評価（30点）の各得点を合計し，60点以上のものを合格とする．
テキスト、教材 参　考　書	本学作成の「企業実習の手引き」等を配付． 参考図書は，授業時に推薦する．

履修条件・関連科目	2年次は30単位，3年次では60単位を取得していること． 2年次はキャリアデザインⅢを，3年次ではキャリアセミナー及びキャリア対策セミナーあるいはキャリアコミュニケーションを履修することが望ましい．	備考(教員メッセージ含む)	選択科目であるが，職業の選択，就職活動を効果的に方向づける内容であるため履修することが望まれる。 ○実務経験のある教員による授業科目：スポーツ関連企業等の職員が実習を担当
オフィス・アワー	教務課キャリア支援係へ相談ください．適宜，担当教員と連絡調整します（月～金，9:00～17:00）．		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	キャリア形成支援センター	オリエンテーション：企業等実習の意義・目的・内容	WebClassにより復習
2	〃	訪問先の選択及び企業等研究	企業等研究レポートの作成
3	〃	事前準備（履歴書の作成，挨拶状の作成，実習計画の作成：課題設定等）	事前準備の資料等作成
4	〃	企業等実習受け入れ先等からの講話とグループディスカッション	WebClassにより復習
5	〃	就業体験（1単位：1週間）	実習日誌の作成，挨拶状の作成
6	〃	就業体験の分析・評価および今後の展望	所感文の作成
7	〃	事後報告①（就業体験の発表会等）	発表資料の作成
8	〃	事後報告②（就業体験の発表会等）	WebClassにより復習

授業科目名 (ナンバリングコード)	キャリア対策セミナー（教員） (121A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	キャリア形成科目 (ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ科目)
担当教員名	中本　浩揮・松永　武人・栗山　靖弘・菊地原　守・福田　康博			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	100
授業の概要	この授業では,公立学校を中心とする教員採用試験の過去問題の傾向と対策を解説することにより,教員試験に合格するための勉強方法,受講生が勉強を進める上での基本的な知識や態度を身につけることを目標とする。具体的には,採用試験の模擬問題の正答率が60%以上に高まることを期待している。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	キャリアデザイン力、一般教養・倫理							
	■認知的領域	・受験希望する県や学校の採用条件や採用状況をﾚﾎﾟｰﾄする。 ・教員採用試験の過去問題の傾向を整理する。 ・採用試験の問題を解ける。		○					65
	■情意的領域	・教員志望の動機やその仕事の意味・意義について自分なりの答えを持てるようになる。 ・採用試験に向けた継続的な学習態度を身に付ける。	○						35
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業の取り組みは学習コメントと参加状況（毎回5点×7回＝35点）、期末テスト（60点）の達成度を総合的に評価し、単位認定する。
テキスト、教材 参　考　書	テキストは,授業開始日までに購入しておくこと。 『教員採用試験（よくわかる）教職教養　基礎基本　完全マスター』（東京アカデミー 1,700円） 『2026年度教員採用試験ステップアップ問題集⑧中学・高校保健体育』（東京アカデミー 1,600円）
履修条件・ 関連科目	「キャリアセミナー」「キャリアコミュニケーション」を受講し,教職関連科目を受講すること。
備考(教員メッセージ含む)	必ず予習・復習をすること。
オフィス・アワー	栗山：随時。事前にメールでアポを取ること。

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	〃	「キャリア対策セミナー」受講ガイダンス及び事前の模擬テスト(教職教養と専門教養)	参考書・資料等の予習（30分以上）
2	〃	専門教養（保健体育、学習指導要領）の過去問題の傾向と対策	参考書・資料等の予習・復習（30分以上）
3	〃	教職教養（教育法規）の過去問題の傾向と対策①	参考書・資料等の予習・復習（30分以上）
4	栗山　靖弘	教職教養（教育原理・教育史）の過去問題の傾向と対策①	参考書・資料等の予習・復習、課題レポート（10点）の作成（60分以上）
5	〃	教職教養（教育原理・教育史）の過去問題の傾向と対策②	参考書・資料等の予習・復習（30分以上）
6	中本　浩揮	教職教養（教育心理）の過去問題の傾向と対策、交流授業	参考書・資料等の予習・復習（30分以上）
7		小論文（いじめ、不登校、保護者対応）の過去問題の傾向と対策	参考書・資料等の予習・復習（30分以上）
8	中本　浩揮	模擬テストとその解説（教職教養・専門教養）	参考書・資料等の予習・復習（30分以上）

授業科目名 (ナンバリングコード)	キャリア対策セミナー（一般企業） (121A0-2301)	授業形態	演習	授業科目区分	キャリア形成科目 (ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ科目)
担当教員名	隅野　美砂輝・金高　宏文・国重　徹			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	60名程度
授業の概要	この授業は、企業で働くことを志望する学生を対象に、企業に関する知識、採用試験への対策、社会人基礎力等を高めることを目指して実施する。毎時の課題レポート提出、プレゼンテーション、グループワーク等を柱に、キャリアデザイン力や一般教養・倫理が身につくことを目指す。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	キャリアデザイン力、一般教養・倫理 （コミュニケーション力）							
	■認知的領域	・受験希望する企業や業界の特性や採用条件や状況を理解する。 ・企業の採用試験の過去問題の傾向を理解する。			○				56
	■情意的領域	・志望の動機やその仕事の意味・意義について自分なりの答えを持てるようになる。 ・採用試験に向けた継続的な学習態度を身に付ける。	○						24
	■技能的領域	・一人でのプレゼンテーション，集団での討論や意見交換ができるようになる。				○			20

成績評価の基準	授業の取り組みは学習コメントと参加状況（3点×8回＝24点）、採用試験で求められる知識・態度の獲得度は課題レポート（7点×8回＝56点）、グループ面接等（20点）の成績の達成度を総合的に評価し、単位認定する。		
テキスト、教材 参　考　書	特になし。		
履修条件・ 関連科目	「キャリアセミナー」「キャリアコミュニケーション」を受講していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	毎回の課題レポート（7点×8回＝56点）は大変ですが、これをうまく活用し、継続的な学習態度が身につくことを期待しています。
オフィス・アワー	キャリア形成支援室：水曜日　16：00 ～17：00		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	隅野　美砂輝 金高　宏文 国重　徹	受講ガイダンス，筆記試験対策（ウェブテスト）	課題レポートの作成（1時間）
2	〃	企業で求められている人材とインターンシップ	課題レポートの作成（1時間）
3	〃	企業で求められている人材と採用試験	課題レポートの作成（1時間）
4	〃	面接試験の傾向と対策（概要）	課題レポートの作成（30分）ウェブテストを各自受験（1時間）
5	〃	面接試験の傾向と対策（グループディスカッション）1	課題レポートの作成（1時間）
6	〃	面接試験の傾向と対策（グループディスカッション）2	課題レポートの作成（1時間）
7	〃	面接試験の傾向と対策（グループ面接）1	課題レポートの作成（1時間）
8	〃	面接試験の傾向と対策（グループ面接）2	参考書・資料等の予習・復習（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	キャリア対策セミナー（公務員） (121A0-2302)	授業形態	演習	授業科目区分	キャリア形成科目 (ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ科目)
担当教員名	森　博嗣			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	100
授業の概要	この授業では、都道府県及び市町村職員（消防、警察を含む）を中心とする公務員採用試験の過去問題の傾向と対策を解説することにより、公務員試験に合格するための勉強方法、受講生が勉強を進める上での基本的な知識や態度を身につけることを目標とする。具体的には、採用試験の模擬問題の正答率が60％以上に高まることを期待している。 【授業に含まれる活動】○…実施あり、×…実施なし、△…授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク(×)、ディスカッション・討論(×)、プレゼンテーション・発表(×)、フィールドワーク(×)				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合％
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	キャリアデザイン力、一般教養・倫理							
	■認知的領域	・受験希望する職種の採用条件や採用状況をﾚﾎﾟｰﾄする。・公務員採用試験の過去問題の傾向を整理する。・採用試験の問題を解ける。		○	○				65
	■情意的領域	・公務員の志望の動機やその仕事の意味・意義について自分なりの答えを持てるようになる。・採用試験に向けた継続的な学習態度を身に付ける。	○						35
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業の取り組みは学習コメントと参加状況（5点×7回＝35点）、採用試験で求められる知識・態度の獲得度は毎授業の復習ノートの作成（5点×7回＝35点）、課題レポート（10点）、模擬テストの成績及び作文提出（20点）の達成度を総合的に評価し、単位認定する。
テキスト、教材 参　考　書	毎回練習問題を配付するのでテキストは不要であるが、A4ノートを準備すること。参考書として、2026年度版市役所上・中級教養・専門試験過去問500を薦める。（実務教育出版　3300円）

履修条件・関連科目	「キャリアセミナー」「キャリアコミュニケーション」を履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	授業を通じて、自分自身の公務員対策ノートを完成させよう！　それには継続的な復習と自己学習が重要！※復習ノートにより、授業後の自習活動を確認する（5点×7回＝35点） ○実務経験のある教員による授業科目：公務員専門学校経営者
オフィス・アワー	キャリア形成支援室（キャリア支援係）：水曜日　16：00 ～17：00		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	森　博嗣	「キャリア対策セミナー」受講ガイダンス	各自希望する公務員採用試験の募集要綱の確認をする。1時間
2	〃	公務員採用試験の傾向と対策（基礎編１）　※	授業の復習及び宿題を公務員試験対策ノートにまとめて提出する。1時間
3	〃	公務員採用試験の傾向と対策（基礎編２）　※	授業の復習及び宿題を公務員試験対策ノートにまとめて提出する。1時間
4	〃	公務員採用試験の傾向と対策（実戦編１）　※	授業の復習及び宿題を公務員試験対策ノートにまとめて提出する。1時間
5	〃	公務員採用試験の傾向と対策（実戦編２）　※	授業の復習及び宿題を公務員試験対策ノートにまとめて提出する。1時間
6	〃	公務員採用試験の傾向と対策（実戦編３）　※	公務員模擬試験に向けて総復習、対策ノートの提出をする。2時間
7	〃	模擬テスト（20点）と解説　※	模擬試験の復習及び宿題を公務員試験対策ノートにまとめて提出する。1時間
8	〃	公務員採用試験に向けてのすべきこと（作文提出、面接練習）※	面接事項の確認、エントリーシートの記入方法などを練習する。1時間

専　門　科　目

授業科目名 (ナンバリングコード)	解剖生理学 (131A0–1300)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)
担当教員名	與谷　謙吾			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	―
授業の概要	解剖生理学は人体の基本的な「構造」や「機能」を学ぶ学問であり、その基本を理解することで対照的な状態(症状等)を捉えることができる。そのため、本講義では「かたちが解ればはたらきが見えてくる」という格言を軸に身体の各構成要素を器官、組織、細胞レベルの順に講義していく。人体の基礎知識を身につけることで、将来、ヒトを看る・指導する体育指導などの分野に役立つと期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（×）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	専門的な知識・教養 （専門的な知識・教養）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	人体の仕組み(構造・機能)を系統的に理解できるようになる		○			○		100
	□情意的領域								
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業中に解説・紹介した解剖生理学の知識に関する理解度を筆記試験によってのみ評価し、60点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	・参考書：「解剖生理学」（高野廣子 著、南山堂）ISBN: 4–525–60081–0 ・参考書：「ぜんぶわかる人体解剖図」（坂井建雄、橋本尚詞 著、成美堂出版）ISBN:978–4–415–30619–3 ・配布資料：講義内容に応じて適宜配布する。		
履修条件・ 関連科目	運動生理学を履修予定の学生は本講義を履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	本講義(対面形式)では、私語等による授業妨害はマイナス評価で取り扱う。
オフィス・アワー	與谷：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです）研究棟3階 306研究室 yotani@nifs–k.ac.jp		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	與谷　謙吾	オリエンテーション：かたち(解剖)とはたらき(生理)	今後の講義予定を確認し、次週以降から実施するテーマについて情報収集する。(30分間)
2	〃	外部からみた人体の構造（上肢や下肢などの人体の名称について）	本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(60分間)
3	〃	内部からみた人体の構造（内臓の名称や位置について）	本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(60分間)
4	〃	人体の器官系①：呼吸・循環器（ガス交換や動脈・静脈などについて）	本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(60分間)
5	〃	人体の器官系②：消化器（食道から肛門までの消化・吸収などについて）	本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(60分間)
6	〃	人体の器官系③：泌尿器（水分調節や尿生成について）	本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(60分間)
7	〃	人体の組織①：骨（関節の名称や成長・成熟などについて）	本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(60分間)
8	〃	人体の組織②：骨格筋の構造（筋肉の種類や名称などについて）	本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(60分間)
9	〃	人体の組織③：骨格筋の収縮（滑走説や興奮収縮連関などについて）	本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(60分間)
10	〃	人体の組織④：脳と脊髄（中枢神経系に関する構造・機能について)	本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(60分間)
11	〃	人体の組織⑤：運動神経と感覚神経と自律神経（末梢神経に関する構造・機能について）	本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に、末梢神経に関する構造・機能について復習を行う。(60分間)
12	〃	人体の組織⑥：神経の伝導路（上行伝導路(感覚)と下行伝導路(運動)の役割について）	本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(60分間)
13	〃	人体の感覚器①：目(眼球の構造や視機能について)	本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(60分間)
14	〃	人体の感覚器②：耳(聴覚と平衡覚について)	本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(60分間)
15	〃	人体の細胞（細胞小器官と興奮発生の機序について）	本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(60分間)
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	体育学概論 (131A0-1301)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)
担当教員名	北村　尚浩・中垣内　真樹・田巻　弘之・中本　浩揮・栫　ちか子・関　朋昭・中村　勇・幾留　沙智・小崎　亮輔・宮崎　輝光・石澤　里枝			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1	受け入れ人数	180人程度
授業の概要	体育学を構成する多様な専門領域（心理学、社会学、生理学、教育学、マネジメントなど）を横断的に紹介することで，履修者の興味・関心を喚起し，「なぜ体育・スポーツを学ぶのか？」という根源的な問いを深める．これから本格的に学ぶ体育・スポーツ科学という学問の全体像を捉えるための導入科目である． この学びを通じて，将来のゼミ選択や，社会でどのように貢献していくかというキャリア形成のきっかけを見つけることを目指す． 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力、専門的な知識・教養 （科学的表現力、専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	体育・スポーツ科学を構成する多様な基礎領域の定義，研究内容，および歴史的文脈を理解し，説明できる． 講義内容について，論理的な構成を意識し，根拠に基づいた記述を行うアカデミックライティングの基礎技術を習得する．	○		○				
	■情意的領域	「なぜ体育を学ぶのか」という根源的な問いを通じて，体育・スポーツの価値や意義を多面的に捉え，学問に対する関心と，主体的な学びへの動機づけを持つ． 多様な専門領域の紹介を通して，自身の興味・関心を見出し，将来のゼミ選択やキャリア形成に向けた展望を持つ． 現代社会における体育・スポーツの社会的意義や実際性を体感し，社会接続への意識を高める．	○		○				
	■技能的領域	講義内容を「他の授業や実社会の事例と関連づけて考察する」能力を養い，学際性・応用力を高める． リアクションペーパーの作成を通じて，提示された問いに対して，論理的な構成（理由→具体例→結論）で，簡潔に記述する技術を実践する．	○		○				

成績評価の基準	毎時間提出するリアクションペーパー（各5点×14回=70点）と，15回目に提出する最終レポート（30点）により評価する．
テキスト、教材 参　考　書	
履修条件・関連科目	備考(教員メッセージ含む)：体育学，スポーツ科学の初学者である1年生に，強く履修を推奨します．
オフィス・アワー	

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	北村　尚浩	オリエンテーション 学長講話：「体育学」「スポーツ科学」へのアプローチ 「スポーツとは」「体育とは」「体育・スポーツの科学的研究」「スポーツとテクノロジー」	授業内容の振り返り（1時間）
2	関　朋昭	体育の哲学的基盤：体育とは何か、人間とは何かを問う哲学的視点	授業内容の振り返り（1時間）
3	中本　浩揮 幾留　沙智	スポーツの心理学：体育大学生に学んで欲しいスポーツと心の関係	授業内容の振り返り（1時間）
4	北村　尚浩	スポーツと社会：スポーツとジェンダー、メディア、地域社会との関係	授業内容の振り返り（1時間）
5	栫　ちか子	体育と教育：学校体育の役割と課題、教育的意義	授業内容の振り返り（1時間）
6	中垣内　真樹	健康とライフスタイル：健康の概念、公衆衛生、生活習慣病予防	授業内容の振り返り（1時間）
7	田巻　弘之	運動と身体の生理学：身体機能、エネルギー代謝、トレーニング効果	授業内容の振り返り（1時間）
8	石澤　里枝	運動・スポーツと栄養：栄養とパフォーマンス、エネルギー摂取・水分補給	授業内容の振り返り（1時間）
9	宮崎　輝光	バイオメカニクス入門：動作分析、力学的視点からみるスポーツ	授業内容の振り返り（1時間）
10	中村　勇	武道と体育学：武道の理念・価値と体育学との関係	授業内容の振り返り（1時間）
11	小崎　亮輔	スポーツと障害・多様性：パラスポーツ、インクルーシブ教育	授業内容の振り返り（1時間）
12	北村　尚浩	生涯スポーツの展開：生涯にわたる身体活動、地域スポーツ振興	授業内容の振り返り（1時間）
13	関　朋昭	スポーツの経営とマネジメント：スポーツ組織・イベントの企画運営、マネジメント論の初歩、組織論的視点からみた体育・スポーツの実践	授業内容の振り返り（1時間）
14	北村　尚浩	体育・スポーツと現代社会：現代の課題（少子化、超高齢社会など）と体育学の貢献	授業内容の振り返り（1時間）
15	〃	総まとめ・振り返り：全体の復習、受講者の感想共有、ゼミ選択へのヒント	授業内容の振り返り（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	体育・スポーツ史 (131A0-1302)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)
担当教員名	冨田　幸祐			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	70名程度

授業の概要	体育・スポーツに代表される身体運動文化の歴史は人類と共にあった。ただしそのあり方は私たちが日常的にとらえる「体育」「スポーツ」の形だけではない。私たちが現在「体育」「スポーツ」と一般的にとらえ、呼んでいるものは、18世紀～19世紀にヨーロッパで成立した形式であり、このことは近代社会の成立と大きくかかわる文化様式であることを意味する。 講義では私たちにとっての「スポーツ」が、人類にとって「身体運動文化」の展開過程の一部であるととらえて、その歴史的展開を学ぶ。人々が「体育」「スポーツ」とどのように関わってきたのかを人類史的な変遷によって理解することで、スポーツの見方を広げ、多角的な視点からスポーツを捉えられるようになることが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（×）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	科学的表現力、専門的な知識・教養 （課題解決能力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	体育・スポーツを含めた身体運動文化の歴史的展開について正しく説明できる。 体育・スポーツを多角的な視点からとらえることができるようになる。 現代における体育・スポーツの問題点や課題について歴史的な視点から考察し、自身の考えを述べることができる。		○	○				60
	■情意的領域	課題に意欲的に取り組む	○	○	○				40
	□技能的領域								

成績評価の基準	毎回の授業にて実施する小レポート、課題（レポート）に対する積極的な取り組み方を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	授業の前半部分は木村吉次編著『体育・スポーツ史概論　改訂４版』（市村出版）を基に展開します。テキスト指定はしませんが、参考書として推薦をします。またその他の参考文献や資料については適宜授業で紹介したり、「Web-Class」に掲示するようにします。		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	オンデマンド授業となります。
オフィス・アワー			

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	冨田　幸祐	（オンデマンド授業）授業ガイダンス	WebClassで小テストに回答する。(1時間) レポート作成の準備をする。(2時間)
2	〃	（オンデマンド授業）未開社会の運動文化	課題資料の予習をする。(1.5時間) WebClassで小テストに回答する。(1時間) レポート作成の準備をする。(2時間)
3	〃	（オンデマンド授業）古代オリンピック	課題資料の予習をする。(1.5時間) WebClassで小テストに回答する。(1時間) レポート作成の準備をする。(2時間)
4	〃	（オンデマンド授業）中世ヨーロッパのフットボール	課題資料の予習をする。(1.5時間) WebClassで小テストに回答する。(1時間) レポート作成の準備をする。(2時間)
5	〃	（オンデマンド授業）身体教育の始まりと近代スポーツの誕生	課題資料の予習をする。(1.5時間) WebClassで小テストに回答する。(1時間) レポート作成の準備をする。(2時間)
6	〃	（オンデマンド授業）近代スポーツの普及と受容①（イギリスとアメリカの場合）	課題資料の予習をする。(1.5時間) WebClassで小テストに回答する。(1時間) レポート作成の準備をする。(2時間)
7	〃	（オンデマンド授業）オリンピックとパラリンピックの誕生と展開	課題資料の予習をする。(1.5時間) WebClassで小テストに回答する。(1時間) レポート作成の準備をする。(3時間)
8	〃	（オンデマンド授業）近代スポーツの普及と受容②（日本の場合）	課題資料の予習をする。(1.5時間) WebClassで小テストに回答する。(1時間) レポート作成の準備をする。(2時間)
9	〃	（オンデマンド授業）日本におけるスポーツの受容：野球	課題資料の予習をする。(1.5時間) WebClassで小テストに回答する。(1時間) レポート作成の準備をする。(2時間)
10	〃	（オンデマンド授業）日本におけるスポーツの受容：サッカー	課題資料の予習をする。(1.5時間) WebClassで小テストに回答する。(1時間) レポート作成の準備をする。(2時間)

11	〃	（オンデマンド授業）アジアにおけるスポーツ	課題資料の予習をする。(1.5時間) WebClassで小テストに回答する。(1時間) レポート作成の準備をする。(2時間)
12	〃	（オンデマンド授業）スポーツとマイノリティの世界史	課題資料の予習をする。(1.5時間) WebClassで小テストに回答する。(1時間) レポート作成の準備をする。(2時間)
13	〃	（オンデマンド授業）スポーツ文化の継承を考える	課題資料の予習をする。(1.5時間) WebClassで小テストに回答する。(1時間) レポート作成の準備をする。(2時間)
14	〃	（オンデマンド授業）地域におけるスポーツ史を考える	課題資料の予習をする。(1.5時間) WebClassで小テストに回答する。(1時間) レポート作成の準備をする。(2時間)
15	〃	（オンデマンド授業）鹿児島のスポーツ	課題資料の予習をする。(1.5時間) WebClassで小テストに回答する。(1時間) レポート作成の準備をする。(3時間)
16	〃	学期末試験は行わない	

授業科目名 (ナンバリングコード)	健康教育学 (131A0–1303)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)
担当教員名	樋口　公嗣・田中　詩織・南曲　康多・立志　公史郎・齊之平　一隆			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	180名程度
授業の概要	健康、病気に関する概念や知識について、生活習慣病を中心として学ぶ。また、健康維持・増進や疾病予防の方策を、主に行動科学や心身医学の観点から学ぶ。 健康づくりを指導し、普及させるための基礎的な知識を身につける科目である。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（×）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	専門的な知識・教養	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	健康や疾病の概念について理解し、生活習慣病等の原因や予防法について説明できる。		○					70
	■情意的領域	授業に積極的に参加し、教師からの質問に対しても自分の考えをまとめて回答できる。授業を受ける者のマナーを守れる.	○						30
	□技能的領域								

成績評価の基準	・授業への出席は 2/3 以上を最低基準とする。授業中に私語などで複数回注意を受けたものは、減点の対象とする。 ・授業での小テストの成績、授業に対する積極的な取り組み方などを総合的に評価する。 ・小テストを正当な理由で受けられなかった場合は、欠席届を提出し、与えられた条件を満たしたレポートを提出すれば採点の対象とする。 ・総合得点60点以上を合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	適宜授業で紹介する。 参考書：「健康行動と健康教育－理論、研究、実践」、曽根智史ほか　訳、医学書院。「健康教育－ヘルスプロモーションの展開」、日本健康教育学会　編、保健同人社。「特定健診・保健指導に役立つ　健康運動指導マニュアル」、佐藤祐造ほか　編、文光堂

履修条件・ 関連科目	本授業の内容は、2年次後期に開講される学校保健の基礎知識として重要である。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	随時 出席回数の確認など自己責任である事柄についての問い合わせには応じない。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	樋口　公嗣	高脂血症（脂質異常症）	復習（30分）
2	南曲　康多	健康ならびに健康教育の概念、体力と運動能力の測定法	復習（30分）
3	樋口　公嗣	メタボリックシンドローム	復習（30分）
4	立志　公史郎	糖尿病・耐糖能異常	復習（30分）
5	樋口　公嗣	その他の生活習慣病、運動療法が適応となる疾患	復習（30分）
6	南曲　康多	生活習慣病と特定健康診査・保健指導、国民健康づくり運動	復習（30分）
7	立志　公史郎	虚血性心疾患とリハビリテーション	復習（30分）
8	田中　詩織	肥満・肥満症	復習（30分）
9	齊之平　一隆	健康とホメオスターシス、ストレスとストレス対処法	復習（30分）
10	南曲　康多	がん（悪性新生物）	復習（30分）
11	齊之平　一隆	健康行動と行動変容，うつ病，メディカルチェック	復習（30分）
12	〃	軽度認知障害・認知症	復習（30分）
13	立志　公史郎	高血圧症	復習（30分）
14	齊之平　一隆	健康教育と行動医学、心身医学	復習（30分）
15	田中　詩織	スポーツ障害と予防（内科的障害を中心に）	復習（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	運動生理学 (131A0–1304)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)
担当教員名	田巻　弘之・堀内　雅弘			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	―
授業の概要	一過性の運動やトレーニングを行うと、生体諸機能は瞬時にあるいは長期間にわたり合目的的に亢進・抑制され、それぞれの状況に対してバランス良い応答・適応を起こす。本講義では、外界の反応に対してすばやく反応する動物性機能（感覚系、筋運動系、これらを制御する中枢神経機能系）と、それ以外の生命維持に必須な基本的条件を維持する植物性機能（自律神経系、循環系、呼吸系、消化系、内分泌系等）に大別し、身体を構成している器官・組織およびそれらの固有機能がどのように応答・適応していくか、その法則性（メカニズム）に関する理論を概説する。これにより、科学的知見に基づいた競技力向上のためのトレーニング、さらには健康体力増進のための運動処方といったスポーツ・体育人が担う重要な役割に関する基礎的知識を習得することが期待できる。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	一過性の運動や定期的トレーニング、不活動等に対する神経系、筋肉系、呼吸系、循環系、代謝系、内分泌系の生理応答・適応に関する基礎的知識を理解している。					○		100
	□情意的領域								
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業中に解説・紹介した運動生理学的知識に関する理解度を筆記試験によって評価し、60点以上のものを合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	（教科書）改訂版　運動生理の基礎と応用（春日規克・竹倉宏明編著、フリースペース、2,600円 税別） （参考書）参考書及び参考資料については必要に応じて授業中に紹介して配付する。
履修条件・関連科目	身体科学論、解剖生理学を履修していることが望ましい。　備考(教員メッセージ含む)
オフィス・アワー	田　巻：随時⇒メールであらかじめ予約をしてもらえれば有難いです。３０５研究室 tamaki@nifs-k.ac.jp 堀　内：随時⇒メールであらかじめ予約をしてもらえれば有難いです。３０３研究室 mhoriuchi@nifs-k.ac.jp

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	田巻　弘之	オリエンテーション　　運動生理学概論、筋力について	オリエンテーションの内容を参考に、教科書を用いて全体的な予習をする（１時間）
2	〃	筋力・筋パワーとその神経性調節機構	力とパワーの違い、運動単位、サイズの原理についてまとめよう。WebClassの自主トレーニング選択肢問題に挑戦する。（１時間）
3	〃	骨格筋の微細構造と収縮機構、筋線維タイプとトレーニング	骨格筋の微細構造と興奮–収縮連関についてまとめよう。WebClassの自主トレーニング選択肢問題に挑戦する。（１時間）
4	〃	筋疲労とエネルギー供給：筋機能低下の現象と機序	筋疲労のメカニズム、筋線維タイプとスポーツの競技特性との関係についてまとめよう。WebClassの自主トレーニング選択肢問題に挑戦する。（１時間）
5	〃	トレーニングと筋肥大の原則、効率	筋肥大の生理学的原則についてまとめよう。WebClassの自主トレーニング選択肢問題に挑戦する。（１時間）
6	〃	筋収縮様式と筋損傷、筋痛と炎症、神経筋系の再生	実際の関節運動時の筋収縮様式や筋損傷、再生のプロセスについてまとめよう。WebClassの自主トレーニング選択肢問題に挑戦する。（１時間）
7	〃	脊髄反射と運動制御（脳神経系）：スキルとトレーニング	実際の運動場面で関与している反射や脳神経機能についてまとめよう。WebClassの自主トレーニング選択肢問題に挑戦する。（１時間）
8	堀内　雅弘	エネルギー供給系の運動生理学　　３つのエネルギー供給系と栄養、疲労、運動パフォーマンスとの関係 心臓～血流再配分によるエネルギー供給	各エネルギー供給系の特徴、基質利用と栄養摂取、筋疲労の要因とパフォーマンスとの関連についてまとめる（１時間）
9	〃	呼吸の運動生理学（１）呼吸器系のしくみと安静時および運動時の呼吸循環応答	運動強度の変化にともなう呼吸循環応答についてまとめる（１時間）
10	〃	循環の運動生理学（２）運動時の循環応答（末梢血管・血圧応答）	運動時の循環応答（末梢血管・血圧応答）についてまとめる（１時間）
11	〃	運動時の代謝（糖・脂質・タンパク質）について	運動時の代謝（糖・脂質・タンパク質）についてについてまとめる（１時間）
12	〃	免疫とホルモン、およびこれらの運動時応答について	免疫とホルモンについて代表的なものを整理して理解する（１時間）
13	〃	環境生理学～暑熱・寒冷環境における運動生理学～	運動時の体温調節についてまとめる（１時間）
14	〃	環境生理学2～高所（低酸素）環境における運動生理学～	低酸素下における運動時の生理応答についてまとめる（１時間）
15	〃	脱トレーニングの影響、ウォーミングアップ・クーリングダウンの意義と生理的効果	脱トレーニングの影響、ウォーミングアップ・クーリングダウンの生理応答についてまとめる（１時間）
16	田巻　弘之 堀内　雅弘	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ栄養学 (131A0-1306)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)
担当教員名	石澤　里枝			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	180名程度
授業の概要	スポーツ・武道、並びに体育・健康づくりの専門化を目指す体育大学学生にとって必要な栄養学に関して、基礎的・専門的な知識を講ずる。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（×）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・摂取する栄養素およびその消化吸収・代謝までを理解する。 ・栄養と運動パフォーマンスの相互作用を理解する。		○			○		80
	■情意的領域	・スポーツ選手によって必要な栄養素や食事に関心を持つ。	○	○					20
	□技能的領域								

成績評価の基準	認知的領域は主に定期試験で評価する。情意的領域は授業後の確認テストの記入により評価する。2領域を合計して、60点以上を合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	その都度配布する。
履修条件・ 関連科目	生物化学論・運動生化学・運動生理学・解剖生理学
備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	研究棟４階４０４研究室（mail: rie-ishiza@nifs-k.ac.jp）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	石澤　里枝	食生活と健康運動	配布資料を参考に本日の授業を復習する(30分)。
2	〃	消化と吸収の機構	配布資料を参考に本日の授業を復習する(30分)。
3	〃	栄養素の機能と代謝	配布資料を参考に本日の授業を復習する(30分)。
4	〃	運動時のエネルギー代謝（糖代謝）と運動パフォーマンス	配布資料を参考に本日の授業を復習する(30分)。
5	〃	運動時のエネルギー代謝（脂質代謝）と運動パフォーマンス	配布資料を参考に本日の授業を復習する(30分)。
6	〃	運動時のエネルギー代謝（アミノ酸代謝）と筋肥大	配布資料を参考に本日の授業を復習する(30分)。
7	〃	スポーツ選手の身体組成、身体活動量の定量法とその実際	配布資料を参考に本日の授業を復習する(30分)。
8	〃	ビタミン・ミネラル	配布資料を参考に本日の授業を復習する(30分)。
9	〃	水分補給	配布資料を参考に本日の授業を復習する(30分)。
10	〃	サプリメント	配布資料を参考に本日の授業を復習する(30分)。
11	〃	栄養・食事アセスメント（低栄養状態・貧血予防・疲労骨折）	配布資料を参考に本日の授業を復習する(30分)。
12	〃	栄養・食事指導の基本1	配布資料を参考に本日の授業を復習する(30分)。
13	〃	栄養・食事指導の基本2	配布資料を参考に本日の授業を復習する(30分)
14	〃	アメリカスポーツ医学会によるスポーツ栄養のガイドライン	配布資料を参考に本日の授業を復習する(30分)。
15	〃	まとめ	配布資料を参考に本日の授業を復習する(30分)。
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ社会学 (131A0-1307)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)
担当教員名	北村　尚浩			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	130名程度
授業の概要	スポーツの現状と課題について、社会学的視点から考究する。生涯スポーツや競技スポーツの現場での諸現象について、社会学的立場から批判的、実証的にその現象を記述、説明、分析しながら課題と展望を明らかにする。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	専門的な知識・教養							
	■認知的領域	講義全般に関した基礎的知識を有する			○		○		80
	■情意的領域	授業に参加し講義内容に関した質疑に積極的に応える	○			○			15
	■技能的領域	課題レポート作成技術			○				5

成績評価の基準	学期末試験の成績70％に、出席、質疑応答を中心とした授業への取り組み状況、小レポート、課題レポート等30％を加えて総合的に評価する。
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：川西正志、野川春夫編著「改訂4版生涯スポーツ実践論」市村出版 参考書：池田勝、守能信次「講座スポーツの社会科学―スポーツの社会学」杏林書院
履修条件・ 関連科目	特になし。
備考(教員メッセージ含む)	ゼミ希望者は前もって履修しておくこと。授業ではiPadを使用する。
オフィス・アワー	研究棟６階　６１０研究室（予約制）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	北村　尚浩	（オンデマンド授業）授業ガイダンス	Reading assignment（30分以上）
2	〃	スポーツ社会学とは	Reading assignment（30分以上）
3	〃	プレイ論	新聞雑誌記事の収集（30分以上）
4	〃	スポーツへと社会化	Reading assignment（30分以上）
5	〃	スポーツ振興政策の課題と展望：スポーツ基本法とスポーツ庁	Reading assignment（30分以上）
6	〃	スポーツ振興政策の課題と展望：スポーツ基本計画	Reading assignment（30分以上）
7	〃	青少年のスポーツ	新聞雑誌記事の収集
8	〃	加齢とスポーツ：高齢者スポーツとQOL	Reading assignment（30分以上）
9	〃	障害者スポーツの現状と課題	Reading assignment（30分以上）
10	〃	スポーツによる地域活性化（1）：総合型地域スポーツクラブ	Reading assignment（30分以上）
11	〃	スポーツによる地域活性化（2）：スポーツイベントとスポーツツーリズム	Reading assignment（30分以上）
12	〃	スポーツ指導者制度とスポーツボランティア	Reading assignment（30分以上）
13	〃	スポーツとビジネス	Reading assignment（30分以上）
14	〃	大学スポーツ	Reading assignment（30分以上）
15	〃	スポーツと暴力	Reading assignment（30分以上）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツマネジメント概論 (131A0–1308)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)
担当教員名	関　朋昭			補助担当者名	棟田　雅也
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	150
授業の概要	スポーツは一人ではできない。まずは「体育」と「スポーツ」の違いを深く理解するために原理的な理論を提供していく。特に本授業は経営学の知見をベースとしており、ここにスポーツマネジメントの意義がある。講義の中では、「組織論」を中心に進めていくが、特に組織と個人の関係性は全講義を通じて共通の課題となり、それをベースに概説していく。すなわち組織と個人の構造的な仕組みを理解することができ、リーダーシップを発揮するための基礎知識が身につくことが期待される。現代のスポーツを取り巻く話題についても毎回講義で取り挙げていくので、マネジメントの理論を駆使しながら、これまでの自分の経験や身近な出来事などを相対化できる力を学ぶことができる。つまり物事を多面的に捉える力、一般教養・倫理を身につけることにつながる。将来スポーツに携わる職業につくキャリアデザイン力を高め、専門的な知識・教養を養うことが期待される。毎時間小レポートを提出することになるが、講義内の理論を駆使しなくてはならず、科学的表現力を培うことになる。 【授業に含まれる活動○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、 フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	リーダーシップ、科学的表現力、専門的な知識・教養 （リーダーシップ、科学的表現力、専門的な知識・教養）							
	■認知的領域	・スポーツに関するマネジメントの知識を理解することができる（専門的な知識・教養）。 ・現場の課題解決のために、その因果を深く考察することができる（一般教養・倫理）。	○	○	○	○			30
	■情意的領域	・積極的に講義に参加できる（リーダーシップ、キャリアデザイン力）。 ・人前で自分の意見を発表することができる（リーダーシップ）。	○	○	○	○			40
	■技能的領域	授業で学習した専門知識を用いてテストやレポートで文章表現ができる（科学的表現力）。	○	○	○	○			30

成績評価の基準	授業後のテスト、授業への取り組み状況、レポート等を総合的に評価し、60点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	授業中に資料を配付する		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	火曜日　10時10分から11時40分　研究棟6階　関教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	関　朋昭	授業ガイダンス・スポーツとマネジメントの概念	予習1時間＋復習1時間
2	〃	スポーツにおける意思決定	予習1時間＋復習1時間
3	〃	スポーツにおけるナレッジマネジメント	予習1時間＋復習1時間
4	〃	スポーツの組織論（組織構造）	予習1時間＋復習1時間
5	〃	スポーツの組織（理念）	予習1時間＋復習1時間
6	〃	スポーツの組織論（組織行動）	予習1時間＋復習1時間
7	〃	スポーツの組織論（動機づけ理論）	予習1時間＋復習1時間
8	〃	スポーツの組織論（個人と組織）	予習1時間＋復習1時間
9	〃	スポーツにおけるリーダーシップ（特性論）	予習1時間＋復習1時間
10	〃	スポーツにおけるリーダーシップ（行動論）	予習1時間＋復習1時間
11	〃	スポーツにおけるフォロワーシップ	予習1時間＋復習1時間
12	〃	スポーツの倫理（スポーツマンシップ）	予習1時間＋復習1時間
13	〃	日本の部活動におけるマネジメント	予習1時間＋復習1時間
14	〃	スポーツマーケティング	予習1時間＋復習1時間
15	〃	スポーツの科学的管理法	予習1時間＋復習1時間

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ学概論 (131A0-1309)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)
担当教員名	北村　尚浩			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	―
授業の概要	運動やスポーツへの取り組み方は、個人のライフステージやライフスタイルによって変化する。一方、高齢者、青少年、障害を持つ人、妊婦、多様な身体を持つ人などどんな人でも運動やスポーツを行う権利（スポーツ権）を持ち、運動やスポーツを実施したいのに実施できない状況はスポーツ権の侵害となる。本講義では、現在の日本の運動やスポーツにおける環境を把握するとともに課題を考え、一生涯を通じて誰もが運動やスポーツに関わることのできる環境や方策について学習する。 【授業に含まれる活動】○．．．実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、一般教養・倫理、専門的な知識・教養							
	■認知的領域	各回の予習課題・授業課題を通じて基礎的知識を習得するとともに、生涯スポーツに関わる課題に対して解決方法を考えることができるようになる。		○	○		○		80
	■情意的領域	予習課題に真剣に取り組み、各回の授業についてまとめる努力ができる。授業内での質疑に積極的に応えることができる。	○		○				20
	□技能的領域								

成績評価の基準	予習課題・授業課題の正答率・完成度（60%）、定期試験（40%）
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：川西正志・野川春生編著　伊藤央二・大勝志津穂・北村尚浩・工藤康宏・長ヶ原誠編著「改訂5版　生涯スポーツ実践論」市村出版

履修条件・関連科目	生涯スポーツ学総論、生涯スポーツ論・演習	備考(教員メッセージ含む)	テキストに沿って授業を行うので、テキストを購入してください。 毎時間の予習課題、授業課題に取り組んでください。
オフィス・アワー	授業の前後に対応する		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	北村　尚浩	（オンデマンド授業）授業ガイダンス・生涯スポーツの概念	予習課題(30分)、授業課題（60分）
2	〃	日本の生涯スポーツ政策・施策	予習課題(30分)、授業課題（60分）
3	〃	野外レクリエーションと生涯スポーツ	予習課題(30分)、授業課題（60分）
4	〃	生涯スポーツとビジネス	予習課題(30分)、授業課題（60分）
5	〃	生涯スポーツとヘルスプロモーション	予習課題(30分)、授業課題（60分）
6	〃	生涯スポーツと地域活性化	予習課題(30分)、授業課題（60分）
7	〃	ささえるスポーツと生涯スポーツ	予習課題(30分)、授業課題（60分）
8	〃	地域スポーツクラブと生涯スポーツ	予習課題(30分)、授業課題（60分）
9	〃	青少年のスポーツ参加	予習課題(30分)、授業課題（60分）
10	〃	高齢者のスポーツ参加	予習課題(30分)、授業課題（60分）
11	〃	障がい者のスポーツ参加	予習課題(30分)、授業課題（60分）
12	〃	女性のスポーツ参加	予習課題(30分)、授業課題（60分）
13	〃	多様な性とスポーツ参加	予習課題(30分)、授業課題（60分）
14	〃	多様な身体とスポーツ参加	予習課題(30分)、授業課題（60分）
15	〃	スポーツ施設のマネジメント	予習課題(30分)、授業課題(60分)

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ心理学 (131A0-1310)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)
担当教員名	森　司朗			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	150名程度
授業の概要	この科目は、心理学的立場からの運動指導の能力を身につける科目である。具体的には、ジュニア期からの運動指導の場で効果的な指導法を展開していくための指導の基礎となる知識と理論を提供することを目的としている。内容は「運動学習・指導」と「モチベーション」の２つを主なテーマとして相互に関連させながら進めていく。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（×）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	スポーツ心理学の基礎的知識を理解している 自分の運動経験をスポーツ心理学の知識で説明できる		○	○		○		90
	■情意的領域	主体的に授業に取り組む	○						10
	□技能的領域								

成績評価の基準	出席が2/3以上で、授業内容（運動学習・モチベーション）の総合的理解が６割を超えていることを合格の条件とする		
テキスト、教材 参　考　書	杉原　隆「運動指導の心理学－運動学習とモチベーションからの接近－」（大修館書店）		
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	テキストに沿って授業を行うので、必ずテキストの準備をし、予習しておくこと
オフィス・アワー	月～金までの授業・各種委員会会議などを除いた空き時間～ 17時　７０２研究室、体育心理学実験室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	森　司朗	オリエンテーション	
2	〃	運動に対する動機づけ　1　－人はなぜ運動をするのか－	授業内容の予習と復習（30分以上）
3	〃	運動に対する動機づけ　2　－人はなぜ運動をするのか－	授業内容の予習と復習（30分以上）
4	〃	内発的動機づけ1	授業内容の予習と復習（30分以上）
5	〃	内発的動機づけ２	動機づけに関するレポート（30分以上）
6	〃	運動好き運動嫌いの心理１	授業内容の予習と復習（30分以上）
7	〃	運動好き運動嫌いの心理２	授業内容の予習と復習（30分以上）
8	〃	目標設定と目標志向性	授業内容の予習と復習（30分以上）
9	〃	覚醒とメンタルトレーニング１	授業内容の予習と復習（30分以上）
10	〃	覚醒とメンタルトレーニング２	授業内容の予習と復習（30分以上）
11	〃	運動行動の構造から見た運動学習1	授業内容の予習と復習（30分以上）
12	〃	運動行動の構造から見た運動学習２	授業内容の予習と復習（30分以上）
13	〃	運動行動の構造から見た運動学習３	運動行動構造からみた運動学習に関するレポート（30分以上）
14	〃	運動学習の理論的背景１	授業内容の予習と復習（30分以上）
15	〃	運動学習の理論的背景２	運動学習の理論に関する復習（30分以上）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	バイオメカニクス (131A0-1311)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)
担当教員名	宮崎　輝光			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	―
授業の概要	身体の動く仕組みを力学的にアプローチする学問をバイオメカニクスという．バイオメカニクスは身体運動の力学的機序の解明，パフォーマンスの評価や予測など，幅広く応用されている．本授業では，ヒトの身体運動を理解するうえで必要となる基礎的な知識を習得するとともに，力学を通じてヒトの身体運動を解釈する視点を学ぶ． 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	バイオメカニクスの授業内容に含まれるスポーツ動作の特徴を正しい専門用語を用いて正しく理解する	○	○			○		70
	□情意的領域								
	■技能的領域	バイオメカニクスの専門用語を正しく使える技能を習得する	○	○			○		30

成績評価の基準	基本的に毎回出席をとる。出席が2/3以上の者について、試験およびレポートの成績が60点を超えていることを合格の条件とする。 合格者に対して、試験の成績、小テスト，レポート等を勘案して、総合的に評価する。
テキスト、教材 参　考　書	授業時に資料配布 参考書 『スポーツバイオメカニクス20講』阿江通良，藤井範久，朝倉書店（2002） 『バイオメカニクス　人体運動の力学と制御』【著】David A. Winter【訳】長野明紀，吉岡伸輔，ラウンドフラット（2011） 『スポーツバイオメカニクス (はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ)』，岡田英孝，藤井範久，宮西智久 (編集)，化学同人（2016） 『スポーツバイオメカニクス 完全準拠 ワークブック』，宮西智久，化学同人（2020）

履修条件・ 関連科目	必ずしも履修している必要はないが，バイオメカニクスのための物理・数学（1年後期）の内容を習得していることが望ましい． 関連科目 解剖生理学　運動生理学　トレーニング科学概論	備考(教員メッセージ含む)	不足する知識（数学・物理など）は自習によって補うこと．
オフィス・アワー	適宜連絡すること． 研究棟4階　408教員研究室（t-miyazaki@nifs-k.ac.jp）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	宮崎　輝光	イントロダクション　バイオメカニクス分野の研究について 1）陸上や水中でのスポーツ動作の測定方法 2）バイオメカニクス分野のさまざまな研究 3）バイオメカニクス研究の意義	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
2	〃	バイオメカニクスを学ぶための基礎知識 1）必要な数学・力学の基礎知識（主にベクトルの基礎知識について） 2）スポーツ動作を評価するための指標・「Kinematics」と「Kinetics」の違い（姿勢，関節トルク，力学的エネルギーなど）	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
3	〃	並進運動① 身体運動を正しく評価するための並進運動に関する力学の基礎を講義する （位置・速度・加速度，重心位置，運動方程式，質量など）	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
4	〃	並進運動② 身体運動を正しく評価するための並進運動に関する力学の基礎を講義する （位置・速度・加速度，重心位置，運動方程式，質量など）	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
5	〃	並進運動③ 身体運動を正しく評価するための並進運動に関する力学の基礎を講義する （位置・速度・加速度，重心位置，運動方程式，質量など）	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
6	〃	並進運動④ 身体運動を正しく評価するための並進運動に関する力学の基礎を講義する （位置・速度・加速度，重心位置，運動方程式，質量など）	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
7	〃	並進運動⑥ 身体運動を正しく評価するための並進運動に関する力学の基礎を講義する （位置・速度・加速度，重心位置，運動方程式，質量など）	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
8	〃	並進運動⑦ 地面反力データから身体運動（重心のKinematics）の分析方法を習得する． （重心位置，運動方程式，質量，微分積分，力積と運動量の関係）	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
9	〃	並進運動⑧ 地面反力データから身体運動（重心のKinematics）の分析方法を習得する． （重心位置，運動方程式，質量，微分積分，力積と運動量の関係）	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）

10	〃	回転運動のイントロダクション 身体運動を正しく評価するための並進運動（復習）と回転運動に関する力学の基礎を概説する （身体部分慣性係数，角度・角速度・角加速度，角運動量，慣性モーメント，運動方程式など）	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
11	〃	回転運動① 身体運動を正しく評価するための回転運動に関する力学の基礎を講義する （角度・角速度・角加速度，角運動量，慣性モーメント，運動方程式など）	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
12	〃	回転運動② 身体運動を正しく評価するための回転運動に関する力学の基礎を講義する （角度・角速度・角加速度，角運動量，慣性モーメント，運動方程式など）	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
13	〃	回転運動③ 身体運動を正しく評価するための回転運動に関する力学の基礎を講義する （角度・角速度・角加速度，角運動量，慣性モーメント，運動方程式など）	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
14	〃	その他の話題（バイオメカニクス分野の研究方法など）① １）陸上や水中でのスポーツ動作に関する研究（走・跳・投，水泳など） ２）分析の際に必要なヒト身体のモデル化（剛体リンクモデル，筋骨格モデル） ３）身体運動に関わる骨格筋の構造と機能（力－長さ関係やモーメントアームなど）について	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
15	〃	その他の話題（バイオメカニクス分野の研究方法など）② １）陸上や水中でのスポーツ動作に関する研究（走・跳・投，水泳など） ２）分析の際に必要なヒト身体のモデル化（剛体リンクモデル，筋骨格モデル） ３）身体運動に関わる骨格筋の構造と機能（力－長さ関係やモーメントアームなど）について	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	衛生学・公衆衛生学 (131A0-1312)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)
担当教員名	古瀬　裕次郎			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	150名
授業の概要	私たちは何気なく、自然災害の被害状況やインフルエンザの感染者数などの数値情報を目にし、受け入れている。意識すれば、私たちの周囲には公衆衛生学に分類される多くの情報があふれていることに気づくが、公衆衛生学は私たちにとって当たり前の学問であるがゆえに、意識している人は多くない。本講義では、公衆衛生という非常に広義で身近な学問を理解し、解釈できるようになることを目標とする。 【授業に含まれる活動】○・・・実施する、×・・・実施しない、△・・・授業の進捗状況や場合によって実施する グループワーク（×）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	リーダーシップ、科学的支援力、科学的表現力 （一般教養・倫理、科学的支援力、科学的表現力、専門的な知識・教養）							
	■認知的領域	公衆衛生学を認識し理解する。公衆衛生学の作法（疫学）について理解する。					○		100
	□情意的領域								
	□技能的領域								

成績評価の基準	定期試験が60点以上の者を合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて都度配布する。

履修条件・関連科目	運動生理学、解剖生理学、スポーツ栄養学	備考(教員メッセージ含む)	デバイスを使用した授業資料閲覧を推奨する。授業内で電子デバイス（QRコード提示）による資料閲覧や回答を求めることがある。授業にはPC、タブレット、スマートフォンの持ち込みと使用を許可するが、授業に関係のない用途での使用は認めない。 講義の難易度は高めである。 一部デリケートな内容を含むため、オンライン授業を多く併用する。

オフィス・アワー	随時可能　研究棟5階　509研究室（ykose@nifs-k.ac.jp）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	古瀬　裕次郎	オリエンテーション	配布資料を参考に授業を復習する（30分）。
2	〃	性感染症（梅毒）	配布資料、講義内容を参考に復習する（30分）。
3	〃	性と疫学（男性編）	配布資料、講義内容を参考に復習する（30分）。
4	〃	性と疫学（女性編①）	配布資料、講義内容を参考に復習する（30分）。
5	〃	性と疫学（女性編②）	配布資料、講義内容を参考に復習する（30分）。
6	〃	中絶と妊娠	配布資料、講義内容を参考に復習する（30分）。
7	〃	性とエネルギー	配布資料、講義内容を参考に復習する（30分）。
8	〃	前半振り返り	配布資料、講義内容を参考に復習する（30分）。
9	〃	薬物・タバコ	配布資料、講義内容を参考に復習する（30分）。
10	〃	アルコール（飲酒）	配布資料、講義内容を参考に復習する（30分）。
11	〃	運動疫学①　運動とガン・生活習慣病	配布資料、講義内容を参考に復習する（30分）。
12	〃	運動疫学②（健康づくりのための運動の実践方法）	配布資料、講義内容を参考に復習する（30分）。
13	〃	依存症	配布資料、講義内容を参考に復習する（30分）。
14	〃	睡眠	配布資料を参考に授業を復習する（30分）。
15	〃	後半振り返り	配布資料、講義内容を参考に復習する（30分）。
16	〃	定期試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ医学	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)
担当教員名	廣津　匡隆			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	100名程度

授業の概要

スポーツの運動器官に及ぼす効果と弊害（傷害）についての知見を習得し、理論を提供する。本授業では、運動器官を解剖学的にとらえ、種目特異的に生じるスポーツ外傷・障害を部位別にも概説する。それらを通じ、スポーツ医・科学的分野への進学などを希望する学生に対して有益となり、各種の受験資格取得などを希望する学生に対しても一助となる講義を展開する。この授業は、「スポーツ医学」についての学習を通じて、本学の教育目標における「国民各層のスポーツ・武道及び体育・健康づくりを指導・普及させるような能力」を身に付ける科目である。

【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり
グループワーク（×）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、科学的支援力、専門的な知識・教養 （指導者基礎力、科学的支援力、専門的な知識・教養 （リーダーシップ、課題解決力） ）							
	■認知的領域	スポーツの運動器官に及ぼす効果と弊害について理解できる。部位別のスポーツ外傷・障害について概説し、新たな解決方法を提案して、課題を整理することができる。		○	○				80
	■情意的領域	スポーツ医・科学的分野に関して主体的に作業課題を持ち、意欲的に取り組むことができる。小児、女性、中高年、身体障がい者とスポーツについても興味・関心を提供し、運動療法についても主体的に学ぶことができる。	○						20
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業期間に行った小テスト、受講に関する態度、レポートの得点を総合的に評価し、60点以上のものを合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	参考書・・・「スポーツ整形外科学」（松本秀男ら編集、文光堂、2020、＠15000円＋税） 「スポーツリハビリテーションの臨床」（青木治人ら編集、メディカルサイエンス インターナショナル、2019、＠7000円＋税） 「スポーツ指導者のためのスポーツ医学」（小出清一ら編集、南江堂、改訂第２版、2009、＠3200円＋税）

履修条件・関連科目	救急処置論・実習、アスレチックトレーナー論を履修していることが好ましい。	備考(教員メッセージ含む)	テキストに沿った授業ではないため、参考書を必ずしも購入しなくても良い。授業内容を記載した資料を見て予習して、さらに復習をすること。とくに真面目な受講態度を重視する。
オフィス・アワー	廣津：水曜日　10時30分～11時30分　研究棟3階　304研究室(要予約)		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	廣津　匡隆	オリエンテーション	オリエンテーションの内容を確認する。（30分）
2	〃	小児・女性とスポーツ	小児・女性とスポーツについての資料を読む。（１時間）
3	〃	中高年者とスポーツ（ロコモティブシンドロームを含む）	中高年スポーツ等についての資料を読む。（30分）
4	〃	内科的メディカルチェックとスポーツ指導上の安全対策	メディカルチェック等についての資料を読む。（1時間）
5	〃	整形外科的メディカルチェックとスポーツ指導上の安全対策 運動器退行性疾患への対処法	メディカルチェック等についての資料を読む。（１時間）
6	〃	部位別スポーツ外傷・障害1（頭部、頸部）と対処法	スポーツ傷害についての資料を読む。（30分）
7	〃	部位別スポーツ外傷・障害2（肩関節・上腕）と対処法	スポーツ傷害（肩・上腕等）についての資料を読む。（1時間）
8	〃	部位別スポーツ外傷・障害3（肘関節・前腕・手関節・手指）と対処法	スポーツ傷害（肘・前腕等）についての資料を読む。（30分）
9	〃	部位別スポーツ外傷・障害4（腰背部・骨盤・股関節・大腿）と対処法	スポーツ傷害（腰・背部等）についての資料を読む。（1時間）
10	〃	部位別スポーツ外傷・障害5（膝関節①）と対処法	スポーツ傷害（膝）についての資料を読む。（30分）
11	〃	部位別スポーツ外傷・障害6（膝関節②）と対処法	スポーツ傷害（膝）についての資料を読む。（1時間）
12	〃	部位別スポーツ外傷・障害7（下腿・足関節）と対処法	スポーツ傷害（足・足関節）等についての資料を読む。（1時間）
13	〃	部位別スポーツ外傷・障害8（下腿・足関節・足）と対処法	スポーツ傷害（下腿・足関節・足）等についての資料を読む。（1時間）
14	〃	スポーツと理学的処置（RICE、テーピング、搬送方法、包帯の巻き方など）	理学的処置等についての復習を行う。（1時間）
15	〃	障がい者スポーツ、アンチドーピング、まとめ	障がい者スポーツ等についての資料を読む。スポーツ医学に関するレポートを作成し提出する。（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	救急処置論・実習 (131A0-7300)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専門科目 (基礎科目B)
担当教員名	廣津　匡隆			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	200名まで

授業の概要	スポーツ現場では医療関係者が不在のことも多いため、体育・スポーツを専攻する者にとって必須の知識・手技を習得させ、理論を提供する。本授業では、現場での救命・救急処置を概説し、実際に対応可能となることを目的として、講義・実習を進める。それらを通じ、救急蘇生法などが身につき、各種の受験資格取得などを希望する学生に対する一助ともなることをめざす。この授業は、「救急処置論・実習」についての学習を通じて、本学の教育目標における「体育・健康づくりにおける実践的かつ創造的なリーダーとして、意欲的に取り組めるような能力」を身に付ける科目である。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、科学的支援力、専門的な知識・教養 （指導者基礎力、科学的支援力、専門的な知識・教養 （課題解決力、一般教養・倫理） ）							
	■認知的領域	スポーツ現場で必須の、救命・救急処置について理解できる。 救急処置法を説明し、対処方法について提案して、課題を整理することができる。		○	○				60
	■情意的領域	救急心肺蘇生法などに対し、意欲的に取り組み学習する。骨折・脱臼・筋肉と関節の損傷などに対し、興味・関心を有し、その予防方法について、主体的に探求することができる。	○						20
	■技能的領域	段階的な救急処置法を実践し、遂行し得る能力・知識を身につけ、レポート作成を行うことができる。	○						20

成績評価の基準	授業期間に行った小テスト、心肺蘇生実習態度、レポートなどの各得点を総合的に評価し、60点以上のものを合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	参考書「アトラス応急処置マニュアル」（山本保博監訳、南江堂、原著第９版、2020、＠ 2800円＋税）

履修条件・関連科目	＊心肺蘇生実習は必修です。期末試験期間の金曜日の３限に行う予定です。 実習に参加できなかったものは、欠席届を提出し、学外の機関で心肺蘇生講習（90分以上）を受け、受講証明書を提出すること。この授業以前に受けた心肺蘇生講習受講証明書では実習終了とは認めない。なお、学外の心肺蘇生講習については各自で探して受講すること。 実習の日程は、学外指導員の先生の都合で変更になることもある。	備考(教員メッセージ含む)	講義内容を記した資料をよく読み、予習・復習をすること。とくに真剣な受講・実習態度を重視する。
オフィス・アワー	廣津：水曜日　10時30分～11時30分　研究棟3階　304研究室(要予約)		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	廣津　匡隆	オリエンテーション・救急処置総論	総論についての資料を読む。（30分）
2	〃	傷病者の評価・意識障害の原因	意識障害についての資料を読む。（30分）
3	〃	一次救命処置（心肺蘇生・AED）	一次救命処置についての資料を読む。（30分）
4	〃	呼吸器系の障害と応急処置	呼吸器系障害について資料を読む。（30分）
5	〃	創傷と循環（循環傷害）	創傷と循環障害について資料を読む。（30分）
6	〃	骨・関節・筋肉の損傷（上肢）	骨・関節・筋肉損傷についての資料を読む。（1時間）
7	〃	骨・関節・筋肉の損傷（体幹・脊柱・下肢）	骨・関節・筋肉損傷についての資料を読む。（30分）
8	〃	骨・関節・筋肉の損傷（下肢）	骨・関節・筋肉損傷についての資料を読む。（30分）
9	〃	手技と備品（搬送方法・止血法・包帯の巻き方など）	手技と備品についての資料を読む。（30分）
10	〃	神経系の障害	神経系障害についての資料を読む（30分）
11	〃	高温・低温による障害	高温・低温による障害について復習をする。（30分）
12	〃	異物・中毒・咬傷と刺創	異物・中毒・咬傷と刺創についての資料を読む。（30分）
13	〃	よく遭遇する疾患、知っておくと良い知識	授業内容の資料を読んで復習する（30分）
14	〃	総復習、レポートについて	救急処置論実習に関するレポートを作成し提出する（2時間）
15	〃	心肺蘇生実習（学外指導員による実習）	実習の予習・復習をする（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	トレーニング科学概論 (131A0–1314)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目B)
担当教員名	高井　洋平・赤澤　暢彦			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	–	受け入れ人数	–

授業の概要	本授業は、スポーツ選手のトレーニングを中心に、現代のトレーニング理論の基礎となっている概念や知識について概説する。トレーニングとは、人間の形態や機能をある目的に合致するように改造していくことである。目的に合う適切なトレーニングを行うためには、科学的な知識が必要である。同時に、科学的な知見には限界があり、万能でないことを知っておく必要がある。本講義の内容を習得することにより、体育やスポーツ指導現場において、理論的なトレーニング指導を行うための基盤が得られると期待できる。スポーツ・武道及び体育・健康づくりについての指導や普及の基礎的な内容を理解する科目である。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（×）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	科学的支援力、科学的表現力、専門的な知識・教養							
	■認知的領域	人間の身体能力を目的に応じて変えていくために必要な知識を習得している。 習得した知識を、自身が現場で活用・応用できるような考え方が身についている。					○		60
	■情意的領域	毎回の授業で課される小レポートについて、主体的かつ意欲的に取り組もうとする。			○				40
	□技能的領域								

成績評価の基準	講義の内容を十分に理解・習得できているかを確認するために、期末試験を行う。また、授業中に行うアクティブラーニング（小レポート）の内容も加味する。期末試験と小レポートの合計点が60点以上を合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	高井：基本的に、講義に使用するパワーポイント資料を毎回配布する。必要に応じて、参考図書を紹介する。 赤澤：必要に応じて、適宜資料を配布する。

履修条件・関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	受講生の多くは、過去および現在において、特定のスポーツ種目に携わり、その能力を向上させようと努力しているでしょう。本講義では、自身の能力向上にとって役立つ知識を提供するとともに、それを自身の血肉にするためのアクティブラーニングを行う予定です。

オフィス・アワー	随時可能ですが、事前にアポイントを取るほうが確実です。 （高井：スポーツトレーニング教育研究センター2階・教員室2、y–takai@nifs–k.ac.jp） （赤澤：研究棟3階・302教員研究室、akazawa@nifs–k.ac.jp）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	赤澤　暢彦	トレーニングの基礎と原則	授業内容の予習・復習を行い（1時間）、小レポートで確認する
2	〃	筋・パワー系トレーニング	授業内容の予習・復習を行い（1時間）、小レポートで確認する
3	〃	持久系トレーニング	授業内容の予習・復習を行い（1時間）、小レポートで確認する
4	〃	コンディショニング	授業内容の予習・復習を行い（1時間）、小レポートで確認する
5	〃	腸とトレーニング	授業内容の予習・復習を行い（1時間）、小レポートで確認する
6	〃	脳とトレーニング	授業内容の予習・復習を行い（1時間）、小レポートで確認する
7	〃	動脈とトレーニング	授業内容の予習・復習を行い（1時間）、小レポートで確認する
8	〃	中間テスト（赤澤担当分）	1–7回までの授業を復習する（1時間）
9	高井　洋平	科学的なトレーニングとは？	トレーニングの原理原則についての予習・復習（１時間）を、小レポートで確認する
10	〃	レジスタンストレーニングの効果 - 筋肥大と筋力向上のプログラムの違い -	筋肥大・筋力を規定する要因についての予習・復習（１時間）を、小レポートで確認する
11	〃	パワートレーニングの特異性	ヒトの力－速度－パワー関係についての予習・復習（１時間）を、小レポートで確認する
12	〃	プライオメトリックトレーニングの特異性	伸張反射、筋腱複合体についての予習・復習（１時間）を、小レポートで確認する
13	〃	持久力トレーニングの特異性	運動時のエネルギー供給系についての予習・復習（１時間）を、小レポートで確認する
14	〃	各種トレーニングを組み合わせた複合トレーニングの効果	各トレーニングの特異性・効果についての予習・復習（１時間）を、小レポートで確認する
15	〃	アスリートのトレーニングを考える –ピリオダイゼーションとコンディショニングの理論と実際–	ピリオダイゼーションとコンディショニングの理論について予習・復習（１時間）を、小レポートで確認する
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツメンタルトレーニング論 (131A0-1315)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目B)
担当教員名	幾留　沙智			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2	受け入れ人数	100名程度
授業の概要	スポーツの実施・指導を効果的に行うためには、身体面のみならず心理面についての理解・活用が必要不可欠である。本授業では、メンタルトレーニングに関連する理論と技法について基本的事項を教授する。これにより、スポーツの実施・指導に関連する心理的側面についての専門的な知識・教養が身につくことが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・実施なし、△・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（×）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×） ただし、授業の進捗によって、講義の他に個人で行うワークを実施する可能性がある。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	専門的な知識・教養 （専門的な知識・教養、指導者基礎力、科学的）							
	■認知的領域	スポーツメンタルトレーニングの基礎的知識・技法を理解している。					○		70
	■情意的領域	授業に主体的に取り組もうとする。	○						30
	□技能的領域								

成績評価の基準	認知的領域と情意的領域の合計が60点以上を合格の条件とする。
テキスト、教材 参　考　書	テキストは使用せず、講義資料を基に授業を進める。講義資料はWebClassに掲載予定。
履修条件・ 関連科目	スポーツ心理学を履修していることが望ましいが（理解の深まりが期待されるため）、未履修であっても本授業の履修は可能。
備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	授業についての問合せは随時、まずはメールで連絡をすること（ikudome@nifs-k.ac.jp）。

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	幾留　沙智	オリエンテーション	WebClassの登録・授業アンケートの記入（10分）
2	〃	心理サポートの基礎1	2種類の心理サポートの違いについてまとめる（30分）
3	〃	心理サポートの基礎2	面接における望ましい態度についてまとめる（30分）
4	〃	心理技法を知る1（目標設定）	目標設定シートを完成させる（30分）
5	〃	心理技法を実践する1（パフォーマンスプロファイリング）	自身のパフォーマンスについて分析する（30分）
6	〃	心理技法を知る2（リラクセーション・イメージ）	効果的なイメージトレーニングについてまとめる（30分）
7	〃	心理技法を知る3（注意集中）	効果的な注意集中技法についてまとめる（30分）
8	〃	心理技法を実践する2（情動プロファイリング）	ピークパフォーマンス時の自身の情動について分析する（30分）
9	〃	心理技法の活用を知る1（ストレスのコントロール）	効果的なストレスのコントロール法についてまとめる（30分）
10	〃	心理技法の活用を知る2（心理的コンディショニング）	自身の心理的コンディショニング方法についてまとめる（30分）
11	〃	心理的技法の活用を知る3（チームに関わる心理1）	効果的なチーム作りについてまとめる（30分）
12	〃	心理的技法の活用を知る3（チームに関わる心理1）	効果的なコミュニケーションについてまとめる（30分）
13	〃	心理的技法の活用を知る3（チームに関わる心理3）	指導に関する自身の信念についてまとめる（30分）
14	〃	運動行動変容の理論1	行動理論・認知理論についてまとめる（30分）
15	〃	運動行動変容の理論2	社会的学習理論・合理的行為理論・トランスセオレティカルモデルについてまとめる（30分）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	運動学概論 (131A0-1316)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目B)
担当教員名	金高　宏文			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	160名程度

授業の概要

運動を教える者と学ぶ者とが共有する場の現象は，自然科学の客観的な方法だけでは捉えられない．運動の世界は，人間の視覚や聴覚，体性感覚などが融合された共同主観性世界（動感）と物理・生理・生化学的な客観的事実として形成されている．運動学とは，感覚（主観）的な運動意識現象を現象学的に動感と動感形態の省察から捉えようとしたものであり，効果的な運動指導のために欠くことのできない実践的な運動理論を提供している．本講義では，運動学の主な内容を概括するとともに，受講生自身が発生・習熟した運動技能を振返り，かつ今後の運動の発生・習熟を展望しながら，運動を理解し，促発的な指導するための実践能力の基礎を育成する．

【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり
グループワーク（×）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（×）、 フィールドワーク（△）

授業の到達目標及び成績評価の方　　法

	授業の到達目標	成績評価の方法						
		授業期間				定期試験	その他	割合 %
		授業	テスト	レポート	発表			
ＤＰで目指す資質・能力	実技指導力、指導者基礎力、専門的な知識・教養 （課題解決能力）							
■認知的領域	・運動の発生・習熟に関する理論の概略について説明できる． ・自分自身の動感の構造分析，発生分析できる．		○	○				68
■情意的領域	・運動に関わる事象や理論について興味・関心を持ち，それを積極的に受講生同士で協力して探求する．	○						32
□技能的領域								

成績評価の基準	毎時間，WebClassを用いて，授業ワークを行う（学修カルテに入力する）．そのため，iPadもしくはPCを持参すること．ワーク課題は，書き込み度で評価する．また，授業内容等の理解は，２回の課題レポートに対する達成度を基に評価する．		
テキスト、教材 参　考　書	iPadもしくはPCを持参すること．授業で必要な資料は，「WebClass」よりダウンロードすること．参考図書として「基礎から学ぶスポーツ運動学（佐野淳：大修館，2023，＠2,500円+税）」を推薦する．		
履修条件・ 関連科目	講義室収容人数の関係から１年生の受講は認めない．運動フォームを客観的・定量的に把握・分析をするスポーツバイオメカニクスを履修しておくことが望ましい．	備考(教員メッセージ含む)	・将来，スポーツや武道に積極的に関わろうと考えている学生の受講を望む． ・毎時行なう作業問題は，授業開始と同時に実施するので、遅刻しないこと．
オフィス・アワー	木曜日　15：00-16：00　大学院棟３階　4教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	金高　宏文	オリエンテーション：運動指導に求められる理論を知る．運動，運動学とは…	WebClass で授業内容の復習（15分）
2	〃	運動構造論：運動学習の段階・位相論-運動の動作と動感／運動の発生と習熟	WebClassで授業内容の復習と1回目レポート作成に向けて準備（30分）
3	〃	運動分析論１：動き（動感）を分節し，構造分析する．	WebClassで授業内容の復習と1回目レポート作成に向けて準備（30分）
4	〃	運動分析論２：運動形態（フォーム・動作等）の図形的違いを比較分析する．	１回目レポート（20点）提出とWebClassで授業内容の復習（15分）
5	〃	運動分析論３：運動質の評価カテゴリーを用いて動感形態(フォーム･動作等）を分析する．	WebClassで授業内容の復習と２回目レポート作成に向けて準備（30分）
6	〃	運動転移論：新たな運動感覚（動感）を導く練習・指導の組立て方	WebClassで授業内容の復習と２回目レポート作成に向けて準備（30分）
7	〃	運動発達論：誕生から大人になるまでの運動発生と習熟の軌跡	WebClassで授業内容の復習と２回目レポート作成に向けて準備（30分）
8	〃	補足及びまとめの小テスト（8点）と授業評価	２回目レポート（40 点）提出

授業科目名 (ナンバリングコード)	学校保健 (131A0-1317)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目B)
担当教員名	廣津　匡隆・小牧　梨沙			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	180名程度
授業の概要	本授業では、学校現場において必要とされる学校保健に関する知識や、教員として携わる学校保健活動などについて、中学校・高等学校の学習指導要領にそって学ぶ。とくに、学校保健の現状や保健教育・保健管理・保健組織活動および学校安全管理、また健康づくりについての指導・普及のための基礎的な知識を習得し、学校現場における健康上の問題を把握する能力を身に着けることをねらいとする。 2年生は、運動機能測定（メディカルチェック）を行い、今の自分の体の状態を入学時の状態と比較する。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力		授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	学校教育における学校保健の役割を理解し、学校現場でおこる健康・保健・心身的な諸問題に対応するための実践的知識を得ることができる。	○	○	○				70
	■情意的領域	学校保健に興味・関心を持ち、学校現場を想定しながら積極的な姿勢で学ぶことができる。	○	○	○				30
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業に積極的に取り組む姿勢（出席回数含）および授業時間内に実施する小テスト及びレポートの成績から総合的に評価し、60点以上で合格とする。授業中に私語などで注意を受けた場合は減点の対象とする。
テキスト、教材 参　考　書	テキストは使用せず、授業内容をWebClassに掲載するので、必要であれば各自印刷すること。 （参考書） 学校保健ハンドブック＜第8次改訂＞　教員養成系大学保健協議会　ぎょうせい　2025 学校保健マニュアル＜改訂10版＞　衛藤隆・植田誠治　南山堂　2024 学校保健実務必携《第6次改訂版》　学校保健・安全実務研究会　編著　第一法規　2026

履修条件・関連科目	・1年次の履修を認めない。 ・「健康教育学」「救急処置論・実習」を履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	WebClassに授業内容を掲載しており、テキストに沿った授業ではないため、参考書の購入は不要です。授業時間内に小テスト及びレポートを実施するため、iPadもしくはPCを持参すること（授業に関係のない用途での使用は認めません）。 実習等で欠席の場合は事前に欠席届を提出してください。

オフィス・アワー	保健管理センター：事前にメールで予約してください ※出席回数の確認及び出席ボタンの押し忘れ等の問い合わせには応じません

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	廣津　匡隆 小牧　梨沙	学校保健概説，運動機能測定(メディカルチェック)の説明	WebClass による予習・復習　1時間
2	小牧　梨沙	学校保健のしくみ 学校保健の行政組織、学校保健関連法規、学校保健を担う関係職員	WebClass による予習・復習　1時間
3	〃	児童生徒の心身の機能の発達と健康	WebClass による予習・復習　1時間
4	〃	保健教育（１）　保健分野の学習指導要領、現代社会と健康	WebClass による予習・復習　1時間
5	〃	保健教育（2）　喫煙、飲酒、薬物乱用	WebClass による予習・復習　1時間
6	廣津　匡隆 小牧　梨沙	保健教育（3）　学校における性教育＋メディカルチェック（2年生）	WebClass による予習・復習 1時間
7	〃	保健教育（3）　学校における性教育＋メディカルチェック（2年生）	WebClass による予習・復習　1時間
8	小牧　梨沙	保健管理（1）　健康診断と健康状態の把握	WebClass による予習・復習　1時間
9	〃	保健管理（2）　生涯にわたっての健康の保持増進、健康な生活と疾病の予防、生活習慣の形成	WebClass による予習・復習　1時間
10	〃	保健管理（3）　学校において予防すべき感染症、学校でよく見られる疾患、救急処置	WebClass による予習・復習　1時間
11	〃	保健管理（4）　学校環境衛生、学校安全、安全な社会生活	WebClass による予習・復習　1時間
12	〃	保健管理（5）　学校給食と食育	WebClass による予習・復習　1時間
13	〃	精神保健（1）　発達や行動上の課題、特別支援教育	WebClass による予習・復習　1時間
14	〃	精神保健（2）　心の健康問題とその対応、児童生徒に見られる精神疾患	WebClass による予習・復習　1時間
15	廣津　匡隆	学校でみられる整形外科疾患、運動機能測定（メディカルチェック）のフィードバック	配付資料による復習　1時間
16	小牧　梨沙	教職員の健康管理、教員に求められる学校保健活動	WebClass による予習・復習　1時間

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツと法 (131A0-1318)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目B)
担当教員名	森　克己			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	150名程度
授業の概要	今日のスポーツにおいては、国民の誰もが身近なところで安全にスポーツを楽しむことができるようにすることが求められている。そのため、スポーツに関わる者は、スポーツ事故やスポーツ団体・クラブ等との契約、さらにはスポーツ指導者による体罰・虐待などの人権に関する法的問題に適切かつ迅速に対応するための法的知識並びにスポーツの安全に関する知識を身につけることが重要になっている。この授業では、社会体育指導者や現役のスポーツ選手として必要なこれらの知識を身につけることができるようにすることを目標とする。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（×）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、専門的な知識・教養							
	■認知的領域	スポーツに関する法的問題の基礎知識を身に付ける。 スポーツに関する安全に対する考え方を身に付ける。					○		90
	■情意的領域	授業に積極的に参加し、レポートに積極的に取り組む。	○		○				10
	□技能的領域								

成績評価の基準	学期末試験の成績、毎回の授業時に課されるレポートへの取組みを総合的に評価する。
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：森克己ほか著『標準テキスト・スポーツ法学』（エイデル研究所） 参考書：小笠原正・諏訪伸夫監修、森克己ほか著『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい）『憲法と教育人権』（日本評論社）、『スポーツ法学入門』（体育施設出版）、『リファレンスブック』（日本スポーツ協会）
履修条件・ 関連科目	特になし。
備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	水曜日午後　508研究室

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	森　克己	オリエンテーション：学習の目的、内容、方法、評価のしかた	履修要項・シラバスの予習（10分以上）
2	〃	スポーツに関する法的問題（総論）	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）
3	〃	スポーツ法学の体系・法源①	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）
4	〃	スポーツ法学の体系・法源②	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）
5	〃	スポーツ基本法の概要	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）
6	〃	スポーツの権利性	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）
7	〃	スポーツ団体と競技者の法的諸問題（総論）	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）
8	〃	スポーツ選手の人権問題とスポーツ仲裁制度	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）
9	〃	スポーツにおけるチャイルド・プロテクション①	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）
10	〃	スポーツにおけるチャイルド・プロテクション②	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）
11	〃	スポーツ選手の肖像権・パブリシティ権保障の現状と課題	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）
12	〃	スポーツにおける不法行為	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）
13	〃	スポーツ事故と法的責任①	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）
14	〃	スポーツ事故と法的責任②	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）
15	〃	スポーツ事故と法的責任③	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）
16	〃	（定期試験）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	コーチ学概論 (131A0-3300)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専門科目 (基礎科目B)
担当教員名	金高　宏文			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	130名程度
授業の概要	本講義では，優れたコーチ・指導者になるために必要とされる適切な人間関係を結ぶコミュニケーション能力，コーチング現場やトレーニング現場において発生する諸問題を合理的に整理・解決する課題解決のスキル，選手を取り巻く様々な内的および外的環境要因をマネジメントする能力等について解説する．そのために，受講生自身が受けた（あるいは行なった）コーチングを振返り，かつ卒業後のスポーツリーダーとしての姿を展望しながら，コーチングの実践能力の基礎を育成する． 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技指導力、指導者基礎力、専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・自分自身が受けたコーチングを振返り，自らが関わろうとする将来のコーチング活動への手がかり・指針を説明する． ・スポーツコーチングの基礎的な理論やスキルを理解する．		○	○				68
	■情意的領域	コーチングに関わる事象や理論について興味・関心を持ち，それを積極的にかつ受講生同士で協力して探求しようとする．	○						32
	□技能的領域								

成績評価の基準	毎時間，WebClassを用いて，授業ワークを行う．そのため，iPadもしくはPCを持参すること．ワーク課題は，書き込み度で評価する．また，授業内容等の理解は，２回の課題レポートに対する達成度を基に評価する．
テキスト、教材 参　考　書	PCを持参すること．授業で必要な資料は，「WebClass」よりダウンロードすること． 参考図書として、「ReferenceBook(JASP,4,400円）」「コーチング学への招待（日本コーチング学会編，2017，＠2,916円）」「リーダーが身につけたい25のこと（鈴木義幸：ディスカバー21，200，＠1,500円）」「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『イノベーションと企業家精神』を読んだら（岩崎夏海：ダイヤモンド社，2015，＠1,600円）」「ドラッカー5つの質問（山下淳一郎著，あさ出版，＠1,300円+税）を推薦する．
履修条件・ 関連科目	運動学概論，トレーニング科学概論，スポーツトレーニング実践論を履修しておくことが望ましい．
備考(教員メッセージ含む)	将来，スポーツや武道に積極的に関わろうと考えている学生の受講を望む．
オフィス・アワー	木曜日　15：00～16：00　大学院棟３階　教員研究室４

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	金高　宏文	コーチングの理論概要：Instruction, Teaching, Coaching, Managementの相違点	WebClassで授業内容の復習（15分）
2	〃	コーチングの理論１：傾聴・質問のスキル	WebClassで授業内容の復習と１回目レポート作成に向けて準備（30分）
3	〃	コーチングの理論２：質問・承認のスキル	WebClassで授業内容の復習と１回目レポート作成に向けて準備（30分）
4	〃	コーチングの理論３：課題解決のスキル（GROWモデルの活用）	１回目レポート（30点）提出とWebClassで授業内容の復習（15分）
5	〃	コーチングの理論４：チーム・組織を動かすリーダーシップ，マネジメント力など	WebClassで授業内容の復習と２回目レポート作成に向けて準備（30分）
6	〃	コーチングの理論５：運動を創発・促発する指導技術など	WebClassで授業内容の復習と２回目レポート作成に向けて準備（30分）
7	〃	コーチングの理論６：成長し続けるためのコーチの自己点検と自己組織化	WebClassで授業内容の復習と２回目レポート作成に向けて準備（30分）
8	〃	補足及び授業評価	２回目レポート（30点）提出

授業科目名 (ナンバリングコード)	障がい者スポーツ論 (131A0-1319)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目B)
担当教員名	廣津　匡隆・前田　究			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	５０名
授業の概要	日本の身体障がい者（身障者）数は、総人口の約２％を占めており、近年、身障者スポーツは非常に盛んに行われつつある。本授業では、車椅子スポーツの医・科学的研究成果、パラリンピックなどの国際大会、知的発達障がい者のスポーツなどについて概説する。身体障がい者スポーツの現状と問題点、身障者と健常者の望ましい相互関係について考察し、身障者への接遇態度などが身につくことを可能とする。この授業は、「障がい者スポーツ」についての学習を通じて、本学の教育目標における「国民各層の体育・健康づくりを指導・普及させるような能力」を身に付ける科目です。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、リーダーシップ、専門的な知識・教養 （一般教養・倫理）							
	■認知的領域	身体障がい者スポーツの概要、対象障がい（脊髄損傷など）の病態について理解できる。車椅子スポーツの医・科学的研究成果を概説し、新たな解決方法を提案して、課題を整理することができる。	○	○	○				50
	■情意的領域	知的発達障がい者のスポーツについても理解し、意欲的に身障者スポーツへと取り組むことができる。身障者スポーツの現状と問題点、障がい者と健常者の望ましい相互関係について、興味・関心を持ち、それらの課題について主体的に追求することができる。	○		○				50
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業期間に行った小テスト、授業に対する意欲、レポートの各得点などを合計し、60 点以上のものを合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	参考書…「車椅子マラソン―医・科学的研究と実践指導―」（赤嶺卓哉・前田究 著、不昧堂出版、初版、1997、＠2,200円＋税） 障害者とスポーツ（高橋　明　著　岩波新書　￥700円） 必要とする参考資料は適時紹介し、資料を配付する。		
履修条件・ 関連科目	アスレチックリハビリテーション論・実習、 スポーツ医学を履修していることが好ましい。	備考(教員メッセージ含む)	レポートの提出が必要。とくに真剣な受講態度を重視する。
オフィス・アワー	廣津：水曜日　10時30分～11時30分　研究棟3階　304研究室(要予約) 前田：月曜日～金曜日　8時30分～16時45分　鹿児島県身体障害者福祉協会　099-228-6271		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	廣津　匡隆	障がい者とは	障がい者についての資料を読む。（30分）
2	〃	障がい者スポーツとは	障がい者スポーツについての資料を読む。（30分）
3	〃	障がい者の競技スポーツ	障がい者の競技スポーツについての資料を読む。（30分）
4	〃	パラリンピック競技以外の障がい者スポーツ	障がい者スポーツに関する復習を行う。（30分）
5	前田　究	障がい者スポーツの動機づけ	障がい者スポーツの動機づけについての資料を読む。（30分）
6	〃	障がい者スポーツの意義と理念	障がい者スポーツの意義と理念についての資料を読む（30分）
7	〃	障がい者スポーツとクラス分け	障がい者スポーツとクラス分けについての資料を読む。（30分）
8	〃	障がいに応じたスポーツの工夫・実施	障がいに応じたスポーツの工夫・実施についての資料を読む。（30分）
9	〃	視覚・聴覚障がい者とスポーツ	視覚・聴覚障がい者とスポーツについての資料を読む。（30分）
10	〃	知的障がい者とスポーツ	知的障がい者とスポーツについての資料を読む。（30分）
11	〃	精神障がい者とスポーツ	精神障がい者とスポーツについての資料を読む。（30分）
12	〃	重度障がい者とスポーツ	重度障がい者とスポーツについての資料を読む。（30分）
13	〃	障がい者とのコミュニケーション	障がい者とのコミュニケーションについての資料を読む。（30分）
14	〃	障がい者スポーツと安全管理	障がい者スポーツにおける安全管理のあり方についての資料を読む（30分）
15	廣津　匡隆	本授業のまとめ・最終レポート発表	レポートを作成し提出する。（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	武道学概論 (131A0–1320)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目B)
担当教員名	前阪　茂樹・小澤　雄二・中村　勇			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	50名程度
授業の概要	この科目は，武道における指導や普及の基礎的な内容を理解する科目である。武道の歴史、特性、概念、流派、競技（柔道・剣道）に内在する文化性を概観して学び、近代スポーツとは異なる武道の基礎的な内容を理解することを目標としている。 授業方法については、武道全般を俯瞰する内容、柔道について俯瞰する内容、剣道について俯瞰する内容の三つの視点から講義を進めていくこととする。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（×）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	専門的な知識・教養 （一般教養・倫理）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	武道の歴史や特性及び柔道・剣道に関する基礎的な内容を理解することができる。	○		○		○		85
	■情意的領域	武道について関心を持ち、学習しようとする意志がある。（取り組む姿勢）	○		○				15
	□技能的領域								

成績評価の基準	※本科目は3人の武道教員によるオムニバス形式のリレー講義である。上記の評価方法を考慮した上で、中村（勇）30点、小澤30点、前阪（試験含め40点）、合計100点で評価し、60点以上をもって単位認定とする。
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて適宜資料を準備する。 購入が望ましいテキスト：武道論十五講（不昧堂）、武道を知る（不昧堂）
履修条件・関連科目	なし
備考(教員メッセージ含む)	武道課程の学生については必修科目である。
オフィス・アワー	前阪：水曜日15:00（506研究室）、中村：水曜日12:00（503研究室）、小澤：随時（502研究室）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中村　勇	武道の歴史：古代から鎌倉期まで	約30分間の授業内容の振り返り
2	〃	武道の歴史：戦国期から江戸末期まで	約30分間の授業内容の振り返り
3	〃	武道の歴史：明治維新から現代まで	約30分間の授業内容の振り返り
4	〃	武道の伝統と競技化・国際化	約１時間、レポートの作成の準備
5	〃	武道のこころ（精神、礼法）	約１時間、レポートの作成
6	小澤　雄二	柔道論	約30分間の授業内容の振り返り
7	〃	柔道と心理学	約30分間の授業内容の振り返り
8	〃	柔道と力学	約30分間の授業内容の振り返り
9	〃	柔道と体力トレーニング学	約30分間の授業内容の振り返り
10	〃	柔道とスポーツ医学	約30分間の授業内容の振り返り
11	前阪　茂樹	武道の理念と特性～その1 「武道とスポーツ」	約30分の講義内容の振り返り
12	〃	武道の理念と特性～その2 「柔道と剣道」	約30分の講義内容の振り返り
13	〃	剣道に内在する武道文化性①	約30分の講義内容の振り返り
14	〃	剣道に内在する武道文化性②	約30分の講義内容の振り返り
15	〃	武道の稽古・修行論	約30分の講義内容の振り返り
16	〃	試験（前阪担当分）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	コンディショニング論・実習 (131B0-7300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	藤田　英二			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	40人程度
授業の概要	本授業は疲労回復やウォーミングアップ手段としてのスポーツマッサージ法（ストレッチ含む）、ならびにスポーツによるケガの予防や再発防止に役立つテーピング法を教授する。これにより、当該領域における実技力ならびに指導者基礎力が養われることが期待できる。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、指導者基礎力、科学的支援力、専門的な知識・教養 （実技力、指導者基礎力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	スポーツマッサージ法では基本的手技の名称とその具体的な手法について理解する。 テーピング法では、テーピングの目的や基本手技の手法について理解する。	○						10
	■情意的領域	スポーツマッサージ法やテーピング法の実習に対し、意欲的に取り組む。	○						20
	■技能的領域	スポーツマッサージ法やテーピング法において、基本的な手技ができるようになっている。		○					70

成績評価の基準	出席状況、授業への取り組み態度、およびテーピング法の実技試験にて評価を行う。
テキスト、教材 参　考　書	参考資料は必要に応じて配布する。

履修条件・関連科目	解剖生理学を履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	受講希望者が受け入れ人数を超過する場合があるため、初回授業のオリエンテーション時に履修希望者を対象とした抽選会を行うことがある。履修希望者は必ずこの1回目の授業に参加し、必要に応じて抽選をうけること。この抽選会に参加できない者は、初回授業日の前日までにメールなどで必ず連絡すること（fujita@nifs-k.ac.jp）。抽選日以降の履修相談にはいっさい応じることはできない。この授業に関するすべての連絡は、基本的にWebClass上で行う（必ず定期的にチェックすること）。※場合によりテーピング実技に使用するテープは各自で準備する必要がある。

オフィス・アワー	随時：まずはメールにて相談すること（fujita@nifs-k.ac.jp）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	藤田　英二	オリエンテーション	
2	〃	スポーツマッサージの歴史	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
3	〃	スポーツマッサージの手技・手法	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
4	〃	スポーツマッサージ実技	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
5	〃	テーピングオリエンテーション	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
6	〃	足部のアーチに対するテーピング法	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
7	〃	肉ばなれに対するテーピング法	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
8	〃	肘関節内側側副靱帯損傷に対するテーピング法	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
9	〃	足関節のテーピング法：①（基本のテーピング）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
10	〃	足関節のテーピング法：②（バスケット・ウィーブ）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
11	〃	足関節のテーピング法：③（ドレイクメソッド）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
12	〃	膝前十字靱帯損傷に対するテーピング法	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
13	〃	足関節テーピング法のおさらい	テーピング実技試験
14	〃	足関節テーピング法のおさらい	テーピング実技試験
15	〃	足関節テーピング法のおさらい	テーピング実技試験

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ実践論 (131B3-1300)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	北村　尚浩・舟木　泰世・工藤　保子・宮本　和幸・青島　健太			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	設定なし
授業の概要	わが国の生涯スポーツ・プロモーション、障害者スポーツ、スポーツとメディア、スポーツとボランティアの各論について学習する。生涯スポーツ政策の現状と課題を、実践者の立場から理解を深めることを目標とする。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	専門的な知識・教養 （専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	各領域における生涯スポーツ政策の現状と課題について理解する		○	○				60
	■情意的領域	授業参加状況及び質疑応答への参加態度評価	○			○			40
	□技能的領域								

成績評価の基準	特に積極的な受講態度とレポート提出状況を重視して、総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	適宜指示する。		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	本授業科目は非常勤による集中講義として開講する。
オフィス・アワー	授業の前後に対応する		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	舟木　泰世	これまでのスポーツ行政・政策の流れ	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）
2	〃	生涯スポーツ政策について	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）
3	〃	スポーツ庁設置・第2期スポーツ基本計画について	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）
4	〃	テーマ：スポーツによる地域活性化策を考える（予定）	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）
5	工藤　保子	生涯スポーツとスポーツボランティアの位置づけ・概要	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）
6	〃	スポーツイベントとスポーツボランティア	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）
7	〃	障害者スポーツとスポーツボランティア	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）
8	〃	スポーツボランティアのマネジメントワーク	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）
9	青島　健太	プロ選手とアマチュア選手	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）
10	〃	プロ野球とホームタウン	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）
11	〃	生涯スポーツ振興におけるトップアスリートの役割	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）
12	〃	アスリートのセカンドキャリア	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）
13	宮本　和幸	生涯スポーツと現代メディア（国内編）	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）
14	〃	ディスカッション	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）
15	〃	生涯スポーツと現代メディア（国外編）	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）
16	〃	ディスカッション	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	武道史 (131B0-1301)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	中村　勇			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	50名程度
授業の概要	古代から現代に至るまでの武技/武術/武道の歴史的変遷について、各時代との関わり合いを含めて概説する。 武道の流派・技術・思想・道具の成立や変遷を知ることで、武道の「伝統」と「本質」を理解し、武道を指導や普及させるための専門的、応用的な内容を身につけることを目的とする。 本授業は講義方式で，ビデオ映像，配付資料、タブレット端末等を用いながら実施する。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方　法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理、科学的表現力、専門的な知識・教養 （一般教養・倫理、科学的表現力、専門的な知識・教養）							
	■認知的領域	武道の歴史的変遷について総合的に理解している 現代武道の成立過程について基本的知識を保有している	○	○	○				60
	■情意的領域	武道の歴史や伝統を理解しようと意欲的に講義に取り組もうとする	○	○	○	○			40
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業評価、授業小テスト、課題レポートの合計得点が60 点以上を合格とする 1/3以上の欠席がある場合は単位を認定しない 各授業時の受講態度が著しく悪い場合（イヤホン装着、ゲーム）はその授業の出席を認めない
テキスト、教材 参　考　書	・スライド資料および配付資料は事前にweb-class に掲載するので必要に応じてダウンロードすること ・講義当日にも資料を配付する

履修条件・関連科目	武道関連の講義・実技の事前履修や武道種目の経験が望ましい	備考(教員メッセージ含む)	本授業はWebClassを利用するのでPC、タブレット／PCの持参を推奨する。スマートフォンでの操作は保障しない。座席指定をする。
オフィス・アワー	火曜日12時～13時　他随時　５０３教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中村　勇	オリエンテーション・古代～中世期の戦闘	講義の復習（30分）
2	〃	中世武士の技法と兵の道	Web-class 資料の予習と復習（30分）
3	〃	戦国期の兵法	Web-class 資料の予習と復習（30分）
4	〃	武術流派の発展	Web-class 資料の予習と復習（30分）
5	〃	江戸前期の社会と武芸/復習1	Web-class 資料の予習と復習（30分）
6	〃	江戸中期の武芸：竹刀打込稽古	Web-class 資料の予習と復習（30分）
7	〃	江戸期の武術理論と武士道	Web-class 資料の予習と復習（30分）
8	〃	江戸後期の武術	Web-class 資料の予習と復習（30分）
9	〃	明治維新と武術/復習2	Web-class 資料の予習と復習（30分）
10	〃	講道館柔道の誕生	Web-class 資料の予習と復習（30分）
11	〃	大日本武徳会・学校武道	Web-class 資料の予習と復習（30分）
12	〃	戦時体制下～戦後の武道	Web-class 資料の予習と復習（30分）
13	〃	武道の国際史1	Web-class 資料の予習と復習（30分）
14	〃	武道の国際史2	Web-class 資料の予習と復習（30分）
15	〃	これからの武道史/復習3	Web-class 資料の予習と復習（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	運動生化学 (131B0-1302)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	吉田　剛一郎			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	150名程度
授業の概要	分子と化学反応を基礎にして、生命現象を考えるのが生化学である。スポーツマンに身近な疲労、およびドーピングをテーマとして、運動にともなうからだの変化について、生化学的な面から関連づけて講じる。運動がからだにおよぼす影響を科学的に理解できる能力を身に付ける科目である。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理、科学的表現力、専門的な知識・教養 （課題解決力、科学的支援力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	1．疲労、2．ドーピングの２部に分けて展開される中で、運動にともなうからだの変化を総合的に理解することができる。			○				70
	■情意的領域	適切な受講姿勢を保ち、積極的に作業課題に取り組むことができる。	○						30
	□技能的領域								

成績評価の基準	認知的領域（レポート）：情意的領域（授業）＝７０：３０の比率で評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	・講義テキスト（授業時に配付する） ・長尾愛彦 著『スポーツと疲労』（鹿屋体育大学），『スポーツとくすり－アンチ・ドーピング－』（熊日出版）		
履修条件・ 関連科目	生物化学論・スポーツ栄養学・運動生理学・解剖生理学	備考(教員メッセージ含む)	運動に関わる者に必要となる科学的な知識について具体例をあげながら説明する。
オフィス・アワー	随時　３０７研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	吉田　剛一郎	オリエンテーション（授業の概要・成績評価の方法など）	授業の到達目標を復習する。（１時間）
2	〃	スポーツマンの疲労・疲労研究の歴史・疲労の定義	テキストの疲労研究の歴史・定義を復習する。（１時間）
3	〃	疲労に関する諸原則・疲労の現れ方・環境条件と疲労	テキストの疲労に関する諸原則・現れ方・環境条件を復習する。（１時間）
4	〃	疲労の学説（原因）①（疲労物質説・力源消耗説）	テキストの疲労の学説（原因）を復習する。（１時間）
5	〃	疲労の学説（原因）②（物理化学的変調説）	テキストの疲労の学説（原因）を復習する。（１時間）
6	〃	疲労の学説（原因）③（内分泌説・神経中枢説・弾性説）	テキストの疲労の学説（原因）を復習する。（１時間）
7	〃	トレーニングと疲労（超回復現象の生化学的意味）	テキストのトレーニングと疲労を復習する。（１時間）
8	〃	疲労を回復するには①（疲労物質説・力源消耗説から考えられる方法）	テキストの疲労の回復を復習する。（１時間）
9	〃	疲労を回復するには②（物理化学的変調説・内分泌説・中枢神経説から）	テキストの疲労の回復を復習する。（１時間）
10	〃	疲労を回復するには③（弾性説から）・効果的なトレーニングを行うには	テキストの疲労の回復を復習する。（１時間）
11	〃	ドーピングについて①（語源・定義の変遷・歴史）	テキストのドーピングの語源・定義・歴史を復習する。（１時間）
12	〃	ドーピングについて②（分類・禁止される理由・検査）	テキストのドーピングの分類・禁止理由・検査を復習する。（１時間）
13	〃	くすりについて（効果・副作用・スポーツ選手のくすりの使用の是非）	テキストのくすりを復習する。（１時間）
14	〃	アンチ・ドーピング①（大学生のドーピングに対する考え方の分析から）	テキストのアンチ・ドーピングを復習する。（１時間）
15	〃	アンチ・ドーピング②（ドーピングについて考えておく必要のある注意事項）	テキストのアンチ・ドーピングを復習する。（１時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	アスレチックトレーナー論 (131B2-1303)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	藤田　英二・廣津　匡隆			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	100名程度
授業の概要	一般的なリハビリテーション医科学の解説とともに、アスレチックトレーナーの役割、対象となる各種疾患の病態について論説する。本授業では、スポーツ外傷・障害の部位および疾患別リハビリテーションと、主な実践者であるアスレチックトレーナーのスポーツ現場での役割や活動に必要な基礎知識について講義を進める。これにより、実際にアスレチックトレーナーのスポーツ現場での役割に関する知識が身につき、将来この分野での就業などを希望する学生への一助となることを目指す。この授業は、アスレチックトレーナーについての学習を通じて、本学の教育目標における「スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する知識を活用できるような能力」を身に付ける科目である。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、科学的支援力、専門的な知識・教養 （指導者基礎力、科学的支援力、専門的な知識・教養 （コミュニケーション力、一般教養・倫理））							
	■認知的領域	アスレチックトレーナーが行うリコンディショニングの概念、対象となる各種疾患の病態について理解できる。これらを知ることで、スポーツ外傷・障害に対する新たな解決方法を提案できるよう、課題を整理することができる。		○	○				55
	■情意的領域	スポーツ外傷・障害後のトレーニング計画の具体的な立案方法について理解するとともに、当該分野への興味・関心を提供し、主体的に勉学することができる。	○						35
	■技能的領域	令和6年度に新入生として入学した履修生は、授業のなかでメディカルチェックを実施する。このチェックを受けることでスポーツ外傷・障害の予防に対する興味・関心を提供することができる。	○						10

成績評価の基準	授業レポート（その他の課題など）が提出されているという条件で、授業態度（意欲）、小テストならびに提出されたレポート内容などの各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。 ,
テキスト、教材 参　考　書	参考書：『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト（①アスレティックトレーナーの役割、③スポーツ外傷・障害の基礎知識、⑤検査・測定と評価、⑦アスレティックリハビリテーション）』（公益財団法人日本スポーツ協会）

履修条件・関連科目	1年次生の受講は認めない。救急処置論・実習を履修していることが好ましい。 令和6年度に新入生として入学した履修者に対してメディカルチェックを行うので参加すること。	備考(教員メッセージ含む)	テキストや配付資料に沿って授業を行うので、準備をし、予習・復習をすること。特に真面目な受講態度を重視する。
オフィス・アワー	廣津：水曜日　10時30分～11時30分　研究棟3階　304研究室（要予約）、藤田：メールにて相談すること（fujita@nifs-k.ac.jp）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	藤田　英二	オリエンテーション	
2	〃	スポーツ現場におけるアスレチックトレーナーの歴史と日本の現状	WebClassにて配付した資料で予習・復習を行っておく。（1時間）
3	〃	スポーツ現場におけるアスレチックトレーナーの役割	WebClassにて配付した資料で予習・復習を行っておく。（1時間）
4	〃	スポーツ現場におけるアスレチックトレーナーの倫理	WebClassにて配付した資料で予習・復習を行っておく。（1時間）
5	〃	リコンディショニング総論１	WebClassにて配付した資料で予習・復習を行っておく。（1時間）
6	〃	リコンディショニング総論２	WebClassにて配付した資料で予習・復習を行っておく。（1時間）
7	〃	アスレチックトレーナーが行う測定と評価	WebClassにて配付した資料で予習・復習を行っておく。（1時間）
8	〃	アスレチックトレーナーが知っておくべきアンチ・ドーピング	WebClassにて配付した資料で予習・復習を行っておく。（1時間）
9	〃	アスレチックトレーナーに関わるトピックス	WebClassにて配付した資料で予習・復習を行っておく。（1時間）
10	藤田　英二 廣津　匡隆	メディカルチェック①	WebClassにて配付した資料で予習・復習を行っておく。（1時間）
11	〃	メディカルチェック②	WebClassにて配布した資料で予習・復習を行っておく。（1時間）
12	廣津　匡隆	部位・疾患別リハビリテーション：体幹・脊椎	リハビリテーション（体幹・脊椎）についての資料を読む。（1時間）
13	〃	部位・疾患別リハビリテーション：上肢	リハビリテーション（上肢）についての資料を読む。（1時間）
14	〃	部位・疾患別リハビリテーション：股関節・大腿・膝	リハビリテーション（股関節・大腿・膝）についての資料を読む。（１時間）
15	〃	部位・疾患別リハビリテーション：下腿・足	リハビリテーション（下腿・足）についての資料を読む。（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	アスレチックトレーナー実習 (131B0-6300)	授業形態	実習	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	藤田　英二			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	20人程度
授業の概要	本授業は、「アスレチックトレーナー論」で得た知識を基に、実習を通じて当該分野に対するさらなる知識と技能を身につけることを目標とする。これにより、リコンディショニングに必要なアスレチックトレーニングの課題解決力、科学的支援力、実技力ならびに実技指導力が身につくことが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、科学的支援力、専門的な知識・教養 （実技指導力、課題解決力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	スポーツ活動を安全に実施できる環境整備と安全管理能力について理解する。また、運動器の機能解剖を基に、スポーツ外傷・障害について理解し、リコンディショニングに必要なアスレチックトレーニングの計画作成・実施に必要な知識を得る。			○				60
	■情意的領域	当該分野に興味・関心を持ち、意欲的に取り組む意思を持つ。	○						20
	■技能的領域	リコンディショニングを目的としたアスレチックトレーニングの実施に必要な基本手技ができるようになる。	○						20

成績評価の基準	出席状況、授業への取り組み状況、レポート課題により総合的に評価する。
テキスト、教材 参　考　書	参考資料は必要に応じて配布する。 参考書：「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨」

履修条件・関連科目	「アスレチックトレーナー論」を履修済みでなくてはならない。 解剖生理学、スポーツ医学、救急処置論・実習は履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	受講希望者が受け入れ人数を超過する場合は、1回目のオリエンテーション時に抽選会を行う。この抽選会に参加できない者は、必ず抽選日までにメールなどで連絡すること（fujita@nifs-k.ac.jp）。抽選日以降の履修相談にはいっさい応じない。 また、履修人数が少ない場合では、実施できない実技があるため、授業内容がシラバスと変更される可能性がある。 この授業のすべての連絡は、基本的にWebClass上で行う（必ず定期的にチェックすること）。※場合によりテーピング実技に使用するテープは各自で準備する必要がある。

オフィス・アワー	随時：まずはメールにて相談すること（fujita@nifs-k.ac.jp）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	藤田　英二	オリエンテーション	
2	〃	救急処置・応急処置について（講義）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
3	〃	PRICE処置と熱中症予防について（講義）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
4	〃	心肺蘇生・アイシング等実技	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
5	〃	頚部～腰部の構造と末梢神経支配（講義）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
6	〃	頚部～腰部のケガと脳振盪（講義）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
7	〃	肩関節の構造とケガ（講義）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
8	〃	上肢の構造とケガ（講義）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
9	〃	股関節～大腿部の構造とケガ（講義）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
10	〃	膝関節の構造とケガ①（講義）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。

11	〃	膝関節～足関節の構造とケガ（講義）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分)。
12	〃	ROM、MMTとその他の評価法（講義＆実技）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分)。
13	〃	体表の触診と徒手検査（講義＆実技）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分)。
14	〃	肩関節回旋腱板と股関節のトレーニング（実技）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分)。
15	〃	体幹のトレーニング（実技）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分)。

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ産業論 (131B0-1304)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	相原　正道			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	100名程度

授業の概要

スポーツ産業は1980年代より広く認識されるようになり，近年その規模および重要性が益々高まっている産業領域である．
本授業では主に講義を中心として，産業およびスポーツ産業の定義から，スポーツ産業に関する用語や理論について概説する．また個々の領域であるスポーツ用品産業，スポーツメディア産業，スポーツイベント産業，スポーツ施設空間産業，プロスポーツ産業などの内容や構造について概説する．スポーツに関する産業を成長発展させるための専門的・応用的な知識や考え方・意欲を身につける科目である．また，科学的表現力，専門的な知識・教養が身につくことが期待される．

【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり
グループワーク（△）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（×）

授業の到達目標及び成績評価の方法

	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
ＤＰで目指す資質・能力	科学的表現力、専門的な知識・教養 ()								
■認知的領域	スポーツ産業に関する知識を統合し，産業の視点からスポーツを捉えることができる．またそれ自体やその課題について分析し，説明できる．		○	○	○				50
■情意的領域	スポーツ産業について興味・関心を持ち，学ぶ姿勢やその課題解決に向かって意欲的に取り組む意思を持つ．		○	○	○				50
□技能的領域									

成績評価の基準	2/3 以上出席している者のみ評価の対象とする．		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：スポーツがつくる未来 相原正道・大島良隆著 晃陽書房 2024年 3,200円. 参考書：アディダス vs. プーマ もうひとつの代理戦争 バーバラ・スミット著 ランダムハウスジャパン 2010年 820円 DVDブック サッカーマーケティング 広瀬一郎 著 ブックハウスHD 2006年 4,500円 SHOE DOG フィル・ナイト著 東洋経済新報社 2017年 1,980円		
履修条件・ 関連科目	スポーツマネジメント概論，スポーツ社会学，生涯スポーツ学概論，体育・スポーツ史，生涯スポーツ学総論	備考(教員メッセージ含む)	iPad等のタブレットではなく，ルーズリーフやノートに直筆で授業ノートを作成すること．
オフィス・アワー	aihara@osaka-ue.ac.jp 成績に関することなど返信できないこともあります。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	相原　正道	スポーツ産業とは（オリエンテーションと概論）	シラバスの確認，スポーツニュースの収集（1時間）
2	〃	スポーツと企業	シラバスの確認，スポーツニュースの収集（1時間）
3	〃	第4次産業革命 ドイツのインダストリー4.0政策・adidas	シラバスの確認，スポーツニュースの収集（1時間）
4	〃	スポーツDXブンデスリーガ・米国スポーツ施設	シラバスの確認，スポーツニュースの収集（1時間）
5	〃	ヘルスケア産業　フィットネス・医療・福祉産業	シラバスの確認，スポーツニュースの収集（1時間）
6	〃	スポーツDX産業 テーマパーク・NFT・メタバース	シラバスの確認，スポーツニュースの収集（1時間）
7	〃	スポーツ・情報通信産業　スポーツベティング・eスポーツ産業	シラバスの確認，スポーツニュースの収集（1時間）
8	〃	スポーツ・情報通信産業　ガバナンス・人種差別・五輪汚職・広告代理店	シラバスの確認，スポーツニュースの収集（1時間）
9	〃	スポーツ・ツーリズム産業　スキー・スケート産業	シラバスの確認，スポーツニュースの収集（1時間）
10	〃	スポーツと食品産業	シラバスの確認，スポーツニュースの収集（1時間）
11	〃	スポーツ用品産業　NIKE	シラバスの確認，スポーツニュースの収集（1時間）
12	〃	格闘技産業　IP・ファンダム・ボクシング・プロレス・空手	シラバスの確認，スポーツニュースの収集（1時間）
13	〃	スポーツ教育産業　甲子園・部活動・NCAA	シラバスの確認，スポーツニュースの収集（1時間）
14	〃	スポーツエコシステム　スポーツ庁・NTC強化	シラバスの確認，スポーツニュースの収集（1時間）
15	〃	スポーツ産業論　総括	シラバスの確認，スポーツニュースの収集（1時間）
16	〃	学期末試験は行わない	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ文化論 (131B0-1305)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	田　暁潔			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	30名程度
授業の概要	この授業は、スポーツを文化的な視点から理解するための理論と方法を、具体的な事例を通じて学習することを目的とする。特に、スポーツ人類学の視点から、世界各地の地域集団で実践されてきたスポーツや遊びを紹介し、その歴史的・社会的・文化的意味を理解するための知識を身に付ける。学んだ知識を応用し、スポーツに関連する社会問題を多角的な視点から考える力を養う。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	専門的な知識・教養 （課題解決力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	スポーツ人類学のアプローチが理解できる。スポーツ事象の多様さと複雑さを多角的な視点から考えることができる。	○		○	○			50
	■情意的領域	スポーツ文化について関心を持ち、課題にを意欲的に取り組むことができる。	○		○	○			50
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業時の小レポートまたは小テスト、グループワーク（発表を含む）、および授業の取り組む状況によって総合的に評価する。
テキスト、教材 参　考　書	毎回資料を配布する。授業後の参考書として、次のものを推薦する。 「スポーツ文化論」(寒川恒夫編著,杏林書院, 2003)「スポーツ人類学」（宇佐美隆憲編著,明和出版,2004,@3955円） 「スポーツ人類学：グローバリゼーションと身体」（ニコ・ベズニエ, スーザン・ブロウネル, トーマス・F・カーター著, 川島浩平 [ほか]訳,共和国, @4950円）

履修条件・関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	特になし
オフィス・アワー	授業の前後に対応する		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	田　暁潔	（オンライン授業）オリエンテーション、スポーツ文化論の概要	講義全体の構成を復習（30分）
2	〃	（オンライン授業）スポーツ人類学の視点	スポーツ人類学の着目点を復習（30分）
3	〃	（オンライン授業）スポーツ文化を理解するためのフィールドワーク	フィールドワークについて復習（30分）
4	〃	（オンライン授業）ドキュメンタリー鑑賞・グループワーク（I）	小レポート、グループ発表（授業内）
5	〃	（オンライン授業）スポーツ文化複合	スポーツ文化複合の着目点を復習（30分）
6	〃	（オンライン授業）民族生活とスポーツ文化	生業様式とスポーツ文化との関連を復習（30分）
7	〃	（オンライン授業）伝統スポーツと無形文化遺産	伝統スポーツと無形文化遺産の関連を復習（30分）
8	〃	（オンライン授業）ドキュメンタリー鑑賞・グループワーク（II）	小レポート、グループ発表（授業内）
9	〃	（オンライン授業）エスノサイエンスと身体文化	身体文化について復習（30分）
10	〃	（オンライン授業）子ども期の遊びと文化化	遊びと文化化について復習（30分）
11	〃	（オンライン授業）植民地支配と近代スポーツの普及	植民地支配と近代スポーツとの関連について復習（30分）
12	〃	(オンライン授業)ドキュメンタリー鑑賞・グループワーク（III）	小レポート、グループ発表（授業内）
13	〃	(オンライン授業)グローバリゼーションとスポーツ文化の変容	グローバリゼーションとスポーツとの関連を復習（30分）
14	〃	(オンライン授業)スポーツ人類学の視点から社会問題を考える（１）： 子どもの身体活動	復習として、スポーツ人類学の視点から子どもの身体活動の諸課題を考える（30分）
15	〃	(オンライン授業)スポーツ人類学の視点から社会問題を考える（２）：スポーツと環境保全	復習として、スポーツ人類学の視点から開発の諸問題を考える（30分）
16	〃	(オンライン授業)まとめ・最終グループ発表	小レポート、グループ発表（授業内）

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツトレーニング実践論 (131B1-3306)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	永原　隆・三浦　健			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	60名程度
授業の概要	スポーツトレーニングの効果的な推進は，適切な目標設定とそれを達成するための課題設定，課題解決方法や手段の選択・創造，時間資源を考慮した計画立案，効果的な実践，成果の測定・評価及び診断するという一連のトレーニングサイクル（D+PDCAサイクル）を循環させる能力が要求される．本講義では，トレーニングサイクルを形成する理論とCSCS資格で要求される各種トレーニングの方法論などを概説すると同時に，受講生が自分自身のトレーニングを振返り，かつ今後のトレーニングを立案しながら，トレーニングの実践能力の基礎を育成する．さらに，スポーツトレーニングの実践過程を記録し，分析・評価する実践的研究法（事例研究）についても言及し，その研究法の基礎が身につくことも期待している． 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方　　法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力		授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・自分自身のトレーニングを振返り，自らが関わろうとする将来のトレーニング活動への手がかり・指針を説明する． ・スポーツトレーニングの基礎的な理論やスキルを理解する．		○	○				70
	■情意的領域	・トレーニングに関わる事象や理論について興味・関心を持ち，それを積極的にかつ受講生同士で協力して探求しようとする．	○						30
	□技能的領域								

成績評価の基準	WebClassを用いて，授業ワークを行う．そのため，i-PadもしくはPCを持参すること．また，授業内容等の理解は，課題レポートに対する達成度を基に評価する．テストは，CSCSの資格認定試験の問題の理解度で評価する．
テキスト、教材 参　考　書	i-PadもしくはPCを持参すること．必要に応じて資料を配布するが、詳しい資料は「WebClass」より授業後にダウンロードすること． 参考図書として，「競技力向上のトレーニング戦略（ボンパ：大修館、2006、@ 4,000円）」，「スポーツトレーニング理論（村木征人：ブックハウスHD、1994、@ 4,635）」，「NSCA決定版ストレングストレーニング＆コンディショニング第4版（ブックハウスHD、2018、@ 12,000）」を推薦する．

履修条件・ 関連科目	バイオメカニクス，運動生理学を履修しておくことが望ましい．	備考(教員メッセージ含む)	将来，スポーツや武道に積極的に関わろうと考えている学生の受講を望む．
オフィス・アワー	三浦：随時　総合体育館教員室 永原：随時　大学院棟3階　教員室1		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	永原　隆 三浦　健	オリエンテーション，CSCSの概要説明	Web-Class で授業内容の復習(15分)
2	〃	トレーニングのための解剖生理学	授業内容の復習（15分）
3	永原　隆	スポーツトレーニング計画の概要，計画の準備，ゴールの設定	Web-Class で授業内容の復習(15分)
4	永原　隆 三浦　健	トレーニングのためのバイオメカニクス	授業内容の復習（15分）
5	永原　隆	スポーツパフォーマンスの構造論と目標設定論１	Web-Class で授業内容の復習(15分)
6	永原　隆 三浦　健	トレーニングのための栄養学	授業内容の復習（15分）
7	永原　隆	スポーツパフォーマンスの構造論と目標設定論２	Web-Class で授業内容の復習(15分)
8	永原　隆 三浦　健	トレーニングのためのスポーツ心理学	授業内容の復習（15分）
9	永原　隆	スポーツトレーニングの手段・方法論１	Web-Class で授業内容の復習(15分)
10	永原　隆 三浦　健	トレーニングのためのプログラムデザイン	授業内容の復習（15分）
11	永原　隆	スポーツトレーニングの手段・方法論２	Web-Class で授業内容の復習(15分)
12	永原　隆 三浦　健	トレーニングのためのエクササイズテクニック	授業内容の復習（60分）
13	永原　隆	スポーツトレーニングの計画論１	Web-Class で授業内容の復習（15分）
14	〃	スポーツトレーニングの計画論２，スポーツトレーニング評価・管理論	WebClassで授業内容の復習
15	永原　隆 三浦　健	補足とまとめテスト（30点）、授業評価	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ政策論 (131B3–1307)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	日下　知明			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3	受け入れ人数	70名程度
授業の概要	スポーツ政策に関する基本的な知識及び政策に関する基本的な概念や理論を概説する。スポーツ政策に関する基本的な制度や組織について理解するとともに、政策に関する基本的な概念や理論に基づいてスポーツ政策のあり方を理解する。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	専門的な知識・教養 （専門的な知識・教養、課題解決力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	スポーツ政策に関する基本的な制度や組織を説明することができる。 政策に関する基本的な概念や理論を用いてスポーツ政策のあり方について考察することができる。			○				80
	■情意的領域	授業の課題に対して意欲的に取り組もうとする。	○		○				20
	□技能的領域								

成績評価の基準	・授業の出席回数が2/3以上の者のみを成績評価の対象とする。 ・各授業回の振り返り課題及び最終レポート課題により総合的に評価する。
テキスト、教材 参　考　書	・テキストは使用せず、資料はWebClassへ掲載する。 ・参考書：齋藤健司・横山勝彦・真山達志・出雲輝彦[編著](2025)『スポーツ政策学』成文堂、真山達志・成瀬和弥[編著](2021)『公共政策の中のスポーツ』晃洋書房、成瀬和弥・真山達志[編著](2023)『地方におけるスポーツ価値実現の実像』晃洋書房

履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	・授業に関する情報はWebClassメールを通じて配信するため、受講生は必ずWebClassのコース登録を行うこと。 ・授業中にWebClassを使用するため、授業にはWebClassへ接続できる情報端末を必ず持ってくること。 ・授業内容等は受講生の人数やその他事情により変更になる場合がある。

オフィス・アワー	随時 (607研究室)。ただし、事前にメール (t–kusaka@nifs–k.ac.jp) にて予約をしておくことが望ましい。

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	日下　知明	授業の内容や評価等の説明、公共的問題と政策	授業内容の復習 (60分)
2	〃	体育・スポーツ行政組織	授業内容の復習 (60分)
3	〃	スポーツ政策と政策アクター	授業内容の復習 (60分)
4	〃	スポーツ財政	授業内容の復習 (60分)
5	〃	スポーツ政策の政策過程	授業内容の復習 (60分)
6	〃	スポーツ政策の政策評価	授業内容の復習 (60分)
7	〃	地方におけるスポーツ政策に関する制度	授業内容の復習 (60分)
8	〃	地方におけるスポーツ政策の展開	授業内容の復習 (60分)
9	〃	みんなのためのスポーツ政策	授業内容の復習 (60分)
10	〃	学校における体育・スポーツ政策	授業内容の復習 (60分)
11	〃	競技スポーツ政策	授業内容の復習 (60分)
12	〃	スポーツ施設と政策	授業内容の復習 (60分)
13	〃	スポーツ産業と政策	授業内容の復習 (60分)
14	〃	スポーツ政策における連携・協働	授業内容の復習 (60分)
15	〃	スポーツ政策に関する課題の整理・検討	授業内容の復習 (60分)、最終レポート作成

授業科目名 (ナンバリングコード)	武道文化論 (131B5-1308)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	中村　勇・前阪　茂樹			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	50名程度
授業の概要	伝統性やスポーツ性、礼法の特徴など日本の伝統文化と密接なつながりを持つ武道文化について議論し、武道の本質とは何かを探る。授業はディスカッション，課題発表などを積極的に導入し，主体的な取り組みができるようにしている。 この授業を通じて、これからの武道界のリーダーに必要な武道文化に関する知識を身につけ，表現する力を養うことができる。 WebClassやインターネットなどを利用するのでiPad等のタブレットを持参すること。 なお、参加人数等の状況に応じてシラバスで示した授業順序を入れ替えることがある。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、専門的な知識・教養 （コミュニケーション力、専門的な知識・教養）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	武道文化としての礼法，伝統，独自性などについて理解し説明できる 武道文化に関する課題に対し適切な解決策を見いだせる	○	○	○	○			60
	■情意的領域	武道文化に関する議論に関心を持つ 各内容について客観的視点で考察しようとする	○	○	○	○			20
	■技能的領域	設問に対して自分の意見を指示された方法で適切に表現できるよう	○	○	○	○			20

成績評価の基準	授業への取り組み、授業内小テスト、レポート、発表の合計得点が60 点以上を合格とする 1 / 3以上の欠席がある場合は単位を認定しない		
テキスト、教材 参　考　書	教材はWebClassや紙媒体で提供する		
履修条件・ 関連科目	武道関連の講義・実技の事前履修や武道種目の経験が望ましい	備考(教員メッセージ含む)	WebClassで提供する教材や課題はPCやタブレット利用を前提にしている
オフィス・アワー	水曜日　昼休み，3限目　他随時　研究棟　５０３教員室及び５０６教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中村　勇	導入：武道文化とは	配布資料および授業の復習（20分以上）
2	〃	武道の修行とは1	Webclass 資料の予習と復習、発表の準備（20分以上）
3	〃	武道の修行とは2	Webclass 資料の予習と復習、発表の準備（20分以上）
4	〃	競技文化としての柔道の考え方や理論を知る	Webclass 資料の予習と復習（20分以上）
5	〃	武道の特性を考える	Webclass 資料の予習と復習（20分以上）
6	〃	大衆文化としての武道に触れる	資料収集・プレゼンテーションの準備（30分以上）
7	〃	武道の礼法を考える	Webclass 資料の予習と復習（20分以上）
8	〃	武道の国際化を知る1	Webclass 資料の予習と復習（20分以上）
9	〃	武道の国際化を知る2	Webclass 資料の予習と復習（20分以上）
10	〃	再び武道の特性を考える	Webclass 資料の予習と復習（20分以上）
11	前阪　茂樹	武道の根底に流れる剣術・兵法論を知る１ （剣術・兵法の思想／理論　殺人刀・活人剣）	Webclass 資料の確認（２０分）
12	〃	武道の根底に流れる剣術・兵法論を知る２ （剣術・兵法の思想／理論　　不動智）	Webclass 資料の確認（２０分）
13	〃	武道の根底に流れる剣術・兵法論を知る3 （剣術・兵法の思想／理論　猫の妙術）	Webclass 資料の確認（２０分）
14	〃	競技文化としての剣道の考え方や理論を知る１ （剣道の思想／稽古法）	Webclass 資料の確認（２０分）
15	〃	競技文化としての剣道の考え方や理論を知る２ （剣道のルール／道具等）	Webclass 資料の確認（２０分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体発育発達・老化論 (131B0-1309)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	高井　洋平・沼尾　成晴・古瀬　裕次郎・中谷　深友紀			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3	受け入れ人数	―

授業の概要	成長や老化と共にヒトの身体は大きく変化する．そのため，運動指導をするにあたり，成熟や老化の程度に適した指導を行うことが求められる．また，発育発達・老化は性差や，様々な要因による個人差が存在することから，運動指導は個々に応じた配慮を求められる．本講義では，身体の発達・老化や，成長に伴う基本的な運動（走跳投動作）の変化など，具体的なデータ（図表）を示しながら，これまでの研究から明らかにされている知見を学ぶ．本講義を通じ，体育・スポーツ指導を行ううえで，年代に応じた配慮が身につくと期待できる． 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	専門的な知識・教養 （指導者基礎力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	成長に伴う身体の変化に関する基本的な知識を身につけ，他者に説明することができる．また，体育・スポーツ指導において，年代に応じた配慮ができるようになる．			○		○		100
	□情意的領域								
	□技能的領域								

成績評価の基準	成績評価はレポート（発育発達論：高井，中谷担当分）および定期試験（老化論：沼尾，古瀬担当分）にて行う．レポートおよび定期試験は，授業内容で取り扱った内容が理解できているか，および自身の意見が述べられているかを問う．単位認定には，レポート（発育発達論：高井，中谷担当分）で60点以上かつ，定期試験（老化論：沼尾，古瀬担当分）で60点以上の評価を得ることが必要となる．なお，所定の出席（2/3以上）に満たない場合にも単位が認定されない． 高井，中谷：授業内に課す小レポートと，講義終了後に課すレポートで成績を評価する． 沼尾，古瀬：試験にて成績を評価する

テキスト、教材 参　考　書	参考書 からだの発達　身体発達学へのアプローチ（高石昌弘，樋口満，小島武次．大修館書店） からだの発達と加齢の科学（樋口満，佐竹隆．大修館書店） 辞典　発育・成熟・運動（Robert M. Malina (著)，Claude Bouchard (著)，高石昌弘（訳），小林寛道（訳）．大修館書店） 理学療法学テキスト　高齢者理学療法学（池添冬芽（編）．メジカルビュー社）

履修条件・関連科目	解剖生理学，運動生理学，バイオメカニクスを履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。

オフィス・アワー	高井：随時 （スポーツトレーニング教育研究センター　教官室2　y-takai@nifs-k.ac.jp） 沼尾：随時 （研究棟4階　406教員研究室　numashige@nifs-k.ac.jp) 古瀬：随時 （研究棟5階　509教員研究室　ykose@nifs-k.ac.jp） 中谷：随時 （スポーツトレーニング教育研究センター　教官室1　nakatani@nifs-k.ac.jp）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	高井　洋平	オリエンテーション、発育発達を学ぶ意義	小レポート（授業内）、人の発育発達について予習・復習を行う．（1時間）
2	〃	体格、身体組成の発育	小レポート（授業内）、身体組成について予習・復習を行う．（1時間）
3	〃	筋力・筋パワーの発達	小レポート（授業内）、筋力・パワーについて予習・復習を行う．（1時間）
4	〃	エネルギー代謝における発達	小レポート（授業内）、心肺呼吸循環について予習・復習を行う．（1時間）
5	〃	発育期のフィジカルトレーニング	小レポート（授業内）、トレーニングの原理・原則について予習・復習を行う．（1時間）
6	中谷　深友紀	Exseedの理論	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
7	〃	Exseedの実践①	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
8	〃	Exseedの実践②	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
9	沼尾　成晴	高齢者の身体的特徴	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
10	〃	高齢者の心身機能の変化	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
11	〃	高齢者に対する運動トレーニング	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
12	古瀬　裕次郎	老化と寿命	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
13	〃	老化と認知症	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
14	〃	老化, 認知症と運動	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
15	〃	老化論総論	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
16	沼尾　成晴 古瀬　裕次郎	定期試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ戦術実践論 (131B1-1310)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	濱田　幸二・三浦　健・髙橋　仁大・萬久　博敏・藤井　雅文・塩川　勝行・榮樂　洋光			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	40名程度
授業の概要	スポーツ戦術実践論は、主に講義により、さまざまな種目の試合中の攻防、駆け引きに関する詳細、日常練習での戦術トレーニングを計画的に進めるための基礎理論、戦術分析（試合分析）の基礎理論などについて概説し、選手として、個人戦術やチーム戦術の基本をマスターするとともに、将来コーチ（指導者）として大成するために必要不可欠な諸問題の解決事例を検討する。これにより体育学の知識を用いて応用・分析し、説明することができる能力としての、スポーツ現場での判断力と行動力を高めることや、実践場面でのスカウティング力が身につくことが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	科学的支援力、専門的な知識・教養 （科学的支援力、専門的な知識・教養）							
	■認知的領域	個人戦術やチーム戦術の基本を理解する。 戦術トレーニングのための基礎理論を理解する。 戦術分析（試合分析）の基礎理論を理解する。	○		○				60
	■情意的領域	選手として戦術を活用することに関心を持つ。 指導者として戦術を活用することに関心を持つ。 戦術分析（試合分析）を活用することに関心を持つ。	○		○				40
	□技能的領域								

成績評価の基準	各担当教員の課すレポートの得点と授業参画を合計し、60 点以上のものを合格とする。 1/3以上の欠席により単位は認定されない。
テキスト、教材 参　考　書	「スポーツの戦術入門」（ヤーン・ケルン著（朝岡、水上、中川監訳）、大修館、1998） 「THE ESSENTIALS OF PERFORMANCE ANALYSIS」（M. Hughes and I. M. Franks, Routledge, 2008）　他、配付資料等
履修条件・ 関連科目	スポーツパフォーマンス研究論
備考(教員メッセージ含む)	本講義ではe-learningシステムを利用して資料配付やレポート提出等を行う
オフィス・アワー	随時 事前にアポイントをとること 濱田(研究棟8階808教員研究室または球技体育館準備室) 髙橋(SPORTECスポーツパフォーマンス研究センターまたは研究棟8階809教員研究室) 萬久(実験プール教官室) 三浦(研究棟8階807教員研究室) 塩川(研究棟8階810教員研究室) 榮樂(研究棟7階709教員研究室または海洋スポーツセンター)

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	濱田　幸二	スポーツ戦術の基本的考え方	講義内容の予習と復習（1時間）
2	塩川　勝行	サッカーの戦術と実践① 小レポート	講義内容の復習（1時間）
3	〃	サッカーの戦術と実践②	講義内容の復習（1時間）及びレポート作成
4	髙橋　仁大	テニスの戦術と実践①	講義内容の予習と復習（1時間）
5	〃	テニスの戦術と実践②	講義内容の予習と復習（1時間）
6	三浦　健	バスケットボールの戦術と実践	小レポート（20分）
7	〃	孫子の兵法　－名将の戦略戦術－	小レポート（20分）
8	榮樂　洋光	セーリング競技の戦術と実践①	小レポート・講義内容の復習（1時間）
9	〃	セーリング競技の戦術と実践②	小レポート・講義内容の復習（1時間）
10	藤井　雅文	野球の戦術と戦略①	小レポート・講義内容の復習（1時間）
11	〃	野球の戦術と戦略②	小レポート・講義内容の復習（1時間）
12	萬久　博敏	競泳の戦術と実践	講義内容の予習と復習（1時間）
13	濱田　幸二	バレーボールの戦術と実践①	小レポート・講義内容の予習と復習（1時間）
14	〃	バレーボールの戦術と実践②	小レポート・講義内容の予習と復習（1時間）
15	〃	スポーツ戦術の実践に向けて	レポート（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ調査法 (131B3-1311)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	北村　尚浩			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	50名程度
授業の概要	体育・スポーツの現場における様々な社会調査の基本と実施方法、さらには、調査データのコンピュータによる統計的分析とレポート作成の方法論を学ぶ。卒業研究やスポーツプロモーションに必要な，コンピュータを利用した社会調査データの活用方法への理解を深める。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	科学的支援力、専門的な知識・教養 （科学支援力、専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	講義全般に関した基礎的知識を有する	○	○			○		55
	■情意的領域	授業に参加し講義内容に関した質疑に積極的に応える	○			○			25
	■技能的領域	課題レポート作成技術			○				20

成績評価の基準	学期末試験の成績55％に、授業態度、質疑応答を中心とした授業への取り組み状況、小テスト、課題レポート等45％を加えて総合的に評価する。
テキスト、教材 参　考　書	大谷 信介ら「最新・社会調査へのアプローチ―論理と方法」ミネルヴァ書房 森山和夫「社会調査方入門」有斐閣ブックス 鈴木敦子「質問紙デザインの技法」
履修条件・ 関連科目	特になし。　　備考(教員メッセージ含む)：特になし。
オフィス・アワー	随時（６１０研究室）kitamura@nifs-k.ac.jp

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	北村　尚浩	（オンデマンド授業）授業ガイダンス	新聞記事の検索（30分以上）
2	〃	体育・スポーツ現場における社会調査の意義	Reading assignment（30分以上）
3	〃	調査と研究の進め方	Reading assignment（30分以上）
4	〃	社会調査の企画	Reading assignment（30分以上）
5	〃	調査票の設計（1）	リサーチデザインの作成（30分以上）
6	〃	調査票の設計（2）	リサーチデザインの作成（30分以上）
7	〃	サンプリング	Reading assignment（30分以上）
8	〃	分析データの準備	Reading assignment（30分以上）
9	〃	SPSSによるデータ分析と結果のまとめ方（1）	Reading assignment（30分以上）
10	〃	SPSSによるデータ分析と結果のまとめ方（2）	Reading assignment（30分以上）
11	〃	SPSSによるデータ分析と結果のまとめ方（3）	Reading assignment（30分以上）
12	〃	データ分析の実際（1）	データ分析（30分以上）
13	〃	データ分析の実際（2）	データ分析（30分以上）
14	〃	レポート作成（1）	レポート作成（30分以上）
15	〃	レポート作成（2）	レポート作成（30分以上）
16	〃	最終試験	最終レポート提出

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツビジネス論 (131B3-1312)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	隅野　美砂輝・棟田　雅也			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	40名程度
授業の概要	スポーツに関するビジネスを立ち上げる際，一般のビジネスと同様にビジネスプラン(事業計画書)の作成は必要不可欠である.本授業は，講義，個人課題，グループプロジェクトにより，ビジネスプランに必要な項目や作成の手順について概説し，実際にビジネスプランの作成を行わせることによって，スポーツ・武道および体育・健康づくりに関するビジネスやプロジェクトを企画立案するための専門的，応用的な知識や考え方，意欲を身につける科目である.また，コミュニケーション力，課題解決力，専門的な知識・教養が身につくことが期待される. 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、課題解決力、専門的な知識・教養 （コミュニケーション力、課題解決力、専門的な知識・教養）							
	■認知的領域	ビジネスプランに必要な項目について理解し，その知識を用いて実際に作成することができる.	○		○	○			50
	■情意的領域	起業やビジネスの運営に興味・関心を持ち，意欲的に取り組む意思を持つ.	○		○	○			50
	□技能的領域								

成績評価の基準	・授業への貢献度（発問対応，質疑応答，議論への参加など）：15% ・毎授業の小レポート：15% ・個人課題：20% ・グループプロジェクト（プレゼンテーション, サマリー, 事業計画書など）：50% ※５回以上の欠席、個人課題未提出，グループプロジェクト課題未提出のいずれかに該当する場合は成績評価を行わない. ※毎授業の小レポートおよび個人課題の提出が著しく低い場合はグループプロジェクトに参加できない場合がある.
テキスト、教材 参　考　書	資料を適宜配付する.

履修条件・関連科目	スポーツ経営・管理学概論, スポーツ産業論, スポーツマーケティング論の受講が望ましい. 受け入れ人数を超えた場合は, 上記授業の履修状況・授業態度・成績等により制限を行う可能性がある.	備考(教員メッセージ含む)	特になし.

オフィス・アワー	隅野美砂輝（501教員室）: 火 水 金 の昼休み（11:50 – 12:30） 棟田雅也（602教員室）: 水11:00 – 12:30 なお，事前にアポを取ることを条件とする（メールによる連絡も可）.

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	隅野　美砂輝 棟田　雅也	オリエンテーション:授業の進め方，内容について	スポーツに関連したビジネスや自分の興味のあるビジネスについて情報収集(1時間)
2	〃	スポーツビジネスとは	スポーツに関連したビジネスや自分の興味のあるビジネスについて情報収集(1時間)
3	〃	スポーツビジネスにおけるマーケティング（４P）	スポーツに関連したビジネスや自分の興味のあるビジネスについて情報収集(1時間)
4	〃	スポーツビジネスにおけるスポンサーシップ	スポーツに関連したビジネスや自分の興味のあるビジネスについて情報収集(1時間)
5	〃	スポーツビジネスにおけるファシリティ	スポーツに関連したビジネスや自分の興味のあるビジネスについて情報収集(1時間)
6	〃	ユニークなビジネスを探る（個人課題）	個人課題(ユニークなビジネスアイディア紹介)の作成（1時間）
7	〃	ユニークなビジネスの共有（個人プレゼンテーション）	個人課題(ユニークなビジネスアイディア紹介)の作成（1時間）
8	〃	グループワークの方法とプロジェクトの内容	ビジネスアイディアをできるだけ多く考案してくる(1時間)
9	〃	グループワーク①	ビジネスアイディアをできるだけ多く考案してくる(1時間)
10	〃	グループワーク②	事業計画書の項目についてそれぞれ考えてくる(1時間)
11	〃	グループ中間プレゼンテーション	グループプロジェクト課題のサマリー(要約)の作成(1時間)
12	〃	グループワーク③	グループプロジェクト課題の作成と準備(1時間)
13	〃	グループワーク④	グループプロジェクト課題の作成と準備(1時間)
14	〃	グループ最終プレゼンテーション	グループプロジェクト課題の作成と発表の準備(1時間)
15	〃	まとめ	グループプロジェクトの評価と授業の振り返り（１時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	体育・スポーツ統計学 (131B0-1313)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	西嶋　尚彦・徐　広孝			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3 年次	受け入れ人数	―
授業の概要	情報社会化が進み，データ分析に基づく問題解決能力が必要となっている．本授業では，R等の統計分析ソフトウェアを用いて，基本統計，相関・回帰分析，t検定，分散分析，多変量統計解析，構造方程式モデリング，決定木等の機械学習手法などの分析方法，分析結果の読み取り方を学ぶ．これにより，先端的な統計分析手法と機械学習のデータ分析手法等を卒業論文等のデータへ適用し，問題を解決する実践力を修得する． 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	科学的支援力、専門的な知識・教養							
	■認知的領域	統計分析手法と機械学習手法を理解し，説明できる．			○				40
	■情意的領域	体育・スポーツ分野におけるデータの統計分析の実践力の向上に意欲的に取り組む．			○				20
	■技能的領域	授業内容の手順に従って，統計分析手法と機械学習手法を実践し，データ分析過程をレポートする．			○				40

成績評価の基準	全１６回の授業の「基本的，先端的統計分析方法」についてのレポートを作成し，レポートを提出する．
テキスト、教材 参　考　書	資料は「Web-Class」からダウンロードする． 参考書：1)『Rによる心理・調査データ解析 第2版』(緒賀郷志 著，2019, @3080円), 2) 『Rによるやさしい統計学』（山田剛史，杉澤武俊，村井潤一郎 著，2008，@2970円）， 3) 『Rで学ぶデータ・プログラミング入門：R Studioを活用する』（石田基広 著，2012，@3520円），

履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	統計ソフトウェアを用いるため，各自ネットワークに接続できるPCを準備すること．
オフィス・アワー	授業の前後に対応する		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	西嶋　尚彦	（オンライン授業）オリエンテーション，統計学の基礎知識	復習（30分）
2	〃	（オンライン授業）統計ソフトウェアのインストール（R，RStudio）とRStudioの基本操作	復習（30分）
3	徐　広孝	（オンライン授業）RStudioを用いた記述統計	復習（30分）
4	〃	（オンライン授業）RStudioを用いたt検定（対応あり，なし）	レポート提出（30分）
5	〃	（オンライン授業）RStudioを用いた相関分析	復習（30分）
6	〃	（オンライン授業）RStudioを用いた回帰分析	復習（30分）
7	〃	（オンライン授業）RStudioを用いた一元配置分散分析	復習（30分）
8	〃	（オンライン授業）RStudioを用いた二元配置分散分析	レポート提出（30分）
9	〃	（オンライン授業）RStudioを用いた構造方程式モデリング（回帰モデル）	復習（30分）
10	〃	（オンライン授業）RStudioを用いた構造方程式モデリング（多重指標モデル）	復習（30分）
11	〃	（オンライン授業）RStudioを用いたR言語プログラミング（データ構造、データ型、if文、for分）	復習（30分）
12	〃	（オンライン授業）RStudioを用いたR言語プログラミング（自作関数、自作演算子）	レポート提出（30分）
13	〃	（オンライン授業）RStudioを用いた機械学習（決定木）	復習（30分）
14	〃	（オンライン授業）RStudio を用いた機械学習（ランダムフォレスト）	復習（30分）
15	〃	（オンライン授業）RStudio を用いた機械学習（勾配ブースティング決定木）	復習（30分）
16	〃	（オンライン授業）RStudio を用いた機械学習（交差検証、チューニング）	レポート提出（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツマーケティング論 (131B3-1314)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	住田　健			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2	受け入れ人数	―
授業の概要	この授業では、スポーツをマーケティングの視点から捉えるために必要な基礎理論と実践的な発想を学ぶ。市場分析、ジョブ理論、消費者ニーズ、想起集合、スポンサーシップなどのトピックを取り上げ、スポーツに関わる商品・サービス・組織活動を市場と消費者の視点から説明できる力を養うことを目標とする。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・実施なし、△・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	事業運営力、一般教養・倫理、専門的な知識・教養 ()	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	スポーツ・マーケティングに関する知識を統合し、それ自体やその課題について分析し説明することができる。マーケティングの視点から、スポーツを捉えることができる。	○		○		○		70
	■情意的領域	スポーツ・マーケティングについて興味・関心を持ち、積極的に学ぶ姿勢やその課題解決に向かって意欲的に取り組む意思を持つ。	○		○		○		30
	□技能的領域								

成績評価の基準	この授業は集中講義として実施される。ダブルジョパディの法則やジョブ理論などの重要な理論を扱った単元ではリアクションペーパーによる確認を実施する。そして、最終週には筆記による試験を実施し、その総合点を評価とする。
テキスト、教材 参　考　書	テキストはないが、以下の文献を推薦する。 クレイトン・M・クリステンセン著「ジョブ理論：イノベーションを予測可能にするメカニズム」ハーパーコリンズジャパン 川上昌直著「儲ける仕組みをつくるフレームワークの教科書」 石井淳蔵編著「1からのマーケティング（第4版）」

履修条件・関連科目	「スポーツ社会学」「スポーツ産業論」「スポーツマネジメント概論」を履修しておくことが望ましい	備考(教員メッセージ含む)	この授業は他大学の教員が担当する。授業の履修、事前の調整などの質問は鹿屋体育大学の担当教員に質問するようにしてください。
オフィス・アワー	授業開始前後		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	住田　健	ガイダンス、成績評価、マーケティングとは何か	シラバスの確認（1時間）
2	〃	市場の特性を理解する（プロダクトライフサイクル、BCGマトリクス）	市場概念の整理の復習（1時間）
3	〃	ダブルジョパディの法則を理解する	リーディングアサイメント（1時間）
4	〃	消費者のニーズと欲求を理解する：ジョブ理論	リーディングアサイメント（1時間）
5	〃	売り場の重要性を理解する（製品のラインエクステンション戦略）	売り場の重要性について復習（1時間）
6	〃	消費者の想起と想起集合	想起集合について復習（1時間）
7	〃	消費者の態度形成と変容	消費者行動領域における態度の重要性について復習（1時間）
8	〃	プロモーションの役割と消費者の情報処理プロセス	消費者の情報処理プロセスとそのモデルの復習（1時間）
9	〃	消費者のサービス品質評価と満足度	品質評価と満足度の復習（1時間）
10	〃	マーケティング戦略①（戦略とは何か）	リーディングアサイメント（1時間）
11	〃	マーケティング戦略②（セグメンテーションとターゲティング）	セグメンテーションとターゲティングについての復習（1時間）
12	〃	マーケティング戦略③（ポジショニングと代替品の存在）	ポジショニングについての復習（1時間）
13	〃	マーケティング戦略④（マーケティングミックス）	マーケテイニングの4Psについての復習（1時間）
14	〃	スポンサーシップの理論と実践	リーディングアサイメント（1時間）
15	〃	スポンサーシップを通じたアクティベーション	スポンサーシップを通じた事例の復習（1時間）
16	〃	定期試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	運動処方論 (131B2-1315)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	藤田　英二			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	100名程度
授業の概要	私たちのからだは、動かさないと生理的機能は加齢による影響以上に退行していく。しかし、過度に使いすぎると器官に不調をきたし、スポーツ障害を引き起こしてしまうこともある。アメリカスポーツ医学会（ACSM）が提唱している「Exercise is Medicine」という言葉が示すように、正しい科学的知見に基づいて行われる運動は、健康づくりや疾病の予防に対して有効な手段となり得る。本授業では、どのような運動を、どれくらいの強さと量で行えばいいのかなど、健康のための運動処方について学ぶ。これにより運動を指導する者としての「指導者基礎力」ならびに「科学的支援力」が身につくことが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（×）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	専門的な知識・教養 （指導者基礎力、科学的支援力）							
	■認知的領域	健康に関連する体力要素の内容、その評価法について理解している。また、健康の維持・増進、および疾病の予防に必要な運動の効果、リスク、方法に関して理解し、運動処方に活用することができる。	○	○	○				80
	■情意的領域	健康づくりに対する運動のあり方について興味・関心を持ち、意欲的に取り組む意思を持つ。	○						20
	□技能的領域								

成績評価の基準	出席状況、授業への取り組み状況、レポート課題、確認小テストにより総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて資料を配付する。		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	この授業のすべての連絡は基本的にWebClass上で行う（必ず定期的にチェックすること）。
オフィス・アワー	必要に応じメールにて問い合わせを：fujita@nifs-k.ac.jp		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	藤田　英二	オリエンテーション：運動処方とは	
2	〃	健康の維持・増進に必要な体力とは何か	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。
3	〃	生活習慣病について	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。
4	〃	身体組成とその評価法について	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。
5	〃	発育・発達と加齢に伴う体の変化	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。
6	〃	運動の種類と強度・量の表し方	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。
7	〃	わが国の運動指針と総論としての運動処方について	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。
8	〃	有酸素運動とその効果	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。
9	〃	レジスタンス運動とその効果	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。
10	〃	柔軟運動とその効果	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。
11	〃	バランス運動とその効果	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。
12	〃	骨密度を高める運動とその効果	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。
13	〃	様々な対象に応じた運動処方	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。
14	〃	運動処方時の安全管理	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。
15	〃	いままでの授業の振り返り小テスト	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、小テストで理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。

授業科目名 (ナンバリングコード)	応用スポーツ心理学 (131B3-1316)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	森　司朗			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	―
授業の概要	この科目は、心理的な立場からより効果的な運動指導のするための能力を身につける科目である。具体的には、２年次で履修したスポーツ心理学の講義の内容を発展させ、より質の高い指導者として把握しておくべき最近のスポーツ心理学に関する理論及び知識を習得することを目的とする。授業内容は運動学習、動機づけ、心理学な観点からのジュニア期の運動指導のあり方などを中心に行う。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（×）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、専門的な知識・教養 （指導者基礎力、専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	スポーツ心理学の応用知識を理解している 自分の運動経験をスポーツ心理学の知識を応用して解決できる		○	○		○		90
	■情意的領域	主体的に授業に取り組む	○						10
	□技能的領域								

成績評価の基準	出席2/3以上で、授業内容の総合理解が６割を超えていることを合格の条件とする		
テキスト、教材 参　考　書	杉原・船越・中込編著「スポーツ心理学の世界」（福村出版）		
履修条件・ 関連科目	１・２年次にスポーツ心理学、スポーツメンタルトレーニング論を履修していることを授業条件とする	備考(教員メッセージ含む)	テキストに沿って授業を行うので、必ずテキストの準備をし、予習をしておくこと
オフィス・アワー	月～金までの授業・各種委員会会議などを除いた空き時間～ 17時　７０２研究室、体育心理学実験室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	森　司朗	オリエンテーション：スポーツ心理学とは	
2	〃	学習理論から導かれる練習・指導１	授業内容の予習と復習（30分以上）
3	〃	学習理論から導かれる練習・指導２	授業内容の予習と復習（30分以上）
4	〃	学習理論から導かれる練習・指導３	学習理論に関するまとめのレポート（30分以上）
5	〃	試合場面でのパフォーマンスの低下１	授業内容の予習と復習（30分以上）
6	〃	試合場面でのパフォーマンスの低下２	授業内容の予習と復習（30分以上）
7	〃	試合場面でのパフォーマンスの低下３	試合場面に関するレポート（30分以上）
8	〃	状況判断能力を養う１	授業内容の予習と復習（30分以上）
9	〃	状況判断能力を養う２	レポート
10	〃	状況判断能力を養う３	状況判断能力に関するまとめのレポート（30分以上）
11	〃	子どもの運動能力の現状と課題	授業内容の復習（30分以上）
12	〃	子どものスポーツ指導のあり方（体の側面から）１	授業内容の予習と復習（30分以上）
13	〃	子どものスポーツ指導のあり方（体の側面から）２	授業内容の予習と復習（30分以上）
14	〃	子どものスポーツ指導のあり方（心の側面から）１	授業内容の予習と復習（30分以上）
15	〃	子どものスポーツ指導のあり方（心の側面から）２	子どものスポーツ指導に関するまとめのレポート（30分以上）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	イベント管理学概論 (131B3-1317)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	間藤　芳樹			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	20名程度
授業の概要	本授業はスポーツイベントを中心に、管理の視点より、イベントの企画、計画、制作の実践的理論手法を提供するものである。本講座は、日本イベント産業振興協会（JACE）が行っている「イベント検定」の認定講座であり、授業内で「イベント検定」の資格を修得することが可能である。（有料） 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	事業運営力、課題解決力、専門的な知識・教養 （コミュニケーション能力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	企画書作成時、実現可能な企画を提案できる 企画実現時に具体的な管理手段を整理できる	○		○				40
	■情意的領域	①ワーキング授業により、意欲的主体的に取り組もうとする ②グループ授業により、コミュニケーション能力の重要性を理解しようとする	○						30
	■技能的領域	指示された、条件、期限内に提案書、レポートを作成できる				○			30

成績評価の基準	授業の積極的な参加・授業内の小レポート４種類、グループワーキングでの企画発表 全体レポートの各点を合計し、60点以上を合格とする		
テキスト、教材 参　考　書			
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	遅刻は原則として認めない ○実務経験のある教員による授業科目：プロモーション、イベント企画・制作会社経営者。
オフィス・アワー	授業の前後に対応する		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	間藤　芳樹	授業ガイダンス（概要、心構え、成績評価等）	教科書の目次を読み把握する（20分）
2	〃	イベント概論①イベントの基礎を学ぶ　概論、歴史	教科書の第１章を読む（60分）
3	〃	イベント概論②イベントの基礎を学ぶ 構造、分類	教科書の第１章のポイントを確認する（30分）
4	〃	イベントの企画を学ぶ①　　企画と計画	教科書の第３章を読む（60分）
5	〃	イベントの企画を学ぶ②　　企画と計画	教科書の第３章のポイントを確認する（30分）
6	〃	企画演習①基本構想基本計画について作業する	各種情報にアクセスし、コンテンツを探す（90分）
7	〃	イベントのリスクマネージメントについて学ぶ	各種情報にアクセスし、コンテンツを参考にする（30分）
8	〃	映像資料②実際の文化、スポーツイベントについて映像で学ぶ	イベントの映像作品を探し見る（60分以上）
9	〃	イベントの企画書を制作する①（グループワーキング　OR　個人作業）	各グループで情報交換を行う（60分）
10	〃	イベントの企画書を制作する②（グループワーキング　OR　個人作業）	各グループで、役割分担し制作作業をする（60分）
11	〃	プレゼンテーションを実施する（グループワーキング　OR　個人作業）	各グループで、リハーサルを行う（30分）
12	〃	イベントの安全管理について学ぶ	第5章を読む（30分）
13	〃	ユニバーサルイベントについて学ぶ	第５章を読みポイントの確認をする（30分）
14	〃	企画演習、課題における企画書の作成	企画書の下書きを制作する（90分）
15	〃	レポート提出　企画検証	企画書の政策をする（20分）
16	〃	全体講評　イベント検定対応	教科書のポイントを振り返り読む（40分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	ヘルスプロモーション論・実習 (131B2-7301)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	中垣内　真樹・樋口　公嗣・廣津　匡隆			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	―
授業の概要	健康維持や増進および生涯スポーツの普及を目指す上で必要なヘルスプロモーションに関わる基礎的な事項を学び、運動やスポーツを指導することができる能力や態度を講義、演習、実技を通して身につけることを目指す。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	専門的な知識・教養 （専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	健康および疾病予防等に関する知識を修得し，健康づくりの具体的な方法を身につける	○	○	○				40
	■情意的領域	健康づくり運動プログラムの組み立て方や効果と安全性を確保できる指導方法について理解する	○						40
	■技能的領域	ヘルスプロモーションに関する技能を実践し，遂行できる能力を身につける	○						20

成績評価の基準	授業期間に行なったレポート、小テスト、授業中の態度・意欲、課題などへの取組状況などの得点を合計し、60点以上の者を単位認定する。なお、2/3以上の出席に満たない場合は単位認定できない。
テキスト、教材 参　考　書	適宜授業で紹介する。 参考書：「健康運動指導士養成講習会テキスト上・下」（公益財団法人健康・体力づくり事業財団，2019年，16800円） ：「運動処方の指針　運動負荷試験と運動プログラム　原書第8版」日本体力医学会体力科学編集委員会監訳，南江堂，2011年，3850円）

履修条件・ 関連科目	運動生理学、トレーニング科学概論、生涯スポーツ論・演習[健康・体力論・演習]等を履修していることが望ましい	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	随時 中垣内：研究棟4階　407研究室 廣　津：研究棟3階　304研究室 樋　口：保健管理センター		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中垣内　真樹	オリエンテーション	
2	廣津　匡隆	運動における外傷と内科的障害の予防等について学ぶ	復習・小レポート（1時間）
3	中垣内　真樹 樋口　公嗣	運動負荷試験の実際（概論）	WebClassでの復習（30分）
4	〃	運動負荷試験の実際（トレッドミル法）	WebClassでの復習（30分）
5	〃	運動負荷試験の実際（自転車エルゴメータ法）	WebClassでの復習（30分）
6	中垣内　真樹	中高年者の体力関するフィールドテストについて	WebClassでの復習（30分）
7	〃	中高年者の体力に関するフィールドテストについて	WebClassでの復習（30分）
8	〃	介護予防に関連する体力測定とその評価	WebClassでの復習（30分）
9	〃	介護予防に関する運動の実際	WebClassでの復習（30分）
10	〃	介護予防に関する運動の実際	WebClassでの復習（30分）
11	〃	生活習慣病に対する運動プログラムの作成（包括的なプログラム）	WebClassでの復習（30分）
12	〃	ロコモティブシンドロームに対する運動プログラムの作成	WebClassでの復習（30分）
13	樋口　公嗣	健康診断結果の読み方	WebClassでの復習（30分）
14	〃	安静時心電図の読み方	WebClassでの復習（30分）
15	中垣内　真樹	まとめ・小テスト	WebClassでの復習（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ国際開発論 (131B0-3300)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	北村　尚浩・古瀬　裕次郎・未　定			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2	受け入れ人数	―
授業の概要	スポーツを通じた国際開発と平和（International Development and Peace through Sport）について概観し、グローバルな視座に立って国際開発におけるスポーツの果たす役割、機能に対する理解を深める。 それによって、スポーツを通じた国際開発の意義と課題について考察する能力を身に付けることができる。 それらによって、教養として必要な知識を身につけ、論理的に考え表現できる能力を身につけることが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	科学的支援力、専門的な知識・教養	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	スポーツを通じた国際開発の基礎知識を身に付ける。 スポーツを通じた国際開発の問題を考える視点を身に付ける。			○	○			70
	■情意的領域	授業に積極的に参加し、授業での発表・レポート作成に積極的に取り組む。	○		○				30
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業での発表内容、毎回の授業時に課されるレポートへの取組を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	参考書：齊藤一彦・岡田千あき・鈴木直文編著『スポーツと国際協力－スポーツに秘められた豊かな可能性』（大修館書店、2015年） その他適宜紹介する。また必要に応じて資料を配付する。		
履修条件・ 関連科目	8回～10回（北村担当）では，PCまたはタブレット端末を使用する。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	各担当教員に個別に連絡する。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	北村　尚浩	スポーツを通じた開発（国際開発・地域開発）とは	参考書等の予習および復習（30分以上）
2	〃	スポーツにおける人権問題と開発①	スポーツにおける人権問題と開発に関する文献・資料の予習（３０分以上）
3	〃	スポーツにおける人権問題と開発②	スポーツにおける人権問題と開発に関する文献・資料の予習・復習（３０分以上）
4	〃	スポーツにおける人権問題と開発③	スポーツにおける人権問題と開発に関する文献・資料の予習（３０分以上）
5	古瀬　裕次郎	公衆衛生学を国際的視点から考える①	左記の予習と配布資料の復習（30分以上）
6	〃	公衆衛生学を国際的視点から考える②	左記の予習と配布資料の復習（30分以上）
7	〃	公衆衛生学を国際的視点から考える③	左記の予習と配布資料の復習（30分以上）
8	北村　尚浩	スポーツ産業と開発	Reading assignment（30分以上）
9	〃	スポーツイベントと開発	Reading assignment（30分以上）
10	〃	スポーツ産業の功罪	課題レポート（60分以上）
11	未　定	スポーツ国際開発とマネジメント①（経済的効果）	リーディングアサイメント（1時間）
12	〃	スポーツ国際開発とマネジメント②（経済的効果）	リーディングアサイメント（1時間）
13	〃	スポーツ国際開発とマネジメント③（スポーツマーケティング）	リーディングアサイメント（1時間）
14	北村　尚浩	スポーツ国際開発の現場（事例研究）	資料の予習（1時間）
15	〃	まとめ：スポーツ通じた国際開発の有効性を問う	資料の予習（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツパフォーマンス研究論 (131B4-1318)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	髙橋　仁大・金高　宏文・竹中　健太郎・永原　隆・藤井　雅文・榮樂　洋光・鈴木　智晴・大澤　啓亮			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年後期	受け入れ人数	―
授業の概要	本授業では、スポーツや武道等の実践現場における活動や取り組み（スポーツパフォーマンス）を記述（可視化）→説明（解釈）→予測（仮説創出）→操作（仮説検証）する研究方法について解説するとともに、その研究例（実践研究）を紹介する。受講生は、卒業研究等において実践研究の論文の作成ができるようになるための基礎的な研究方法について理解し、身につける。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力、専門的な知識・教養 （課題発見力、科学的表現力、専門的な知識・教養）							
	■認知的領域	実践研究の研究方法を理解する。多様な実践研究について把握する。	○		○				10
	■情意的領域	現場課題を積極的に研究課題へと展開し、積極的に研究をしようとする。	○		○				45
	■技能的領域	現場課題から研究課題を設定し、適切な研究方法を選択し，活用できる。	○		○				45

成績評価の基準	授業への積極的な参加態度（授業内レポートや質疑応答等）および各授業者から提出された課題（小レポート課題）の達成度から総合的に評価する。
テキスト、教材 参　考　書	参考書：『体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方』福永哲夫・山本正嘉編著、市村出版（2018） 参考資料：『スポーツパフォーマンス研究』（http://www.sports-performance.jp/）に掲載された研究論文 授業で必要な資料は、WebClassからダウンロードすること。
履修条件・ 関連科目	本科目は、スポーツ・武道実践科学系およびスポーツ生命科学系に所属する教員のゼミナールを受講する学生の選択必修科目となっている。
備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	事前にアポイントをとること 髙橋(SPORTECスポーツパフォーマンス研究センターまたは研究棟8階809教員研究室) 金高(木曜日 15:00~16:00 大学院棟3階 4教員研究室) 竹中(研究棟5階507教員研究室) 榮樂(研究棟7階709教員研究室) 藤井(研究棟8階804教員研究室) 永原(大学院棟3階 1教員室)

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	髙橋　仁大	オリエンテーション　スポーツパフォーマンス研究論の考え方	講義内容の予習と復習（1時間）
2	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例（球技）	講義内容の予習と復習（1時間）
3	金高　宏文	スポーツパフォーマンス研究の実例（コツとカンの分析法）	講義内容の予習と復習，小レポート課題の作成（1時間）
4	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例（単一事例の事例研究の書き方）	講義内容の予習と復習，小レポート課題の作成（1時間）
5	大澤　啓亮	スポーツパフォーマンス研究の実例（テニス）	講義内容の予習と復習（1時間）
6	榮樂　洋光	スポーツパフォーマンス研究の実例 セーリング競技(ヨット、ウインドサーフィン)	講義内容の予習と復習（1時間）
7	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例 ローイング競技(カヌー、ボート)	講義内容の予習と復習（1時間）
8	永原　隆	スポーツパフォーマンス研究の実例（研究に必要な諸要素，論文に何を書くか）	講義内容の予習と復習（1時間）
9	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例（論文をどのように書くか，陸上競技の例）	講義内容の予習と復習（1時間）
10	髙橋　仁大	スポーツパフォーマンス研究の実例（スポーツ科学の活用）	講義内容の予習と復習（1時間）
11	竹中　健太郎	スポーツパフォーマンス研究の実例（剣道）	講義内容の予習と復習（1時間）
12	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例（武道　その他）	講義内容の予習と復習（1時間）
13	鈴木　智晴	スポーツパフォーマンス研究の実例（データ測定と活用　野球の例）	講義内容の予習と復習（1時間）
14	藤井　雅文	スポーツパフォーマンス研究の実例（野球）	講義内容の予習と復習（1時間）
15	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例（野球　その他）	講義内容の予習と復習（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	体育学実験Ⅰ (132A0-2100)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (実験演習科目)
担当教員名	與谷　謙吾・中本　浩揮・髙井　洋平・堀内　雅弘・幾留　沙智・石澤　里枝・古瀬　裕次郎・久保田　大智			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1	受け入れ人数	全員
授業の概要	スポーツ・武道、ならびに体育・健康づくりの専門家を目指す体育学専攻の学生にとって、内外部環境のさまざまな刺激に対する人体の生理機能、心理機能の応答に関して学習することは重要なことである。また、同時にこれらの研究分野で用いられる基礎的な測定方法を習得することは、心身機能を評価するための第一歩でもある。本実験演習では、スポーツサイエンスの基本的な学問である「生理学」、「バイオメカニクス」、「衛生・公衆衛生学」、「栄養学」、「心理学」の各分野における基礎的な実験を行い、その測定技術を習得するとともに、測定値を評価する基礎理論の学習を目指すものである。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合%
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	科学的支援力、科学的表現力、専門的な知識・教養							
	■認知的領域	・各分野における基礎的な測定方法について理解する。 ・実験結果を整理し、スポーツサイエンスの知見に基づいたレポートを的確に作成することができる。			○				50
	■情意的領域	・測定に携わりながら、与えられた課題に対して自主的に取り組む。 ・実習を通して、自然科学分野に興味・関心を持つ。	○						50
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業へ出席して実験・測定方法を習得し、かつ実験内容をまとめたレポートを提出（必須）することで正式な出席と認める。 授業へ出席しても、レポートを提出しない場合は出席とは認めない。出席回数は2/3以上の受講生を対象として、レポート内容（A、B、C等）に、測定技術の習得度、実験への取組状況を加味して総合的に成績を評価する（60点以上を合格）。
テキスト、教材 参　考　書	堀内・與谷：資料はその都度配付する。 中本・幾留：資料はその都度配付する。 石澤：資料は必要に応じてその都度配布する。 古瀬：資料は必要に応じてその都度配布する。

履修条件・関連科目	解剖生理学や身体科学論を履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	体育学実験Ⅰの運動生理学領域では、全員が被検者となって実験（運動）を行うので、運動のできる服装（Tシャツ、短パン、ジャージなど）かつスポーツシューズを履いてくること。また、バイオメカニクス領域においても、SPセンターでの実習時には室内履きシューズを持参すること。

オフィス・アワー	高井洋平：随時可能ですが、あらかじめ予約をしてもらえると確実です（スポーツトレーニング教育研究センター2階・教員室2、y-takai@nifs-k.ac.jp）。 心理学分野についての問合せは随時、まずはメールで幾留にご連絡ください（ikudome@nifs-k.ac.jp）。

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	與谷　謙吾	血圧の測定－簡便なメディカルチェック－	メディカルチェックにおける血圧測定の意義を理解し、本実習で測定されたデータを基にレポートを作成する。（1時間）
2	〃	筋電図の測定－異なる力発揮中の筋電図－	異なる力発揮によって得られる筋電図のデータを基にレポートを作成する。（1時間）
3	與谷　謙吾 堀内　雅弘	体力測定－無酸素性パワー（瞬発力）と有酸素性パワー（持久力）－	無酸素性パワーと有酸素性パワーを測定し、それぞれの値から体力評価、種目特性などについてレポートを作成する。（1時間）
4	〃	身体組成－体脂肪率の推定－	栄研式キャリパーを用いて皮脂厚の測定、並びに体脂肪率を算出し、そのデータを基にレポートを作成する。（1時間）
5	髙井　洋平	走および跳躍パフォーマンスにおけるフィールドテストの方法	走および跳躍能力におけるフィールドテストの方法を理解し、得られたデータの相互関係をレポートに作成する。（1時間）
6	〃	人の位置の測定方法	人の位置の測定原理を理解し、データ分析を行う。得られたデータを基にレポートを作成する。（1時間）
7	久保田　大智	ハイスピードカメラを用いたスポーツ動作のフィードバック	ハイスピードカメラの特徴、種類、用途、測定方法を理解しレポートにまとめる。（1時間）
8	〃	モーションキャプチャーとフォースプレートを用いた3次元動作分析	モーションキャプチャーとフォースプレートの特徴、用途、測定方法を理解しレポートにまとめる。（1時間）

9	中本　浩揮 幾留　沙智	授業ガイダンス・性格検査	性格検査の結果を元にレポートを作成する。（1時間）
10	〃	目標設定と運動パフォーマンス	目標設定と運動パフォーマンスの関係についての実験結果を元にレポートを作成する。（1時間）
11	〃	反応時間	反応時間についての実験結果を元にレポートを作成する。（1時間）
12	〃	練習効果の転移	練習効果の転移についての実験結果を元にレポートを作成する。（1時間）
13	古瀬　裕次郎	健康関連体力の測定①（スタミナテスト）	調査結果に対する評価と解釈をレポートにまとめる（1時間）
14	〃	健康関連体力の測定②（スタミナテスト）	調査結果に対する評価と解釈をレポートにまとめる（1時間）
15	石澤　里枝	推定エネルギー必要量の評価（除脂肪量・基礎代謝量の測定）	推定エネルギー必要量の評価方法を理解して、レポートにまとめる（1時間）。
16	〃	エネルギー摂取量の評価（食事摂取頻度法）	エネルギー摂取量の評価方法を理解して、レポートにまとめる（1時間）。

授業科目名 (ナンバリングコード)	体育学実験Ⅱ－運動生理学 (132B0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (実験演習科目)
担当教員名	田巻　弘之・與谷　謙吾・堀内　雅弘			補助担当者名	()
単位数	4　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	5-6名以内

授業の概要

スポーツ・武道、ならびに体育・健康づくりの専門家を目指す体育学専攻の学生にとって、「生理学」、「バイオメカニクス」、「衛生・公衆衛生学」、「栄養学」、「心理学」など、密接に関連している自然科学領域それぞれにおいて、基礎的な知識・教養に基づき、科学的支援力や表現力を身につけることは必須である。

本実験演習Ⅱ「運動生理学」では、体育学実験Ⅰの運動生理学領域を発展させ、呼吸循環機能、神経－筋機能に関するより専門的、かつ高度な実験を実習する。これらを通じ、メディカルチェック、体力測定、運動処方、運動制御、トレーニングに関連した専門的測定技術、ならびに測定値を評価するエキスパートアイが身につくと期待される。

【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり
グループワーク（○）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（×）

授業の到達目標及び成績評価の方法

	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	科学的支援力、科学的表現力、専門的な知識・教養 （科学的支援力、科学的表現力、専門的な知識・教養）							
	■認知的領域	・それぞれの実験に関する専門的知識、測定技術、およびデータの評価法について理解している。 ・実験結果を整理し、スポーツサイエンスの知見に基づいて、客観的、正確、かつ適切にデータを評価している ・学術的な表現、表記を用いてレポートやスライドを作成し、発表することができる。			○	○			50
	■情意的領域	・積極的に測定に携わりながら、与えられた課題に対して自主的に取り組んでいる。 ・実習を通して、自然科学分野の研究に興味・関心を示している。	○						50
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業へ出席して実験・測定方法を習得し、かつ実験内容をまとめたレポートを提出（必須）することで、正式な出席と認める。 授業へ出席しても、レポートを提出しない場合は出席とは認めない。出席回数は2/3以上の受講生を対象として、レポート内容（A、B、C等）に、測定技術の習得度、実験への取組状況を加味して総合的に成績を評価する（60点以上を合格）。
テキスト、教材 参　考　書	実験に関するテキスト（資料）は、その都度配付する。
履修条件・関連科目	体育学実験Ⅰの単位は取得していること。また、解剖生理学、運動生理学、身体科学論、生物化学論などを履修していることが望ましい。
備考(教員メッセージ含む)	体育学実験Ⅱの運動生理学領域では、全員が被検者となって実験（運動）を行うので、運動のできる服装（Tシャツ、短パン、ジャージなど）で、かつスポーツシューズを履いてくること。
オフィス・アワー	堀内雅弘：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです）研究棟3階 303研究室(mhoriuchi@nifs-k.ac.jp) 與谷謙吾：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです）研究棟3階 306研究室(yotani@nifs-k.ac.jp) 田巻弘之：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです）研究棟3階 305研究室(tamaki@nifs-k.ac.jp)

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	田巻　弘之 與谷　謙吾 堀内　雅弘	オリエンテーション：今後の授業展開に関する資料配布等	資料を参考に今後の予定確認と来週実施するメディカルチェックについて予習(情報整理)を行う（1時間）
2	〃	姿勢変換時の血圧応答	仰臥位、座位、立位と姿勢を変換させることで、血圧や心拍数がどのように変化するかを観察し、そのメカニズムを考察し、レポートにまとめる（1時間）
3	〃	運動時の血中乳酸変化	比較的短時間高強度運動を行い、運動前後で血中乳酸を指先から正確に測定できる技術を身につける。運動前後で血中乳酸がどのように変化するのか、また回復過程も観察し、エネルギー供給機構の観点から考察し、レポートを作成する（1時間）
4	〃	運動時の呼吸循環系応答－その1－：酸素摂取量の測定実習	酸素摂取量の測定意義についてまとめるとともに、通常濃度の酸素環境下（常酸素）の運動で、呼気ガス諸変量をダグラスバッグ法により測定し、酸素摂取量、二酸化炭素排出量、換気量を計算し、運動強度と呼気ガス諸変量の関係を検討する（1時間）
5	〃	運動時の呼吸循環系応答－その2－：低酸素環境下における運動時の酸素摂取量測定	酸素摂取量の測定意義についてまとめるとともに、低濃度の酸素環境下（低酸素）の運動で、呼気ガス諸変量をダグラスバッグ法により測定し、酸素摂取量、二酸化炭素排出量、換気量を計算し、常酸素環境下での応答と比較検討する（1時間）

6	堀内　雅弘	これまでのデータ整理とレポート作成	実習内で指摘された点、疑問点をまとめ上げ、復習する（1時間）
7	田巻　弘之 與谷　謙吾 堀内　雅弘	筋電図の記録方法と局所疲労時の変化	筋電図の正しい記録方法と疲労に伴う筋電図の様相を記録・分析し、レポートを作成する（2時間）
8	〃	電気機械的遅延と動作時間	筋活動開始から関節運動開始までの遅延(電気機械的遅延)とその後の関節運動時間を計測し、両者の関係性を調べてレポートを作成する（2時間）
9	〃	運動誘発電位潜時と筋電図反応時間①	経頭蓋磁気刺激と筋電図を用いて運動誘発電位潜時を計測し、その電位発生に至るまでのメカニズムについて調べ、レポートを作成する（2時間）
10	〃	運動誘発電位潜時と筋電図反応時間②	視覚刺激に対する左右肢の筋電図反応時間を計測し、時間の長さに関する知見を調べてレポートを作成する（2時間）
11	〃	筋活動の可視化（筋電図/筋酸素化）とスポーツ、トレーニングへの活用，データ解析	WebClassにある授業内容資料をもとに、文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する（2時間）
12	〃	ストレッチングの筋力発揮/筋放電活動への影響, データ解析	WebClassにある授業内容資料をもとに、文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する（2時間）
13	〃	脳内で力発揮を抑制するしくみ(両側性機能低下現象)を調べる	WebClassにある授業内容資料をもとに、文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する（2時間）
14	〃	筋組織（筋線維）のイメージングと組織染色法（速筋・遅筋の判定）	WebClassにある授業内容資料をもとに、文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する（2時間）
15	田巻　弘之 與谷　謙吾	これまでのデータ整理とレポート作成	実習内で指摘された点、疑問点をまとめ上げ、復習する（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	体育学実験Ⅱ－バイオメカニクス (132B0-2301)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (実験演習科目)
担当教員名	高井　洋平・宮崎　輝光			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要	スポーツ・武道、ならびに体育・健康づくりの専門家を目指す体育学専攻の学生にとって、「生理学」、「バイオメカニクス」、「衛生・公衆衛生学」、「栄養学」、「心理学」など親密に関連している自然科学領域それぞれにおいて、科学的支援力や表現力を身につけることは必須である。 本実験演習Ⅱでは、体育学実験Ⅰを発展させ、動作分析、筋力・パワー、筋腱複合体に関するより専門的かつ高度な実験を行い、動作の習熟、運動処方、運動制御、トレーニングに関連した測定技術を習得するとともに、測定値を評価する専門理論の学習を目指すものである。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	科学的支援力、科学的表現力、専門的な知識・教養							
	■認知的領域	・それぞれの実験において、測定技術およびその評価法について理解する。 ・実験結果を整理し、スポーツサイエンスの知見に基づいたレポート作成、発表を行うことができる。			○	○			50
	■情意的領域	・測定に携わりながら、与えられた課題に対して自主的に取り組む。 ・実習を通して、自然科学分野に興味・関心を持つ。	○						50
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業へ出席し、実験の測定方法を習得し、かつ実験内容をまとめたレポートを提出（必須）することで、正式な出席と認める。授業へ出席しても、レポートを提出しない場合は出席と認めない。出席回数は2/3以上の受講生を対象として、レポート内容（A、B、C等）や授業内のプレゼンテーションに、測定技術の習得度、実験への取り組み状況を加味して総合的に成績を評価する（６０点以上を合格）。		
テキスト、教材 参　考　書	実験に関するテキスト（資料）は、その都度配布する。		
履修条件・関連科目	解剖生理学、運動生理学、身体科学論、バイオメカニクス（並行開設）を履修していることが望ましい	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	高井洋平　随時可能だが、事前にアポイントを取ることが望ましい（スポーツトレーニング教育研究センター・教員室2、y-takai@nifs-k.ac.jp） 宮崎輝光　随時（研究棟4階　408教員研究室）．事前にアポイントを取ることが望ましい（t-miyazaki@nifs-k.ac.jp）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	高井　洋平 宮崎　輝光	オリエンテーション：バイオメカニクス研究法について、今後の授業展開について	今後行われる授業の予習を行う（1時間）
2	宮崎　輝光	地面反力の測定と分析①	筆記用具持参，運動のできる格好，データ分析，レポート作成（1時間）
3	〃	地面反力の測定と分析②	筆記用具持参，運動のできる格好，データ分析，レポート作成（1時間）
4	〃	地面反力の測定と分析③	筆記用具持参，運動のできる格好，データ分析，レポート作成（1時間）
5	〃	3次元動作の測定と分析①	筆記用具持参，運動のできる格好，データ分析，レポート作成（1時間）
6	〃	3次元動作の測定と分析②	筆記用具持参，運動のできる格好，データ分析，レポート作成（1時間）
7	髙井　洋平	位置座標計測システムの使い方①	筆記用具持参、運動できる格好、座標について予習・復習をする（1時間）
8	〃	位置座標計測システムの使い方②	筆記用具持参、運動できる格好、座標について予習・復習をする（1時間）
9	〃	座標を用いた人の移動に関する実験方法①	筆記用具持参、運動できる格好、座標の分析について予習・復習をする（1時間）
10	〃	座標を用いた人の移動に関するデータ分析②	情報処理室、筆記用具持参、授業の復習（1時間）
11	〃	座標を用いた人の移動に関するデータ分析③	筆記用具持参，運動できる格好，レポート作成（1時間）
12	高井　洋平 宮崎　輝光	研究計画の立案・実験・データ分析①	筆記用具持参，運動できる格好，データの分析（1時間）
13	〃	研究計画の立案・実験・データ分析②	筆記用具持参，運動できる格好，データの分析，プレゼンテーションの準備（1時間）
14	〃	研究計画の立案・実験・データ分析③	筆記用具持参，運動できる格好，データの分析，プレゼンテーションの準備（1時間）
15	〃	実験結果のプレゼンテーション・レポート作成	筆記用具持参，レポート提出（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	体育学実験Ⅱ－スポーツ心理学 (132B0-2302)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (実験演習科目)
担当教員名	森　司朗・中本　浩揮・幾留　沙智			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	－	受け入れ人数	－

授業の概要

スポーツ・武道、ならびに体育・健康づくりの専門家を目指す体育学専攻の学生にとって、「生理学」、「バイオメカニクス」、「衛生・公衆衛生学」、「栄養学」、「心理学」など、親密に関連している自然科学領域それぞれにおいて、科学的支援力や表現力を身につけることは必須である。
本実験演習Ⅱ「スポーツ心理学」では、体育学実験Ⅰを発展させ、スポーツ心理学の基本的な実験の基礎知識及び手法、分析を学習していくことを目指す。主な内容としては、運動学習実験、メンタルトレーニングにつながる心理検査、フィールド調査などを行う。
これらにより、スポーツ心理学の知識・手法に関する専門的な知識・教養、それに基づく科学的支援力・表現力が身につくことが期待される。

【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・実施なし、△・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり
グループワーク（○）、ディスカッション・討議（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力		授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・それぞれの実験において、測定技術およびその評価法について理解する。 ・実験結果を整理し、スポーツサイエンスの知見に基づいたレポート作成、発表を行うことができる。	○		○	○			50
	■情意的領域	・測定に携わりながら、与えられた課題に対して自主的に取り組む。 ・実習を通して、自然科学分野に興味・関心を持つ。	○			○			50
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業へ出席して実験・測定方法を習得し、かつ実験内容をまとめたレポートを提出（必須）することで、正式な出席と認める。 授業へ出席しても、レポートを提出しない場合は出席とは認めない。出席回数は2/3以上の受講生を対象として、レポート内容（A、B、C等）に、測定技術の習得度、実験への取組状況を加味して総合的に成績を評価する（60点以上を合格）。		
テキスト、教材 参　考　書	実験に関するテキスト（資料）は、その都度配布する。 参考書：体育心理学実験実習概説（体育心理学実験指導研究会編、大修館書店）		
履修条件・関連科目	スポーツ心理学を履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	月～金までの授業・各種委員会、会議などを除いた空き時間～17時、702研究室、707教室、603教室、体育心理学実験室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	森　司朗 中本　浩揮 幾留　沙智	オリエンテーション（スポーツ心理学研究法について）	
2	〃	スポーツ心理学研究とその独自性	心理学の独自性についてレポートを作成する。（1時間）
3	〃	心理検査法：心理特性の心理テスト(DIPCA)の理解と実際	DIPCAの評価得点から自己分析についてレポートを作成する。（1時間）
4	〃	心理検査法:心理状態の心理テスト(PCI)の理解と実際	PCIの評価得点から自己分析についてレポートを作成する。（1時間）
5	〃	心理検査法：投影法の心理テスト(バウムテスト)の理解と実際	バウムテストの診断結果から自己分析についてレポートを作成する。（1時間）
6	〃	実験法：情報処理と反応時間①	反応時間の記録について，情報処理の観点から考察する。(1時間)
7	〃	実験法：情報処理と反応時間②	反応時間の記録について，情報処理の観点から考察する。(1時間)
8	〃	演習：質問紙研究法１	質問紙内容について考えまとめる。(1時間)
9	〃	演習：質問紙研究法２	質問項目の信頼性・妥当性について考えまとめる。(1時間)
10	〃	演習：質問紙研究法３	質問紙を作成しデータを取得する。(1時間)
11	〃	演習：質問紙研究法４	質問紙の信頼性・妥当性を統計的に分析する。(1時間)
12	〃	演習：質問紙研究法５	質問紙調査の結果をまとめ、プレゼンテーションを準備する。(1時間)
13	〃	運動能力検査(1)	幼児運動能力検査について理解し、実施方法を習得する。(1時間)
14	〃	運動能力検査(2)	幼児運動能力検査を実施し、データをまとめる。(1時間)
15	〃	運動能力検査(3)	幼児運動能力検査の結果をまとめ、プレゼンテーションする。(1時間)

授業科目名 (ナンバリングコード)	体育学実験Ⅱ－衛生学・公衆衛生学、スポーツ栄養学 (132B0-2303)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (実験演習科目)
担当教員名	古瀬　裕次郎・石澤　里枝			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2　年次	受け入れ人数	10 名程度
授業の概要	スポーツ・武道、並びに体育・健康づくりの専門家を目指す体育学専攻の学生にとって、「生理学」、「バイオメカニクス」、「衛生・公衆衛生学」、「栄養学」、「心理学」など、親密に関連している自然科学領域それぞれにおいて、科学的支援力や表現力を身につけることは必須である。本体育学実験演習Ⅱ「公衆衛生・栄養学」は体育学実験Ⅰを発展させ、公衆衛生のための環境測定、運動方法の検証、食事摂取や体調の変化が影響する測定を習得するとともに、測定値を客観的に比較・評価するための専門的な学習を目指すものである。 【授業に含まれる活動】○・・・実施する、×・・・実施しない、△・・・授業の進捗状況や場合によって実施する グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	科学的支援力、科学的表現力、専門的な知識・教養							
	■認知的領域	・それぞれの実験において、測定技術およびその客観的評価法について理解する。 ・実験結果を整理し、知見に基づいたレポートの作成、対策などの発表を行うことができる。			○	○			50
	■情意的領域	・測定に携わりながら、与えられた課題に対して自主的に取り組む。 ・実験・実習を通して、自然科学分野に興味を持つ。	○						50
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業へ出席して実験・測定方法を習得し、かつ実験内容をまとめたレポートを作成・提出することで正式な出席と認める。授業へ出席しても、レポートを提出しない場合は出席とは認めない。出席回数は2/3以上の受講生を対象とし、レポート内容（5段階評価）、測定技術の習得度、実験への取り組み状況を加味して総合的に成績を評価する（60点以上を合格）。
テキスト、教材 参　考　書	実験に関するテキスト（資料）などは、その都度配布する。

履修条件・関連科目	衛生学・公衆衛生学、スポーツ栄養学を履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	両担当教員のゼミを希望している学生は、本実験実習を履修することが望ましい。 希望者が履修上限数を超過した場合、成績（GPAや体育学実験Ⅰ）に応じて、履修者を制限することがある。
オフィス・アワー	石澤：研究棟4階　404研究室　（mail: rie-ishizawa@nifs-k.ac.jp） 古瀬：研究棟5階　509研究室　（mail: ykose@nifs-k.ac.jp）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	古瀬　裕次郎 石澤　里枝	オリエンテーション	
2	石澤　里枝	栄養摂取による血糖値の変化	測定結果をレポートにまとめる（60分）
3	〃	運動と栄養摂取による血糖値の変化	測定結果をレポートにまとめる（60分）
4	〃	測定結果に関するプレゼンテーションとグループディスカッション：エクセルによる図の作成とパワーポイントでのプレゼンテーション	ディスカッションの結果をまとめる（60分）
5	〃	運動と味覚の変化	測定結果をレポートにまとめる（60分）
6	〃	運動前のクエン酸摂取による疲労度の変化	測定結果をレポートにまとめる（60分）
7	〃	各栄養素摂取による運動後の疲労度	各栄養素摂取による運動後の疲労度をまとめる（60分）
8	〃	測定結果に関するプレゼンテーションとグループディスカッション：エクセルによる図の作成とパワーポイントでのプレゼンテーション	ディスカッションの結果をまとめる
9	古瀬　裕次郎	健康体力の実験	データと実験の所見をまとめる（60分）
10	〃	健康体力の実験②	データと実験の所見をまとめる（60分）
11	〃	健康体力の実験③	データと実験の所見をまとめる（60分）
12	〃	健康体力の実験④	データと実験の所見をまとめる（60分）
13	〃	実験結果の解析	レポート作成（60分）
14	〃	プレゼンテーション作成	実験レポートを作成する（60分）
15	〃	発表会	ディスカッションの結果をまとめる

授業科目名 (ナンバリングコード)	陸上・体操・水泳 (133A0-4300)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	吉塚　一典・永原　隆・萬久　博敏・小森　大輔・山下　龍一郎・成田　健造・中谷　太希・田川　浩子			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	140名
授業の概要	本授業では、中学校・高等学校学習指導要領（保健体育）に基づき、「体つくり運動」「陸上競技」「器械運動」「水泳」の４つの領域について、専門的な実技を実施する。『体つくり運動』では、運動を正しく合理的に行う理論と方法を理解させる。『陸上競技』では、陸上競技の走種目・跳躍種目・投擲種目の技能習得方法や改善方法等について教授し、それらの方法について体験・経験することで理解を深め、パフォーマンスを向上させることで模範が示せるようになることを目指す。また、学んだことを駆使しながら、学習者を「できるようにさせる」ための体験・経験を通して実技指導力の向上を図る。そのために、受講者自身に授業の中で学んだ学習内容や授業で見つけた「動きのコツ」並びに「学習上の問題」等をレポートにまとめさせ、提出させる。『器械運動』では、教科体育として技術の習得とともに指導方法を学習し、学校体育の指導者としての資質向上を図る。『水泳』では、水中という特殊な環境で実施されることから、水の特性について理解を深め、４泳法（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ）の基本技能の習得及びその指導方法について実践を通して学習する。これらにより、「体つくり運動」「陸上競技」「器械運動」「水泳」の授業や指導を行う際の基礎・基本が身につくことが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・実施なし、△・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表(×)、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力 （課題解決力、専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・指導方法について理解し、咀嚼して説明している。 ・運動動作の問題点を見つけ、解決方法を提示している。 ・各種目での段階的な練習方法を理解している。 ・競技規則と技術的名称を理解している。	○		○				23
	■情意的領域	・主体的に授業に参加し、協力して取り組もうとする。 ・授業の実施を安全に行おうとする。 ・積極的に授業に参加する。 ・理論、実技力ともに積極的に取り組む姿勢を高める。	○						20
	■技能的領域	・学習した種目を体得し、見本が示せる。 ・学習した種目の基礎的・基本的指導ができる。 ・各種目の課題を向上させる。	○	○					57

成績評価の基準	３つの授業到達目標をもとに、授業姿勢、技能、レポート、実技試験など成績評価方法に基づき評価し、６０点以上の者を合格とする。各種目１００点満点中の１/３を有する。 【水泳】最終レポートで不正が認められた場合、水泳の配点は0点とする。
テキスト、教材 参　考　書	【陸上競技】 ・フィールド種目においては、実技実習テキストを配付する。 ・参考書としては、次のものを推薦する。 「Do Sports Series 陸上競技」（一橋書店）、「実践陸上競技－トラック編－／－フィールド編－」（大修館書店）、「練習法百科陸上競技」帖佐寛章他著（大修館書店）、「陸上競技指導教本」日本陸上競技連盟編（大修館書店） 【器械運動】 ・「図説・器械運動」太田昌秀・伊藤政男著（大修館書店） 【水泳】 ・「水泳指導教本」日本水泳連盟編（大修館書店）

履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	本授業は同一コマにおいて、陸上競技・器械運動・水泳の回をローテーションして、２クラス開講します。詳細は関連実技科目ガイダンスで説明します。 陸上競技ではレポートの提出あり。また、学生への教育効果を高めるために、授業内容を撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究のみに使用します。 器械運動は怪我をしやすい種目につき、まじめに授業に取り組める学生の受講を希望します。 水泳では、安全管理及び実技指導力の向上を目的とし、グループ活動を行います。「自分がただ泳げるようになる」ための授業ではないことを理解し、受講すること。また、授業の順番（特に60分間泳の実施回）は入れ替わることもあります。

オフィス・アワー	吉塚：随時　研究棟７階７０１教員室 小森：随時　研究棟８階８０５教員室 永原：随時　大学院棟３階　１教員室 山下：随時　研究棟８階８０１教員室 中谷：随時　研究棟７階７０８教員室または体操練習室 萬久：随時　実験プール教員室または研究棟７階７０６教員室 成田：随時　研究棟８階８１２教員室 田川： ※事前にメールまでアポイントメントを取ること

授業計画			
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	吉塚　一典	砲丸投の運動構造を理解する。 砲丸投を学習するⅠ　－突き出し動作を身につけよう－	配付資料等を参考に予習を行う。並びに授業内容を復習し、レポートにまとめる。（１時間）
前2	〃	砲丸投を学習するⅡ　－スタンディングスローを身につけよう－	配付資料等を参考に予習を行う。並びに授業内容を復習し、レポートにまとめる。（１時間）
前3	〃	砲丸投を学習するⅢ　－身体の移動を用いた投げを身につけよう－	配付資料等を参考に予習を行う。並びに授業内容を復習し、レポートにまとめる。（１時間）
前4	吉塚　一典 永原　隆	体つくり運動 走の基本動作　ハードル練習①	実施した内容をレポートにまとめる（0.5時間）
前5	〃	体つくり運動 ハードル練習②	実施内容をレポートにまとめる（0.5時間）
前6	〃	体つくり運動 ハードル練習③	実施内容をレポートにまとめる（1.0時間）
前7	小森　大輔	走高跳（ベリーロール）の運動構造を理解する。 走高跳（ベリーロール）を学習するⅠ　－助走および踏切動作を身につけよう－	配付資料等を参考に予習を行う。並びに授業内容を復習し、レポートにまとめる。（１時間）
前8	〃	走高跳（ベリーロール）を学習するⅡ　－力強い踏切動作を身につけよう－	配付資料等を参考に予習を行う。並びに授業内容を復習し、レポートにまとめる。（１時間）
前9	〃	走高跳（ベリーロール）を学習するⅢ　－空中動作を身につけよう－	配付資料等を参考に予習を行う。並びに授業内容を復習し、レポートにまとめる。（１時間）
前10	吉塚　一典 永原　隆 小森　大輔	体験した各種目能力を測定する	体験した各種目の復讐を通して、指導のポイントを確認する。（２時間）
前11	山下　龍一郎 中谷　太希	オリエンテーション 体つくり運動　鉄棒①	鉄棒の「上る技」に関する事項をネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前12	〃	体つくり運動 鉄棒②	鉄棒の「回る技」に関する事項をネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前13	〃	体つくり運動 鉄棒③	鉄棒の「下りる技」に関する事項をネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前14	〃	体つくり運動 マット①	「前方系」の技の種類や練習方法についてネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前15	〃	体つくり運動 マット②	「後方系」の技の種類や練習方法についてネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後1	〃	体つくり運動 マット③	「側方系」の技の種類や練習方法についてネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後2	〃	体つくり運動 跳び箱①	跳び箱運動の「切り返し系」の技や練習方法に関する事項をネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後3	〃	体つくり運動 跳び箱②	跳び箱運動の「回転系」の技や練習方法に関する事項をネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後4	〃	体つくり運動 総合練習（鉄棒、マット、跳び箱）	今までの学習内容やポイントを復習しておく。（1時間）
後5	〃	体つくり運動 総合試験（鉄棒、マット、跳び箱）	今までの学習内容やポイントを復習しておく。（1時間）
後6	萬久　博敏 成田　健造	ガイダンス（持ち物、心構え、成績評価等の説明） 水の特性、水難事故防止と安全対策を学び、水泳全般の知識・理解を深める。	受講内容を学習カルテにまとめる（１時間）
後7	〃	水慣れ・浮力体験・水中運動 浮力を体感し、浮いて進むことができるようになる。また、水中ウォーキングなどを実施し、水特有の抵抗を感じながら水中運動を行う。	受講内容を学習カルテにまとめる（１時間）
後8	〃	背泳ぎ 仰向けで浮いて、手や足を用いて進むことができるようになる。	受講内容を学習カルテにまとめる（１時間）
後9	〃	平泳ぎ（キック） あおり足ではない正確なキックで、前に進むことができるようになる。	受講内容を学習カルテにまとめる（１時間）
後10	〃	平泳ぎ（腕、コンビネーション） 正確なキックと腕の掻きで、伸びやかに泳ぐことができるようになる。	受講内容を学習カルテにまとめる（１時間）
後11	〃	バタフライ、スタート・飛び込み 初歩的なバタフライと、飛び込みを体験する。	受講内容を学習カルテにまとめる（１時間）
後12	〃	クロール、ターン クロールで息継ぎをして、速く泳ぐことができるようになる。ターンを体験する。	受講内容を学習カルテにまとめる（１時間）
後13	〃	60分間泳 60分間、壁や床に足を着かない状態を維持し、楽に水に浮いたり泳いだりすることを体験する。	受講内容を学習カルテにまとめる（１時間）
後14	〃	総復習 実技試験①	最終レポートの作成（１時間）
後15	〃	実技試験② 着衣泳：着衣をした状態でプールに入り、水難事故防止を目的とした体験を行う。	最終レポートの作成（１時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	バスケットボール (133A0-4301)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	三浦　健・前村　かおり			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	1	受け入れ人数	40名程度
授業の概要	・本授業は、ルール、ドリル、練習法について講義し、これらに基づきバスケットボール専攻学生がグループの中心となって実技指導を行う。 ・バスケットボールの基本技術とゲームの方法を学習する。 ・バスケットボールのドリルを通して、体の扱い方と時間空間の認知能力を高める。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、コミュニケーション力 （実技力、コミュニケーション力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・バスケットボールの基本技術について、概ね説明することができる。	○						20
	■情意的領域	・ドリルやゲームに主体的に取り組む。 ・ゲームにおいて、ルール・マナーを遵守し、安全を確保し、味方同士が助け合う。	○						30
	■技能的領域	・バスケットボールの基本技術をゆっくりなら示範ができる。	○				○		50

成績評価の基準	出席回数が2/3以上でない者は、単位を認定しない。
テキスト、教材 参　考　書	特になし。
履修条件・ 関連科目	特になし。
備考(教員メッセージ含む)	・基本技術のドリルの中には、授業時間だけでは身に付きにくいものも含まれるので、授業前後に復習することを勧めます。
オフィス・アワー	随時：総合体育館教員室（三浦）、７０４教員研究室（前村）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	三浦　健 前村　かおり	オリエンテーション。ボールハンドリングドリル。	実施した実技内容を復習する（15分）
2	〃	Dynamic Stretch：動的柔軟性を高める。	実施した実技内容を復習する（15分）
3	〃	ドリブルドリル：３種類のその場ドリブル、５種類のチェンジ。	実施した実技内容を復習する（15分）
4	〃	２つのボールへの対処：５種類のドリブル、ボール２個の直上連続パス。	実施した実技内容を復習する（15分）
5	〃	開放性スキルと閉鎖性スキル：観察・判断・選択が球技では鍵を握る。	実施した実技内容を復習する（15分）
6	〃	ストップ＆ピボット：足さばき、目さばき、手さばき。①前向き前回り＆前向き後回り。	実施した実技内容を復習する（15分）
7	〃	ストップ＆ピボット：足さばき、目さばき、手さばき。②後向き前回り＆後向き後回り。	実施した実技内容を復習する（15分）
8	〃	シュートドリル：レイアップシュート、ストップシュート、フリースロー。	実施した実技内容を復習する（15分）
9	〃	ゲーム前の練習法①：スクエアパス。	実施した実技内容を復習する（15分）
10	〃	ゲーム前の練習法②：ドリブルシュート。	実施した実技内容を復習する（15分）
11	〃	ゲーム前の練習法③：ランニングシュート。	実施した実技内容を復習する（15分）
12	〃	ボディコントロールを高めるドリル：ボールを体側で回して、足を通してレイアップシュート。	実施した実技内容を復習する（15分）
13	〃	フリースローのグループドリル：ノックダウン。	実施した実技内容を復習する（15分）
14	〃	ハーフコート　3on3	実施した実技内容を復習する（15分）
15	〃	実技試験の為の練習。	実施した実技内容を復習する（15分～1時間）
16	〃	実技試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	サッカー (133A0-4302)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	塩川　勝行・村川 大輔			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	40名程度
授業の概要	本授業では、サッカーにおける競技特性やを理解し、基本的な実技力（止める・蹴る・運ぶ）を獲得する事を目的とし、サッカーの技術、戦術の構造や基本的な指導体系を理解し、トレーニングやゲームを計画できるように教授する。これにより、サッカーにおける基礎的な技術力や実技指導力を獲得するとともに、フェアプレーの精神や仲間とともに課題を解決してプレーを行なう能力が身に付くことが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力 （専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	サッカーにおけるトレーニングや指導方法について理解する。 計画的にトレーニングやゲームが行えるようになる。			○				10
	■情意的領域	積極的に実技内容、作業課題に取り組む。	○					○ ()	40
	■技能的領域	サッカーにおける基本技術が正確に行えるようになる。 サッカーにおけるトレーニング指導法を理解する。	○	○			○		50

成績評価の基準	授業への出席が2/3以上という条件で、授業への取り組み、レポート、技能テスト（リフティング・ドリブル・パス＆コントロール）及び試合の中での課題達成度の各合計点が60点以上のものを合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	参考書として、次のものを推奨する。 「サッカー」（加藤久著,ベースボールマガジン社,1993,@1,800円） 「サッカー勝利への技術」（チャールズ・ヒューズ著,大修館,1996,@3,200円）

履修条件・関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。
オフィス・アワー	金曜日　9時から12時　　８階８１０研究室（事前にアポイントを取ること）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	塩川　勝行 村川 大輔	サッカーの概要・特性及びグループ編成・試しのゲーム	実施した実技内容を復習する（60分）
2	〃	個人技術の基礎：ボールフィーリング、ミニゲーム	実施した実技内容を復習する（60分）
3	〃	個人技術の基礎：パス＆コントロール1、ミニゲーム	実施した実技内容を復習する（60分）
4	〃	個人技術の基礎：パス＆コントロール2、ミニゲーム	実施した実技内容を復習する（60分）
5	〃	個人技術の基礎：ヘディング＆シュート、ゲーム	実施した実技内容を復習する（60分）
6	〃	個人技術の基礎：ドリブル＆フェイント、ゲーム	実施した実技内容を復習する（60分）
7	〃	個人技術の基礎：スクリーン＆ターン、ゲーム	実施した実技内容を復習する（60分）
8	〃	ルールと審判法	実施した講義内容を復習する（60分）
9	〃	個人技術及びゲーム	レポート作成（60分）
10	〃	個人及びグループ戦術（攻撃）：１対１、２対２、ゲーム	実施した実技内容を復習する（60分）
11	〃	個人及びグループ戦術（守備）：１対１、２対２、ゲーム	実施した実技内容を復習する（60分）
12	〃	グループ戦術：パス＆サポート、ゲーム	実施した実技内容を復習する（60分）
13	〃	グループ戦術：ボールポゼッション、ゲーム	実施した実技内容を復習する（60分）
14	〃	チーム戦術：フォーメーション、ゲーム及び審判	実施した実技内容を復習する（60分）
15	〃	チーム戦術：リスタート、ゲーム及び審判	レポート作成（60分）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	バレーボール (133A0-4307)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	濱田　幸二・坂中　美郷			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	①3年次,②4年次	受け入れ人数	40名程度
授業の概要	1．セット（トス）＆アタック系の技術習熟と攻撃戦術のレベルアップ 2．サーブ＆ブロック系の技術習熟と守備戦術のレベルアップ 3．審判実習、ゲーム分析、チームビルディングをグループごとに遂行 4．学校体育の授業指導、生涯スポーツのコーチング等に幅広く応用できる授業内容 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力 （実技力・実技指導力・専門的知識）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	ルールと基本的攻撃・守備戦術について理解する。	○		○			○ (審判実習記録)	30
	■情意的領域	グループ活動の中でリーダーシップを養い、コミュニケーションが取れるようになる。	○		○	○		○ (班内の役割)	30
	■技能的領域	セッターとしてジャンプトスを習得する。	○	○			○		40

成績評価の基準	・授業：認知的、情意的、技能的領域の到達状況（授業所感の記入、授業への取り組み、学習状況に関する観察による評価等）により総合的に評価する。 ・レポート：Webclassを活用したレポート提出等（技術の動画記録、審判技能及び班内の活動記録）。 ・定期試験：ジャンプトス技術の習得を評価する。（実技試験）
テキスト、教材 参　考　書	・Webclass上の「バレーボール」テキストを使用 ・審判実習用ホイッスル ・タブレットは必ず持参すること ・必ず体育館シューズで受講すること

履修条件・関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	1．欠席届は必ず本人が提出するように。 2．本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。
オフィス・アワー	随時対応可（事前にメールでアポを取るように） 808 教員室（濱田）・601 教員室（坂中）・球技体育館準備室（16時以降）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	濱田　幸二 坂中　美郷	誰でもできる　ジャンプセット（ワン・ツーのリズム）	レポート及び動画提出（1時間）
2	〃	コンビネーション攻撃　ダブルセミクイックアタック	レポート及び動画提出（1時間）
3	〃	必殺ブロック　アタック対ブロック、ネット上の対決	レポート及び動画提出（1時間）
4	〃	ダブルクイックと時間差攻撃　審判基礎「吹笛とハンドシグナル」	レポート及び動画提出（1時間）
5	〃	戦術トレーニング基礎①「レシーブ＆アタック」審判実習	レポート及び動画提出（1時間）
6	〃	戦術トレーニング基礎②「サーブ＆ブロック」審判実習	レポート及び動画提出（1時間）
7	〃	戦術トレーニング応用①　３人制ミニバレー　記録実習　審判応用	レポート及び動画提出（1時間）
8	〃	戦術トレーニング応用②　４人制ミニバレー　記録実習　審判応用	レポート及び動画提出（1時間）
9	〃	６人制バレーボールのセッターフォーメーション（６－２の攻守）	レポート及び動画提出（1時間）
10	〃	６人制バレーボールのセッターフォーメーション（５－１の攻守）	レポート及び動画提出（1時間）
11	〃	リーグ戦　第１戦　総合実習	レポート及び動画提出（1時間）
12	〃	リーグ戦　第２戦　総合実習	レポート及び動画提出（1時間）
13	〃	リーグ戦　第３戦　総合実習	レポート及び動画提出（1時間）
14	〃	トーナメント戦　第１戦　総合実習	レポート及び動画提出（1時間）
15	〃	トーナメント戦　第２戦　総合実習　まとめ	総合的レポート提出（2時間）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	テニス (133A0-4315)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	髙橋　仁大・村上　俊祐・大澤　啓亮			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	48名程度
授業の概要	テニスの基礎的な実技力を獲得することと、フェアプレイの精神やテニスのマナーを理解する科目である。具体的には、ダブルスのルールの理解を通して、テニスのダブルスのゲームを楽しめるだけの実技力を身につけることを目標とする。また、テニスに関するマナーを理解し、テニスを生涯楽しむための知識を身につける。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	テニスのルールを理解している テニスのマナーを理解している	○						25
	■情意的領域	主体的に授業に取り組もうとする テニスのルール・マナーを遵守する	○						25
	■技能的領域	テニスの基礎技術を遂行できる ダブルスの実践技術を遂行できる	○	○			○		50

成績評価の基準	授業参画状況、授業への積極的な取り組み、実技テストの成績を総合的に評価して、60 点以上のものに単位を与える。 1/3以上の欠席により単位は認定されない。
テキスト、教材 参　考　書	随時配付する

履修条件・関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	本講義ではe-learningシステム「Webclass」を利用して資料配布やレポート提出等を行います。 本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。

オフィス・アワー	随時　事前にアポイントをとること 髙橋（SPORTECスポーツパフォーマンス研究センターまたは研究棟8階809教員研究室） 村上（研究棟8階806教員研究室）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	髙橋　仁大 村上　俊祐	オリエンテーション　テニスの原則を理解する	講義内容の予習と復習（1時間）
2	〃	10段階ラリー練習	講義内容の予習と復習（1時間）
3	〃	10段階ラリーから大きなコートへ	講義内容の予習と復習（1時間）
4	〃	サービスの導入	講義内容の予習と復習（1時間）
5	〃	サービスからのラリー	講義内容の予習と復習（1時間）
6	〃	サービスからのラリー、ゲーム	講義内容の予習と復習（1時間）
7	〃	局面練習１　サービスとリターン	講義内容の予習と復習（1時間）
8	〃	局面練習２　グラウンドストロークラリー	講義内容の予習と復習（1時間）
9	〃	局面練習３　アプローチ＆ボレー	講義内容の予習と復習（1時間）
10	〃	局面練習の復習	講義内容の予習と復習（1時間）
11	〃	ダブルスの基本　ルールとマナー	講義内容の予習と復習（1時間）
12	〃	ダブルスの応用　戦術理解	講義内容の予習と復習（1時間）
13	〃	班対抗団体戦①	講義内容の予習と復習（1時間）
14	〃	班対抗団体戦②	講義内容の予習と復習（1時間）
15	〃	班対抗団体戦③	講義内容の予習と復習（1時間）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	卓球 (133A0-4319)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	濱田　幸二・坂中　美郷・村上　俊祐			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	①1年次,②3年次	受け入れ人数	30名程度
授業の概要	卓球の特性を理解し、基本的な技術を学びながら、瞬間的な判断力と反応が出来るように反射神経と敏捷性及び集中力を養う。基本技術の習得により、攻撃の組み立て方、試合の組み立て方などの戦術も学ぶ。ルールを理解し審判も出来るようになり、最後には団体戦（シングルスとダブルス）及び個人戦（シングルス）の大会（リーグ戦）が出来るようになる。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力 （実技力・実技指導力・コミュニケーション力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	ルールが理解できる。基礎技術の名称など専門用語が説明できる。	○						10
	■情意的領域	積極的に授業へ参加し、試合を数多く行い、技術及び戦術の習得に意欲的に取り組む。	○		○	○			60
	■技能的領域	シングルス、ダブルスの戦術を身に付ける。ラリーを一定回数、一定時間継続出来る。	○	○			○		30

成績評価の基準	出席状況２/３以上で実技試験を受けることが出来る。また積極的な授業への取組み状況及び、レポート等の提出状況を総合的に判断し単位認定となる。		
テキスト、教材 参　考　書	随時、資料を配付する。		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	１．欠席届は必ず本人が提出するように。 ２．本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。 ３．情報端末（タブレット等）は必ず持参すること。 ４．体育館シューズは必ず持参すること。
オフィス・アワー	随時対応可　８０８教員室（濱田）・６０１教員室（坂中）・８０６教員室（村上）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	濱田　幸二 坂中　美郷 村上　俊祐	オリエンテーション、グループ分け、アイスブレイキング、用具の説明	映像及び反省レポート提出（1時間）
2	〃	卓球の特性・基本フォーム	映像及び反省レポート提出（1時間）
3	〃	基本ストローク（フォアハンドサービス・フォアハンドロング）、班対抗戦	映像及び反省レポート提出（1時間）
4	〃	基本ストローク（バックハンドサービス・バックハンドショート）、班対抗戦	映像及び反省レポート提出（1時間）
5	〃	カットサービス・ショートカットレシーブ、班対抗戦	映像及び反省レポート提出（1時間）
6	〃	横回転サービス・変化球サービスのレシーブ、班対抗戦	映像及び反省レポート提出（1時間）
7	〃	スマッシュ・フットワーク、班対抗戦	映像及び反省レポート提出（1時間）
8	〃	３球目攻撃・攻撃の組み立て方、班対抗戦	映像及び反省レポート提出（1時間）
9	〃	シングルスゲームの仕方（ルールと審判法）、シングルス戦	映像及び反省レポート提出（1時間）
10	〃	ダブルスのサービスとレシーブ、シングルス戦	映像及び反省レポート提出（1時間）
11	〃	ダブルスのフットワーク、シングルス戦、中間実技試験	映像及び反省レポート提出（1時間）
12	〃	ダブルスゲームの仕方（ルールと審判法）、シングルス戦	映像及び反省レポート提出（1時間）
13	〃	高速ラリーの習得、シングルス戦	映像及び反省レポート提出（1時間）
14	〃	高速ラリーの習得、シングルス戦	映像及び反省レポート提出（1時間）
15	〃	団体戦トーナメント戦　総合実技　まとめ	映像及び反省レポート提出（1時間）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	バドミントン (133A0-4321)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	三浦　健・塩川　勝行			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	32名程度
授業の概要	スポーツ文化の1つとして普及しているバドミントンの基本的な技術とルール及び特性を習得し、ゲームが日常生活の中で楽しめるようにする。それに伴いバドミントンの理解を深め、学校や一般社会で指導できるようになる。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力 （実技力、コミュニケーション力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	バドミントンの基本的な技術の知識とルールを習得する。	○						10
	■情意的領域	積極的に授業・作業課題・ゲームに取り組む。	○						50
	■技能的領域	継続的に授業に参加し、練習・指導法を体験する。 バドミントンの基本技術の習得を行う。	○				○		40

成績評価の基準	授業への出席が2/3 以上という条件で、授業への取り組み、態度、技能テストの各合計点が60 点以上のものを合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて資料を配付する。		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	随時　総合体育館教員室（三浦）、810教員研究室（塩川）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	三浦　健 塩川　勝行	バドミントンの歴史、ルール	実施した内容を復習する（15分）
2	〃	バドミントンの運動構造	実施した実技内容を復習する（15分）
3	〃	バドミントンの基礎(1) アンダーハンドストローク（フォアハンド）	実施した実技内容を復習する（15分）
4	〃	バドミントンの基礎(2) アンダーハンドストローク（バックハンド）	実施した実技内容を復習する（15分）
5	〃	バドミントンの基礎(3) ハイクリアー	実施した実技内容を復習する（15分）
6	〃	バドミントンの基礎(4) ドロップ	実施した実技内容を復習する（15分）
7	〃	バドミントンの基礎(5) ヘアピン	実施した実技内容を復習する（15分）
8	〃	バドミントンの基礎(6)ドライブ	実施した実技内容を復習する（15分）
9	〃	バドミントンの基礎(7)スマッシュ＆レシーブ	実施した実技内容を復習する（15分）
10	〃	バドミントンの基礎(8) 約束練習	実施した実技内容を復習する（15分）
11	〃	ダブルス競技の進め方(1) ルールの理解。審判方法	実施した実技内容を復習する（15分）
12	〃	ダブルス競技の進め方(2) 班別対抗戦①	実施した実技内容を復習する（15分）
13	〃	ダブルス競技の進め方(3) 班別対抗戦②	実施した実技内容を復習する（15分）
14	〃	シングルス試合	実施した実技内容を復習する（15分）
15	〃	まとめ	実施した実技内容を復習する（15分～30分）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	ソフトボール (133A0-4322)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	藤井　雅文			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2,3年次	受け入れ人数	50名程度
授業の概要	以下の内容を通して、学校体育の授業指導や生涯スポーツのコーチング等に幅広く応用できる能力を身に着ける。 ・ソフトボールを中心としたベースボール型スポーツの基本的なルールや歴史を習得する。 ・様々な形のティーボールゲームを通して、ソフトボールの基本的な技術（捕る、投げる、打つ、走る）を習得する。 ・グループごとにトレーニング計画を立てながら試合を行う中で、ゲームの進め方や審判法、基本的な戦術を習得する。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方　　法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力 （コミュニケーション力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	ソフトボールのルールやマナーを理解している	○						20
	■情意的領域	主体的かつ積極的に授業に参加し、仲間と協力してプレイすることができる	○		○				40
	■技能的領域	ソフトボールの基本技能（捕る、投げる、打つ、走る）を遂行できる	○	○					40

成績評価の基準	授業への取組状況、記録レポート、技能テストの合計点が60点以上のものに単位を与える。 1／3以上の欠席により単位は認定されない。
テキスト、教材 参　考　書	随時配布する
履修条件・ 関連科目	特になし。
備考(教員メッセージ含む)	・欠席届は必ず本人が提出すること ・授業の様子を撮影し、教育研究のために授業等で使用することがあります。
オフィス・アワー	随時　研究棟8階804教員室

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	藤井　雅文	オリエンテーション（授業の進め方、ベースボール型スポーツについて）	実施した内容の復習とレポート（60分）
2	〃	守備の基本（スローイング・キャッチング）、ティーボール	実施した内容の復習とレポート（60分）
3	〃	攻撃の基本（バッティング・ランニング）、ティーボール	実施した内容の復習とレポート（60分）
4	〃	ティーボール野球の工夫と実践①	実施した内容の復習とレポート（60分）
5	〃	ティーボール野球の工夫と実践②	レポート提出（120分）
6	〃	ティーボール野球の工夫と実践③	実施した内容の復習とレポート（60分）
7	〃	ソフトボールの実践①（ルール、審判法、安全管理、成績記入、ポジション）	実施した内容の復習とレポート（60分）
8	〃	ソフトボールの実践②（アウト：三振、フライ、ゴロ、ホースプレー、タッチプレー）	実施した内容の復習とレポート（60分）
9	〃	ソフトボールの実践③（ダブルプレー：ゴロ、フライ）	実施した内容の復習とレポート（60分）
10	〃	ソフトボールの実践④（タッチアッププレー）	実施した内容の復習とレポート（60分）
11	〃	ソフトボールの実践⑤（攻撃戦術：バント）	実施した内容の復習とレポート（60分）
12	〃	ソフトボールの実践⑥（攻撃戦術：ヒットエンドラン）、実技テスト	実施した内容の復習とレポート（60分）
13	〃	ソフトボールの実践⑦（守備戦術：ポジショニング）、実技テスト	実施した内容の復習とレポート（60分）
14	〃	ソフトボールの実践⑧（守備戦術：ピックオフプレー）、実技テスト	実施した内容の復習とレポート（60分）
15	〃	ソフトボールの実践⑨（学校教材と雨天時教材・Baseball5）、実技テスト	総合レポート提出（120分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	ダンス (133A0-4305)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	栂　ちか子			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	3,4年次	受け入れ人数	５０名程度
授業の概要	表現運動・ダンス領域は、社会におけるダンスの広がりに対応し、「創作ダンス」「現代的なリズムのダンス」「フォークダンス」から構成され、小・中・高校において発達段階に対応した内容で構成されている。表現運動・ダンスの学習では、幅広いダンスに触れ、生涯学習の観点からも、ダンスを自発的に楽しむ力を育成することがねらいとなる。 本授業では、ダンスの基本知識・技能の習得、リズムやイメージをもとにした自由な表現、作品づくりまで、段階的に身体表現能力の向上を図る。これにより、「創作ダンス」「現代的なリズムのダンス」「フォークダンス」の基礎的な技術を習得し、その指導法と発表技法が身に付くことが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力 （コミュニケーション力、課題解決力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・ダンスの特性について理解することができる。 ・ダンスの基礎技術、指導法、発表技法について理解することができる。			○				30
	■情意的領域	・主体的かつ積極的に課題に取り組むことができる。 ・仲間と協力して課題に取り組むことができる。	○			○			20
	■技能的領域	・リズムの特徴やイメージをとらえて、即興的かつ自由な身体表現ができる。 ・課題に即した作品づくり・発表ができる。	○			○		○ (作品発表)	50

成績評価の基準	作品発表（定期試験）を必ず行うという条件で、授業態度、授業所感の記入，レポート、ミニ発表、作品発表（定期試験）の各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	適宜提示する。（WebClass・OneDriveに参考資料・動画等をアップする）
履修条件・ 関連科目	特になし。
備考(教員メッセージ含む)	学習指導要領の改訂により、中学校においてダンスの授業が男女必修となり、教員採用選考試験で男女共通の必修課題としている県や市が増えている。ダンスはその特性上、未経験のままで教育実習や採用試験を受験することは難しいため、教職を希望する学生は、主体的な態度で受講すること。
オフィス・アワー	随時：7階703教員室

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	栂　ちか子	オリエンテーション（授業の進め方、ダンスの特性について、成績評価など）	WebClassにある資料で復習する（15分）
2	〃	ダンスの導入（ウォーミングアップ、交流ダンス）	授業映像から授業ノートを作成（30分）
3	〃	現代的なリズムのダンス①（リズムの特徴をとらえた動き）	授業映像から授業ノートを作成（30分）
4	〃	現代的なリズムのダンス②（ロックのリズムのダンス）	授業映像から授業ノートを作成（30分） 技能評価映像を見ながら、レポートを作成（60分）
5	〃	現代的なリズムのダンス③（ヒップホップのリズムのダンス）	授業映像から授業ノートを作成（30分） 技能評価映像を見ながら、レポートを作成（60分）
6	〃	フォークダンス（外国のフォークダンス、日本の民踊）	授業映像から授業ノートを作成（30分）
7	〃	創作ダンス①（身近な生活や日常動作、スポーツ動作から）	授業映像から授業ノートを作成（30分）
8	〃	創作ダンス②（対極の動きの連続）	授業映像から授業ノートを作成（30分）
9	〃	創作ダンス③（もの・道具を使って）	授業映像から授業ノートを作成（30分）
10	〃	創作ダンス④（多様な感じ、はこびとストーリー）	授業映像から授業ノートを作成（30分） 技能評価映像を見ながら、レポートを作成（60分）
11	〃	創作活動の基礎（群構成、空間の使い方、上演法など、グループ分け）	授業映像から授業ノートを作成（30分）
12	〃	作品創作①（グループ・個人の作品づくり）	授業映像から授業ノートを作成（30分） 作品の音楽編集（15分）
13	〃	作品創作②（グループ・個人の作品づくり）	授業映像から授業ノートを作成（15分） 作品の道具・衣装の準備（15分）
14	〃	作品創作③（グループ・個人の作品づくり）	知識に関するレポート作成（60分）
15	〃	作品創作④（グループ・個人の作品づくり）、作品発表リハーサル	リハーサル映像を見てグループごとで省察する（30分）
16	〃	学期末試験　：　作品発表	発表に向けた音楽・衣装・道具の準備（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	柔道 (133A0–4309)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	小澤　雄二			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	40名程度
授業の概要	本授業は学校体育の授業指導、社会体育のコーチング等に幅広く応用できる授業内容である。そのために、柔道の特性を理解し、基本動作、投げ技、固め技、投の形等の基本的な技能を習得し、簡易な攻防や乱取りを安全に行うことができる技能や、基礎的な指導法を身に付けることを目指している。 なお、希望者には講道館柔道初段取得を可能とする（ただし社会情勢等により、昇段審査を開催できない場合もある）。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	柔道の基本動作、投げ技、固め技、投の形等の理合いを理解し、他者に伝える能力が身に付く。	○						30
	■情意的領域	他者と協力しながら、自ら積極的に学ぼうとする態度が身に付く。	○						30
	■技能的領域	柔道の基本動作、投げ技、固め技、投の形等の基本的な技能が身に付く。	○	○			○	○ (投の形の演武)	40

成績評価の基準	基本的技術の理解・実践、また学習意欲等から総合的に評価して、60点以上の者に単位を与える。1/3以上の欠席により単位は認定されない。
テキスト、教材 参　考　書	随時、資料を配付する。

履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	1．欠席届は必ず本人が提出すること。 2．柔道衣は自前とするが、オリエンテーション時に詳細を説明する。 3．授業計画は授業の進行状況や社会情勢等による変更もあり得る。 4．講道館柔道初段取得には昇段審査料等、約29,250円（令和2年度現在）が必要となる。

オフィス・アワー	随時：研究棟5階 502研究室

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	小澤　雄二	オリエンテーション（柔道の理論） 柔道衣採寸	予習復習30分
2	〃	柔道の基本①	予習復習30分
3	〃	柔道の基本②	予習復習30分
4	〃	柔道の基本③	予習復習30分
5	〃	固め技①	予習復習30分
6	〃	固め技②	予習復習30分
7	〃	投げ技①	予習復習30分
8	〃	投げ技②	予習復習30分
9	〃	投げ技③	予習復習30分
10	〃	投げ技④	予習復習30分
11	〃	投げ技⑤	予習復習30分
12	〃	投の形①	予習復習30分
13	〃	投の形②	予習復習30分
14	〃	投の形③	予習復習30分
15	〃	投の形の演武（最終試験）	予習復習30分

授業科目名 (ナンバリングコード)	柔道 (133A0-4309)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	小崎　亮輔			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	40名程度
授業の概要	本授業は学校体育の授業指導、社会体育のコーチング等に幅広く応用できる授業内容である。そのために、柔道の特性を理解し、基本動作、投げ技、固め技、投の形等の基本的な技能を習得し、簡易な攻防や乱取りを安全に行うことができる技能や、基礎的な指導法を身に付けることを目指している。 なお、希望者には講道館柔道初段取得を可能とする（ただし諸事情により、昇段審査を開催できない場合もある）。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	柔道の基本動作、投げ技、固め技、投の形等の理合いを理解し、他者に伝える能力が身に付く。	○						30
	■情意的領域	他者と協力しながら、自ら積極的に学ぼうとする態度が身に付く。	○						30
	■技能的領域	柔道の基本動作、投げ技、固め技、投の形等の基本的な技能が身に付く。	○	○			○	○ (投の形の演武)	40

成績評価の基準	基本的技術の理解・実践、また学習意欲等から総合的に評価して、60点以上の者に単位を与える。1/3以上の欠席により単位は認定されない。
テキスト、教材 参　考　書	随時、資料を配付する。

履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	1．欠席届は必ず本人が提出すること。 2．柔道衣は自前とするが、オリエンテーション時に詳細を説明する。 3．授業計画は授業の進行状況や社会情勢等による変更もあり得る。 4．講道館柔道初段取得には昇段審査料等、約29,300円（令和7年度現在）が必要となる。
オフィス・アワー	随時：研究棟5階 504研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	小崎　亮輔	オリエンテーション（柔道の理論） 柔道衣採寸	予習復習30分
2	〃	柔道の基本①	予習復習30分
3	〃	柔道の基本②	予習復習30分
4	〃	柔道の基本③	予習復習30分
5	〃	固め技①	予習復習30分
6	〃	固め技②	予習復習30分
7	〃	投げ技①	予習復習30分
8	〃	投げ技②	予習復習30分
9	〃	投げ技③	予習復習30分
10	〃	投げ技④	予習復習30分
11	〃	投げ技⑤	予習復習30分
12	〃	投の形①	予習復習30分
13	〃	投の形②	予習復習30分
14	〃	投の形③	予習復習30分
15	〃	投の形の演武（最終試験）	予習復習30分

授業科目名 (ナンバリングコード)	剣道 (133A0-4310)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	前阪　茂樹・竹中　健太郎・大城戸　知			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	30名程度
授業の概要	剣道に関する基礎的な実技力を身につける科目である. 剣道の礼法や基本動作、対人的技能などの基本技術について学ぶことを目的とする。さらに自己の能力に応じた技の攻防を工夫し学習したり、剣道を通じて適正かつ柔軟な思考や行動力、相手や仲間と協働して自らの課題解決に取り組む姿勢を学ぶことを期待する。 学習内容については、中学校、高等学校保健体育「武道」領域で取り扱う内容に準拠して行なう。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力							
	■認知的領域	剣道の基礎的な内容について理解力がつく。	○		○				10
	■情意的領域	剣道の初歩的な実技力を身につけようとする態度が身につく。	○						30
	■技能的領域	正しい着装・着具、礼儀作法、足さばきや素振りなどの基本動作と初歩的な基本打突ができるようになる。	○	○			○		60

成績評価の基準	上記の評価の方法、具体的には授業に対して積極的に取り組む姿勢、施設・用具等の適正な使用状況、授業ノートの提出、及び剣道実技の習熟度・理解度などを判断・評価し、60点以上を合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	テキスト教材：Web classにて対応する 授業に必要なもの：剣道具一式は準備するが、竹刀、剣道着・袴は自費で購入すること。 竹刀（3尺9寸）完成品＜鍔、鍔止め、竹刀袋＞（およそ4000円～） 剣道着・袴（およそ11,000円～） 剣道用手拭い 参考書　：全日本剣道連盟「剣道指導要領」

履修条件・関連科目	武道課程の学生で「専修武道論・実習（剣道）」を履修する学生は本科目は受講できない。	備考(教員メッセージ含む)	主に保健体育教員を志す者が受講してください。 尚、竹刀および剣道具関係はすべて自分のものを準備してください。（竹刀や剣道着・袴は借りたものの使用は認めません） また、初心者でどうしても準備できない者については剣道具については貸出可能です。但し、剣道着・袴、竹刀、手拭い（面下）、面シールドについては別途購入が必要です。 ※感染症対策として面マスクか剣道専用シールドは必須です。

オフィス・アワー	授業終了直後の３０分間、武道館剣道教員室において連絡・相談事項を受け付ける。

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	前阪　茂樹 竹中　健太郎 大城戸　知	オリエンテーション ・剣道の歴史と特性 ・着装及び管理方法の説明	剣道着・袴を自分でたためるようにする。（約20分）
2	〃	1. 礼法の実践と基本動作の習得 （1）着装、立礼、正座、座礼 （2）姿勢、構え、蹲踞、目付、足（体）捌き、掛け声、素振り （3）切り返し	４回目までの内容の習得を到達目標として配付したテキストの内容について復習を行う。（約20分）
3	〃	〃	〃
4	〃	〃	〃
5	〃	2. 応用動作としての基本打突（対人的技能Ⅰ）の習得 （1） 剣道具の着具 （2） 基本技能（しかけ技） ① 一本打ちの技 ② 連続技 ③ 引き技 （3） 応用技能（応じ技） ① 抜き技 ② すり上げ技	１０回目までの内容の習得を到達目標として配付したテキストの内容について復習を行う。（約20分）
6	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃
8	〃	〃	〃
9	〃	〃	〃
10	〃	〃	〃

11	〃	3. 稽古（対人的技能Ⅱ） （1）切り返し （2）約束・打ち込み稽古 （3）互格稽古 （4）簡易的な試合と審判	１５回目までの内容の習得を到達目標として配付したテキストの内容について復習を行う。（約20分）
12	〃	〃 授業内容（3）互格稽古では主に担当教員に懸かり、その内容を評価する	〃
13	〃	〃 〃	〃
14	〃	〃 〃	〃
15	〃	〃 〃	授業ノートをまとめ、提出する。（ノートの作成・まとめに約１時間）
16	〃	実技試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	エアロビックダンス (133A0-4311)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	桑原　美砂恵			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	①1年次②4年次	受け入れ人数	50名程度
授業の概要	エアロビックダンスの基本的な理論を学び、簡単なプログラムの指導法を習得する。 グループワーク、発表を通して、コミュニケーション能力の向上を身に付ける。 【授業に含まれる活動】○…実施あり、×…実施なし、△…授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク(○)、ディスカッション・討論(×)、プレゼンテーション・発表(○)、フィールドワーク(×)				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力 （コミュニケーション力、リーダーシップ、専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	エアロビックダンスの生まれた背景・歴史を理解し、指導する際に必要な基本的指導法について理解することができる。		○			○		20
	■情意的領域	エアロビックダンスに興味・関心を持ち、グループワーク、発表を通して、意欲的に取り組もうとする。	○			○	○		30
	■技能的領域	基本的なエアロビックダンスのステップに加え、ストレッチ、レジスタンストレーニングが出来るようになり、初心者への簡単な指導法ができる。	○	○		○	○		50

成績評価の基準	授業への参加、テスト、発表の各得点を合計し、６０点以上のものを合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	参考書として次のものを推薦する。 ①「エアロビックダンスエクササイズ指導理論」JAFA 日本フィットネス協会

履修条件・関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	授業前後に対応。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	桑原　美砂恵	授業ガイダンス、ベーシッククラス体験	配布資料を読んで復習する（１５分）
2	〃	理論：有酸素運動の基礎知識 実践：基本姿勢、基本プログラムの実際	実施した内容を復習する（２０分）
3	〃	理論：エアロビックダンスの歴史と運動特性　/　プログラムの基本構成 実践：ウォーミングアップの実際	ウォーミングアップを復習する（１５分）
4	〃	理論：エアロビックダンスエクササイズの基本の動き① 実践：ローインパクトステップ・ハイインパクトステップ	基本ステップを復習する（１５分）
5	〃	理論：エアロビックダンスエクササイズの基本の動き② 実践：上肢・下肢の組み合わせ　/　運動強度の上げ方、下げ方	実施した内容を復習する（２０分）
6	〃	理論：エアロビックダンスエクササイズのプログラミング 実践：筋コンディショニング	筋コンディショニングを復習する 機能解剖学的に学ぶ
7	〃	理論：エアロビックダンスエクササイズの指導法 実践：筋コンディショニング、クーリングダウン	筋コンディショニング・クーリングダウンを復習する（２０分） 機能解剖学的に学ぶ
8	〃	理論：運動強度の整備 実践：ショートプログラムの作り方	（プログラムの構成案）（６０分）
9	〃	理論：エアロビックダンスと音楽 実践：ショートプログラム作成（ウォーミングアップ）	グループでプログラムを作る（３０分）
10	〃	実践：ショートプログラム作成（メインエクササイズ）	グループでプログラムを作る（３０分）
11	〃	実践：（筋コンディショニング、クーリングダウン）の実際	機能解剖学的に学ぶ
12	〃	実践：プログラム作成（ウォームアップ～メイン）	グループでプログラムを作る（２０分）
13	〃	試験（実技・筆記）内容について	テストの準備をする（６０分）
14	〃	プログラム作成（グループでプログラムをつくる）	テストの準備をする（６０分）
15	〃	プログラム作成（グループでプログラムをつくる）	テストの準備をする（６０分）
16	〃	学期末試験：グループ発表・筆記テスト	

授業科目名 (ナンバリングコード)	ジョギング＆ウォーキング (133A0-4313)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	吉塚　一典・笹子　悠歩・北村　尚浩			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	25名以内
授業の概要	ジョギングとウォーキングにおける、基礎的な理論および指導方法の習得を狙いとする。また、ウォーキングやジョギングのイベントの立案・運営をグループで協同して行うことに加え、15回中4回の授業は、集中講義として学外実習（トレッキング）を行う。それらを通して、実技指導力を身に付けるほか、実技力、事業運営力、協同力、専門的な知識・教養、そして安全管理に関する知識を習得することが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技指導力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	運動強度の設定、調整の方法を理解する。 運動時の安全管理の方法を理解する。	○	○	○				30
	■情意的領域	積極的に授業に参加することができる。	○		○				30
	■技能的領域	運動強度の設定を正しくできる。 指導上の留意点を理解する。 ジョギングの企画・運営ができる。	○		○	○			40

成績評価の基準	授業態度と授業への取り組み状況を基本に、レポートの提出状況と筆記テストの結果等から総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	随時資料を提供する。また、学外実習の際には、交通費（数千円程度）が必要となる場合がある。		
履修条件・ 関連科目	ウォーキングでは動画撮影にスマートフォンまたはタブレット端末を使用する。	備考(教員メッセージ含む)	学外実習は、10月～1月のいずれかの週末に実施する（1日のみ）。
オフィス・アワー	吉塚：随時（701教員室） 笹子：随時（大学院棟3階　教員室3） 北村：随時（610研究室） ※事前にメール等でアポイントメントを取ること		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	北村　尚浩 吉塚　一典 笹子　悠歩	授業ガイダンス	今後の講義予定を確認し、次週以降から実施する内容について情報を収集する（30分）
2	北村　尚浩 笹子　悠歩	ウォーキングおよびジョギングの理論と実践（1）	本日の授業内容の復習および次週以降の授業の予習（1時間）
3	〃	ウォーキングおよびジョギングの理論と実践（2）	本日の授業内容の復習および次週以降の授業の予習（1時間）
4	〃	ウォーキングおよびジョギングの理論と実践（3）	本日の授業内容の復習および次週以降の授業の予習（1時間）
5	吉塚　一典	ウォーキングおよびジョギングの理論と実践（4）	本日の授業内容の復習および次週以降の授業の予習（1時間）
6	〃	楽しくジョギングをする方法（デモ）	事前に配布する資料等をもとに予習を行うこと
7	〃	ウォーキングおよびジョギングのイベント（イベント案の作成）	各班で事前に実施内容を検討し、企画案を提出する（2時間）
8	北村　尚浩 吉塚　一典 笹子　悠歩	ウォーキングおよびジョギングのイベント（1）	各班で事前に実施内容を検討し、企画案を提出する（2時間）
9	〃	ウォーキングおよびジョギングのイベント（2）	各班で事前に実施内容を検討し、企画案を提出する（2時間）
10	〃	トレッキング入門　安全な活動のために必要なこと	本日の授業内容の復習および学外実習の予習（1時間）
11	吉塚　一典 笹子　悠歩	学外実習	
12	〃	学外実習	
13	〃	学外実習	
14	〃	学外実習	課題レポート（1時間）
15	〃	筆記テスト	

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ・レクリエーション＆ゲームズ (133A0-4314)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	坂口　俊哉・日下　知明			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	50名程度
授業の概要	生涯スポーツの現場に必要不可欠な、ニュースポーツを中心とした生涯スポーツ及びレクリエーションゲームズの実践を通してその概要と指導の基礎を学習するとともに、生涯スポーツとレクリエーションゲームズについての認識を深める。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、コミュニケーション力 （専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	さまざまなニュースポーツを知り，競技種目毎のルールを理解すると同時に，指導のための基礎知識を習得する．	○		○			○ (ノート)	50
	■情意的領域	授業に積極的に取り組むことができる．	○						30
	■技能的領域	履修学生に対して的確な指示を出すことができる（準備体操を含む）． ニュースポーツの試合進行を適切に行うことができる．	○						20

成績評価の基準	受講態度とレポート提出状況を重視して，総合的に評価する．特に，取り扱う競技種目のルールについての理解が求められる．授業内での審判、準備体操の準備と指示などの取り組みなどを加味する．ノートの提出がない場合，単位認定の対象外となる．
テキスト、教材 参　考　書	授業内容に関わる資料や動画はWebClassにアップロードします． 「ニュースポーツ：ルールと実技」（野川春夫ら） 「レクリエーションコーディネーターテキスト」（日本レクリエーション協会編） 「健康・スポーツの指導」（萩裕美子編）「新レクリエーションハンドブック」

履修条件・ 関連科目	３年時の生涯スポーツ指導実習で「野外教育施設」を選択する可能性のある学生は，この科目を履修しておくことが望ましい．	備考(教員メッセージ含む)	・当日の天候等によって内容を変更することがあります． ・実施場所の変更等はWebClassのメールで配信しますので，必ずWebClassのコース登録を行ってください． ・授業の一部で情報端末と筆記用具を使用しますので，毎回持参してください． ・競技種目や天候等によって実施場所が変わりますので，屋外シューズと屋内シューズの両方を準備してください．

オフィス・アワー	坂口：随時（大学院棟教員室2）．メールでアポイントを取っておくと確実です．tsakaguc@nifs-k.ac.jp 日下：事前にメールで連絡してください（研究棟607）．t-kusaka@nifs-k.ac.jp

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	坂口　俊哉 日下　知明	オリエンテーション：ニュースポーツの紹介と動画の視聴，ルールへの理解	フライングディスクを用いた遊びについてWebClassの資料等で予習しておくこと．（60分）
2	〃	フライングディスクのルールと実技（１）：ディスクの飛行特性，様々な種目とルールの紹介	ディスクの持ち方，スローイングのコツ，ディスクスポーツの種類などについてWebClassの資料等で予習しておくこと．（60分）
3	〃	フライングディスクのルールと実技（２）：パス練習（正確性）	各自のスローイング課題を解決するためのコツをWebClassの資料等で予習しておくこと．（60分）
4	〃	フライングディスクのルールと実技（３）：動きながらのパス	アルティメットのゲームの概要やルールについてWebClassの資料等で予習しておくこと．（60分）
5	〃	フライングディスクのルールと実技（４）：アルティメット導入	攻撃の戦略についてWebClassの資料等を利用して予習しておくこと．（60分）
6	〃	フライングディスクのルールと実技（５）：アルティメットゲーム	審判ができるように各自アルティメットのルールについて確認しておくこと．担当班はゲーム進行のための準備をしておくこと．（60分）
7	〃	チュックボールのルールと実技（１）：シュート，キャッチ	チュックボールのゲームの概要やルールについてWebClassの資料等で予習しておくこと（60分）
8	〃	チュックボールのルールと実技（２）：ゲーム導入	チュックボールのルールや戦略についてWebClassの資料等で予習しておくこと．（60分）
9	〃	チュックボールのルールと実技（３）：ゲーム	審判ができるように各自チュックボールのルールについて確認しておくこと．担当班はゲーム進行のための準備をしておくこと．（60分）
10	〃	キンボール・スポーツのルールと実技（１）：ルールの解説，動画の視聴，リードアップゲーム，ヒット＆キャッチ	キンボール・スポーツのゲームの概要やルールについてWebClassの資料等で予習しておくこと（60分）
11	〃	キンボール・スポーツのルールと実技（２）：ゲーム	審判ができるように各自キンボール・スポーツのルールについて再度確認しておくこと．担当班はゲーム進行のための準備をしておくこと．（60分）
12	〃	インディアカのルールと実技（１）ゲーム導入	インディアカの歴史，ゲームの概要，ルールについてWebClassの資料等で予習しておくこと（60分）
13	〃	インディアカのルールと実技（２）ゲーム	審判ができるように各自インディアカのルールについて再度確認しておくこと．担当班はゲーム進行のための準備をしておくこと．（60分）
14	〃	ローンボウルズ，ペタンク，シャッフルボード：ターゲット系ゲームの体験	3種目のゲームの概要やルールについてWebClassの資料等で予習しておくこと．担当班は3種目の説明とゲーム進行ができるように準備をしておくこと．（60分）
15	〃	まとめ	最終ノートの作成に取り組むこと

授業科目名 (ナンバリングコード)	アウトドアスポーツ実習（夏季） (133A0-4216)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	坂口　俊哉・北村　尚浩・日下　知明・冨山　浩三・古田 洋一			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	30名程度
授業の概要	夏季山岳レジャースポーツ実習ではキャンププログラムを中心に実施する。キャンプの実施を通して、野外教育の意義と運営・指導の実際について学習する。 実習日程：2026 (令和8) 年５月3日（日）～５月5日（火）を予定 なお、実習の日程や内容を変更して実施する可能性がある。 詳細については状況が変わり次第連絡する。 授業に関連する連絡は主にメールで行うため、受講者はWebclassへの登録を各自で確実に行うこと。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	事業運営力、リーダーシップ、課題解決力 （実技力，コミュニケーション力，一般教養・倫理）							
	■認知的領域	実習内容に対する理解。 より実践的な指導に必要な専門的知識を身につける	○		○				30
	■情意的領域	野外活動の楽しみを理解し，積極的に取り組む姿勢を身につける	○		○			○ (日誌)	50
	■技能的領域	実践体験を通じて、テントの設営や火起こしなど、野外での生活に必要なスキルを身につける	○					○ (日誌)	20

成績評価の基準	実習参加前後でのレポート評価，実習への参加状況などの評価から総合的に評価する．		
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて紹介する．		
履修条件・関連科目	実習参加費（一人17,000円程度）が必要です． 4月上旬に事前ガイダンスを実施します．日程等については，WebClassによるメール，掲示によって別途通知します．必ずWebClassのコース登録を行うこと．実習の運営に支障があるため，無断でガイダンスを欠席した場合，実習への参加を認めない場合があります．メール，掲示板の見落としがないように注意してください．	備考(教員メッセージ含む)	実習日誌と手引きに基づいて課題レポートが要求される．
オフィス・アワー	随時：坂口（大学院棟３Ｆ 教官室1)．事前にメールでアポイントをとると確実です．tsakaguc@nifs-k.ac.jp		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	坂口　俊哉 北村　尚浩 日下　知明 冨山　浩三 古田 洋一	実習のためのグループ別事前学習では，実習中の班の構成を行う．また班ごとに，参加者各自の役割を決定する．	実習中に実施するプログラムについて，振り返りを行う．その内容については，実習日誌に記入する． 記入した内容については，班別ミーティングで共有する．（60分）
2	〃	実習では，テント設営，野外炊飯，野外レクリエーション，キャンプファイヤー，登山ハイキングの実践を行い，諸外国のレジャースポーツ運営（講義）やキャンプファイヤーの企画運営（講義），登山・ハイキング計画の立て方（講義）について学ぶ．	実習終了後のレポート作成（120分）
3	〃	〃	
4	〃	〃	
5	〃	〃	
6	〃	〃	
7	〃	〃	
8	〃	〃	
9	〃	〃	
10	〃	〃	
11	〃	〃	
12	〃	〃	
13	〃	〃	
14	〃	〃	
15	坂口　俊哉	〃	レポート作成

授業科目名 (ナンバリングコード)	アウトドアスポーツ実習（冬季） (133A0-4217)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	坂口　俊哉・高橋　仁大・日下　知明			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	40名程度

授業の概要

冬季のアウトドアスポーツとして，スキーを中心に実施する．雪上スポーツの実施を通して，冬季における野外活動の意義と指導の実際を学習する．

・実習日程：2027（令和9）年2月17日（水）から20日（土）（3泊4日）
・実習場所：新潟県妙高高原スキー場
・実習参加費：1人あたり70,000円程度

天候の影響で実施内容を変更する可能性がある．
変更した場合でも，履修継続できることを前提として履修を決定すること．

【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり
グループワーク（○）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（○）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力		授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	実習内容に対する理解、より実践的な指導に必要な専門的知識を身につける。	○		○			○ (日誌)	30
	■情意的領域	積極的に授業に参加する。実習の参加状況。	○					○ (日誌)	30
	■技能的領域	実践体験を通じて、スキー技能を習得する。	○	○					40

成績評価の基準	実習参加前後でのレポート評価，実習先での参加状況と評価から総合的に評価する．		
テキスト、教材 参　考　書	日本スキー教程，公益財団法人全日本スキー連盟　山と渓谷社		
履修条件・ 関連科目	・実習に関する連絡はWebClassを通じて行うため，必ずWebClassのコース登録を行うこと． ・実習の詳細については11-12月開催予定のガイダンスにおいて説明する． ・1月に，実習参加費の一部（30,000円程度）を徴収する． ・ガイダンスや集金の日程等は別途メールにて通知する．メールは大学ドメインのメールアドレス宛に送信する．携帯電話に転送設定し，定期的にメールをチェックする，などの準備をしておくこと． ・実習の運営に支障があるため，無断でガイダンスを欠席した場合，当該者を参加者リストから自動的に除外する． ・定員に空きがある場合にのみ，後期の履修登録変更期間中に履修希望者を追加募集する場合がある．	備考(教員メッセージ含む)	実習日誌と手引きに基づいて課題レポートが要求される。
オフィス・アワー	随時：坂口（大学院棟3F 教官室1）事前にメールでアポイントをとること．tsakaguc@nifs-k.ac.jp		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	坂口　俊哉 高橋　仁大 日下　知明	スキー学習における基礎的な用語，理論，指導方法を学ぶ．また，用具の取り扱い，雪上での準備運動の方法，滑走方法を学ぶ．	学習した内容の振り返りのために，実習日誌への記入を行うこと．（60分）
2	〃	講義１：雪国の暮らし スキーの歴史や，その背景にある自然環境に対する理解を深めることを目的とした講義	講義の感想を日誌にまとめる（60分）
3	〃	講義２：スキー技術 スキーの技術，専門用語について学ぶ．	講義の感想を日誌にまとめる（60分）
4	〃	講義３：スキーとツーリズム ニセコ，妙高高原などインバウンドの獲得を目指した最新の動向について学ぶ	講義の感想を日誌にまとめる（60分）
5	〃	〃	
6	〃	〃	
7	〃	〃	
8	〃	〃	
9	〃	〃	
10	〃	〃	
11	〃	〃	
12	〃	〃	
13	〃	〃	
14	〃	〃	
15	〃		レポート作成（120分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	海洋スポーツ① (133A0-4218)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	榮樂　洋光・中村　夏実・笹子　悠歩			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	40名

授業の概要

現在の日本社会において、子どもの発育発達における体験活動の重要性、多様な生涯スポーツ種目のニーズが高まっています。加えて「海洋基本計画」にもとづく我が国の海洋立国政策を背景に、国民に広く海洋を理解してもらうためにも、海洋スポーツ活動および水辺活動に造詣の深い人材が求められています。

そこで本授業では、まずは自らが海洋スポーツを楽しむことを前提とし、学習した海洋スポーツ種目について、安全性を認識し、判断力を持って自ら楽しみ、自ら片づけることができる能力を養います。

そのために、以下の授業内容を展開します。
①セーリング種目であるヨットおよびローイング系種目であるカヌーを中心に、初歩的な技術の習得をめざす（実技・講義）。
②安全性を認識し、判断力を持って活動するための、基礎的な海事知識を学ぶ（実技・講義）。
③必要な道具の準備・水洗い・収納方法を学ぶ（実技）。

なお、本授業は2時限続きで行われます。定員は40名とし、20名ずつの2班に分かれてヨットとカヌーを交代で実施します。

【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり
グループワーク（○）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（○）

授業の到達目標及び成績評価の方法

	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力		授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	海洋スポーツを安全に行うための海事知識および技術習得に必要な知識について理解する。筆記テスト20 点、レポート30 点（5 点× 6 回）			○		○		50
	■情意的領域	指導者およびリーダーの指示をよく理解し、準備、出艇、片付けに協力して、積極的に取り組む。	○						20
	■技能的領域	海洋スポーツに主体的に取り組むための判断力を養う。初歩的な技術を習得し、自ら準備し、自ら楽しめ、自ら片づけることができる。	○						30

成績評価の基準	９０点以上はS、８０点～８９点はA、７０点～７９点はB、６０点～６９点はC とする。出席回数が３分の２に満たない場合には履修放棄とみなす。		
テキスト、教材 参　考　書	海洋スポーツテキスト（鹿屋体育大学海洋スポーツセンター編・「基礎から学ぶ海洋スポーツ」）、その他必要に応じて提供。 また、本授業は実習参加費として7,000円程度必要となります。		
履修条件・ 関連科目	医師により海でのスポーツや水に入ることが禁忌と診断されているものは事前に相談してください。受講に関する条件・準備等は、掲示します。 授業は2時限目と3時限目に連続して行われます。1日欠席すると2回分の欠席となります。試合等で3日以上欠席すると6回分の欠席となり、出席日数は不足します。履修の際にはこの点について十分に考慮してください。	備考(教員メッセージ含む)	１）道具の都合上、４０名以下の受講者数に限定します。海洋スポーツ①と②の両方を受講することはできません。 ２）天候により授業内容が変更されることがあります。 ３）授業は海洋スポーツセンターおよびセンター前の海上で実施します.海洋スポーツセンターへの移動手段は，スクールバスに限ります。 ４）授業内で、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお，撮影した映像は，原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。
オフィス・アワー	随時。ただし事前に連絡してください。研究棟709室（榮樂）、研究棟710室（中村）、大学院棟3階3教員室（笹子）、または海洋スポーツセンター（0994-47-2758） （E-mail）kaispo@nifs-k.ac.jp		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	榮樂　洋光 中村　夏実 笹子　悠歩	オリエンテーション・海洋スポーツに取り組むための基礎知識と態度（講義） 施設の利用法、用具の使い方、ビーチクリーンアップ、水慣れ（実技）	実施週の金曜までにレポート提出① 海洋スポーツについての事前学習とふりかえり（1時間）
2	〃	準備、小型ヨットの艤装および出艇、着艇、帆走（１）、片付け	海洋スポーツについての事前学習とふりかえり（1時間）
3	〃	準備、小型ヨットの艤装および出艇、着艇、帆走（２）、片付け	実施週の金曜までにレポート提出②　ヨットの基本について予習・復習（1時間）
4	〃	準備、小型ヨットの転覆とリカバリー、片付け	ヨットの基本について予習・復習（1時間）
5	〃	準備、小型ヨットの帆走（方向転換：タッキング）、片付け	実施週の金曜までにレポート提出③　ヨットの基本について予習・復習②（1時間）
6	〃	準備、小型ヨットの帆走（方向転換：ジャイビング）、片付け	ヨットの基本について予習・復習②（1時間）
7	〃	準備、小型ヨットの帆走（風上・風下への帆走）、片付け	実施週の金曜までにレポート提出④　ヨットに関する習得知識をまとめる（1時間）
8	〃	準備、小型ヨットを用いたレース、片付け	ヨットに関する習得知識をまとめる（1時間）
9	〃	準備、カヤックの漕法と沈起こし（シットオントップ）、片付け	カヌーの基本について予習・復習（1時間）
10	〃	準備、カヤックの漕法と沈起こし（シングルカヤック）、片付け	実施週の金曜までにレポート提出⑤　カヌーの基本について予習・復習（1時間）
11	〃	準備、カナディアンカヌーの漕法と沈起こし、片付け	カヌーの基本について予習・復習②（1時間）
12	〃	準備、カナディアンカヌーの漕法と沈起こし、片付け	実施週の金曜までにレポート提出⑥　カヌーの基本について予習・復習②（1時間）
13	〃	カヌーツーリングの計画と実施 準備、シットオントップor スノーケリング、片付け	カヌーに関する習得知識をまとめる（1時間）
14	〃	カヌーツーリングの計画と実施 準備、シットオントップor スノーケリング、片付け	カヌーに関する習得知識をまとめる（1時間）
15	〃	準備、シングルカヤックの漕方とレクリエーション、片付け	海洋スポーツに関する習得した知識と技術のまとめ（1時間）
16	〃	筆記テスト	海洋スポーツに関する習得した知識と技術のまとめ（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	海洋スポーツ② (133A0-4218)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	榮樂　洋光・中村　夏実・笹子　悠歩			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	40名程度

授業の概要

現在の日本社会において、子どもの発育発達における体験活動の重要性、多様な生涯スポーツ種目のニーズが高まっています。加えて「海洋基本計画」にもとづく我が国の海洋立国政策を背景に、国民に広く海洋を理解してもらうためにも、海洋スポーツ活動および水辺活動に造詣の深い人材が求められています。

そこで本授業では、まずは自らが海洋スポーツを楽しむことを前提とし、学習した海洋スポーツ種目について、安全性を認識し、判断力を持って自ら楽しみ、自ら片づけることができる能力を養います。

そのために、以下の授業内容を展開します。
①セーリング種目であるウインドサーフィンおよびローイング系種目であるカヌーを中心に、初歩的な技術の習得をめざす（実技・講義）。
②安全性を認識し、判断力を持って活動するための、基礎的な海事知識を学ぶ（実技・講義）。
③必要な道具の準備・水洗い・収納方法を学ぶ（実技）。

なお、本授業は2時限続きで行われます。定員は40名とし、20名ずつの2班に分かれてウィンドサーフィンとカヌーを交代で実施します。

【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり
グループワーク（○）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（○）

授業の到達目標及び成績評価の方法

	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力 （運動実技力、実技指導力）	授業期間 授業	テスト	レポート	発表	定期試験	その他	割合 %
■認知的領域		海洋スポーツを安全に行うための海事知識および、技術習得に必要な知識について理解する。筆記テスト20 点、レポート30 点（5 点×6 回）			○		○		50
■情意的領域		指導者およびリーダーの指示をよく理解し、準備、出艇、片付けに協力して、積極的に取り組む	○						20
■技能的領域		海洋スポーツに主体的に取り組むための判断力を養う。初歩的な技術を習得し、自ら準備し、自ら楽しめ、自ら片づけることができる。	○						30

成績評価の基準	９０点以上はS、８０点～８９点はA、７０点～７９点はB、６０点～６９点はC とする。出席回数が３分の２に満たない場合には履修放棄とみなす。
テキスト、教材 参　考　書	海洋スポーツテキスト（鹿屋体育大学海洋スポーツセンター編・「基礎から学ぶ海洋スポーツ」）、その他必要に応じて提供。 また、本授業は実習費として7,000円程度必要となります。
履修条件・関連科目	医師により海でのスポーツや水に入ることが禁忌と診断されているものは事前に相談してください。受講に関する条件・準備等は、掲示します。 授業は2時限目と3時限目に連続して行われます。1日欠席すると2回分の欠席となります。試合等で3日以上欠席すると6回分の欠席となり、出席日数は不足します。履修の際にはこの点について十分に考慮してください。
備考(教員メッセージ含む)	１）道具の都合上、40名以下の受講者数に限定します。海洋スポーツ①と②の両方を受講することはできません。 ２）天候により授業内容が変更されることがあります。 ３）授業は海洋スポーツセンターおよびセンター前の海上で実施します。海洋スポーツセンターへの移動手段は、スクールバスに限ります。 ４）授業内で、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。
オフィス・アワー	随時。ただし事前に連絡してください。研究棟709室（榮樂）、研究棟710室（中村）、大学院棟3階3教員室（笹子）、または海洋スポーツセンター（0994-47-2758） （E-mail）kaispo@nifs-k.ac.jp

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	榮樂　洋光 中村　夏実 笹子　悠歩	オリエンテーション・海洋スポーツに取り組むための基礎知識と態度（講義） 施設の利用法、用具の使い方、ビーチクリーンアップ、水慣れ（実技）	実施週の金曜までにレポート提出①　海洋スポーツについての事前学習とふりかえり（1時間）
2	〃	準備、ウィンドサーフィンの艤装、出艇、着艇、プレセーリング動作の習得、片付け	海洋スポーツについての事前学習とふりかえり（1時間）
3	〃	準備，ウィンドサーフィンの艤装、出艇、着艇、帆走、リカバリー、片付け(1)	実施週の金曜までにレポート提出②　ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）
4	〃	準備、ウィンドサーフィンの艤装、出艇、着艇、帆走、リカバリー、片付け(2)	ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）
5	〃	準備、ウィンドサーフィンの帆走（方向転換：タッキング）、片付け	実施週の金曜までにレポート提出③　ウインドサーフィンの基本について予習・復習②（1時間）
6	〃	準備、ウィンドサーフィンの帆走（方向転換：ジャイビング）、片付け	ウインドサーフィンの基本について予習・復習②（1時間）
7	〃	準備、ウィンドサーフィンの帆走（風上・風下への帆走）、片付け	実施週の金曜までにレポート提出④　ウインドサーフィンに関する基礎知識をまとめる（1時間）
8	〃	準備、ウィンドサーフィンを用いたレース、片付け	ウインドサーフィンに関する基礎知識をまとめる（1時間）
9	〃	準備、カヤックの漕法と沈起こし（シットオントップ）、片付け	カヌーの基本について予習・復習（1時間）
10	〃	準備、カヤックの漕法と沈起こし（シットオントップ）、片付け	実施週の金曜までにレポート提出⑤　カヌーの基本について予習・復習（1時間）
11	〃	準備、カナディアンカヌーの漕法と沈起こし、片付け	カヌーの基本について予習・復習②（1時間）
12	〃	準備、カナディアンカヌーの漕法と沈起こし、片付け	実施週の金曜までにレポート提出⑥　カヌーの基本について予習・復習②（1時間）
13	〃	カヌーツーリングの計画と実施 準備、シットオントップor スノーケリング、片付け	カヌーに関する基礎知識をまとめる（1時間）
14	〃	カヌーツーリングの計画と実施 準備、シップトオントップor スノーケリング、片付け	カヌーに関する基礎知識をまとめる（1時間）
15	〃	準備、シングルカヤックの漕方とレクリエーション、片付け	海洋スポーツに関する習得した知識と技術のまとめ（1時間）
16	〃	筆記テスト	海洋スポーツに関する習得した知識と技術のまとめ（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	ラグビー (133A0-4303)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	森下　大輔			補助担当者名	成田　健造
単位数	1　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	４５ 名程度
授業の概要	ラグビーの歴史やプレーの原則、競技規則を学習し、ラグビーの理解を深めることができる。 ラグビーの基本的な個人及びチーム技術や特性を学習し、安全かつ楽しくラグビーをプレーすることができる。 ラグビーを安全に実施していくための指導方法を学習し、計画的な練習やゲーム運営ができるようになる。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力 （実技力、実技指導力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・ラグビーの歴史を学習する ・ラグビーの競技規則を学習する ・ラグビー憲章を通してゲームの原則を学ぶ	○		○				30
	■情意的領域	・積極的かつ自発的に授業、課題、ゲームに取り組むことができる	○						30
	■技能的領域	・パス、キック、ランニング、スクラム、ラインアウト、ディフェンスの基本技術を習得し身体表現ができる ・チーム戦術の考え方を習得する	○	○	○		○		40

成績評価の基準	授業への参加が２/３以上で、授業への取り組み、態度、技能テストの各合計点が60点以上のものを合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	・競技規則については2025年度日本ラグビーフットボール協会競技規則ルールブックを参考とする ・その他必要に応じて資料を配布する
履修条件・ 関連科目	特になし。
備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	森下：非常勤講師 成田：随時　研究棟8階　812教員研究室

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	森下　大輔	オリエンテーション　ラグビーの歴史や基本ルールの理解	https://www.rugby-japan.jp/ 「ラグビーを知る・楽しむ」を閲覧（15分）
2	〃	ラグビー競技に慣れるための各種ゲームⅠ	https://www.rugby-japan.jp/ 「ラグビーを知る・楽しむ」を閲覧（10分）
3	〃	ラグビー競技に慣れるための各種ゲームⅡ	https://www.rugby-japan.jp/ 「ラグビーを知る・楽しむ」を閲覧（10分）
4	〃	ランニングスキルの習得とゲーム	実施した講義内容の復習（10分）
5	〃	ハンドリングスキルの習得Ⅰとゲーム	実施した講義内容の復習（10分）
6	〃	ハンドリングスキルの習得Ⅱとゲーム	実施した講義内容の復習（10分）
7	〃	キッキングスキルの習得とゲーム	実施した講義内容の復習（10分）
8	〃	競技規則（ルール）の理解と競技場作りについて	https://www.rugby-japan.jp/future/rule 「2025年度競技規則」の1頁～29頁を閲覧(30分)
9	〃	ゲームの開始と再開Ⅰ：キックオフとドロップアウトとゲーム	https://www.rugby-japan.jp/future/rule 「2025年度競技規則」の61頁～64頁を閲覧(15分)
10	〃	ゲームの開始と再開Ⅱ：スクラムとゲーム	https://www.rugby-japan.jp/future/rule 「2025年度競技規則」の96頁～106頁を閲覧(15分)
11	〃	ゲームの開始と再開Ⅲ：ラインアウトとゲーム	https://www.rugby-japan.jp/future/rule 「2025年度競技規則」の81頁～95頁を閲覧(15分)
12	〃	ゲームの開始と再開Ⅳ：ペナルティとゲーム	https://www.rugby-japan.jp/future/rule 「2025年度競技規則」の107頁～111頁を閲覧(15分)
13	〃	ラグビーゲームの運営と実際Ⅰ	各チーム戦術振り返り（15分）
14	〃	ラグビーゲームの運営と実際Ⅱ	各チーム戦術振り返り（15分）
15	〃	ラグビーゲームの運営と実際Ⅲ	各チーム戦術振り返り（15分）
16	〃	学期末試験（実技テスト）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゴルフ (133A0–4324)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	川野　健一・山口　大貴・村川 大輔			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	4	受け入れ人数	30
授業の概要	ゴルフの基本的な技術（スイングプレーン形成、ショート・ミドル・ロングアイアンショット、アプローチ、パターといった技術）を習得すること。ルールやマナーについて認識を深めることを目指す。 またショートゴルフ場でラウンド指導も行う。 【授業に含まれる活動】○…実施あり、×…実施なし、△…授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク(○)、ディスカッション・討論(×)、プレゼンテーション・発表(×)、フィールドワーク(○)				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	ゴルフの理論、歴史、マナー、ルールに関する知識の理解と習得。	○						10
	■情意的領域	積極的に授業に参加する。	○						80
	■技能的領域	スイングプレーンの形成、ショート・ミドル・ロングアイアンショット、アプローチ、パターといった基本的なショットを70%程度の正確さに実施できる。	○	○					10

成績評価の基準	■授業への取り組み状（90%）■テスト（10%）を総合的に評価する。■出席の条件、1/3以上の欠席により単位は認定されない。
テキスト、教材 参　考　書	随時紹介する。

履修条件・関連科目	第1回～7回：学内ゴルフ練習場（雨天時はバドミントン練習室） 第8回～9回：近隣のショートゴルフ場でコース実習 第8回～9回は1限～4限で実施。2回に渡り1日をとって実施するので、木曜開講の他の授業は履修できない。また、実習費として3000円前後必要となる。 注）8回～9回は4コマとしてカウントするため、1回の欠席で4回分の欠席となる。 注）教育実習を予定している場合は、コース実習日を確認のうえ履修すること。	備考(教員メッセージ含む)	第8回と9回目の授業は学外のショートゴルフ場への実施なので、大学のバスにて移動する。 例年、教育実習・就職活動や木曜授業（1,3,4限）を履修している都合で授業日数が足りないことがあるので注意して登録ください。

オフィス・アワー	随時可能ですが、事前に連絡をとって頂くのが望ましい。 山口：研究棟8階　803教員研究室。 村川：研究棟8階　811教員研究室。

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	川野　健一 山口　大貴 村川 大輔	オリエンテーション、ゴルフ歴史、用具論、スウィングの基本理論	復習（1時間）、練習場。
2	〃	オリエンテーション、ゴルフ歴史、用具論、スウィングの基本理論	ショートアイアン　練習１　ルール、エチケット
3	〃	オリエンテーション、ゴルフ歴史、用具論、スウィングの基本理論	ショートアイアン　練習2　ルール、エチケット
4	〃	オリエンテーション、ゴルフ歴史、用具論、スウィングの基本理論	ミドルアイアン　練習１　ルール、エチケット
5	〃	オリエンテーション、ゴルフ歴史、用具論、スウィングの基本理論	ミドルアイアン　練習2　ルール、エチケット
6	〃	オリエンテーション、ゴルフ歴史、用具論、スウィングの基本理論	ミドルアイアン　練習3　ルール、エチケット
7	〃	オリエンテーション、ゴルフ歴史、用具論、スウィングの基本理論	パター練習　ルール、エチケット
8	〃	オリエンテーション、ゴルフ歴史、用具論、スウィングの基本理論	実践練習　ショートコース　ルール、エチケット、ビデオ
9	〃	オリエンテーション、ゴルフ歴史、用具論、スウィングの基本理論	実践練習　ショートコース　ルール、エチケット
10	〃	オリエンテーション、ゴルフ歴史、用具論、スウィングの基本理論	実践練習　ショートコース　ルール、エチケット
11	〃	オリエンテーション、ゴルフ歴史、用具論、スウィングの基本理論	実践練習　ショートコース　ルール、エチケット
12	〃	オリエンテーション、ゴルフ歴史、用具論、スウィングの基本理論	実践練習　ショートコース　ルール、エチケット
13	〃	オリエンテーション、ゴルフ歴史、用具論、スウィングの基本理論	実践練習　ショートコース　ルール、エチケット
14	〃	オリエンテーション、ゴルフ歴史、用具論、スウィングの基本理論	実践練習　ショートコース　ルール、エチケット
15	〃	オリエンテーション、ゴルフ歴史、用具論、スウィングの基本理論	実践練習　ショートコース　ルール、エチケット、試験

授業科目名 (ナンバリングコード)	なぎなた (133A0-4325)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	上野　千代子			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	4	受け入れ人数	20
授業の概要	本科目はなぎなたに関する基礎的な実技力を身につける科目である。 日本の伝統文化としての特性を理解させ、正しい基本動作や応用技能を学ぶことを目的とする。 具体的には、バランスのとれた体とよい姿勢、旺盛な気力と活力、礼儀を重んじ相手を尊ぶ心が養われることが期待される。 【授業に含まれる活動】○…実施あり、×…実施なし、△…授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク(◯)、ディスカッション・討論(◯)、プレゼンテーション・発表(△)、フィールドワーク(×)				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力 （実技力、実技指導力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・なぎなたにふれ歴史、特徴、練習方法を理解できる。 ・伝統的な考え方と行動の仕方を理解できる。	○		○				20
	■情意的領域	・礼儀作法を学び相手を尊重し技を教え合い互いに協力できるようになる。 ・健康、安全に気を配ることができるようになる。	○		○				30
	■技能的領域	・基本動作を正しく学び、気剣体の一致した打突ができるようになる。	○		○		○		50

成績評価の基準	授業への取り組み状況および実技を総合的に判断・評価し、60点以上を合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	楽しいなぎなたの授業(公財)全日本なぎなた連盟 初心者のためのなぎなた(関連実技科目テキスト) 「凛としてなぎなた指導ノート（（公財）全日本なぎなた連盟）

履修条件・関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	手ぬぐい(日本タオル)を準備すること。 学期末試験とは別に希望者には、昇段試験を実施する。
オフィス・アワー	授業実施日の授業前後の時間帯(武道館)		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	上野　千代子	オリエンテーション(特性・歴史・計画) 礼法と用具の扱い方	なぎなたの特性と歴史や礼法に関する復習 テキストP1、P4、P5~P8、P22、P23 30分以上
2	〃	1.基本動作I (1)各種構えの説明 (2)なぎなたの振り方、足さばき	基本動作の予習 テキストP8~P12 20分以上
3	〃	2.基本動作II (1)打突部位、操作法 (2)打突法 (3)受け方	基本動作の復習とまとめ テキストP8~P12 30分以上
4	〃	3.基本打突と応用技能 (1)打ち返し (2)しかけ技 (3)応じ方	基本打突と応用技能の予習 テキストP13~P19 20分以上 レポート（1～4回分）の作成 40分以上
5	〃	(4)しかけ応じ技(1~3本目)	しかけ応じ技 1~3本目の復習 テキストP13~P16 20分以上
6	〃	〃	しかけ応じ技 1~3本目の復習と4~5本目の予習 テキストP13~P19 20分以上
7	〃	〃(4~5本目)	しかけ応じ技 4~5本目の復習 テキストP17~P19 20分以上
8	〃	〃(1~5本目、演技競技試合)	しかけ応じ技(1~5本目)のまとめ 20分以上 レポート(5～8回分)の作成 40分以上
9	〃	4.防具をつけての打突法と稽古 (1)防具のつけ方 (2)防具をつけての打突法 (3)稽古	打突部位の予習 テキストP20、P24 20分
10	〃	〃	打突法と稽古の予習および復習 テキストP20、P21 20分以上
11	〃	〃	防具をつけての打突法と稽古に関するまとめ テキストP20、P 21 20分以上
12	〃	5.試合と審判 (1)なぎなたの審判について (2)試合競技 (3)演技競技	審判方法に関する予習 1時間以上
13	〃	〃	審判方法の復習 20分以上
14	〃	〃	試合と審判に関するまとめ 20分以上 レポート(9~14回分)の作成 40分以上
15	〃	6.全日本の形	レポート(1~15回分に関わる)の作成 1時間以上
16	〃	学期末試験(実技による評価)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	相撲 (133A0-4326)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	持留　忠浩			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	30名程度
授業の概要	武道相撲は、日本の伝統文化である。その基礎となる礼法・鍛錬法と相撲の特性を修得し、心技体の錬磨により人間形成を図る。 【授業に含まれる活動】○…実施あり、×…実施なし、△…授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク(×)、ディスカッション・討論(×)、プレゼンテーション・発表(×)、フィールドワーク(×)				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	相撲に触れ、歴史・練習方法を習得する 指導方法において高レベルの方法を習得する	○	○	○				30
	■情意的領域	勝者や敗者に向けて、手を差し伸べる精神を作る 相手を思いやる気持ちを養う	○						30
	■技能的領域	基本動作を正しく学び、心・技・体の業を身に付ける 審判規定・基本試合の形式を学ぶ	○		○		○		40

成績評価の基準	実技に関する基本動作並びに出席状況、授業態度、レポート提出及び小テストの総合得点で成績は評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	二ツ森修ほか著「基礎から学ぶ相撲」（図書刊行会） 藤川武夫ほか著「アマチュア相撲」（技興社）		
履修条件・ 関連科目	柔道の受け身等を習得しておくべきである スパッツ、短パンの着用、必ずタオルを持参のこと	備考(教員メッセージ含む)	日本相撲連盟初段取得を目標とする。
オフィス・アワー	授業実施日の時間　１２：３０～１６：００（相撲道場）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	持留　忠浩	オリエンテーション、相撲の起源、土俵論	「基礎から学ぶ相撲」で予習を行う。（30分）
2	〃	まわしの締め方、礼法（蹲踞、塵浄水）	課外活動等を活用して、授業内容の復習と柔軟トレーニングを行う。（30分）
3	〃	基本動作（四股、腰割、開脚、調体）	課外活動等を活用して、授業内容の復習と柔軟トレーニングを行う。（30分）
4	〃	基本動作（受け身、運び足）	課外活動等を活用して、授業内容の復習と柔軟トレーニングを行う。（30分）
5	〃	対人的技能（押し、突き、寄り）	「基礎から学ぶ相撲」を参考に復習を行う。（30分）
6	〃	ぶつかり稽古、組み手、前さばき	「基礎から学ぶ相撲」を参考に復習を行う。（30分）
7	〃	立ち会いの種類、構え	課外活動等を活用して、授業内容の復習と柔軟トレーニングを行う。（30分）
8	〃	差し手の極め方	「基礎から学ぶ相撲」を参考に復習を行う。（30分）
9	〃	決まり手	「基礎から学ぶ相撲」を参考に復習を行う。（30分）
10	〃	禁じ手、危険な組み手	「基礎から学ぶ相撲」で予習を行う。（30分）
11	〃	審判規定	「基礎から学ぶ相撲」で予習を行う。（30分）
12	〃	主審のあり方	「基礎から学ぶ相撲」で予習を行う。（30分）
13	〃	基本試合	課外活動等を活用して、基本動作の復習を行う。（30分）
14	〃	基本試合	課外活動等を活用して、基本動作の復習を行う。（30分）
15	〃	基本試合	課外活動等を活用して、基本動作の復習を行う。（30分）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	弓道 (133A0-4327)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	仮屋崎　修			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	①2年次 ②3年次	受け入れ人数	20名程度
授業の概要	日本古来の武道である弓道に関する基礎的な実技力を身につける科目である。本授業では，弓道についての知識や基本の姿勢・動作を習得させ，「弓を引いて矢を射る」技術を射法八節として習熟させる。さらに技能の習得を通して，礼儀作法や相手の立場を尊重し集団での協力ができる態度，安全に対する態度，自己の意志力・忍耐力・集中力等の養成が期待される。 【授業に含まれる活動】○…実施あり，×…実施なし，△…授業の進捗状況等，場合によっては実施あり グループワーク(○)，ディスカッション・討論(×)，プレゼンテーション・発表(×)，実験・実技(○)，フィールドワーク(×)				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	弓具と弓道場の名称及び扱い方・管理の仕方，弓道の基本の姿勢・動作，射法八節の動作や射法について理解できる。	○		○				20
	■情意的領域	礼儀作法や相手の立場を尊重し集団での協力ができる態度，安全に対する態度及び学修に意欲的に取り組む態度を身につけている。	○						40
	■技能的領域	弓道の基本の姿勢・動作を習得し，正しい射法八節で弓を引いて矢を射ることができる。	○	○					40

成績評価の基準	基本の姿勢・動作や射法八節の習熟度，授業への取り組み状況，出席状況等を総合的に評価し，60点以上のものを合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	参考書：「弓道教本　第一巻　射法篇」全日本弓道連盟編　定価1,500円		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	1　弓道場内は，素足禁止(靴下か足袋を着用)。 2　長髪は，後ろで束ねること。 3　胸部がだぶつく服装は控えること。
オフィス・アワー	授業実施日の授業前後の時間帯（弓道場）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	仮屋崎　修	オリエンテーション(心構え，弓道場でのマナー，礼儀作法等) ・弓道の歴史・特性と弓道の目的，弓具・弓道場の名称及び扱い方・管理の仕方 ・射法八節の説明 ・徒手による射法八節の実技及び基本の姿勢・動作	実施した実技内容を復習する（15分）
2	〃	ゴム弓による射法八節の実技及び基本の姿勢・動作①	実施した実技内容を復習する（15分）
3	〃	ゴム弓による射法八節の実技及び基本の姿勢・動作②	実施した実技内容を復習する（15分）
4	〃	素引きによる射法八節の実技及び基本の姿勢・動作①	実施した実技内容を復習する（15分）
5	〃	素引きによる射法八節の実技及び基本の姿勢・動作②	実施した実技内容を復習する（15分）
6	〃	矢をつがえて引く射法八節の実技及び基本の姿勢・動作	実施した実技内容を復習する（15分）
7	〃	大的での射法八節の実技及び基本の姿勢・動作①	実施した実技内容を復習する（15分）
8	〃	大的での射法八節の実技及び基本の姿勢・動作②	実施した実技内容を復習する（15分）
9	〃	大的での射法八節の実技及び基本の姿勢・動作③	実施した実技内容を復習する（15分）
10	〃	矢道の中ほどから，立射による射法八節の実技及び基本の姿勢・動作①	実施した実技内容を復習する（15分）
11	〃	矢道の中ほどから，立射による射法八節の実技及び基本の姿勢・動作②	実施した実技内容を復習する（15分）
12	〃	矢道の中ほどから，立射による射法八節の実技及び基本の姿勢・動作③	実施した実技内容を復習する（15分）
13	〃	射場から，立射による射法八節の実技及び基本の姿勢・動作①	実施した実技内容を復習する（15分）
14	〃	射場から，立射による射法八節の実技及び基本の姿勢・動作②	実施した実技内容を復習する（15分）
15	〃	立射による射法八節の実技及び基本の姿勢・動作等の実技試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	野外活動 (133A0-4229)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	坂口　俊哉			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2	受け入れ人数	12
授業の概要	野外教育分野では,自然活動体験を通じた学習を重視している.この授業では,野外活動を指導する上で必要な基礎的技術を身につけることを目標として様々な活動に取り組む.また,活動場所となる施設の特性に対する理解を深めると同時に,野外での活動を安全に実施するためのポイントについても理解することが期待される.最終的には，スポーツクライミング教室など，自然の家主催の教育事業の支援ができる技能，知識，態度を身につけることが目標である. 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力 （専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・野外での炊事についての知識を身につける. ・野外活動を支援するために必要な考えかたを身につける. ・活動内容とその活動の背景にある危険について理解する.			○				30
	■情意的領域	・意欲的に活動に取り組む. ・野外教育施設の利用マナーを守ろうとする. ・積極的なコミュニケーションに努める. ・他者への協力的な姿勢.	○						20
	■技能的領域	・薪を使った炊事を安全にできる. ・安全確保のために必要なロープワークができる. ・スポーツクライミングにけるビレイ動作が確実にできる.	○	○			○		50

成績評価の基準	授業は全部で8週(16コマ分)開講されます.そのため3週欠席した場合,単位認定の対象となりません. 授業時間の取り組み,レポート,技能テストの得点を合計して60点以上の場合に合格とします.		
テキスト、教材 参　考　書	実際に野外活動を行う上で支障のない服装,装備を準備すること.雨具,手袋(軍手,革手袋)，上履き，外履き（靴であること）を各自で準備すること. 教材費を実費にて徴収する.		
履修条件・ 関連科目	3年次開講の学外指導実習で「野外教育施設」での実習を希望する学生については,この授業を履修しておくことが望ましい.	備考(教員メッセージ含む)	「大隅青少年自然の家」へ公用車で移動して授業を行う.毎回10:10に公用車車庫前（事務棟１階）から出発する.乗り遅れると欠席の扱いとなる. 天候の悪化，他の利用団体との調整により，シラバス通りの授業内容とならない場合もある. なお、本授業は実習費として10,000円程度必要となる. 安全管理のため必ず，外靴（クロックスなどでは不可）と上履きの準備が必要となる．靴の準備ができていない場合には，出席を認めない.
オフィス・アワー	授業に関する相談は,必要に応じて随時受け付けています. メールによる連絡が確実です.以下のアドレス宛にメールを下さい. tsakaguc@nifs-k.ac.jp		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	坂口　俊哉	ガイダンス(授業内容,受講のための準備,受講の心得,利用施設の理解) 野外活動の実践と支援，体験活動の重要性，ボランティア活動，青少年教育施設の現状と課題	
2	〃	スポーツクライミング（１）安全な活動のための基礎知識習得，必要な用具の種類名称，トラバース，トップロープクライミング，スポーツクライミング教室を例としたボランティア活動の実際	課題1:無洗米を炊く場合の水加減について調べてレポートすること
3	〃	野外調理(1):羽釜とガスバーナーでご飯を炊く(火器の安全な使用方法の習得,炊飯の水加減)	
4	〃	スポーツクライミング（２）トップロープクライミング	課題2:野外炊飯において，１）米の芯が残る，２）焦げる，３）おかゆのようになる．などの失敗はどのような原因で起こっているのか調べ，失敗しない野外炊飯の仕方をレポートすること（60分）
5	〃	野外調理(2):羽釜と薪でご飯を炊く(火起こしの技術習得)	
6	〃	スポーツクライミング（３）:安全なビレイのための基礎，トップロープクライミング，グレードへの挑戦	課題3:フリークライミング,エイドクライミング,リードクライミング,トップロープクライミング,ボルダリングの各用語についてその意味を調べてレポートする.（60分）
7	〃	野外調理(3):飯盒と薪でご飯を炊く(飯盒の使い方の習得)	
8	〃	スポーツクライミング（４）:トップロープによるクライミング,ビレイ体験	課題4:野外で行われるクライミング活動において,活動環境を維持する上で配慮が必要なことを調べレポートすること.（60分）
9	〃	野外調理(4):飯盒と炭でご飯を炊く(炭の火起こし技術の習得)	
10	〃	スポーツクライミング（５）:ビレイヤー技能の習得,安全確保の理解と実践	課題5:オリエンテーリングの歴史,種類,必要な道具について調べレポートすること.(60分)
11	〃	野外調理(5):調理実技試験：90分以内に調理，食事，後片付けを終了する．飯盒での炊飯とカレーの調理.	
12	〃	スポーツクライミング（６）ビレイ技術のテスト	課題6:ビレイの方法について解説するマニュアルを作成すること.
13	〃	オリエンテーリング(1):スコアオリエンテーリングの体験	課題７:コントロールの写真をマップ上に配置した地図の作成（60分）
14	〃	オリエンテーリング(2):前回の続き	課題７：マップを完成させて提出する（60分）
15	〃	ふりかえり:授業内容の確認と共有 青少年教育施設におけるボランティア活動と法人ボランティア制度について	
16	〃	実技テスト（欠席者用），青少年教育施設におけるボランティア活動と野外活動	

授業科目名 (ナンバリングコード)	体力トレーニング (133A0-4330)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	吉塚　一典・小森　大輔・山口　大貴・田川　浩子			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	30名程度
授業の概要	本授業では、体力を向上するための各種トレーニング方法について教授するとともに、トレーニングの体験・経験を通して理解を深め、パフォーマンスを向上させることで模範が示せるようになることを目指す。また、学んだことを駆使しながら、学習者を「できるようにさせる」ための体験・経験を通して実技指導力の向上を図る。さらに、学習内容や授業で見つけた「動きのコツ」や「学習上の問題」等をまとめてレポートを提出させる。これにより、指導する種目や学習者の状況に応じてトレーニング法を改善・創造し、指導できるという自信と技量が身につくことがを期待される。その他、持久力のトレーニングにおいては、中学・高校の長距離走（持久走）の授業に対応する内容を展開する。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・実施なし、△・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表(×)、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力 （専門的な知識・教養、科学的表現力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・スポーツに要求される体力を向上させるための基礎的なトレーニングの理論を理解している。 ・指導する種目について、学習者の状況に応じてトレーニング法を改善し、指導できるという見通しを獲得している	○		○				40
	■情意的領域	・積極的に授業に参加し、課題に取り組もうとする。 ・授業の実施を安全に行うとする。	○						20
	■技能的領域	・スポーツに要求される体力を向上させるための基礎的なトレーニング法を体得し、模範が示せる。 ・体力トレーニング法の体験・経験を通して指導できる。	○	○					40

成績評価の基準	授業への積極的な参加及び取り組み、実技テストにおける技能習得度、実技実習後に提出するレポート等によって総合的に評価し、60点以上の者を合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	授業開始時に実技実習のテキストや資料等を配付する。
履修条件・ 関連科目	解剖生理学、身体科学論、運動生理学
備考(教員メッセージ含む)	受講者数によっては、グループ分けをして授業を実施する。その場合、途中で担当者が交代することがある。レポート提出有り。
オフィス・アワー	吉塚：随時　　研究棟７階　７０１教員室 小森：随時　　研究棟８階　８０５教員研究室 山口：月曜日　14：00～15：00　　研究棟８階　８０３教員研究室 田川：

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	小森　大輔	スピード・パワーのトレーニングⅠ （反応スピード・動作スピードのトレーニング）	配付資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
2	〃	スピード・パワーのトレーニングⅡ （スプリントパワーのトレーニング）	配付資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
3	〃	スピード・パワーのトレーニングⅢ （フットワークのトレーニング）	配付資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
4	〃	スピード・パワーのトレーニングⅣ （プライオメトリックトレーニング）	配付資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
5	吉塚　一典	レジスタンストレーニングⅠ （ウエイトトレーニングのやり方を知ろう①：全身パワー系種目の動作習得)	配付資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
6	〃	レジスタンストレーニングⅡ （ウエイトトレーニングのやり方を知ろう②：上半身並びに下半身系種目の動作習得）	配付資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
7	〃	レジスタンストレーニングⅢ （ウエイトトレーニングのやり方を知ろう③：ウエイトトレーニングプログラムを体験しよう。トレーニングマシーンの使い方を知ろう）	配付資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
8	〃	レジスタンストレーニングⅣ (ウエイトトレーニングのやり方を知ろう④：ウエイトトレーニングの動作評価を体験しよう。ウエイトトレーニングの技能を評価する）	配付資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
9	〃	持久力のトレーニングⅠ （持久力の評価とその処方）	事前に配付する資料等をもとに予習を行うこと。 また、復習として、実技の内容等をレポートでまとめること。（1時間）

10	〃	持久力のトレーニングⅡ （持久力トレーニングの強度体験）	事前に配付する資料等をもとに予習を行うこと。また、復習として、実技の内容等をレポートでまとめること。（1時間）
11	〃	持久力のトレーニングⅢ （タバタ・プロトコル体験）	事前に配付する資料等をもとに予習を行うこと。また、復習として、実技の内容等をレポートでまとめること。（1時間）
12	山口　大貴	総合的体力トレーニングⅠ（サーキット・トレーニングの測定）	事前に配付する資料等をもとに予習を行うこと。（1時間）
13	〃	総合的体力トレーニングⅡ（サーキット・トレーニングの体験）	事前に配付する資料等をもとに予習を行うこと。また、復習として、最終回で行う実技の内容等をまとめること（1時間）。
14	〃	柔軟性のトレーニング	実際の競技場面で活かせるように考えよう！（1時間）
15	〃	総合的体力トレーニングⅢ（競技特性を考慮したサーキット・トレーニングの実践）	事前に配付する資料等をもとに予習を行うこと。また、復習として、実技の内容等をレポートでまとめること。（1時間）

専　攻　科　目

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅰ－陸上競技	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	吉塚　一典・金高　宏文・永原　隆・小森　大輔・田川　浩子			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	20名程度

授業の概要	本授業を通じて，陸上競技に関する専門的な運動技能等を修得していくための前提条件となる基礎的，基本的な知識や実技力（トレーニング法や審判法含む）を身につけるとともに，陸上競技のトラック種目における理論を修得する。そして，それらの身に付けた知識や実技力を深化させるとともに指導力の向上につなげるため，その内容をレポートとしてまとめるほか，グループワーク（発表含む）や他者への教授（指導）を行う。これらにより，陸上競技に関する実技力，指導者基礎力を身につけていくほか，専門的な知識・教養，課題解決力，実技指導力を養うことが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・実施なし、△・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表(○)、フィールドワーク（×）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、指導者基礎力 （実技指導力、課題解決力、専門的な知識・教養）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・陸上競技のトレーニング法や審判法（ルール含む）についての基礎的な知識を理解する。	○	○	○	○			45
	■情意的領域	・授業に主体的に参加し、課題に取り組む。 ・授業に対し、積極的・建設的な思考に立ち新たな提案ができる	○			○			10
	■技能的領域	・陸上競技のトレーニング全般についての基礎的な実践力を身につけたり、技能が出来る様になる	○	○		○			45

成績評価の基準	３つの授業到達目標をもとに、授業、テスト、レポート、発表など成績評価方法の割合に則って評価し、60点以上の者を合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	授業時間毎に必要に応じて資料等を配付する。

履修条件・関連科目	関連実技陸上競技を履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	実際の陸上競技会を利用して審判実習を行うため、公認審判員の資格を取得する。そのため、登録料（手帳代等含む）として4,000円程度必要となる。 レポート等有り。授業内容により担当者が交代する。過去に陸上競技を経験し、今後も専門的に陸上競技に関わっていこうとする学生の受講を希望する。

オフィス・アワー	吉塚：随時　研究棟７階　７０１教員室 永原：随時　大学院棟3階　1教員室 田川： ※事前にアポを取ること

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	吉塚　一典 永原　隆	オリエンテーション他	授業の観点をまとめる。（1時間）
前2	吉塚　一典	陸上競技とは(競技者としての展望：発表）、トレーニングとは（これからのトレーニングを考えるために）	配布したテキスト等で予習を行う。授業内容に関するレポートを作成する。（1時間）
前3	吉塚　一典 永原　隆	競技力を向上する会に参加する。	
前4	吉塚　一典	アスリートのコンディショニング作りについて	配布したテキスト等で予習を行う。授業内容に関するレポートを作成する。（1時間）
前5	〃	トレーニング計画について，トレーニングの原則について	配布したテキスト等で予習を行う。授業内容に関するレポートを作成する。（1時間）
前6	吉塚　一典 永原　隆	陸上競技の審判法①	審判講習会への参加(2時間）※土曜日に実施されるので注意すること
前7	永原　隆	短距離走の実践～スタート、リレー、ハードル～①	実施内容をレポートとしてまとめる（1時間）
前8	〃	短距離走の実践～スタート、リレー、ハードル～②	実施内容をレポートとしてまとめる（1時間）
前9	吉塚　一典 永原　隆	陸上競技の審判法②競技会における審判実習	実際の競技会で審判員を行う．※土曜日に実施予定 実施内容をレポートとしてまとめる（1時間）
前10	永原　隆	短距離走の実践～スタート、リレー、ハードル～③	実施内容をレポートとしてまとめる（1時間）
前11	〃	短距離走の理論	実施内容をレポートとしてまとめる（1時間）
前12	〃	短距離の理論と実践	実施内容をレポートとしてまとめる(1時間）
前13	吉塚　一典	中長距離の理論①	実施内容をレポートとしてまとめる(1時間）
前14	〃	中長距離の理論②	実施内容をレポートとしてまとめる(1時間）
前15	〃	トレーニングマネジメント①（自己分析～過去）	課題作成を課す。そのための事前準備（予習）を行っておく。(1時間)

前16	吉塚　一典 永原　隆	学期末試験は行わない	
後1	吉塚　一典	筋のトレーニング法を知る①	配布したテキスト等で予習を行う。授業内容に関するレポートを作成する。（1時間）
後2	〃	筋のトレーニング法を知る②	配布したテキスト等で予習を行う。授業内容に関するレポートを作成する。（1時間）
後3	〃	筋のトレーニング法を知る③	配布したテキスト等で予習を行う。授業内容に関するレポートを作成する。（1時間）
後4	〃	陸上競技の審判法③（グループワーク、指導実習の準備）	グループ毎に内容を話し合い，指導計画を作成する（1時間）
後5	吉塚　一典 永原　隆	陸上競技の審判法④（指導実習、トラック）	実施内容をレポートとしてまとめる（1時間）
後6	〃	陸上競技の審判法⑤（指導実習，フィールド）	実施内容をレポートとしてまとめる（1時間）
後7	吉塚　一典	中長距離の実践①	実施内容をレポートとしてまとめる(1時間)
後8	〃	中長距離の実践②	実施内容をレポートとしてまとめる(1時間)
後9	吉塚　一典 金高　宏文 永原　隆	スポーツ指導実習補助	授業内容に関するレポートを作成する。（1時間）
後10	吉塚　一典	持久力のトレーニング法を知る	実施内容をレポートとしてまとめる（1時間）
後11	〃	トレーニングマネジメント②（自己分析～今後の計画：説明と作成）	事前にトレーニング分析および計画を作成しておく（PPT）（3時間）
後12	〃	トレーニング分析および計画（発表①）	事前に発表内容をPPTで作成しておく。また、発表の準備（練習）を行っておくこと。（2時間）
後13	〃	トレーニング分析および計画（発表②）	事前に発表内容をPPTで作成しておく。また、発表の準備（練習）を行っておくこと。（2時間）
後14	〃	トレーニング分析および計画（発表③）	事前に発表内容をPPTで作成しておく。また、発表の準備（練習）を行っておくこと。（2時間）
後15	〃	総合的体力トレーニング、1年間のまとめ（振り返り）	最終レポートを作成する（1時間）
後16	吉塚　一典 永原　隆	学期末試験は行わない	

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱ－陸上競技	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	吉塚　一典・金高　宏文・永原　隆・小森　大輔・田川　浩子			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	20名程度
授業の概要	本授業では、陸上競技フィールド種目（跳躍種目：棒高跳、三段跳、走幅跳、走高跳、投擲種目：円盤投、槍投、ハンマー投）の初級レベルでの技能習得を目的とした指導法について教授し、体験・経験を通してパフォーマンスを向上させることで模範が示せるようになることを目指す。また、指導的な視点からの体験・経験を積み、指導のポイント等をレポート化することで学習した種目の初級レベルでの指導力を高める。さらに、授業を通して「できること」や「できないこと」を知ることで、学習者の立場を踏まえた指導者としての「運動」理解が深まり、初級者レベルの者に対する効果的な指導を考える能力が身につくことが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・実施なし、△・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（×）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表(×)、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 （実技指導力、課題解決力、専門的な知識・教養）							
	■認知的領域	・運動の意識内容（動感）とフォームの関係を説明している。 ・指導のステップ等を説明している。			○				20
	■情意的領域	・授業に積極的に参加し、課題に取り組もうとする。 ・授業の実施を安全に行おうとしてる。	○		○				20
	■技能的領域	・学習した種目について、初級レベルで模範が示せる。 ・学習した種目について、フォームの違いや問題点を指摘し、解決方法等を示せる。	○	○					60

成績評価の基準	3つの授業到達目標をもとに、授業、テスト、レポートなど成績評価方法の割合に則って評価し、60点以上の者を合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	授業時間毎に必要に応じて資料を配付する。
履修条件・関連科目	陸上競技、競技スポーツ論・実習Ⅰ（陸上競技）、運動学概論、コーチ学概論、スポーツトレーニング実践論等を履修していることが望ましい。
備考(教員メッセージ含む)	過去に陸上競技を経験し、将来、陸上競技の指導に携わろうとする学生の受講を希望する。毎回の実習後にレポートの提出がある。
オフィス・アワー	小森：月曜日　１３時～１４時 研究棟８階　805教員研究室 田川：

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	吉塚　一典	オリエンテーション、円盤投(1)	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前2	〃	円盤投(2)	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前3	〃	「競技力向上の会」に参加	競技力向上の会を振り返る（感想文を作成する）。（1時間）
前4	〃	円盤投（3）	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前5	〃	円盤投（4）	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前6	〃	スポーツ指導実習の事前体験①	学内で実施しているスポーツ指導実習に授業時間外に補助者として参加する。 学習内容等をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前7	〃	槍投（1）	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前8	〃	槍投（2）	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前9	〃	スポーツ指導実習の事前体験②	学内で実施しているスポーツ指導実習に授業時間外に補助者として参加する。 学習内容等をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前10	〃	槍投（3）	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)

前11	〃	槍投（4）	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前12	〃	ハンマー投（1）	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前13	〃	ハンマー投（2）	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前14	〃	ハンマー投（3）	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前15	〃	ハンマー投（4）	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後1	小森　大輔	棒高跳(1)：棒高跳の技術構造・習得体系を理解し、4歩助走で突っ込み動作を習得する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後2	〃	棒高跳(2)：4歩助走でぶら下がり、振り上げ動作を習得する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後3	〃	棒高跳(3)：4歩助走でターン動作を習得し、一連の動作を繋げ、跳躍の完成形に近づける。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後4	〃	棒高跳(4)：6歩助走でクリアランスまでの動作を習得し、跳躍の完成形をつくる。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後5	〃	棒高跳(5)：8歩助走で跳躍の完成形をつくる。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後6	〃	棒高跳(6)：技術的課題を抽出し、課題解決に向けた手段を検討し、実践する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後7	〃	棒高跳(7)：目標記録に挑戦する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後8	〃	棒高跳(8)：目標記録に挑戦する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後9	〃	走高跳(1)：走高跳の技術構造・習得体系を理解し、背面跳を体験する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後10	〃	走高跳(2)：曲線助走を用いて、7歩助走で記録へ挑戦する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後11	〃	三段跳(1)：三段跳の技術構造・習得体系を理解し、5歩助走によるイーブン跳躍を習得する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後12	〃	三段跳(2)：7歩助走による様々な跳躍比率を体験し、自身の特性に適した跳躍比率を探る。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後13	〃	三段跳(3)：自身に適した跳躍比率で目標記録に挑戦する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後14	〃	走幅跳(1)：走幅跳の技術構造・習得体系を理解し、7歩助走によるかがみ跳および反り跳を体験する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後15	〃	走幅跳(2)：7歩助走によるはさみ跳に挑戦する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲ－陸上競技	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	吉塚　一典・金高　宏文・永原　隆・小森　大輔・田川　浩子			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	―

授業の概要	本授業では、受講した学生が自ら指導者あるいは学習者となることで、指導者の立場からは、授業を行った際「指導できたこと」あるいは「指導できなかったこと」の見識を深める。また、学習者の立場からは、「分かりやすい指導」あるいは「わかりにくい指導」とは何かを整理する。これらによって、指導方法やその内容について分析並びに評価することができる能力を養う。そのために、指導者並びに学習者の各々の立場になり、各立場における「達成性」や「充実度」などを鍵に授業を評価し、自ら用いたあるいは用いられた「指導法」について論議しあう。このことによって、「指導者」になるための循環的・段階的な指導過程やその方法を経験し、指導者としての礎が身につくことが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	実技指導力、事業運営力、指導者基礎力							
	■認知的領域	・陸上競技の指導法についての専門的知識を理解する。	○		○	○			45
	■情意的領域	・授業に主体的に参加し、課題に取り組む。 ・授業に対し、積極的・建設的な思考に立ち新たな提案ができる。	○						10
	■技能的領域	・陸上競技の指導者として効果的な指導法を考え、指導が出来るようになる。 ・学習の立場を体験し、指導された内容を分析・評価出来るようになる。	○			○			45

成績評価の基準	3つの授業達成目標をもとに、授業、レポート、発表など成績評価方法の割合に則って総合的に評価し、60点以上の者を合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	資料はWebClassにて配付する。必ず、iPad或カメラ付き携帯電話を持参すること。JAAF公認ジュニアコーチの資格取得を希望する学生は、以下の書籍の購入をしておくこと。陸上競技コーチングブック（大修館書店）2,500円＋税。以下は、可能であれば購入すべき書籍です。指導教本アンダー13 楽しいキッズの陸上競技（大修館書店）1,800円＋税、陸上競技指導教本アンダー16･19　基礎から身につく陸上競技・初級編（大修館書店）1,900円＋税，陸上競技指導教本アンダー16･19　レベルアップの陸上競技・上級編（大修館書店）1,900円＋税.
履修条件・ 関連科目	スポーツコーチ実習（陸上競技）を同時に履修すること。関連実技科目の陸上・体操・水泳を履修していることが望ましい。一方、競技スポーツ論・実習Ⅰ並びにⅡ（陸上競技）は履修していることを前提とする。
備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	金高：木曜日　15時～16時　　大学院棟3階　　4教員研究室 小森：随時　　研究棟８階　　805教員研究室

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	金高　宏文 小森　大輔	オリエンテーション：スポーツ指導力を身につけるためには･･･	自分自身の指導力を分析・評価する（30分）.
前2	〃	キッズ・ジュニアの指導の理論と実践（1）	授業の復習とスポーツ指導実習に向けての資料作成（30分）
前3	〃	「競技力向上の会」に参加	資料等を読んでのレポート課題（30分）
前4	〃	キッズ・ジュニアの指導の理論と実践（2）	授業の復習とスポーツ指導実習に向けての資料作成（30分）
前5	〃	キッズ・ジュニアの指導の理論と実践（3）	授業の復習とスポーツ指導実習に向けての資料作成（30分）
前6	〃	指導実習①＆振り返り（1）　15分×4人	指導計画の作成or指導評価（30分）
前7	〃	指導実習①＆振り返り（2）　15分×4人	指導計画の作成or指導評価（30分）
前8	〃	指導実習①＆振り返り（3）　15分×4人	指導計画の作成or指導評価（30分）
前9	〃	指導実習①＆振り返り（4）　15分×4人	指導計画の作成or指導評価（30分）
前10	〃	指導実習①＆振り返り（5）　15分×4人	指導計画の作成or指導評価（30分）
前11	〃	スポーツ指導実習の準備（1）	指導計画と事前レポートの作成（30分）
前12	〃	スポーツ指導実習の準備（2）	指導計画と事前レポートの作成（30分）
前13	〃	スポーツ指導実習の準備（3）	指導計画と事前レポートの作成（30分）
前14	〃	スポーツ指導実習の準備（4）	指導計画と事前レポートの作成（30分）
前15	〃	授業の振り返りとまとめ（グループ・ディスカッション）	学習ポートフォリオの整理（30分）
後1	〃	棒高跳の指導実習①（個別指導，幇助を学ぶ）	授業レポートの作成（30分）
後2	〃	棒高跳の指導実習②（個別指導，幇助を学ぶ）	授業レポートの作成（30分）
後3	〃	棒高跳の指導実習③（個別指導，幇助を学ぶ）	授業レポートの作成（30分）

後4	〃	棒高跳の指導実習④（個別指導，幇助を学ぶ）	授業レポートの作成（30分）
後5	〃	棒高跳の指導実習⑤（個別指導，幇助を学ぶ）	授業レポートの作成（30分）
後6	金高　宏文	専門種目の技能改善法を提案に向けての準備（1）	プレゼンPPTの準備(30分)
後7	〃	専門種目の技能改善法を提案に向けての準備（2）	プレゼンPPTの準備(30分)
後8	〃	専門種目の技能改善法を提案する（1）	プレゼンPPTの準備(30分)
後9	〃	専門種目の技能改善法を提案する（2）	プレゼンPPTの準備(30分)（30分）
後10	〃	専門種目の技能改善法を提案する(3)	プレゼンPPTの準備(30分)
後11	〃	専門種目の技能改善法を提案する（4）	プレゼンPPTの準備or最終レポートの作成（30分）
後12	〃	専門種目の技能改善法を提案する（5）	プレゼンPPTの準備or最終レポートの作成（30分）
後13	〃	専門種目の技能改善法を提案する（6）	プレゼンPPTの準備or最終レポートの作成（30分）
後14	〃	チームマネジメント演習①（グループディスカッション）	企画案の準備（30分）
後15	〃	チームマネジメント演習①（グループ・ディスカッション）	学習ポートフォリオの整理（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳ－陸上競技	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	吉塚　一典・金高　宏文・永原　隆・小森　大輔・田川　浩子			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	20名程度
授業の概要	本授業では、陸上競技フィールド種目の授業や指導に役立つであろう教授法や指導法についてさらに見識を深めるために、競技スポーツ論・実習Ⅱ（陸上競技）において体験した種目を中心に、さらに深化・発展させて授業を行う。これにより、教授法や指導法における高度な理論的背景を知り、指導者としてより高度な指導能力が身につくことが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（×）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技指導力、指導者基礎力、課題解決力 （実技力、専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・陸上競技フィールド種目の教授法・指導法について専門的知識を理解している。	○		○				60
	■情意的領域	・授業に主体的に参加し、課題に取り組もうとする。 ・授業に対し、積極的・建設的な思考に立ち新たな提案をしようとしている。	○						10
	■技能的領域	・指導者として効果的な教授法・指導法を考え、指導ができるようになる。	○						30

成績評価の基準	3つの授業到達目標をもとに、授業、レポートなど成績評価方法の割合に則って評価し、60点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	授業時間毎に必要に応じて資料を配付する。		
履修条件・ 関連科目	陸上競技、競技スポーツ論・実習Ⅰ～Ⅲ（陸上競技）を履修していること。	備考(教員メッセージ含む)	レポート作成あり。指導担当学生は、授業日の天候を事前に調査し、雨天時の場合の授業場所の確保を所定の手続きに則って行っておくこと。
オフィス・アワー	小森：随時　　研究棟8階　805教員教官室 田川：		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	吉塚　一典	円盤投(1)：円盤を回転させて投げるように指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前2	〃	円盤投(2)：身体の進行方向を転換させてターンが行えるように指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前3	〃	「競技力向上の会」に参加	競技力向上の会を振り返る（感想文を作成する）。（1時間）
前4	〃	円盤投(3)：1回転ターンをさせて投げの構えに入れるように指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前5	〃	円盤投(4)：1回転ターンを用いて円盤を投げられるように指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前6	〃	円盤投(5)：記録に挑戦させ、学習者の円盤投の技術的課題を抽出して課題解決に向けた手段を探る。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前7	〃	槍投(1)：槍をまっすぐ投げて突き刺せるように指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前8	〃	槍投(2)：槍を保持してクロス動作が行えるように指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前9	〃	槍投(3)：クロス動作から槍をまっすぐ投げて突き刺せるように指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前10	〃	槍投(4)：助走を用いた投げができるように指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前11	〃	槍投(5)：記録に挑戦させ、学習者の槍投の技術的課題を抽出して課題解決に向けた手段を探る。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前12	〃	ハンマー投(1)：ハンマーを身体の周りでまわせるように指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)

前13	〃	ハンマー投(2)：ハンマーを身体の周りでまわしてからターンができるように指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前14	〃	ハンマー投(3)：1回転ターンをしてハンマーを投げれるように指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前15	〃	ハンマー投(4)：記録に挑戦させ、学習者のハンマー投の技術的課題を抽出して課題解決に向けた手段を探る。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後1	小森　大輔	棒高跳(1)：棒高跳の技術構造・習得体系を教授し、4歩助走までの跳躍を指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後2	〃	棒高跳(2)：4歩助走でぶら下がり、振り上げ動作までを指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後3	〃	棒高跳(3)：4歩助走でターン動作を習得し、一連の動作を繋げた跳躍を指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後4	〃	棒高跳(4)：6歩助走でクリアランスするまでの跳躍を指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後5	〃	棒高跳(5)：8歩助走での跳躍を指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後6	〃	棒高跳(6)：棒高跳の技術的課題を抽出し、課題解決に向けた手段を実践させる。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後7	〃	棒高跳(7)：記録に挑戦させ、技術的な問題点を探る。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後8	〃	棒高跳(8)：記録に挑戦させ、その達成度を評価する。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後9	〃	走高跳(1)：走高跳の技術構造・習得体系を教授し、背面跳を指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後10	〃	走高跳(2)：曲線助走を用いて、7歩助走で記録へ挑戦させ課題を見つける。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後11	〃	三段跳(1)：三段跳の技術構造・習得体系を教授し、5歩助走によるイーブン跳躍を指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後12	〃	三段跳(2)：適正跳躍比率を知るために、7歩助走による様々な跳躍比率を体験させる。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後13	〃	三段跳(3)：記録に挑戦させ、技術的な問題点を探るとともにその達成度を評価する。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後14	〃	走幅跳(1)：走幅跳の技術構造・習得体系を教授し、7歩助走によるかがみ跳びおよび反り跳を指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後15	〃	走幅跳(2)：7歩助走によるはさみ跳びを体験させ、自身に適した跳躍スタイルで記録へ挑戦させる。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅰ－水泳	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	萬久　博敏・成田　健造			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	10名程度
授業の概要	本授業では、水の物理的、生理学的特性を理解し、水泳の科学的理論を学習する。また、競泳トレーニングに必要な基礎的知識を修得し、トレーニング計画やプログラムを立案できるようにする。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	水の特性や競泳のトレーニング、コーチング、指導方法の基礎を論理的に理解する。	○	○	○	○			40
	■情意的領域	理論、実技ともに積極的に取り組む姿勢を高める。	○			○			30
	■技能的領域	トレーニング方法に合致したトレーニング内容を体得する。	○	○					30
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 （実技力、実技指導力、指導者基礎力、（専門的な知識・教養））							

成績評価の基準	授業への参加、与えられた課題でのレポート、技能テストの各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。 与えられた参考文献等の調査・読書も成績評価となる。
テキスト、教材 参　考　書	必要とする参考資料は適時紹介、配付する。詳しい資料は「WebClass」より授業後にダウンロードすること。 テキストは「水泳コーチ教本 第3版（日本水泳連盟編，大修館書店出版，2014，＠5,200円＋税）」を購入すること。
履修条件・関連科目	高い泳力を必要とする授業なので、十分に自らの泳力レベルを考慮して履修する事。
備考(教員メッセージ含む)	競泳選手として競技能力を高めることを目指し、引退後に泳法指導の道を目指す人の履修を希望する。
オフィス・アワー	萬久：随時　実験プール教員室 成田：随時　研究棟８階８１２教員室

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	萬久　博敏 成田　健造	授業ガイダンス（演習の概要、心構え、成績評価等）の事前に説明	
前2	〃	大学でのスポーツ・競技	授業で実施した内容を復習する（1時間）
前3	〃	「競技力を向上する会」に参加	振り返り（30分）
前4	〃	目標設定	授業で実施した内容を復習する（1時間）
前5	〃	水泳の安全性①（水泳事故の実態など）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
前6	〃	水泳の安全性②（救助法、救急法など）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
前7	〃	水泳の安全性③（着衣泳）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
前8	〃	競泳のトレーニング①（トレーニング計画）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
前9	〃	競泳のトレーニング②（トレーニングの適応）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
前10	〃	競泳のトレーニング③（トレーニング強度）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
前11	〃	競泳のトレーニング④（トレーニングプログラムの立て方）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
前12	〃	競泳のトレーニング⑤（専門用語の解説）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
前13	〃	競泳のトレーニング⑥（専門用語の解説）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
前14	〃	競泳のトレーニング⑦（トレーニング効果の検証）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
前15	〃	競泳のトレーニング⑧（陸上トレーニングなど）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後1	〃	競泳選手のコンディショニング①（栄養、食事、サプリメントなど）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後2	〃	競泳選手のコンディショニング②（障害予防と対応）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後3	〃	競泳選手のコンディショニング③（競技力向上のためのコンディショニング）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後4	〃	水泳競技の特性	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後5	〃	水泳競技の歴史	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後6	〃	水泳界の現状と課題	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後7	〃	泳法の変化と改善、工夫の歴史	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後8	〃	水泳のバイオメカニクス①（水中環境の特性など）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後9	〃	水泳のバイオメカニクス②（抵抗と推進など）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後10	〃	競泳の記録更新と泳法の改良や工夫	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後11	〃	水泳の生理学①（水泳の基礎生理学）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後12	〃	水泳の生理学②（水泳の生理学的指標）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後13	〃	水泳の生理学③（トレーニングにおける生理学的指標）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後14	〃	水泳の医学①（メディカルチェック）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後15	〃	水泳の医学②（アンチ・ドーピング）	授業で実施した内容を復習する（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱ－水泳	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	萬久　博敏・成田　健造			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	10名程度
授業の概要	本授業では、水泳指導の基本を学ぶとともに、競泳種目の各泳法技術について探求する。また、泳法教材の作成や水泳指導を実践し、指導方法を身に付ける。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力		授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	各種泳法について理解する。	○	○	○	○			50
	■情意的領域	理論，実技ともに積極的に取組む姿勢を高める。	○			○			30
	■技能的領域	水泳の指導ができるようになる。	○						20

成績評価の基準	授業への参加、与えられた課題の達成とレポート、技能テストの各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。 与えられた参考文献等の調査・読書も成績評価とする。 理解力、実技力と授業態度を総合的に判断。
テキスト、教材 参　考　書	必要とする参考資料は適時紹介、配付するが、詳しい資料は「WebClass」より授業後にダウンロードすること。 泳法分析や解析等の為の機器のマニュアルを読み、取扱方法を修得する事。

履修条件・関連科目		備考(教員メッセージ含む)	水泳競技に関する学習に意欲のある学生の履修を期待する。
オフィス・アワー	萬久：随時　実験プール教員室 成田：随時　研究棟８階８１２教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	萬久　博敏 成田　健造	授業ガイダンス（演習の概要、心構え、成績評価等）の事前に説明	
前2	〃	水泳指導の基本	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前3	〃	「競技力を向上する会」に参加	振り返り（30分）
前4	〃	技術水準別水泳指導	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前5	〃	年齢別指導法①（幼児水泳）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前6	〃	年齢別指導法②（学童水泳）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前7	〃	年齢別指導法③（成人水泳）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前8	〃	泳法理論と実践①（クロール）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前9	〃	泳法理論と実践②（クロール）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前10	〃	泳法理論と実践③（平泳ぎ）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前11	〃	泳法理論と実践④（平泳ぎ）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前12	〃	泳法理論と実践⑤（背泳ぎ）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前13	〃	泳法理論と実践⑥（背泳ぎ）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前14	〃	泳法理論と実践⑦（バタフライ）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前15	〃	泳法理論と実践⑧（バタフライ）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
後1	〃	泳法動画教材作成①（資料収集）	資料収集を実施する（１時間）
後2	〃	泳法動画教材作成②（泳法撮影）	撮影した動画の確認と整理（１時間）
後3	〃	泳法動画教材作成③（泳法撮影）	撮影した動画の確認と整理（１時間）
後4	〃	泳法動画教材作成④（編集）	動画編集作業（１時間）
後5	〃	泳法動画教材作成⑤（編集）	発表に向けて作業を進める（１時間）
後6	〃	泳法動画教材作成⑥（発表）	発表準備及びレポート作成（１時間）
後7	〃	泳法動画教材作成⑦（発表）	レポート作成（１時間）
後8	〃	授業の振り返りとまとめ（グループワーク）	レポート作成（１時間）
後9	〃	水泳指導現場における安全管理	授業で実施した内容を復習する（１時間）
後10	〃	水泳指導の理論と実践①	指導計画書の作成（１時間）
後11	〃	水泳指導の理論と実践②	指導計画書の作成（１時間）
後12	〃	水泳指導の理論と実践③	指導計画書の作成（１時間）
後13	〃	水泳指導の理論と実践④	指導計画書の作成（１時間）
後14	〃	水泳指導の理論と実践⑤	指導計画書の作成（１時間）
後15	〃	水泳指導の理論と実践⑥	レポート作成（１時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲ－水泳	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	萬久　博敏・成田　健造			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	－
授業の概要	本授業では、水泳のトレーニング法、コーチング法に関する指導理論を学習する。また、競技会運営に対応できる能力を身につける。その他、水泳の種目別技術について理解を深める。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 （実技力、実技指導力、指導者基礎力、（事業運営力、科学的表現力、専門的な知識・教養））							
	■認知的領域	トレーニング法とトレーニング効果について理解する。	○	○	○	○			40
	■情意的領域	理論，実技ともに積極的に取組む姿勢を高める。	○						30
	■技能的領域	競技力の向上を図る。	○	○					30

成績評価の基準	授業期間における実習への参加、与えられた課題の達成とレポート、技能テストの各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。 与えられた参考文献等の調査・読書も成績評価となる。
テキスト、教材 参　考　書	必要とする参考資料は適時紹介、配付するが、詳しい資料は「WebClass」より授業後にダウンロードすること。 泳法分析や解析等の為の機器のマニュアルを読み、取扱方法を修得する事。

履修条件・関連科目		備考(教員メッセージ含む)	資料に沿って授業を行うので、必ず指示された参考資料を、予習をしておくこと。
オフィス・アワー	萬久：随時　実験プール教員室 成田：随時　研究棟８階８１２教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	萬久　博敏 成田　健造	授業ガイダンス(演習の概要、心構え、成績評価等)の事前に説明。	
前2	〃	コーチング①（コーチングの基礎）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前3	〃	「競技力を向上する会」に参加	振り返り（30分）
前4	〃	コーチング②（チームマネージメント・チームビルディング）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前5	〃	水泳の心理学①（動機付け）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前6	〃	水泳の心理学②（メンタルトレーニング）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前7	〃	水泳の心理学③（コミュニケーション）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前8	〃	競泳のスタート理論と実践（段階的指導法）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前9	〃	競泳のスタート理論と実践（グラブ、クラウチング、キック、リレー）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前10	〃	競泳のターン理論と実践（クイック、タッチ、バケット）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前11	〃	競泳のトレーニング理論と実践①（持久性トレーニング）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前12	〃	競泳のトレーニング理論と実践②（スプリントトレーニング）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前13	〃	競泳のトレーニング理論と実践③（無酸素性トレーニング）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前14	〃	競泳のトレーニング理論と実践④（インターバルトレーニング）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前15	〃	競泳のトレーニング理論と実践⑤（高強度インターバルトレーニング）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
後1	〃	競泳のトレーニング理論と実践⑥（低酸素トレーニング、高所トレーニング）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
後2	〃	競泳のトレーニング理論と実践⑦（陸上トレーニング）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
後3	〃	競泳の技術トレーニング①（クロールのドリル）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
後4	〃	競泳の技術トレーニング②（平泳ぎのドリル）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
後5	〃	競泳の技術トレーニング③（背泳ぎのドリル）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後6	〃	競泳の技術トレーニング④（バタフライのドリル）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後7	〃	競泳の技術トレーニング⑤（スタート）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後8	〃	競泳の技術トレーニング⑥（ターン）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後9	〃	競泳競技規則	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後10	〃	競泳競技審判法	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後11	〃	競技会の運営	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後12	〃	競泳の科学①（レース分析）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後13	〃	競泳の科学②（ストローク分析）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後14	〃	競泳の科学③（ストローク分析）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後15	〃	競泳の科学④（パフォーマンス評価）	授業で実施した内容を復習する（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳ－水泳	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	萬久　博敏・成田　健造			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	10名程度
授業の概要	本授業では、コーチングの基本を理解し、年齢や性別、競技レベルに応じたコーチの役割について解説する。また、各泳法のドリル練習法を実践し身につけるとともに、理論的に学習することで競技者、指導者としての資質の向上を図る。その他、水中運動について学習する。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 （実技力、実技指導力、指導者基礎力、（専門的な知識・教養））							
	■認知的領域	安全水泳、衛生管理基準について理解する。	○		○	○			50
	■情意的領域	理論、実技ともに積極的に取り組む姿勢を高める。	○						30
	■技能的領域	競泳の初心者指導及び競泳の技術的指導ができるようになる。	○	○		○			20

成績評価の基準	実技力、授業態度、出席状況を総合的に判断する。
テキスト、教材 参　考　書	必要とする参考資料は適時紹介、配付するが、詳しい資料は「WebClass」より授業後にダウンロードすること。
履修条件・ 関連科目	備考(教員メッセージ含む)
オフィス・アワー	萬久：随時　実験プール教員室 成田：随時　研究棟８階８１２教員室

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	萬久　博敏	授業ガイダンス(演習の概要、心構え、成績評価等)の事前に説明。	
前2	〃	コーチング①（コーチングの基礎理論）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前3	〃	コーチング②（ジュニアスイマーのコーチング）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前4	〃	「競技力を向上する会」に参加	振り返り（３０分）
前5	〃	コーチング③（シニアスイマーのコーチング）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前6	〃	コーチング④（マスターズスイマーのコーチング）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前7	〃	初心者水泳指導①（自由形）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前8	〃	初心者水泳指導②（平泳ぎ）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前9	〃	初心者水泳指導③（背泳ぎ）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前10	〃	初心者水泳指導④（バタフライ）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前11	〃	飛込競技の解説と実践	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前12	〃	水球競技の解説と実践	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前13	〃	アーティスティックスイミング競技の解説と実践	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前14	〃	オープンウォータースイミング競技の解説と実践	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前15	〃	日本泳法と障害者水泳の解説と実践	授業で実施した内容を復習する（１時間）
後1	〃	泳法動画(ドリル編)教材作成①（資料収集）	資料収集を実施する（１時間）
後2	〃	泳法動画(ドリル編)教材作成②（泳法撮影）	撮影した動画の確認と整理（１時間）
後3	〃	泳法動画(ドリル編)教材作成③（泳法撮影）	撮影した動画の確認と整理（１時間）
後4	〃	泳法動画(ドリル編)教材作成④（編集）	編集作業（１時間）
後5	〃	泳法動画(ドリル編)教材作成⑤（編集）	発表に向けて作業を進める（１時間）
後6	〃	泳法動画(ドリル編)教材作成⑥（発表）	発表準備及びレポート作成（１時間）
後7	〃	泳法動画(ドリル編)教材作成⑦（発表）	レポート作成（１時間）
後8	〃	授業の振り返りとまとめ（グループワーク）	レポート作成
後9	〃	成人水泳指導論	授業で実施した内容を復習する（１時間）
後10	〃	高齢者水泳指導論	授業で実施した内容を復習する（１時間）
後11	〃	水中運動の理論と実践①（歩行、ジョギング）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
後12	〃	水中運動の理論と実践②（体操、ストレッチ）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
後13	〃	水中運動の理論と実践③（腰痛水泳、肩こり改善）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
後14	〃	水中運動の理論と実践④（アクアビクス）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
後15	〃	授業の振り返りとまとめ（グループワーク）	レポート作成（１時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅰ－体操競技	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	山下　龍一郎・中谷　太希			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	6名程度
授業の概要	体操競技の採点規則を学習すると共に基礎的動きから、さらに高度な技を習得できるよう指導、助言を行う。また、調整力トレーニング、幇助方法運動形態の技術的分析を学習し、競技者、指導者としての資質の向上を図る。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・採点規則を理解する	○			○			20
	■情意的領域	・積極的に授業に取り組む	○						40
	■技能的領域	・調整力が向上する	○	○					40

成績評価の基準	実技授業への意欲的且つ積極的な取組み等の授業態度と出席状況、実技試験を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	日本体操協会「採点規則」、金子明友著　体操競技教本「ⅠⅡⅢⅣⅤ」（不昧堂）、 金子明友著　「体操競技のコーチング」（大修館書店）		
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	山下：801教員室（内線4969）、中谷：708教員室（内線4976）にて随時（但し、事前に申し出ること）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	山下　龍一郎 中谷　太希	オリエンテーション	授業に対する姿勢と態度についてネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前2	〃	審判講習会	体操競技の採点規則を読んで、予習をしておく。（1時間）
前3	〃	「競技力向上の会」に参加	会に参加する前に「競技力向上」に関する事項をネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前4	〃	採点規則の学習（男子あん馬、女子段違い平行棒）	「採点規則を事前に読んでおき、予習をしておく。（1時間）
前5	〃	採点規則の学習（男子ゆか・跳馬、女子ゆか・跳馬）	採点規則の「男子ゆか・跳馬、女子ゆか・跳馬」に関して、予習をしておく。（1時間）
前6	〃	採点規則の学習（男子つり輪、女子平均台）	採点規則の「男子つり輪、女子平均台」に関して、予習をしておく。（1時間）
前7	〃	採点規則の学習（男子平行棒、鉄棒）	採点規則の「男子平行棒、鉄棒」に関して、予習をしておく。（1時間）
前8	〃	教育実習模擬授業	体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）
前9	〃	教育実習模擬授業	体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）
前10	〃	教育実習模擬授業	体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）
前11	〃	技の習熟度を高める（男女ゆか・あん馬）	床とあん馬の習熟度に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前12	〃	技の習熟度を高める（男女跳馬・つり輪）	跳馬とつり輪に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前13	〃	技の習熟度を高める（男子平行棒、女子段違い平行棒）	平行棒に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前14	〃	技の習熟度を高める（男子鉄棒、女子平均台）	鉄棒に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前15	〃	試技会	試技会におけるセルフコントロールについてネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後1	〃	試合ビデオによる解説学習	自己採点をすることで審判能力を高める。（復習1時間）
後2	〃	補強トレーニング指導実習（上肢）の被験者	上肢の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後3	〃	補強トレーニング指導実習（胴体）の被験者	胴体の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）

後4	〃	補強トレーニング指導実習（下肢）の被験者	下肢の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後5	〃	補強トレーニング指導実習（なわとび）の被験者	短なわ、長なわ運動に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後6	〃	補強トレーニング指導実習（トランポリン）の被験者	トランポリン運動に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後7	〃	実技指導実習（マット）の被験者	マットの指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後8	〃	実技指導実習（跳び箱）の被験者	跳び箱の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後9	〃	実技指導実習（鉄棒）の被験者	鉄棒の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後10	〃	実技指導実習（平均台）の被験者	平均台の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後11	〃	メンタルトレーニング指導実習（１）	自己観察における内省に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後12	〃	メンタルトレーニング指導実習（２）	セルフコントロールに関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後13	〃	スポーツ栄養指導演習（１）	体操選手の栄養に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後14	〃	スポーツ栄養指導演習（２）	体操選手の栄養バランスに関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後15	〃	試技会	各種目の着地静止をイメージトレーニング５ローテーション行う。（予習1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱ－体操競技	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	山下　龍一郎・中谷　太希			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	6名程度
授業の概要	体操競技の採点規則を学習すると共に基礎的動きから、さらに高度な技を習得できるよう指導、助言を行う。また、調整力トレーニング、幇助方法運動形態の技術的分析を学習し、競技者、指導者としての資質の向上を図る。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・採点規則を理解する	○			○			20
	■情意的領域	・積極的に授業に取り組む	○						40
	■技能的領域	・調整力が向上する	○	○					40

成績評価の基準	実技授業への意欲的且つ積極的な取組み等の授業態度と出席状況、実技試験を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	日本体操協会「採点規則」、金子明友著　体操競技教本「ＩⅡⅢⅣⅤ」（不昧堂）、 金子明友著　「体操競技のコーチング」（大修館書店）		
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習Ⅰ－体操競技	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	山下：801教員室（内線4969）、中谷：708教員室（内線4976）にて随時（但し、事前に申し出ること）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	山下　龍一郎 中谷　太希	オリエンテーション	授業に対する姿勢と態度についてネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前2	〃	審判講習会	体操競技の採点規則を読んで、予習をしておく。（1時間）
前3	〃	「競技力向上の会」に参加	会に参加する前に「競技力向上」に関する事項をネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前4	〃	採点規則の学習（男子あん馬、女子段違い平行棒）	「採点規則を事前に読んでおき、予習をしておく。（1時間）
前5	〃	採点規則の学習（男子ゆか・跳馬、女子ゆか・跳馬）	採点規則の「男子ゆか・跳馬、女子ゆか・跳馬」に関して、予習をしておく。（1時間）
前6	〃	採点規則の学習（男子つり輪、女子平均台）	採点規則の「男子つり輪、女子平均台」に関して、予習をしておく。（1時間）
前7	〃	採点規則の学習（男子平行棒、鉄棒）	採点規則の「男子平行棒、鉄棒」に関して、予習をしておく。（1時間）
前8	〃	教育実習模擬授業	体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）
前9	〃	教育実習模擬授業	体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）
前10	〃	教育実習模擬授業	体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）
前11	〃	技の習熟度を高める（男女ゆか・あん馬）	床とあん馬の習熟度に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前12	〃	技の習熟度を高める（男女跳馬・つり輪）	跳馬とつり輪に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前13	〃	技の習熟度を高める（男子平行棒、女子段違い平行棒）	平行棒に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前14	〃	技の習熟度を高める（男子鉄棒、女子平均台）	鉄棒に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前15	〃	試技会	試技会におけるセルフコントロールについてネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後1	〃	試合ビデオによる解説学習	自己採点をすることで審判能力を高める。（復習1時間）
後2	〃	補強トレーニング指導実習（上肢）の被験者	上肢の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後3	〃	補強トレーニング指導実習（胴体）の被験者	胴体の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）

後4	〃	補強トレーニング指導実習（下肢）の被験者	下肢の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後5	〃	補強トレーニング指導実習（なわとび）の被験者	短なわ、長なわ運動に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後6	〃	補強トレーニング指導実習（トランポリン）の被験者	トランポリン運動に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後7	〃	実技指導実習（マット）の被験者	マットの指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後8	〃	実技指導実習（跳び箱）の被験者	跳び箱の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後9	〃	実技指導実習（鉄棒）の被験者	鉄棒の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後10	〃	実技指導実習（平均台）の被験者	平均台の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後11	〃	メンタルトレーニング指導実習（1）	自己観察における内省に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後12	〃	メンタルトレーニング指導実習（2）	セルフコントロールに関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後13	〃	スポーツ栄養指導演習（1）	体操選手の栄養に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後14	〃	スポーツ栄養指導演習（2）	体操選手の栄養バランスに関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後15	〃	試技会	各種目の着地静止をイメージトレーニング５ローテーション行う。（予習1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲ－体操競技	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	山下　龍一郎・中谷　太希			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	6名程度
授業の概要	体操競技の採点規則を学習すると共に基礎的動きから、さらに高度な技を習得できるよう指導、助言を行う。また、調整力トレーニング、幇助方法運動形態の技術的分析を学習し、競技者、指導者としての資質の向上を図る。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・採点規則を理解する	○			○			20
	■情意的領域	・積極的に授業に取り組む	○						40
	■技能的領域	・調整力が向上する	○	○					40

成績評価の基準	実技授業への意欲的且つ積極的な取組み等の授業態度と出席状況、実技試験を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	日本体操協会「採点規則」、金子明友著　体操競技教本「ＩⅡⅢⅣⅤ」（不昧堂）、 金子明友著　「体操競技のコーチング」（大修館書店）		
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習Ⅱ－体操競技	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	山下：801教員室（内線4969）、中谷：708教員室（内線4976）にて随時（但し、事前に申し出ること）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	山下　龍一郎 中谷　太希	オリエンテーション	授業に対する姿勢と態度についてネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前2	〃	審判講習会	体操競技の採点規則を読んで、予習をしておく。（1時間）
前3	〃	「競技力向上の会」に参加	会に参加する前に「競技力向上」に関する事項をネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前4	〃	採点規則の学習（男子あん馬、女子段違い平行棒）	「採点規則を事前に読んでおき、予習をしておく。（1時間）
前5	〃	採点規則の学習（男子ゆか・跳馬、女子ゆか・跳馬）	採点規則の「男子ゆか・跳馬、女子ゆか・跳馬」に関して、予習をしておく。（1時間）
前6	〃	採点規則の学習（男子つり輪、女子平均台）	採点規則の「男子つり輪、女子平均台」に関して、予習をしておく。（1時間）
前7	〃	採点規則の学習（男子平行棒、鉄棒）	採点規則の「男子平行棒、鉄棒」に関して、予習をしておく。（1時間）
前8	〃	教育実習模擬授業	体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）
前9	〃	教育実習模擬授業	体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）
前10	〃	教育実習模擬授業	体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）
前11	〃	技の習熟度を高める（男女ゆか・あん馬）	床とあん馬の習熟度に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前12	〃	技の習熟度を高める（男女跳馬・つり輪）	跳馬とつり輪に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前13	〃	技の習熟度を高める（男子平行棒、女子段違い平行棒）	平行棒に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前14	〃	技の習熟度を高める（男子鉄棒、女子平均台）	鉄棒に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前15	〃	試技会	試技会におけるセルフコントロールについてネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後1	〃	試合ビデオによる解説学習	自己採点をすることで審判能力を高める。（復習1時間）
後2	〃	補強トレーニング指導実習（上肢）の被験者	上肢の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後3	〃	補強トレーニング指導実習（胴体）の被験者	胴体の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）

後4	〃	補強トレーニング指導実習（下肢）の被験者	下肢の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後5	〃	補強トレーニング指導実習（なわとび）の被験者	短なわ、長なわ運動に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後6	〃	補強トレーニング指導実習（トランポリン）の被験者	トランポリン運動に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後7	〃	実技指導実習（マット）の被験者	マットの指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後8	〃	実技指導実習（跳び箱）の被験者	跳び箱の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後9	〃	実技指導実習（鉄棒）の被験者	鉄棒の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後10	〃	実技指導実習（平均台）の被験者	平均台の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後11	〃	メンタルトレーニング指導実習（１）	自己観察における内省に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後12	〃	メンタルトレーニング指導実習（２）	セルフコントロールに関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後13	〃	スポーツ栄養指導演習（１）	体操選手の栄養に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後14	〃	スポーツ栄養指導演習（２）	体操選手の栄養バランスに関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後15	〃	試技会	各種目の着地静止をイメージトレーニング５ローテーション行う。（予習1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳ－体操競技	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	山下　龍一郎・中谷　太希			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	6名程度
授業の概要	体操競技の採点規則を学習すると共に基礎的動きから、さらに高度な技を習得できるよう指導、助言を行う。また、調整力トレーニング、幇助方法運動形態の技術的分析を学習し、競技者、指導者としての資質の向上を図る。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・採点規則を理解する	○			○			20
	■情意的領域	・積極的に授業に取り組む	○						40
	■技能的領域	・調整力が向上する	○	○					40

成績評価の基準	実技授業への意欲的且つ積極的な取組み等の授業態度と出席状況、実技試験を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	日本体操協会「採点規則」、金子明友著　体操競技教本「ＩⅡⅢⅣⅤ」（不昧堂）、 金子明友著　「体操競技のコーチング」（大修館書店）		
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習Ⅲ－体操競技	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	山下：801教員室（内線4969）、中谷：708教員室（内線4976）にて随時（但し、事前に申し出ること）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	山下　龍一郎 中谷　太希	オリエンテーション	授業に対する姿勢と態度についてネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前2	〃	審判講習会	体操競技の採点規則を読んで、予習をしておく。（1時間）
前3	〃	「競技力向上の会」に参加	会に参加する前に「競技力向上」に関する事項をネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前4	〃	採点規則の学習（男子あん馬、女子段違い平行棒）	「採点規則を事前に読んでおき、予習をしておく。（1時間）
前5	〃	採点規則の学習（男子ゆか・跳馬、女子ゆか・跳馬）	採点規則の「男子ゆか・跳馬、女子ゆか・跳馬」に関して、予習をしておく。（1時間）
前6	〃	採点規則の学習（男子つり輪、女子平均台）	採点規則の「男子つり輪、女子平均台」に関して、予習をしておく。（1時間）
前7	〃	採点規則の学習（男子平行棒、鉄棒）	採点規則の「男子平行棒、鉄棒」に関して、予習をしておく。（1時間）
前8	〃	教育実習模擬授業	体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）
前9	〃	教育実習模擬授業	体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）
前10	〃	教育実習模擬授業	体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）
前11	〃	技の習熟度を高める（男女ゆか・あん馬）	床とあん馬の習熟度に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前12	〃	技の習熟度を高める（男女跳馬・つり輪）	跳馬とつり輪に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前13	〃	技の習熟度を高める（男子平行棒、女子段違い平行棒）	平行棒に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前14	〃	技の習熟度を高める（男子鉄棒、女子平均台）	鉄棒に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前15	〃	試技会	試技会におけるセルフコントロールについてネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後1	〃	試合ビデオによる解説学習	自己採点をすることで審判能力を高める。（復習1時間）
後2	〃	補強トレーニング指導実習（上肢）の被験者	上肢の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後3	〃	補強トレーニング指導実習（胴体）の被験者	胴体の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）

後4	〃	補強トレーニング指導実習（下肢）の被験者	下肢の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後5	〃	補強トレーニング指導実習（なわとび）の被験者	短なわ、長なわ運動に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後6	〃	補強トレーニング指導実習（トランポリン）の被験者	トランポリン運動に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後7	〃	実技指導実習（マット）の被験者	マットの指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後8	〃	実技指導実習（跳び箱）の被験者	跳び箱の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後9	〃	実技指導実習（鉄棒）の被験者	鉄棒の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後10	〃	実技指導実習（平均台）の被験者	平均台の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後11	〃	メンタルトレーニング指導実習（１）	自己観察における内省に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後12	〃	メンタルトレーニング指導実習（２）	セルフコントロールに関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後13	〃	スポーツ栄養指導演習（１）	体操選手の栄養に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後14	〃	スポーツ栄養指導演習（２）	体操選手の栄養バランスに関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後15	〃	試技会	各種目の着地静止をイメージトレーニング５ローテーション行う。（予習1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅰ－バレーボール	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	濱田　幸二・坂中　美郷			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	15名程度
授業の概要	1．バレーボールの起源・歴史についても知見を広める。 2．種類の技術の組み合わせによる連続（複合）練習により、基礎技術をマスターする。 3．各種の試合局面に応じた戦術トレーニングにより、基礎戦術をマスターする。 4．ソフトバレーやビーチバレー、インドア６人制などの基礎ゲームをマスターする。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、指導者基礎力 （実技力、指導者基礎力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	複合練習の方法論を理解する。	○	○	○	○			20
	■情意的領域	「積極さ」をトレーニングに活かすことが出来る。	○						20
	■技能的領域	基礎技術や基礎戦術を身に付けゲームが出来る。	○	○	○		○		60

成績評価の基準	基礎技術、基礎戦術、基礎ゲームを身につけること。
テキスト、教材 参　考　書	Volley chronicle（バレーボール年代記） 最新版「JVAルールブック」 タブレットを必ず持参すること

履修条件・関連科目		備考(教員メッセージ含む)	本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。
オフィス・アワー	随時対応可　808教員室（濱田）・601教員室（坂中）・球技体育館準備室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	濱田　幸二 坂中　美郷	基礎技術　セット＆アタック	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前2	〃	基礎技術　アタック＆ブロック、ブロック＆レシーブ	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前3	〃	基礎技術　サーブ＆レセプション	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前4	〃	「競技力を向上する会」に参加	課題レポート（30分）
前5	〃	基礎技術　レシーブ＆セット	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前6	〃	基礎戦術　レセプションから速攻	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前7	〃	基礎戦術　レセプションから遅攻	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前8	〃	基礎戦術　カウンターアタック　速攻	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前9	〃	基礎戦術　カウンターアタック　遅攻	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前10	〃	基礎戦術　サーブからマッチアップス	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前11	〃	基礎ゲーム　６人制バレー　技術と戦術　ウォッシュドリル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前12	〃	コーチング実習	課題レポート（1時間）
前13	〃	基礎ゲーム　６人制バレー　技術と戦術　ウォッシュドリル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前14	〃	基礎ゲーム　６人制バレー　審判と運営	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前15	〃	基礎ゲーム　６人制バレー　審判と運営	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前16	〃	学期末試験	総合的レポート（2時間）
後1	〃	基礎ゲーム　ビーチバレー　技術と戦術　ウォッシュドリル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後2	〃	基礎ゲーム　ビーチバレー　審判と運営	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後3	〃	基礎ゲーム　ソフトバレー　技術と戦術　ウォッシュドリル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後4	〃	基礎ゲーム　ソフトバレー　審判と運営	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後5	〃	基礎ゲーム　インドア６人制　技術と戦術　ウォッシュドリル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後6	〃	基礎技術　セット＆アタック　複合練習	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後7	〃	基礎技術　アタック＆ブロック　複合練習	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後8	〃	基礎技術　ブロック＆レシーブ　複合練習	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後9	〃	基礎技術　サーブ＆レセプション　複合練習	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後10	〃	基礎技術　レシーブ＆セット　複合練習	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後11	〃	基礎技術　レシーブ＆セット＆アタック＆ブロック　複合総合練習	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後12	〃	コーチング実習	課題レポート（1時間）
後13	〃	基礎戦術　レセプションから速攻　意思決定	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後14	〃	基礎戦術　カウンターアタック　遅攻　サポート	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後15	〃	基礎戦術　カウンターアタック　速効　意思決定	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後16	〃	学期末試験	総合的レポート（２時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱ－バレーボール	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	濱田　幸二・坂中　美郷			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	15名程度
授業の概要	1．競技規則の理解と審判実習を行い、審判活動を身に付ける。 2．競技運営の準備と運営に関するコンテンツと事例を学習し、総合的な競技会の運営法を総合的に身に付ける。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、事業運営力、指導者基礎力 （実技力、事業運営力、指導者基礎力）							
	■認知的領域	ルールを理解することが出来る。 大会運営（競技規則を理解出来）が出来る。	○	○	○	○			20
	■情意的領域	「積極さ」と「謙虚さ」を審判活動に生かすことが出来る。	○						20
	■技能的領域	審判活動を実践できる。	○	○	○		○		60

成績評価の基準	審判活動内容を評価基準表により採点し合否で判定する。競技運営能力は専門的知識を身に付ける。		
テキスト、教材 参　考　書	最新版「JVAルールブック」 Volley chronicle（バレーボール年代記） タブレットを必ず持参すること 随時　資料を配布		
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習Ⅰ（バレーボール）	備考(教員メッセージ含む)	本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。
オフィス・アワー	随時対応可　808教員室（濱田）・601教員室（坂中）・球技体育館準備室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	濱田　幸二 坂中　美郷	審判トレーニング　吹笛のバリエーション	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前2	〃	審判トレーニング　ハンドシグナル　１ｓｔ・２ｎｄレフリー編	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前3	〃	審判トレーニング　ハンドシグナル　線審編、記録員の責務	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前4	〃	「競技力を向上する会」に参加	課題レポート（30時間）
前5	〃	審判トレーニング　プレーの構造	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前6	〃	審判トレーニング　プレー上の動作	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前7	〃	審判トレーニング　中断と遅延	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前8	〃	審判トレーニング　不法な行為と罰則	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前9	〃	審判トレーニング　主審の責務	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前10	〃	審判トレーニング　副審の責務	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前11	〃	審判トレーニング　線審・記録員の責務	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前12	〃	コーチング実習	課題レポート（1時間）
前13	〃	審判トレーニング　審判団のコミュニケーション	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前14	〃	審判トレーニング　プロトコール	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前15	〃	審判トレーニング　ネット際のプレー	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前16	〃	学期末試験	総合的課題レポート（２時間）
後1	〃	競技運営トレーニング　競技形式のバリエーション	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後2	〃	競技運営トレーニング　競技場の規格と設営	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後3	〃	競技運営トレーニング　競技手続と日程　リーグ戦・トーナメント戦	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後4	〃	競技運営トレーニング　組合抽選・対戦カード決定の方式	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後5	〃	競技運営トレーニング　運営役員組織と会議	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後6	〃	競技運営トレーニング　補助役員　ボールコレクター・点示・JVIMS	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後7	〃	競技運営トレーニング　運営マニュアルの作成	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後8	〃	競技運営トレーニング　物品チェックとタイムテーブル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後9	〃	競技運営トレーニング　出場資格とドーピングチェック	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後10	〃	競技運営トレーニング　用具（ネット・ボール等）の規格とチェック	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後11	〃	競技運営トレーニング　大会プログラムの編成	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後12	〃	コーチング実習	課題レポート（1時間）
後13	〃	競技運営トレーニング　リハーサル大会の準備	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後14	〃	競技運営トレーニング　総合実習の準備、実施	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後15	〃	競技運営トレーニング　総合実習の実施、自己評価反省	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後16	〃	学期末試験	総合的課題レポート（２時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲ－バレーボール	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	濱田　幸二・坂中　美郷			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	15名程度
授業の概要	1．バレーボールの技術ドリルプランニングやコーチングスキルの実習により、中級レベルの技術コーチングを身に付ける。 2．バレーボールの戦術トレーニング実習により、中級レベルの戦術コーチングを身に付ける。 3．体力トレーニングの処方とプランニング実習により、中級レベルの体力養成法及び評価法を身に付ける。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 （実技力、実技指導力、指導者基礎力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	バレーボール競技に関しての体力トレーニングの専門知識を身に付ける。	○		○		○		20
	■情意的領域	積極的に率先垂範できる。	○		○	○			20
	■技能的領域	技術・戦術・体力トレーニングの処方が出来る。	○		○		○		60

成績評価の基準	技術コーチング、戦術コーチング、体力養成法をバランス良く習得すること。
テキスト、教材 参　考　書	Volley chronicle（バレーボール年代記） 最新版「JVAルールブック」 公財日本バレーボール協会「コーチングバレーボール（基礎編）」 タブレットを必ず持参すること

履修条件・関連科目	競技スポーツ論・実習Ⅰ、Ⅱ（バレーボール）	備考(教員メッセージ含む)	本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。
オフィス・アワー	随時対応可　808教員室（濱田）・601教員室（坂中）・球技体育館準備室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	濱田　幸二 坂中　美郷	技術のコーチング　セッティングドリルとコーチングスキル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前2	〃	技術のコーチング　アタックドリルの展開	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前3	〃	技術のコーチング　アタックのコーチングスキル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前4	〃	「競技力を向上する会」に参加	課題レポート（30時間）
前5	〃	技術のコーチング　ブロックドリルの展開、ブロックのコーチングスキル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前6	〃	技術のコーチング　レセプションドリルの展開	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前7	〃	技術のコーチング　レセプションのコーチングスキル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前8	〃	技術のコーチング　フロアdefense ドリルの展開	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前9	〃	技術のコーチング　フロアdefense のコーチングスキル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前10	〃	技術のコーチング　サーブドリルとコーチングスキル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前11	〃	戦術のコーチング　レセプションから１st・２ndテンポの習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前12	〃	コーチング実習	課題レポート（1時間）
前13	〃	戦術のコーチング　レセプションからディープコートセットの習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前14	〃	戦術のコーチング　レセプションからバックアタックの習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前15	〃	戦術のコーチング　レセプションからコンビネーション攻撃の習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前16	〃	学期末試験	総合的課題レポート（2時間）
後1	〃	戦術のコーチング　トランディション攻撃（ディグから１ｓｔテンポ攻撃）の習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後2	〃	戦術のコーチング　トランディション攻撃（ディグからコンビネーション攻撃）の習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後3	〃	戦術のコーチング　トランディション攻撃（ディグからディープコートセット攻撃）の習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後4	〃	戦術のコーチング　サーブ　ターゲット法の習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後5	〃	戦術のコーチング　サーブ　強打法の習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後6	〃	体力トレーニングの処方とプラン　ウォーミングup&クールdown	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後7	〃	体力トレーニングの処方とプラン　ストレングス　体幹	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後8	〃	体力トレーニングの処方とプラン　ストレングス　上肢	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後9	〃	体力トレーニングの処方とプラン　ストレングス　下肢	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後10	〃	体力トレーニングの処方とプラン　ミドルパワー	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後11	〃	体力トレーニングの処方とプラン　ハイパワー、プライオメトリックス	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後12	〃	コーチング実習	課題レポート（1時間）
後13	〃	体力トレーニングの処方とプラン　スピード＆アジリティーのコーディネーション	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後14	〃	体力トレーニングの処方とプラン　エンデュアランス	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後15	〃	体力トレーニングの処方とプラン　トータルコーディネイト	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後16	〃	学期末試験	総合的課題レポート（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳ－バレーボール	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	濱田　幸二・坂中　美郷			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	15名程度

授業の概要	1．バレーボールの技術ドリルプランニングやコーチングスキルの実習により、上級レベルの技術コーチングを身に付ける。 2．バレーボールの戦術トレーニング実習により、上級レベルの戦術コーチングを身に付ける。 3．体力トレーニングの処方とプランニング実習により、上級レベルの体力養成法及び評価法を身に付ける。 4．コーチングを客観的に評価する能力を身に付ける。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 （実技力、実技指導力、指導者基礎力）							
	■認知的領域	バレーボール競技に関しての体力トレーニングの専門知識（上級）を身に付ける。	○		○		○		20
	■情意的領域	上級者に対して率先垂範できる。	○		○	○			20
	■技能的領域	技術・戦術・体力トレーニングの処方が上級者に対して出来る。	○		○		○		60

成績評価の基準	技術コーチング、戦術コーチング、体力養成法を専門的に習得すること。
テキスト、教材 参　考　書	Volley chronicle（バレーボール年代記） 最新版「JVAルールブック」 公財日本バレーボール協会「コーチングバレーボール（基礎編）」 タブレットを必ず持参すること

履修条件・関連科目	競技スポーツ論・実習　Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ（バレーボール）	備考(教員メッセージ含む)	本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。
オフィス・アワー	随時対応可　808教員室（濱田）・601教員室（坂中）・球技体育館準備室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	濱田　幸二 坂中　美郷	技術のコーチング　セッティングドリルとコーチングスキル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前2	〃	技術のコーチング　アタックドリルの展開、アタックのコーチングスキル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前3	〃	技術のコーチング　ブロックドリルの展開	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前4	〃	「競技力を向上する会」に参加	課題レポート（30時間）
前5	〃	技術のコーチング　ブロックのコーチングスキル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前6	〃	技術のコーチング　レセプションドリルの展開	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前7	〃	技術のコーチング　レセプションのコーチングスキル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前8	〃	技術のコーチング　フロアdefense ドリルのスキル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前9	〃	技術のコーチング　フロアdefense のコーチングスキル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前10	〃	技術のコーチング　サーブドリルとコーチングスキル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前11	〃	戦術のコーチング　レセプションから１st、２ndテンポの習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前12	〃	コーチング実習	課題レポート（1時間）
前13	〃	戦術のコーチング　レセプションからディープコートセットの習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前14	〃	戦術のコーチング　レセプションからバックアタックの習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前15	〃	戦術のコーチング　レセプションからコンビネーション攻撃の習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前16	〃	学期末試験	総合的課題レポート（2時間）
後1	〃	戦術のコーチング　トランディション攻撃（ディグから１ｓｔテンポ攻撃）の習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後2	〃	戦術のコーチング　トランディション攻撃（ディグからコンビネーション攻撃）の習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後3	〃	戦術のコーチング　トランディション攻撃（ディグからディープコートセット攻撃）の習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後4	〃	戦術のコーチング　サーブ　ターゲット法の習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後5	〃	戦術のコーチング　サーブ　強打法の習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後6	〃	体力トレーニングの処方とプラン　ウォーミングup&クールdown	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後7	〃	体力トレーニングの処方とプラン　ストレングス　体幹	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後8	〃	体力トレーニングの処方とプラン　ストレングス　上肢	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後9	〃	体力トレーニングの処方とプラン　ストレングス　下肢	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後10	〃	体力トレーニングの処方とプラン　ミドルパワー	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後11	〃	体力トレーニングの処方とプラン　ハイパワー、プライオメトリックス	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後12	〃	コーチング実習	課題レポート（1時間）
後13	〃	体力トレーニングの処方とプラン　スピード＆アジリティーのコーディネーション	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後14	〃	体力トレーニングの処方とプラン　エンデュアランス	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後15	〃	体力トレーニングの処方とプラン　トータルコーディネート	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後16	〃	学期末試験	総合的課題レポート（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅰ－バスケットボール	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	三浦　健・前村　かおり			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	１５名程度

授業の概要	バスケットボールを実技種目の主専攻として選択し、以下の項目に主眼を置いて理解を深め自己の向上を図るとともに、簡単な技術指導ができるようになる。 1．個人の攻撃に関するスキル 2．基本的なコンビネーション 3．コーチング・講習会における示範能力 4．基本的なルールの理解と審判法 5．大会開催時における運営者の役割 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 （実技力、実技指導力、指導者基礎力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	バスケットボールのルール、個人技術とその審判法、コンビネーションプレーの理解、基本的な審判マニュアルの習得	○	○		○			40
	■情意的領域	積極的な態度での授業参加、大会運営に対する補助活動、大隅地区大会レベルにおける審判協力	○			○			20
	■技能的領域	個人技術のポイントを強調した示範能力、、鹿児島県公認審判資格取得レベルの基本的審判法	○	○		○			40

成績評価の基準	最低限2/3以上の出席。バスケットボールに関する基礎知識の理解、個人の基礎技術に関する習得度、授業態度等を総合的に評価する。
テキスト、教材 参　考　書	CAOCH'S　BIBLE　(Sidney　Goldstein)　Golden　Aura バスケットボール指導教本（日本バスケットボール協会）大修館書店 バスケットボールの競技規則・マニュアル（日本バスケットボール協会） バスケットボールのルールと審判法　２０１１　（阿部・木葉）大修館書店 DVD各種

履修条件・関連科目		備考(教員メッセージ含む)	バスケットボールの面白さと楽しさを伝えられる存在になってください。
オフィス・アワー	随時　体育館教員室（三浦）、主体育室（前村）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	三浦　健 前村　かおり	オリエンテーション（授業内容説明ならびに班分け等）	シラバスの事前確認（１５分）
前2	〃	バスケットボールのコンディショニング① （栄養・睡眠・水分補給・怪我の管理・リハビリテーション）	体調管理リストの作成（授業後３０分）
前3	〃	競技力向上の会への参加	会終了後　振り返り（２０分）
前4	〃	審判法の基礎（１）審判の役割と責任 審判法の基礎（２）新しいマニュアルの確認（継続） 審判法の基礎（３）新しいマニュアルの確認（新規・変更点） バスケットボール指導デモ（１）　A班	マニュアルブック予習 （１時間）指導デモ準備（４時間）
前5	〃	審判法の基礎（４）３パーソンシステムの基本的考え方 審判法の基礎（５）プライマリー・エリア 審判法の基礎（６）プライマリー・アングル 審判法の基礎（７）レフェリー・ディフェンス バスケットボール指導デモ（２）　B班	マニュアルブック予習（１時間）、指導デモ準備（４時間）
前6	〃	審判法の基礎（８）ヴァイオレーションの判定 審判法の基礎（９）ヴァイオレーションに関するシグナル・ジェスチャー バスケットボール指導デモ（３）　C班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
前7	〃	審判法の基礎（１０）パーソナルファウルの判定 審判法の基礎（１１）パーソナルファウルに関するシグナル・ジェスチャー 審判法の基礎（１２）TOへのレポート方法 指導デモ（４）　D班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
前8	〃	審判法の基礎（１３）スローイン 審判法の基礎（１４）フリースロー 審判法の基礎（１５）特殊なファウル 指導デモ（５）　E班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）　レポート（審判法）提出
前9	〃	ボールを扱う技術（１）ストップ＆ピヴォット ボールを扱う技術（２）ボールハンドリング ボールを扱う技術（３）ドリブルワーク 指導デモ（６）　F班	指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）

前10	〃	ボールを扱う技術（４）セットショット＆ジャンプショット ボールを扱う技術（５）レイアップ＆フックショット ボールを扱う技術（６）フリースロー 指導デモ（７）　G班	指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
前11	〃	コンビプレイに関する技術（１）パス＆カット コンビプレイに関する技術（２）インサイド・スクリーン コンビプレイに関する技術（３）ハイ・ロー 指導デモ（８）　H班	指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
前12	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前13	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前14	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前15	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（レポート：４大会分）準備（６時間）
後1	〃	バスケットボールのコンディショニング② （形態測定ならびに体力測定）	測定法復習（３０分）
後2	〃	バスケットボールのコンディショニング③ （アスレチックトレーニングの現状及びその指導法） トレーニング実習	配布資料予習（１時間）課外活動時に復習（個人差あり・２時間程度）
後3	〃	テーブルオフィシャルズの任務と注意点 指導デモ（９）　A班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後4	〃	チームとしてのオフィシャルズ（協力） 指導デモ（１０）　B班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後5	〃	各レベル別公認審査会に向けてのパワーアップ講義・実習 指導デモ（１１）C班	マニュアルブック・ルールブック予習（２時間）、フィットネステストガイダンス（１時間）指導デモ準備（４時間）
後6	〃	ウォーミングアップ実習 （１）ボールを使わないもの （２）ボールを使うもの 指導デモ（１２）D班	指導教本予習（２時間）指導デモ準備（４時間）
後7	〃	シューティングドリル実習 指導デモ（１３）E班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間） スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後8	〃	１対１における個人技術 （１）ドリブル （２）ステップ 指導デモ（１４）F班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間） スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後9	〃	１対１における個人技術 （３）ディフェンス （４）リバウンド 指導デモ（１５）G班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間） スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後10	〃	試合におけるベンチワーク実習 （１）タイムアウト （２）交代 指導デモ（１６）H班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後11	〃	試合におけるベンチワーク実習 （３）エンド・オブ・ザ・ゲーム （４）ゲームプランおよびスタイル	指導教本予習（１時間）レポート：ゲーム・コーチング（４時間）
後12	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （２）全日本大学選手権（インカレ） （３）三地区大学対抗 （４）ウィンターキャンプ　イン　鹿屋 （５）都城盆地大会 （６）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）

後13	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （２）全日本大学選手権（インカレ） （３）三地区大学対抗 （４）ウィンターキャンプ　イン　鹿屋 （５）都城盆地大会 （６）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
後14	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （２）全日本大学選手権（インカレ） （３）三地区大学対抗 （４）ウィンターキャンプ　イン　鹿屋 （５）都城盆地大会 （６）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
後15	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （２）全日本大学選手権（インカレ） （３）三地区大学対抗 （４）ウィンターキャンプ　イン　鹿屋 （５）都城盆地大会 （６）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（レポート：４大会分）準備（６時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱ－バスケットボール	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	三浦　健・前村　かおり			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	10名程度
授業の概要	バスケットボールを実技種目の主専攻として選択し、以下の項目に主眼を置いて理解を深め自己の向上を図るとともに、簡単な技術指導ができるようになる。 1．個人の攻撃に関するスキルの習熟 2．基本的なコンビネーションの習熟 3．コーチング・講習会における示範能力および指示能力 4．詳細なルールの理解と審判法 5．大会開催時における運営者の役割 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 （実技力、実技指導力、指導者基礎力）							
	■認知的領域	バスケットボールのルール、個人技術とその審判法、コンビネーションプレーの理解、総合的な審判マニュアルの習得	○	○					40
	■情意的領域	積極的な態度での授業参加、大会運営に対する補助活動、鹿児島県大会レベルにおける審判協力	○			○			20
	■技能的領域	個人技術のポイントを強調した示範能力および指導能力、日本協会公認審判資格取得レベルの基本的審判法	○	○		○			40

成績評価の基準	最低限2/3以上の出席。バスケットボールに関する基礎知識の理解、個人の基礎技術に関する習得度、授業態度等を総合的に評価する。
テキスト、教材 参　考　書	CAOCH'S　BIBLE　(Sidney　Goldstein)　Golden　Aura バスケットボール指導教本（日本バスケットボール協会）大修館書店 バスケットボールの競技規則・マニュアル（日本バスケットボール協会） バスケットボールのルールと審判法　２０１１　（阿部・木葉）大修館書店 DVD各種
履修条件・関連科目	備考(教員メッセージ含む)：バスケットボールの面白さと楽しさを伝えられる存在になってください。
オフィス・アワー	随時　体育館教員室（三浦）、主体育室（前村）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	三浦　健 前村　かおり	オリエンテーション（授業内容説明ならびに班分け等）	シラバスの事前確認（１５分）
前2	〃	バスケットボールのコンディショニング① （栄養・睡眠・水分補給・怪我の管理・リハビリテーション）	体調管理リストの作成（授業後３０分）
前3	〃	競技力向上の会への参加	会終了後　振り返り（２０分）
前4	〃	審判法の基礎（１）審判の役割と責任 審判法の基礎（２）新しいマニュアルの確認（継続） 審判法の基礎（３）新しいマニュアルの確認（新規・変更点） バスケットボール指導デモ（１）　A班	マニュアルブック予習 （１時間）指導デモ準備（４時間）
前5	〃	審判法の基礎（４）３パーソンシステムの基本的考え方 審判法の基礎（５）プライマリー・エリア 審判法の基礎（６）プライマリー・アングル 審判法の基礎（７）レフェリー・ディフェンス バスケットボール指導デモ（２）　B班	マニュアルブック予習 （１時間）指導デモ準備（４時間）
前6	〃	審判法の基礎（８）ヴァイオレーションの判定 審判法の基礎（９）ヴァイオレーションに関するシグナル・ジェスチャー バスケットボール指導デモ（３）　C班	マニュアルブック予習 （１時間）指導デモ準備（４時間）
前7	〃	審判法の基礎（１０）パーソナルファウルの判定 審判法の基礎（１１）パーソナルファウルに関するシグナル・ジェスチャー 審判法の基礎（１２）TOへのレポート方法 指導デモ（４）　D班	マニュアルブック予習 （１時間）指導デモ準備（４時間）
前8	〃	審判法の基礎（１３）スローイン 審判法の基礎（１４）フリースロー 審判法の基礎（１５）特殊なファウル 指導デモ（５）　E班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）　レポート（審判法）提出
前9	〃	ボールを扱う技術（１）ストップ＆ピヴォット ボールを扱う技術（２）ボールハンドリング ボールを扱う技術（３）ドリブルワーク 指導デモ（６）　F班	指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり

前10	〃	ボールを扱う技術（４）セットショット＆ジャンプショット ボールを扱う技術（５）レイアップ＆フックショット ボールを扱う技術（６）フリースロー 指導デモ（７）　G班	指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり
前11	〃	コンビプレイに関する技術（１）パス＆カット コンビプレイに関する技術（２）インサイド・スクリーン コンビプレイに関する技術（３）ハイ・ロー 指導デモ（８）　H班	指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり
前12	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前13	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前14	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前15	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（レポート：４大会分）準備（６時間）
後1	〃	バスケットボールのコンディショニング② （形態測定ならびに体力測定）	測定法復習（３０分）
後2	〃	バスケットボールのコンディショニング③ （アスレチックトレーニングの現状及びその指導法） トレーニング実習	配布資料予習（１時間）課外活動時に復習（個人差あり・２時間程度）
後3	〃	テーブルオフィシャルズの任務と注意点 指導デモ（９）　A班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後4	〃	チームとしてのオフィシャルズ（協力） 指導デモ（１０）　B班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後5	〃	各レベル別公認審査会に向けてのパワーアップ講義・実習 指導デモ（１１）C班	マニュアルブック・ルールブック予習（２時間）、フィットネステストガイダンス（１時間）指導デモ準備（４時間）
後6	〃	ウォーミングアップ実習 （１）ボールを使わないもの （２）ボールを使うもの 指導デモ（１２）D班	指導教本予習（２時間）指導デモ準備（４時間）
後7	〃	シューティングドリル実習 指導デモ（１３）E班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間） スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後8	〃	１対１における個人技術 （１）ドリブル （２）ステップ 指導デモ（１４）F班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間） スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後9	〃	１対１における個人技術 （３）ディフェンス （４）リバウンド 指導デモ（１５）G班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間） スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後10	〃	試合におけるベンチワーク実習 （１）タイムアウト （２）交代 指導デモ（１６）H班	指導教本予習（２時間）指導デモ準備（４時間）
後11	〃	試合におけるベンチワーク実習 （３）エンド・オブ・ザ・ゲーム （４）ゲームプランおよびスタイル	指導教本予習（１時間）レポート：ゲーム・コーチング（４時間）
後12	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （２）全日本大学選手権（インカレ） （３）三地区大学対抗 （４）ウィンターキャンプ　イン　鹿屋 （５）都城盆地大会 （６）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）

後13	〃	次の集中授業（各6時間）の中から二つ（8コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （1）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （2）全日本大学選手権（インカレ） （3）三地区大学対抗 （4）ウィンターキャンプ　イン　鹿屋 （5）都城盆地大会 （6）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（6時間）報告（口頭）準備（2時間）
後14	〃	次の集中授業（各6時間）の中から二つ（8コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （1）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （2）全日本大学選手権（インカレ） （3）三地区大学対抗 （4）ウィンターキャンプ　イン　鹿屋 （5）都城盆地大会 （6）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（6時間）報告（口頭）準備（2時間）
後15	〃	次の集中授業（各6時間）の中から二つ（8コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （1）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （2）全日本大学選手権（インカレ） （3）三地区大学対抗 （4）ウィンターキャンプ　イン　鹿屋 （5）都城盆地大会 （6）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（6時間）報告（レポート：4大会分）準備（6時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲ－バスケットボール	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	三浦　健・前村　かおり			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	１５名程度

授業の概要	バスケットボールを実技種目の主専攻として選択し、以下の項目に主眼を置いて理解を深め自己の向上を図るとともに、チーム指導ができるレベルの総合的なコーチング・スキルを身につける。 1．個人の攻撃に関するスキルの習熟および指導ポイントの習得 2．基本的なコンビネーションの習熟及び指導ポイントの習得 3．コーチング・講習会における示範・教示能力および総合的な管理能力 4．チーム戦術・戦略に関する基本的な理解 5．詳細なルールの理解と審判法 6．大会開催時における運営者の役割 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 （実技力、実技指導力、指導者基礎力）							
	■認知的領域	バスケットボールのルール、個人技術とその審判法、コンビネーションプレーの理解、総合的な審判マニュアルの習得	○	○		○			40
	■情意的領域	積極的な態度での授業参加、大会運営に対する補助活動、鹿児島県大会レベルにおける審判協力	○			○			20
	■技能的領域	個人技術のポイントを強調した示範能力および指導能力、日本協会公認審判資格取得レベルの基本的審判法	○	○		○			40

成績評価の基準	最低限2/3以上の出席。バスケットボールに関する基礎知識の理解、個人の基礎技術に関する習得度、授業態度等を総合的に評価する。
テキスト、教材 参　考　書	CAOCH'S　BIBLE　(Sidney　Goldstein)　Golden　Aura バスケットボール指導教本（日本バスケットボール協会）大修館書店 バスケットボールの競技規則・マニュアル（日本バスケットボール協会） バスケットボールのルールと審判法　２０１１　（阿部・木葉）大修館書店 DVD各種

履修条件・関連科目		備考(教員メッセージ含む)	バスケットボールの面白さと楽しさを伝えられる存在になってください。
オフィス・アワー	随時　体育館教員室（三浦）、主体育室（前村）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	三浦　健 前村　かおり	オリエンテーション（授業内容説明ならびに班分け等）	シラバスの事前確認（１５分）
前2	〃	バスケットボールのコンディショニング① （栄養・睡眠・水分補給・怪我の管理・リハビリテーション）	体調管理リストの作成（授業後３０分）
前3	〃	競技力向上の会への参加	会終了後　振り返り（２０分）
前4	〃	審判法の基礎（１）審判の役割と責任 審判法の基礎（２）新しいマニュアルの確認（継続） 審判法の基礎（３）新しいマニュアルの確認（新規・変更点） バスケットボール指導デモ（１）　A班	マニュアルブック予習 （１時間）指導デモ準備（４時間）
前5	〃	審判法の基礎（４）３パーソンシステムの基本的考え方 審判法の基礎（５）プライマリー・エリア 審判法の基礎（６）プライマリー・アングル 審判法の基礎（７）レフェリー・ディフェンス バスケットボール指導デモ（２）　B班	マニュアルブック予習 （１時間）指導デモ準備（４時間）
前6	〃	審判法の基礎（８）ヴァイオレーションの判定 審判法の基礎（９）ヴァイオレーションに関するシグナル・ジェスチャー バスケットボール指導デモ（３）　C班	マニュアルブック予習 （１時間）指導デモ準備（４時間）
前7	〃	審判法の基礎（１０）パーソナルファウルの判定 審判法の基礎（１１）パーソナルファウルに関するシグナル・ジェスチャー 審判法の基礎（１２）TOへのレポート方法 指導デモ（４）　D班	マニュアルブック予習 （１時間）指導デモ準備（４時間）
前8	〃	審判法の基礎（１３）スローイン 審判法の基礎（１４）フリースロー 審判法の基礎（１５）特殊なファウル 指導デモ（５）　E班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）　レポート（審判法）提出
前9	〃	ボールを扱う技術（１）ストップ＆ピヴォット ボールを扱う技術（２）ボールハンドリング ボールを扱う技術（３）ドリブルワーク 指導デモ（６）　F班	指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）

前10	〃	ボールを扱う技術（４）セットショット＆ジャンプショット ボールを扱う技術（５）レイアップ＆フックショット ボールを扱う技術（６）フリースロー 指導デモ（７）　G班	指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
前11	〃	コンビプレイに関する技術（１）パス＆カット コンビプレイに関する技術（２）インサイド・スクリーン コンビプレイに関する技術（３）ハイ・ロー 指導デモ（８）　H班	指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
前12	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前13	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前14	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前15	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（レポート：４大会分）準備（６時間）
後1	〃	バスケットボールのコンディショニング② （形態測定ならびに体力測定）	測定法復習（３０分）
後2	〃	バスケットボールのコンディショニング③ （アスレチックトレーニングの現状及びその指導法） トレーニング実習	配布資料予習（１時間）課外活動時に復習（個人差あり・２時間程度）
後3	〃	テーブルオフィシャルズの任務と注意点 指導デモ（９）　A班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後4	〃	チームとしてのオフィシャルズ（協力） 指導デモ（１０）　B班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後5	〃	各レベル別公認審査会に向けてのパワーアップ講義・実習 指導デモ（１１）C班	マニュアルブック・ルールブック予習（２時間）、フィットネステストガイダンス（１時間）指導デモ準備（４時間）
後6	〃	ウォーミングアップ実習 （１）ボールを使わないもの （２）ボールを使うもの 指導デモ（１２）D班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後7	〃	シューティングドリル実習 指導デモ（１３）E班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間） スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後8	〃	１対１における個人技術 （１）ドリブル （２）ステップ 指導デモ（１４）F班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間） スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後9	〃	１対１における個人技術 （３）ディフェンス （４）リバウンド 指導デモ（１５）G班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間） スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後10	〃	試合におけるベンチワーク実習 （１）タイムアウト （２）交代 指導デモ（１６）H班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後11	〃	試合におけるベンチワーク実習 （３）エンド・オブ・ザ・ゲーム （４）ゲームプランおよびスタイル	指導教本予習（１時間）レポート：ゲーム・コーチング（４時間）
後12	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （２）全日本大学選手権（インカレ） （３）三地区大学対抗 （４）ウィンターキャンプ　イン　鹿屋 （５）都城盆地大会 （６）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）

後13	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （２）全日本大学選手権（インカレ） （３）三地区大学対抗 （４）ウィンターキャンプ　イン　鹿屋 （５）都城盆地大会 （６）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
後14	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （２）全日本大学選手権（インカレ） （３）三地区大学対抗 （４）ウィンターキャンプ　イン　鹿屋 （５）都城盆地大会 （６）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
後15	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （２）全日本大学選手権（インカレ） （３）三地区大学対抗 （４）ウィンターキャンプ　イン　鹿屋 （５）都城盆地大会 （６）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（レポート：４大会分）準備（６時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳ－バスケットボール	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	三浦　健・前村　かおり			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	１５名程度
授業の概要	バスケットボールを実技種目の主専攻として選択し、以下の項目に主眼を置いて理解を深め自己の向上を図るとともに、チーム指導ができるレベルの総合的なコーチング・スキルを身につける。 1．個人の攻撃に関するスキルの習熟および指導ポイントの習得 2．基本的なコンビネーションの習熟及び指導ポイントの習得 3．コーチング・講習会における示範・教示能力および総合的な管理能力 4．チーム戦術・戦略に関する基本的な理解 4．詳細なルールの理解と審判法 5．大会開催時における運営者の役割 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 （実技力、実技指導力、指導者基礎力）							
	■認知的領域	バスケットボールのルール、個人技術とその審判法、コンビネーションプレーの理解、総合的な審判マニュアルの習得	○	○					40
	■情意的領域	積極的な態度での授業参加、大会運営に対する補助活動、鹿児島県大会・九州大会レベルにおける審判協力	○			○			20
	■技能的領域	個人技術ならびに集団技術のポイントを強調した示範能力および指導能力、日本協会公認審判資格取得レベルの基本的審判法	○	○		○			40

成績評価の基準	最低限2/3以上の出席。バスケットボールに関する基礎知識の理解、個人の基礎技術に関する習得度、授業態度等を総合的に評価する。また県公認、日本協会公認、ならびに上級審判員取得を考慮する。
テキスト、教材 参　考　書	CAOCH'S　BIBLE　(Sidney　Goldstein)　Golden　Aura バスケットボール指導教本（日本バスケットボール協会）大修館書店 バスケットボールの競技規則・マニュアル（日本バスケットボール協会） バスケットボールのルールと審判法　２０１１　（阿部・木葉）大修館書店 DVD各種
履修条件・関連科目	
備考(教員メッセージ含む)	バスケットボールの面白さと楽しさを伝えられる存在になってください。
オフィス・アワー	随時　体育館教員室（三浦）、主体育室（前村）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	三浦　健 前村　かおり	オリエンテーション（授業内容説明ならびに班分け等）	シラバスの事前確認（１５分）
前2	〃	バスケットボールのコンディショニング① （栄養・睡眠・水分補給・怪我の管理・リハビリテーション）	体調管理リストの作成（授業後３０分）
前3	〃	競技力向上の会への参加	会終了後　振り返り（２０分）
前4	〃	審判法の基礎（１）審判の役割と責任 審判法の基礎（２）新しいマニュアルの確認（継続） 審判法の基礎（３）新しいマニュアルの確認（新規・変更点） バスケットボール指導デモ（１）　A班	マニュアルブック予習 （１時間）指導デモ準備（４時間）
前5	〃	判法の基礎（４）３パーソンシステムの基本的考え方 審判法の基礎（５）プライマリー・エリア 審判法の基礎（６）プライマリー・アングル 審判法の基礎（７）レフェリー・ディフェンス バスケットボール指導デモ（２）　B班	マニュアルブック予習 （１時間）指導デモ準備（４時間）
前6	〃	審判法の基礎（８）ヴァイオレーションの判定 審判法の基礎（９）ヴァイオレーションに関するシグナル・ジェスチャー バスケットボール指導デモ（３）　C班	マニュアルブック予習 （１時間）指導デモ準備（４時間）
前7	〃	審判法の基礎（１０）パーソナルファウルの判定 審判法の基礎（１１）パーソナルファウルに関するシグナル・ジェスチャー 審判法の基礎（１２）TOへのレポート方法 指導デモ（４）　D班	マニュアルブック予習 （１時間）指導デモ準備（４時間）
前8	〃	審判法の基礎（１３）スローイン 審判法の基礎（１４）フリースロー 審判法の基礎（１５）特殊なファウル 指導デモ（５）　E班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）　レポート（審判法）提出
前9	〃	ボールを扱う技術（１）ストップ＆ピヴォット ボールを扱う技術（２）ボールハンドリング ボールを扱う技術（３）ドリブルワーク 指導デモ（６）　F班	指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）

前10	〃	ボールを扱う技術（４）セットショット＆ジャンプショット ボールを扱う技術（５）レイアップ＆フックショット ボールを扱う技術（６）フリースロー 指導デモ（７）　G班	指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
前11	〃	コンビプレイに関する技術（１）パス＆カット コンビプレイに関する技術（２）インサイド・スクリーン コンビプレイに関する技術（３）ハイ・ロー 指導デモ（８）　H班	指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
前12	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前13	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前14	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前15	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（レポート：４大会分）準備（６時間）
後1	〃	バスケットボールのコンディショニング② （形態測定ならびに体力測定）	測定法復習（３０分）
後2	〃	バスケットボールのコンディショニング③ （アスレチックトレーニングの現状及びその指導法） トレーニング実習	配布資料予習（１時間）課外活動時に復習（個人差あり・２時間程度）
後3	〃	テーブルオフィシャルズの任務と注意点 指導デモ（９）　A班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後4	〃	チームとしてのオフィシャルズ（協力） 指導デモ（１０）　B班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後5	〃	各レベル別公認審査会に向けてのパワーアップ講義・実習 指導デモ（１１）C班	マニュアルブック・ルールブック予習（２時間）、フィットネステストガイダンス（１時間）指導デモ準備（４時間）
後6	〃	ウォーミングアップ実習 （１）ボールを使わないもの （２）ボールを使うもの 指導デモ（１２）D班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後7	〃	シューティングドリル実習 指導デモ（１３）E班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間） スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後8	〃	１対１における個人技術 （１）ドリブル （２）ステップ 指導デモ（１４）F班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間） スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後9	〃	１対１における個人技術 （３）ディフェンス （４）リバウンド 指導デモ（１５）G班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間） スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後10	〃	試合におけるベンチワーク実習 （１）タイムアウト （２）交代 指導デモ（１６）H班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後11	〃	試合におけるベンチワーク実習 （３）エンド・オブ・ザ・ゲーム （４）ゲームプランおよびスタイル	指導教本予習（１時間）レポート：ゲーム・コーチング（４時間）
後12	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （２）全日本大学選手権（インカレ） （３）三地区大学対抗 （４）ウィンターキャンプ　イン　鹿屋 （５）都城盆地大会 （６）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）

後13	〃	次の集中授業（各6時間）の中から二つ（8コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （1）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （2）全日本大学選手権（インカレ） （3）三地区大学対抗 （4）ウィンターキャンプ　イン　鹿屋 （5）都城盆地大会 （6）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（6時間）報告（口頭）準備（2時間）
後14	〃	次の集中授業（各6時間）の中から二つ（8コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （1）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （2）全日本大学選手権（インカレ） （3）三地区大学対抗 （4）ウィンターキャンプ　イン　鹿屋 （5）都城盆地大会 （6）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（6時間）報告（口頭）準備（2時間）
後15	〃	次の集中授業（各6時間）の中から二つ（8コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （1）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （2）全日本大学選手権（インカレ） （3）三地区大学対抗 （4）ウィンターキャンプ　イン　鹿屋 （5）都城盆地大会 （6）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（6時間）報告（レポート：4大会分）準備（6時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅰ－サッカー	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	塩川　勝行・村川 大輔			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	25名程度
授業の概要	本授業ではサッカーにおける指導の実践を通して技術・戦術理論を深く理解するとともに、コーチング法について学ぶことを目的とし、さらにグループディスカッションを行うことによって、様々なサッカーの考え方に触れ、サッカーにおける基礎的な実技力とともに実技指導力を獲得し、競技者としての資質を高めることが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 （実技指導力、指導者基礎力、実技力、課題解決力）							
	■認知的領域	サッカーにおける基本的な技術・戦術理論及びコーチング法について理解する。			○				20
	■情意的領域	積極的に実技及び実技指導に取り組む。	○		○				30
	■技能的領域	サッカーにおける基本的な技術・戦術理論及びコーチング法を理解し、実践できる。	○						50

成績評価の基準	授業への出席が2/3以上という条件で、授業への取り組み、レポートの合計点が60点以上のものを合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	参考書として、次のものを推奨する。 「サッカー勝利への技術」（チャールズ・ヒューズ著,大修館,1996,@3,200円）
履修条件・ 関連科目	備考(教員メッセージ含む)
オフィス・アワー	金曜日　　9時から12時　　８階８１０研究室（事前にアポイントを取ること）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	塩川　勝行 村川 大輔	講義：ガイダンス・ゲーム	小レポート（30分）
前2	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
前3	〃	競技力を向上する会	小レポート（30分）
前4	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
前5	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
前6	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
前7	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
前8	〃	指導の実践・グループディスカッション	小レポート（30分）
前9	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
前10	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
前11	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
前12	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
前13	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
前14	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
前15	〃	指導の実践・グループディスカッション	小レポート（30分）
後1	〃	指導の実践・グループディスカッション	小レポート（30分）
後2	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
後3	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）

後4	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
後5	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
後6	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
後7	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
後8	〃	指導の実践・グループディスカッション	小レポート（30分）
後9	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
後10	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
後11	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
後12	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
後13	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
後14	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
後15	〃	指導の実践・グループディスカッション	小レポート（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱ－サッカー	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	塩川　勝行・村川 大輔			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2	受け入れ人数	30
授業の概要	本授業はサッカーの指導者としての技能、指導方法、トレーニング方法を享受することにより、サッカーにおける指導者としてのコーチング力が身につくことが期待され、また日本サッカー協会公認C級コーチの資格を取得することを目的とする。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 （実技指導力、指導者基礎力、実技力、（課題解決力））							
	■認知的領域	サッカーにおける指導方法、トレーニング方法について理解する	○	○	○		○		40
	■情意的領域	積極的に実技・指導・グループワークに取り組む	○						20
	■技能的領域	サッカーにおける指導方法、トレーニング方法を実践できる	○			○			40

成績評価の基準	授業への取り組み、筆記テスト、指導の実践の各点数が６０点以上のものを合格とし、資格の特性上、欠席した場合は補講を課すものとする。
テキスト、教材 参　考　書	テキストは日本サッカー協会C級コーチテキスト「サッカー指導教本」を購入すること
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習Iを受講しておくこと
備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	金曜日　9時から12時　8F　810研究室（事前にアポイントをとること）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	塩川　勝行 村川 大輔	ガイダンス・Game・振り返り	小レポート作成（30分）
前2	〃	分析１・実技（技術）・振り返り	小レポート作成（60分）
前3	〃	競技力を向上する会	小レポート作成（30分）
前4	〃	戦術１・実技（戦術）・振り返り	小レポート作成（60分）
前5	〃	戦術２・実技（戦術）・振り返り	小レポート作成（60分）
前6	〃	GK・実技（GK）・振り返り	小レポート作成（60分）
前7	〃	プランニング・実技（プランニング）・振り返り	小レポート作成（60分）
前8	〃	実践ガイダンス・グループワーク	小レポート作成（60分）
前9	〃	コーチング・実技（コーチング）・振り返り	小レポート作成（60分）
前10	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
前11	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
前12	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
前13	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
前14	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
前15	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
後1	〃	発育発達と一貫指導・チームマネージメント	小レポート作成（60分）
後2	〃	メディカル・サッカーの競技精神	小レポート作成（60分）
後3	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
後4	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
後5	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
後6	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
後7	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
後8	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
後9	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
後10	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
後11	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
後12	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
後13	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
後14	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
後15	〃	閉講ガイダンス	レポート作成（30分）
後16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲ－サッカー	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	塩川　勝行・村川 大輔			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	25名程度
授業の概要	本授業はサッカーの指導者としての技能、指導方法、トレーニング方法を教授するとともに、指導の実践とディスカッションを繰り返し行う事により、サッカーにおける指導者としてのコーチング力の向上を図ることを目的とする。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 （実技指導力、指導者基礎力、実技力、課題解決力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	サッカーにおける指導方法、トレーニング方法について理解する。	○		○				30
	■情意的領域	積極的に実技・指導及びディスカッションに取り組む	○			○			30
	■技能的領域	サッカーにおける指導方法、トレーニング方法を実践できる	○			○			40

成績評価の基準	授業への取り組み（実技・ディスカッション）、レポート、指導の実践の各合計点が60点以上のものを合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	参考：「サッカー指導教本他」（日本サッカー協会C級コーチテキスト）
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習Ⅰ及びⅡを受講しておくこと　　備考(教員メッセージ含む)
オフィス・アワー	金曜日　9時から12時　　８階８１０研究室（事前にアポイントを取ること）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	塩川　勝行 村川 大輔	講義：ガイダンス	小レポート作成（60分）
前2	〃	指導の実践（ボールフィーリング・ドリブル）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
前3	〃	競技力を向上する会	小レポート（30分）
前4	〃	指導の実践（ボールフィーリング・ドリブル）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分
前5	〃	指導の実践（パス＆コントロール）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
前6	〃	指導の実践（パス＆コントロール）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
前7	〃	指導の実践（シュート）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
前8	〃	指導の実践（シュート）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
前9	〃	指導の実践（サポートの動き）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
前10	〃	指導の実践（サポートの動き）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
前11	〃	指導の実践（ゴールを狙う動き）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
前12	〃	指導の実践（ゴールを狙う動き）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
前13	〃	指導の実践（ボールを奪う）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
前14	〃	指導の実践（ボールを奪う）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
前15	〃	指導の実践の振り返り	レポート作成（60分）
後1	〃	指導の実践（ボールポゼッション）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
後2	〃	指導の実践（ボールポゼッション）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
後3	〃	指導の実践（前線の崩し）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
後4	〃	指導の実践（前線の崩し）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
後5	〃	指導の実践（フィニッシュ）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
後6	〃	指導の実践（フィニッシュ）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
後7	〃	指導の実践（守備の基本：チャレンジ＆カバー）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
後8	〃	指導の実践（守備の基本：チャレンジ＆カバー）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
後9	〃	指導の実践（ビルドアップ）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
後10	〃	指導の実践（ビルドアップ）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
後11	〃	指導の実践（守備の基本：スライド）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
後12	〃	指導の実践（守備の基本：スライド）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
後13	〃	指導の実践（クロスの攻撃）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
後14	〃	指導の実践（クロスの守備）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
後15	〃	総まとめ、ガイダンス	レポート作成（60分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳ－サッカー	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	塩川　勝行・村川 大輔			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	25名程度
授業の概要	サッカーの指導者としての技能、指導方法、トレーニング方法やサッカーの分析方法を学び理解し、実際にトレーニング計画を立て指導実践を行う中でディスカッションを行い、指導力の向上を図ることを目的とする。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 （実技指導力、指導者基礎力、実技力、課題解決力）							
	■認知的領域	サッカーにおける指導方法、トレーニング方法について理解する。	○		○				40
	■情意的領域	積極的に実技・指導に取り組む	○						20
	■技能的領域	サッカーにおける指導方法、トレーニング方法を実践できる	○			○			40

成績評価の基準	授業への出席が2/3以上という条件で、授業への取り組み、筆記テスト、指導の実践の各合計点が60点以上のものを合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習Ⅰ～Ⅲを履修しておくこと
備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	金曜日　9時から12時　　8階８１０研究室（事前にアポイントを取ること）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	塩川　勝行 村川 大輔	オリエンテーション	小レポート作成（30分）
前2	〃	コーチンングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
前3	〃	コーチンングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
前4	〃	コーチンングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
前5	〃	コーチンングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
前6	〃	コーチンングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
前7	〃	コーチンングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
前8	〃	コーチンングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
前9	〃	コーチンングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
前10	〃	コーチンングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
前11	〃	コーチンングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
前12	〃	コーチンングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
前13	〃	コーチンングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
前14	〃	コーチンングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
前15	〃	コーチンングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
後1	〃	コーチンングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
後2	〃	コーチンングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
後3	〃	コーチンングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
後4	〃	コーチンングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
後5	〃	コーチンングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
後6	〃	コーチンングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
後7	〃	コーチンングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
後8	〃	コーチンングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
後9	〃	コーチンングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
後10	〃	コーチンングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
後11	〃	コーチンングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
後12	〃	コーチンングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
後13	〃	コーチンングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
後14	〃	コーチンングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
後15	〃	コーチンングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅰ－テニス	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	高橋　仁大・村上　俊祐			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	20名程度
授業の概要	本科目は、テニスに関する基礎的な技術力および、テニスに関する体系的な実技指導力（ティーチング・コーチング力）を身につける科目である。 具体的には、競技力向上のための基礎理論とトレーニング方法を、実践を通して理解するとともに、自身の競技力向上を図る。また、指導力向上のための基礎理論と指導法を、実践を通して理解するとともに、自身の指導力向上を図る。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	競技力向上のための基礎理論とトレーニング方法を理解する 指導力向上のための基礎理論と指導法を理解する	○		○				40
	■情意的領域	主体的に授業に参加し，競技力向上と指導力向上に取り組む	○						20
	■技能的領域	競技力向上のためのトレーニングを実践できる 指導力向上のための取組を実践できる	○		○				40

成績評価の基準	授業参画状況、授業への取組状況、期末レポートを総合的に評価して60点以上のものに単位を与える。
テキスト、教材 参　考　書	テニス指導教本Ⅰ，日本テニス協会編，大修館書店 その他、随時資料を配付する

履修条件・関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	本講義ではe–learningシステム「Webclass」を利用して資料配布やレポート提出等を行います。 本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。

オフィス・アワー	随時　事前にアポイントをとること 高橋（SPORTECスポーツパフォーマンス研究センターまたは研究棟8階809教員研究室） 村上（研究棟8階806教員研究室）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	高橋　仁大 村上　俊祐	オリエンテーション　テニスのゲーム構造の理解	講義内容の予習と復習（1時間）
前2	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析①　データ抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前3	〃	「競技力向上の会」に参加	
前4	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析②　データの分析と課題の抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前5	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析③　課題解決のための基本トレーニング	講義内容の予習と復習（1時間）
前6	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析④　課題解決のための応用トレーニング	講義内容の予習と復習（1時間）
前7	〃	サービスの測定と評価①　トラックマンでのサービス測定	講義内容の予習と復習（1時間）
前8	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析①　データ抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前9	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析②　データの分析と課題の抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前10	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析③　課題解決のためのトレーニング	講義内容の予習と復習（1時間）
前11	〃	サービスの測定と評価②　サービス測定のフィードバック	講義内容の予習と復習（1時間）
前12	〃	コーチング実習①　初心者指導の受講	講義内容の予習と復習（1時間）
前13	〃	コーチング実習②　中・上級者指導の受講	講義内容の予習と復習（1時間）
前14	〃	コーチング実習③　中・上級者指導の受講	講義内容の予習と復習（1時間）
前15	〃	コーチング実習④　中・上級者指導の受講	レポート（2時間）
後1	〃	テニスのトレーニング戦略の基本的考え方	講義内容の予習と復習（1時間）
後2	〃	テニスのトレーニング戦略の実践への応用	講義内容の予習と復習（1時間）
後3	〃	テニスの指導理論と実践　指導の際の基本的事項	講義内容の予習と復習（1時間）
後4	〃	テニスの指導理論と実践　初心者への指導①	講義内容の予習と復習（1時間）
後5	〃	テニスの指導理論と実践　初心者への指導②	講義内容の予習と復習（1時間）
後6	〃	テニスの指導理論と実践　初級者への指導①	講義内容の予習と復習（1時間）
後7	〃	テニスの指導理論と実践　初級者への指導②	講義内容の予習と復習（1時間）
後8	〃	サービスの測定と評価③　トラックマンでのサービス測定	講義内容の予習と復習（1時間）
後9	〃	テニスの指導理論と実践　中・上級者への指導①	講義内容の予習と復習（1時間）
後10	〃	テニスの指導理論と実践　中・上級者への指導②	講義内容の予習と復習（1時間）
後11	〃	サービスの測定と評価④　サービス測定のフィードバック	講義内容の予習と復習（1時間）
後12	〃	コーチング実習①　初心者指導の受講	講義内容の予習と復習（1時間）
後13	〃	コーチング実習②　初心者指導の受講	講義内容の予習と復習（1時間）
後14	〃	コーチング実習③　初心者指導の受講	講義内容の予習と復習（1時間）
後15	〃	コーチング実習④　初心者指導の受講	レポート（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱ－テニス	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	髙橋　仁大・村上　俊祐			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	20名程度
授業の概要	本科目は、テニスに関する基礎的な技術力および、テニスに関する体系的な実技指導力（ティーチング・コーチング力）を身につける科目である。 具体的には、競技力向上のための基礎理論とトレーニング方法を、実践を通して理解するとともに、自身の競技力向上を図る。また、指導力向上のための基礎理論と指導法を、実践を通して理解するとともに、自身の指導力向上を図る。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	競技力向上のための基礎理論とトレーニング方法を理解する 指導力向上のための基礎理論と指導法を理解する	○		○				40
	■情意的領域	主体的に授業に参加し，競技力向上と指導力向上に取り組む	○						20
	■技能的領域	競技力向上のためのトレーニングを実践できる 指導力向上のための取組を実践できる	○		○				40

成績評価の基準	出席状況、授業への取組状況、期末レポートを総合的に評価して60点以上のものに単位を与える。		
テキスト、教材 参　考　書	テニス指導教本Ⅰ，日本テニス協会編，大修館書店 その他、随時資料を配付する		
履修条件・関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	本講義ではe–learningシステム「Webclass」を利用して資料配布やレポート提出等を行います。 本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。
オフィス・アワー	随時　事前にアポイントをとること 髙橋（SPORTECスポーツパフォーマンス研究センターまたは研究棟8階809教員研究室） 村上（研究棟8階806教員研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	髙橋　仁大 村上　俊祐	オリエンテーション　テニスのゲーム構造の理解	講義内容の予習と復習（1時間）
前2	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析①　データ抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前3	〃	「競技力向上の会」に参加	
前4	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析②　データの分析と課題の抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前5	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析③　課題解決のための基本トレーニング	講義内容の予習と復習（1時間）
前6	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析④　課題解決のための応用トレーニング	講義内容の予習と復習（1時間）
前7	〃	サービスの測定と評価①　トラックマンでのサービス測定	講義内容の予習と復習（1時間）
前8	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析①　データ抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前9	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析②　データの分析と課題の抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前10	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析③　課題解決のためのトレーニング	講義内容の予習と復習（1時間）
前11	〃	サービスの測定と評価②　サービス測定のフィードバック	講義内容の予習と復習（1時間）
前12	〃	コーチング実習①　初心者指導の指導補助	講義内容の予習と復習（1時間）
前13	〃	コーチング実習②　中・上級者指導の指導補助	講義内容の予習と復習（1時間）
前14	〃	コーチング実習③　中・上級者指導の指導補助	講義内容の予習と復習（1時間）
前15	〃	コーチング実習④　中・上級者指導の指導補助	レポート（2時間）
後1	〃	テニスのトレーニング戦略の基本的考え方	講義内容の予習と復習（1時間）
後2	〃	テニスのトレーニング戦略の実践への応用	講義内容の予習と復習（1時間）
後3	〃	テニスの指導理論と実践　指導の際の基本的事項	講義内容の予習と復習（1時間）
後4	〃	テニスの指導理論と実践　初心者への指導①	講義内容の予習と復習（1時間）
後5	〃	テニスの指導理論と実践　初心者への指導②	講義内容の予習と復習（1時間）
後6	〃	テニスの指導理論と実践　初級者への指導①	講義内容の予習と復習（1時間）
後7	〃	テニスの指導理論と実践　初級者への指導②	講義内容の予習と復習（1時間）
後8	〃	サービスの測定と評価③　トラックマンでのサービス測定	講義内容の予習と復習（1時間）
後9	〃	テニスの指導理論と実践　中・上級者への指導①	講義内容の予習と復習（1時間）
後10	〃	テニスの指導理論と実践　中・上級者への指導②	講義内容の予習と復習（1時間）
後11	〃	サービスの測定と評価④　サービス測定のフィードバック	講義内容の予習と復習（1時間）
後12	〃	コーチング実習①　初心者指導の指導補助	講義内容の予習と復習（1時間）
後13	〃	コーチング実習②　初心者指導の指導補助	講義内容の予習と復習（1時間）
後14	〃	コーチング実習③　初心者指導の指導補助	講義内容の予習と復習（1時間）
後15	〃	コーチング実習④　初心者指導の指導補助	レポート（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲ－テニス	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	髙橋　仁大・村上　俊祐			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	20名程度
授業の概要	本科目は、テニスに関する基礎的な技術力および、テニスに関する体系的な実技指導力（ティーチング・コーチング力）を身につける科目である。 具体的には、競技力向上のための基礎理論とトレーニング方法を、実践を通して理解するとともに、自身の競技力向上を図る。また、指導力向上のための基礎理論と指導法を、実践を通して理解するとともに、自身の指導力向上を図る。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	競技力向上のための基礎理論とトレーニング方法を理解する 指導力向上のための基礎理論と指導法を理解する	○		○				40
	■情意的領域	主体的に授業に参加し，競技力向上と指導力向上に取り組む	○						20
	■技能的領域	競技力向上のためのトレーニングを実践できる 指導力向上のための取組を実践できる	○		○				40

成績評価の基準	出席状況、授業への取組状況、期末レポートを総合的に評価して60点以上のものに単位を与える。
テキスト、教材 参　考　書	テニス指導教本Ⅰ，日本テニス協会編，大修館書店 その他、随時資料を配付する
履修条件・ 関連科目	特になし
備考(教員メッセージ含む)	本講義ではe–learningシステム「Webclass」を利用して資料配布やレポート提出等を行います。 本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。
オフィス・アワー	随時　事前にアポイントをとること 髙橋（SPORTECスポーツパフォーマンス研究センターまたは研究棟8階809教員研究室） 村上（研究棟8階806教員研究室）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	髙橋　仁大 村上　俊祐	オリエンテーション　テニスのゲーム構造の理解	講義内容の予習と復習（1時間）
前2	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析①　データ抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前3	〃	「競技力向上の会」に参加	
前4	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析②　データの分析と課題の抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前5	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析③　課題解決のための基本トレーニング	講義内容の予習と復習（1時間）
前6	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析④　課題解決のための応用トレーニング	講義内容の予習と復習（1時間）
前7	〃	サービスの測定と評価①　トラックマンでのサービス測定	講義内容の予習と復習（1時間）
前8	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析①　データ抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前9	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析②　データの分析と課題の抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前10	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析③　課題解決のためのトレーニング	講義内容の予習と復習（1時間）
前11	〃	サービスの測定と評価②　サービス測定のフィードバック	講義内容の予習と復習（1時間）
前12	〃	コーチング実習①　初心者指導導入	講義内容の予習と復習（1時間）
前13	〃	コーチング実習②　中・上級者指導実践	講義内容の予習と復習（1時間）
前14	〃	コーチング実習③　中・上級者指導実践	講義内容の予習と復習（1時間）
前15	〃	コーチング実習④　中・上級者指導実践	レポート（2時間）
後1	〃	テニスのトレーニング戦略の基本的考え方	講義内容の予習と復習（1時間）
後2	〃	テニスのトレーニング戦略の実践への応用	講義内容の予習と復習（1時間）
後3	〃	テニスの指導理論と実践　指導の際の基本的事項	講義内容の予習と復習（1時間）
後4	〃	テニスの指導理論と実践　初心者への指導①	講義内容の予習と復習（1時間）
後5	〃	テニスの指導理論と実践　初心者への指導②	講義内容の予習と復習（1時間）
後6	〃	テニスの指導理論と実践　初級者への指導①	講義内容の予習と復習（1時間）
後7	〃	テニスの指導理論と実践　初級者への指導②	講義内容の予習と復習（1時間）
後8	〃	サービスの測定と評価③　トラックマンでのサービス測定	講義内容の予習と復習（1時間）
後9	〃	テニスの指導理論と実践　中・上級者への指導①	講義内容の予習と復習（1時間）
後10	〃	テニスの指導理論と実践　中・上級者への指導②	講義内容の予習と復習（1時間）
後11	〃	サービスの測定と評価④　サービス測定のフィードバック	講義内容の予習と復習（1時間）
後12	〃	コーチング実習①　初心者指導実践	講義内容の予習と復習（1時間）
後13	〃	コーチング実習②　初心者指導実践	講義内容の予習と復習（1時間）
後14	〃	コーチング実習③　初心者指導実践	講義内容の予習と復習（1時間）
後15	〃	コーチング実習④　初心者指導実践	レポート（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳ－テニス	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	髙橋　仁大・村上　俊祐			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	20名程度
授業の概要	本科目は、テニスに関する基礎的な技術力および、テニスに関する体系的な実技指導力（ティーチング・コーチング力）を身につける科目である。 具体的には、競技力向上のための基礎理論とトレーニング方法を、実践を通して理解するとともに、自身の競技力向上を図る。また、指導力向上のための基礎理論と指導法を、実践を通して理解するとともに、自身の指導力向上を図る。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	競技力向上のための基礎理論とトレーニング方法を理解する 指導力向上のための基礎理論と指導法を理解する	○		○				40
	■情意的領域	主体的に授業に参加し，競技力向上と指導力向上に取り組む	○						20
	■技能的領域	競技力向上のためのトレーニングを実践できる 指導力向上のための取組を実践できる	○		○				40

成績評価の基準	出席状況、授業への取組状況、期末レポートを総合的に評価して60点以上のものに単位を与える。		
テキスト、教材 参　考　書	テニス指導教本Ⅰ，日本テニス協会編，大修館書店 その他、随時資料を配付する		
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	本講義ではe-learningシステム「Webclass」を利用して資料配布やレポート提出等を行います。 本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。
オフィス・アワー	随時　事前にアポイントをとること 髙橋（SPORTECスポーツパフォーマンス研究センターまたは研究棟8階809教員研究室） 村上（研究棟8階806教員研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	髙橋　仁大 村上　俊祐	オリエンテーション　テニスのゲーム構造の理解	講義内容の予習と復習（1時間）
前2	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析①　データ抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前3	〃	「競技力向上の会」に参加	
前4	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析②　データの分析と課題の抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前5	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析③　課題解決のための基本トレーニング	講義内容の予習と復習（1時間）
前6	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析④　課題解決のための応用トレーニング	講義内容の予習と復習（1時間）
前7	〃	サービスの測定と評価①　トラックマンでのサービス測定	講義内容の予習と復習（1時間）
前8	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析①　データ抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前9	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析②　データの分析と課題の抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前10	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析③　課題解決のためのトレーニング	講義内容の予習と復習（1時間）
前11	〃	サービスの測定と評価②　サービス測定のフィードバック	講義内容の予習と復習（1時間）
前12	〃	コーチング実習①　初心者指導の評価	講義内容の予習と復習（1時間）
前13	〃	コーチング実習②　中・上級者指導の評価	講義内容の予習と復習（1時間）
前14	〃	コーチング実習③　中・上級者指導の評価	講義内容の予習と復習（1時間）
前15	〃	コーチング実習④　中・上級者指導の評価	レポート（2時間）
後1	〃	テニスのトレーニング戦略の基本的考え方	講義内容の予習と復習（1時間）
後2	〃	テニスのトレーニング戦略の実践への応用	講義内容の予習と復習（1時間）
後3	〃	テニスの指導理論と実践　指導の際の基本的事項	講義内容の予習と復習（1時間）
後4	〃	テニスの指導理論と実践　初心者への指導①	講義内容の予習と復習（1時間）
後5	〃	テニスの指導理論と実践　初心者への指導②	講義内容の予習と復習（1時間）
後6	〃	テニスの指導理論と実践　初級者への指導①	講義内容の予習と復習（1時間）
後7	〃	テニスの指導理論と実践　初級者への指導②	講義内容の予習と復習（1時間）
後8	〃	サービスの測定と評価③　トラックマンでのサービス測定	講義内容の予習と復習（1時間）
後9	〃	テニスの指導理論と実践　中・上級者への指導①	講義内容の予習と復習（1時間）
後10	〃	テニスの指導理論と実践　中・上級者への指導②	講義内容の予習と復習（1時間）
後11	〃	サービスの測定と評価④　サービス測定のフィードバック	講義内容の予習と復習（1時間）
後12	〃	コーチング実習①　初心者指導の評価	講義内容の予習と復習（1時間）
後13	〃	コーチング実習②　初心者指導の評価	講義内容の予習と復習（1時間）
後14	〃	コーチング実習③　初心者指導の評価	講義内容の予習と復習（1時間）
後15	〃	コーチング実習④　初心者指導の評価	レポート（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅰ－海洋スポーツ	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	中村　夏実・榮樂　洋光・笹子　悠歩			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	15名程度

授業の概要

現在の日本社会において、子どもの発育発達における体験活動の重要性、多様な生涯スポーツ種目のニーズが高まっている。加えて「海洋基本計画」にもとづく我が国の海洋立国政策を背景に、国民に広く海洋を理解してもらうためにも、海洋スポーツ活動および水辺活動に造詣の深い人材が求められている。それらの社会状況に対応するため、まずは自分自身が海洋および水辺活動を楽しく安全に楽しめるように、基礎的知識と技術を身につけることを目標として、下記の内容を実施する。本授業では「できる」ことを目指す。
○気象海象による危険回避の知識、活動種目選択の考え方、また荒天時の代替プログラム例などを教授する（実技・講義）。
○海洋スポーツセンター前の高須海岸～荒平海岸沖、高須川を利用して、主な海洋スポーツ種目の基礎技術の習得を図る（実技）。
○冬期においては、プールにおける泳力向上とスキンダイビングの基礎技術の習得を図る（実技・講義）。
○舟艇の基礎的な修理修繕方法を実習する。
○ローイング系とセーリング系のグループに分かれてそれぞれ競技力向上に関する研究情報・実践知を共有する。

【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり
グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（○）

授業の到達目標及び成績評価の方法

	授業の到達目標	成績評価の方法						
		授業期間				定期試験	その他	割合 %
		授業	テスト	レポート	発表			
ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 （実技力、実技指導力、指導者基礎力）							
■認知的領域	海洋スポーツを安全に行うための海事知識、基礎的技術理論、用具の修繕に関する知識を習得する。			○				30
■情意的領域	海洋スポーツに興味を持ち、主体的、継続的に取り組む。 シーマンシップを守る。 自然環境に意識を向ける。	○						20
■技能的領域	ヨット、ウィンドサーフィン、カヌー、スキンダイビング等の主な海洋スポーツ種目の基礎技術を習得する。	○	○			○		50

成績評価の基準	９０点以上はS、８０点以上はA、７０点～７９点はB、６０点～６９点はC とする。出席回数が３分の２に満たない場合は、履修放棄とみなす。 ローイングおよびセーリングの実技評価は当該授業課題内で実施、スキンダイビングの実技評価は、後期実技試験にて実施する。
テキスト、教材 参　考　書	海洋スポーツテキスト（鹿屋体育大学海洋スポーツセンター編・「基礎から学ぶ海洋スポーツ」）、その他必要に応じて提供。
履修条件・関連科目	医師により海でのスポーツや水に入ることが禁忌と診断されている者は事前に相談してください。 また、本授業は実習費として１～２万円程度必要になります（金額詳細は決定次第通知します。）。
備考(教員メッセージ含む)	１）授業は、主に海洋スポーツセンターおよびセンター付近の海上で実施します。海洋スポーツセンターへの移動手段は、スクールバスに限ります。授業は海洋センターで実施します。 ２）大学への帰着は、16時を過ぎることもあります。 ３）天候により授業内容が変更されることがあります。 ４）授業内で、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。
オフィス・アワー	随時。ただし、事前に連絡してください。kaispo@nifs-k.ac.jp、研究棟709室（榮樂）、研究棟710室（中村）、海洋スポーツセンター（0994-47-2758）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	中村　夏実 榮樂　洋光 笹子　悠歩	オリエンテーション、水辺活動における安全について講習、カヌー実習（カヤック、カナディアンカヌー基本的なパドリング）	レポートの提出（１）海洋スポーツに関する事前学習とふりかえり（1時間）
前2	〃	カヌー理論・実習①（カヤック、カナディアンカヌーの基本漕法と沈への対処）	カヌーの基本について予習・復習（1時間）
前3	〃	競技力を向上する会に参加	自競技と他競技の相違点まとめる（1時間）
前4	〃	カヌー理論・実習②（カヤック、カナディアンカヌーの基本漕法と沈への対処）	レポートの提出（２）　カヌーの基本について予習・復習（1時間）
前5	〃	カヌー理論・実習③（シングルカヤックの基本漕法と沈への対処）	カヌーの基本について予習・復習（1時間）
前6	〃	ヨット理論・実習①（艤装、名称と役割、帆走）	ヨットの基本について予習・復習（1時間）
前7	〃	ヨット理論・実習②（基本帆走、針路変更）	ヨットの基本について予習・復習（1時間）
前8	〃	ヨット理論・実習③（基本帆走、方向転換、アビーム帆走）	レポートの提出（3）ヨットの基本について予習・復習（1時間）
前9	〃	ヨット理論・実習④（風上帆走、風下帆走）	ヨットの基本について予習・復習（1時間）
前10	〃	ヨット理論・実習⑤（２点マーク、風上―風下レグの帆走）	ヨットの基本について予習・復習（1時間）
前11	〃	ヨット理論・実習⑥（３点マーク）	ヨットの基本について予習・復習（1時間）
前12	〃	ヨット理論・実習⑦（3点マーク、競技規則、模擬レース）	ヨットの基本について予習・復習（1時間）
前13	〃	ヨット理論・実習⑧（3点マーク、競技規則、レース）	レポートの提出（4）ヨットで習得した知識と技術をまとめる（1時間）

前14	〃	ウィンドサーフィン理論・実習①（艤装、名称と役割、セールアップ）	ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）
前15	〃	ウインドサーフィン理論・実習②（セールアップ～アビーム帆走）	ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）
前16	〃	ウインドサーフィン理論・実習③（基本帆走、針路変更）	レポートの提出（5）ウインドサーフィンで習得した知識と技術をまとめる（1時間）
後1	〃	カヌー理論・実習④（カヌーレスキュー・セルフレスキュー）	カヌーの基本について予習・復習（1時間）
後2	〃	カヌー理論・実習⑤（ミニツーリング、ビーチにおけるアクティビティ）	カヌーのツーリングについて予習・復習（1時間）
後3	〃	カヌー理論・実習⑥（ツーリング・総括・実技テスト）	レポートの提出（6）カヌーで習得した知識と技術をまとめる（1時間）
後4	〃	競技スポーツ論・実習（セーリング/パドルスポーツ）	セーリング/パドルスポーツの理論について予習・復習（1時間）
後5	〃	競技スポーツ論・実習（セーリング/パドルスポーツ）	セーリング/パドルスポーツの理論について予習・復習（1時間）
後6	〃	競技スポーツ論・実習（セーリング/パドルスポーツ）	セーリング/パドルスポーツの理論について予習・復習（1時間）
後7	〃	競技スポーツ論・実習（セーリング/パドルスポーツ）	セーリング/パドルスポーツの理論について予習・復習（1時間）
後8	〃	競技スポーツ論・実習（セーリング/パドルスポーツ）	レポートの提出（7）セーリング/パドルスポーツの理論について知識をまとめる（1時間）
後9	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習①	舟艇の点検・補修に関する事前学習とふりかえり（1時間））
後10	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習②	舟艇の点検・補修に関する事前学習とふりかえり（1時間）
後11	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習③	レポートの提出（８）舟艇の点検・補修で習得した知識と技術をまとめる（1時間）
後12	〃	スキンダイビング理論・実習①　（3点セットの扱い・マスク・スノーケルクリア）および泳力の向上	スキンダイビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後13	〃	スキンダイビング理論・実習②　（フィンワーク・潜水泳）および泳力の向上	スキンダイビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後14	〃	スキンダイビング理論・実習③　（エントリー・レスキューを目指した泳法・立ち泳ぎ）および泳力の向上）	スキンダイビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後15	〃	スキンダイビング理論・実習④　（耳抜き、サーフェイスダイブ、エントリー¯ダイブ～潜行～浮上）	レポート提出（９）スキンダイビングで習得した知識と技術についてまとめる（1時間）
後16	〃	スキンダイビング理論・実習⑤　スキンダイビング総括（実技テスト）	レポートの提出（１０）スキンダイビングで習得した知識と技術についてまとめる（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱ－海洋スポーツ	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	中村　夏実・榮樂　洋光・笹子　悠歩			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	15名程度

授業の概要	本授業は、海洋スポーツを取り巻く様々な背景と、海洋基本法第２８条にある「（中略）海洋に関するレクリエーションの普及等のために必要な措置」を念頭に、海洋スポーツに関する理論、実技力、指導力、管理・運営力の習得を目指して、実践的に展開されます。狭義には、海洋スポーツ・水上スポーツの専門競技者としての根幹となる、海洋・水辺活動全般における基礎的知識と、安全に活動するための基礎技能を習得することを目指します。 主な内容は下記のとおりです。 ○専門種目（セーリング種目またはパドルスポーツ種目）の競技力に関連する技術、体力、安全等の理論を学びます。 ○海洋スポーツ種目（セーリング種目・パドルスポーツ種目・ダイビング種目）のより高度（他者へ注意を払う余裕を持てるレベル）の実技力の習得を図ります。 ○海洋スポーツ活動のプログラムを作成しリーダーとなってプログラムを推進します。 ○舟艇の基礎的な修理修繕方法を実習します。 ○本授業におけるすべての海洋スポーツ活動の展開において、安全配慮と危険回避の原則を論理的・実践的に学びます 本授業の習得目標を「わかる」とします（Ⅰ「できる」、Ⅱ「わかる」、Ⅲ「教えられる」）。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（○）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 （実技力、実技指導力、指導者基礎力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	海洋スポーツを安全に行うための海事知識、基礎的技術理論、用具の修繕に関する知識を習得する。			○				30
	■情意的領域	海洋スポーツに興味を持ち、主体的、継続的に取り組む。 シーマンシップを守る。 自然環境の変化を意識する。	○						20
	■技能的領域	セーリング種目、パドルスポーツ種目、スキンダイビング等の主な海洋スポーツ種目の基礎技術を習得する。なぜできたか、なぜできなかったかを論理的に理解し、改善策方策を考える。	○	○			○		50

成績評価の基準	９０点以上はS、８０点以上はA、７０点～７９点はB、６０点～６９点はC とする。出席回数が３分の２に満たない場合は、履修放棄とみなす。 実技評価は当該授業課題内で実施します。
テキスト、教材 参　考　書	海洋スポーツテキスト（鹿屋体育大学海洋スポーツセンター編・「基礎から学ぶ海洋スポーツ」）、その他必要に応じて提供。

履修条件・関連科目	医師により海でのスポーツや水に入ることが禁忌と診断されている者は事前に相談してください。 また、本授業は実習費として１～２万円程度必要になります（金額詳細は決定次第通知します。）。	備考(教員メッセージ含む)	１）授業は、主に海洋スポーツセンターおよびセンター付近の海上で実施します。海洋スポーツセンターへの移動手段は、スクールバスに限ります。 ２）大学への帰着は、17時を過ぎることもあります。 ３）天候により授業内容が変更されることがあります。 ４）授業内で、学生への教育効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、主として学内での教育・研究活動のみに使用しますが、大学および海洋スポーツセンター広報のため、HP等に掲載されることがあります。

オフィス・アワー	随時。ただし、事前に連絡してください。 連絡先　kaispo@nifs-k.ac.jp、海洋スポーツセンター（0994-47-2758）、webclassから担当教員へあての連絡も可。

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	中村　夏実 榮樂　洋光 笹子　悠歩	オリエンテーション／指導実習ガイダンス／機材準備 講義：	レポート①（１時間）
前2	〃	ウィンドサーフィンのスキルアップ（１）／アビーム帆走・進路変更	配布資料を参考に予習・復習する（１時間）
前3	〃	競技力を向上する会に参加	他競技の実情について振り返る（30分）
前4	〃	ウィンドサーフィンのスキルアップ（２）／上下帆走、方向転換	配布資料を参考に予習・復習する
前5	〃	ウィンドサーフィンのスキルアップ（３）／マーク回航	配布資料を参考に予習・復習する
前6	〃	指導実習（１）／安全（指導補助：担当回） レスキュー（１）／ロープワーク、レスキューチューブを使った救助	配布資料を参考に予習・復習する（１時間）
前7	〃	指導実習（２）／パドルスポーツ・SUP（指導補助・担当回） レスキュー（２）／SUPを使ったレスキュー	配布資料を参考に予習・復習する（１時間）
前8	〃	指導実習（３）／パドルスポーツ・カヌー（指導補助・担当回）	配布資料を参考に予習・復習する（30分）
前9	〃	指導実習（４）／ヨット・アクタス（指導補助・担当回）	配布資料を参考に予習・復習する（30分）

前10	〃	指導実習（５）実践①／小学校水辺活動・海洋スポーツ活動(指導補助)	用具およびプログラムの事前準備をする（１時間）
前11	〃	指導実習（６）実践②／小学校水辺活動・海洋スポーツ活動(指導補助)	用具およびプログラムの事前準備をする（１時間）
前12	〃	指導実習（７）実践③／小学校水辺活動・海洋スポーツ活動(指導補助)	用具およびプログラムの準備をする（１時間）
前13	〃	指導実習（８）実践④／小学校水辺活動・海洋スポーツ活動(指導補助)	用具およびプログラムの準備をする（１時間） レポート②実習記録 レポート③実践報告書（１時間）
前14	〃	ヨットのスキルアップ・シーホッパー（１）名称の理解と艤装	レポート④（２時間）
前15	〃	ヨットのスキルアップ・シーホッパー（２）基本帆走	配布資料を参考に予習・復習する（30分）
前16	〃	ヨットのスキルアップ・シーホッパー（３）方向変換	配布資料を参考に予習・復習する（30分）
後1	〃	ヨットのスキルアップ・シーホッパー（４）２点マーク、アビーム帆走	配布資料を参考に予習・復習する（１時間）
後2	〃	ヨットのスキルアップ・シーホッパー（５）３点マーク、上下帆走	配布資料を参考に予習・復習する（１時間）
後3	〃	ヨットのスキルアップ・シーホッパー（６）レース、レース運営 ＜実技テスト１＞	レポート⑤（２時間）
後4	〃	競技理論と実践(1)（セーリングorパドルスポーツ） セーリング種目とパドルスポーツ種目に分かれて実施します	配布資料を参考に予習・復習する（1時間）
後5	〃	競技理論と実践(2)（セーリングorパドルスポーツ） セーリング種目とパドルスポーツ種目に分かれて実施します	配布資料を参考に予習・復習する（１時間）
後6	〃	競技理論と実践(3)（セーリングorパドルスポーツ） セーリング種目とパドルスポーツ種目に分かれて実施します	配布資料を参考に予習・復習する
後7	〃	競技理論と実践(4)（セーリングorパドルスポーツ） セーリング種目とパドルスポーツ種目に分かれて実施します	配布資料を参考に予習・復習する
後8	〃	競技理論と実践(5)（セーリングorパドルスポーツ） セーリング種目とパドルスポーツ種目に分かれて実施します	レポート⑥（２時間）
後9	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習①	配布資料を参考に予習・復習する（１時間）
後10	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習②	配布資料を参考に予習・復習する（１時間）
後11	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習③	レポート⑦（２時間）
後12	〃	指導実習（９）スキンダイビング①3点セットの取り扱い・スノーケルクリア 泳力向上（１）	レポート⑧理論解説・実技解説指導の準備／担当課題（1時間）
後13	〃	指導実習（１０）スキンダイビング②様々なフィン泳・マスククリア 泳力向上（２）	レポート⑧理論解説・実技解説指導の準備／担当課題（1時間）
後14	〃	指導実習（１１）スキンダイビング③耳抜き・潜水泳 泳力向上（３）	レポート⑧理論解説・実技解説指導の準備／担当課題（1時間）
後15	〃	指導実習（１２）スキンダイビング④サーフェイスダイブ・ベイルアウト 講義：スキンダイビングの物理・生理応答	レポート⑨⑩
後16	〃	スキンダイビング⑤＜実技テスト２＞	１年間の技能取得状況を総括する（１時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲ－海洋スポーツ	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	中村　夏実・榮樂　洋光・笹子　悠歩			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	15名程度

授業の概要

本授業は、海洋スポーツを取り巻く様々な背景と、海洋基本法第２８条にある「（中略）海洋に関するレクリエーションの普及等のために必要な措置」を念頭に、海洋スポーツに関する理論、実技力、指導力、管理・運営力の習得を目指して、実践的に展開されます。狭義には、海洋スポーツ・水上スポーツの専門競技者としての根幹となる、海洋・水辺活動全般における基礎的知識と、安全に活動するための基礎技能を習得することを目指します。
主な内容は下記のとおりです。
○専門種目（セーリング種目またはパドルスポーツ種目）の競技力に関連する技術、体力、安全等の理論を学びます。
○海洋スポーツ種目（セーリング種目・パドルスポーツ種目・ダイビング種目）のより高度（他者へ注意を払う余裕を持てるレベル）の実技力の習得を図ります。
○海洋スポーツ活動のプログラムを作成しリーダーとなってプログラムを推進します。
○舟艇の基礎的な修理修繕方法を実習します。
○本授業におけるすべての海洋スポーツ活動の展開において、安全配慮と危険回避の原則を論理的・実践的に学びます。

本授業の習得目標を「教えられる」とします（Ⅰ「できる」、Ⅱ「わかる」、Ⅲ「教えられる」）。

【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり
グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（○）

授業の到達目標及び成績評価の方法

授業の到達目標		成績評価の方法						
		授業期間				定期試験	その他	割合 %
ＤＰで目指す資質・能力	（実技力、実技指導力、指導者基礎力）	授業	テスト	レポート	発表			
■認知的領域	指導者として、海洋スポーツを安全に行うための海事知識、危険予知・危険回避の知識、各種目の実技指導理論を理解する。			○				30
■情意的領域	海洋スポーツに興味を持ち、主体的、継続的に取り組むとともに、未熟練者の行動に注意を払う。 シーマンシップを守る。 自然環境の変化を意識する。	○						20
■技能的領域	安全管理を含め、初心者に対する海洋スポーツ種目の実技指導ができるようになる。 手本を見せられる。説明できる。改善方策を指導できる。	○	○			○		50

成績評価の基準	９０点以上はS、８０点以上はA、７０点～７９点はB、６０点～６９点はC とする。出席回数が３分の２に満たない場合は、履修放棄とみなす。 実技評価は当該授業課題内で実施します。
テキスト、教材 参　考　書	海洋スポーツテキスト（鹿屋体育大学海洋スポーツセンター編・「基礎から学ぶ海洋スポーツ」）、その他必要に応じて提供。

履修条件・関連科目	医師により海でのスポーツや水に入ることが禁忌と診断されている者は事前に相談してください。 また、本授業は実習費として１～２万円程度必要になります（金額詳細は決定次第通知します。）。	備考(教員メッセージ含む)	１）授業は、主に海洋スポーツセンターおよびセンター付近の海上で実施します。海洋スポーツセンターへの移動手段は、スクールバスに限ります。授業は海洋センターで実施します。 ２）大学への帰着は、16時を過ぎることもあります。 ３）天候により授業内容が変更されることがあります。 ４）授業内で、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。
オフィス・アワー	随時。ただし、事前に連絡してください。 連絡先　kaispo@nifs-k.ac.jp、海洋スポーツセンター（0994-47-2758）、webclassから担当教員へあての連絡も可。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	中村　夏実 榮樂　洋光 笹子　悠歩	オリエンテーションおよび講義	ウィンドサーフィンの帆走理論について1年次の学習事項を復習する（30分）
前2	〃	ウィンドサーフィンのスキルアップ(1)／アビーム帆走、進路変更	配布資料を参考に予習・復習する（１時間）
前3	〃	競技力を向上する会に参加	他競技の実情について振り返る（30分）
前4	〃	ウィンドサーフィンのスキルアップ(2)／上下帆走、方向転換	配布資料を参考に予習・復習する（１時間）
前5	〃	ウィンドサーフィンのスキルアップ(3)／マーク回航）	レポート①（１時間）
前6	〃	指導実習(1)／安全（ロールプレイング） レスキュー(1)／ロープワーク、レスキューチューブを使った救助	レポート②「指導計画書」を作成する（担当者）（２時間）
前7	〃	指導実習(2)／パドルスポーツ①SUP（ロールプレイング） レスキュー(2)／SUPを使ったレスキュー	レポート②「指導計画書」を作成する（担当者）（２時間）
前8	〃	指導実習(3)／パドルスポーツ②カヌー（ロールプレイング レスキュー(2)／カヌーのセルフレスキュー、牽引レスキュー	レポート②「指導計画書」を作成する（担当者）（２時間）
前9	〃	指導実習(4)／ヨット・アクタス（ロールプレイング） スキンダイビング(1)／用具の装着と波打ち際からの入水方法	レポート②「指導計画書」を作成する（担当者）（２時間）

前10	〃	指導実践実習(1)／小学校水辺活動・海洋スポーツ活動	レポート③「実施報告書」を作成する（担当者）（２時間）
前11	〃	指導実践実習(２)／小学校水辺活動・海洋スポーツ活動	レポート③「実施報告書」を作成する（担当者）（２時間）
前12	〃	指導実践実習(３)／小学校水辺活動・海洋スポーツ活動	レポート③「実施報告書」を作成する（担当者）（２時間）
前13	〃	指導実践実習(４)／小学校水辺活動・海洋スポーツ活動	レポート③「実施報告書」を作成する（担当者）（２時間）
前14	〃	理論／シーホッパーの名称理解とヨットの帆走原理 実技／ヨット①シーホッパー（艤装）	艤装の手順と帆走原理について動画を視聴し復習する（１時間）。
前15	〃	指導実習(5)／ヨット②シーホッパー（基本帆走）	レポート④「実施計画書」を作成する（担当者）（２時間） レポート⑤「実施報告書」を作成する（担当者）（２時間）
前16	〃	指導実習(6)／ヨット③シーホッパー（方向転換）	レポート④「実施計画書」を作成する（担当者）（２時間） レポート⑤「実施報告書」を作成する（担当者）（２時間）
後1	〃	指導実習(7)／ヨット④シーホッパー（２点マーク回航、アビーム帆走）	レポート④「実施計画書」を作成する（担当者）（２時間） レポート⑤「実施報告書」を作成する（担当者）（２時間）
後2	〃	指導実習(8)／ヨット⑤シーホッパー（３点マーク、上下帆走）	レポート④「実施計画書」を作成する（担当者）（２時間） レポート⑤「実施報告書」を作成する（担当者）（２時間）
後3	〃	指導実習(9)／ヨット⑥シーホッパー（レース運営、実技テスト）	レポート④「実施計画書」を作成する（担当者）（２時間） レポート⑤「実施報告書」を作成する（担当者）（２時間）
後4	〃	競技理論と実践(1)（セーリングorパドルスポーツ） セーリング種目とパドルスポーツ種目に分かれて実施します	配布資料を参考に予習・復習する（１時間）
後5	〃	競技理論と実践(2)（セーリングorパドルスポーツ） セーリング種目とパドルスポーツ種目に分かれて実施します	配布資料を参考に予習・復習する（１時間）
後6	〃	競技理論と実践(2)（セーリングorパドルスポーツ） セーリング種目とパドルスポーツ種目に分かれて実施します	配布資料を参考に予習・復習する（１時間）
後7	〃	競技理論と実践(2)（セーリングorパドルスポーツ） セーリング種目とパドルスポーツ種目に分かれて実施します	配布資料を参考に予習・復習する（１時間）
後8	〃	競技理論と実践(2)（セーリングorパドルスポーツ） セーリング種目とパドルスポーツ種目に分かれて実施します	レポート⑥（２時間）
後9	〃	舟艇等の点検・補修(1)	配布資料を参考に復習する（30分）
後10	〃	舟艇等の点検・補修(2)	配布資料を参考に予習・復習する（１時間）
後11	〃	舟艇等の点検・補修(3)	レポート⑦（２時間）
後12	〃	指導実習(10)／スキンダイビング(2)基礎技術の復習・相互指導 スキューバダイビング体験(1)	配布資料を参考に予習・復習する（１時間）
後13	〃	指導実習(11)／スキンダイビング(3)フィンスイム技術のドリル スキューバダイビング体験(2)	配布資料を参考に予習・復習する（１時間）
後14	〃	指導実習(12)／_スキンダイビング(4)ベイルアウト技術の向上 スキューバダイビング体験(3)	配布資料を参考に予習・復習する（１時間）
後15	〃	指導実習(13)／スキンダイビング(5)潜水泳ドリル スキューバダイビング体験(4)	配布資料を参考に予習・復習する（１時間）
後16	〃	指導実習(14)／スキンダイビング(6)サーフェイスダイブの向上 スキューバダイビング体験(5)	レポート⑧⑨⑩（３時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳ－海洋スポーツ	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	中村　夏実・榮樂　洋光・笹子　悠歩			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	15名程度
授業の概要	現在の日本社会において、子どもの発育発達における体験活動の重要性、多様な生涯スポーツ種目のニーズが高まっている。加えて「海洋基本計画」にもとづく我が国の海洋立国政策を背景に、国民に広く海洋を理解してもらうためにも、海洋スポーツ活動および水辺活動に造詣の深い人材が求められている。このような社会的なニーズに応えられる即戦力を養うため、リーダーとして受講者グループを統率する事を主とし、以下の授業内容を展開する。 本授業では、「企画できる」ことを目指す。 ○実習Ⅰの指導補助を通して、プログラム遂行における安全管理能力の向上を図る（実技）。 ○冬期においては、プールにおけるスキンダイビング指導実習、およびスキューバダイビング体験を行う（実技・講義）。 ○海洋スポーツプログラムにおける、指導体制や安全管理体制、料金設定等の事例を調べ、それぞれ目的を設定して海洋スポーツ教室やツーリズムをシミュレーションする（実技・講義）。 ○舟艇の修理修繕と管理方法を実習する（実技）。 ○ローイング系とセーリング系のグループに分かれてそれぞれ競技力向上に関する研究情報・実践知を共有する（講義）。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、事業運営力、キャリアデザイン力 （実技力、実技指導力、事業運営力、キャリアデザイン力）							
	■認知的領域	実習Ⅲまでに学習した知識をさらに深めるとともに、海洋スポーツ活動の意義と目的を踏まえた、総括的な活動の企画に関する知識を習得する。			○				30
	■情意的領域	海洋スポーツに興味を持ち、主体的、継続的に取り組むとともに、未熟練者の行動に注意を払う。 シーマンシップを守る。 自然環境の変化を意識する。	○						20
	■技能的領域	海洋スポーツ活動を企画し、対象者やスタッフの技量や人数、季節、使用できる用具、フィールド等に則した計画を立案して、楽しく、安全に、総括的な指導ができる。	○	○			○		50

成績評価の基準	９０点以上はS、８０点以上はA、７０点～７９点はB、６０点～６９点はCとする。出席回数が３分の２に満たない場合は、履修放棄とみなす。 ローイングおよびセーリングの実技評価は当該授業課題内で実施、スキンダイビングの実技評価は、後期実技試験にて実施する。		
テキスト、教材 参　考　書	海洋スポーツテキスト（鹿屋体育大学海洋スポーツセンター編・「基礎から学ぶ海洋スポーツ」）、その他必要に応じて提供する。		
履修条件・関連科目	医師により海でのスポーツや水に入ることが禁忌と診断されている者は事前に相談してください。 また、本授業は実習費として１～２万円程度必要になります（金額詳細は決定次第通知します。）。	備考(教員メッセージ含む)	１）授業は、主に海洋スポーツセンターおよびセンター付近の海上で実施します。海洋スポーツセンターへの移動手段は、スクールバスに限ります。授業は海洋センターで実施します。 ２）大学への帰着は、16時を過ぎることもあります。 ３）天候により授業内容が変更されることがあります。 ４）授業内で、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。
オフィス・アワー	随時。ただし、事前に連絡してください。kaispo@nifs-k.ac.jp、研究棟710室、海洋スポーツセンター（0994-47-2758）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	中村　夏実 榮樂　洋光 笹子　悠歩	オリエンテーション　水慣れ活動の指導	レポートの提出（１）海洋スポーツに関する事前学習とふりかえり（1時間）
前2	〃	カヌー指導計画・実習①（カヤックとカナディアンの基本漕法と沈の対処）	カヌーの基本について予習・復習（1時間）
前3	〃	競技力を向上する会に参加	自競技と他競技の相違点をまとめる（1時間）
前4	〃	カヌー指導計画・実習②（シットオントップとカナディアンの漕法と沈の対処）	レポートの提出（２）　カヌーの基本について予習・復習（1時間）
前5	〃	カヌー指導計画・実習③（シングルカヤックの基本漕法と沈の対処）	カヌーの基本について予習・復習（1時間）
前6	〃	ヨット指導計画と指導実習①（艤装、名称と役割、帆走）	ヨットの基本について予習・復習（1時間）
前7	〃	ヨット指導計画と指導実習②（基本帆走、針路変更）	ヨットの基本について予習・復習（1時間）
前8	〃	ヨット指導計画と指導実習③（基本帆走、方向転換、アビーム帆走とマーク回航）	レポートの提出（3）ヨットの基本について予習・復習（1時間）
前9	〃	ヨット指導計画と指導実習④（風上帆走、風下帆走）	ヨットの基本について予習・復習（1時間）
前10	〃	ヨット指導計画と指導実習⑤（２点マーク、風上-風下レグの帆走）	ヨットの基本について予習・復習（1時間）

前11	〃	ヨット指導計画と指導実習⑥（３点マーク、レース運営）	ヨットの基本について予習・復習（1時間）
前12	〃	ヨット指導計画と指導実習⑦（3点マーク、競技規則、模擬レース）	ヨットの基本について予習・復習（1時間）
前13	〃	ヨット指導計画と指導実習⑧（3点マーク、競技規則、レース）	レポートの提出（4）ヨットで習得した知識と技術をまとめる（１時間）
前14	〃	ウィンドサーフィン指導計画と指導実習①（艤装、名称と役割、セイルアップ）	ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）
前15	〃	ウィンドサーフィン指導計画と指導実習②（セールアップ～アビーム帆走）	ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）
前16	〃	ウィンドサーフィン指導計画と指導実習③（基本帆走～進路変更）	レポートの提出（5）ウインドサーフィンで習得した知識と技術をまとめる（1時間）
後1	〃	カヌー指導計画・実習④（カヌーレスキュー、セルフレスキュー）	カヌーの基本について予習・復習（1時間）
後2	〃	カヌー指導計画・実習⑤（ミニツーリング、ビーチにおけるアクティビティ）	カヌーの基本について予習・復習（1時間）
後3	〃	カヌー指導計画・実習⑥（ツーリング、総括）	レポートの提出（6）カヌーで習得した知識と技術をまとめる（1時間）
後4	〃	競技スポーツ論・実習（セーリング/パドルスポーツ）	セーリング/パドルスポーツの理論について予習・復習（1時間）
後5	〃	競技スポーツ論・実習（セーリング/パドルスポーツ）	セーリング/パドルスポーツの理論について予習・復習（1時間）
後6	〃	競技スポーツ論・実習（セーリング/パドルスポーツ）	セーリング/パドルスポーツの理論について予習・復習（1時間）
後7	〃	競技スポーツ論・実習（セーリング/パドルスポーツ）	セーリング/パドルスポーツの理論について予習・復習（1時間）
後8	〃	競技スポーツ論・実習（セーリング/パドルスポーツ）	レポートの提出（7）セーリング/パドルスポーツの理論について知識をまとめる（1時間）
後9	〃	舟艇等の点検・補修／計画・実習①	舟艇の点検・補修に関する事前学習とふりかえり（1時間）
後10	〃	舟艇等の点検・補修／計画・実習②	舟艇の点検・補修に関する事前学習とふりかえり（1時間）
後11	〃	舟艇等の点検・補修／計画・実習③	レポートの提出（８）舟艇の点検・補修で習得した知識と技術をまとめる（1時間）
後12	〃	スキンダイビング指導計画・実習①	スキンダイビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後13	〃	スキンダイビング指導計画・実習②	スキンダイビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後14	〃	スキンダイビング指導計画・実習③	スキンダイビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後15	〃	スキンダイビング指導計画・実習④	レポート提出（９）スキンダイビングで習得した知識と技術についてまとめる（1時間）
後16	〃	スキンダイビング指導計画・実習⑤	レポートの提出（１０）スキンダイビングで習得した知識と技術についてまとめる（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅰ－自転車競技	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	山口　大貴・黒川　剛			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	8名程度
授業の概要	本授業では、自転車競技（トラック・ロード種目）における安全な走行技能と競技力向上に必要な能力の修得を目指している。また、将来的に初級レベル（高校生程度）の競技者を対象とした指導力を身につけることも目指している。具体的には、ペダリング技能評価に関する理論、乗車の基礎技能（直進、曲がる、止まる）、集団走行、補助運動、道路交通法、応急処置等を段階的に学習する。そして、学習内容を深めるためにレポートを作成する。その他、他者とのグループワークを行う。これにより、実技力および指導者基礎力を身につけることが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	実技指導力、指導者基礎力、一般教養・倫理 （実技力、指導者基礎力 ）							
	■認知的領域	・自転車競技に関わる運動技能、救急処置、トレーニング法、レース分析の方法について基礎的な知識を理解する。			○				40
	■情意的領域	・授業に積極的に参加し、課題に取り組もうとする。 ・受講生同士で協力して学習の探究をしようとしている。	○		○				20
	■技能的領域	・学習課題の習得・改善過程を理解しながらパフォーマンスを発揮（身体表現）できるようになる。	○						40

成績評価の基準	授業到達目標を基に、授業への参画状況、レポート等を総合的に判断し、60点以上の者を合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	iPadを必ず持参すること。 授業ごとに必要に応じて資料を配布する。 よく整備されたスポーツ用自転車（トラック・ロードバイク）、JCF公認ヘルメット、バイクシューズ、グローブ等の競技用具一式を各自準備すること。

履修条件・ 関連科目	スポーツ用自転車の簡単な整備ができること。 スポーツ用自転車での集団走行（1列走行）の技能を有していること。	備考(教員メッセージ含む)	過去に自転車競技を経験し、今後も専門的に本競技へ関わっていく意思がある学生の受講を希望する。レポート課題有り。
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前に連絡をとって頂くのが望ましい。 研究棟8階　803教員研究室（h-yamaguchi@nifs-k.ac.jp）。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	山口　大貴	オリエンテーション（授業概要、成績評価）。 大学自転車競技について学習する。	授業時に連絡する。（1時間）
前2	〃	これまでの競技活動の振り返りと今後の展望について考える。	授業時に連絡する。（1時間）
前3	〃	「競技力を向上する会」に参加する。	授業時に連絡する。（1時間）
前4	〃	スポーツ用自転車（ロードバイク）の乗車の基礎技能（直進する、曲がる、止まる）を理解・習得する。安全なローラー台の乗車方法を習得する。	授業時に連絡する。（1時間）
前5	〃	スポーツ用自転車（ロードバイク）の乗車の基礎技能（直進する、曲がる、止まる）を応用し、集団走行（1列走行、2列並走、3列並走）を習得する。	授業時に連絡する。（1時間）
前6	〃	スポーツ用自転車（ロードバイク）の乗車の基礎技能（直進する、曲がる、止まる）を応用し、集団走行（1列走行、2列並走、3列並走）を習得する。	授業時に連絡する。（1時間）
前7	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（周回）の習得方法を学習する。	授業時に連絡する。（1時間）
前8	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（スタンディングスタート、加速）の習得方法を学習する。	授業時に連絡する。（1時間）
前9	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（捲り、差し）の習得方法を学習する。	授業時に連絡する。（1時間）
前10	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）における運動技能を測定する。	授業時に連絡する。（1時間）
前11	〃	自転車競技の種目特性を理解し、分析方法を学習する。	授業時に連絡する。（2.5時間）
前12	〃	自転車競技の種目特性を理解し、分析方法を学習する。	授業時に連絡する。（1時間）
前13	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（スタンディングスタート、加速）の改善方法を検討する。	授業時に連絡する。（1時間）
前14	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（捲り、差し）の改善方法を検討する。	授業時に連絡する。（1時間）
前15	〃	自転車競技の種目構造と課題解決のための方法を理解する。	授業時に連絡する。（1時間）
前16	〃	学期末試験は行わない。	授業時に連絡する。（1時間）
後1	〃	コントロールテストの方法を理解する（持久系種目）。	授業時に連絡する。（1時間）

後2	〃	コントロールテストの方法を理解する（持久系種目）。	授業時に連絡する。（1時間）
後3	〃	コントロールテストの方法を理解する（瞬発系種目）。	授業時に連絡する。（1時間）
後4	〃	コントロールテストの方法を理解する（瞬発系種目）。	授業時に連絡する。（1時間）
後5	〃	コントロールテストの結果を基に自らの課題課題を発見する。	授業時に連絡する。（2.5時間）
後6	〃	コントロールテストの結果を基に自らの課題課題を発見する。	授業時に連絡する。（1時間）
後7	〃	目標設定・トレーニング計画を行う。	授業時に連絡する。（1時間）
後8	〃	スポーツ用自転車におけるバイクセッティングを考える。	授業時に連絡する。（1時間）
後9	〃	スポーツ用自転車におけるバイクセッティングを考える。	授業時に連絡する。（1時間）
後10	〃	自転車競技の補助運動。	授業時に連絡する。（1時間）
後11	〃	自転車競技の補助運動。	授業時に連絡する。（1時間）
後12	〃	自転車競技の救急処置について理解する。	授業時に連絡する。（1時間）
後13	〃	自転車競技の救急処置について理解する。	授業時に連絡する。（1時間）
後14	〃	大学自転車競技者として自らのありたい姿（ビジョン）や価値（バリュー）について考える。	授業時に連絡する。（2.5時間）
後15	〃	大学自転車競技者として自らのありたい姿（ビジョン）や価値（バリュー）について考える。	授業時に連絡する。（1時間）
後16	〃	学期末試験は行わない。	授業時に連絡する。

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱ－自転車競技	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	山口　大貴・黒川　剛			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	8名程度
授業の概要	本授業では、自転車競技（トラック・ロード種目）における安全な走行技能と競技力向上に必要な能力の修得を目指している。また、将来的に初級レベル（高校生程度）の競技者を対象とした指導力を身につけることも目指している。具体的には、ペダリング技能評価に関する理論、乗車の基礎技能（直進、曲がる、止まる）、集団走行、補助運動、道路交通法、応急処置等について理解し、模範の提示ができるように学習する。そのため、指導のポイントを整理するためのレポートを作成する。その他、他者とのグループワークや相互指導を行う。これにより、初級レベルの対象者への指導を考える力を身につけることが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、指導者基礎力、コミュニケーション力 （実技力、実技指導力、指導者基礎力）							
	■認知的領域	・自転車競技に関わる運動技能、救急処置、トレーニング法、レース分析の方法について基礎的な知識を理解する。 ・他者の問題点を理解し、指摘することができる。			○				40
	■情意的領域	・授業に積極的に参加し、課題に取り組もうとする。 ・受講生同士で協力して学習の探究をしようとしている。	○		○				20
	■技能的領域	・学習課題の習得・改善過程を理解しながらパフォーマンスを発揮（身体表現）し、模範を示すことができる。	○						40

成績評価の基準	授業到達目標を基に、授業への参画状況、レポート等を総合的に判断し、60点以上の者を合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	iPadを必ず持参すること。 授業ごとに必要に応じて資料を配布する。 よく整備されたスポーツ用自転車（ロード・トラックバイク）、JCF公認ヘルメット、バイクシューズ、グローブ等の競技用具一式を各自準備すること。

履修条件・関連科目	スポーツ用自転車の簡単な整備ができること。 スポーツ用自転車での集団走行（１列走行）の技能を有していること。	備考(教員メッセージ含む)	過去に自転車競技を経験し、今後も専門的に本競技へ関わっていく意思がある学生の受講を希望する。レポート課題有り。
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前に連絡をとって頂くのが望ましい。 研究棟8階　803教員研究室（h-yamaguchi@nifs-k.ac.jp）。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	山口　大貴	オリエンテーション（授業概要、成績評価）。 大学自転車競技について学習する。	授業時に連絡する。（1時間）
前2	〃	大学自転車競技者として自らの目指す姿や価値観について発表する。	授業時に連絡する。（1時間）
前3	〃	「競技力を向上する会」に参加する。	授業時に連絡する。（1時間）
前4	〃	スポーツ用自転車（ロードバイク）の乗車の基礎技能（直進する、曲がる、止まる）を理解し、他者に模範を示すことができる。安全なローラー台の乗車方法を習得する。	授業時に連絡する。（1時間）
前5	〃	スポーツ用自転車（ロードバイク）の集団走行（１列走行、2列並走、3列並走）を習得し、他者に模範を示すことができる。	授業時に連絡する。（1時間）
前6	〃	スポーツ用自転車（ロードバイク）の集団走行（１列走行、2列並走、3列並走）を習得し、他者に模範を示すことができる。	授業時に連絡する。（1時間）
前7	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（周回）の習得方法を学習し、他者に模範を示すことができる。	授業時に連絡する。（1時間）
前8	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（スタンディングスタート、加速）の習得方法を学習し、他者に模範を示すことができる。	授業時に連絡する。（1時間）
前9	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（捲り、差し）の習得方法を学習し、他者に模範を示すことができる。	授業時に連絡する。（1時間）
前10	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）における運動技能を測定する。	授業時に連絡する。（1時間）
前11	〃	自転車競技の種目特性を理解し、分析・評価する。	授業時に連絡する。（2.5時間）
前12	〃	自転車競技の種目特性を理解し、分析・評価する。	授業時に連絡する。（1時間）
前13	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（スタンディングスタート、加速）の改善方法を検討する。	授業時に連絡する。（1時間）

前14	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（捲り、差し）の改善方法を検討する。	授業時に連絡する。（1時間）
前15	〃	自転車競技の種目構造と課題解決のための方法を理解し、他者に説明する。	授業時に連絡する。（1時間）
前16	〃	学期末試験は行わない。	授業時に連絡する。
後1	〃	コントロールテストを実践し、データ収集する（持久系種目）。	授業時に連絡する。（1時間）
後2	〃	コントロールテストを実践し、データ収集する（持久系種目）。	授業時に連絡する。（1時間）
後3	〃	コントロールテストを実践し、データ収集する（瞬発系種目）。	授業時に連絡する。（1時間）
後4	〃	コントロールテストを実践し、データ収集する（瞬発系種目）。	授業時に連絡する。（1時間）
後5	〃	コントロールテストの結果を基に自らの課題課題を発見し、考察する。	授業時に連絡する。（2.5時間）
後6	〃	コントロールテストの結果を基に自らの課題課題を発見し、考察する。	授業時に連絡する。（1時間）
後7	〃	目標設定・トレーニング計画を行う。	授業時に連絡する。（1時間）
後8	〃	スポーツ用自転車におけるバイクセッティングを考える。他者観察も行う。	授業時に連絡する。（1時間）
後9	〃	スポーツ用自転車におけるバイクセッティングを考える。他者観察も行う。	授業時に連絡する。（1時間）
後10	〃	自転車競技の補助運動。	授業時に連絡する。（1時間）
後11	〃	自転車競技の補助運動。	授業時に連絡する。（1時間）
後12	〃	自転車競技の救急処置について理解し、他者の安全を確保する。	授業時に連絡する。（1時間）
後13	〃	自転車競技の救急処置について理解し、他者の安全を確保する。	授業時に連絡する。（1時間）
後14	〃	大学自転車競技者として自らのありたい姿（ビジョン）や価値（バリュー）について考える。	授業時に連絡する。（2.5時間）
後15	〃	大学自転車競技者として自らのありたい姿（ビジョン）や価値（バリュー）について考える。	授業時に連絡する。（1時間）
後16	〃	学期末試験は行わない。	授業時に連絡する。

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲ－自転車競技	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	山口　大貴・黒川　剛			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	8名程度
授業の概要	本授業では、自転車競技（トラック・ロード種目）における安全な走行技能と競技力向上に必要な能力の修得を目指している。また、将来的に初級レベル（高校生程度）の競技者を対象とした指導力を身につけることも目指している。具体的には、ペダリング技能評価に関する理論、乗車の基礎技能（直進、曲がる、止まる）、集団走行、補助運動、道路交通法、応急処置等について理解し、模範の提示や他者の問題点を指摘できるように学習する。これにより高度な指導力を身につけることが期待される。その他、他者とのグループワークや相互指導を行う。これにより、初級レベルの対象者への指導を考える力を身につけることが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 （実技力、実技指導力、指導者基礎力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・自転車競技に関わる運動技能、救急処置、トレーニング法、レース分析の方法について専門的な知識を理解している。			○				40
	■情意的領域	・授業に積極的に参加し、課題に取り組もうとする。 ・受講生同士で協力して学習の探究し、新たな提案をしようとしている。	○		○				20
	■技能的領域	・指導者として模範を提示しながら、対象者の技能に対して効果的な指導を実践している。	○						40

成績評価の基準	授業到達目標を基に、授業への参画状況、レポート等を総合的に判断し、60点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	iPadを必ず持参すること。 授業ごとに必要に応じて資料を配布する。 よく整備されたスポーツ用自転車（ロード・トラックバイク）、JCF公認ヘルメット、バイクシューズ、グローブ等の競技用具一式を各自準備すること。		
履修条件・ 関連科目	スポーツ用自転車の簡単な整備ができること。 スポーツ用自転車での集団走行（１列走行）の技能を有していること。	備考(教員メッセージ含む)	スポーツ用自転車の簡単な整備ができること。 スポーツ用自転車での集団走行（１列走行）の技能を有していること。
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前に連絡をとって頂くのが望ましい。 研究棟8階　803教員研究室（h–yamaguchi@nifs–k.ac.jp）。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	山口　大貴	オリエンテーション（授業概要、成績評価）。大学自転車競技とは。	授業時に連絡する。
前2	〃	大学自転車競技者として自らの目指す姿や価値観について発表する。	授業時に連絡する。
前3	〃	「競技力を向上する会」に参加する。	授業時に連絡する。
前4	〃	スポーツ用自転車（ロードバイク）の乗車の基礎技能（直進する、曲がる、止まる）を説明するために他者の指導を分析する。安全なローラー台の乗車方法を習得する。	授業時に連絡する。
前5	〃	スポーツ用自転車（ロードバイク）の集団走行（直進する、曲がる、止まる）を指導するための資料作成を行う。	授業時に連絡する。
前6	〃	指導実習&振り返り。	授業時に連絡する。
前7	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（周回）を説明するために他者の指導を分析する。	授業時に連絡する。
前8	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（スタンディングスタート、加速）を説明するために他者の指導を分析する。	授業時に連絡する。
前9	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（捲り、差し）を説明するために他者の指導を分析する。	授業時に連絡する。
前10	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）における運動技能を測定する。	授業時に連絡する。
前11	〃	自転車競技の種目特性を理解し、分析・評価・考察する。	授業時に連絡する。
前12	〃	自転車競技の種目特性を理解し、分析・評価・考察する。	授業時に連絡する。
前13	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（スタンディングスタート、加速、捲り、差し）を指導するための資料作成を行う。	授業時に連絡する。
前14	〃	指導実習の準備	授業時に連絡する。
前15	〃	指導実習の準備	授業時に連絡する。
前16	〃	学期末試験は行わない。	授業時に連絡する。
後1	〃	コントロールテストを実践し、データ収集・分析する（持久系種目）。	授業時に連絡する。
後2	〃	コントロールテストを実践し、データ収集・分析する（持久系種目）。	授業時に連絡する。

後3	〃	コントロールテストを実践し、データ収集・分析する（瞬発系種目）。	授業時に連絡する。
後4	〃	コントロールテストを実践し、データ収集・分析する（瞬発系種目）。	授業時に連絡する。
後5	〃	コントロールテストの縦断的な結果を基に自らの課題課題を発見し、考察する。	授業時に連絡する。
後6	〃	コントロールテストの縦断的な結果を基に自らの課題課題を発見し、考察する。	授業時に連絡する。
後7	〃	目標設定・トレーニング計画を行う。	授業時に連絡する。
後8	〃	スポーツ用自転車におけるバイクセッティングを考える。他者観察も行う。	授業時に連絡する。
後9	〃	スポーツ用自転車におけるバイクセッティングを考える。他者観察も行う。	授業時に連絡する。
後10	〃	自転車競技の補助運動。	授業時に連絡する。
後11	〃	自転車競技の補助運動。	授業時に連絡する。
後12	〃	自転車競技の救急処置について理解し、他者の安全を確保する。	授業時に連絡する。
後13	〃	自転車競技の救急処置について理解し、他者の安全を確保する。	授業時に連絡する。
後14	〃	大学自転車競技者として自らのありたい姿（ビジョン）や価値（バリュー）について考える。	授業時に連絡する。
後15	〃	大学自転車競技者として自らのありたい姿（ビジョン）や価値（バリュー）について考える。	授業時に連絡する。
後16	〃	学期末試験は行わない。	授業時に連絡する。

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳ－自転車競技	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	山口　大貴・黒川　剛			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	8名程度
授業の概要	本授業では、自転車競技（トラック・ロード種目）における安全な走行技能と競技力向上に必要な能力の修得を目指している。また、将来的に初級レベル（高校生程度）の競技者を対象とした指導力を身につけることも目指している。1対1の個別指導と1対複数名の団体指導を実践し、高度な指導力を身につけることが期待される。また、スポーツ用自転車の普及を目指すために、イベントマネージャーとして地域活性イベントを企画支援する力も身につくことが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	実技指導力、事業運営力、指導者基礎力 （実技指導力、指導者基礎力、事業運営力、課題解決力）							
	■認知的領域	・自転車競技に関わる運動技能、救急処置、トレーニング法、レース分析の方法について専門的な知識を理解している。			○				40
	■情意的領域	・授業に積極的に参加し、課題に取り組もうとする。 ・受講生同士で協力して学習の探究し、新たな提案をしようとしている。	○		○				20
	■技能的領域	・指導者として模範を提示しながら、対象者の技能に対して効果的な指導を実践している。	○						40

成績評価の基準	授業到達目標を基に、授業への参画状況、レポート等を総合的に判断し、60点以上の者を合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	iPadを必ず持参すること。 授業ごとに必要に応じて資料を配布する。 よく整備されたスポーツ用自転車（ロード・トラックバイク）、JCF公認ヘルメット、バイクシューズ、グローブ等の競技用具一式を各自準備すること。

履修条件・関連科目	スポーツ用自転車の簡単な整備ができること。 スポーツ用自転車での集団走行（1列走行）の技能を有していること。	備考(教員メッセージ含む)	過去に自転車競技を経験し、今後も専門的に本競技へ関わっていく意思がある学生の受講を希望する。レポート課題有り。
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前に連絡をとって頂くのが望ましい。 研究棟8階　803教員研究室（h-yamaguchi@nifs-k.ac.jp）。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	山口　大貴	オリエンテーション（授業概要、成績評価）。 大学自転車競技について学習する。	授業時に連絡する。
前2	〃	大学自転車競技者として自らの目指す姿や価値観について発表する。	授業時に連絡する。
前3	〃	「競技力を向上する会」に参加する。	授業時に連絡する。
前4	〃	スポーツ用自転車（ロードバイク）の乗車の基礎技能（直進する、曲がる、止まる）を説明するために他者の指導を分析する。安全なローラー台の乗車方法を習得する。	授業時に連絡する。
前5	〃	スポーツ用自転車（ロードバイク）の集団走行（直進する、曲がる、止まる）を指導するための資料作成を行う。	授業時に連絡する。
前6	〃	指導実習&振り返り。	授業時に連絡する。
前7	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（周回）を説明するために他者の指導を分析する。	授業時に連絡する。
前8	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（スタンディングスタート、加速）を説明するために他者の指導を分析する。	授業時に連絡する。
前9	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（捲り、差し）を説明するために他者の指導を分析する。	授業時に連絡する。
前10	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）における運動技能を測定する。	授業時に連絡する。
前11	〃	自転車競技の種目特性を理解・説明し、分析・評価・考察する。	授業時に連絡する。
前12	〃	自転車競技の種目特性を理解・説明し、分析・評価・考察する。	授業時に連絡する。
前13	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（スタンディングスタート、加速、捲り、差し）を指導するための資料作成を行う。	授業時に連絡する。
前14	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（捲り、差し）の改善方法を検討する。	授業時に連絡する。
前15	〃	自転車競技の種目構造と課題解決のための方法を理解し、他者に説明する。	授業時に連絡する。
前16	〃	学期末試験は行わない。	授業時に連絡する。
後1	〃	コントロールテストにおいて自身と他者のデータ収集する（持久系種目）。	授業時に連絡する。
後2	〃	コントロールテストにおいて自身と他者のデータ収集する（持久系種目）。	授業時に連絡する。

後3	〃	コントロールテストにおいて自身と他者のデータ収集する（瞬発系種目）。	授業時に連絡する。
後4	〃	コントロールテストにおいて自身と他者のデータ収集する（瞬発系種目）。	授業時に連絡する。
後5	〃	コントロールテストの縦断的な結果を基に自身と他者の課題課題を発見し、考察する。	授業時に連絡する。
後6	〃	コントロールテストの縦断的な結果を基に自身と他者の課題課題を発見し、考察する。	授業時に連絡する。
後7	〃	目標設定・トレーニング計画を行う。	授業時に連絡する。
後8	〃	スポーツ用自転車におけるバイクセッティングを考える。他者観察も行う。	授業時に連絡する。
後9	〃	スポーツ用自転車におけるバイクセッティングを考える。他者観察も行う。	授業時に連絡する。
後10	〃	自転車競技の補助運動。	授業時に連絡する。
後11	〃	自転車競技の補助運動。	授業時に連絡する。
後12	〃	自転車競技の救急処置について理解し、他者の安全を確保する。	授業時に連絡する。
後13	〃	自転車競技の救急処置について理解し、他者の安全を確保する。	授業時に連絡する。
後14	〃	大学自転車競技者として自らのありたい姿（ビジョン）や価値（バリュー）について考えて、これまでの経験を基に他者へ伝達する。	授業時に連絡する。
後15	〃	大学自転車競技者として自らのありたい姿（ビジョン）や価値（バリュー）について考えて、これまでの経験を基に他者へ伝達する。	授業時に連絡する。
後16	〃	学期末試験は行わない。	授業時に連絡する。

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅰ－野球 (141A1-5290)	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	藤井　雅文・鈴木　智晴			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	２０　名程度
授業の概要	本授業を通じて、下記の項目について体系的に学ぶことにより、野球に関する専門的な実技力・指導力を身に着けるための基礎的基本的な知識技能を修得する。 ・野球の歴史（学生野球、職業野球）、取り巻く環境（部活動、人口減少、経済、国際野球）の基本事項について学習する ・野球の基本技能（スローイング、キャッチング、バッティング、ランニング）について、基本的な仕組みと練習法について学習する ・ストレングストレーニング、ウォーミングアップ、クールダウン、栄養面など、基本的な身体つくりや怪我予防について学習する ・戦術（攻撃、守備、バッテリー）についての基本事項を学習する ・野球規則や審判法について基本事項を学習する ・大会開催時における運営者の基本的な役割について学習する ・野球パフォーマンス測定で使用する機器について、基本的な使用方法を学習する ・データの基本的な処理を実施し、自分自身の目標設定につなげる方法を学習する 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 （コミュニケーション力）							
	■認知的領域	・野球の歴史や取り巻く環境やルール、審判法、基本的な戦術やトレーニング法について基礎的な知識を理解する。 ・大会やイベントの仕組みや成り立ちを理解する。	○		○	○	○		30
	■情意的領域	・主体的かつ積極的に授業に参加し、課題に取り組む。 ・大会運営に関する補助活動を積極的に行う。	○		○				30
	■技能的領域	・野球の基礎的な技能を身に着ける。 ・野球の基礎的なトレーニング法を身に着ける。	○	○					40

成績評価の基準	授業への出席が2/3以上という条件で、野球に関する基礎知識の理解、基礎技能の習得度、授業態度等を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	適宜紹介する。		
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	・野球選手として競技能力を高めることを目指す学生や、将来野球の指導に携わろうとする学生の受講を希望する。 ・3級公認審判員の資格を獲得することができる。
オフィス・アワー	随時　研究棟8階804教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	藤井　雅文 鈴木　智晴	オリエンテーション	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前2	〃	野球の歴史	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前3	〃	「競技力を向上する会」に参加	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前4	〃	野球のスタイル	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前5	〃	パフォーマンステスト（測定機器の説明と実施、測定値と目標値）	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前6	〃	アスリート①（食生活、睡眠、サプリメント）	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前7	〃	アスリート②（トレーニング効果、トレーニング計画、ウエイトとパフォーマンス）	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前8	〃	アスリート③（W-UPとC-DOWNの重要性、可動域とパフォーマンス）	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前9	〃	勝負師①（攻撃の戦術：クラッチ）	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前10	〃	勝負師②（攻撃の戦術：メイク）	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前11	〃	勝負師③（守備の戦術：野手）	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前12	〃	勝負師④（守備の戦術：バッテリー）	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前13	〃	データ分析①（春季データの成績分析、秋季に向けての準備）	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前14	〃	野球と地域社会（地域貢献活動）	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前15	〃	野球規則（ルールと問題演習）	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前16	〃	学期末試験	レポート等、授業時にアナウンスする
後1	〃	職人①（スローイングの仕組みと科学、練習法）	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
後2	〃	職人②（ピッチングの仕組みと科学、練習法）	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）

後3	〃	職人③（バッティングの仕組みと科学、練習法）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後4	〃	職人④（スローイング・バッティングの動作解析）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後5	〃	職人⑤（フィールディングの仕組みと科学、練習法）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後6	〃	職人⑥（ランニングの仕組みと科学、練習法）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後7	〃	データ分析②（秋シーズン振り返り、マイルストーン）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後8	〃	野球の審判法（審判講習会）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後9	〃	野球と教育学（野球のはじまり、今後の部活動と野球教育）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後10	〃	野球と経営学（野球組織の成り立ち、チーム作りの重要性）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後11	〃	野球と経済学（プロ・アマの経済、スポンサーシップ）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後12	〃	野球と経済学（道具、施設、イベントの経済）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後13	〃	野球と建築学・生物学（野球場、屋内練習場、用具）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後14	〃	野球の改革（Baseball５、近代のルール変更）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後15	〃	日本と世界の野球（世界の野球システム、野球ビジネス）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後16	〃	学期末試験	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱ－野球 (141A1-5291)	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	藤井　雅文・鈴木　智晴			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	２０名程度
授業の概要	本授業を通じて、下記の項目について実践現場で実施することにより、野球に関する専門的な実技力・指導力を身に着ける。 ・野球の基本技能（スローイング、キャッチング、バッティング、ランニング）の練習法についての実践 ・ストレングストレーニング、ウォーミングアップ、クールダウン、栄養面など、身体つくりや怪我予防についての実践 ・基本的な戦術（攻撃、守備、バッテリー）についての実践と応用 ・野球規則について理解した上で、実際に審判員として試合を裁く ・大会開催時における運営者の基本的な役割の実践 ・野球パフォーマンス測定で使用する機器の利用方法の習得 ・データの基本的な処理を実施し、自分自身の目標設定の実施 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 （コミュニケーション力）							
	■認知的領域	・野球の歴史や取り巻く環境やルール、審判法、基本的な戦術やトレーニング法について基礎的な知識を理解する。 ・大会やイベントの仕組みや成り立ちを理解する。	○	○	○	○	○		30
	■情意的領域	・主体的かつ積極的に授業に参加し、課題に取り組む。 ・大会運営に関する補助活動を積極的に行う。	○		○				30
	■技能的領域	・野球の基礎的な技能を身に着ける。 ・野球の基礎的なトレーニング法を身に着ける。 ・測定機器の使用方法習得。	○	○					40

成績評価の基準	授業への出席が2/3以上という条件で、野球に関する基礎知識の理解、基礎技能の習得度、授業態度等を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	適宜紹介する。		
履修条件・関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	野球選手として競技能力を高めることを目指す学生や、将来野球の指導に携わろうとする学生の受講を希望する。
オフィス・アワー	随時　研究棟8階804教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	藤井　雅文 鈴木　智晴	オリエンテーション	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前2	〃	野球の歴史の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前3	〃	「競技力を向上する会」に参加	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前4	〃	野球のスタイルの復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前5	〃	野球と職業（NPB、独立リーグ、社会人野球）	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前6	〃	測定機器の使用方法と実施①	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前7	〃	アスリート①（食生活、サプリメント、トレーニング効果、トレーニング計画、ウエイトとパフォーマンス）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前8	〃	アスリート②（W-UPとC-DOWNの重要性、可動域とパフォーマンス）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前9	〃	勝負師①（攻撃の戦術：クラッチ）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前10	〃	勝負師②（攻撃の戦術：メイク）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前11	〃	勝負師③（守備の戦術：野手）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前12	〃	勝負師④（守備の戦術：バッテリー）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前13	〃	データ分析①（春季データの成績分析、秋季に向けての準備）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前14	〃	野球と地域（地域貢献活動）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前15	〃	野球規則（ルールと問題演習）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
後1	〃	職人①（スローイングの仕組みと科学、練習法）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
後2	〃	職人②（ピッチングの仕組みと科学、練習法）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
後3	〃	職人③（バッティングの仕組みと科学、練習法）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）

後4	〃	職人④（ヒット＆ラン、バントの仕組みと科学、練習法）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後5	〃	職人⑤（フィールディングの仕組みと科学、練習法）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後6	〃	職人⑥（ランニング・スプリントの仕組みと科学、練習法）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後7	〃	データ分析②（秋シーズンの振り返り、マイルストーン）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後8	〃	野球の審判法（審判講習会）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後9	〃	野球と教育学（野球のはじまり、今後の部活動と野球教育）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後10	〃	野球と経営学（野球組織の成り立ち、チーム作りの重要性）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後11	〃	野球と経済学（プロ・アマの経済、学生野球の経済）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後12	〃	野球と経済学（道具、施設、イベントの経済）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後13	〃	野球と建築学・生物学（野球場、屋内練習場、用具）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後14	〃	野球の近代化（Baseball5、ルール改定）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後15	〃	日本と世界の野球（世界の野球システム、野球ビジネス）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後16	〃	学期末試験	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲ－野球 (141B1-5290)	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	藤井　雅文・鈴木　智晴			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	２０名程度
授業の概要	本授業を通じて、下記の項目について実践現場で実施することにより身に着けた野球に関する専門的な実技力・指導力を基に、実際に指導を行う。 ・野球の基本技能（スローイング、キャッチング、バッティング、ランニング）の練習法について指導する ・ストレングストレーニング、ウォーミングアップ、クールダウン、栄養面など、身体つくりや怪我予防について指導する ・基本的な戦術（攻撃、守備、バッテリー）について指導する ・野球規則について理解した上で、実際に審判員として他年代の試合を裁く ・大会開催時における運営者の役割を理解し指導する ・野球パフォーマンス測定で使用する器具について説明・指導する ・データの基本的な処理を実施し、自分自身の目標設定の仕方を指導する 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 （コミュニケーション力）							
	■認知的領域	・野球の歴史や取り巻く環境やルール、審判法、基本的な戦術やトレーニング法について理解する。 ・大会やイベントの仕組みや成り立ちを理解する。	○	○	○	○	○		30
	■情意的領域	・主体的かつ積極的に授業に参加し、課題に取り組む。 ・大会運営に関する活動を積極的に行う。	○		○				30
	■技能的領域	・野球の基礎的な技能を身に着け指導する。 ・野球の基礎的なトレーニング法を身に着け指導する。	○	○					40

成績評価の基準	授業への出席が2/3以上という条件で、野球に関する基礎知識の理解、基礎技能の習得度、授業態度等を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	適宜紹介する。		
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	野球選手として競技能力を高めることを目指す学生や、将来野球の指導に携わろうとする学生の受講を希望する。
オフィス・アワー	随時　研究棟8階804教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	藤井　雅文 鈴木　智晴	オリエンテーション	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前2	〃	野球の歴史の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前3	〃	「競技力を向上する会」に参加	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前4	〃	野球のスタイルの発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前5	〃	パフォーマンステスト（測定機器の説明と実施、測定値と目標値）の指導	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前6	〃	アスリート①（食生活、睡眠、サプリメント）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前7	〃	アスリート②（トレーニング効果、トレーニング計画、ウエイトとパフォーマンス）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前8	〃	アスリート③（W-UPとC-DOWNの重要性、可動域とパフォーマンス）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前9	〃	勝負師①（攻撃の戦術：クラッチ）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前10	〃	勝負師②（攻撃の戦術：メイク）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前11	〃	勝負師③（守備の戦術：野手）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前12	〃	勝負師④（守備の戦術：バッテリー）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前13	〃	データ分析①（春季データの成績分析、秋季に向けての準備）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前14	〃	スポーツ指導実習①	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前15	〃	スポーツ指導実習②	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前16	〃	スポーツ指導実習③	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
後1	〃	職人①（スローイングの仕組みと科学、練習法）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
後2	〃	職人②（ピッチングの仕組みと科学、練習法）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
後3	〃	職人③（バッティングの仕組みと科学、練習法）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
後4	〃	職人④（ヒット＆ラン、バントの仕組みと科学、練習法）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）

後5	〃	職人⑤（フィールディングの仕組みと科学、練習法）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後6	〃	職人⑥（ランニングの仕組みと科学、練習法）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後7	〃	データ分析②（秋シーズン、年間シーズンの成績分析）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後8	〃	データ分析③（パフォーマンステスト、冬季シーズンの計画）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後9	〃	野球と職業（NPB、独立リーグ、社会人野球）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後10	〃	野球の最先端指導（Virtual Reality）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後11	〃	野球の最先端指導（セイバーメトリクス）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後12	〃	野球の最先端指導（集団心理学・組織コーチング）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後13	〃	野球の組織運営（Core会議・戦略会議）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後14	〃	指導実習の振り返り①	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後15	〃	指導実習の振り返り②	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後16	〃	指導実習の振り返り③	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳ－野球 (141C1-5290)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	藤井　雅文・鈴木　智晴			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	２０名程度
授業の概要	本授業を通じて、下記の項目について実践現場で実施することにより身に着けた野球に関する専門的な実技力・指導力を基に、実際に指導を行う。 ・野球の基本技能（スローイング、キャッチング、バッティング、ランニング）の練習法について指導する ・ストレングストレーニング、ウォーミングアップ、クールダウン、栄養面など、身体つくりや怪我予防について指導する ・基本的な戦術（攻撃、守備、バッテリー）について指導する ・野球規則について理解した上で、実際に審判員として他年代の試合を裁く ・大会開催時における運営者の役割を理解し指導する ・野球パフォーマンス測定で使用する器具について説明・指導する ・データの基本的な処理を実施し、自分自身の目標設定の仕方を指導する 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 （コミュニケーション力）							
	■認知的領域	・野球の歴史や取り巻く環境やルール、審判法、基本的な戦術やトレーニング法について理解する。 ・大会やイベントの仕組みや成り立ちを理解する。	○	○	○	○	○		30
	■情意的領域	・主体的かつ積極的に授業に参加し、課題に取り組む。 ・大会運営に関する活動を積極的に行う。	○		○				30
	■技能的領域	・野球の基礎的な技能を身に着け指導する。 ・野球の基礎的なトレーニング法を身に着け指導する。	○	○					40

成績評価の基準	授業への出席が2/3以上という条件で、野球に関する基礎知識の理解、基礎技能の習得度、授業態度等を総合的に評価する。
テキスト、教材 参　考　書	適宜紹介する。
履修条件・ 関連科目	特になし
備考(教員メッセージ含む)	野球選手として競技能力を高めることを目指す学生や、将来野球の指導に携わろうとする学生の受講を希望する。
オフィス・アワー	随時　803教員研究室

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	藤井　雅文 鈴木　智晴	オリエンテーション	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前2	〃	野球の歴史の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前3	〃	「競技力を向上する会」に参加	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前4	〃	野球のスタイルの発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前5	〃	パフォーマンステスト（測定機器の説明と実施、測定値と目標値）の指導	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前6	〃	アスリート①（食生活、睡眠、サプリメント）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前7	〃	アスリート②（トレーニング効果、トレーニング計画、ウエイトとパフォーマンス）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前8	〃	アスリート③（W-UPとC-DOWNの重要性、可動域とパフォーマンス）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前9	〃	勝負師①（打者の戦術：好球必打）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前10	〃	勝負師②（走者の戦術：Getベース）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前11	〃	勝負師③（バッテリーの戦術）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前12	〃	勝負師④（守備の戦術：塁上死）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前13	〃	データ分析①（春季データの成績分析、秋季に向けての準備）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前14	〃	指導実習①	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前15	〃	指導実習②	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
前16	〃	指導実習③	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
後1	〃	職人①（スローイングの仕組みと科学、練習法）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
後2	〃	職人②（ピッチングの仕組みと科学、練習法）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）
後3	〃	職人③（バッティングの仕組みと科学、練習法）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（１時間）

後4	〃	職人④（ヒット＆ラン、バントの仕組みと科学、練習法）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後5	〃	職人⑤（キャッチングの仕組みと科学、練習法）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後6	〃	職人⑥（ランニングの仕組みと科学、練習法）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後7	〃	データ分析②（秋シーズン、年間シーズンの成績分析）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後8	〃	データ分析③（パフォーマンステスト、冬季シーズンの計画）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後9	〃	野球の最先端指導（Virtual Reality）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後10	〃	野球の最先端指導（セイバーメトリクス）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後11	〃	野球の最先端指導（集団心理・組織コーチング）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後12	〃	野球と職業（NPB、独立リーグ、社会人野球）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後13	〃	野球の組織運営（Core会議、戦略会議）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後14	〃	指導実習の振り返り①	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後15	〃	指導実習の振り返り②	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後16	〃	指導実習の振り返り③	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ学総論 (141A2-1200)	授業形態	講義	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	北村　尚浩・中垣内　真樹・沼尾　成晴・坂口　俊哉			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	60名以内
授業の概要	生涯スポーツ系の各領域（コミュニティ・マネジメント、健康・体力、野外教育）を概観し、基礎的な知識を身につける。生涯スポーツ論・演習を選択するための、指針となる授業科目である。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	事業運営力、指導者基礎力、専門的な知識・教養 （キャリアデザイン力、専門的な知識・教養）							
	■認知的領域	生涯スポーツ系の各領域について理解する。	○		○				60
	■情意的領域	生涯スポーツに対して関心を持つ。 提示された課題に対して積極的に取り組む。	○			○			40
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業中に行う小レポート、プレゼンテーション、課題レポート等と授業への取組状況を総合的に評価する。 3分の2以上の出席を必須とする。
テキスト、教材 参　考　書	随時資料を配布する。
履修条件・ 関連科目	生涯スポーツ学概論、スポーツ社会学を履修することが望ましい。
備考(教員メッセージ含む)	ゲストスピーカーによる講話を行うこともある。
オフィス・アワー	北村（メール：kitamura@nifs-k.ac.jp） 中垣内（メール：gaichi@nifs-k.ac.jp） 沼尾（メール：numashige@nifs-k.ac.jp) 坂口（メール：tsakaguc@nifs-k.ac.jp）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	北村　尚浩	（オンデマンド授業）授業ガイダンス	
2	〃	生涯スポーツ振興とコミュニティスポーツの役割	授業内容の予習，復習，およびレポート作成（60分）
3	〃	コミュニティスポーツの現場（1）：総合型地域スポーツクラブ	授業内容の予習，復習，およびレポート作成（60分）
4	〃	コミュニティスポーツの現場（2）：公共スポーツ施設	授業内容の予習，復習，およびレポート作成（60分）
5	〃	コミュニティスポーツの現場（3）：民間フィットネスクラブ	授業内容の予習，復習，およびレポート作成（60分）
6	中垣内　真樹 沼尾　成晴	健康の概念と制度（概論）	授業内容の予習，復習，およびレポート作成（60分）
7	〃	健康づくり施策と健康運動指導士の社会的役割	授業内容の予習，復習，およびレポート作成（60分）
8	〃	健康・体力づくりに必要な知識（介護予防概論）	授業内容の予習，復習，およびレポート作成（60分）
9	〃	健康・体力づくりに必要な知識（健康管理概論）	授業内容の予習，復習，およびレポート作成（60分）
10	〃	健康・体力づくりに必要な知識（健康づくり施策概論）	授業内容の予習，復習，およびレポート作成（60分）
11	坂口　俊哉	野外活動，アウトドア・スポーツを概観する	授業内容の予習，復習，およびレポート作成（60分）
12	〃	アウトドア・スポーツを仕事にする（ツーリズム） スポーツツーリズム，アドベンチャーツーリズムなどの動向，	授業内容の予習，復習，およびレポート作成（60分）
13	〃	アウトドア・ポーツを仕事にする（野外教育） 青少年教育における体験活動の意義，支援対象の課題や発達段階に応じた体験活動の提供	授業内容の予習，復習，およびレポート作成（60分）
14	〃	アウトドア・スポーツの基礎知識（リスクマネジメント） 安全管理の考え方、保険、服装&用具、下見の実際、ヒューマンエラー対策、危険予知トレーニング	授業内容の予習，復習，およびレポート作成（60分）
15	〃	アウトドアスポーツの基礎知識（環境保護） 身近な環境問題，生物多様性．持続可能性，SDGs ，温暖化など気候変動に対するアウトドア業界の取り組み，	授業内容の予習，復習，およびレポート作成（60分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ論・演習Ⅰ－コミュニティ・マネジメント (141A2-3200)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	隅野　美砂輝・棟田　雅也・住田　健			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2	受け入れ人数	20

授業の概要

Ⅰでは，主にスポーツマネジメントの分野から，以下の項目を取り上げる．
1．スポーツ組織やスポーツイベント, スポーツ事業のマネジメントに関する基本的な知識・方法を身につける．
2．組織のマネジメント, イベントやプログラムの開発・企画・運営に関し, 基本的な考え方を習得する．
3．課題・レポートの効果的な書き方およびプレゼンテーションの技法を身につける．

【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり
グループワーク（△）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）

授業の到達目標及び成績評価の方法

	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、キャリアデザイン力、専門的な知識・教養 （事業運営能力の習得、一般的な知識と教養を身につける、問題解決力、科学的表現力、専門的知識の習得を目指す。）							
	■認知的領域	・スポーツ組織やスポーツイベント, スポーツ事業のマネジメントに関する基本的な知識を身につける． ・組織のマネジメント, イベントやプログラムの開発・企画・運営に関し基本的な考え方を習得する．	○		○	○			70
	■情意的領域	・課題・レポートについて主体的に取り組む． ・積極的に授業に参加し意見を述べる． ・グループワークにおいても他者と共同し積極的に意見をまとめる．	○						30
	□技能的領域								

成績評価の基準	・授業への貢献度（発問対応, 質疑応答, 議論への参加など）：30％ ・小レポートや課題：30％ ・プレゼンテーション：40％
テキスト、教材 参　考　書	資料を適宜配布する．
履修条件・関連科目	・1年次の履修は認めない． ・生涯スポーツ学総論,生涯スポーツ, スポーツ産業, スポーツマネジメント系の科目を履修をしておくことが望ましい．
備考(教員メッセージ含む)	・生涯スポーツ論・演習Ⅲ－コミュニティ・マネジメントと合同で授業を行うことがある． ・受講人数によって，内容やスケジュールが変更になることがある．
オフィス・アワー	隅野美砂輝（501教員室）: 火 水 金 の昼休み（11:50 – 12:30） 棟田雅也（602教員室）: 水11:00 – 12:30 なお, 事前にアポを取ることを条件とする（メールによる連絡も可）．

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	隅野　美砂輝 棟田　雅也	オリエンテーション	シラバスを読み込む（1時間）
2	〃	スポーツコミュニティ・マネジメントとは	講義内容の予習と復習（1時間）
3	〃	スポーツ事業におけるマネジメントとは	講義内容の予習と復習（1時間）
4	〃	これまでの実習のアウトラインおよび求められた知識（1）	講義内容の予習と復習（1時間）
5	〃	これまでの実習のアウトラインおよび求められた知識（2）	講義内容の予習と復習（1時間）
6	〃	これまでの実習のアウトラインおよび求められた知識（3）	講義内容の予習と復習（1時間）
7	〃	実習に向けた身近な地域のスポーツ資源の探索	身近な地域のスポーツ資源について情報収集（1時間）
8	〃	これまでの実習先からの評価および実習先に関する課題と展望（1）	講義内容の予習と復習（1時間）
9	〃	これまでの実習先からの評価および実習先に関する課題と展望（2）	講義内容の予習と復習（1時間）
10	〃	これまでの実習先からの評価および実習先に関する課題と展望（3）	講義内容の予習と復習（1時間）
11	〃	スポーツを活用した地域課題の解決と方策	講義内容の予習と復習（1時間）
12	〃	スポーツを活用した地域課題の解決と方策に関する発表とディスカッション（1）	発表のための準備とフィードバックの振り返り（1時間）
13	〃	スポーツを活用した地域課題の解決と方策に関する発表とディスカッション（2）	発表のための準備とフィードバックの振り返り（1時間）
14	〃	スポーツを活用した地域課題の解決と方策に関する発表とディスカッション（3）	発表のための準備とフィードバックの振り返り（1時間）
15	〃	まとめ	プレゼンテーションの評価と授業の振り返り（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ論・演習Ⅱ－コミュニティ・マネジメント (141B2-3210)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	隅野　美砂輝・棟田　雅也・住田　健			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	30
授業の概要	Ⅱでは，主にコミュニティスポーツの概要について学ぶ. また，Ⅰを踏まえ，コミュニティにおけるスポーツ環境のマネジメントについても取り上げる. 各自の出身地や自身の体験を対象に，コミュニティスポーツ及びスポーツマネジメントの実態や政策を調査しながら，現実に即した内容について言及する. 夏季休業中に行う生涯スポーツ指導実習との関連にも配慮しながら進めていく. 授業を通して地域の実情に合致したスポーツ振興に関わることのできる人材となることが期待される. 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	事業運営力、コミュニケーション力、キャリアデザイン力 （専門的知識・教養，課題解決力，科学的表現力，キャリアデザイン力等幅広い分野の資質を向上し，能力を身につけること．）							
	■認知的領域	コミュニティスポーツ及びスポーツマネジメントについて現状を理解し，スポーツ振興方策について提案できるようになる.	○		○	○			40
	■情意的領域	コミュニティスポーツ及びスポーツマネジメントについて関心を持つ. 授業における課題に対して積極的に取り組む.	○		○	○			20
	■技能的領域	パワーポイントを使ったプレゼンテーション技能を身に付ける.				○			40

成績評価の基準	・授業への貢献度（発問対応、質疑応答、議論への参加など）：30% ・小レポートや課題：30% ・プレゼンテーション：40%
テキスト、教材 参　考　書	資料を適宜配布する.
履修条件・関連科目	生涯スポーツ総論, 生涯スポーツ論・演習I-コミュニティ・マネジメントの単位修得が必須. 生涯スポーツ学概論, スポーツ産業論, スポーツマーケティング論を修得していることが望ましい.
備考(教員メッセージ含む)	受講人数によって，内容やスケジュールが変更になることがある.
オフィス・アワー	隅野美砂輝（501教員室）: 火 水 金 の昼休み（11:50 - 12:30） 棟田雅也（602教員室）: 水11:00 - 12:30 なお、事前にアポを取ることを条件とする（メールによる連絡も可）.

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	隅野　美砂輝 棟田　雅也	オリエンテーション	シラバスによる事前学習および生涯スポーツ論・演習Ⅰの復習（1時間）
2	〃	スポーツコミュニティ・マネジメントの実際	講義内容の予習と復習（1時間）
3	〃	プロスポーツチームおよびリーグのマネジメント	講義内容の予習と復習（1時間）
4	〃	実習先に関係するフィールドワーク（1）	フィールドワーク先へのアポイントや情報収集（1時間）
5	〃	実習先に関係するフィールドワーク（2）	フィールドワーク先へのアポイントや情報収集（1時間）
6	〃	スポーツ事業に携わるための履歴書の書き方	講義内容の予習と復習（1時間）
7	〃	スポーツコミュニティ・マネジメントに関する輪読の方法	講義内容の予習と復習（1時間）
8	〃	スポーツコミュニティ・マネジメントに関する書籍の輪読（1）	輪読の準備とディスカッションの振り返り（1時間）
9	〃	スポーツコミュニティ・マネジメントに関する書籍の輪読（2）	輪読の準備とディスカッションの振り返り（1時間）
10	〃	スポーツコミュニティ・マネジメントに関する書籍の輪読（3）	輪読の準備とディスカッションの振り返り（1時間）
11	〃	スポーツコミュニティ・マネジメントに関する書籍の輪読（4）	輪読の準備とディスカッションの振り返り（1時間）
12	〃	実習先に関する発表とディスカッション（1）	発表のための準備とディスカッションの振り返り（1時間）
13	〃	実習先に関する発表とディスカッション（2）	発表のための準備とディスカッションの振り返り（1時間）
14	〃	スポーツファシリティ・マネジメントの実際	講義内容の予習と復習（1時間）
15	〃	まとめ	プレゼンテーションの評価と授業の振り返り（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ論・演習Ⅲ－コミュニティ・マネジメント (141B2-3211)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	隅野　美砂輝・棟田　雅也・住田　健			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	20
授業の概要	Ⅲでは，夏季休暇中に行う生涯スポーツ指導実習を題材に，コミュニティスポーツ及びスポーツマネジメントの実態の情報を提供する．実習によって得た情報を踏まえて，今後のコミュニティスポーツ及びスポーツマネジメントの発展について検討する機会を提供する． 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技指導力、事業運営力、コミュニケーション力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	実習の経験を分析して報告できる． 他者の実習の情報を自分の経験と併せて系統的に解釈できる． コミュニティスポーツ及びスポーツマネジメントの実態に関する課題を把握する．			○	○			40
	■情意的領域	自身の報告および他の受講生の報告を含む授業全体に積極的に参加する．	○			○			10
	■技能的領域	効果的なプレゼンテーション能力 イベントの企画・発信力 等を身につける．	○			○			50

成績評価の基準	・授業への貢献度（発問対応、質疑応答、議論への参加など）：30% ・実習先からの評価：20% ・プレゼンテーションや実習報告レポートなどの課題：50%
テキスト、教材 参　考　書	資料を適宜配布する．
履修条件・ 関連科目	履修条件：以下の科目を修得していること． 生涯スポーツ総論, 生涯スポーツ論・演習I -コミュニティ・マネジメント, 生涯スポーツ論・演習II-コミュニティ・マネジメント, 生涯スポーツ指導実習
備考(教員メッセージ含む)	・生涯スポーツ論・演習Ⅰ -コミュニティ・マネジメントの授業（金曜３限目）と合同で行うことがある． ・受講人数によって，内容やスケジュールが変更になることがある．
オフィス・アワー	隅野美砂輝（501教員室）: 火 水 金 の昼休み（11:50 - 12:30） 棟田雅也（602教員室）: 水11:00 - 12:30 なお, 事前にアポを取ることを条件とする（メールによる連絡も可）．

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	隅野　美砂輝 棟田　雅也	オリエンテーション / 実習の事後処理と提出物の確認	生涯スポーツ論・演習Ⅱおよび実習の復習（1時間）
2	〃	実習のアウトラインの紹介	実習の振り返り（1時間）
3	〃	スポーツ事業における求められる知識	実習の振り返り（1時間）
4	〃	実習のアウトラインおよび求められた知識の発表とディスカッション（１）	実習とディスカッションの振り返り（1時間）
5	〃	実習のアウトラインおよび求められた知識の発表とディスカッション（２）	実習とディスカッションの振り返り（1時間）
6	〃	実習のアウトラインおよび求められた知識の発表とディスカッション（３）	実習とディスカッションの振り返り（1時間）
7	〃	スポーツ事業における課題と展望	実習とディスカッションの振り返り（1時間）
8	〃	実習先からの評価および実習先の課題と展望の発表とディスカッション（１）	実習とディスカッションの振り返り（1時間）
9	〃	実習先からの評価および実習先の課題と展望の発表とディスカッション（２）	実習とディスカッションの振り返り（1時間）
10	〃	実習先からの評価および実習先の課題と展望の発表とディスカッション（３）	実習とディスカッションの振り返り（1時間）
11	〃	スポーツ事業に携わるためには	実習とディスカッションの振り返り（1時間）
12	〃	スポーツを活用した地域課題の解決と方策に関するディスカッション（1）	実習とディスカッションの振り返り（1時間）
13	〃	スポーツを活用した地域課題の解決と方策に関するディスカッション（２）	実習とディスカッションの振り返り（1時間）
14	〃	スポーツを活用した地域課題の解決と方策に関するディスカッション（３）	実習とディスカッションの振り返り（1時間）
15	〃	まとめ	生涯スポーツ論・演習および生涯スポーツ指導実習全体の振り返り（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ論・演習Ⅰ－健康・体力 (141A2-3220)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	中垣内　真樹・藤田　英二・沼尾　成晴			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	15名程度
授業の概要	健康の維持・増進の運動や生涯スポーツの普及と高齢者に至る幅広い層の対象者を指導することを目指す上で必要な運動指導に関わる基礎的な知識を習得し、実際に運動やスポーツを指導することができる能力や態度を講義および演習を通して身につけることを目指す。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（×）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	事業運営力、コミュニケーション力、専門的な知識・教養	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	健康および疾病予防、高齢者の自立維持等に関する知識を習得し、具体的な運動指導方法を身につける。	○	○	○				80
	■情意的領域	健康および疾病予防、高齢者の自立維持等に関する知識を習得し、具体的な運動指導方法を身につける。	○						10
	■技能的領域	運動指導に関わる技能を実践し、遂行できる能力を身につける。	○						10

成績評価の基準	授業期間に行なったレポート、小テスト、授業中の態度・意欲、課題などへの取組状況などの得点を合計し、60点以上の者を単位認定する。なお、2/3以上の出席に満たない場合は単位認定できない。
テキスト、教材 参　考　書	教科書：「健康運動指導士養成講習会テキスト」上下巻（公益財団法人健康・体力づくり事業財団，2024年，16800円） 参考書：「ACSM's Guidelines for Exercise Testing and Prescription, Twelfth Edition」American College of Sports Medicine，Lippincott，2025年，＄59） 参考資料は必要に応じて配布する。
履修条件・ 関連科目	生涯スポーツ学総論を履修していることが望ましい。 健康運動指導士の資格取得に必要な科目を履修していることが望ましい。
備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	中垣内：随時（研究棟4階　407研究室） 藤田　：メール（fujita@nifs-k.ac.jp） 沼尾　：メール（numashige@nifs-k.ac.jp）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中垣内　真樹 藤田　英二 沼尾　成晴	オリエンテーション	
2	中垣内　真樹	健康づくり運動の歴史とあり方を学ぶ	WebClassでの復習・小レポート（1時間）
3	沼尾　成晴	健康管理ー健康の概念、介護予防の概論を学ぶ	WebClassでの復習・小レポート（1時間）
4	〃	生活習慣病とその要因を学ぶ	WebClassでの復習・小レポート（1時間）
5	藤田　英二	虚弱高齢者への自立支援の現状と運動指導の実際を知る	WebClassでの復習・小レポート（1時間）
6	〃	機能解剖学とバイオメカニクス（運動や動作の基本を理解する）	WebClassでの復習・小レポート（1時間）
7	中垣内　真樹	基本運動プログラムの組み立て方を学ぶ	WebClassでの復習・小レポート（1時間）
8	〃	基本運動プログラムを指導するー実際の指導方法を知るー	WebClassでの復習・小レポート（1時間）
9	沼尾　成晴	有酸素性運動の理論を学ぶーウォーキングー	WebClassでの復習・小レポート（1時間）
10	〃	柔軟運動（ストレッチ）の理論と指導方法を学ぶ	WebClassでの復習・小レポート（1時間）
11	藤田　英二	レジスタンス運動の実際と運動指導方法を学ぶー筋力づくりー	WebClassでの復習・小レポート（1時間）
12	中垣内　真樹	多重課題エクササイズの実際と指導方法を学ぶースクエアステップ	WebClassでの復習・小レポート（1時間）
13	沼尾　成晴	身体組成の測定方法および評価方法を学ぶ	WebClassでの復習・小レポート（1時間）
14	〃	生活習慣病者に対する運動処方の理論と指導方法を学ぶ	WebClassでの復習・小レポート（1時間）
15	中垣内　真樹 藤田　英二 沼尾　成晴	前期まとめ	レポート（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ論・演習Ⅱ－健康・体力 (141B2-3220)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	中垣内　真樹・藤田　英二・沼尾　成晴			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	15名程度
授業の概要	健康の維持・増進の運動や生涯スポーツの普及と高齢者に至る幅広い層の対象者を指導することを目指す上で必要な運動指導に関わる技能や身体機能測定に関わる技能を習得し、実際に運動やスポーツを指導することができる能力や態度を講義、演習、実技を通して身につけることを目指す。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技指導力、事業運営力、コミュニケーション力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	健康および疾病予防、高齢者の自立維持等にかんする関する知識を習得し、具体的な運動指導方法を身につける。	○	○	○				30
	■情意的領域	健康づくりや自立維持のための運動プログラムに関心を持ち、積極的に取り組む。	○						30
	■技能的領域	運動指導に関わる技能を実践し、遂行できる能力を身につける。	○						40

成績評価の基準	授業期間に行なったレポート、小テスト、授業中の態度・意欲、課題などへの取組状況などの得点を合計し、60点以上の者を単位認定する。なお、2/3以上の出席に満たない場合は単位認定できない。
テキスト、教材 参　考　書	教科書：「健康運動指導士養成講習会テキスト」上下巻（公益財団法人健康・体力づくり事業財団，2024年，16800円） 参考書：「ACSM's Guidelines for Exercise Testing and Prescription, Twelfth Edition」American College of Sports Medicine，Lippincott，2025年，＄59） 参考資料は必要に応じて配布する。

履修条件・ 関連科目	生涯スポーツ論・演習Ⅰ―健康・体力―は履修済みであり、学外実習を履修していること。 健康運動指導士の資格取得に必要な科目を履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	中垣内：随時（研究棟4階　407研究室） 藤田　：メール（fujita@nifs-k.ac.jp） 沼尾　：メール（numashige@nifs-k.ac.jp）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中垣内　真樹 藤田　英二 沼尾　成晴	オリエンテーション	
2	〃	個人による運動の実践と指導　　―ノルディックウォーキングを経験する―	小レポート（30分）
3	〃	身体組成の評価方法を学ぶ①　　―DXA法―	WebClassでの復習（30分）
4	〃	身体組成の評価方法を学ぶ②　　―DXA法―	小レポート（30分）
5	〃	中高齢者の身体機能の評価方法を学ぶ　－フィールドテスト－	小レポート（30分）
6	〃	生涯スポーツ実習にむけた取り組み①　ー必要書類の作成方法を学ぶー	小レポート（30分）
7	〃	生涯スポーツ実習にむけた取り組み②　ー必要書類を作成する①ー	小レポート（30分）
8	〃	生涯スポーツ実習にむけた取り組み③　ー必要書類を作成する②ー	小レポート（30分）
9	〃	高齢者の認知機能の評価方法を学ぶ　―認知機能検査―	小レポート（30分）
10	〃	高齢者の筋力運動の実践と指導　―貯筋運動―	小レポート（30分）
11	〃	肥満改善と脳賦活の運動指導のあり方　－サーキット運動と多重課題運動－	小レポート（30分）
12	〃	運動指導の実際（指導現場を知る）　－貯筋運動－	小レポート（30分）
13	〃	運動指導の実際（指導現場を知る）　－中高齢者の健康支援－	小レポート（30分）
14	〃	運動指導現場での取り組み　－生涯スポーツ実習にむけて－	小レポート（30分）
15	〃	まとめ	レポート（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ論・演習Ⅲ－健康・体力 (141B2-3221)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	中垣内　真樹・藤田　英二・沼尾　成晴			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	15名程度
授業の概要	前期の生涯スポーツ論・演習Ⅰ－健康・体力および学外実習後の授業としてそれまでの総括をおこなうとともに健康運動指導士の受験資格取得に向けて実際に様々な対象者に運動やスポーツを指導することができる能力や態度を講義、実習を通して身につけることを目指す。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	実技指導力、事業運営力、コミュニケーション力							
	■認知的領域	健康および疾病予防、高齢者の自立維持等にかんする知識を習得し、具体的な運動指導方法を身につける。	○	○	○				20
	■情意的領域	健康づくりや自立維持のための運動プログラムに関心を持ち、積極的に取り組む。	○						30
	■技能的領域	運動指導に関わる技能を実践し、遂行できる能力を身につける。	○						50

成績評価の基準	授業期間に行なったレポート、小テスト、授業中の態度・意欲、課題などへの取組状況などの得点を合計し、60点以上の者を単位認定する。なお、2/3以上の出席に満たない場合は単位認定できない。
テキスト、教材 参　考　書	教科書：「健康運動指導士養成講習会テキスト」上下巻（公益財団法人健康・体力づくり事業財団，2024年，16800円） 参考書：「ACSM's Guidelines for Exercise Testing and Prescription, Twelfth Edition」American College of Sports Medicine，Lippincott，2025年，＄59） 参考資料は必要に応じて配布する。
履修条件・ 関連科目	生涯スポーツ論・演習ⅠおよびⅡ―健康・体力―は履修済みであり、学外実習を履修していること。 健康運動指導士の資格取得に必要な科目を履修していることが望ましい。
備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	中垣内：随時（研究棟4階　407研究室） 藤田　：メール（fujita@nifs-k.ac.jp） 沼尾　：メール（numashige@nifs-k.ac.jp）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中垣内　真樹 藤田　英二 沼尾　成晴	オリエンテーション	
2	〃	学生の夏期学外実習の報告①　－課題をそれぞれ共有して運動指導の質的向上を図る－	小レポート（30分）
3	〃	学生の夏期学外実習の報告②　－課題をそれぞれ共有して運動指導の質的向上を図る－	小レポート（30分）
4	〃	学生の夏期学外実習の報告③　－課題をそれぞれ共有して運動指導の質的向上を図る－	小レポート（30分）
5	〃	学生の夏期学外実習の報告④　－課題をそれぞれ共有して運動指導の質的向上を図る－	小レポート（30分）
6	〃	中高齢者のための運動指導の実際（実習）	小レポート（30分）
7	〃	中高齢者のための運動指導の実際（実習）	小レポート（30分）
8	〃	中高齢者のための運動指導の実際（実習）	小レポート（30分）
9	〃	中高齢者のための運動指導の実際（実習）	小レポート（30分）
10	〃	中高齢者のための運動指導の実際（実習）	小レポート（30分）
11	〃	中高齢者のための運動指導の実際（実習）	小レポート（30分）
12	〃	中高齢者のための運動指導の実際（実習）	小レポート（30分）
13	〃	中高齢者のための運動指導の実際（実習）	小レポート（30分）
14	〃	中高齢者のための運動指導の実際（実習）	小レポート（30分）
15	〃	後期のまとめ	レポート（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ論・演習Ⅰ－野外教育 (141A2-3230)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	坂口　俊哉			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	―

授業の概要	アウトドアスポーツを中心に、レジャー、レクリエーション、野外教育などの場で実施されている様々なアクティビティーについて概観する。また、一部のアクティビティーについては、実際に体験する機会を設ける。講義では、これらのアクティビティーを成り立たせている様々な資源(人、物、金、情報)に目を向けることで、アウトドアスポーツの普及や発展に必要な要素について検討する。具体的作業として、グループ・ディスカッションに基づいた発表をしてもらう。 サービス消費者としての視点とサービス提供サイドの視点の両方から日本のアウトドアスポーツを俯瞰することで、「アウトドアスポーツ」「野外活動」「レクリエーション」「レジャー」「野外教育」それぞれのイメージを明確にすることが求められる。 この科目の受講生は、次の年度以降で「生涯スポーツ論・演習Ⅱ－野外活動」、「生涯スポーツ指導実習－野外教育施設」を選択することを前提としている。 この科目を履修することで、実習先の選択のために必要な基礎知識を身につけることが最終目標である。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技指導力、事業運営力、コミュニケーション力 （専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	「アウトドアスポーツ」「野外活動」「レクリエーション」「レジャー」「野外教育」とは何か？その概念や目的、内容などについて自分自身の言葉で説明できるようになることを目標とする。		○	○				50
	■情意的領域	他者の考えを理解しようとする姿勢と、自己の考えを他者に伝える積極的な姿勢を身につけることを目標とする。	○			○			30
	■技能的領域	インターネットなどのメディアを利用した情報収集とその結果の提示の仕方を身につけること。テントの設営、タープの設営、ロープワークなどの技能を身につけること。			○	○			20

成績評価の基準	アウトドアスポーツ産業に関連するレポートを複数回提出してもらう。 グループディスカッションに基づいたプレゼンテーション（発表）を複数回実施する。これらの内容から総合的に評価する。
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて資料を配付する。教科書指定はない。参考図書として次の書籍を推薦する。「レジャー白書」公益財団法人日本生産性本部、「野外教育入門－やさしくわかる自然体験活動」星野敏男他編著、小学館、「野外教育の理論と実際－組織キャンプ入門」東京YMCA野外教育研究所編、学分社。

履修条件・関連科目	生涯スポーツ指導実習で野外教育施設での実習を希望する学生はこの科目を履修する必要がある。 生涯スポーツ学総論、生涯スポーツレクリエーション＆ゲームズ、アウトドアスポーツ実習（夏季）などを履修することが望ましい。 野外活動Ⅰ・Ⅱのいずれかについては、必ず履修すること。	備考(教員メッセージ含む)	授業中にディスカッションする機会を設ける。積極的な取り組みを期待する。
オフィス・アワー	随時対応しますが、事前に連絡をもらえると確実です(tsakaguc@nifs-k.ac.jp）。大学院生棟３Ｆ 教官室１		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	坂口　俊哉	オリエンテーション（学外実習について、授業の進め方について）	課題１：マインドマップの作成方法について学ぶこと（60分）
2	〃	野外教育・野外活動・自然体験活動・組織キャンプ（関連用語と概念の整理）	課題2：NEALの資格認定制度のについて調べ，制度の狙いやカリキュラムについて学習すること．また類似した資格にどのようなものがあるのか調べること．（60分）
3	〃	組織キャンプの実際（目的、対象、アクティビティー、運営組織など）	課題3：配布資料を読んで，野外教育の歴史について学ぶこと（60分）
4	〃	野外活動のプログラム(アクティビティーの様々と課題、学校教育との関係)	課題4：マインドマップの作成（60分）
5	〃	野外教育の歴史と社会的背景（定義、意義、目的）	課題5：配布資料を読んで，野外教育の目的について理解を深めること．（60分）
6	〃	体験１（アイスブレイク、ロープワーク）	課題6：アイスブレイクとは何か，どのようなことをするのか，情報を収集しておくこと．（60分）
7	〃	野外活動の指導者（資格、統括団体）	課題7：ロープワークプログラム作成のための情報を収集しておくこと（60分）
8	〃	野外活動の動向（種目の多様化、参加人口など）	課題8：レジャー白書から，スキー，キャンプの2種目について実施率の推移を調べておくこと．（60分）
9	〃	野外活動・野外教育のリスクマネジメントと法的責任	課題9：登山中に発生するリスクについて情報を収集すること．特に，山岳遭難の動向を対象とする．（60分）
10	〃	環境教育と野外活動・教育	課題10：アウトドアスポーツと関連する環境問題に関する新聞記事を読み，そのコピーと内容を要約したレポートを準備すること．（60分）
11	〃	体験２（スラックライン）	課題11：スラックライン指導マニュアル作成（60分）
12	〃	野外活動の用具(地図、コンパス、バーナー、ランタンなどの取り扱い方)	課題12：火器を使用する場合のマニュアル作成（60分）
13	〃	野外教育の施設（自然の家など）の現状と課題	課題13：視察した施設の概要と利用者（引率者）の立場からチェックした問題点をまとめておくこと（60分）
14	〃	体験３（PA プログラム）	課題14：PAプログラムの指導マニュアルを作成すること（90分）
15	〃	野外教育をセントラルイメージとしたマインドマップの発表と比較・検討	課題15：野外教育をセントラルイメージとしたマインドマップの提出、発表準備（60分）。

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ論・演習Ⅱ－野外教育 (141B2-3230)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	坂口　俊哉			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	―
授業の概要	野外教育や野外活動指導者として必要な知識を身につけることを目標としている。具体的には、野外教育の意義や価値、野外教育が必要とされる社会的な背景や野外教育の歴史について学ぶ。また、野外教育を取り巻く課題について検討する。 生涯スポーツ指導実習で、「野外教育施設」での実習を希望する学生にとっては必修の講義科目である。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	実技指導力、事業運営力、コミュニケーション力 （専門的な知識・教養）							
	■認知的領域	野外教育とは何か？野外活動とは何か？その目的などについて自分自身の言葉で説明できるようになること。野外教育プログラムのポイントを理解することを目標とする。			○				50
	■情意的領域	他者の考えを理解しようとする姿勢と、自己の考えを他者に伝える積極的な姿勢を身につけることを目標とする。	○			○			30
	■技能的領域	インターネットなどのメディアを利用した情報収集とその結果の提示の仕方を身につけること アウトドア用品の扱い方（テント、シュラフ、火器類など）を身につける			○	○			20

成績評価の基準	野外教育とは何か，自然体験活動などの周辺概念を含めた理解度を評価する．また、学外実習に向けた準備のための施設選び、プログラムへの理解と準備などの条件について課されるレポート、プレゼンテーションの内容を総合的に判断する．		
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて資料を配付する。教科書指定はない。参考図書として次の書籍を推薦する。「野外教育入門－やさしくわかる自然体験活動」星野敏男他編著、小学館、「野外教育の理論と実際－組織キャンプ入門」東京YMCA野外教育研究所編、学分社。		
履修条件・ 関連科目	生涯スポーツ指導実習で野外教育施設での実習を希望する学生はこの科目を履修する必要がある。 生涯スポーツレクリエーション＆ゲームズ，野外活動，夏季山岳レジャー・スポーツ実習などを履修していることが望ましい。 野外活動Ⅰ・Ⅱのいずれかについては、必ず履修しておくこと。	備考(教員メッセージ含む)	授業中にディスカッションする機会を設ける。積極的な取り組みを期待する。
オフィス・アワー	随時対応しますが、事前に連絡をもらえると確実です(tsakaguc@nifs-k.ac.jp）。大学院生棟３F 教官室１		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	坂口　俊哉	オリエンテーション（学外実習について、授業の進め方について）	課題１：履修を希望する野外教育施設の名称、規模、運営形態などについて調べておくこと（60分）
2	〃	野外教育プログラムの実際１（導入）	課題2：野外教育プログラムで頻繁に行われているアイスブレイクプログラムについて、その内容をレポートすること（60分）
3	〃	野外教育プログラムの実際２（導入の実践）	課題3：授業内で実施したプログラムの動画を確認して改善点について検討したレポートを作成しておくこと。次週の授業で報告してもらう。
4	〃	野外教育プログラムの実際３(導入のマニュアル化)	課題4：アイスブレイクプログラムを実施するためのマニュアルを作成する（60分）
5	〃	野外教育の目的設定とプログラム設定(不登校への対応)	課題5：国立の自然の家などの取り組み事例を探し、募集対象、開催時期、プログラムの内容について詳細あに調べておくこと（60分）
6	〃	野外教育の目的設定とプログラム設定(防災キャンプ)	課題6：防災キャンプの実例について情報を収集し、５分間で内容を紹介するための準備をしておくこと（60分）
7	〃	野外教育の目的設定とプログラム設定(ロープワーク１)	課題7：ロープワークプログラム作成のための情報を収集しておくこと（60分）
8	〃	野外教育の目的設定とプログラム設定(ロープワーク２)	課題8：ロープワークの指導を目的とした動画を撮影して編集しておくこと（60分）
9	〃	実習施設の選択１	課題9：実習施設の紹介を各自行ってもらう。プレゼンテーションの準備が必要である詳細は授業で指示する（60分）
10	〃	実習施設の選択	課題10：実習に必要な書類の作成（60分）
11	〃	体験１（スラックライン）	課題11：スラックライン指導マニュアル作成（60分）
12	〃	野外活動の用具(地図、コンパス、バーナー、ランタンなどの取り扱い方)	課題12：火器・刃物を使用する場合のマニュアル作成（60分）
13	〃	野外活動の用具(テント、タープ、シュラフなどの取り扱い)	課題13：3泊4日のソロキャンプに必要な持ち物リストを作成しておくこと（60分）
14	〃	体験2（PA プログラム）	課題14：PAプログラムの体験中の心理的状況を詳細にレポートすること（90分）
15	〃	野外教育施設での実習をセントラルイメージとしたマインドマップの発表	課題15：野外教育施設での実習をセントラルイメージとしたマインドマップの作成と発表準備をしておくこと（60分）。

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ論・演習Ⅲ－野外教育 (141B2-3231)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	坂口　俊哉			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3	受け入れ人数	―
授業の概要	野外教育施設での実習内容を振り返り，野外教育の理論と実践について理解を深めることを目標としています．具体的には，各施設で実施された野外活動プログラムの内容・目的・対象とプログラムの企画運営について発表を行ってもらいます．また，これらの情報をもとに，新たな野外活動プログラムの企画・立案を行い発表してもらいます． 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	実技指導力、事業運営力、コミュニケーション力 （指導者基礎力，専門的な知識・教養）							
	■認知的領域	・野外教育の目的と効果について整理する． ・効果的な野外教育のための企画・運営のポイントについて理解する．	○		○	○			40
	■情意的領域	・自身の意見を積極的に発信する力を身につける． ・他者の意見を傾聴する姿勢を身につける．	○			○			20
	■技能的領域	・パワーポイントを使用した効果的なプレゼンテーション能力を身につける． ・野外活動のプランニング能力を身につける．	○		○	○			40

成績評価の基準	1.スポーツ指導実習の内容についての報告 2.野外活動の企画発表内容 3.授業への取り組み を総合的に判断して評価する．
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて資料を配付する．

履修条件・関連科目	生涯スポーツ論・演I-野外教育論・演習を履修していること．また，野外教育分野の生涯スポーツ指導実習を終了していること， 野外教育関連活動のボランティア経験，指導経験があることを条件として考慮する場合もある．	備考(教員メッセージ含む)	履修学生の人数によって授業内容に変更がある場合がある．
オフィス・アワー	授業に関する質問・相談については随時受け付けています．事前にメールで連絡してもらえると確実です.以下のアドレスに連絡してください. tsakaguc@nifs-k.ac.jp		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	坂口　俊哉	ガイダンス(授業内容,授業の進め方,成績の評価)	課題1:実習日誌をもとに,実習中の行動を一覧表にして提出すること．(60分)
2	〃	野外教育プログラムの実際と評価ポイント:アウトドアスポーツ実習（夏季）を例として	課題2.「大人のキャンプin甑島」の報告書を読んで,キャンプ企画運営の問題点について整理してレポートすること．(90分)
3	〃	野外教育プログラムの実際と評価ポイント:甑島アイランドキャンパス事業を例として	課題3：授業で学んだ評価のポイントに沿って，報告書に記載された内容を再評価すること．（60分）
4	〃	野外教育プログラムの支援の実際:企画,運営作業の整理,プレゼンテーション準備(報告のポイント)	課題4：実習内容の報告準備．何を伝えるか，骨子を明確にすること．（60分）
5	〃	プレゼンテーション準備:グループ分け,役割分担,発表順の決定	課題5：プレゼンテーションの作成（60分）
6	〃	プレゼンテーション1:実習内容の発表と実習内容の検討	課題6：授業中のプレゼンテーションの内容と討論の内容についてまとめたものをレポートすること．(60分)
7	〃	プレゼンテーション2:実習内容の発表と実習内容の検討	課題7:授業中のプレゼンテーションの内容と討論の内容についてまとめたものをレポートすること．(60分)
8	〃	プレゼンテーション3:実習内容の発表と実習内容の検討	課題8：授業中のプレゼンテーションの内容と討論の内容についてまとめたものをレポートすること．(60分)
9	〃	野外教育プログラムの企画:コンセプト作り,目的の設定,プログラム内容の検討	課題9：授業中に話し合った内容についてまとめ，レポートを作成すること．（60分）
10	〃	野外教育プログラムの企画:日程の確定,スタッフ配置,スタッフ行動表の作成,備品リストの作成.	課題10：野外教育プログラムの企画書（募集要項）の作成．（60分）
11	〃	野外教育プログラムの企画:施設利用申請の実際,参加者名簿,利用施設と活動内容,雨天プログラム,リスクマネジメントの計画.	課題11：スポーツを実施する上での様々なリスクに対応した保険の情報を収集しておくこと．怪我をした場合，死亡した場合（被害を受けた場合）だけでなく加害者になった場合についても調べておくこと．（60分）
12	〃	野外教育プログラムの企画：リスクマネジメントの具体策	課題12：バックカントリーでのスキー・スノーボードにおける自治体やスキー場の対応例について，以下の視点から情報を収集すること．１．活動場所の制限方法，２．制限のための人員確保，３．様々な費用の確保方法．（60分）
13	〃	野外活動に対する助成金:助成団体,申請手続き	課題13：野外活動の普及・発展などを目的とした助成金について，助成の対象，助成金学，申請方法，成果の報告方法などについて情報を収取しておくこと．（60分）
14	〃	野外活動と地方自治体の取り組み:被災地の復興,過疎地の活性化,観光地の集客例	課題14:企画案の提出とプレゼンテーションの準備．（120分）
15	〃	プレゼンテーション4:野外教育プログラムの企画発表と討論	

授業科目名 (ナンバリングコード)	専修武道論・実習Ⅰ－柔道 (141A3-5210)	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	小澤　雄二・小崎　亮輔			補助担当者名	
単位数	6　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	25名程度
授業の概要	本授業は柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等を、講義と実技の複合型授業方法により学び、実践的指導力を身に付けることができる授業内容である。そのために、柔道の特性を理解し、専門的な知識及び技能（講道館柔道の形を含む）を向上させることを目指している。 本授業で身に付けた対象や目的に応じた実践的指導力をさらに高め、適切に指導・助言できることが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等を理解し、他者に伝える能力が身に付く。	○	○	○				30
	■情意的領域	他者と協力しながら、自ら積極的に学ぼうとする態度が身に付く。	○						30
	■技能的領域	柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等が身に付き、実践することができる。	○	○			○		40

成績評価の基準	専門的な理論、技能、審判法、指導法等の理解度や学習意欲から総合的に判断して、60点以上の者に単位を与える。1/3以上の欠席により単位は認定されない。
テキスト、教材 参　考　書	随時、資料を配布する。
履修条件・ 関連科目	武道課程柔道を専攻する学生は必修科目である。
備考(教員メッセージ含む)	1. 欠席届は必ず本人が提出すること。 2. 授業計画は授業の進捗状況や社会情勢等により変更もあり得る。 3. 身体活動に伴う安全管理のため、授業開始後４０分以降からの授業参加は認めないこととする。
オフィス・アワー	随時：研究棟5階 502研究室

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	小澤　雄二 小崎　亮輔	オリエンテーション（柔道の特性、授業計画等の説明） （武道館にて柔道衣着用）	課外活動を活用して30～60分の自主学習
前2	〃	柔道場の環境を活かしたウォーミングアップ	課外活動を活用して30～60分の自主学習
前3	〃	競技力向上の会参加	
前4	〃	形及び対人動作における理論とかかり練習（打ち込み）の習得①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前5	〃	形及び対人動作における理論とかかり練習（打ち込み）の習得②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前6	〃	形及び対人動作における理論と約束練習（投げ込み）の習得①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前7	〃	形及び対人動作における理論と約束練習（投げ込み）の習得②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前8	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前9	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前10	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前11	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上④	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前12	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑤	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前13	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑥	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前14	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑦	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前15	〃	前期総括	
後1	〃	形の理論と審判法の解説・実習①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後2	〃	形の理論と審判法の解説・実習②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後3	〃	形の理論と審判法の解説・実習③	課外活動を活用して30～60分の自主練習

後4	〃	形の理論と固め技の技能習得①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後5	〃	形の理論と固め技の技能習得②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後6	〃	形の理論と固め技の技能習得③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後7	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後8	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後9	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後10	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上④	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後11	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上⑤	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後12	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上⑥	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後13	〃	実技技能の総括①　プレテストを実施	
後14	〃	実技技能の総括②　プレテストを実施	
後15	〃	実技技能の総括③　プレテストを実施	
後16	〃	最終評価	

授業科目名 (ナンバリングコード)	専修武道論・実習Ⅱ－柔道 (141A3-5211)	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	小澤　雄二・小崎　亮輔			補助担当者名	
単位数	6　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	25名程度
授業の概要	本授業は柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等を、講義と実技の複合型授業方法により学び、実践的指導力を身に付けることができる授業内容である。そのために、柔道の特性を理解し、専門的な知識及び技能（講道館柔道の形を含む）を向上させることを目指している。 本授業では、1年次の「専修武道論・実習Ⅰ-柔道」で学んだ対象や目的に応じた実践的指導力をさらに高めることが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力							
	■認知的領域	柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等を理解し、適切に他者に伝える能力が身に付く。	○	○	○				30
	■情意的領域	他者と協力しながら、自ら積極的に学ぼうとする態度が身に付く。	○						30
	■技能的領域	柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等が身に付き、実践・応用することができる。	○	○			○		40

成績評価の基準	専門的な理論、技能、審判法、指導法等の理解度や学習意欲から総合的に判断して、60点以上の者に単位を与える。1/3以上の欠席により単位は認定されない。
テキスト、教材 参　考　書	随時、資料を配布する。

履修条件・関連科目	武道課程柔道を専攻する学生は必修科目である。	備考(教員メッセージ含む)	1．欠席届は必ず本人が提出すること。 2．授業計画は授業の進捗状況や社会情勢等により変更もあり得る。 3. 身体活動に伴う安全管理のため、授業開始後４０分以降からの授業参加は認めないこととする。
オフィス・アワー	随時：研究棟5階 502研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	小澤　雄二 小崎　亮輔	オリエンテーション（柔道の特性、授業計画等の説明） （武道館にて柔道衣着用）	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前2	〃	柔道場の環境を活かしたウオーミングアップ	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前3	〃	競技力向上の会参加	
前4	〃	形及び対人動作における理論とかかり練習（打ち込み）の習得①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前5	〃	形及び対人動作における理論とかかり練習（打ち込み）の習得②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前6	〃	形及び対人動作における理論と約束練習（投げ込み）の習得①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前7	〃	形及び対人動作における理論と約束練習（投げ込み）の習得②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前8	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前9	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前10	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前11	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上④	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前12	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑤	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前13	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑥	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前14	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑦	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前15	〃	前期総括	
後1	〃	形の理論と審判法の解説・実習①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後2	〃	形の理論と審判法の解説・実習②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後3	〃	形の理論と審判法の解説・実習③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後4	〃	形の理論と固め技の技能習得①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後5	〃	形の理論と固め技の技能習得②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後6	〃	形の理論と固め技の技能習得③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後7	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後8	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後9	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後10	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上④	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後11	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上⑤	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後12	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上⑥	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後13	〃	実技技能の総括①　プレテストを実施	
後14	〃	実技技能の総括②　プレテストを実施	
後15	〃	実技技能の総括③　プレテストを実施	
後16	〃	最終評価	

授業科目名 (ナンバリングコード)	専修武道論・実習Ⅲ－柔道 (141B3-5210)	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	小澤　雄二・小崎　亮輔			補助担当者名	
単位数	6　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	25名程度
授業の概要	本授業は柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等を、講義と実技の複合型授業方法により学び、実践的指導力を身に付けることができる授業内容である。そのために、柔道の特性を理解し、専門的な知識及び技能（講道館柔道の形を含む）を向上させることを目指している。 本授業では、1・2年次で身に付けた対象や目的に応じた実践的指導力をさらに高め、適切に指導・助言できることが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等を理解し、適切に他者に伝える能力が身に付く。	○	○	○				30
	■情意的領域	他者と協力しながら、自ら積極的に学ぼうとする態度が身に付く。	○						30
	■技能的領域	柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等が身に付き、実践・応用しながら適切に指導・助言することができる。	○	○			○		40

成績評価の基準	専門的な理論、技能、審判法、指導法等の理解度や学習意欲から総合的に判断して、60点以上の者に単位を与える。1/3以上の欠席により単位は認定されない。		
テキスト、教材 参　考　書	随時、資料を配布する。		
履修条件・ 関連科目	武道課程柔道を専攻する学生は必修科目である。	備考(教員メッセージ含む)	1．欠席届は必ず本人が提出すること。 2．授業計画は授業の進捗状況や社会情勢等により変更もあり得る。 3. 身体活動に伴う安全管理のため、授業開始後４０分以降からの授業参加は認めないこととする。
オフィス・アワー	随時：研究棟5階 502研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	小澤　雄二 小崎　亮輔	オリエンテーション（柔道の特性、授業計画等の説明） （武道館にて柔道衣着用）	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前2	〃	柔道場の環境を活かしたウォーミングアップ	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前3	〃	競技力向上の会参加	
前4	〃	形及び対人動作における理論とかかり練習（打ち込み）の習得①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前5	〃	形及び対人動作における理論とかかり練習（打ち込み）の習得②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前6	〃	形及び対人動作における理論と約束練習（投げ込み）の習得①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前7	〃	形及び対人動作における理論と約束練習（投げ込み）の習得②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前8	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前9	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前10	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前11	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上④	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前12	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑤	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前13	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑥	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前14	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑦	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前15	〃	前期総括	
後1	〃	形の理論と審判法の解説・実習①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後2	〃	形の理論と審判法の解説・実習②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後3	〃	形の理論と審判法の解説・実習③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後4	〃	形の理論と固め技の技能習得①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後5	〃	形の理論と固め技の技能習得②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後6	〃	形の理論と固め技の技能習得③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後7	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後8	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後9	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後10	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上④	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後11	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上⑤	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後12	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上⑥	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後13	〃	実技技能の総括①　プレテストを実施	
後14	〃	実技技能の総括②　プレテストを実施	
後15	〃	実技技能の総括③　プレテストを実施	
後16	〃	最終評価	

授業科目名 (ナンバリングコード)	専修武道論・実習Ⅳ－柔道	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	小澤　雄二・小崎　亮輔			補助担当者名	
単位数	6　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	25名程度
授業の概要	本授業は柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等を、講義と実技の複合型授業方法により学び、実践的指導力を身に付けることができる授業内容である。そのために、柔道の特性を理解し、専門的な知識及び技能（講道館柔道の形を含む）を向上させることを目指している。 本授業では、1・2・3年次で身に付けた対象や目的に応じた実践的指導力を基に、適切かつ体系的に指導・助言できることが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力							
	■認知的領域	柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等を理解し、他者に適切かつ具体的・体系的に伝える能力が身に付く。	○		○				30
	■情意的領域	他者と協力しながら、自ら積極的に学ぼうとする態度が身に付く。	○						30
	■技能的領域	柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等が身に付き、実践・応用しながら適切かつ体系的に指導・助言することができる。	○	○			○		40

成績評価の基準	専門的な理論、技能、審判法、指導法等の理解度や学習意欲から総合的に判断して、60点以上の者に単位を与える。1/3以上の欠席により単位は認定されない。
テキスト、教材 参　考　書	随時、資料を配布する。
履修条件・ 関連科目	専修武道論・実習Ⅲ－柔道の単位取得者が履修できる。
備考(教員メッセージ含む)	1．欠席届は必ず本人が提出すること。 2．授業計画は授業の進捗状況や社会情勢等により変更もあり得る。 3. 身体活動に伴う安全管理のため、授業開始後４０分以降からの授業参加は認めないこととする。
オフィス・アワー	随時：研究棟5階 502研究室

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	小澤　雄二 小崎　亮輔	オリエンテーション（柔道の特性、授業計画の説明） （武道館にて柔道衣着用）	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前2	〃	柔道場の環境を活かしたウォーミングアップ	課外活動を活用して30～60分の自主学習
前3	〃	競技力向上の会参加	
前4	〃	形及び対人動作における理論とかかり練習（打ち込み）の習得①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前5	〃	形及び対人動作における理論とかかり練習（打ち込み）の習得②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前6	〃	形及び対人動作における理論と約束練習（投げ込み）の習得①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前7	〃	形及び対人動作における理論と約束練習（投げ込み）の習得②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前8	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前9	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前10	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前11	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上④	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前12	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑤	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前13	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑥	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前14	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑦	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前15	〃	前期総括	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後1	〃	形の理論と審判法の解説・実習①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後2	〃	形の理論と審判法の解説・実習②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後3	〃	形の理論と審判法の解説・実習③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後4	〃	形の理論と固め技の技能習得①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後5	〃	形の理論と固め技の技能習得②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後6	〃	形の理論と固め技の技能習得③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後7	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後8	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後9	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後10	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上④	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後11	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上⑤	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後12	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上⑥	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後13	〃	実技技能の総括①　プレテストを実施	
後14	〃	実技技能の総括②　プレテストを実施	
後15	〃	実技技能の総括③　プレテストを実施	
後16	〃	最終評価	

授業科目名 (ナンバリングコード)	専修武道論・実習Ⅰ－剣道 (141A3–5220)	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	前阪　茂樹・竹中　健太郎・大城戸　知			補助担当者名	
単位数	6　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	30

授業の概要

本科目は日本の伝統文化・武道の中でも特に「生涯武道」といわれる「剣道」に関して、自らの実技力を高め続けていくとともに、実践者の年齢、目的等に応じた体系的な実技指導力や大会運営のための諸能力（審判等も含む）を修学全期に渡って身につけていく科目（Ⅰ～Ⅳ）である。
授業内容・方法については、剣道の理念、修錬の心構え、指導の心構えを俯瞰しつつ、それらに則した実技、形、指導法、試合・審判及び大会運営の在り方を講義＋実技の複合型授業方法により学ぶ。

尚、前期授業の1回分が全学行事「競技力向上の会」に振り替えられる。

【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり
グループワーク（○）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、指導者基礎力 （実技指導力　専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	剣道の理念及び技能全般における基礎的な知識を理解することができる。	○		○			○ (＊)	10
	■情意的領域	正しい着具・着装や立居振舞いなどのモラル・マナーや基本に即した技術の習得を意欲的に取り組むことができる。	○					○ (＊)	40
	■技能的領域	正しい基本動作を習得する。	○	○			○	○ (＊)	50

成績評価の基準	＊授業の出席、日頃の修行態度、取り組み内容及び試験等を通して総合的に評価し、60点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	「剣道指導要領」 「剣道社会体育教本」 「剣道試合・審判規則」 「日本剣道形解説書」 「木刀による剣道基本技稽古法」		
履修条件・ 関連科目	武道課程剣道を専攻する学生は必修科目である。	備考(教員メッセージ含む)	武道系専修科目（専修武道Ⅰ～Ⅳ）は、剣道を専門的に学習しようとする者に門戸を開いています。従って正課授業への出席は勿論のこと、正課外の諸活動（剣道部活動含む）を通して剣道の技倆向上に努めて下さい。 尚、授業で使用する剣道具類はすべて各自持参するものとします。
オフィス・アワー	月～木曜日：16：00 ～16：30、武道館２F 剣道教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	前阪　茂樹 竹中　健太郎 大城戸　知	第1～5回目　基本的技能の習得と稽古 （1）剣道の歴史・特性及び理念等の概説 （2）正しい着装・着具、作法・礼法の指導と安全管理Ⅰ （3）基本動作(単独・相対) （4）攻めの分析と対人的技能Ⅰ(主にしかけ技) （5）攻めの分析と対人的技能Ⅱ(懸待一致の修錬、しかけ・応じ技) （6）木刀による剣道基本技稽古法 （7）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前2	前阪　茂樹 竹中　健太郎	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前3	〃	競技力向上の会　参加	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前4	〃	上１に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前5	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前6	〃	第6～10回目　各種稽古法の理解とその実践 （1）切り返し （2）約束稽古 （3）打ち込み稽古 （4）かかり稽古 （5）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前7	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前8	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前9	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）

前10	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前11	〃	第11～14回目　試合・審判法の実習と稽古 （1）試合・審判規則・運営要領の解説 （2）試合・審判実技 （3）様々な試合の方法と審判実技 （4）大会形式での運営と評価 （5）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前12	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前13	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前14	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前15	〃	前期の総括と仮評価	
後1	〃	第1～5回目　指導法の研修と稽古 （1）「剣道指導の心構え」概説 （2）剣道指導の在り方（目的・目標・計画） （3）個人指導法(基本～応用) （4）集団指導法（対象別） （5）年齢・目的等に応じた指導法の研究 （6）稽古時における事故対応の観察と対処 （7）道場の衛生管理と安全管理Ⅱ （8）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後2	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後3	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後4	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後5	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後6	〃	第6回目　剣道に即したトレーニング法と稽古 （1）体力トレーニング （2）柔軟性、敏捷性・持久性をつけるトレーニング （3）剣道基本稽古 （4）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後7	〃	第7～13回目　日本剣道形の実習と稽古 （1）日本剣道形について（形修錬の意義・目的・制定の経緯等） （2）日本剣道形 太刀形 1-3 本目 （3）日本剣道形 太刀形 4-7 本目 （4）日本剣道形 小太刀形 1-3 本目 （5）日本剣道形と剣道技能の関連性の追求 （6）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後8	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後9	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後10	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後11	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後12	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後13	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後14	〃	実技の総括① プレテスト	
後15	〃	実技の総括② プレテスト 剣道具類等の管理と点検	
後16	〃	最終評価	道場及び付帯施設の管理・点検・整備

授業科目名 (ナンバリングコード)	専修武道論・実習Ⅱ－剣道 (141A3-5221)	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	前阪　茂樹・竹中　健太郎・大城戸　知			補助担当者名	
単位数	6　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	30

授業の概要

本科目は日本の伝統文化・武道の中でも特に「生涯武道」といわれる「剣道」に関して、自らの実技力を高め続けていくとともに、実践者の年齢、目的等に応じた体系的な実技指導力や大会運営のための諸能力（審判等も含む）を修学全期に渡って身につけていく科目（Ⅰ～Ⅳ）である。
授業内容・方法については、剣道の理念、修錬の心構え、指導の心構えを俯瞰しつつ、それらに則した実技、形、指導法、試合・審判及び大会運営の在り方を講義＋実技の複合型授業方法により学ぶ。
本授業では、1年次の「専修武道論・実習I-剣道」で学んだ剣道の技能の錬度をより高めて実践できる能力を身につけることが期待される。
尚、前期授業の1回分が全学行事「競技力向上の会」に振り替えられる。

【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり
グループワーク（○）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 （専門的実技能力・指導力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	剣道の理念及び技能全般における基礎的な知識を更に理解することができる。	○		○			○ (*)	10
	■情意的領域	正しい着具・着装や立居振舞いなどのモラル・マナーや基本に即した技術の習得を錬度を高めて意欲的に取り組むことができる。	○					○ (*)	40
	■技能的領域	正しい基本動作・応用動作を習得する。	○	○			○	○ (*)	50

成績評価の基準	＊授業の出席、日頃の修行態度と取り組み内容及び試験等を通して総合的に評価し、60点以上の者を合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	「剣道指導要領」、「剣道社会体育教本」、「剣道試合・審判規則」、「日本剣道形解説書」、「木刀による剣道基本技稽古法」（全日本剣道連盟）
履修条件・ 関連科目	武道課程剣道を専攻する学生は必修科目である。
備考(教員メッセージ含む)	武道系専修科目（専修武道Ⅰ～Ⅳ）は、剣道を専門的に学習しようとする者に門戸を開いています。従って正課授業への出席は勿論のこと、正課外の諸活動（剣道部活動含む）を通して剣道の技倆向上に努めて下さい。 尚、授業で使用する剣道具類はすべて各自持参するものとします。
オフィス・アワー	月～木曜日：16：00 ～16：30、武道館２F 剣道教員室

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	前阪　茂樹 竹中　健太郎 大城戸　知	第1～5回目　基本的技能の習得と稽古 （1）剣道の歴史・特性及び理念等の概説 （2）正しい着装・着具、作法・礼法の指導と安全管理Ⅰ （3）基本動作(単独・相対) （4）攻めの分析と対人的技能Ⅰ(主にしかけ技) （5）攻めの分析と対人的技能Ⅱ(懸待一致の修錬、しかけ・応じ技) （6）木刀による剣道基本技稽古法 （7）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前2	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前3	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前4	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前5	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前6	〃	第6～10回目　各種稽古法の理解とその実践 （1）切り返し （2）約束稽古 （3）打ち込み稽古 （4）かかり稽古 （5）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前7	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前8	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前9	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前10	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）

前11	〃	第11～14回目　試合・審判法の実習と稽古 （1）試合・審判規則・運営要領の解説 （2）試合・審判実技 （3）様々な試合の方法と審判実技 （4）大会形式での運営と評価 （5）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前12	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前13	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前14	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前15	〃	前期の総括と仮評価	
後1	〃	第1～5回目　指導法の研修と稽古 （1）「剣道指導の心構え」概説 （2）剣道指導の在り方（目的・目標・計画） （3）個人指導法(基本～応用) （4）集団指導法（対象別） （5）年齢・目的等に応じた指導法の研究 （6）稽古時における事故対応の観察と対処 （7）道場の衛生管理と安全管理Ⅱ （8）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後2	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後3	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後4	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後5	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後6	〃	第6回目　剣道に即したトレーニング法と稽古 （1）体力トレーニング （2）柔軟性、敏捷性・持久性をつけるトレーニング （3）剣道基本稽古 （4）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後7	〃	第7～13回目　日本剣道形の実習と稽古 （1）日本剣道形について（形修錬の意義・目的・制定の経緯等） （2）日本剣道形 太刀形 1–3 本目 （3）日本剣道形 太刀形 4–7 本目 （4）日本剣道形 小太刀形 1–3 本目 （5）日本剣道形と剣道技能の関連性の追求 （6）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後8	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後9	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後10	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後11	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後12	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後13	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後14	〃	実技の総括① プレテスト	
後15	〃	実技の総括② プレテスト 剣道具類等の管理と点検	
後16	〃	最終評価	道場及び付帯施設の管理・点検・整備

授業科目名 (ナンバリングコード)	専修武道論・実習Ⅲ－剣道 (141B3-5220)	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	前阪　茂樹・竹中　健太郎・大城戸　知			補助担当者名	
単位数	6　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	30

授業の概要

本科目は日本の伝統文化・武道の中でも特に「生涯武道」といわれる「剣道」に関して、自らの実技力を高め続けていくとともに、実践者の年齢、目的等に応じた体系的な実技指導力や大会運営のための諸能力（審判等も含む）を修学全期に渡って身につけていく科目（Ⅰ～Ⅳ）である。
授業内容・方法については、剣道の理念、修錬の心構え、指導の心構えを俯瞰しつつ、それらに則した実技、形、指導法、試合・審判及び大会運営の在り方を講義＋実技の複合型授業方法により学ぶ。
本授業では、1・2年次で身につけた実技力を基盤として正しく示範し、適切に指導・助言できる、体系的な実技指導力を身につけることが期待される。

尚、前期授業の1回分が全学行事「競技力向上の会」に振り替えられる。

【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり
グループワーク（○）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合%
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 （専門的実技能力・指導力）							
	■認知的領域	剣道の理念及び技能全般における発展的な知識を理解することができる。	○		○			○ (*)	10
	■情意的領域	正しい着具・着装や立居振舞いなどのモラル・マナーや基本に即した技術の習得を更に錬度を高めて意欲的に取り組むことができる。	○					○ (*)	40
	■技能的領域	正しい基本動作を習得する。	○	○			○	○ (*)	50

成績評価の基準	＊授業の出席、日頃の修行態度、取り組み内容及び試験等を通して総合的に評価し、60点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	「剣道指導要領」、「剣道社会体育教本」、「剣道試合・審判規則」、「日本剣道形解説書」、「木刀による剣道基本技稽古法」（全日本剣道連盟）		
履修条件・関連科目	武道課程剣道を専攻する学生は必修科目である。	備考(教員メッセージ含む)	武道系専修科目（専修武道Ⅰ～Ⅳ）は、剣道を専門的に学習しようとする者に門戸を開いています。従って正課授業への出席は勿論のこと、正課外の諸活動（剣道部活動含む）を通して剣道の技倆向上に努めて下さい。 尚、授業で使用する剣道具類はすべて各自持参するものとします。
オフィス・アワー	月～木曜日：16：00 ～16：30、武道館２Ｆ剣道教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	前阪　茂樹 竹中　健太郎 大城戸　知	第1～5回目　基本的技能の習得と稽古 （1）剣道の歴史・特性及び理念等の概説 （2）正しい着装・着具、作法・礼法の指導と安全管理Ⅰ （3）基本動作(単独・相対) （4）攻めの分析と対人的技能Ⅰ(主にしかけ技) （5）攻めの分析と対人的技能Ⅱ(懸待一致の修錬、しかけ・応じ技) （6）木刀による剣道基本技稽古法 （7）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前2	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前3	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前4	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前5	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前6	〃	第6～10回目　各種稽古法の理解とその実践 （1）切り返し （2）約束稽古 （3）打ち込み稽古 （4）かかり稽古 （5）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前7	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前8	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前9	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）

前10	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前11	〃	第11～14回目　試合・審判法の実習と稽古 （1）試合・審判規則・運営要領の解説 （2）試合・審判実技 （3）様々な試合の方法と審判実技 （4）大会形式での運営と評価 （5）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前12	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前13	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前14	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前15	〃	前期の総括と仮評価	
後1	〃	第1～5回目　指導法の研修と稽古 （1）「剣道指導の心構え」概説 （2）剣道指導の在り方（目的・目標・計画） （3）個人指導法(基本～応用) （4）集団指導法（対象別） （5）年齢・目的等に応じた指導法の研究 （6）稽古時における事故対応の観察と対処 （7）道場の衛生管理と安全管理Ⅱ （8）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後2	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後3	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後4	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後5	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後6	〃	第6回目　剣道に即したトレーニング法と稽古 （1）体力トレーニング （2）柔軟性、敏捷性・持久性をつけるトレーニング （3）剣道基本稽古 （4）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後7	〃	第7～13回目　日本剣道形の実習と稽古 （1）日本剣道形について（形修錬の意義・目的・制定の経緯等） （2）日本剣道形 太刀形 1-3 本目 （3）日本剣道形 太刀形 4-7 本目 （4）日本剣道形 小太刀形 1-3 本目 （5）日本剣道形と剣道技能の関連性の追求 （6）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後8	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後9	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後10	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後11	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後12	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後13	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後14	〃	実技の総括① プレテスト	
後15	〃	実技の総括② プレテスト 剣道具類等の管理と点検	
後16	〃	最終評価	道場及び付帯施設の管理・点検・整備

授業科目名 (ナンバリングコード)	専修武道論・実習Ⅳ－剣道 (141C3-5210)	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	前阪　茂樹・竹中　健太郎・大城戸　知			補助担当者名	
単位数	6　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	20

授業の概要

本科目は日本の伝統文化・武道の中でも特に「生涯武道」といわれる「剣道」に関して、自らの実技力を高め続けていくとともに、実践者の年齢、目的等に応じた体系的な実技指導力や大会運営のための諸能力(審判等も含む)を修学全期に渡って身につけていく科目(Ⅰ-Ⅳ)である。
授業内容・方法については、剣道の理念、修錬の心構え、指導の心構えを俯瞰しつつ、それらに則した実技、形、指導法、試合・審判及び大会運営の在り方を講義+実技の複合型授業方法により学ぶ。
本授業では、1・2・3年次で身につけた実技力・示範力をもとに対象、目的に応じて適切に指導・助言できる、体系的な実技指導力を身につけることが期待されることから外部団体（全日本剣道連盟）においても「社会体育指導員（初級）」認定科目となっている。

尚、前期授業の1回分が全学行事「競技力向上の会」に振り替えられる。

【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり
グループワーク（○）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	実技力、実技指導力、事業運営力 （指導者基礎力、専門的な知識・教養）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	剣道の理念及び歴史や特性に裏付けられた技能全般における知識の理解力を深めることがで きる。	○					○ (※)	30
	■情意的領域	正しい着具・着装や礼法に基づいた自然な立居振舞い、剣道の基本に即した技術錬度を更に向上させて実践できる。	○					○ (※)	30
	■技能的領域	剣道の技術的内容について概ね示範・指導ができる。	○					○ (※)	40

成績評価の基準	※認知・情意・技能の三領域をそれぞれ具体的に、出席点３０点、授業内の取り組みの成果（レポート）３０点、自己修錬の取り組み（部活動含める）４０点、合計100点で評価し、60点以上を合格（単位認定）とする。
テキスト、教材 参　考　書	「剣道指導要領」、「剣道試合・審判規則」、「日本剣道形解説書」、「木刀による剣道基本技稽古法」（全日本剣道連盟） 「剣道社会体育教本」（全日本剣道連盟）
履修条件・関連科目	専修武道論・実習III-剣道の単位修得者が履修できる。
備考(教員メッセージ含む)	武道系専修科目（専修武道Ⅰ～Ⅳ）は、剣道を専門的に学習しようとする者に門戸を開いています。従って正課授業への出席は勿論のこと、正課外の諸活動（剣道部活動含む）を通して剣道の技倆向上に努めて下さい。 尚、授業で使用する剣道具類はすべて各自持参するものとします。
オフィス・アワー	月～木曜日：16：00 ～16：30、武道館２F 剣道教員室

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	前阪　茂樹 竹中　健太郎 大城戸　知	第1～5回目　基本的技能の習得と稽古 （1）剣道の歴史・特性及び理念等の概説 （2）正しい着装・着具、作法・礼法の指導と安全管理Ⅰ （3）基本動作(単独・相対) （4）攻めの分析と対人的技能Ⅰ(主にしかけ技) （5）攻めの分析と対人的技能Ⅱ(懸待一致の修錬、しかけ・応じ技) （6）木刀による剣道基本技稽古法 （7）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前2	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前3	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前4	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前5	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前6	〃	第6～10回目　各種稽古法の理解とその実践 （1）切り返し （2）約束稽古 （3）打ち込み稽古 （4）かかり稽古 （5）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前7	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前8	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前9	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）

前10	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前11	〃	第11～14回目　試合・審判法の実習と稽古 （1）試合・審判規則・運営要領の解説 （2）試合・審判実技 （3）様々な試合の方法と審判実技 （4）大会形式での運営と評価 （5）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前12	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前13	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前14	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前15	〃	前期の総括と仮評価	
後1	〃	第1～5回目　指導法の研修と稽古 （1）「剣道指導の心構え」概説 （2）剣道指導の在り方（目的・目標・計画） （3）個人指導法(基本～応用) （4）集団指導法（対象別） （5）年齢・目的等に応じた指導法の研究 （6）稽古時における事故対応の観察と対処 （7）道場の衛生管理と安全管理Ⅱ （8）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後2	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後3	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後4	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後5	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後6	〃	第6回目　剣道に即したトレーニング法と稽古 （1）体力トレーニング （2）柔軟性、敏捷性・持久性をつけるトレーニング （3）剣道基本稽古 （4）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後7	〃	第7～13回目　日本剣道形の実習と稽古 （1）日本剣道形について（形修錬の意義・目的・制定の経緯等） （2）日本剣道形 太刀形 1–3 本目 （3）日本剣道形 太刀形 4–7 本目 （4）日本剣道形 小太刀形 1–3 本目 （5）日本剣道形と剣道技能の関連性の追求 （6）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後8	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後9	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後10	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後11	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後12	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後13	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後14	〃	実技内容の総括①	
後15	〃	実技内容の総括② 剣道具類等の管理と点検	道場及び付帯施設の管理・点検・整備

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ指導実践概論 (141A0–1100)	授業形態	講義	授業科目区分	専攻科目 (指導実践科目)
担当教員名	金高　宏文・中垣内　真樹・濱田　幸二・竹中　健太郎・沼尾　成晴・隅野　美砂輝・塩川　勝行・坂口　俊哉・棟田　雅也・小崎　亮輔			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	200名程度
授業の概要	本講義では，3年次で履修する学外者を対象とした「スポーツ指導実習（必修）」に向け，認知（知識）的、情意(態度)的な準備を行う．選択できるスポーツ指導実習には，スポーツコーチ実習あるいは武道指導実習と，生涯スポーツ指導実習がある．しかし，多様な指導場面を理解するために，各実習の概略等を理解することを求める．授業では，まず受講生自身の大学入学までに受けたスポーツ指導体験を振り返り，スポーツ指導等への興味・関心を高める．その後，スポーツ指導実習に臨んだ学生の体験講話等を手がかりに，受講生自身の将来のスポーツ指導者像や実習の選択を考え，来るスポーツ指導実習への準備を図る．また，スポーツ指導で求められる適切な人間関係を結ぶコミュニケーション力の基礎についても学ぶ． 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（×）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技指導力、指導者基礎力、専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・ 自分自身が受けたスポーツ指導を振返り，自らが関わろうとする将来のスポーツ指導への手がかり・指針を説明する． ・ スポーツ指導の基礎的な理論やスキルを理解する． ・ さまざまなスポーツ活動の場について理解する．			○				60
	■情意的領域	スポーツ指導及び実習に関わる事象や理論について興味・関心を持ち，それを積極的にかつ受講生同士で協力して探求しようとする．	○						40
	■技能的領域								

成績評価の基準	毎時行なう授業内で行う授業レポートと宿題（50点：6点×7回+8期目8点）と，2回の時間外レポート（50点：25点×2回）による要求課題の達成度を基に評価する．		
テキスト、教材 参　考　書	テキストとして，「Reference Book(JSPO)」を活用する．毎時間，WebClassを用いて，授業ワークを行う．そのため，PCを持参すること．資料等は，WebClassにて配布する．		
履修条件・ 関連科目	本授業後に開講する「キャリアデザインⅡ」も合わせて受講することが望まれます．	備考(教員メッセージ含む)	スポーツ指導実習の理解とともに，卒業後のスポーツや武道等との関わり方を積極的に考えて欲しい．
オフィス・アワー	金高宏文（大学院棟3階，4教員研究室）：木曜日　15:00–16:00 隅野美砂輝（501教員室）: 火 水 金 の昼休み（11:50 – 12:30） 棟田雅也（602教員室）: 水11:00 – 13:00 なお、事前にアポを取ることを条件とする（メールによる連絡も可）。 濱田幸二（808教員室、16時以降球技体育館準備室）：随時対応可		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	金高　宏文	スポーツ指導実習について／スポーツ指導に必要な知識とスキル	WebClassで授業内容の復習と宿題（30分以上）
2	〃	指導対象への対応について考える（コミュニケーション演習を含む）	１回目レポート（25点）提出，WebClassで授業内容の復習と宿題（30分以上）
3	濱田　幸二 塩川　勝行	スポーツ活動の現場について／スポーツコーチ実習報告	WebClassで授業内容の復習・レポート作成（1時間）
4	竹中　健太郎	武道活動の現場について／武道指導実習報告	WebClassで授業内容の復習と宿題（30分以上） .
5	隅野　美砂輝 棟田　雅也	コミュニティ・スポーツの現場について／生涯スポーツ指導実習報告①	WebClassで授業内容の復習と宿題（1時間）
6	中垣内　真樹 沼尾　成晴	健康づくりの現場について／生涯スポーツ指導実習報告②	WebClassで授業内容の復習と宿題（1時間）
7	坂口　俊哉	野外活動の現場について／生涯スポーツ指導実習報告③	WebClassで授業内容の復習と宿題（１時間）
8	金高　宏文	授業のまとめと学習の振り返り（コミュニケーション演習を含む）	2回目レポート（25点）提出.

授業科目名	スポーツ指導実習 (スポーツコーチ実習)	授業形態	実習	授業科目区分	専攻科目 (指導実践科目)
担当教員名	競技スポーツ論・実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの担当教員		補助担当者名		
単位数	1単位（1週間）又は 2単位（2週間）	履修年次	3年次	受け入れ人数	

授業の概要	本実習では，将来のスポーツ指導者としての専門職に必要な理論の学習を基礎に，さらに，より実践的な指導力を育成するため，各専門領域に関連する実際のスポーツ指導現場での指導実習を実施することとしています．そこでは，実際のスポーツ現場における指導実習や生の体験を通して，学生の専門的な知識や指導技術を高め，ひいては本学内における学生の教育・研究内容へフィード・バックさせることを主な目的としています．

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技指導力、指導者基礎力、専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他（　）	割合(%)
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・訪問先の選択及び施設等研究を行う(施設等研究の作成). ・指導体験を記述・説明する（実習日誌の作成）. ・指導体験を分析・評価する（所感文等の作成）.			○	○		大学評価	50
	■情意的領域	・事前の訪問先の選択、施設等研究、実習準備を主体的、積極的に行うことができる. ・指導体験を主体的、積極的かつ協力的に取り組むことができる. ・実習後に指導体験について真摯に振り返ることができる.	○					大学及び実習先評価	30
	■技能的領域	・ビジネスマナー及び一般常識を身につける. ・指導対象との円滑なコミュニケーションを行うことができる	○					実習先評価	20

成績評価の基準	設定された指導体験の日数に参加することを条件に、事前準備や施設等研究、実習日誌、事後報告や所感文及び実習先の評価の各得点を合計し、60点以上のものを合格とする.
テキスト、教材 参考書	①本学作成の「スポーツ指導実習の手引き」を配布. 参考図書は、授業時に推薦する.

履修条件・関連科目	「競技スポーツ論・実習Ⅰ・Ⅱ」を修得していなければならない	備考（教員メッセージ含む）	本実習は、原則として夏期休業中の１週間又は２週間とし、履修可能単位数は２単位（１単位最低５日間）、１単位だけ履修する場合は１週間（最低５日間）を２回実施します。また、実習に関するガイダンスを２年次の後期に行うと共に、実習先の選考・認定等を行います。詳細は「体育学部履修要項」、２年次後期のガイダンス等で確認してください。

オフィス・アワー	教務課キャリア支援係へ相談ください．適宜、担当教員と連絡調整します（月～金、9:00～17:00）.

授業計画

回	授業担当者	授業内容	授業時間外の指導等 （予習、復習、レポート等課題の指示）
1	競技スポーツ論・実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ授業担当教員	【事前学習】	
2		①　オリエンテーション：スポーツコーチ実習の意義・目的・内容	①WebClassにより復習
3		②　訪問先の選択及び施設等研究	②実習先研究レポートの作成
4		③　事前準備（履歴書の作成、挨拶状の作成、実習計画の作成：課題設定等）	③事前準備の資料等作成
5		④　スポーツコーチ実習受け入れ先等からの講話とグループディスカッション	④WebClass により復習
6		【実習活動】	
7		⑤　スポーツコーチ指導実習（1単位：1週間／30ｈ、2単位：2週間／60ｈ）	⑤実習日誌の作成、挨拶状作成
8		【事後学習】	
		⑥　スポーツコーチ体験の分析・評価及び今後の展望	⑥所感文の作成
		⑦　事後報告①（スポーツコーチ体験の発表会等）	⑦発表資料の作成
		⑧　事後報告②（スポーツコーチ体験の発表会等）	⑧WebClass により復習

授業科目名	スポーツ指導実習 （生涯スポーツ指導実習）	授業形態	実習	授業科目区分	専攻科目 （指導実践科目）
担当教員名	中垣内、沼尾、坂口、隅野、棟田		補助担当者名		
単位数	2単位（2週間）	履修年次	3年次	受け入れ人数	

授業の概要	本実習では，将来のスポーツ指導者としての専門職に必要な理論の学習を基礎に，さらに，より実践的な指導力を育成するため，各専門領域に関連する実際のスポーツ指導現場での指導実習を実施することとしています．そこでは，実際のスポーツ現場における指導実習や生の体験を通して，学生の専門的な知識や指導技術を高め，ひいては本学内における学生の教育・研究内容へフィード・バックさせることを主な目的としています．

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の達成目標		成績評価の方法						
	DPで目指す資質・能力	実技指導力、指導者基礎力、リーダーシップ （　　）	授業期間				定期試験	その他（　　）	割合（%）
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・訪問先の選択及び施設等研究を行う（施設等研究の作成）． ・指導体験を記述・説明する（実習日誌の作成）． ・指導体験を分析・評価する（所感文等の作成）			○			大学評価	20
	■情意的領域	・事前の訪問先の選択、施設等研究、実習準備を主体的、積極的に行うことができる． ・指導体験を主体的、積極的かつ協力的に取り組むことができる． ・実習後に指導体験について真摯に振り返ることができる．	○					大学及び実習先評価	60
	■技能的領域	・ビジネスマナー及び一般常識を身につける． ・指導対象との円滑なコミュニケーションを行うことができる	○					実習先評価	20

成績評価の基準	設定された指導体験の日数に参加することを条件に、事前準備や施設等研究、実習日誌、事後報告や所感文及び実習先の評価の各得点を合計し、60点以上のものを合格とする．
テキスト，教材 参考書	本学作成の「スポーツ指導実習の手引き」をWebClassを用いて配布． 参考図書は、授業時に推薦する．

履修条件・関連科目	○スポーツ学総論（２単位）を修得していなければならない。 ○「生涯スポーツ論・演習Ⅰ」「生涯スポーツ論・実習Ⅱ」及び「生涯スポーツ論・演習Ⅲ」を履修しなければならない。	備考（教員メッセージ含む）	本実習は、原則として夏期休業中の２週間とし、履修可能単位数は２単位（１単位最低５日間）です。また、実習に関するガイダンスを２年次の後期に行うと共に、実習先の選考・認定等を行います。詳細は「体育学部履修要項」、２年次後期のガイダンス等で確認してください。

オフィス・アワー	各担当教員の研究室において、随時（月～金、9:00～17:00）．

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等（予習，復習，レポート等課題の指示）
1	中垣内、沼尾、坂口、隅野、棟田	【事前学習】 ① オリエンテーション：生涯スポーツ指導実習の意義・目的・内容 ② 訪問先の選択及び施設等研究 ③ 事前準備（履歴書の作成、挨拶状の作成、実習計画の作成：課題設定等） ④ 生涯スポーツ関連講師による講和とレポート 【実習活動】 ⑤ 生涯スポーツ指導実習（2単位：2週間） 【事後学習】 ⑥ 生涯スポーツ指導体験の分析・評価及び今後の展望 ⑦ 事後報告①（生涯スポーツ指導体験の発表会等） ⑧ 事後報告②（生涯スポーツ指導体験の発表会等）	① WebClassにより復習 ② 実習先研究レポートの作成 ③ 事前準備の資料等作成 ④ WebClass により復習 ⑤ 実習日誌の作成 ⑥ 所感文の作成 ⑦ 発表資料の作成 ⑧ WebClass により復習
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			

授業科目名	スポーツ指導実習 (武道指導実習)	授業形態	実習	授業科目区分	専攻科目 (指導実践科目)
担当教員名	専修武道論・実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの担当教員		補助担当者名		
単位数	1単位（30時間）又は 2単位（60時間）	履修年次	3年次	受け入れ人数	武道課程3年生全員
授業の概要	本実習では，ディプロマポリシー達成のため，将来の武道指導者として必要な学内においての専門学習を基礎に，更により実践的な指導力を育成するため，柔道や剣道における指導現場での指導実習を実施することとしています．そこでは，実際の現場における生の体験を通して，学生の専門的な知識や指導技術を高め，ひいては本学内における学生の教育・研究内容へフィード・バックさせることを主な目的としています．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	DPで目指す資質・能力	実技指導力、事業運営力、リーダーシップ	授業期間				定期試験	その他（　）	割合（%）
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・訪問先の選択及び施設等研究を行う(施設等研究の作成). ・指導体験を記述・説明する（実習日誌の作成）. ・指導体験を分析・評価する（所感文等の作成）.			○	○		大学評価	50
	■情意的領域	・事前の訪問先の選択、施設等研究、実習準備を主体的、積極的に行うことができる. ・指導体験を主体的、積極的かつ協力的に取り組むことができる. ・実習後に指導体験について真摯に振り返ることができる.	○					大学及び実習先評価	30
	■技能的領域	・マナー及び一般常識を身につける. ・指導対象との円滑なコミュニケーションを行うことができる	○					実習先評価	20

成績評価の基準	設定された指導体験の日数に参加することを条件に、事前準備や施設等研究、実習日誌、事後報告や所感文及び実習先の評価の各得点を合計し、60点以上のものを合格とする.
テキスト、教材 参考書	①本学作成の「スポーツ指導実習の手引き」を配布. 参考図書は、授業時に推薦する.

履修条件・関連科目	「スポーツ指導実践概論」及び「専修武道論・実習Ⅰ・Ⅱ」を修得していなければならない	備考（教員メッセージ含む）	本実習は、原則として3年次の5月～2月の間に行います。履修可能単位数は２又は１単位（１単位最低30時間）で実施します。また、実習に関するガイダンスを２年次の後期に行うと共に、実習先の選考・認定等を行います。詳細は「体育学部履修要項」、２年次後期のガイダンス等で確認してください。

オフィス・アワー	教務課キャリア支援係へ相談ください．適宜、担当教員と連絡調整します（月～金、9:00～17:00）.

授業計画

回	授業担当者	授業内容	授業時間外の指導等 （予習、復習、レポート等課題の指示）
1	専修武道論・実習Ⅰ～Ⅳの授業担当教員	【事前学習】	
2		①　オリエンテーション：武道指導実習の意義・目的・内容	①WebClassにより復習
3		②　訪問先の選択及び施設等研究	②実習先研究レポートの作成
4		③　事前準備（履歴書の作成、挨拶状の作成、実習計画の作成：課題設定等）	③事前準備の資料等作成
5		④　実習受け入れ先等からの講話とグループディスカッション	④WebClass により復習
6		【実習活動】	
7		⑤　武道指導実習（1単位：通算30ｈ、2単位：通算60ｈ）	⑤実習日誌の作成、挨拶状作成
8		【事後学習】	
		⑥　学外での指導体験の分析・評価及び今後の展望	⑥所感文の作成
		⑦　事後報告その1	⑦発表資料の作成
		⑧　事後報告その2	⑧WebClass により復習

教　職　科　目

授業科目名 (ナンバリングコード)	教師論 (151A0-1300)	授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)
担当教員名	菊地原　守			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	180名程度

授業の概要	現代社会における教職の重要性の高まりを踏まえて、教職の意義・役割・職務内容等について理解を深め、現在の教育課題に対する教師の取り組みを考える。また、教職を目指す自らの適性を見直し、今後の自己課題を見出す機会を設ける。これらの学修を通じて、教職の専門性の基礎をなす教養を身につけることが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、一般教養・倫理、専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	教職の意義、役割、職務内容に関する基礎的知識を身につけ、重要事項について説明できる。現在の教育課題に対する知識を身につけ、教師の取り組みについて説明できる。					○		50
	■情意的領域	授業に毎回出席をし、主体的に授業に参加する。 授業内で出された課題に対して意欲的に取り組む。	○			○			50
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業への参加状況や発表、学期末試験を総合的に評価します。また３分の２以上の出席がない場合や、発表や学期末試験を無断欠席した場合には履修放棄とみなし、成績評価の対象としません。		
テキスト、教材 参　考　書	参考書：必要に応じて、授業中に随時紹介します。また、参考資料は適宜配布します。		
履修条件・ 関連科目	教職科目全般	備考(教員メッセージ含む)	授業ではディスカッションやグループワークの時間を設けます。自分の意見をしっかり持って積極的に参加してください。
オフィス・アワー	随時対応。事前にメールでアポを取ってください。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	菊地原　守	オリエンテーション：教職の職業的特徴	授業資料の復習（３０分）
2	〃	学校教育や教職の社会的意義	授業資料の復習（３０分）
3	〃	教員の義務・権利・身分保障	授業資料の復習（３０分）
4	〃	教職観の変遷と教師の役割・資質能力	授業資料の復習（３０分）
5	〃	教員の仕事と労働環境	授業資料の復習（３０分）
6	〃	教職をめぐる現代的課題	授業資料の復習（３０分）
7	〃	教育課題と教師の取り組み（１）課題を調べる	発表内容の学習（１時間）
8	〃	教育課題と教師の取り組み（２）課題をまとめる	発表準備（１時間）
9	〃	教育課題と教師の取り組み（３）課題を報告する	授業資料の復習（３０分）
10	〃	学校におけるダイバーシティと教師	授業資料の復習（３０分）
11	〃	子どもの貧困と教師	授業資料の復習（３０分）
12	〃	チーム学校・地域との連携	授業資料の復習（３０分）
13	〃	保護者と教師	授業資料の復習（３０分）
14	〃	教師を目指す“私”を考える	授業資料の復習（３０分）
15	〃	授業の振り返りとまとめ：「教える」ということの意味	授業資料の復習（１時間）
16	〃	学期末試験	学期末試験内容の復習（３０分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	教育心理学 (151A0-1301)	授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)
担当教員名	中本　浩揮			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	200名程度
授業の概要	学校教育は児童生徒がより豊かな人生を送るための人格成長を発達過程を含めて考える必要がある。本授業では，そのような教育実践に欠かせない教育心理学の基礎知識として，個性を活かす児童生徒の理解，学習指導の方法，教育効果の評価を身につける。具体的には，個性を生かすための生徒理解として，発達，人格，動機づけ，学習指導の方法として，記憶のメカニズム及び学習理論の応用，さらに，教育効果の評価を適切に行うために学力観，教育評価の方法について主に講義形式で学習する。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、一般教養・倫理、専門的な知識・教養							
	■認知的領域	教育現場で実践するための心理学的知識を説明できる。 教育心理学の知識に基づいて、教育現場での課題について考えることができる。	○	○			○		80
	■情意的領域	教育心理学の知見を教育実習や教育現場、あるいはスポーツの指導現場を想定しながら積極的な姿勢で学ぶことができる。	○	○					10
	■技能的領域	各領域の講義内容に対して、適切なまとめができる。	○		○		○		10

成績評価の基準	小テスト，授業後の感想レポート，及び学期末試験を実施する。これらを総合して成績評価を行う。出席２/３未満の者は放棄扱いとし評価しない。
テキスト、教材 参　考　書	テキストは使用しないが，必要に応じて資料を配付する。
履修条件・ 関連科目	特になし
備考(教員メッセージ含む)	毎回小テストを行うので，前回授業の復習をして授業に望むこと。
オフィス・アワー	随時(707教員室)

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中本　浩揮	オリエンテーション　教育心理学とは？	教育心理学の学修内容の復習(30分)
2	〃	発達①　発達の捉え方と発達の一般法則	小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)
3	〃	発達②　発達の規定因と教育観	小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)
4	〃	発達③　発達段階と発達課題～乳児期から幼児期まで～	小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)
5	〃	発達④　発達段階と発達課題～児童期から青年期まで～	小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)
6	〃	人格①　パーソナリティーの諸理論	小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)
7	〃	人格②　パーソナリティーの形成と測定	小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)
8	〃	動機づけ①　動機づけ諸理論	小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)
9	〃	動機づけ②　動機づけの規定因	小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)
10	〃	動機づけ③　教育と動機づけ	小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)
11	〃	学習①　記憶のメカニズム	小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)
12	〃	学習②　運動と記憶	小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)
13	〃	学習③　学習諸理論と教授方法	小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)
14	〃	学級集団の理解	小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)
15	〃	教育評価	期末試験に向けての復習(1時間)
16	〃	学期末試験	期末試験に向けた復習(5時間)

授業科目名 (ナンバリングコード)	特別支援教育 (151A0–1302)	授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)
担当教員名	栗山　靖弘			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	1	受け入れ人数	100名程度
授業の概要	発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児・児童・生徒が抱える学習上又は生活上の困難さの解決及び学校適応の促進のために、特別支援教育に関する制度の理念と仕組み、教育課程、発達障害等の特徴や支援、支援体制の構築について理解する。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、一般教養・倫理、専門的な知識・教養 （指導者基礎力、一般教養・倫理、専門的な知識・教養）							
	■認知的領域	講義内容を理解し、意見をレポートに記述することができる。 特別支援教育に関する基礎的知識を身につけている。			○				40
	■情意的領域	授業に毎回参加し、レポートを提出する。また、グループワーク等に主体的に参加する。			○				60
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業への参加および最終レポートを総合して評価する。 また、３回以上欠席した場合には単位は認定されない。
テキスト、教材 参　考　書	特別支援学校学習指導要領（幼稚部・小学部・中学部・高等部)
履修条件・ 関連科目	教職科目全般
備考(教員メッセージ含む)	レポート(授業時間と最終)が課されます。
オフィス・アワー	随時：事前にメールでアポをとってください。 605教員研究室

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	栗山　靖弘	インクルーシブ教育システム	授業資料の復習（30分）
2	〃	特別支援教育に関する教育課程と個別の教育支援計画・個別の指導計画	授業資料の復習（30分）
3	〃	障害のある子どもの特徴	授業資料の復習（30分）
4	〃	障害のある子どもへの支援	授業資料の復習（30分)
5	〃	視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱のある子どもの特徴	授業資料の復習（30分
6	〃	母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある子どもの特徴	授業資料の復習（30分）
7	〃	関係機関や家庭と連携した支援体制の構築	授業資料の復習（30分）
8	〃	授業のまとめ	授業資料の復習（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	道徳の理論と指導法 (151A0-1303)	授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)
担当教員名	栗山　靖弘・菊地原　守			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3	受け入れ人数	150人程度
授業の概要	道徳と道徳教育について、その意義や原理、道徳性の発達の側面から理解する。また、現代社会における道徳教育の課題について考え、学校で取り組む道徳教育の役割と指導法、そして評価についての知識と技能を身につける。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×） ※ プレゼンテーション・発表について、模擬授業の実施が必須です				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、一般教養・倫理、専門的な知識・教養							
	■認知的領域	授業内容を理解し、自分の考えを述べることができる。 道徳教育を実践するための基本的な知識を身につけている。			○				50
	■情意的領域	授業に毎回出席し、主体的に授業に参加する。 課題に対して意欲的に取り組む。			○				50
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業への参加状況・レポート・課題提出状況を総合的に評価します。		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：文部科学省『中学校学習指導要領　特別の教科　道徳編』(平成29年告示)156円＋税 参考書：必要に応じて、授業中に随時紹介します。また、参考資料は適宜配付します。		
履修条件・ 関連科目	教職科目全般	備考(教員メッセージ含む)	授業内容に関するレポート、「特別の教科　道徳」の学習指導案の作成、模擬授業があります。
オフィス・アワー	随時対応。 栗　山：事前にメールでアポを取ってください。 菊地原：事前にメールでアポを取ってください。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	菊地原　守	オリエンテーション－道徳教育とは何か	授業資料の復習(30分)
2	〃	道徳性の発達に関する理論	授業資料の復習(30分)
3	〃	道徳教育の歴史	授業資料の復習(30分)
4	〃	現代社会における道徳教育	授業資料の復習(30分)
5	栗山　靖弘	学習指導要領と道徳教育	授業資料の復習(30分)
6	〃	道徳科の内容と指導法	授業資料の復習(30分)
7	〃	学校における道徳教育の取り組み	授業資料の復習(30分)
8	〃	道徳教育の評価	授業資料の復習(30分)
9	〃	道徳教育の年間計画と学習指導案	授業資料の復習(30分)
10	〃	模擬授業の準備	授業資料の復習(30分)
11	栗山　靖弘 菊地原　守	模擬授業	授業資料の復習(30分)と模擬授業の準備(1時間)
12	〃	模擬授業	授業資料の復習(30分)および模擬授業の振り返り(30分)
13	〃	模擬授業	授業資料の復習(30分)および模擬授業の振り返り(30分)
14	〃	模擬授業	授業資料の復習(30分)および模擬授業の振り返り(30分)
15	〃	授業のまとめと振り返り	授業資料の復習(30分)および模擬授業の振り返り(30分)

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合的な学習の時間の指導法 (151A0-1304)	授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)
担当教員名	栗山　靖弘・菊地原　守			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	3	受け入れ人数	150名程度
授業の概要	授業の前半では、学習指導要領や実践事例の理解を通じて、総合的な学習／探究の時間の目標・内容・評価等についての理解を深める。後半では、指導計画の作成をベースに、発表とディスカッションを行い、総合的な学習／探究の時間の単元構成ができるようになることを目指す。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、一般教養・倫理、専門的な知識・教養 （指導者基礎力、一般教養・倫理、専門的な知識・教養(コミュニケーション力、キャリアデザイン力、課題解決力)）							
	■認知的領域	「総合的な学習の時間」の基礎的な意義・目標・内容について、説明することができる。「総合的な学習の時間」における課題解決のプロセスと指導方法を説明することができる。			○				50
	□情意的領域								
	■技能的領域	他の受講者とコミュニケーションを取りながら、「総合的な学習の時間」の指導計画を作成することができる。			○	○			50

成績評価の基準	最終課題および授業への積極的な参加の度合いを総合的に評価する。
テキスト、教材 参　考　書	・毎回、資料を配付する。 ・テキストは以下のものを購入すること。 ①「中学校学習指導要領(平成２９年告示)解説　総合的な学習の時間編」(文部科学省、2019年、228円＋税) ②「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説　総合的な探究の時間編」(文部科学省、2019年、270円＋税) ・その他、参考文献は適宜紹介する。

履修条件・ 関連科目	教職科目全般	備考(教員メッセージ含む)	中学校・高等学校の教員免許状の取得を目指している者は履修すること。
オフィス・アワー	栗　山：随時(事前にメールでアポをとること) 菊地原：随時(事前にメールでアポをとること)		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	栗山　靖弘	総合的な学習の時間の意義	授業資料の復習(30分)
2	〃	総合的な学習の時間の目標と探究課題	授業資料の復習(30分)
3	菊地原　守	思考スキルと思考ツール・ICTの活用	授業資料の復習(30分)
4	栗山　靖弘 菊地原　守	カリキュラムマネジメントと評価及び授業づくり	授業資料の復習(30分)
5	〃	総合的な学習の時間の授業設計①	授業資料の復習(30分)
6	〃	総合的な学習の時間の授業設計②	授業資料の復習(30分)
7	〃	総合的な学習／探究の時間の授業計画の作成	授業資料の復習(30分)
8	〃	総合的な学習／探究の時間の授業計画の作成	授業内容全体を復習する(1時間)

授業科目名 (ナンバリングコード)	特別活動論 (151A0-1305)	授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)
担当教員名	栫　ちか子・松永　武人			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	170名程度

授業の概要	集団生活を営む学校において、集団活動や体験的な活動を通してよりよい人間関係形成能力を育成する特別活動は、「学級活動」、「生徒会活動」、「学校行事」から構成されている。この活動は、社会に参画するために必要となる自主的・実践的な態度や自治的能力を育成する観点からも重要な要素を含んでいる。本授業では、特別活動の趣旨、その目的、具体的な活動内容や教育課程上の位置付けなどについて、基礎的な理解を深めながら教師の適切な関わり方など学校生活における実践的な取組を学ぶ。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理、専門的な知識・教養 （指導者基礎力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	特別活動の意義、特別活動を構成している「学級活動」、「生徒会活動」、「学校行事」の特質について理解している。			○		○		50
	■情意的領域	特別活動の意義等を理解するために、積極的に授業に参画しようとする。	○			○			30
	■技能的領域	特別活動を構成している「学級活動」、「生徒会活動」、「学校行事」の具体的な実施計画や工夫に富んだ通信物を作成することができる。	○		○				20

成績評価の基準	授業の到達目標に則り、上記のとおりの割合で、授業への参画状況や、レポート、定期試験等の内容から総合的に評価します。また、３分の２以上の出席がない場合、履修放棄と見なし、定期試験の受験を認めません。		
テキスト、教材 参　考　書	文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　特別活動編』 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　特別活動編』		
履修条件・ 関連科目	関連科目は、教職科目全般です。	備考(教員メッセージ含む)	実務経験のある教員による授業科目です。学校現場に適応できるよう指導していきます。よりよい学級、学年、学校をつくるために特別活動を推進できる教員を目指してもらいたいです。
オフィス・アワー	随時：栫 （研究棟７階703教員研究室）　松永（研究棟6階608教員研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	栫　ちか子 松永　武人	オリエンテーション、特別活動とは	授業内容の復習（30分）
2	〃	特別活動に期待される教育の効果	授業内容の復習（30分）
3	〃	学級活動	授業内容の復習（30分）
4	〃	生徒会活動	授業内容の復習（30分）
5	〃	学校行事	授業内容の復習（30分）
6	〃	特別活動のデザイン テーマを基にした実施計画の作成	授業内容の復習（30分） 実施計画の作成（２時間）
7	〃	特別活動への教員の適切な関わり テーマを基にした通信物の作成	授業内容の復習（30分） 通信物の作成（２時間）
8	〃	授業のまとめ、学期末試験	学期末試験内容の復習（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	教育の方法と技術 (151A0–1312)	授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)
担当教員名	栗山　靖弘			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2	受け入れ人数	150人程度
授業の概要	学校における「授業づくり」を中心的に学ぶ科目である。特に、「授業」という営みを構成している要素や、主要な教授法について理解することを目的として講義を行う。学校現場の具体的な事例をとりあげながら、授業の設計と実施、指導案の作成等について考えていく。また、教育評価、授業研究、学力、知識に関する理論についても学習する。近年の学校現場では情報通信技術を用いた教育実践も行われているため、それらの機器の種類や基本的な使用法、メディア・リテラシーについても学習する。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、一般教養・倫理 （指導者基礎力、専門的な知識・教養）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	教育方法・技術に関する基礎的知識と実践を理解している。 また、それをもとに自分の意見を述べることができる。			○				60
	■情意的領域	授業に毎回出席し、主体的に参加する。 課題に意欲的に取り組む。			○				40
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業参加状況・課題・レポートを総合的に評価します。		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：特に指定しない。授業は配付資料を用いて行う。 参考書：授業中に必要に応じて紹介・配付する。		
履修条件・ 関連科目	教職関連科目全般	備考(教員メッセージ含む)	教員を志望している学生が受講していることを前提に講義を行います。 保健体育の教員は、保健と体育という、座学と実技の両方の授業を行わなければなりません。また、道徳や総合的な学習の時間、特別活動も担当することになります。そうした授業を実施するうえでの基盤となる知識や考え方を修得するための科目だと認識してください。
オフィス・アワー	随時対応。事前にメールでアポを取ってください。研究棟6階　605教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	栗山　靖弘	学習指導の基本原理	授業の復習(60分)
2	〃	指導技術の基礎	授業の復習(60分)
3	〃	学習指導の形態	授業の復習(60分)
4	〃	授業づくりの実際ー現場の教師の経験から	授業の復習(60分)
5	〃	知識と学習	授業の復習(60分)
6	〃	教育評価と授業研究	授業の復習(60分)
7	〃	学習指導案	授業の復習(60分)
8	〃	授業のまとめ	授業の復習(60分)

授業科目名 (ナンバリングコード)	教育とＩＣＴ活用 (151A0-1313)	授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)
担当教員名	栗山　靖弘・和田　智仁・今泉　拓			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2	受け入れ人数	160
授業の概要	学校では、1人1台のICT端末を利用した教育活動が実施されている　（GIGAスクール構想）。その流れを受けて、これから教員を目指す学生に対し、ICTを活用した授業づくりや校務の遂行が求められている。そこで、本科目では、学校におけるICT活用の基礎的な内容の習得を目的として、理論と実践の両面から講義を行う。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、一般教養・倫理 （指導者基礎力、一般教養・倫理、専門的な知識・教養）							
	■認知的領域	講義内容を理解し、説明することができる。		○	○				40
	■情意的領域	教育におけるICTの活用に興味・関心を持ち，主体的に課題に取り組むことができる			○				20
	■技能的領域	授業づくりにおいてICTを活用することができる。		○	○				40

成績評価の基準	講義内容の理解、提出課題、テスト等の結果を総合的に判断して評価する。
テキスト、教材 参　考　書	スポーツ庁（2022）「児童生徒の1人1台のICT端末を活用した体育・保健体育授業の事例集」
履修条件・ 関連科目	備考(教員メッセージ含む)：授業では理論的な内容の講義と、講義内容を踏まえたワークの両方を行います。学生の積極的な参加を求めます。
オフィス・アワー	栗山：随時（メールでアポをとってください） 和田：随時（メールでアポをとってください） 今泉：随時（メールでアポをとってください）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	栗山　靖弘 和田　智仁 今泉　拓	情報通信技術の活用の意義と理論①ICTと個別最適な学び、協働的な学び、主体的・対話的で深い学び	授業資料の復習30分
2	〃	情報通信技術の活用の意義と理論②特別の支援を必要とする児童及び生徒に対する情報通信技術の活用の意義と活用	授業資料の復習30分
3	〃	情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進①学習場面に応じた情報通信技術を効果的に活用した指導事例	授業資料の復習30分
4	〃	情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進②遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムの使用法	授業資料の復習30分
5	〃	情報活用能力育成のための基礎的な指導法①教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間におけるICT活用と情報モラル	授業資料の復習30分
6	〃	情報活用能力育成のための基礎的な指導法②体育の授業におけるICTの活用事例	授業資料の復習30分
7	〃	情報活用能力育成のための基礎的な指導法③保健の授業におけるICTの活用事例	授業資料の復習30分
8	〃	情報活用能力育成のための基礎的な指導法④ICTを活用した指導事例のまとめ	授業資料の復習30分

授業科目名 (ナンバリングコード)	学校と教育の歴史 (151A0-1307)	授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)
担当教員名	菊地原　守			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	180名程度
授業の概要	古代ギリシャから現代に至るまでの学校と教育の歴史を通史で学ぶ。前半の授業では西洋の教育史、後半は日本の教育史を扱う。また、授業では今日的な教育課題に引き寄せながら考える機会を設け、歴史的事項をより深く理解できるようにする。そのことで、現在の教育課題に対してその歴史的経緯を踏まえて考察できるようになることが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理、専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	学校と教育の歴史における基礎的知識を身につけ、重要事項について説明できる。教育の現代的課題について、歴史的視点から客観的に考えることができる。					○		80
	■情意的領域	授業に毎回出席をし、主体的に授業に参加する。 授業内で出された課題に対して意欲的に取り組む。	○						20
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業への参加状況や定期試験（中間・期末試験）を総合的に評価します。３分の２以上の出席がない場合や、定期試験を無断欠席した場合には履修放棄とみなし、成績評価の対象としません。
テキスト、教材 参　考　書	参考書：必要に応じて、授業中に随時紹介します。また、参考資料は適宜配布します。
履修条件・ 関連科目	教職科目全般
備考(教員メッセージ含む)	本授業は中間試験（第8回）と期末試験（第16回）を実施します。いずれも無断欠席は認めません。
オフィス・アワー	随時対応。事前にメールでアポを取ってください。

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	菊地原　守	オリエンテーション：学校と教育の歴史を学ぶ意味	授業資料の復習（３０分）
2	〃	古代ギリシャ・ローマの教育	授業資料の復習（３０分）
3	〃	中世ヨーロッパの教育	授業資料の復習（３０分）
4	〃	子どもの発見と近代家族	授業資料の復習（３０分）
5	〃	近代市民革命と国民国家の形成	授業資料の復習（３０分）
6	〃	近代学校と義務教育	授業資料の復習（３０分）
7	〃	子どもの世紀と新教育運動	授業資料の復習（１時間）
8	〃	西洋史のまとめと中間テスト	定期試験内容の復習（３０分）
9	〃	近世社会における人間形成	授業資料の復習（３０分）
10	〃	近世社会と学びの文化	授業資料の復習（３０分）
11	〃	近代学校の出発と教育勅語	授業資料の復習（３０分）
12	〃	大正期から昭和初期の教育	授業資料の復習（３０分）
13	〃	戦時期の教育	授業資料の復習（３０分）
14	〃	戦後日本の教育改革	授業資料の復習（３０分）
15	〃	日本史のまとめと現代の教育事情	授業資料の復習（１時間）
16	〃	学期末試験	定期試験内容の復習（３０分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	教育法・教育行政 (151A0-1308)	授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)
担当教員名	森　克己			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	200名程度
授業の概要	教育法・教育行政の理論や教育に関する法令等を解説することによって、受講生が教育法・教育行政の基礎知識を身につけることができるようになることを目標とする。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（×）、ディスカッション・討論（×）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理、専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	教育法・教育行政の基礎知識を身に付ける。教員採用試験の教育放棄の問題の解き方を身に付ける。		○			○		90
	■情意的領域	授業に積極的に参加し、復習問題に取り組む。	○		○				10
	□技能的領域								

成績評価の基準	学期末試験の成績、小テストの成績、毎回の授業時に課される復習問題（レポート）への取組みを総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	参考書：『ガイドブック教育法』（三省堂、新訂版）、朝倉征夫編『おさえておきたい教育法規』（酒井書店）『憲法と教育人権』（日本評論社）、『解説　教育六法』（三省堂、2019年版）		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	森：水曜日、木曜日の午後（５０８研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	森　克己	オリエンテーション：講義全体の構成・進め方の解説、教育行政・法規の基本原理	履修要項・シラバスの予習（10分以上）
2	〃	教育法・教育行政の全体構造	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
3	〃	教育の基本理念に関する規定①（日本国憲法の教育関連規定）	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
4	〃	教育の基本理念に関する規定②（教育基本法の規定①）	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
5	〃	教育の基本理念に関する規定③（教育基本法の規定②）	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
6	〃	教育の基本理念に関する規定④（教育基本法の規定③）	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
7	〃	教育行政の理念と仕組み①（地教行法による教育委員会に関する規定）	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
8	〃	教育行政の理念と仕組み②（地教行法による教育委員会に関する規定）	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
9	〃	学校教育に関する規定①（学校の管理・経費の負担）	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
10	〃	学校教育に関する規定②（学校の目的・目標①）	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
11	〃	学校教育に関する規定③（学校の目的・目標②）	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
12	〃	学校と地域との連携①（学校評議員制度）	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
13	〃	学校と地域との連携②（学校運営協議会制度）	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
14	〃	学校安全への対応①（こども性暴力防止法の規定）	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
15	〃	学校安全への対応②（学校保健安全法の規定）	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	介護等体験 (151A0-6300)	授業形態	実習	授業科目区分	教職科目 (教職)
担当教員名	介護等体験小委員会			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	―
授業の概要	教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ教員の資質向上及び学校教育の一層の充実を図るため、小学校及び中学校の教諭の普通免許状取得希望者に介護等体験が義務付けられている。具体的には、社会福祉施設等を利用する高齢者、障害者及び児童の介護・介助や交流等体験、社会福祉施設等が行う行事の手伝い、社会福祉施設等の職員に必要とされる業務の補助等を行う。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、課題解決力、一般教養・倫理							
	■認知的領域								
	■情意的領域								
	■技能的領域								

成績評価の基準	事前指導のオリエンテーション、ガイダンス、ならびに２回の特別講義。 特別支援学校での２日間の実習、社会福祉施設での５日間の実習、それぞれに関するレポートの提出。 以上のいずれかが欠けた場合、単位は認定されない。
テキスト、教材 参　考　書	適時配付する。

履修条件・関連科目	中学校教諭一種免許状取得希望者は必ず履修すること。	備考(教員メッセージ含む)	実習経費は自己負担要です。特別支援学校での実習、社会福祉施設での実習、介護等体験賠償責任保険、の合計が１万円程度です。 ○実務経験のある教員による授業科目：特別支援学校及び社会福祉施設の職員が実習を担当
オフィス・アワー	キャリア支援係　８：３０～１７：１５		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	介護等体験小委員会	オリエンテーション	復習（３０分）
2	〃	「特別支援学校での実習」の実習先、日程の調整と決定	実習施設の確認（３０分）
3	〃	「特別支援学校での実習」に向けての特別講義	復習（３０分）
4	〃	「社会福祉施設での実習」の実習先、日程の調整と決定	実習施設の確認（３０分）
5	〃	「社会福祉施設での実習」に向けての特別講義	復習（３０分）
6	〃	服装、身だしなみ、マナーの特別講義・実習	復習（３０分）
7	〃	特別支援学校での実習　２日間	日誌の作成（３０分×２日）
8	〃	社会福祉施設での実習　５日間	日誌の作成（３０分×５日）
9	〃	事後指導	復習（３０分）
10	〃	レポート提出	日誌の作成（３０分×２日）

授業科目名 (ナンバリングコード)	生徒・進路指導論 (151A0-1309)	授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)
担当教員名	栗山　靖弘			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3	受け入れ人数	150人程度
授業の概要	生徒指導の意義や原理、学校現場での実際の進め方について理解することを目的とする。生徒指導の課題は時代とともに変遷している。そのため、生徒指導上の今日的課題を理解し、個別・集団での指導法や、教員間および専門家・関係機関との連携について理解する。さらに、生徒の人間形成を長期的な視点から支援することを目指す教育活動として、進路指導・キャリア教育の意義と指導法について理解する。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（×）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力		授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	講義内容を理解し、生徒・進路指導について自分の考えを述べることができる。 学校教育を取り巻く諸問題について、その社会的背景や解決のためのアプローチを考察することができる。			○				60
	■情意的領域	毎回、授業に出席し、主体的に参加する。 課題に意欲的に取り組む。			○				40
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業参加状況、レポートを総合的に判断して評価します。		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：文部科学省, 2022,『生徒指導提要』（改訂版） 参考書：その他の参考書等は、必要に応じて授業中に随時紹介・配付します。		
履修条件・ 関連科目	教職関連科目全般	備考(教員メッセージ含む)	教員を志望している学生が受講していることを前提に講義を行います。
オフィス・アワー	随時対応。事前にメールでアポを取ってください。研究棟6階 605教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	栗山　靖弘	生徒指導の意義と原理	テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)
2	〃	教育課程と生徒指導	テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)
3	〃	生徒理解と集団・個別指導の方法	テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)
4	〃	学校における生徒指導体制	テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)
5	〃	学級担任・教科担任の立場と役割等	テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)
6	〃	居場所としての学級(規範意識の醸成および自己肯定感の育成)	テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)
7	〃	生徒指導の実際ー現場の教師の経験から	授業の復習(60分)
8	〃	生徒指導の諸課題①生徒文化と少年非行	テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)
9	〃	生徒指導の諸課題②情報・消費社会のなかの生徒	テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)
10	〃	生徒指導の諸課題③いじめ問題	テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)
11	〃	生徒指導の諸課題④不登校	テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)
12	〃	生徒指導の諸課題⑤グループでの事例検討	テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)
13	〃	進路指導とキャリア教育①キャリア教育の意義と位置づけ	テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)
14	〃	進路指導とキャリア教育②ガイダンスとしての進路指導	テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)
15	〃	授業のまとめ	授業資料の復習(60分)

授業科目名 (ナンバリングコード)	教育相談・カウンセリング論 (151A0–1310)	授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)
担当教員名	中本　浩揮・幾留　沙智・山下　協子			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	200名程度

授業の概要	現代の教育現場では子どもの不適応あるいは発達障がいなど対応すべき事項が多様化している。そのため、教育相談における現代的課題の理解や解決に関する基礎技能を身に付けることは教師としての責務といえる。本講義では、教育現場の事例を通して、カウンセリングの基礎、臨床現場におけるカウンセリングと学校現場における教育相談の違いについての理解を講義を通して深める。また、様々な不適応行動や発達障がいに対する現状と心理学から見た理論・対処法の学習を通じて、教育相談の意義を理解したり、組織的な取組みや連携の必要性について理解する。さらに種々の問題を予防する開発的カウンセリングとして、構成的グループ・エンカウンターの実際について体験を通して身に付ける。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、コミュニケーション力、専門的な知識・教養							
	■認知的領域	教育現場で生じる生徒の心の問題や発達障がいに対処できる知識を身につける。	○	○	○		○		80
	■情意的領域	教育相談・カウンセリングの基礎理論や意義，学校教育との関係に関する理解を深める。	○	○	○				10
	■技能的領域	子どもの自己理解・他者理解・社会性を発達させる実践的スキルを身に付ける。	○	○	○				10

成績評価の基準	小テスト、授業後の感想レポート、及び学期末試験を実施する。これらを総合して成績評価を行う。出席２/３未満の者は放棄扱いとし評価しない。		
テキスト、教材 参　考　書	テキストは使用しないが、必要に応じて資料を配付する。		
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	随時(707教員室)		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中本　浩揮	なぜ学校現場にカウンセリングが必要か？	カウンセリングの必要性について復習する(30分)
2	〃	カウンセリングの基礎と生徒理解	カウンセリングの基礎について復習する(30分)
3	〃	カウンセリングの基礎と傾聴技法	小テストに向けての復習(30分)
4	〃	カウンセリングの体験　自己式カウンセリング	カウンセリングについての復習(30分)
5	中本　浩揮 山下　協子	カウンセリングの実際と学校連携	小テストに向けての復習(30分)
6	中本　浩揮	問題行動の実際　不登校	小テストに向けての予習(30分)
7	中本　浩揮 山下　協子	不登校児の理解とカウンセリング的対応	小テストに向けての復習・レポート(1時間)
8	中本　浩揮	問題行動の理解と教育相談	小テストに向けての復習(30分)
9	〃	問題行動の実際　いじめ	小テストに向けての復習(30分)
10	〃	問題行動の理解と対応　いじめ	小テストに向けての復習(30分)
11	幾留　沙智	開発的カウンセリングの考え方と現場での応用事例	予防的カウンセリングの予習と小テストに向けての復習(30分)
12	〃	構成的グループ・エンカウンターの基礎と実際	小テストに向けての復習・レポート(1時間)
13	中本　浩揮	発達障がいの理解と対応①　ADHD	小テストに向けての復習(30分)
14	〃	発達障がいの理解と対応②　自閉症スペクトラム	小テストに向けての復習(30分)
15	〃	教育・相談カウンセリングの総括	期末試験に向けての復習(1時間)
16	中本　浩揮 幾留　沙智	学期末試験	期末試験の復習(1時間)

授業科目名 (ナンバリングコード)	教育課程論 (151A0-1311)	授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)
担当教員名	菊地原　守			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	180名程度
授業の概要	学習指導要領を基準として各学校で編成される教育課程（カリキュラム）の意義と編成方法を学ぶ。また後半の授業では、講義で学んだことを活かして、受講生自身が教育計画を構想する。これにより、学校・生徒の実情に即した教育計画を策定したり、カリキュラム・マネジメントをおこなったりする実践的な能力を修得することが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理、専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	教育課程に関する基本的な知識を身につける。 学習指導要領の変遷や位置付けを理解し、現行の学習指導要領の要点を説明できる。		○					30
	■情意的領域	授業に毎回出席をし、主体的に授業に参加する。 授業内で出された課題やグループワークに対して意欲的に取り組む。	○			○			20
	■技能的領域	教育課程編成の基本原理を踏まえて、指導計画を構想することができる。			○	○			50

成績評価の基準	授業への参加状況、発表、最終レポートを総合的に評価します。また３分の２以上の出席がない場合や、最終レポートを提出していない場合、発表を無断欠席した場合には履修放棄とみなし、成績評価の対象としません。
テキスト、教材 参　考　書	〈テキスト〉文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）（総則編）」 参考書：必要に応じて、授業中に随時紹介します。また、参考資料は適宜配布します。
履修条件・ 関連科目	教職科目全般
備考(教員メッセージ含む)	授業ではディスカッションやグループワークの時間を設けます。自分の意見をしっかり持って積極的に参加してください。
オフィス・アワー	随時対応。事前にメールでアポを取ってください。

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	菊地原　守	オリエンテーション：教育課程の役割・機能・意義	授業資料の復習（３０分）
2	〃	教育課程編成の基本原理	授業資料の復習（３０分）
3	〃	学習指導要領の位置付けと変遷	授業資料の復習（３０分）
4	〃	アクティブラーニングとカリキュラムマネジメント	授業資料の復習（３０分）
5	〃	教育計画を構想する	発表準備（１時間）
6	〃	教育計画を組織する	発表準備（１時間）
7	〃	教育計画を発表する	レポートの作成（２時間）
8	〃	全体のまとめ	講義内容の振り返り（３０分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	保健体育科教育法Ⅰ (152A0-1300)	授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (専門)
担当教員名	栫　ちか子・松永　武人			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	180名程度

授業の概要	本授業では、保健体育教員を目指すためのガイダンス的内容を取り上げる。特に、保健体育教員として身に付けておかなければならない資質・能力に関する内容としての授業づくりや教材研究の進め方、部活動指導への関わり方などについて理解を深めることができるようにする。さらに、学級経営や生徒指導など学級担任として果たさなければならない役割等についても理解することができるようにする。また、都道府県及び政令指定都市における教員採用選考試験の内容についても調べ、見通しを立てながら計画的に準備を進めることができるようにする。さらに、保健体育教員としてのみならず、一人の教員としての在り方について深く省察する機会を設ける。コア・リフレクションの活動を通じて自己の教育観を問い直し、省察力を深化させることも、本授業におけるねらいのひとつとする。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、専門的な知識・教養 （一般教養・倫理）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	保健体育教員として身に付けておかなければならない資質・能力や教育課題について理解している。			○		○		50
	■情意的領域	保健体育教員として身に付けておかなければならない資質・能力や教育課題について理解するために、授業に積極的に参画しようとする。	○			○			30
	■技能的領域	教員採用選考試験の動向、運動部活動の在り方について考察したことをわかりやすく書き表すことができる。	○		○				20

成績評価の基準	授業の到達目標に則り、上記のとおりの割合で、授業への参画状況や、レポート、定期試験等の内容から総合的に評価します。また、３分の２以上の出席がない場合、履修放棄とみなし、定期試験の受験を認めません。
テキスト、教材 参　考　書	文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説保健体育編』 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説保健体育編　体育編』 杉山重利・佐藤豊・園山和夫編著『新・目指そう保健体育教師』朝日出版社 伊藤博子著『保健体育教師になろう』大修館書店
履修条件・ 関連科目	関連科目は、教職科目全般です。
備考(教員メッセージ含む)	実務経験のある教員による授業科目です。学校現場に適応できるよう指導していきます。 保健体育教員を目指すに当たってのガイダンス的内容を学習します。本科目を受講して教職についての理解を一層深め、保健体育科教育法Ⅱ～Ⅳの履修に向けての見通しを立ててください。
オフィス・アワー	随時：栫（研究棟７階703教員研究室）　松永（研究棟6階608教員研究室）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	栫　ちか子 松永　武人	オリエンテーション、保健体育教員の仕事	授業内容の復習（30分）
2	〃	我が国の学校と教員、今日的教育課題	授業内容の復習，反転学習①（コア・リフレクションに向けて）（40分）
3	〃	保健体育教員を目指すには 出身地の「教員採用選考試験の動向」についてのレポート コア・リフレクション①	授業内容の復習（30分） レポート作成（２時間）
4	〃	保健体育教員に求められる資質・能力とは	授業内容の復習（30分）
5	〃	体育授業の指導１	授業内容の復習（30分）
6	〃	体育授業の指導２	授業内容の復習（30分）
7	〃	体育授業の指導３	授業内容の復習（30分）
8	〃	体育理論授業の指導	授業内容の復習（30分）
9	〃	保健授業の指導１	授業内容の復習（30分）
10	〃	保健授業の指導２	授業内容の復習（30分）
11	〃	運動部活動の指導 「運動部活動の在り方」についてのレポート	授業内容の復習（30分） レポート作成（２時間）
12	〃	学級担任の仕事	授業内容の復習（30分）
13	〃	教育実習のねらいと実際	授業内容の復習（30分）
14	〃	教育実習Ｑ＆Ａ	授業内容の復習，反転学習②（コア・リフレクションに向けて）（40分）
15	〃	教員採用選考試験合格を目指して コア・リフレクション②	授業内容の復習（30分）
16	〃	学期末試験	学期末試験内容の復習（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	保健体育科教育法Ⅱ (152A0-1301)	授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (専門)
担当教員名	栫　ちか子・松永　武人			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	170名程度
授業の概要	本授業は、学習指導要領の内容を基盤として、保健体育を構成している各運動領域、体育理論及び保健について解説し、学校における保健体育学習に対する総括的な理解を深めることをねらいとする。このことを通して、保健体育学習の「目標―内容－指導－評価」の一体化を図る指導の在り方や授業の構造について理解を深め、単元及び単位時間の授業計画立案についての基礎知識を習得するよう取り組む。さらに、保健体育教員としてのみならず、一人の教員としての在り方について深く省察する機会を設ける。コア・リフレクションの活動を通じて自己の教育観を問い直し、省察力を深化させることも、本授業におけるねらいのひとつとする。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、専門的な知識・教養 （事業運営力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	保健体育科の目標及び内容，指導計画の作成と内容の取扱い等について理解している。			○		○		50
	■情意的領域	保健体育を構成している各運動領域、体育理論、保健について理解を深め、授業に積極的に参画しようとする。	○			○			30
	■技能的領域	年間指導計画、単元計画、単位時間の指導計画及び学習指導案を作成することができる。	○		○				20

成績評価の基準	授業の到達目標に則り、上記のとおりの割合で、授業への参画状況や、レポート、定期試験等の内容から総合的に評価します。また、３分の２以上の出席がない場合、履修放棄とみなし、定期試験の受験を認めません。
テキスト、教材 参　考　書	文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　保健体育編』及び『高等学校学習要領（平成30年告示）解説保健体育編　体育編』 国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校　保健体育】』及び『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 保健体育』

履修条件・関連科目	原則として、保健体育科教育法Ⅰを履修し、その単位を修得していることを履修条件とします。 ３年次の保健体育科教育法Ⅲ及びⅣ、４年次の教育実習Ⅰ・Ⅱの基礎固めとなる授業になります。 関連科目は、教職科目全般です。	備考(教員メッセージ含む)	実務経験のある教員による授業科目です。学校現場に適応できるよう指導していきます。 学習指導要領の内容を理解し、学習指導案を作成できるようになることが、３年次の保健体育科教育法Ⅲ、保健体育科教育法Ⅳ、４年次の教育実習の充実につながります。
オフィス・アワー	随時：栫 （研究棟７階703教員研究室）　松永（研究棟6階608教員研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	栫　ちか子 松永　武人	オリエンテーション 保健体育科とは	授業内容の復習，反転学習①（コア・リフレクションに向けて）（40分）
2	〃	学習指導要領とは コア・リフレクション①	授業内容の復習（30分）
3	〃	体育学習の指導①（体つくり運動）	授業内容の復習（30分）
4	〃	体育学習の指導②（器械運動）	授業内容の復習（30分）
5	〃	体育学習の指導③（陸上競技）	授業内容の復習（30分）
6	〃	体育学習の指導④（水泳）	授業内容の復習（30分）
7	〃	体育学習の指導⑤（球技）	授業内容の復習（30分）
8	〃	体育学習の指導⑥（武道）	授業内容の復習（30分）
9	〃	体育学習の指導⑦（ダンス）	授業内容の復習（30分）
10	〃	体育学習の単元計画・学習指導案の作成	学習指導案の作成（３時間）
11	〃	体育学習の単元計画・学習指導案の作成	学習指導案の作成（３時間）
12	〃	体育学習の指導⑧（体育理論） 学習指導案（体育分野）の提出	授業内容の復習（30分）
13	〃	保健学習の指導	授業内容の復習（30分）
14	〃	保健学習の単元計画・学習指導案の作成	学習指導案の作成（３時間），反転学習②（コア・リフレクションに向けて）（10分）
15	〃	保健学習の単元計画・学習指導案の作成、授業のまとめ コア・リフレクション②	学習指導案の作成（３時間）
16	〃	学期末試験 学習指導案（保健分野）の提出	学期末試験内容の復習（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	保健体育科教育法Ⅲ (152B0–3300)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	教職科目 (専門)
担当教員名	栫　ちか子・松永　武人・有薗 ゆい			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	120名

授業の概要	保健体育科教育法Ⅰ及び保健体育科教育法Ⅱで身に付けたことを踏まえて、４年次の教育実習に向けた実践力を身に付けるために、保健体育科の目標や内容、指導法、評価法等について理論と実際を往還しながら、単元構造図、学習指導案等を作成して模擬授業を行う。 模擬授業の実施に当たっては、選択領域を「球技」、「体つくり運動・器械運動」、「体育理論・保健」の３つに分け、その中から各自で２領域を選択して、週休日に計画する５時間の集中講義において２回ずつの模擬授業を行う。その他に５時間の平常授業を実施する。 模擬授業に対してのリフレクションを通して、自身の授業実践力の改善を図ると共に、一人の教員としての在り方について深く省察する機会として、コア・リフレクションの活動も導入しながら、省察力の深化を通した「学び続ける教員」としての資質・能力を高めていくこともねらいとしている。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	事業運営力、指導者基礎力、専門的な知識・教養 （指導者基礎力、リーダーシップ）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	指導と評価の計画、教材・教具の作成、模擬授業、授業研究等に関する基本的事項を理解している。			○				20
	■情意的領域	指導と評価の計画、教材・教具の作成、模擬授業、授業研究等に関する基本的事項を理解するために、授業に自主的に参画しようとする。	○			○			30
	■技能的領域	指導と評価についての計画を作成することができる。 基本的な指導技術を用いて、模擬授業を行うことができる。	○			○			50

成績評価の基準	授業の到達目標に則り、上記のとおりの割合で、授業への参画状況や、レポート等の内容から総合的に評価します。また、３分の２以上の出席がない場合、履修放棄と見なします。なお、定期試験は行いません。
テキスト、教材 参　考　書	文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　保健体育編』 国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校　保健体育】』

履修条件・関連科目	原則として、保健体育科教育法Ⅰ、Ⅱを履修し、その単位を修得していることを履修条件とします。 通常の授業５回の他に、週休日等に５時間の集中講義を複数回実施します。その内の２回の集中講義に出席可能であることを確認して履修してください。 なお、模擬授業グループの編成をするため、必ず事前に履修登録を済ませ、第１回目の授業に出席してください。	備考(教員メッセージ含む)	実務経験のある教員による授業科目です。学校現場に適応できるよう指導していきます。 授業力の高まりは、４年次の教育実習の充実につながります。

オフィス・アワー	随時：栫 （研究棟７階703教員研究室）　松永（研究棟608教員研究室）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	栫　ちか子 松永　武人	オリエンテーション、授業づくり 模擬授業グループの編成	授業内容の復習，反転学習①（コア・リフレクションに向けて）（40分）
2	〃	授業づくりの実際 模擬授業グループの確認 コア・リフレクション①	授業内容の復習（30分）
3	〃	集中講義１に向けた模擬授業の役割分担、授業構想等	授業内容の復習（１時間）
4	〃	集中講義１（４～８回）５～６月の週休日等での実施 集中講義１－①　指導と評価の計画、教材・教具の作成等	
5	〃	集中講義１－②　指導と評価の計画、教材・教具の作成等	
6	栫　ちか子 松永　武人 有薗 ゆい	集中講義１－③　模擬授業、授業研究等	
7	〃	集中講義１－④　模擬授業、授業研究等	
8	〃	集中講義１－⑤　模擬授業、授業研究等	模擬授業の反省と分析（２時間）
9	栫　ちか子 松永　武人	集中講義２に向けた模擬授業の役割分担、授業構想等	授業内容の復習（１時間）
10	〃	集中講義２（10～14回）６～７月の週休日等での実施 集中講義２－①　指導と評価の計画、教材・教具の作成等	
11	〃	集中講義２－②　指導と評価の計画、教材・教具の作成等	
12	栫　ちか子 松永　武人 有薗 ゆい	集中講義２－③　模擬授業、授業研究等	
13	〃	集中講義２－④　模擬授業、授業研究等	
14	〃	集中講義２－⑤　模擬授業、授業研究等	模擬授業の反省と分析（２時間） 反転学習②（コア・リフレクションに向けて）（10分）
15	栫　ちか子 松永　武人	模擬授業のリフレクション・まとめ、よりよい授業づくり コア・リフレクション②	授業内容の復習（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	保健体育科教育法Ⅳ (152B0-3301)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	教職科目 (専門)
担当教員名	栫　ちか子・藤井　雅文・小崎　亮輔・松永　武人			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	108名

授業の概要	保健体育科教育法Ⅰ及び保健体育科教育法Ⅱで身に付けたこと、保健体育科教育法Ⅲにおける模擬授業の実践を踏まえ、４年次の教育実習に向けて、より高い実践力を身に付けるために、保健体育科の目標や内容、指導法、評価法等について理論と実際を往還しながら、学習指導案等を作成して模擬授業を行う。また、撮影した動画を視聴し、授業者の指導技術等についてリフレクションを行う。 模擬授業の実施に当たっては、選択領域を「体つくり運動・器械運動・ダンス」、「球技・武道」、「体育理論・保健」の３つに分け、その中から各自で２領域を選択して、２回以上の模擬授業を行う。授業に対するリフレクションを通じて、保健体育科教育法Ⅲより、さらに高い授業実践力の育成・改善に向けて取り組むと共に、一人の教員としての在り方について深く省察する機会として、コア・リフレクションの活動も導入しながら、省察力の深化を通した「学び続ける教員」としての資質・能力を高めていくこともねらいとしている。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	事業運営力、コミュニケーション力、専門的な知識・教養 （指導者基礎力、リーダーシップ）							
	■認知的領域	指導と評価の計画、教材・教具の作成、模擬授業、授業研究等に関する基本的事項を理解し、指導上の留意点等を説明している。			○				20
	■情意的領域	指導と評価の計画、教材・教具の作成、模擬授業、授業研究等に関する基本的事項を理解し、指導上の留意点等を説明するために、授業に自主的に参画しようとする。	○			○			30
	■技能的領域	指導と評価についての計画を作成することができる。 基本的な指導技術を用い、自分なりの工夫を図って、模擬授業を行うことができる。	○			○			50

成績評価の基準	授業の到達目標に則り、上記のとおりの割合で、授業への参画状況や、レポート等の内容から総合的に評価します。また、３分の２以上の出席がない場合、履修放棄とみなします。なお、定期試験は行いません。		
テキスト、教材 参　考　書	文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　保健体育編』 国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校　保健体育】』		
履修条件・関連科目	原則として、保健体育科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを履修し、その単位を修得していることを履修条件とします。 学習指導案作成や授業分析等、授業時間外の学習時間の確保が必要です。その時間確保が可能であることを確認して履修してください。 なお、模擬授業グループの編成をするため、必ず事前に履修登録を済ませ、第１回目の授業に出席してください。	備考(教員メッセージ含む)	実務経験のある教員による授業科目です。学校現場に適応できるよう指導していきます。 授業力の高まりは、４年次の教育実習の充実につながります。
オフィス・アワー	随時：栫（研究棟７階703教員研究室）　松永（研究棟6階608教員研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	栫　ちか子 松永　武人	オリエンテーション 模擬授業グループの編成	授業内容の復習，反転学習①（コア・リフレクションに向けて）（40分）
2	〃	授業づくり、授業分析の実際 模擬授業グループの確認 コア・リフレクション①	授業内容の復習（30分）
3	〃	第１ピリオド①　授業づくり 学習指導案等の作成	学習指導案等の作成（３時間）
4	〃	第１ピリオド②　模擬授業、授業分析	授業分析等（１時間30分）
5	〃	第１ピリオド③　模擬授業	授業分析等（１時間30分）
6	〃	第１ピリオド④　模擬授業、授業分析	授業分析等（１時間30分）
7	〃	第２ピリオド①　授業づくり 学習指導案等の作成	学習指導案等の作成（３時間）
8	〃	第２ピリオド②　模擬授業、授業分析	授業分析等（１時間30分）
9	〃	第２ピリオド③　模擬授業、授業分析	授業分析等（１時間30分）
10	〃	第２ピリオド④　模擬授業、授業分析	授業分析等（１時間30分）
11	〃	第３ピリオド①　授業づくり 学習指導案等の作成	学習指導案等の作成（３時間）
12	〃	第３ピリオド②　模擬授業、授業分析	授業分析等（１時間30分）
13	〃	第３ピリオド③　模擬授業、授業分析	授業分析等（１時間30分）
14	〃	第３ピリオド④　模擬授業、授業分析	授業分析等（１時間30分），反転学習②（コア・リフレクションに向けて）（10分）
15	〃	模擬授業・授業分析のリフレクション・まとめ　コア・リフレクション②	授業内容の復習（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	教育実習Ⅰ (152C0-6300)	授業形態	実習	授業科目区分	教職科目 (専門)
担当教員名	栫　ちか子・松永　武人			補助担当者名	
単位数	5　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	―

授業の概要

「中学校教諭一種免許状（保健体育）」並びに「高等学校教諭一種免許状（保健体育）」の取得希望者は、教育実習Ⅱではなく、本授業を選択する。
実習前には、教育実習の意義や目的を正しく理解し、学習指導案の作成等を通して、適切な生徒対応や学習指導等について説明できるようにする。実習中は、授業実践をはじめとして教育活動全般に主体的に関わり、教職についての見識を深めることに努める。実習後は、自身の取組を振り返り、より高い実践力を身に付けるためにできることを整理する。
なお、事後指導や教職実践演習での授業分析等に活用するために、教育実習における研究授業等の様子を撮影できるよう、実習校に事前に承諾を得る。

【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり
グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、コミュニケーション力、専門的な知識・教養 （事業運営力、リーダーシップ）							
	■認知的領域	教育実習の意義や目的を理解し、適切な生徒対応や学習指導等について説明している。	○		○				20
	■情意的領域	学習指導案作成、授業実践をはじめととする教育活動全般、事後の振り返り等に主体的に取り組もうとする。	○			○			30
	■技能的領域	生徒の実態に応じた学習指導案を作成し、適切な生徒対応や学習指導等について説明することができる。 基本的な指導技術を用い、自分なりの工夫を図って授業を行うことができる。また、自分なりの視点をもって授業分析ができる。	○		○				50

成績評価の基準	授業の到達目標に則り、上記のとおりの割合で、授業への参画状況や、学習指導案、事後レポート、事後提出物（所感、手引き、評価票、出勤簿）の内容、実習成績から総合的に評価します。また、事前指導において３分の２以上の出席がない場合、履修放棄とみなし、教育実習への参画を認めません。事前・事後指導において３分の２以上の出席がない場合も履修放棄とみなします。なお、定期試験は行いません。
テキスト、教材 参　考　書	鹿屋体育大学『教育実習の手引き』 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　保健体育編』及び『高等学校学習要領（平成30年告示）解説保健体育編　体育編』 国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校　保健体育】』及び『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 【高等学校 保健体育】』

履修条件・ 関連科目	原則として、保健体育科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを履修し、その単位を修得しており、履修要項「教育実習参加資格」を満たしていることを履修条件とします。 事前指導（教員から指示された回）にスーツ等で出席すること、教育実習前に時間的なゆとりをもって学習指導案を作成し提出することを遵守してもらいます。なお、学習指導案については、教員の指導助言を受け、一定レベル以上のものを作成してもらいます。 また、必ず事前に履修登録を済ませ、第１回目の授業に出席してください。	備考(教員メッセージ含む)	実務経験のある教員による授業科目です。学校現場に適応できるよう指導していきます。 単位修得不足で教育実習参加資格を満たすことができず、教育実習を辞退せざるを得ないケースがあります。教育実習校へ多大な迷惑をかけることになりますので、確実に参加できるよう、確認をお願いします。
オフィス・アワー	随時：栫 （研究棟７階703教員研究室）　松永（研究棟6階608教員研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	栫　ちか子 松永　武人	オリエンテーション　教育実習の意義・目的・内容	授業内容の復習（30分）
2		学習指導案の作成指導	学習指導案の作成(3時間)
3	栫　ちか子 松永　武人	学習指導案の作成指導	学習指導案の作成（３時間），反転学習①（コア・リフレクションに向けて）（10分）
4	〃	学習指導案の作成指導 コア・リフレクション①	授業内容の復習・レポート作成（１時間）
5	〃	教育実習への最終確認と教師としての心構え	授業内容の復習・携行品等の確認（１時間）
6	〃	教育実習（６～12回は実習校での実践活動）	実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）
7	〃	教育実習	実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）
8	〃	教育実習	実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）
9	〃	教育実習	実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）
10	〃	教育実習	実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）
11	〃	教育実習	実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）
12	〃	教育実習	実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定） 反転学習②（コア・リフレクションに向けて）
13	〃	事後指導（教育実習の振り返り、礼状の作成等），コア・リフレクション②	礼状の作成等（３時間）
14	〃	事後指導（所感の作成、研究授業の分析、期間記録作成等）	所感の作成、研究授業の分析、期間記録作成等（３時間）
15	〃	事後指導（所感の作成、研究授業の分析、期間記録作成等）	所感の作成、研究授業の分析、期間記録作成等（３時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	教育実習Ⅱ (152C0-6301)	授業形態	実習	授業科目区分	教職科目 (専門)
担当教員名	栫　ちか子・松永　武人			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	―

授業の概要	「高等学校教諭一種免許状（保健体育）」のみの取得希望者は、教育実習Ⅰではなく、本授業を選択する。 実習前には、教育実習の意義や目的を正しく理解し、学習指導案の作成等を通して、適切な生徒対応や学習指導等について説明できるようにする。実習中は、授業実践をはじめとして教育活動全般に主体的に関わり、教職についての見識を深めることに努める。実習後は、自身の取組を振り返り、より高い実践力を身に付けるためにできることを整理する。 なお、事後指導や教職実践演習での授業分析等に活用するために、教育実習における研究授業等の様子を撮影できるよう、実習校に事前に承諾を得る。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、コミュニケーション力、専門的な知識・教養 （事業運営力、リーダーシップ）							
	■認知的領域	教育実習の意義や目的を理解し、適切な生徒対応や学習指導等について説明している。	○		○				20
	■情意的領域	学習指導案作成、授業実践をはじめとする教育活動全般、事後の振り返り等に主体的に取り組もうとする。	○			○			30
	■技能的領域	生徒の実態に応じた学習指導案を作成し、適切な生徒対応や学習指導等について説明することができる。 基本的な指導技術を用い、自分なりの工夫を図って授業を行うことができる。また、自分なりの視点をもって授業分析ができる。	○		○				50

成績評価の基準	授業の到達目標に則り、上記のとおりの割合で、授業への参画状況や、学習指導案、事後レポート、事後提出物（所感、手引き、評価票、出勤簿）の内容、実習成績から総合的に評価します。また、事前指導において３分の２以上の出席がない場合、履修放棄と見なし、教育実習への参画を認めません。事前・事後指導において３分の２以上の出席がない場合も履修放棄と見なします。なお、定期試験は行いません。
テキスト、教材 参　考　書	鹿屋体育大学『教育実習の手引き』 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　保健体育編』及び『高等学校学習要領（平成30年告示）解説保健体育編　体育編』 国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校　保健体育】』及び『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 【高等学校 保健体育】』

履修条件・ 関連科目	原則として、保健体育科教育法Ⅰ、Ⅱを履修し、その単位を修得しており、履修要項「教育実習参加資格」を満たしていることを履修条件とします。 事前指導（教員から指示された回）にスーツ等で出席すること、教育実習前に時間的なゆとりをもって学習指導案を作成し提出することを遵守してもらいます。なお、学習指導案については、教員の指導助言を受け、一定レベル以上のものを作成してもらいます。 また、必ず事前に履修登録を済ませ、第１回目の授業に出席してください。	備考(教員メッセージ含む)	実務経験のある教員による授業科目です。学校現場に適応できるよう指導していきます。 単位修得不足で教育実習参加資格を満たすことができず、教育実習を辞退せざるを得ないケースがあります。教育実習校へ多大な迷惑をかけることになりますので、確実に参加できるよう、確認をお願いします。
オフィス・アワー	随時：栫 （研究棟７階703教員研究室）　松永（研究棟6階608教員研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	栫　ちか子 松永　武人	オリエンテーション　教育実習の意義・目的・内容	授業内容の復習（30分）
2	〃	単元計画及び学習指導案の作成指導	学習指導案の作成（３時間）
3	〃	学習指導案の作成指導	学習指導案の作成（３時間），反転学習①（コア・リフレクションに向けて）
4	〃	学習指導案の作成指導 コア・リフレクション①	授業内容の復習・レポート作成（１時間）
5	〃	教育実習への最終確認と教師としての心構え	授業内容の復習・携行品等の確認（１時間）
6	〃	教育実習　（６～12回は実習校での実践活動）	実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）
7	〃	教育実習	実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）
8	〃	教育実習	実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）
9	〃	教育実習	実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）
10	〃	教育実習	実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）
11	〃	教育実習	実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定） 反転学習②（コア・リフレクションに向けて）
12	〃	教育実習	実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）
13	〃	事後指導（教育実習の振り返り、礼状の作成等），コア・リフレクション②	礼状の作成等（３時間）
14	〃	事後指導（所感の作成，研究授業の分析，期間記録作成等）	所感の作成、研究授業の分析、期間記録作成等（３時間）
15	〃	事後指導（所感の作成，研究授業の分析，期間記録作成等）	所感の作成、研究授業の分析、期間記録作成等（３時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	教職実践演習（中・高）	授業形態	演習	授業科目区分	教職科目 (専門)
担当教員名	教職教育等小委員会・中本　浩揮・栫　ちか子・坂中　美郷・小森　大輔・小崎　亮輔・松永　武人・菊地原　守・栗山　靖弘			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	4	受け入れ人数	150名

授業の概要

本授業は、教職科目を中心とする全学年の学びを通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられるものである。履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようにする。

①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項を取り扱い、講義やグループ討論、事例研究等を通して、ア教員等として必要な素養、イ学習指導、ウ生徒指導、エ特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応、オICTや情報・教育データの利活用についての資質・能力を育成する。

なお、原則として２～４限に連続して開講し、複数の小グループから成る小クラスを編成して、授業を展開する。

【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり

グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）

授業の到達目標及び成績評価の方法

	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	事業運営力、指導者基礎力、専門的な知識・教養							
	■認知的領域	授業で取り扱う４つの事項の基本的内容を理解し、その課題や対応上の留意点等を説明している。			○	○			30
	■情意的領域	授業で取り扱う４つの事項の内容を深く理解したり、その課題解決を図ったりするために、グループ討論や事例研究等に能動的に参画しようとする。	○			○			35
	■技能的領域	授業で取り扱う４つの事項の内容の考察、その課題解決についての思いや考えを他者にわかりやすく伝えることができる。			○	○			30

成績評価の基準	授業の到達目標に則り、上記のとおりの割合で、授業への参画状況やレポート等の内容から総合的に評価します。また、３分の２以上の出席がない場合、履修放棄とみなします。なお、定期試験は行いません。
テキスト、教材 参　考　書	鹿屋体育大学『教職実践演習の手引き』
履修条件・関連科目	教育実習を履修し、その単位を修得していること、または修得見込みであることを履修条件とします。 なお、必ず事前に履修登録を済ませ、第１回目の授業に出席してください。
備考(教員メッセージ含む)	教員免許状を取得するための必修科目、大勢の学内外の教員による授業科目です。学校現場に適応できるよう指導していきます。
オフィス・アワー	栫：随時対応可（７０３教員室）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	教職教育等小委員会 栫　ちか子	【２限】オリエンテーション、特別講義（①～④に関する事項）	テキストの予習（30分以上）
2	〃	【３限】オリエンテーション、事例研究等（①～④に関する事項）	テキストの予習・復習（30分以上）
3	教職教育等小委員会	【３限】特別講義（主に①に関する事項）	テキストの予習（30分以上）
4	〃	【４限】グループ討論、事例研究等（主に①に関する事項）	テキストの予習・復習（30分以上）
5	〃	【３限】特別講義（主に③に関する事項）	テキストの予習（30分以上）
6	〃	【４限】グループ討議、事例研究等（主に③に関する事項）	テキストの予習・復習（30分以上）
7	教職教育等小委員会 栫　ちか子	【２限】特別講義（主に④に関する事項）	テキストの予習（60分以上）
8	〃	【３限】グループ討議、事例研究等（主に④に関する事項）	テキストの予習・復習（60分以上）
9	〃	【４限】グループ討論、事例研究等（主に④に関する事項）	テキストの予習・復習（60分以上）
10	教職教育等小委員会 栗山　靖弘	【３限】特別講義（主に③、④に関する事項）	テキストの予習（30分以上）
11	〃	【４限】グループ討論、事例研究等（主に③、④に関する事項）	テキストの予習・復習（30分以上）
12	教職教育等小委員会 中本　浩揮	【３限】特別講義（主に②に関する事項）	テキストの予習（30分以上）
13	〃	【４限】グループ討論、事例研究等（主に②に関する事項）	テキストの予習・復習（30分以上）
14	教職教育等小委員会 栫　ちか子	【３限】特別講義（①～④に関する事項）	テキストの予習・復習（30分以上）
15	〃	【４限】グループ討論、事例研究等（①～④に関する事項）、まとめ	テキストの予習・復習（30分以上）

ゼミナール

スポーツ・武道実践科学系

金高宏文ゼミ……257
小澤雄二ゼミ……258
濱田幸二ゼミ……259
前阪茂樹ゼミ……260
三浦健ゼミ……261
中村夏実ゼミ……262
髙橋仁大ゼミ……263
竹中健太郎ゼミ……264
永原隆ゼミ……265
吉塚一典ゼミ……266
萬久博敏ゼミ……267
坂中美郷ゼミ……268
小森大輔ゼミ……269
大城戸知ゼミ……270
山下龍一郎ゼミ……271
藤井雅文ゼミ……272
塩川勝行ゼミ……273
榮樂洋光ゼミ……274
村上俊祐ゼミ……275
笹子悠歩ゼミ……276
成田健造ゼミ……277
小崎亮輔ゼミ……278
山口大貴ゼミ……279
村川大輔ゼミ……280
中谷太希ゼミ……281

スポーツ生命科学系

堀内雅弘ゼミ……282
田巻弘之ゼミ……283
吉田剛一郎ゼミ……284
中垣内真樹ゼミ……285
藤田英二ゼミ……286
沼尾成晴ゼミ……287
髙井洋平ゼミ……288
與谷謙吾ゼミ……289
赤澤暢彦ゼミ……290
石澤里枝ゼミ……291
古瀬裕次郎ゼミ……292
宮崎輝光ゼミ……293

スポーツ人文・応用社会科学系

森司朗ゼミ……294
北村尚浩ゼミ……295
和田智仁ゼミ……296
中本浩揮ゼミ……297
栂ちか子ゼミ……298
石原豊一ゼミ……299
栗山靖弘ゼミ……300
幾留沙智ゼミ……301
中村勇ゼミ……302
坂口俊哉ゼミ……303
日下知明ゼミ……304
棟田雅也ゼミ……305
松永武人ゼミ……306
菊地原守ゼミ……307

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134B0-2101)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	金高　宏文			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	本授業は，“実践的スポーツ指導者”となるために必要な「動きを研究する」ための見識や測定スキルを教授する．具体的には，スポーツ運動の技術（コツ・カンも含む）や体力及びそのトレーニング方法に関する見識を深め，「バイオメカニクス的分析」あるいは「パフォーマンス分析」が行なえる研究スキルの修得を目指す．また，卒業研究に向けて受講生の関心があるテーマについて，先行研究を調べ，発表・討論し，新たな研究課題や問題を発見する中で，問題解決能力とコミュニケーション能力が高まることも期待している．その結果，受講生のスポーツのトレーニング，指導に合理性が身に付くことを期待している． 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・運動学及びトレーニングに関する基礎的な事項を説明できる． ・自分自身の競技発達史について，運動学及びトレーニング学的視点より分析・評価する．	○		○	○			35
	■情意的領域	・運動やトレーニングに関わる事象や理論について興味・関心を持ち，それを積極的にかつ協力して探求しようとする．	○						15
	■技能的領域	・ 設定された時間内でパワーポイントでの発表ができる． ・ IT 及び図書館での文献検索ができる． ・ 映像分析（動画編集，連続写真，時間分析）ができる．			○	○			50

成績評価の基準	技術や体力，トレーニングに関する見識の深化，論理的な発表・討論力の習得及び各種測定・分析法の習得度を評価とする．
テキスト、教材 参　考　書	iPCを持参すること．授業の教材は，WebClassやメール等で配付する．なお，参考図書として「体育・スポーツに分野における実践研究の考え方と論文の書き方（市村出版）」「スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法（大修館）」「基礎から学ぶスポーツ運動学（大修館）」「ReferenceBook（JSPO）」を推薦する。

履修条件・ 関連科目	運動生理学，バイオメカニクス，トレーニング科学概論，スポーツトレーニング実践論，運動学概論，コーチ学概論，体力トレーニング実習を履修しておくことが望ましい．	備考(教員メッセージ含む)	レポートの提出やパワーポイント発表を頻繁に行う．また，レポート作成や発表のために主体的に授業時間外に各種の測定等をする必要がある．さらに，色々な共同研究の補助員として児童・生徒及び選手における体力・運動能力等の測定に協力する場合がある．
オフィス・アワー	木曜日：10：00 ～12：00、大学院棟３階，4教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	金高　宏文	ゼミナールⅠ（２年）１回～３０回 ・ 発育・発達データの収集と分析（PHV 等の分析） ・ 運動発達史等の作成とスポーツ技能・戦術レベルの評価（コツ・カン分析） ・ 簡易なバイオメカニクス的測定・分析法の理解とデータ収集 ・ 体力・形態測定法の理解と継続的なデータ収集 ・ プレゼンテーションの方法	発育発達データの収集・整理、運動発達史の作成・分析、体力・形態測定の実施、簡易な動作分析を実施し、それらのプレゼンテーション資料を作成する。
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～３０回 ・ 発育・発達データの収集と分析（PHV 等の分析） ・ 運動発達史等の作成とスポーツ技能・戦術レベルの評価（コツ・カン分析） ・ バイオメカニクス的測定・分析法の理解とデータ収集・分析・解析 ・ 文献研究の行ない方とまとめ方 ・ 卒業研究のテーマの絞り込みと予備実験の企画・実施	授業課題や研究テーマに関する文献の収集・整理、予備実験の企画立案、実験準備、実験、データ分析・解析をし、それらのプレゼンテーション資料を作成する。
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～３０回 ・ 文献研究結果のプレゼンテーションと討議。 ・ 卒業研究テーマについての本実験の企画案のプレゼンテーションと討議 ・ 実験結果のプレゼンテーションと討議 ・ 卒業研究の中間発表、本発表に向けてのプレゼンテーション練習	卒業論文作成のための本実験の企画案の作成、実験準備、実験、データの分析・解析、文献の収集・整理をし、それらのプレゼンテーション資料を作成する。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	小澤　雄二			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	本授業をとおして柔道方法学的な課題を見出し、課題解決のための知識や手法を身に付けることで、自らの競技力および指導力の向上のために活用すると共に、卒業論文にスムーズに着手できる準備をすることを目的とする。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・実施なし、△・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	本授業における実験・検査結果や先行研究の報告を客観的に分析・理解し、それらを関連付け、柔道方法学的な課題を見出し、課題解決のための知識や手法を身に付けることができる。	○		○	○			40
	■情意的領域	柔道方法学的な課題を見出し、課題解決のための知識や手法を身に付けるにあたり、発表や討論に積極的に取り組み、自らの考えについて他者と意見交換することで、考えをより深めることができる。	○		○	○			30
	■技能的領域	柔道方法学的な課題を見出し、身に付けた課題解決のための知識や手法を、自らの競技力および指導力の向上のために活用することができる。	○		○	○			30

成績評価の基準	「主体的、対話的であったか」、「自らの考えを深められたか」、「柔道方法学的な課題を自らの競技力および指導力の向上に活用できたか」などを総合的に評価する。
テキスト、教材 参　考　書	尾形敬史・小俣幸嗣、「柔道指導Ｑ＆Ａ」、道和書院 向井幹博・山口香、「ジュニアのための考える柔道」、東京書店 その他、適宜資料を配布

履修条件・関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	柔道には様々な側面があります。柔道を専門とする皆さんには、敢えて多面的な視点も養ってほしい。
オフィス・アワー	随時：502研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	小澤　雄二	ゼミナールⅠ（２年）１回～３０回 柔道方法学的な課題を見出すことを目的に、全身反応時間測定、バランステスト、人柄検査などを行う。さらに、その結果を分析し、導き出されたことをまとめて発表する。	結果の分析、まとめ、発表のための資料作成
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～３０回 柔道方法学的な課題を見出すことを目的に、文献を検索し、各自が興味・関心のある先行研究を熟読した後に、内容をまとめて発表する。	先行研究の熟読、まとめ、発表のための資料作成。
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～３０回 各自が卒業論文の執筆に向けた柔道方法学的なテーマを焦点化し、先行研究や研究の背景を踏まえた仮設を立て、それを検証する方法を選択し、まとめて発表する。	卒業論文テーマの焦点化、仮設の立脚、検証方法の選択、まとめ、発表のための資料作成

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	濱田　幸二			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	コーチング（特に球技：バレーボール競技）に関する文献を検索・抄読を行い、戦術及び技術的ゲーム分析・バイオメカニクス的分析・心理学的分析から競技力向上に関するコーチングに結びつける。また、実践的なコーチングテクニックを身に付けるために、調査・実験から現場で活用できるコーチングを探求する。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・実施なし、△・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （科学的支援力、専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	先行研究（文献）の抄読から、コーチングを多面から分析する能力を養う。	○		○				40
	■情意的領域	学会や研究集会に参加し、最新の研究を知る。			○				20
	■技能的領域	知識をもとに、コーチングが出来るようになる。	○		○				40

成績評価の基準	授業への取り組みは、先行研究の抄録作成及び理解度を授業ごとに行う。 レポート等の提出状況は、年度末に論文形式１編でまとめとして作成し提出する。
テキスト、教材 参　考　書	随時配付する。

履修条件・関連科目	競技スポーツ論・実習Ⅰの履修が望ましい	備考(教員メッセージ含む)	特に球技種目全般に関して多方面からコーチングを研究します。その他コーチングに関して随時相談を受け付けます。
オフィス・アワー	随時対応可　808教員室（濱田）、球技体育館準備室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	濱田　幸二	ゼミナールⅠ（２年）１回～３０回 各実験や調査に不可欠な統計の基礎知識を理解する。また、国内外におけるバレーボール関連の文献検索を行い、抄読会を行う。	ゲーム分析ソフトの使用法の習得 グラフ及び表の作成法の習得 映像解析ソフトの使用法の習得 抄読会予習・準備・復習（2時間）
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～３０回 卒業研究のテーマを探るため、選手及び指導者から見て解明したいテーマを決める。研究テーマに沿って先行研究の収集と理解から、予備実験（調査）を行い結果及び考察を行い次年度の卒業研究へつなげる。	研究テーマの選定を行うため先行研究の資料収集 先行研究：予習・準備・復習（2時間）
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～３０回 研究テーマに沿って、より深く、より鮮明にするため、実験（調査）を行い、卒業研究を完成させる。またプレゼンテーション能力の向上も行う。	実験（調査）データの解析と考察 先行研究予習・準備・復習（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	前阪　茂樹			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	この科目(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)は，武道／剣道の哲理・原理・指導法などのテーマについて、武道学の知識を総合的に活用し、学年進行に従って課題設定、解決、説明する能力を積み上げつつ身につける科目である。また、実技と理論の両面から積極的に取り組んでいくことにより、実技面での課題を浮き彫りにし、それらの解決策を模索することで、結果として自己教育能力を高め、総合領域としての武道学としての能力を育成することを目指している。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （実技力、実技指導力、専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	剣道の特性を理解できる。	○		○	○			30
	■情意的領域	剣道における諸問題について関心を持ち、積極的に課題を見出す態度が身につく。	○		○	○			50
	■技能的領域	自らの剣道の課題を設定できる。	○			○			20

成績評価の基準	※武道・剣道学の知識レベル，積極的な課題への取り組み、基本を中心とした技倆などを総合的に評価する		
テキスト、教材 参　考　書	提供する資料：沢庵宗彭　原著「不動智神妙録」、宮本武蔵　原著「五輪書」 購入すべきテキスト：「剣道」（高野佐三郎著　現代語訳　監修・中村民雄　島津書房、1915,@3200）		
履修条件・ 関連科目	武道課程剣道専修学生	備考(教員メッセージ含む)	剣道の競技側面以上の「何か」を求める学生を受け付けます。（優先的にゼミⅡ、Ⅲ選択を配慮する）
オフィス・アワー	月～木曜日：16：00 ～16：30、武道館２F 剣道教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	前阪　茂樹	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 剣道の基礎的理論の学習 剣道や武道に関する文献検索 剣道実技実践演習	レポート作成等
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 レポート作成のためのトレーニング 剣道（現代語訳版）　抄読 五輪書　抄読 剣道形　特別実習 剣道実技実践演習	レポート作成等
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～３０回 不動智神妙録　抄読 猫の妙術　　抄読 個々の課題設定に伴う研究／指導 剣道（現代語訳版）　抄読 五輪書　抄読 剣道形　特別実習 剣道実技実践演習	レポート作成等

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	三浦　健			補助担当者名	前村　かおり
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	本ゼミナールは、自身が実践しているスポーツに関し、競技力向上（技術・戦術・運営等）のために①工夫して取り組んだこと②課題を設定して取り組むことのいずれかについて詳細に分かりやすく論じ、取り組んだ成果を評価・診断することにより、研究論文としてまとめる能力を身に付ける科目です。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・実践研究に関する論文の抄読を実施し、論文のまとめ方の概略を理解する。	○			○			30
	■情意的領域	・授業に主体的に参加し、積極的に取り組む。 ・研究課題を見つけ、探求する。	○						20
	■技能的領域	・論理的にまとめることができる。 ・適切なプレゼンテーションができる。 ・適切な一般的なデータや画像データ（映像等）を活用して評価・診断ができる。	○			○			50

成績評価の基準	授業の到達目標を基に総合的に評価し、60点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	適宜紹介する。		
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	発表の際、ゼミナール構成員が積極的にディスカッションを行うことで、各自の研究課題が明確化するよう取り組んで欲しい。また、各々の測定、実験等には全員で協力して作業をして欲しい。
オフィス・アワー	随時：総合体育館教員室（三浦）、７０４教員研究室（前村）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	三浦　健	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 自身が当該スポーツを実践するに当たり、競技力を向上する上で興味のある課題を見つけるために、発表や論文抄読等に積極的に参加する。	発表がある際には、事前準備を行う。
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 自身が当該スポーツを実践するに当たり、競技力を向上する上で興味のある課題を見つけるために、発表や論文抄読等を担当する。他のゼミ生が担当する際には積極的にディスカッションに参加する。	発表がある際には、事前準備を行う。
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 研究課題に関する発表や先行研究論文の抄読等を担当する。他のゼミ生が担当する際には積極的にディスカッションに参加し、課題についての明確化への助言をする。	発表がある際には、事前準備を行う。測定、実験、分析等を実施し、論文としてまとめる。卒業研究のプレゼンテーションの準備を行う。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	中村　夏実			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名

授業の概要	現在の日本社会において、「海洋基本計画」にもとづく我が国の海洋立国政策を背景に、国民の海洋への理解を深めるためにも、競技・レクリエーションにかかわらず、海洋スポーツ活動や水辺活動に造詣の深い人材が求められている。 ゼミナールでは、子どもの発育発達における体験活動の重要性、多様な生涯スポーツ種目のニーズに応えられる能力、また、海上および水上環境においてテクノロジーを活用したコーチングができる能力の獲得を目指し、海洋スポーツに関する課題解決能力を養う。主に下記の実践活動および研究活動を展開する。 ○海洋スポーツプログラムに参加し、海洋スポーツの指導法を習得すると共に、海洋スポーツ活動を企画・運営する能力を養う。 ○海洋スポーツ（カヌー・ボート・その他パドルスポーツ、スキンダイビング等）に関する先行研究を検討し、研究計画を立て、情報やデータを収集・分析できる能力を養う。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （科学的支援力、専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・海洋スポーツの文化的背景や発展の歴史を理解する。 ・安全管理を理解する。 ・先行研究の内容と課題を説明し、新たな解決方法を考察する。	○			○			40
	■情意的領域	・海洋スポーツを取り巻く自然環境、社会環境、先行研究等に興味を持ち、主体的、継続的に課題解決に取り組む。	○						20
	■技能的領域	・安全に海洋スポーツの指導ができる。 ・文献検索ができる。 ・収集した情報や研究成果を海洋スポーツのコーチングに活用できるように工夫する。	○						40

成績評価の基準	海洋スポーツ活動における指導補助としての指導スキル、授業内での課題発表、卒業研究への取り組み状況の各得点を合計し、60点以上の者を合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて資料および図書を提供する。また、ウォータースポーツ文献情報データベースを参照する。

履修条件・関連科目	・自身の競技力向上（Rowing,CanoeSprint等の水上競漕種目）に本気で取り組む者。 ・心身の健康を目的とした海洋スポーツ（種目不問）に関する研究に注力できる者（競技経験不問）。	備考(教員メッセージ含む)	授業内で発表やレポート提出を求める。そのために時間外での事前準備および事前学習が必要となることがある。海洋センターの地域貢献事業に協力し補助指導員として貢献する場合がある。 やる気と体力に自信があり、日本の海洋スポーツの振興に貢献にしたいという熱意を望みます。

オフィス・アワー	随時。ただし、事前に連絡して下さい。 natsumi@nifs-k.ac.jp または海洋スポーツセンター（0994-47-2758）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中村　夏実	ゼミナールⅠ（2年次）1回～30回 ①海洋スポーツに関する社会学的研究、指導法に関する研究、競技力向上に関する研究など、学術雑誌および啓発書当の関連書籍の検索と検討 ②海洋スポーツ活動指導補助の実践 ③文献検索とデータベースコンテンツ作成 ④海洋スポーツ関連書籍を読む ⑤海洋スポーツ関連資格の取得を推奨する	下記の事項を指導実践の場としてもよい。 ・公開講座の補助員 ・学長杯ヨットレースの運営 ・地域の海洋スポーツ関連行事の運営補助 ・競技選手のトレーニングに関するサポート活動
2	〃	ゼミナールⅡ（3年次）1回～30回 ①ウォータースポーツ文献情報データベースのコンテンツ作成 ②海洋スポーツ行事における指導法の習得 ③研究データの収集方法とデータ解析方法（解析ソフトの使い方）の習得 ④海洋スポーツ関連学術論文の抄読 ⑤卒業研究の計画立案のための論文購読およびデータ収集方法の実習 ⑥海洋スポーツ関連資格の取得を推奨する	下記の事項を指導実践の場としてもよい。 ・公開講座の補助員 ・学長杯ヨットレースの運営 ・地域の海洋スポーツ関連行事の運営補助 ・競技選手のトレーニングに関するサポート活動
3	〃	ゼミナールⅢ（4年次）1回～30回 ①卒業研究の計画と実行 ②必要に応じた実験および調査とデータの処理（統計処理） ③海洋スポーツ行事の企画と運営 ④卒業研究関連の文献を読む ⑤卒業研究（論文の作成とプレゼンテーション） ⑥海洋スポーツ関連資格の取得を推奨する	下記の事項を指導実践の場としてもよい。 ・公開講座の補助員 ・学長杯ヨットレースの運営 ・地域の海洋スポーツ関連行事の運営補助 ・競技選手のトレーニングに関するサポート活動

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	髙橋　仁大			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	本ゼミナールでは、体育学の知識を用いて試合（ゲーム）や映像を分析する能力を身につけるとともに、卒業研究に向けて主体的、計画的および継続的に課題に取り組む意思を身につける。さらにそれらを通じて、ゲームパフォーマンス分析や映像分析の実践的かつ創造的なリーダーとしての資質を身につける科目である。具体的には、ディスカッションやグループ学習により試合（ゲーム）の分析方法や実践での活用方法、分析結果などスポーツ戦術・ゲームパフォーマンス分析に関する理解を深めるとともに、スポーツ指導における映像の活用方法やその効果についての理解を深める。これらを基に卒業研究を行い、スポーツにおける分析や映像の活用についてのスキルを獲得する。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	ゲームパフォーマンス分析の方法を理解するスポーツ指導における映像の活用法と効果について理解する				○			30
	■情意的領域	ゲームパフォーマンス分析を実践に活用するスポーツ指導に映像を活用する	○			○			20
	■技能的領域	ゲームパフォーマンス分析・映像分析ソフトのスキルを獲得する 研究をまとめることができる 研究成果を分かりやすくプレゼンテーションできる				○		○ (卒業研究)	50

成績評価の基準	授業期間における課題への取組状況と発表内容、卒業研究への取組状況の各得点を合計し、60 点以上のものを合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	「スポーツの戦術入門」（ヤーン・ケルン著（朝岡、水上、中川監訳）、大修館、1998） 「THE ESSENTIALS OF PERFORMANCE ANALYSIS」（M. Hughes and I. M. Franks, Routledge, 2008） 「体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方」（福永哲夫・山本正嘉編著、市村出版、2018）　他、配布資料等

履修条件・関連科目	情報処理Ａ・Ｂ・Ｃ、スポーツ戦術実践論、バイオメカニクス、スポーツパフォーマンス研究論	備考(教員メッセージ含む)	本ゼミナール内での連絡に大学のメールを活用するので、メール操作等に習熟しておくこと。コンピュータの基本操作についても習熟しておくことが望ましい。
オフィス・アワー	随時　事前にアポイントをとること 髙橋（SPORTECスポーツパフォーマンス研究センターまたは研究棟8階809教員研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	髙橋　仁大	ゼミナールⅠ（２年）１回～30回 ・スポーツにおける映像分析ソフトや映像収集機器等を用いた実習を体験し、ソフトウェアや機器に関する情報を得る。 ・学内外の各種セミナー等に参加し、スポーツ戦術やゲームパフォーマンス分析、スポーツにおける映像活用に関する情報を得る。	課題発表のための予習と復習（1時間） 各種セミナー等への参加（2時間）
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～30回 ・スポーツ戦術やゲームパフォーマンス分析に関するこれまでの研究について概観するとともに、自身の卒業研究テーマについてディスカッションを行う。 ・スポーツにおける映像分析ソフトや映像収集機器等を用いた実習を行い、ソフトウェアや機器に関する理解を深める。 ・学内外の各種セミナー等に参加し、スポーツ戦術やゲームパフォーマンス分析、スポーツにおける映像活用に関する理解を深める。	課題発表のための予習と復習（1時間） 各種セミナー等への参加（2時間）
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～30回 ・ゼミナールⅡで検討した卒業研究テーマを基に、卒業研究の作成を行う。 ・スポーツにおける映像分析ソフトや映像収集機器等を用いた実践を主体的に行い、ソフトウェアや機器に関するスキルを獲得する。 ・学内外の各種セミナー等に参加し、スポーツ戦術やゲームパフォーマンス分析、スポーツにおける映像活用に関する理解を深め、実践場面への活用方法を探る。	卒業研究の作成（30時間） 各種セミナー等への参加（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	竹中　健太郎			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	剣道の歴史、日本剣道形、審判法、指導法について実践的、主体的な課題研究を検討・論議する。また、本ゼミナール活動は、実技と理論の両面から積極的に取り組んでいくことにより、実技面での課題を浮き彫りにし、それらの解決策を模索することで、結果として自己教育能力を高め、武道領域における剣道を学問として捉え、専門的なの能力を育成することを目指している。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合%
	ＤＰで目指す資質・能力		授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	伝統文化性、競技性のそれぞれにおいて剣道の特性を深く理解し、他者に発信できる。	○		○	○			30
	■情意的領域	剣道における諸問題について関心を持ち、積極的に問題を発見し、その解決に努める態度が身についている。	○		○	○			40
	■技能的領域	剣道修錬における課題を自ら設定し、終始一貫して追求することができる。	○		○	○			30

成績評価の基準	理論と実技の両面での総合評価。
テキスト、教材 参　考　書	提供する資料：宮本武蔵「五輪書」、全日本剣道連盟「剣道講習会資料」等 購入すべきテキスト：「剣道」（高野佐三郎著　現代語訳　監修・中村民雄　島津書房、1915,@3,200） 購入するのが望ましいテキスト：実践研究の考え方と論文の書き方（福永哲夫・山本正嘉編、市村出版、2018、@3,000）
履修条件・ 関連科目	剣道・武道に関する全科目
備考(教員メッセージ含む)	剣道実技を通して浮き彫りになった問題点を整理するゼミナールである。様々な職域において剣道指導者を志す者を受け入れる。
オフィス・アワー	月～木曜日：16：00 ～16：30、武道館２Ｆ 剣道教員室

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	竹中　健太郎	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 剣道の歴史的研究 現代剣道に関するの問題点の整理と討論 日本剣道形の研究 指導法及び実技実践に関する事例研究	レポートを作成
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 五輪書購読・討論 日本剣道形の研究 指導法及び実技実践に関する事例研究と検討 剣道の先行研究についての討論及び課題追求	レポートを作成 発表（プレゼンテーション）準備
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 日本剣道形の研究 指導法及び実技実践に関する事例研究の検討 剣道に関するトピックスの整理と自己修行観の総括 卒業研究に向けての取組	レポートを作成 発表（プレゼンテーション）準備

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	永原　隆			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	本授業では，研究に必要な実験・分析方法や論理的思考について学び，先行研究の体系化によって自ら課題を設定し，それを解決することを通して，研究を実践する能力を身に付ける．また，学術研究の知見や課題の解決を通して，効果的な競技力の向上法について指導できる能力を身につける．陸上競技スプリント走を研究対象とする場合が多いが，研究対象種目は問わない．また，研究手法も各自の課題に対応したものを用いる． 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （課題解決力，科学的支援力，科学的表現力，専門的な知識・教養）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	対象とする運動の特性を理解し，スポーツの実践や研究に必要な知識を身に付ける．	○		○	○			40
	■情意的領域	対象とするスポーツ運動の理解，研究に関する議論，論文の作成に積極的に取り組む．	○			○			20
	■技能的領域	研究で用いる機器やソフトウェアを適切に用いることができる．			○	○			40

成績評価の基準	対象とする運動への理解度，測定・分析手法の習熟度，課題の達成度によって評価する．		
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて紹介，提供する．		
履修条件・ 関連科目	トレーニング科学，体力学，バイオメカニクス，運動生理学，解剖学など	備考(教員メッセージ含む)	高い志のある者が対象です．
オフィス・アワー	随時　大学院棟3階　教員室1		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	永原　隆	ゼミナールI（２年）1～３０回 ・研究テーマに必要な測定機器の操作について学ぶ． ・研究テーマに必要な分析手法について学ぶ． ・研究テーマに関する文献の要約を発表する． ・簡易的な測定のデータをまとめ，発表する．	研究テーマに関する文献の要約，測定データの整理・分析，研究内容の発表準備（60分）．
2	〃	ゼミナールII（３年）1～３０回 ・研究テーマに必要な測定機器の操作について身に付ける． ・研究テーマに必要な分析手法について身に付ける． ・研究テーマに関する複数の文献について要約を発表する． ・テーマを設定し，研究内容を発表する．	研究テーマに関する文献の要約，測定データの整理・分析，研究内容の発表準備（60分）．
3	〃	ゼミナールIII（４年）1～３０回 ・研究テーマに必要な分析手法について身に付ける． ・研究テーマに関する卒業研究論文を執筆する． ・研究テーマに関するプレゼンテーションを行う．	研究テーマに関する文献の要約，測定データの整理・分析，研究論文の作成，プレゼンテーションの準備（90分）．

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	吉塚　一典			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	本ゼミナールは、持久的運動(陸上競技中長距離走を中心とするが他の種目も可)のパフォーマンス向上を考えるものとし、①トレーニングの分析や新たな開拓による持久能力の向上、②暑熱環境下におけるパフォーマンス発揮対策などを取り上げる。具体的には、トレーニングや試合現場での課題をテーマとして取り上げ、関連文献による知見習得、生理学的視点などからの分析、考察を通じ、パフォーマンス向上のための実践的な方法を考える。これらにより競技者、および指導者としての競技能力、課題解決能力の向上が期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	持久力を向上させるトレーニング方法、運動中の体温について理解する。各トレーニング方法の効果、体温上昇の影響を説明できる。	○		○	○			50
	■情意的領域	トレーニングや体温に関わる事象や理論について興味・関心を持ち，それを積極的にかつ協力して探求しようとする。	○			○			30
	■技能的領域	トレーニングを分析し、解決に繋がる道筋を考えることができる。	○						20

成績評価の基準	授業期間中における演習への参加と取り組み態度、レポート（発表含む）内容の得点を合計し、60点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	適宜必要な資料を配布する（各自準備してもらう）。 その他、参考書として次のものを推薦する。「持久力の科学」（石河利寛 竹宮隆 編、杏林書院、1997、＠8,000円）、「長距離走者の生理科学」（平木場浩二 編、杏林書院、2004、＠2,520円）		
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習（陸上競技）を履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	様々な経験や知識、新たな発想を得る為、積極的な討論を期待する。
オフィス・アワー	随時　研究棟7階　701教員室　※事前にメールでアポを取ること		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	吉塚　一典	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 陸上競技中長距離走を中心に、持久運動に関する資料を収集し、過去や現在行っているトレーニングの効果や有効性などを分析し、理解する。運動時の体温および暑熱環境とパフォーマンスに関する資料を収集し、理解する。また、それらをパワーポイント等で発表し、ゼミナール内で討論しながら、さらに見識を深めていく	自分が行ってきたトレーニングを整理、分析してプレゼンテーション資料を作成する。
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 陸上競技中長距離走を中心に、持久運動に関する資料を収集し、過去や現在行っているトレーニングに関する課題や改善点などを取り上げる。運動時の体温およびや暑熱環境とパフォーマンスに関する資料を収集し、課題や改善点などを取り上げる。また、それらをパワーポイント等で発表し、ゼミナール内で討論しながら、さらに見識を深めていく。卒業研究のテーマの絞り込みと予備実験の企画・実施する。	取り上げた問題点や課題を整理してプレゼンテーション資料を作成する。予備実験に関するプレゼンテーション資料を作成する。
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 卒業研究のテーマに関する資料を収集し、本実験を企画、実施し、結果の考察と討議を行う。それらに基づき、本発表と卒業研究論文作成を行い、研究成果をまとめる。	卒業論文作成のための本実験の企画案の作成、実験準備、実験、データの分析・解析、文献の収集・整理をし、それらのプレゼンテーション資料を作成する。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	萬久　博敏			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	競泳の競技力向上を中心としたスポーツ生理学、心理学、力学やコーチング理論など幅広い科学分野の知識と指導能力、コーチングテクニックを身につけ、実際の現場における競技者、指導者としての資質向上を図る。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （科学的支援力、専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	水泳の特性を理解し、水泳指導、競技力向上に必要な知識を身につける。	○		○	○			40
	■情意的領域	水泳全般に関心を持ち、ゼミや各種測定へ意欲的に参加する。	○						30
	■技能的領域	水泳指導技術、コーチングテクニックを習得する。	○						30

成績評価の基準	到達目標を基に総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて資料の配布、テキストの紹介をする。		
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習（水泳）を受講していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	随時：実験プール教員室または研究棟７階７０６教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	萬久　博敏	ゼミナールⅠ（２年）1～30回 水泳について幅広く学習するとともに、関心のあるテーマについて資料収集を行い発表やディスカッショを実施する。	レポート作成・授業内容の復習
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1～30回 水泳に関係する文献を検索し、抄読会を実施する。また、興味のあるテーマの資料・情報収集を通して、卒業研究のテーマを決定する。	資料収集及びプレゼンテーション資料作成、発表準備
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1～30回 卒業研究論文作成に向けての資料収集・実験（調査）・プレゼンテーションの方法について学習を進める。	卒業研究論文の作成

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	坂中　美郷			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	バレーボールにおけるコーチングに関する文献を検索・抄読を行い、戦術及び技術的ゲーム分析・バイオメカニクス的分析・心理学的分析から競技力向上に関するコーチングに結びつける。また、実践的なコーチングテクニックを身に付けるために、調査・実験から現場で活用できるコーチングを探求する。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（△）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力		授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	先行研究（文献）の抄読から、コーチングを多面から分析する能力を養う。	○		○				40
	■情意的領域	（ゼミナールⅠ）学会誌や専門書を探索する。 （ゼミナールⅡ・Ⅲ）各実験の補助等を行い自身の研究課題を探求する。	○						30
	■技能的領域	知識をもとに、コーチングが出来るようになる。	○		○				30

成績評価の基準	授業への取り組みは、先行研究の抄録作成及び理解度を授業ごとに行う。 レポート等の提出状況は、年度末に論文形式１編でまとめとして作成し提出する。
テキスト、教材 参　考　書	随時配付する。
履修条件・ 関連科目	（ゼミナールⅠ）競技スポーツ論・実習Ⅰ （ゼミナールⅡ）競技スポーツ論・実習Ⅰ、競技スポーツ論・実習Ⅱの履修が望ましい （ゼミナールⅢ）競技スポーツ論・実習Ⅰ、競技スポーツ論・実習Ⅱ、競技スポーツ論・実習Ⅲ
備考(教員メッセージ含む)	随時相談を受け付けます。
オフィス・アワー	随時　601教員室、球技体育館準備室

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	坂中　美郷	ゼミナールⅠ（２年）１回～３０回 各実験や調査に不可欠な統計の基礎知識を理解する。また、国内外におけるバレーボール関連の文献検索を行い、抄読会を行う。	ゲーム分析ソフトの使用法の習得（授業毎1時間） グラフ及び表の作成法の習得（授業毎1時間） 映像編集ソフトの使用法の習得（授業毎1時間）
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～３０回 卒業研究のテーマを探るため、選手及び指導者から見て解明したいテーマを決める。研究テーマに沿って先行研究の収集と理解から、予備実験（調査）を行い結果及び考察を行い次年度の卒業研究へつなげる。	研究テーマの選定を行うため先行研究の資料収集（授業毎1時間）
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～３０回 研究テーマに沿って、より深く、より鮮明にするため、実験（調査）を行い、卒業研究を完成させる。またプレゼンテーション能力の向上も行う。	実験（調査）データの解析と考察（授業毎2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	小森　大輔			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	本ゼミナールは、陸上競技のパフォーマンスを向上させるためのトレーニング法について自らの実践を通して行う。パフォーマンスを適切に評価するために、「バイオメカニクス的分析」、あるいは「パフォーマンス分析」が行える研究スキルの習得を目指す。体力、トレーニング方法、コーチングに関する見識を深めるために、文献の検索・抄読を行う。これらにより、問題解決能力、コミュニケーション能力、競技者としての能力の向上が期待される 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・実施なし、△・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・体力、トレーニング法、コーチングに関する基礎的な事項を説明できる。 ・発表内容をもとに課題の設定と解決方法などが提案できる。	○			○			40
	■情意的領域	・授業に興味・関心を持って参加し、意欲的に課題に取り組もうとする。 ・授業の意義を理解し、内容を積極的かつ協力して探求しようとする。	○						20
	■技能的領域	・適切なプレゼンテーションができる。 ・映像分析(動画編集、連続写真作成)ができる。 ・ITおよび図書館での文献検索ができる。	○			○			40

成績評価の基準	3つの授業達成目標をもとに、授業や発表など成績評価方法の割合に則って評価し、60点以上の者を合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	授業の中で適宜紹介する。
履修条件・ 関連科目	運動生理学、バイオメカニクス、トレーニング科学概論、運動学概論、コーチ学概論、競技スポーツ論・実習Ⅰ～Ⅲ(陸上競技)を履修しておくことが望ましい。
備考(教員メッセージ含む)	何事にも積極的に取り組む姿勢を求む。
オフィス・アワー	随時　研究棟8階　805教員研究室

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	小森　大輔	ゼミナールⅠ ・これまでのコーチングを振り返る ・これまでの競技歴(発育・発達を含む)を振り返る ・トレーニングの現場で抱く疑問や関心などについて、分析・考察を加えて、自分の考えを発表する	発表者が課題を見つけ、発表および討論に備えて予習を行う。
2	小森　大輔	ゼミナールⅡ ・これまでのコーチングを振り返る ・これまでの競技歴(発育・発達を含む)を振り返る ・トレーニングの現場で抱く疑問や関心などについて、分析・考察を加えて、自分の考えを発表する ・バイオメカニクス的測定・分析法の理解とデータ収集・分析 ・文献研究の行い方とまとめ方	授業課題や研究テーマに関する文献の収集・整理、予備実験などの実施、データ収集および分析をし、それらのプレゼンテーション資料を作成する。
3	小森　大輔	ゼミナールⅢ ・卒業研究テーマの決定、論文作成に向けての資料収集およびまとめる ・卒業研究の中間発表、本発表に向けてのプレゼンテーション練習	卒業研究作成に関する作業を行う。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	大城戸　知			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	剣道の歴史、日本剣道形、審判法、指導法について実践的、主体的な課題研究を検討・論議する。 また、本ゼミナール活動は、実践・実技と理論の両面から積極的に取り組んでいくことにより、実技面での課題を探求・浮き彫りにし、それらの解決策や打開策を模索することで、結果として自己教育能力を高め、武道領域における剣道を学問として捉え、専門的なの能力を育成することを目指している。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	伝統文化性、競技性のそれぞれにおいて剣道の特性を深く理解し、他者に発信できる。	○		○	○			30
	■情意的領域	剣道における諸問題について関心を持ち、積極的に問題を発見し、その解決に努める態度が身についている。	○		○	○			40
	■技能的領域	剣道修錬における課題を自ら設定し、終始一貫して追求することができる。	○		○	○			30

成績評価の基準	理論と実践・実技の両面での総合評価。		
テキスト、教材 参　考　書	提供する資料：宮本武蔵「五輪書」、全日本剣道連盟「剣道講習会資料」等 購入すべきテキスト：「剣道」（高野佐三郎著　現代語訳　監修・中村民雄　島津書房、1915,@3,200） 購入するのが望ましいテキスト：実践研究の考え方と論文の書き方（福永哲夫・山本正嘉編、市村出版、2018、@3,000）		
履修条件・ 関連科目	剣道・武道に関する全科目	備考(教員メッセージ含む)	剣道実践・実技を通して浮き彫りになった問題点を整理するゼミナールである。様々な職域において剣道指導者を志す者を受け入れる。
オフィス・アワー	月～木曜日：16：00 ～16：30、武道館２Ｆ 剣道教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	大城戸　知	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 剣道の歴史的研究 現代剣道に関するの問題点の整理と討論 日本剣道形の研究 指導法及び実技実践に関する事例研究	レポートを作成
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 五輪書購読・討論 日本剣道形の研究 指導法及び実技実践に関する事例研究と検討 剣道の先行研究についての討論及び課題追求	レポートを作成 発表（プレゼンテーション）準備
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 日本剣道形の研究 指導法及び実技実践に関する事例研究の検討 剣道に関するトピックスの整理と自己修行観の総括 卒業研究に向けての取組	レポートを作成 発表（プレゼンテーション）準備

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	山下　龍一郎			補助担当者名	中谷太希
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	体操競技の歴史、技術論、方法論について概説し、それらの深い知識と高度な技を習得するためのトレーニング法、指導法を学習し、高い能力を持った競技者、指導者としての資質の向上を図る。また、これらを生かして卒業論文の作成を行う。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （課題解決力、科学的表現力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・スポーツ運動学におけるコツやカンといった身体知の基礎概念について理解する.	○	○					80
	■情意的領域	・プレゼンテーションや質疑応答，グループワーク等に積極的に参加し，自分なりの考えや解釈を論理的に伝えられるようになる.	○						20
	□技能的領域								

成績評価の基準			
テキスト、教材 参　考　書	金子明友著「体操競技のコーチング」(大修館書店)、K.マイネル著金子明友訳「スポーツ運動学」(大修館書店) その他必要に応じて資料を提供する。		
履修条件・ 関連科目	体操競技に精通していることが好ましい。	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	801(内線4969)随時受付		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	山下　龍一郎	ゼミナールI(2年)1回~30回 体操競技の技術研究、コーチング、指導方法を習得するための基礎として、次の項目についての考究を行う。 技の表記 :構造、規定詞、運動表記 器械の種目特性 :床、あん馬、つり輪、跳馬、平行棒、鉄棒、 平均台、段違い平行棒 トレーニング計画:特性、概念と構造、心構え、計画と管理、 周期と強度、基本期、試合期	予習:テキストの次回分を読む
2	〃	ゼミナールII(3年)1回~30回 卒業研究を行うための体操競技に関する基礎知識、応用知識として、次の項目についての考究を行う。 技の構造(マイネル):難易性、芸術性、特性と意義、理想像、運動 弾性、運動の先取り、胴体操作、運動の伝導 英語、ドイツ語 : 発音方法、個技の単語、自由演技の表記方法、 英訳・独訳の方法	予習:テキストの次回分を読む
3	〃	ゼミナールIII(4年)1回~30回 実際に卒業研究を作成しながら次の項目についての考究を行う。 体操競技の運動学 :運動形態学とモルフォロギー、運動の弾性、 先取り、運動伝導、自動化 研究方法 :実験方法の手順、参考・引用文献の検索方法、 表・グラフの作成方法、表・グラフの分析 方法、考察方法	予習:テキストの次回分を読む

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	藤井　雅文			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	野球の歴史やしくみ、取り巻く環境や練習法などについて概説し、それらの深い知識を活かして強いチームや成長するチーム、魅力的なチームを作り上げる指導法やリーダーシップを学習し、高い能力を持った競技者、指導者としての資質能力の向上を図る。さらに、実践現場で競技に関わることで技術・戦術・マネジメント等に関する各々の問題点を浮き彫りにし、卒業研究に繋げる。また、卒業研究に向けて先行研究を調べ、発表・討論し、新たな研究課題や問題を発見する中で、問題解決能力や科学的表現力、コミュニケーション能力が高まることを期待する。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （コミュニケーション能力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・先行研究の抄読から、指導について多面的に分析する能力を養う。 ・野球に関することについて理解し、他者に分かりやすく発信することができる。	○		○	○			40
	■情意的領域	・先行研究の抄読から、指導について多面的に分析する能力を養う。 ・野球に関することについて理解し、他者に分かりやすく発信することができる。	○		○	○			30
	■技能的領域	・論理的に内容をまとめて、適切なプレゼンテーションで発信することができる。 ・知識をもとにポイントを押さえた安全で適切な指導ができる。	○		○	○			30

成績評価の基準	授業への出席が２/３以上という条件で、授業への取り組み及び課題の提出、発表の各合計点が60点以上のものを合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	授業の中で随時紹介する。		
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習（野球）を履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	特になし
オフィス・アワー	随時　研究棟8階804教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	藤井　雅文	ゼミナールⅠ（２年）１回～３０回 野球に関する情報（文献、資料、映像等）の収集、抄読を行い、情報の基本的な分析方法を学習する。また収集した情報から基本的な研究方法について学習する。	事前準備について適宜指示する
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～３０回 実践現場で抱く疑問や関心などから興味のある分野を中心に資料収集を行い、分析、考察を加えて自分の考えをまとめて発表する。その過程を通じて、卒業研究で解明したいテーマの概略を決定する。	事前準備について適宜指示する
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～３０回 ゼミナールⅡで検討した研究テーマに沿った文献、資料収集、実験（調査）を行い、卒業研究論文を完成させる。また、プレゼンテーションの作成方法や発表方法について学習し、自身の研究について他者に分かりやすく発表する。	事前準備について適宜指示する

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	塩川　勝行			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	サッカー競技に関する文献、資料を収集し、多角的な視点からサッカーについて理解を深め、実際のトレーニングやコーチングに役立てる。また自ら映像の分析・編集を行い、競技者及び指導者としての資質の向上を図り、卒業研究に生かす。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・実施なし、△・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（△）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	サッカー競技に関する文献、資料を収集し、多角的にサッカーに関する理解を深める。	○		○				50
	■情意的領域	積極的に授業・ディスカッションに参加する	○						50
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業への出席が2/3 以上という条件で、授業への取り組み及び課題の提出、発表の各合計点が60 点以上のものを合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	特になし。		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	金曜日　9時～12時　　8階8 10 研究室（事前にアポイントを取ること）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	塩川　勝行	ゼミナールⅠ（２年）１回～30回 サッカーに関する国内外の自分が興味を持つ文献や資料、映像の収集を行う。また、各分析や資料収集に必要なゲーム分析の方法を習得する。	適時指示する
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～30回 サッカーに関する国内外の自分が興味を持つ文献や資料、映像の収集を行い、研究テーマの概略を決定する。また、サッカーにおける映像の分析、編集を行い、現場に役立つ情報のフィードバック方法について検討を行って行く。 ユース年代のトレーニング方法・コーチング方法についても、指導の実践を行いながら討論を行う。	適時指示する
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～30回 各自の研究テーマを確定するとともに、より深く追求し、卒業論文の作成に取りかかる。論文作成方法やプレゼンテーション方法を学び、その成果を定期的に発表し、討論して行く。 また、ユース年代のトレーニング方法・コーチング方法についても、指導の実践を行いながら討論を行う。	適時指示する

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	榮樂　洋光			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	本ゼミナールは、海洋スポーツの実践・研究活動を行うために必要となる知識や技術の習得、指導方法を学ぶ科目である。学びを通して、海洋スポーツ活動に主体的、計画的に取り組むことができ、対象者のニーズに合わせた実践指導ができる能力を身につけていく。また、理論に関する知識を深め、高い実践力を育成していくことを目指す。 上記能力獲得のために、講義およびプレゼンテーションを通して、グループディスカッションを実施し、専門的な知識の獲得と共に論理的な思考の構築を目指す。また、海洋スポーツプログラムにも参画し、実践活動を通しての能力を身につけていく。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （科学的支援力、専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	海洋スポーツの特性を理解し、他者に発信することができる	○			○			40
	■情意的領域	海洋スポーツに関心を持ち、主体的、計画的な取り組みができる。	○						20
	■技能的領域	・安全な海洋スポーツの指導ができる ・先行研究等の資料まとめができる ・海洋スポーツ指導に活用できる資料作成ができる	○						40

成績評価の基準	授業における課題への取り組み状況と発表内容および卒業研究へ向けた取り組み状況の各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	適宜必要な資料を配付する
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習Ⅰ-海洋スポーツ-を履修しておくことが望ましい
備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	随時　研究棟7階709教員研究室または海洋スポーツセンター（47-2758）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	榮樂　洋光	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 海洋スポーツに関する文献・資料収集および抄読を行う 収集資料から得られた分析方法や研究方法について学ぶ	授業内容の予習・復習
2	榮樂　洋光	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 海洋スポーツ種目の中から興味ある分野を限定した文献・資料収集および抄読を行う 卒業研究へつながる予備調査を行い、分析、発表を行う	資料収集およびプレゼンテーション資料作成、発表準備と復習
3	榮樂　洋光	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 卒業研究テーマに沿った文献・資料収集、実験（調査）を行う 論文作成に向けた学習を行う（文書作成、データ処理、プレゼンテーション方法）	資料収集およびプレゼンテーション資料作成、発表準備と復習

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	村上　俊祐			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	テニスやコーチングに関する幅広い知識を持ったエビデンスベースの指導を実践できる能力を養う。本ゼミナールでは、体育・スポーツ科学の知識を用いて、テニスのゲームパフォーマンスや技術を分析する能力を身につける。また、撮影した映像や取得したデータなどを活用したコーチングを実践できる指導者としての資質を身につける。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （課題解決力、科学的表現力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・テニスの競技特性を理解し、ゲームパフォーマンスや技術に関する事項を説明できる。 ・コーチングに関する基礎的な理論を理解し、説明することができる。				○			30
	■情意的領域	・テニスのゲームパフォーマンスや技術の分析、コーチングの理論および実践に興味・関心を持ち、積極的かつ主体的に探求しようとする。	○			○			20
	■技能的領域	・映像分析ソフトや機器等を用いて、ゲームパフォーマンスや技術を適切に評価できる。 ・収集した情報や研究成果について、わかりやすくプレゼンテーションできる。				○			50

成績評価の基準	授業期間における課題への取組状況と発表内容、卒業研究への取組状況の各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	授業時に資料等を配布する。参考図書は、以下の通りである。 「テニス指導教本Ⅰ」（公益財団法人日本テニス協会編、大修館書店、2015） 「球技のコーチング学」（日本コーチング学会編著、大修館書店、2019） 「スポーツパフォーマンス分析入門―基礎となる理論と技法を学ぶ―」（ピーター・オドノヒュー著、中川昭監訳、橘肇／長谷川悦示訳、大修館書店、2020） 「体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方」（福永哲夫・山本正嘉編著、市村出版、2018）

履修条件・関連科目	トレーニング科学概論、コーチ学概論、スポーツ戦術実践論、競技スポーツ論・実習Ⅰ～Ⅲ（テニス）を履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	何事にも関心を持ち、ゲームパフォーマンス分析や指導実践の継続、各種測定への積極的な参加により、自身でより良い「学び」の場を作り上げていくことを望む。
オフィス・アワー	随時　研究棟8階　８０６教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	村上　俊祐	ゼミナールⅠ（２年）１回～３０回 ・映像分析ソフトウェアによるゲームパフォーマンス分析を体験する。 ・テニスの技術評価のための各種機器を用いた測定を体験する。 ・各種セミナー等に参加し、ゲームパフォーマンス分析やテニスのコーチングに関する情報を得る。	課題発表のための予習（1時間） 各種セミナー・講習会への参加（2時間）
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～３０回 ・ゲームパフォーマンス分析やテニスのコーチングに関する先行研究について、プレゼンテーションやディスカッションを通して概観し、卒業研究のテーマを検討する。 ・映像分析ソフトウェアによるゲームパフォーマンス分析を実践し、機器の操作、戦術の評価に関する理解を深める。 ・テニスの技術評価のための各種機器を用いた測定を実施し、技術の評価に関する理解を深める。 ・各種セミナー等に参加し、ゲームパフォーマンス分析やテニスのコーチングに関する理解を深める。	課題発表のための予習（1時間） 各種セミナー・講習会への参加（2時間）
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～３０回 ・ゼミナールⅡで検討した卒業研究テーマを基に、プレゼンテーションやディスカッションを重ね、卒業研究の作成に繋げる。 ・映像分析ソフトウェアによるゲームパフォーマンス分析やテニスの技術評価のための各種測定を主体的に行い、そのスキルを磨く。 ・各種セミナー等に参加し、ゲームパフォーマンス分析やテニスのコーチングに関する理解を深め、実践場面で活用する。	卒業研究の作成（30時間） 各種セミナー・講習会への参加（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	笹子　悠歩			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	本授業では、海洋スポーツの普及・発展に資する研究の実践を通じて、スポーツ科学における基本的な研究手法を学ぶことを目的とする。具体的には、研究課題の設定方法、各種データの測定手法、結果の整理・まとめ方、データを基に論理的に考える思考力、そしてプレゼンテーションおよびディスカッション能力の修得を目指す。また、海洋スポーツプログラムにも参画し、実践的な活動を通した学びも行う。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	（専門的な知識・教養、コミュニケーション力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	海洋スポーツおよびスポーツ科学に関する基礎的な知識を理解する。 研究課題の背景、測定・データ収集の方法、分析および考察の基本的な手順について説明できる。	○			○			30
	■情意的領域	設定した研究課題に関心を持ち、積極的に取り組むことができる。 他者の意見を尊重しながら協働的に学ぶことができる。	○			○			40
	■技能的領域	実験により得られたデータを整理・分析する基礎的技能が身に付いている。 他者に自身の意見や考えを論理的に伝えることができる。	○			○			30

成績評価の基準	課題や卒業研究への取り組み状況等を基に総合的に判断する。		
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて資料および図書を提供する。		
履修条件・ 関連科目	海洋スポーツ論・実習を履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	特になし
オフィス・アワー	随時　大学院棟３階　教員室３　（事前にメールにてアポイントメントを取ること）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	笹子　悠歩	ゼミナールⅠ（2年次）1回～30回 ・海洋スポーツの研究に関する基礎的知識を理解する。 ・興味ある研究課題に関する各種測定・分析方法を理解する。	・課題に対するデータ収集およびプレゼンテーション資料の作成を行う（60分）。 ・海洋スポーツの公開講座や学長杯ヨットレースの運営補助を通して、実践的知識を身に付ける（適宜）。
2	〃	ゼミナールⅡ（3年次）1回～30回 ・海洋スポーツの研究に関する基礎的知識を理解する。 ・興味ある研究課題に関する各種測定・分析方法を理解する。 ・卒業研究のための予備実験を実施する。	・興味ある研究テーマに関する文献を収集し、内容を整理する（60分）。 ・卒業研究のための予備実験を実施し、その内容をプレゼンテーション資料としてまとめる（60分）。 ・海洋スポーツの公開講座や学長杯ヨットレースの運営補助を通して、実践的知識を身に付ける（適宜）。
3	〃	ゼミナールⅢ（4年次）1回～30回 ・卒業研究を計画し、実行する。 ・卒業研究の実施に必要な各種測定・分析方法を身に付ける。 ・卒業研究の執筆およびプレゼンテーションを行う。	・卒業研究のテーマに関する文献を収集し、内容を整理する（60分）。 ・卒業研究のための実験を行い、その内容をプレゼンテーション資料としてまとめる（60分）。 ・卒業研究論文の執筆（60分）。 ・海洋スポーツの公開講座や学長杯ヨットレースの運営補助を通して、実践的知識を身に付ける（適宜）。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	成田　健造			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	水泳について、多角的な視点（力学、生理学、コーチング学など）からアプローチする。本ゼミナールでは、水泳における専門知識や測定機器の使用方法を学ぶとともに、各自が興味を持った課題に深く取り組むことを通して、課題解決力を高める。さらに、その課題解決の過程で生じた事実や気づきを、的確な言葉と文章を用いて相手に伝えることを通して、科学表現力を高める。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （課題解決力、科学表現力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	水泳に関する知識を網羅的に有すること。また、測定機器の使用および活用方法を理解すること。	○		○	○			30
	■情意的領域	水泳に興味・関心を持ち、自ら学習する意欲があること。 また、自身で考え、意見を持ち、積極的に議論に参加すること。	○		○	○			40
	■技能的領域	測定機器を用い、データ分析ができること。 論理的な文章を、適切な単語・言葉を用いて作文できること。 聴衆を考慮したプレゼンテーションができること。	○		○	○			30

成績評価の基準	出席は最低条件とし、議論への参加の積極性、レポートや発表内容などを総合的に判断する。
テキスト、教材 参　考　書	適宜、紹介する。
履修条件・ 関連科目	特になし。
備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	随時対応。研究棟8階　812教員研究室 ※事前にメール等で連絡ください。（kenzo@nifs-k.ac.jp）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	成田　健造	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 文献を読み、水泳に関する基礎的な知識を修得する。また、他の人の水泳実験に補助者としても参加し、体験する。 ゼミ活動ではディスカッションを通して、水泳の面白さ、奥深さに触れつつ、自身の興味を見つめる。	文献調査、実験の補助
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 前期は、論理的な文章作成の基礎を学びつつ、水泳に関する先行研究を読み、科学的論文の読み方や書き方を学ぶ。また、グループで実験を実践し、水泳実験の難しさや面白さを体験しつつ、留意点について理解する。 後期は、水泳研究の様々な視点でのアプローチ方法を学びつつ、卒業研究のテーマ設定に向けて、自身が興味ある分野を選定する。また、自身の興味に近い論文を読んで知識を深めるとともに、その内容についてディスカッションする。	文献調査、実験の準備、発表資料の準備
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 卒業研究のテーマを決定し、自主的に進める。実験系であれば、実験計画書を作成し、そのスケジューリング含め、主体的に実験を行う。その際、予備実験での反省を踏まえ、本実験での測定方法を選択し、実施する。実践系であれば、蓄積するデータを吟味し、その進捗について定期的に振り返りを行う。 卒業論文の作成では、適切な言葉の選定と、論理的な文章の作成に励む。また、相手に対してわかりやすく伝えられるよう工夫する。	文献調査、実験の準備、発表資料の準備

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	小崎　亮輔			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	本授業では，講道館柔道についての知識，認識，解釈を深化させ，さらにそれらを言語化，明示化させることで，最終的に形に残るような昇華をさせることを目的とする．現代における柔道についてはオリンピックスポーツとして定期的なルール改正等を通して，日々競技実相を変貌させている．それらを的確に捉え，解釈できる人材を養成すると共に，コーチングに関する知識を併せて議論させることで，正しい知識，デリカシーを備えた柔道指導者の資質を養成する．また，柔道を発達支援のツールとして用いた「柔道療育」について学び，柔道の新しい活用方法を検討する． 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	柔道について幅広い知識を身につけているか	○		○				40
	■情意的領域	柔道について実技技能，戦略，分析，競技分析，療育プログラムなど多角的な視野から積極的に探求しているか	○		○	○			30
	■技能的領域	探求結果について適切な方法で言語化，明示化できているか	○		○				30

成績評価の基準	以下の３点から総合的に評価する． ①主体的に探求に取り組んでいること ②適切な課題設定をしていること ③課題に対する調査や分析フローを策定してそれに取り組んでいること
テキスト、教材 参　考　書	推薦する教材や参考書は適宜提示するため，授業にはタブレットまたはPCを持参すること．

履修条件・関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	教育体系でもあり，オリンピックスポーツである柔道というコンテンツに対して積極的に興味を抱いてください．その興味から探索したい事象を抽出し，調査・分析を講ずることで視野が広がります．そしてその視野をぜひ言語化してください．グラフ作成やプレゼンテーション作成能力を身につけておくことをすすめます．

オフィス・アワー	随時（研究棟５階５０４研究室） 来室の際は事前にアポイントをとること

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	小崎　亮輔	ゼミナールⅠ（２年次）１回～30回 ・柔道に関する基本的知識，応用的知識を再確認する ・柔道競技を解釈する方法を学習する	
2	〃	ゼミナールⅡ（３年次）１回～30回 ・柔道に関する基本的知識，応用的知識を再確認する ・柔道競技を解釈する方法を学習し，実際にツールを用いて分析する ・柔道の様々な活用方法を学習し，見識を深める（例：柔道療育）	
3	〃	ゼミナールⅢ（４年次）１回～30回 ・自身が策定したテーマに添い，適切な研究テーマを建てる ・適切な研究手法を選択し，研究計画をたて，実行する ・結果を言語化し，プレゼンテーションで発表する	

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	山口　大貴			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	本授業では、自転車競技を柱として、競技力向上に関する実践的知見の創出を目指している。そのために、測定・実験を通じて、研究能力の修得を目指す。卒業論文では、受講生の興味関心があるテーマを設定し、研究課題に主体的・計画的に取組む能力を身につける。その他、自らが作成した資料を基に、プレゼンテーションおよびディスカッションする能力を身につける。これにより、課題解決力および科学的表現力、コミュニケーション能力を身につけることが期待される。 【授業に含まれる活動】○…実施あり、×…実施なし、△…授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （課題解決力、科学的表現力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・専門競技に関することについて基礎的な事項を他者に分かりやすく説明することができる。	○			○			40
	■情意的領域	・授業に興味・関心を持って積極的に参加し、課題に取り組もうとする。 ・受講生同士で協力して学習の探究をしようとしている。	○			○			20
	■技能的領域	・パワーポイントを用いたプレゼンテーションができる。 ・映像分析（連続写真作成、動画編集）ができる。 ・ITおよび図書館での文献検索ができる。	○			○			40

成績評価の基準	授業到達目標を基に、授業への参画状況、発表等を総合的に判断し、60点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	随時紹介する。		
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習（自転車競技Ⅰ～Ⅲ）、トレーニング科学概論、運動学概論、コーチ学概論、運動生理学を履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	何事にも積極的で意欲のある学生を歓迎します。 専門は自転車競技ですが、他競技の学生の受け入れについても検討しますので相談ください。
オフィス・アワー	時可能ですが、事前に連絡をとって頂くのが望ましい。 研究棟8階　803教員研究室（h-yamaguchi@nifs-k.ac.jp）。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	山口　大貴	ゼミナールⅠ（2年生）1~30回 3・4年生の発表を聴講して学ぶ。ディスカッションに参加して自身の考えを他者に共有する。 興味関心があることについて調べてみる。	ゼミの先輩達の測定・実験を手伝って学ぶ。自身の研究についても立案して実践する。 プレゼンテーションについてはパワーポイントを用いて行う。
2	〃	ゼミナールⅡ（3年生）1~30回 4年生の発表を聴講して学ぶ。ディスカッションに参加して自身の考えを他者に共有する。 卒業論文の作成に向けて、自分自身の興味あることについて研究活動をしてみる。	ゼミの仲間の測定・実験を積極的に手伝う。自身の研究についても立案して積極的に実践する。 プレゼンテーションについてはパワーポイントを用いて行う。
3	〃	ゼミナールⅢ（4年生）1~30回 前年度の研究を発展させて卒業論文を作成するための方法を学びまとめる。各発表へ向けてプレゼンテーションの練習にも取り組む。	ゼミの仲間の測定・実験を積極的に手伝う。自身の研究についても立案して積極的に実践する。 プレゼンテーションについてはパワーポイントを用いて行う。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	村川 大輔			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	サッカー競技に関する文献・資料を収集し、それを通じてサッカーへの理解を深め、競技者および指導者としての資質向上を図る。また、アスリートの優れたパフォーマンスを支える背景メカニズムを多角的な視点から探求し、競技パフォーマンスへの理解を深める。各々が興味を持つ現象の探求に取り組むことで課題を発見し解決する力を養い、研究発表を通じて科学的な思考力や表現力を高める。 【授業に含まれる活動】○…実施あり、×…実施なし、△…授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力		授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・サッカーの競技特性を理解し、説明できる。 ・競技パフォーマンスを多角的な視点から捉えることができる。	○			○			40
	■情意的領域	・授業に主体的に取り組むことができる。 ・文献調査を積極的に行い、自身の意見を持ってディスカッションに参加できる。	○			○			30
	■技能的領域	・論理的な文章表現および他者に伝わるプレゼンテーションができる。	○			○			30

成績評価の基準	授業への出席が2/3以上という条件で、授業への取り組みおよび発表の各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	適宜必要な資料を配布する。
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習（サッカー）、スポーツ心理学のどちらかを履修しておくことが望ましい。
備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	随時。811教員研究室

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	村川 大輔	ゼミナールⅠ（2年）1～30回 興味のあるテーマに関する情報収集および抄読を行い、知識の幅を広げる。	事前・事後学習について適宜指示する。
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1～30回 興味のあるテーマを中心に資料収集および抄読を行い、自身の考えをまとめ発表する。その過程を通じて、卒業研究として取り組むテーマの概略を決定する。基本的な研究作法を身に付ける。	事前・事後学習について適宜指示する。
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1～30回 自身のテーマに沿った文献・資料収集および実験を行い、卒業研究を完成させる。文章表現やプレゼンテーション作成・発表方法について学習し、自身の研究内容を相手に分かりやすく伝える。	事前・事後学習について適宜指示する。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	中谷　太希			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	体操競技の歴史、技術論、方法論について概説し、それらの知識と高度な技を習得するためのトレーニング法、指導法を学習し、高い能力を持った競技者、指導者としての資質の向上を図る。また、これらを生かして卒業論文の作成を行う。 【授業に含まれる活動】○…実施あり、×…実施なし、△…授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （課題解決力、科学的表現力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・スポーツ運動学におけるコツやカンといった身体知の基礎概念について理解する.	○	○					50
	■情意的領域	・プレゼンテーションや質疑応答，グループワーク等に積極的に参加し，自分なりの考えや解釈を論理的に伝えられるようになる.	○						50
	□技能的領域								

成績評価の基準			
テキスト、教材 参　考　書	金子明友著「体操競技のコーチング」(大修館書店) K．マイネル著金子明友訳「スポーツ運動学」(大修館書店)		
履修条件・ 関連科目	体操競技に精通していることが好ましい。	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	708(内線4976)随時受付		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中谷　太希	ゼミナールI(2年)1回~30回 体操競技の技術研究、コーチング、指導方法を習得するための基礎として、次の項目についての考究を行う。 技の表記:構造、規定詞、運動表記 器械の種目特性 :ゆか、あん馬、つり輪、跳馬、平行棒、鉄棒、平均台、段違い平行棒 トレーニング計画:特性、概念と構造、心構え、計画と管理、周期と強度、基本期、試合期	予習:テキストの次回分を読む
2	〃	ゼミナールII(3年)1回~30回 卒業研究を行うための体操競技に関する基礎知識、応用知識として、次の項目についての考究を行う。 技の構造(マイネル):難易性、芸術性、特性と意義、理想像、運動弾性、運動の先取り、胴体操作、運動の伝導	予習:テキストの次回分を読む
3	〃	ゼミナールIII(4年)1回~30回 実際に卒業研究を作成しながら次の項目についての考究を行う。 体操競技の運動学 :運動形態学とモルフォロギー、運動の弾性、先取り、運動伝導、自動化 研究方法:実験方法の手順、参考・引用文献の検索方法、表・グラフの作成方法、表・グラフの分析方法、考察方法	予習:テキストの次回分を読む

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	堀内　雅弘			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	本ゼミナールは、ヒトの呼吸・循環・代謝機能を明らかにするために、様々な条件下(安静・運動・姿勢変換・暑熱・低酸素)を刺激として、様々な測定指標（呼気ガス・筋代謝能・血流量・心拍数）を用いて研究を進める。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （課題解決力、科学的表現力（科学的支援力、専門的な知識・教養））							
	■認知的領域	生理学を基礎とし、植物機能に関わる知識・課題が理解できる	○			○			40
	■情意的領域	実験・実習に対して検者や被検者として積極的に参加する	○			○			30
	■技能的領域	卒業論文作成に向けた実験機器の操作や解析法ができるようになる	○			○			30

成績評価の基準	認知的、情意的、技能的領域の到達状況を加味して総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて紹介する。		
履修条件・ 関連科目	運動生理学を履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	高い志を持つ人を望みます。
オフィス・アワー	研究棟3階 303研究室、研究棟1F運動生理学実験室（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです：mhoriuchi@nifs-k.ac.jp）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	堀内　雅弘	ゼミナールⅠ(2年)1回～30回 担当教員や先輩の実験に積極的に参加し、実験の流れや雰囲気をつかむ。また、興味があるテーマを模索する。	配布資料を精読し、授業内容に関連する文献をCiNiiやPubMed等で調べ、データベース化して構築する。
2	〃	ゼミナールⅡ(3年)1回～30回 卒業研究で取り組む課題の予備実験を行い，関連文献を探し，仮説・実験デザインを構築する．文献は英語論文必読である	配布資料を精読し、授業内容に関連する文献をCiNiiやPubMed等で調べ、データベース化して構築する。
3	〃	ゼミナールⅢ(4年)1回～30回 卒業論文作成のために研究テーマを定め、実験・データ分析を行う。また、得られた結果を基に、明確なプレゼンテーションができるようにする。	卒業論文作成に取り組む。（随時）

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	田巻　弘之			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	本科目では、スポーツ、健康づくりにおける基礎的な科学的表現力を身につけるため、合理的な身体活動や運動の効果についての生理学的/組織細胞学的根拠を調べ、実験を通して検証していく。また、文献を検索して文献管理ソフトでデータベース化し、論文作成に活用する方法を身につける。本授業により、スポーツ、体力・健康増進に関して新しい知見を見出すよう議論でき、円滑に卒業論文を完成することができる。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （課題解決力、科学的表現力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	生体反応や組織細胞をイメージングする原理を理解し、運動効果について生理学的根拠を述べることができる。	○			○			30
	■情意的領域	授業で実施する実験・実習等に積極的に取り組み、チームで協力して課題に挑戦する。	○			○			30
	■技能的領域	・特殊な実験機器操作や解析手法など適切な研究手法を習得する。 ・必要な文献をPubMed等で検索でき、EndNote等にデータベース化して、論文作成に活用することができる。	○			○			40

成績評価の基準	上記３領域に関する習得状況について総合的に評価する。ルーブリックを配布する。
テキスト、教材 参　考　書	（参考書）1）計測法入門―計り方,計る意味, 内山 靖, 協同医書出版社 (2001), ISBN:978-4763910301, 2)新しい骨形態計測, 遠藤直人監修, ウイネット (2014), ISBN:978-4434190803, 3)細胞・組織染色の達人, 大久保和央(著), 羊土社 (2018), ISBN:978-4758122375, 4)これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版, 酒井聡樹, 共立出版 (2015), ISBN: 978-4320005952, 5)実験で使うとこだけ生物統計1, 池田郁男, 羊土社 (2017), ISBN: 978-4758120760, 6)実験で使うとこだけ生物統計2, 池田郁男, 羊土社 (2017), ISBN: 978-4758120777, 7)EndNote活用ガイド デジタル文献整理術, 讃岐美智義, 克誠堂出版 (2018), ISBN: 978-4-7719-0496-5

履修条件・ 関連科目	解剖生理学、運動生理学、バイオメカニクス、体育学実験Ⅰを履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです）研究棟3階 305研究室 tamaki@nifs-k.ac.jp		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	田巻　弘之	ゼミナールⅠ（２年）１～３０回 ・パソコンの使い方を学び、基本的なソフトの操作ができるように練習する。 ・PCを用いる実験機器の使用方法や測定、分析の基本原理と技術を実習する。 ・興味あるテーマの論文について抄読、内容をプレゼンテーションする。 ・リサーチラボノートの記録の仕方を学び、実習する。 ・PubMed等で文献を検索し、文献管理ソフトEndNoteの使用方法を学び、参考文献をデータベース化し、その便利さに感動する。	各授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（各2時間）
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１～３０回 ・パソコンの使い方を学び、基本的なソフトの操作ができるように練習する。 ・興味あるテーマの論文について抄読し、内容をプレゼンテーションして、卒業研究のテーマを決定する。 ・研究テーマに関連する実験機器の使用方法や測定、分析（筋電図、筋力測定、筋酸素飽和度測定、骨強度測定、ビデオ撮影、画像分析、組織染色、顕微鏡観察・撮影等）の基本原理と技術を実習する。 ・計測信号をA/D変換してPCで記録する方法、データ解析ソフトの使用方法を学ぶ。 ・研究の目的や仮説を設定し、スケジュールと実験プロトコルを作成して、実験を実施する。 ・PubMed等で文献を検索して、文献管理ソフトのEndNoteの使用方法を学び、参考文献をデータベース化する。 ・リサーチラボノートの記録の仕方を学び、実習する。 ・各自の卒業研究テーマについて、「卒業研究計画書」を作成し、発表する。	各授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（各2時間）
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１～３０回 ・実験で得られた結果を分析し、全体でディスカッションする。 ・必要な統計方法（ソフト）を学び、自己の卒業研究に用いる。 ・PubMed等で文献を検索して、文献管理ソフトのEndNoteの使用方法を学び、参考文献をデータベース化し、卒業論文の作成に活用する。 ・卒業論文、研究発表用プレゼンテーション資料を作成する。 ・卒業研究をプレゼンテーションする。	各授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（各2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	吉田　剛一郎			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	運動にともなうからだの変化について生化学・栄養学面から学ぶ。糖質・脂質・タンパク質、いわゆる三大栄養素と、生命活動に不可欠なビタミンとミネラルが生体内代謝におよぼす役割について学ぶ。その後、エネルギー産生、疲労、およびアンチ・ドーピングをテーマとして実験、調査およびディスカッションを行うことにより、運動がからだにおよぼす影響を系統的に理解できる能力を養う。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （一般教養・倫理、専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	栄養素および生体内の代謝を理解し、運動に関する実験・調査を行うための知識を身につけることができる。			○	○			40
	■情意的領域	適切な受講姿勢を保ち、積極的に作業課題に取り組むことができる。	○						30
	■技能的領域	実験のテクニックや機器の操作方法を習得し、データの解析に必要な統計学的手法を身につけることができる。	○						30

成績評価の基準	ゼミナールの到達目標は、最終的に卒業研究の完成を目指すことにあり、そのために努力を行ったかということを評価の基準とする。		
テキスト、教材 参　考　書	入村達郎 訳『ストライヤー生化学』（トッパン） 上代淑人 訳『ハーパー生化学』（丸善）		
履修条件・関連科目	分野科目の偏りなく履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	自らの目標に向かって、自主的に努力を行ったという満足感を感じ取ってほしい。
オフィス・アワー	随時　３０７研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	吉田　剛一郎	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 ・からだの構造と機能について学ぶ。 ・実験・実習に対する態度と基本的なテクニックを身につける。	・関連する文献を読む。 ・実験方法を学ぶ。
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 ・糖質、脂質、タンパク質などのからだを構成する物質、およびその代謝に必要となるビタミンとミネラルについて学ぶ。 ・実験のテクニックや機器の操作方法を習得する。 ・データの解析に必要な統計学的手法を身につける。	・関連する文献を読む。 ・実験方法を学ぶ。
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 ・運動時の水分出納・エネルギー代謝、エネルギー産生とビタミン（カルニチン欠損マウスを用いて）、練習を繰り返す根拠となる生体内代謝と遺伝学的背景、栄養素補給のタイミング、疲労とその対策、アンチ・ドーピングなどについて学ぶ。 ・ディスカッション、および卒業研究を行うことによりその理解度を深める。	・関連する文献を読む。 ・実験方法を学ぶ。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134B0-2101)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	中垣内　真樹			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	健康づくりや介護予防のための運動の方法論やその効果について国内外の研究論文を抄読して見識を深める。それらの実践方法や効果についてディスカッションしながら卒業論文のテーマを決定し、卒業論文を遂行できる能力を身につける。 【授業に含まれる活動】○…実施あり、×…実施なし、△…授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （議題解決力、科学的表現力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	健康づくりや介護予防に関する運動方法について国内外の研究をリビューし、研究手法や新たな研究課題を探求する。	○		○	○			30
	■情意的領域	健康づくりや介護予防の運動の指導、効果判定の測定を通して、研究手法の習得に積極的に取り組む。	○			○			40
	■技能的領域	研究の背景（目的）、方法、考察など論理的にまとめることができ、さらにそれらを伝えるプレゼンテーション能力を身につける。	○			○			30

成績評価の基準	卒業論文の作成に向けて積極的に取り組むこと、授業への参加状況や発表内容で総合的に評価する。
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて資料等を紹介・配布する。 参考書：「健康運動指導士養成講習会テキスト上・下」（公益財団法人健康・体力づくり事業財団，2019年，16800円） ：「運動処方の指針　運動負荷試験と運動プログラム　原書第8版」日本体力医学会体力科学編集委員会監訳，南江堂，2011年，3850円）

履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	健康づくり、介護予防、生涯スポーツに興味があり、地域に出て積極的に指導や研究に取る組むことを望みます。
オフィス・アワー	随時：研究棟　4階　407研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中垣内　真樹	ゼミナールⅠ（2年次）1～30回 健康づくり、介護予防の運動指導現場を見学・参加し、運動指導の方法論を学ぶ。	健康づくり、介護予防の運動方法やその効果についての資料を収集する.
2	〃	ゼミナールⅡ（3年次）1～30回 健康づくり、介護予防の運動方法論やその効果に関する国内外の研究論文をリビューし、今後の研究課題などを討論し、卒業論文のテーマについて検討する。	国内外の研究論文を検索し、それらをリビューし、発表できるようにまとめる.
3	〃	ゼミナールⅢ（4年次）1～30回 卒業論文の作成する。指導、調査、測定を実施し、得られた結果を分析・考察して、プレゼンテーションできるようにする。	指導、調査、測定の方法および分析（統計解析等）の方法についての情報を収集する.

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	藤田　英二			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	アスレティックトレーニングや中高齢者に対する健康づくり運動などの、様々な対象に対する運動処方の領域に関する見識を高め、それらについてのアプローチ法や研究法について考究する。これにより、課題解決力、科学的支援力、科学的表現力が身につくことが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （議題解決力、科学的表現力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	アスレティックトレーニングや高齢者等への健康運動領域に関する先行研究をレビューし、研究手法を学ぶとともに、新たな問題点や研究課題を発見する。	○		○	○			30
	■情意的領域	先行研究の調査、発表、討論、および実験測定への参加など、積極的に課題へと取り組む。	○			○			40
	■技能的領域	実験測定に必要な基本手技を身につけるとともに、論理的思考の養成と、プレゼンテーション能力の向上を図る。	○			○			30

成績評価の基準	卒業研究作成に向けて積極的に取り組んでいるかどうかを中心に、参加状況などを加味して総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて資料を提供する。		
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	何事にも積極的に取り組む姿勢を望む。
オフィス・アワー	随時：まずはメールで相談すること（fujita@nifs-k.ac.jp）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	藤田　英二	ゼミナールⅠ（2年次）1～30回 国内外の関連する文献・先行研究の検索と検討をし、興味の持てる内容に関して報告・発表を行う。	関連領域の知識を学び、研究活動の手伝いを積極的に行う。
2	〃	ゼミナールⅡ（3年次）1～30回 国内外の関連する文献・先行研究の検索と検討をし、興味の持てる内容に関して新しい課題を見つけ報告・発表を行う。	各種実験機材や測定機器の扱いに慣れるとともに、積極的に実験や測定に参加する。
3	〃	ゼミナールⅢ（4年次）1～30回 卒業研究に向け、研究を進める為の諸方法について学び、具体的な調査・測定を行う。得られた結果を分析・考察し、その内容を適切にプレゼンテーションできるようにする。	各自の卒論テーマに関連する文献について輪番制でプレゼンテーションを行う。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134B0-2101)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	沼尾　成晴			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	肥満や生活習慣病予防のための運動方法論やその効果に関する国内外の資料や研究論文を講読して，それらに対する見識を高める。また、実験や測定を通して、研究方法を学びながら、データを分析・評価する能力やそれらを適切に表現・発表できる能力を高めることを目指す。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	肥満や生活習慣病予防のための運動方法論やその効果に関する国内外の資料や研究論文をまとめ、研究手法の理解や研究課題の発見ができる。	○		○	○			30
	■情意的領域	先行研究の探索、発表、討論および実験測定への参加など積極的に自らの課題解決へ取り組むことができる。	○			○			40
	■技能的領域	研究の背景、目的、方法、結果、考察を論理的かつ明瞭にまとめ、わかりやすく発表できる能力を身につける。	○			○			30

成績評価の基準	卒業論文の作成に向けた取組状況とともに、授業への参加状況や発表などを総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて資料等を紹介・提供する。		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	健康づくりや生涯スポーツなどに強く興味があり、将来の目標と関連づけながら学ぼうとする姿勢を期待する。また、何事にも積極的に取り組むことを望む。
オフィス・アワー	随時：研究棟4階　406研究室 （不在の時もあるため、事前にメール(numashige@nifs-k.ac.jp)で連絡することが望ましい）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	沼尾　成晴	ゼミナールⅠ（2年次）1～30回 運動処方について調査し、運動処方に関する基礎的な知識を深める。また、調査した内容について発表する。	運動処方に関する資料を収集する。
2	〃	ゼミナールⅡ（3年次）1～30回 肥満や生活習慣病予防のための運動方法論やその効果に関する国内外の資料や研究論文を講読して、研究課題などを討論し、自身の卒業論文のテーマを検討する。	自身で興味関心のある研究課題を探索し、その課題の解決方法（測定方法など）に関する発表資料を作成する。
3	〃	ゼミナールⅢ（4年次）1～30回 卒業研究の作成に向け、調査や測定などを実施し、得られた結果を分析・考察してその内容を適切に発表できるようにする。	調査や測定などの予定や結果などの資料の作成やデータを分析する方法（統計解析など）について自ら情報を収集する。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134B0-2100)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	高井　洋平			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	本ゼミナールでは、実験実習を通じて、トレーニングをキーワードに、人間の身体組成や筋機能の可塑性ならびに運動パフォーマンスの変化に関する知識を習得するとともに、研究の目的に応じてデータを分析・評価・総括する能力、およびデータに基づいた議論ができる能力を身に付けることを目指す。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （議題解決力、科学的表現力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	自己のテーマにそった先行知見の網羅、実験方法、データの採取・分析方法の習得			○	○			50
	■情意的領域	実験実習・ゼミ内でのディスカッションにおける積極的な参加						○ (実験実習)	20
	■技能的領域	先行知見のレジュメの作成・データのプレゼンテーション能力の向上				○		○ (実験実習)	30

成績評価の基準	知識：実験手法，データ分析，教科書および学術論文の数 技能：プレゼンテーションおよびレポートの内容（データの解釈，研究の構成および着眼点） 態度：実験・ディスカッションへの参加，他者の実験への積極的な協力
テキスト、教材 参　考　書	スポーツ科学，トレーニング科学に関連する領域の教科書および学術論文
履修条件・ 関連科目	備考(教員メッセージ含む)
オフィス・アワー	随時可能（スポーツトレーニング教育研究センター２階，教員室２）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	高井　洋平	ゼミナールⅠ（２年）１回～30回 テーマを決めて実験実習を行い、互いに検者と被検者をやりながら、実験の難しさ、データ取得および分析の大変さを学ぶ。	授業の進行に合わせて、プレゼンテーションおよびショートレポートの提出を適宜指示する。
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～30回 テーマを決めて実験実習を行い、互いに検者と被検者をやりながら、ヒトを対象とした実験手法を取得する。得られたデータに基づき、分析の視点、プレゼンテーションの方法を学ぶ。さらに、テーマに関連した解説記事等を参考に、データを総括するためのレポートの作成技術を高める。適宜、実験・データの解析についてのプレゼンテーション・ショートレポートの提出を課す。	授業の進行に合わせて、プレゼンテーションおよびショートレポートの提出を適宜指示する。
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～30回 各自の研究テーマを確定し、実験・データの分析を行う。研究テーマに関連した論文を読み、自身のデータの解釈・考察する能力を鍛える。定期的に実験の進捗状況、得られたデータについてプレゼンテーションを行う。発表を通して、実験結果の解釈を深めると同時に、互いのディスカッション能力を鍛える。また、定期的にショートレポートを提出し、それに基づくミーティングを行うことで論文作成技術を高め、卒業論文の完成を目指す。	卒業論文の作成についてテーマ別のミーティングを実施し、卒業論文の内容に関連した課題を適宜課す。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	與谷　謙吾			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	本ゼミナールは、身体パフォーマンスにおける神経-筋機能や活動様式を明らかにするために、様々な機器(筋電図や磁気刺激等)を使用しながら研究を進める。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （課題解決力、科学的表現力（科学的支援力、専門的な知識・教養））	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	生理学を基礎とし、動物機能に関わる知識・課題が理解できる	○		○	○			40
	■情意的領域	実験・実習に対して検者や被検者として積極的に参加する	○						30
	■技能的領域	卒業論文作成に向けた実験機器の操作や解析法ができるようになる	○						30

成績評価の基準	認知的、情意的、技能的領域の到達状況を加味して総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて紹介する。		
履修条件・ 関連科目	運動生理学、解剖生理学、バイオメカニクスを履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	研究棟3階 306研究室、研究棟2Fバイオメカニクス実験室（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです：yotani@nifs-k.ac.jp）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	與谷　謙吾	ゼミナールⅠ(2年)1回～30回 担当教員や先輩の実験に積極的に参加し、実験の流れや雰囲気をつかむ。また、興味があるテーマを模索する。	配布資料を精読し、授業内容に関連する文献をCiNiiやPubMed等で調べ、データベース化して構築する。
2	〃	ゼミナールⅡ(3年)1回～30回 担当教員や先輩の実験に積極的に参加し、実験の手続きや雰囲気をつかむ。また、興味があるテーマを模索する。	配布資料を精読し、授業内容に関連する文献をCiNiiやPubMed等で調べ、データベース化して構築する。
3	〃	ゼミナールⅢ(4年)1回～30回 卒業論文作成のために研究テーマを定め、実験・データ分析を行う。また、得られた結果を基に、明確なプレゼンテーションができるようにする。	卒業論文作成に取り組む。（随時）

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	赤澤　暢彦			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	本ゼミナールでは、トレーニングやコンディションに関する自分の興味のあるテーマについて、文献収集、測定・解析、ディスカッションを行う。これらにより、専門的知識、実験手法、課題設定・仮説立案能力などを身につけ、卒業論文を進めていくことを目指す。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（△）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （課題解決力、科学的表現力）							
	■認知的領域	トレーニング科学に関する専門的知識を身につけ新たな課題設定や仮説立案ができるようになる。	○			○			30
	■情意的領域	トレーニング科学に関する研究・実験へ積極的に参加する。	○			○			40
	■技能的領域	トレーニング科学に関する実験手法の習得と研究のプレゼンテーションができるようになる。	○			○			30

成績評価の基準	ゼミナールの出席が必須で、取り組む姿勢やプレゼン内容などを総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて、適宜資料を配布する。		
履修条件・ 関連科目	トレーニング科学概論を履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	随時（研究棟302室、akazawa@nifs-k.ac.jp）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	赤澤　暢彦	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 トレーニング科学に関する先行研究を調査し、自身の興味関心のあるテーマやキーワードを模索する。	関連分野の資料や文献を収集する。
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 トレーニング科学に関する測定演習を行い、データを取得する実験手法を学ぶ。	関連分野の資料や文献を収集する。
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 卒業論文作成に向けて、テーマを決定し、実験を実施する。得られたデータを解析し、まとめたものをプレゼンテーションできるようにする。	データの解析やプレゼンテーション資料の作成を行う。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	石澤　里枝			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	国外の研究論文の抄読および生化学・生理学実験の実施を通して、基礎的なスポーツ栄養学研究を遂行する。一連を通して、主体的思考力、科学的表現力や国際力を身につけることを目指す。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （問題解決力、科学的表現力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	主に英語論文をレビュー、発表しながら、自身で研究課題を見つけ、考える力を身につける。英語論文、年間5-10本程度を理解してまとめる。	○			○			30
	■情意的領域	自ら主体的に研究に取り組む。	○			○			30
	■技能的領域	実験測定の手技およびプレゼンテーション力の向上を図る。	○			○			40

成績評価の基準	主体的に取り組むこと。		
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて適宜提供する。		
履修条件・ 関連科目	体育学実験IIおよびゼミナールIを履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー			

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	石澤　里枝	ゼミナールI (2年) 1～30回	英語論文を理解する力、プレゼンテーション力と考える力を身につける。プレゼンテーションや自主的な議論を通して、各自の興味、関心に基づくテーマを決定する。
2	〃	ゼミナールI (3年) 1～30回	テーマに沿った実験やデータ分析を行い、結果に関するプレゼンテーションと議論を行う。
3	〃	ゼミナールI (4年) 1～30回	卒業論文を作成する。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	古瀬　裕次郎			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	公衆衛生、ヘルスサイエンスをテーマに、健康と運動の関わりについて理解を深める。自ら現場に出て測定や実験を行い、運動・スポーツを通じた社会貢献活動を体験する。課題に対して自らの意見を論理的に展開し、説明、記述できるようになることを目標とする。 【授業に含まれる活動】○・・・実施する、×・・・実施しない、△・・・授業の進捗状況や場合によって実施する グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力							
	■認知的領域	公衆衛生、ヘルスサイエンスをテーマに、健康と運動の関わりについて理解する。	○			○			30
	■情意的領域	研究調査、発表、討論への参加など、積極的に課題に積極的に取り組む。	○			○			40
	■技能的領域	研究に必要な基本的手法および、文書・論文作成、発表に必要なプレゼンテーション能力を身につける。	○			○			30

成績評価の基準	卒業研究作成に向けて積極的に取り組んでいるかどうかを中心に、態度や課題の内容から総合的に判断する。		
テキスト、教材 参　考　書	必要であれば都度配布する。		
履修条件・ 関連科目	衛生学・公衆衛生学、環境論、運動生理学	備考(教員メッセージ含む)	ヘルスサイエンスを学び、体育・スポーツを通じて自らや他者の健康づくりに活かすことについて興味と強い情熱のある者を受け入れる。
オフィス・アワー	研究棟5階　509号室（ykose@nifs-k.ac.jp） まずはメールでご相談ください。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	古瀬　裕次郎	ゼミナールⅠ（2年次）1－30回 基本的な研究作法を体験し、実践知を身につける。データ管理や文書作成（Word, Excel）、プレゼンテーション（Power Point）、データ収集のための測定経験、運動による社会貢献の経験を積む。	授業の復習、発表準備、レポート等の作成
2	〃	ゼミナールⅡ（3年次）1－30回 基本的な研究作法を体験し、実践知を身につける。データ管理や文書作成（Word, Excel）、プレゼンテーション（Power Point）を学び、基本的な研究作法を身につける。データ収集のための測定経験、運動による社会貢献の経験を積む。これらの経験をもとに、論理的思考を養う。	内容の復習（30分）
3	〃	ゼミナールⅢ（4年次）1－30回 データ管理や文書作成（Word, Excel）、プレゼンテーション（Power Point）、データ収集のための測定経験、運動による社会貢献の経験を積む。基本的な研究作法を理解し、論文作成、プレゼンテーション能力を身につける。これらの経験をもとに、論理的思考を養い、自らの言葉で自らの意見を発表し、ディスカッションできるようになる。	内容の復習（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	宮崎　輝光			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	スポーツにおいて何気なく目にする物体や身体の運動を力学現象としてとらえ，観察・説明する能力を習得する．本ゼミナールでは，スポーツバイオメカニクスにおける専門知識を学ぶとともに，各自の興味のに基づく課題設定を設定し，自身で解決に至るプロセスを経験することで，論理思考や自身の計画をマネージメントする能力を習得する． 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （課題解決力、科学的表現力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	ヒトの身体をはじめとするスポーツ場面における運動を力学現象としてとらえ，説明することができる．			○	○			40
	■情意的領域	関連する情報収集を行うことができる． 自身の意見をもち，積極的に議論に参加することができる．	○		○	○			30
	■技能的領域	各種測定機器を適切に使用できる． 基本的なアカデミックライティングやプレゼンテーションを身につける．	○		○	○			30

成績評価の基準	出席は最低条件とし，議論参加に対する積極性，レポートや発表内容などを総合的に判断する．
テキスト、教材 参　考　書	『スポーツバイオメカニクス20講』阿江通良，藤井範久，朝倉書店（2002） 『バイオメカニクス　人体運動の力学と制御』【著】David A. Winter【訳】長野明紀，吉岡伸輔，ラウンドフラット（2011） 『プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論／運動器系　第3版』【監訳】坂井建雄，松村譲兒，医学書院，2016 『筋骨格系のキネシオロジー　原著第3版』【著】Donald A.Neumann，医歯薬出版株式会社，2018
履修条件・ 関連科目	バイオメカニクス　体育学実験Ⅱ（バイオメカニクス） 備考(教員メッセージ含む)：動作分析は，基本的な数学と力学の知識が必要となる．そのほかにも，解剖学や運動学の知識も動作のメカニズムを考えるうえで重要となる．そのため，これらの知識が不足する場合は時間外学習を行い，各自で補うこと． バイオメカニクスの実験ではさまざまな機器を扱う．そのため，他人の実験などに積極的に参加し，機器の取り扱いや実験設定を習得すること．
オフィス・アワー	随時　研究棟4階　408教員研究室（t-miyazaki@nifs-k.ac.jp）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	宮崎　輝光	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 ・ヒトの身体運動のメカニズムを理解するために，動作分析，解剖学，運動学，生理学の基本的な事柄を学ぶ． ・さまざまな実験を通じて，バイオメカニクス分野で用いられる実験機材（三次元動作測定装置，地面反力計，表面筋電計，超音波画像診断装置，筋力測定器など）の取り扱いやデータ分析の方法を理解する． ・国内外の文献の検索方法（PubMedやWeb of Scienceなど）を学び，興味のあるスポーツ動作について，教科書や国内外の文献を通じて調査する． ・予備実験を行い，その結果と考察についてプレゼンテーションやレポート作成を行う．	・授業で課した課題を行うこと． ・各授業で生じた疑問点を解消する． ・不足する知識や，興味のあることを学習すること．
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 ・さまざまな実験を通じて，バイオメカニクス分野で用いられる実験機材（三次元動作測定装置，地面反力計，表面筋電計，超音波画像診断装置，筋力測定器など）の取り扱いやデータ分析の方法を理解する． ・国内外の文献の検索方法（PubMedやWeb of Scienceなど）を学び，卒業研究に向けて，興味のあるスポーツ動作について，教科書や国内外の文献を通じて調査する． ・卒業研究の予備実験を行い，その結果と考察についてプレゼンテーションやレポート作成を行う．	・授業で課した課題を行うこと． ・各授業で生じた疑問点を解消する． ・不足する知識や，興味のあることを学習すること．
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 ・卒業研究のテーマに関する国内外の文献を調査し，まとめる（レポート作成，プレゼンテーション）． ・3年次の活動を基に，卒業研究のテーマを決め，研究計画を立案する． ・予備実験および本実験を行い，分析と考察を進める．	・授業で課した課題を行うこと． ・各授業で生じた疑問点を解消する． ・不足する知識や，興味のあることを学習すること．

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	森　司朗			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	運動行動に関して、心理学的なアプローチを通して解明していく研究方法を習得することで、より質の高い指導者を養成することを目的とする。運動行動に関する研究論文をレビューし、具体的な研究方法（実験計画、統計処理）習得し、卒業論文を作成できる能力を養う。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	スポーツ心理学について理解する スポーツ心理学の基礎的研究方法を理解する	○		○	○			40
	■情意的領域	スポーツ心理学の研究に興味・関心を持つ スポーツ心理学の研究に主体的に取り組む	○		○	○			30
	■技能的領域	スポーツ心理学の基礎的研究方法ができる	○		○	○			30

成績評価の基準	原則としてゼミにおける発表内容、課題への取り組み、および各回のゼミでの参加態度によって総合的に評価する		
テキスト、教材 参　考　書	適時配付および指示する		
履修条件・ 関連科目	スポーツ心理学、応用スポーツ心理学、体育心理学実験演習、スポーツカウンセリング論、教育心理学、スポーツサイエンス論・実習ⅠⅡⅢ（スポーツ心理学）	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	月～金までの授業・各種委員会会議などを除いた空き時間～ 17 時　７０９研究室、体育心理学実験室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	森　司朗	ゼミナールⅠ（２年）１回～30回 スポーツ心理学に関する国内・国外の研究を概観し、興味関心のもてる内容に関して報告し、討論を行う。	各自プレゼンテーションを行い、レポートを提出する
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～30回 スポーツ心理学に関する国内・国外の研究を概観し、興味関心のもてる内容に関して報告し、討論をおこない、卒業研究のてーまの絞込をおこなう。さらに、研究方法に関する実習をおこなう。	各自プレゼンテーションを行い、レポートを提出する
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～30回 各々の研究課題を明確にし、その課題にもとづき、論文のレビューをおこない、卒業論文の研究目的を明確にする。その目標にもとづいて検証していくための研究の研究方法を作成し、実際に具体的な調査、実験をおこなう。その方法によって得られた結果を分析、考察し、研究の目的を検証する。この過程を通して最終的に卒業論文を作成し、内容を適切にプレゼンテーションできるようにする。	卒業論文の作成

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	北村　尚浩			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	生涯スポーツについての理解を深めるとともに、社会現象としてのスポーツについて社会科学的研究の視点から考察する。また、各種イベントや調査測定等の現場での体験を通して実践的な能力を修得する。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力							
	■認知的領域	生涯スポーツの概念について理解する 生涯スポーツ政策について理解する	○			○			40
	■情意的領域	課題に積極的に取り組むことができる。	○			○			30
	■技能的領域	適切な日本語表現でレポートを書くことができる プレゼンテーションを通して自分の意見を発表することができる	○		○	○			30

成績評価の基準	認知的、情意的、技能的領域の到達状況を加味して総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	生涯スポーツ実践論（市村出版）		
履修条件・ 関連科目	生涯スポーツ・レクリエーション＆ゲームズ，スポーツ社会学を履修すること．未履修者は3年次，4年次で履修すること．また，3年次のスポーツ調査法，生涯スポーツ実践論，イベント管理学概論を履修すること。	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	随時 （６１０研究室）kitamura@nifs-k.ac.jp		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	北村　尚浩	ゼミナールⅠ（２年）１回～30回 ・生涯スポーツ，スポーツ社会学に関する知識を学習する ・日本におけるスポーツ政策について学ぶ ・レポートの書き方、プレゼンテーションの基礎を学習する	生涯スポーツ関連イベント等の運営補助、生涯スポーツ関連の調査測定等の補助などを通し、実践的 な指導力を修得する。
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～30回 ・レポートの書き方、プレゼンテーションの基礎を修得する ・生涯スポーツ，スポーツ社会学に関する知識を学習する ・スポーツにおける社会学的研究法の基礎について学習する ・各自の興味・関心に応じた文献を収集して抄録にまとめ、発表・ディスカッションを行なう	生涯スポーツ関連イベント等の運営補助、生涯スポーツ関連の調査測定等の補助などを通し、実践的 な指導力を修得する。
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～30回 ・卒業研究のための資料収集、調査・分析方法について学習する ・プレゼンテーションの技法を修得し、卒業研究に関するディスカッションを通して、その能力を高める ・卒業研究を通して、生涯スポーツや社会現象としてのスポーツに関する知識を深める	生涯スポーツ関連イベント等の運営補助、生涯スポーツ関連の調査測定等の補助などを通し、実践的 な指導力を修得する。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	和田　智仁			補助担当者名	今泉　拓
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	競技スポーツやスポーツ科学の研究において，コンピュータやネットワークなどの情報通信技術(ICT:Information and Communication Technology)が様々な形で活用されている．本ゼミナールでは，スポーツやスポーツ科学に利用されるICT，特に映像や各種センサーを用いた分析・測定技術について，文献調査や発表・ディスカッション等を通じて理解を深めるとともに，実際の競技での利用など演習を行う．これらによりICTのスポーツ領域における実践的な活用能力を修得することを目的とする． 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合%
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	コンピュータとネットワークの基本的構成や特性を理解する。 動画の撮影や取り扱いに関する知識を有し、スポーツに応用できる。	○		○				25
	■情意的領域	関連する事項に興味・感心を持ち、必要となる情報を主体的に調査・収集する。また、それを実践する。 ゼミでの議論に積極的に参加する。	○			○			50
	■技能的領域	スポーツ活動にコンピュータやタブレットを活用することができる。 スポーツ活動に関するビデオ撮影や編集を行うことができる.	○			○			25

成績評価の基準	課題に対する取り組み状況と，担当教員と共に設定した個人別の学習目標への到達度などから評価する.		
テキスト、教材 参　考　書	適宜紹介する		
履修条件・ 関連科目	情報処理A, 情報処理B,トレーニング科学概論，バイオメカニクス，AI入門を履修していること．情報処理Cを履修すること.	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	事前連絡　研究棟４階　401教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	和田　智仁	ゼミナールⅠ（２年）１回～30回 コンピュータとネットワークに関する基礎的な理論について理解し，これを利用できるようになる. また，学内に存在する各種の実験・測定機器，解析ソフトウェア等を調査し，それぞれの特徴や活用事例について理解する.	関連する事項に興味を持って広く情報を収集し，発表・レポート提出に備える.
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～30回 学内の実験・測定機器，解析ソフトウェア等を利用し，その操作方法を身につける. スポーツにおけるICT 活用に関する国内外の事例を論文などから調査研究する.	学内で行われている実験・測定等に積極的に参加し，操作技術などを習得する. 関連研究を調査する.
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～30回 各自の研究テーマを決定した上で研究計画を策定し，それぞれのテーマについて実践的な活動を通じて研究を進めていく. 同時に，論文作成や発表の方法などについても学習を行う.	関連研究を調査する. 実験や分析等の実践的な活動を，計画に従って着実に実施する.

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	中本　浩揮			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	心理学の諸理論を教育、スポーツ・武道などの現実場面に応用すること、また現実場面で生じる現象の生起メカニズムについて心理学的な視点から考究することを目指す。具体的には、各々が興味を持った心理学的知見及び現象を深く探求し、課題を設定し、それに関わる調査や実験を中心とした研究手法の獲得から、研究結果の効果的な発表技法、論文としてのまとめ方の習熟を通して、各々が特定の領域に対する実践力ある知を形成することを目指す。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （科学的支援力，専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	体育・スポーツ場面の解決すべき課題について、具体例をあげ説明できる。 体育・スポーツ場面における解決すべき課題について、心理学理論に基づいて説明できる。 既存の理論では説明できない問題をあげることができる。	○		○	○			40
	■情意的領域	心理学理論について積極的に文献調査を行い、ディスカッションによって課題を深めることができる。 実験・調査に主体的に取り組むことができる。	○			○			30
	■技能的領域	実践的、理論的根拠をつけた意見を述べることができる。 各種測定機器を利用できる。 科学論文の基本形式について理解し、レポートすることができる。	○			○			30

成績評価の基準	2/3以下の出席の場合は評価しない。基本的な授業形態が発表のため、発表資料の提出やプレゼンで使用したパワーポイントを総合的に評価する。授業中の議論への積極性を評価する。
テキスト、教材 参　考　書	テキストは使用しないが、必要に応じて資料を配布する。
履修条件・ 関連科目	備考(教員メッセージ含む)
オフィス・アワー	随時

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中本　浩揮	ゼミナールⅠ（２年）１回～30回 心理学における基本的な諸理論の学習として、受講者全員が興味のある心理学的知見について資料を収集しまとめて発表する。また、発表者、聴講者相互に知識を深めるためにディスカッションを行い、レポートとしてまとめ発表者に提出する。	学術書、論文などを収集し、発表の準備を行う。発表後にはレポートとしてまとめる。
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～30回 2年次に得た心理学的知識を利用して、現実場面において生じる興味のある現象について発表し、ディスカッションを通して考究する。また、各々が興味を持った現象や疑問がどのようにすれば解決されるかについて文献調査した後、調査、実験についての案を考え基礎的なデータを得る。これらの活動を通して、疑問を調査、結果をまとめる技能を獲得する。	現実場面で生じる現象を心理学的な知見から考究するための調査、資料収集を行う。
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～30回 3年次の活動を通して得た資料やデータを再度精査し、教育、体育、スポーツに対する自己の疑問を卒業論文としてまとめるために、本調査、実験を行い現場への応用を目指す。	卒業論文の作成に関する調査・実験、発表、まとめを行う。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	栫　ちか子			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	2年次では，「保健体育」の授業づくりに関する資料や文献等を収集し，教育方法上の原理について基礎的・基本的な知識を修得する．また，中学校・高等学校における保健体育科の目標，内容，指導法等について学習指導要領に基づき学習し、ディスカッションやプレゼンテーション等を通して，保健体育科の特性を生かした指導方法や指導技術等の実践的指導力の基礎を育成する． 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （科学的支援力，専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・「保健体育」の授業づくりについての教育方法上の基礎的・基本的な事項を説明できる ・「保健体育」の授業づくりについて，保健体育科教育学的視点から，課題を見つけ，その解決法を提案する	○		○	○			40
	■情意的領域	・「保健体育」に関連する様々なテーマについて興味・関心をもち，思考を深めた上で，自分の意見を他者に伝えようとしている． ・学校体育全般に関わる現状や理論に興味・関心をもち，合理的解決に向けて，仲間と協力して探求しようとしている	○						20
	■技能的領域	・「保健体育」の授業づくりに関する課題を見つけ，その解決法について，パワーポイントを用いて発表することができる ・資料や文献を検索し，それらの内容についてポイントを絞って，他者にわかりやすくプレゼンテーションができる	○		○	○			40

成績評価の基準	2年次では，授業の到達目標に基づき，レポートやディスカッション，プレゼンテーション等から，保健体育科教育学に関する知識の深化を判断する．
テキスト、教材 参　考　書	中学校学習指導要領解説　保健体育編，高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編 タブレットまたはパソコンを持参すること

履修条件・関連科目	中学校・高等学校の保健体育教師を目指している者，保健体育科教育学に関する研究に熱意をもって取り組める者．	備考(教員メッセージ含む)	高い実践的指導力のある教員の育成を目指しているため，ディスカッションやプレゼンテーションを数多く行い，レポート作成等を頻繁に課す．学校教育・保健体育に関する今日的課題に高い関心，熱い思いを持ち，主体的に研究に取り組む学生を求む．

オフィス・アワー	随時：研究棟7階703教員研究室

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	栫　ちか子	ゼミナールⅠ　1～15回 「保健体育」の授業づくりに関する資料や文献等を収集し，抄読を行い，体育・保健分野の単元構造図・学習指導案を作成する．また，作成した学習指導案に基づいた模擬授業を通して，実践的指導力の向上を図る．	「保健体育」の授業づくりに関する資料や文献等の収集，プレゼンテーションの準備，学習指導案の作成，教材開発等
2	〃	ゼミナールⅠ　16～30回 最新の体育・保健体育に関する内容について，資料や文献等を収集し，プレゼンテーション及びディスカッションを行う．また，授業を実施する上での，指導と評価について理解し，評価規準・判定基準のルーブリックを作成する．	テーマに関する資料．文献の収集，プレゼンテーションの作成等
3	〃	ゼミナールⅡ　1～15回 「保健体育」の授業づくりに関する資料や文献等を収集し，抄読を行い，中学校・高等学校における保健体育科の学習指導要領の内容を踏まえたディスカッションを行う．さらに，学習指導案に基づいた模擬授業を通して，実践的指導力の向上を図る．	「保健体育」の授業づくりに関する資料や文献等の収集，プレゼンテーションの準備，学習指導案の作成，教材開発等
4	〃	ゼミナールⅡ　16～30回 卒業研究につながる内容について，資料や文献等を収集し，予備調査等を実施して，プレゼンテーション及びディスカッションを行う．卒業研究のテーマを絞り込み，次年度の卒業研究へ繋げる．	研究テーマに関する資料．文献の収集，予備調査，プレゼンテーションの作成，研究計画の作成等
5	〃	ゼミナールⅢ　1～15回 各自が設定した「保健体育」の授業づくりに関するテーマについて，研究計画に基づき，調査・研究した結果についてプレゼンテーション及びディスカッションを行う．	先行研究や各種調査結果，関係法令等の調査及びアンケート・インタビュー・授業実践等
6	〃	ゼミナールⅢ　16～30回 卒業研究の完成に向け，論文を作成し，プレゼンテーションを繰り返しながら，研究の深化を図る．	先行研究や各種調査結果，関係法令等の調査及びアンケート・インタビュー・授業実践，論文作成，プレゼンテーション作成等

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	石原　豊一			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	国際的な視野からスポーツ社会学の研究法および叙述の仕方を修得し、アスリートの国際移動やスポーツを通した開発援助などについて、社会学的に論じ考察を行う。それを通して、現代社会における体育・スポーツ存在意義や考究する。それによって、専門知を活用し、論理的にものごとを考え表現できる能力、課題解決に向けて自ら考え行動できる能力を身につけることが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （議題解決力、科学的表現力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	スポーツ社会学の研究法を修得し、それを通じて近接分野の研究法についても理解する。ある特定の社会現象がその社会においていかなる意味を持つのかを洞察できる力をつける。	○		○	○			30
	■情意的領域	議論に主体的・積極的に参加する。 自ら課題を設定し、それに意欲的に取り組む。	○			○			40
	■技能的領域	自ら調査した内容を、適切にプレゼンテーションに落とし込む。	○			○			30

成績評価の基準	授業および課題に対する積極的な取り組み方等を総合的に評価する。
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて資料を提供する。

履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	自ら主体的に議論に参加する姿勢と、自ら研究テーマの追究に取り組むことを期待する。
オフィス・アワー	月曜日：昼休み、12時40分～13時40分。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	石原　豊一	ゼミナールⅠ（２年）１回～30回 各自の将来の研究テーマを勘案しながら、スポーツ社会学研究に関連する文献を購読しながら最新の研究成果を学ぶとともに、研究の動向を分析し、問題意識を高め、卒業研究に必要な研究法を修得する。さらに、スポーツ産業学など近接分野の研究法についても理解し、それらの過程において各自が興味・関心を持ったテーマについて文献・資料を検討し、その成果を各自発表し、議論を深める。	関連領域の知識を学び、研究活動の手伝いを積極的に行う。
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～30回 スポーツ社会学研究に関連する著名な文献を購読しながら問題意識を高める。各自が興味・関心を持ったテーマを卒業研究に向けて設定した上で、そのテーマに関連する先行研究を検討し、調査・収集を行う。必要に応じて、近接分野の研究法も援用する。その上で成果を各自発表し、ディスカッションする。	関連する領域の文献等の予習・復習 卒業研究に関連する文献・資料の調査 卒業研究の研究計画の作成
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～30回 卒業研究として設定したテーマについて、先行研究の検討、資料の収集と吟味、必要であるならばフィールドワークを行い、それらをもとに考察する。最終的にはその成果を卒業研究として論文にまとめ、発表会において発表する。	各自の卒論テーマに関連する文献について輪番制でプレゼンテーションを行う。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134B0-2101)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	栗山　靖弘			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	教育や体育・スポーツをめぐる現象や問題に対して社会学の手法を用いてアプローチする。具体的には、学校教育や体育・スポーツに関する文献を読み解き、受講者の関心を深める。また、質問紙調査、インタビュー調査、資料研究等の社会調査を通じて、学校教育や体育・スポーツに関する実態の把握と、得られたデータを解釈する力を身につけ、卒業研究を進める。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力		授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	学校教育や体育・スポーツ分野に関する社会学的研究についての知識を身につける。 また、社会調査の方法を修得する。	○		○				40
	■情意的領域	関心のあるテーマや現象について主体的に情報を収集する。 ゼミでは積極的に議論に参加する。	○			○			30
	■技能的領域	社会調査の方法を身につける。	○			○			30

成績評価の基準	ゼミでの発表、提出課題、レポートを総合的に評価します。		
テキスト、教材 参　考　書	教育社会学・スポーツ社会学に関する文献を用いて、適宜資料を配付する。 参考書は適宜紹介する。		
履修条件・関連科目	教職課程科目を履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	議論に積極的に参加し、関心のあるテーマについて主体的・意欲的に取り組むことを期待します。
オフィス・アワー	随時対応。事前にメールでアポを取ってください。 研究棟6階605教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	栗山　靖弘	ゼミナールⅠ(2年)1回～30回 　学校教育や体育スポーツ関連の基礎的な文献を読み解くことで、知識の修得ならびに文献の読み方を身につける。また、ゼミ報告を通じて、文献の要約や文章作成の方法を身につける。	授業の復習、発表準備、レポート等の作成
2	〃	ゼミナールⅡ(3年)1回～30回 　前期は、学校教育や体育スポーツ関連の文献を読み解き、知識の修得ならびに文献の読み方を身につける。また、ゼミ報告を通じて、文献の要約や文章作成の方法を身につける。 後期からは、卒業研究のテーマ設定に向けて、各自の関心のある分野についての文献講読と発表を行う。	授業の復習、発表準備、レポート等の作成
3	〃	ゼミナールⅢ(4年)1回～30回 　卒業研究のテーマを設定したうえで研究計画を立てる。その中で、先行研究の検討と調査方法の選定を行い、卒業研究を進める。 また、論文作成やプレゼンテーション の方法等もについても身につける。	授業の復習、発表準備、レポート等の作成

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	幾留　沙智			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	体育・スポーツ現場で生じる諸課題に対して、体育・スポーツ心理学についての体系化された知識を用いてアプローチし、課題を解決できるような専門性を身に付けることを目指す。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・実施なし、△・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（×）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	体育・スポーツ場面の解決すべき課題について、具体例をあげ説明できる。 体育・スポーツ場面における解決すべき課題について、心理学理論に基づいて説明できる。 既存の理論では説明できない問題をあげることができる。				○			40
	■情意的領域	心理学理論について積極的に文献調査を行い、ディスカッションによって課題を深めることができる。 実験・調査に主体的に取り組むことができる。	○						30
	■技能的領域	実践的、理論的根拠をつけた意見を述べることができる。 各種測定機器を利用できる。 科学論文の基本形式について理解し、レポートすることができる。	○						30

成績評価の基準	2/3以下の出席の場合は評価しない。基本的な授業形態が発表のため、発表資料の提出やプレゼンで使用したパワーポイントを総合的に評価する。授業中の議論への積極性を評価する。
テキスト、教材 参　考　書	テキストは使用しないが、必要に応じて資料を配布する。
履修条件・ 関連科目	2年生　スポーツ心理学、スポーツメンタルトレーニング論、体育学実験Ⅰ・Ⅱ 3年生　上記に加え、応用スポーツ心理学 4年生　上記すべて
備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	問合せは随時、まずはメールにて連絡すること（ikudome@nifs-k.ac.jp）。

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	幾留　沙智	ゼミナールⅠ（２年）１回～30回 心理学における基本的な諸理論の学習として、受講者全員が興味のある心理学的知見についての教科書や専門書を読み、まとめて発表する。また、発表者、聴講者相互に知識を深めるためにディスカッションを行う。	発表の準備を行う。
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～30回 2年次に得た心理学的知識を利用し、自身がもつ体育・スポーツ場面の課題や問題に関連する論文を批判的に読み、まとめて発表する。また、ディスカッションを通して、卒業論文で扱うテーマを決定し、リサーチクエスチョンを生成する。	発表の準備を行う。ゼミで行われる実験・調査に積極的に参加する。
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～30回 3年次の活動を通して生成したリサーチクエスチョンを検証する方法を決定し、実際に調査・実験を行い、卒業論文としてまとめる。	卒業論文の作成に関する調査・実験、発表、まとめを行う。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	中村　勇			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	武道に関する歴史，理論，思想，技術論，競技論，国際論など様々な分野について考究する． 武道の特定を理解し，各種武道に関する課題を検討する． 固定概念にとらえわれず，客観的視野による研究および分析能力を身につけた新時代のニーズに見合った武道専門家を育成する． 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （課題解決力・一般教養・倫理、専門的な知識・教養）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	武道の基礎・応用・実践分野に関する様々な知識を習得している 武道に関する理論・学術研究の動向や内容について知識を持っている	○		○	○			50
	■情意的領域	武道に関して学究的興味を持っている 積極的に課題を解決する意欲を持っている	○		○	○			50
	□技能的領域								

成績評価の基準	出席，取り組み状況，課題に対する発表，意見表明などの内容を総合的に評価する		
テキスト、教材 参　考　書	随時，提供する		
履修条件・ 関連科目	武道関連の講義を受講していることが望ましい	備考(教員メッセージ含む)	日本武道学会への参加および学会大会への参加を希望する 柔道や剣道のみならず武道全般に興味がある学生を求める
オフィス・アワー	水曜日　昼休み　３限目　他随意　研究棟５０３教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中村　勇	ゼミナールⅠ（２年）１回～15回 武道に関する基礎知識，最新動向，資料の検索方法 ゼミナールⅠ（２年）15回～30回 武道に関する基礎知識，最新動向，資料の検索・読解方法	図書館などで資料収集とプレゼン準備（各回30分以上）
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～30回 武道に関する文献資料の収集、ディベートやプレゼンテーション能力の向上	資料収集およびプレゼンテーション準備等（各回30分以上）
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～30回 ・武道に関する学術研究論文の作成に関する資料収集，分析，執筆，プレゼンテーションの方法の習熟 ・武道に関する高度なディベート力の養成	武道に関する資料収集，資料作成等

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	坂口　俊哉			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	本ゼミナールでは、野外教育、レジャー・レクリエーションに関連する文献を検索、抄読する。最終的には、論文を完成させるために必要な「研究の手順」を身につけてもらうことが目標である。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力							
	■認知的領域	論文作成に必要な知識を身につける。			○	○			60
	■情意的領域	討論での積極的な発言（疑問点など）を行うことができる。	○			○			20
	■技能的領域	メール、表計算、ワープロ、統計パッケージ、プレゼンテーションなどのソフトを使いこなすことができる。			○	○			20

成績評価の基準	課題の提出、発表内容などを総合的に判断して評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	授業の中で紹介する。		
履修条件・ 関連科目	統計学や社会調査に関わる科目を履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	３年次の実習（必修）で、野外教育施設での実習を検討している学生にはこのゼミを選択してもらいたい。
オフィス・アワー	随時対応しますが、事前に連絡をもらえると確実です(tsakaguc@nifs-k.ac.jp)。大学院生棟３F 教官室2		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	坂口　俊哉	ゼミナールⅠ（２年）１回～30回 テーマ：視野を広げる。論文作成に必要な基礎的スキルを身につける。 前期：レジャー・レクリエーションに関する国内・国外の現状や問題点について調べる。興味関心を持てるテーマを見つけ、テーマについて各自が調べ、その内容について報告し全員で討論を行う。 後期：授業では、レポート作成方法の初歩について学ぶ。	メール、表計算、ワープロ、プレゼンテーションなどのソフトを使いこなすための課題。 各自プレゼンテーションを行い、レポートを提出する。 月に1回程度、ゼミ生全員が集まって状況を報告するミーティングを行う。
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～30回 テーマ：研究テーマの決定と研究計画の作成 前期：研究の目的設定とデータの収集方法、分析手法について学ぶ。各種の統計手法を用いた研究論文を紹介する。結果のまとめ方、レポートの方法について学ぶ。 後期：卒業研究のテーマを絞り込む。そのためには、関連する先行研究を収集して、読みこなす作業を行う。研究の目的設定とデータの収集方法、分析手法について学ぶ。各種の統計手法を用いた研究論文を紹介する。結果のまとめ方、レポートの方法について学ぶ。	国内・外のジャーナルに掲載された論文、総説、研究レポートなどを受講者全員で分担し、内容の要約を作成する。 月に1回程度、ゼミ生全員が集まって状況を報告するミーティングを行う。
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～30回 テーマ：各自、卒業研究のテーマを明確にし、論文を作成する。 前期：各自の研究テーマについて、目的設定とデータの収集方法、分析手法について学ぶ。結果のまとめ方、レポートの方法について学ぶ。 後期：論文の作成。各自の進行状況に応じて助言・指導を行う。	研究に関する相談は随時受け付けるが、可能な限り、相談内容を文章化すること。 月に1回程度、ゼミ生全員が集まって状況を報告するミーティングを行う。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	日下　知明			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	スポーツに関する公共的問題の解決に関わる政府等の活動であるスポーツ政策に関する諸現象について、公共政策学のアプローチを参考にして探求する。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （課題解決力、科学的表現力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・スポーツ政策に関する諸現象に対する政策学的なアプローチについて理解する。	○		○				40
	■情意的領域	・自らの興味関心に基づいて主体的に情報・資料の収集を行う。 ・積極的に議論に参加する。	○			○			30
	■技能的領域	・読み手・聞き手を考慮して適切な発表資料を作成することができる。	○			○			30

成績評価の基準	ゼミにおける発表、課題、レポートを総合的に判断する。
テキスト、教材 参　考　書	・資料は適宜配付する。 ・参考書：秋吉貴雄 (2017)『入門公共政策学』中央公論新社、秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉 (2020)『公共政策学の基礎 [第3版]』有斐閣
履修条件・ 関連科目	3年次開講「スポーツ政策論」を履修することが望ましい。
備考(教員メッセージ含む)	主体的に自身の興味関心のあるテーマについて探究すること、ゼミにおける議論に積極的に参加することを期待します。
オフィス・アワー	随時 (607研究室)。ただし、事前にメール (t-kusaka@nifs-k.ac.jp) でアポを取っておくことが望ましい。

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	日下　知明	ゼミナールⅠ (2年) 1回から30回 スポーツ政策及び公共政策学に関する基礎的な文献を読み、関連する知識を修得する。また、文献の読み方、要約の作成方法を身につける。	予習、復習、発表準備、レポートの作成
2	〃	ゼミナールⅡ (3年) 1回から30回 前期：スポーツ政策及び公共政策学に関する文献を読み、関連する知識を修得する。また、文献の読み方、要約の作成方法、発表の方法、情報の収集・整理の方法を身につける。 後期：卒業研究のテーマ設定に向けて、興味関心のある領域の文献を読み、発表する。	予習、復習、発表準備、レポートの作成
3	〃	ゼミナールⅢ (4年) 1回から30回 卒業研究のテーマを設定し、研究計画を立案する。先行研究の検討、データの収集・分析を行い、卒業研究を完成させる。また、論文の作成方法や発表方法を学ぶ。	予習、復習、発表準備、レポートの作成

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	棟田　雅也			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	スポーツビジネスのマネジメントおよびマーケティングを学ぶための基本的知識と論理的思考の習得を目的とする。具体的には質問紙調査票の作成とスポーツ観戦者・参加者を対象とした調査を実施し、市場調査の方法について学ぶ。それらを基に卒業論文の製作に向けて、スポーツマネジメントに関連した研究テーマの設定、先行研究のレビュー方法、データの収集・分析手法、結果・考察の書き方、そしてそのプレゼンテーション方法について概説する。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	①研究とは何かについて説明することができる。 ②市場調査の重要性を理解し、企画することができる。	○			○			30
	■情意的領域	①スポーツマネジメントに関する学術的テーマを設定することができる。 ②スポーツマネジメントに関連した先行研究のレビューをすることができる。	○			○			40
	■技能的領域	①卒業論文のテーマや方法に関するプレゼンテーションができるようになる。 ②研究に必要なデータを収集することができる。 ③収集したデータを分析することができる。 ④分析したデータから結果や考察を導き出すことができる。	○		○	○			30

成績評価の基準	認知的、情意的、技能的領域の到達状況を加味して総合的に評価する。
テキスト、教材 参　考　書	資料を適宜配布する。
履修条件・ 関連科目	生涯スポーツ、スポーツ産業、スポーツマネジメント、そしてスポーツマーケティング関連の科目を履修をしておくことが望ましい。
備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	随時研究棟６階602教員研究室にお越しください。 なお、事前にアポを取ることが望ましい。

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	棟田　雅也	ゼミナールⅠ（２年次）１～30回 ①スポーツマネジメントおよびマーケティングの中で興味のあるテーマについて情報を収集し、抄読することで、基礎的知識を修得する。 ②スポーツマネジメントおよびマーケティングに関連した文献や資料などを抄読し、その内容をプレゼンテーションやディスカッションなどで共有、議論することで問題意識を明確にする。	講義内容の予習と復習（１時間） プレゼンテーションの準備（２時間） 関連する調査研究、セミナー、そしてプロジェクトなどへの参画（１時間）
2	〃	ゼミナールⅡ（３年次）１～30回 ①スポーツマネジメントおよびマーケティングに関連した研究とは何かについて学ぶ。 ②スポーツマネジメントおよびマーケティングに関連した研究に必要な市場調査の必要性、データの収集方法、質問紙調査の作成、データの集計方法などの方法論を学ぶ。 ③スポーツマネジメントおよびマーケティングに関連した問題意識とそれに合った研究方法を照らし合わせ、研究計画を作成する。	講義内容の予習と復習（１時間） プレゼンテーションの準備（２時間） 関連する調査研究、セミナー、そしてプロジェクトなどへの参画（１時間）
3	〃	ゼミナールⅢ（４年次）１～30回 ①スポーツマネジメントおよびマーケティングに関連した研究の目的や仮説を設定する。 ②スポーツマネジメントおよびマーケティングに関連した研究計画に沿って、必要なデータを収集する。 ③スポーツマネジメントおよびマーケティングに関連したデータを分析する。 ④スポーツマネジメントおよびマーケティングに関連したデータ分析から得られた結果を考察する。 ⑤スポーツマネジメントおよびマーケティングに関連した一連の研究について卒業論文としてまとめ、プレゼンテーションやディスカッションなどを通じて現場への応用を目指す。	講義内容の予習と復習（１時間） プレゼンテーションの準備（２時間） 関連する調査研究、セミナー、そしてプロジェクトなどへの参画（１時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	松永　武人			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	2，3年次は，中学校・高等学校における学習指導要領の内容理解を通して，保健体育科の目標，目標達成に向けたより良い授業づくりについて，ディスカッションやプレゼンテーション等を通した学び合いの場を設定し，実践的指導力を育成する．さらに，4年次には，各自が設定した保健体育科教育学的視点に基づいたテーマについて，研究計画を作成し，研究の意図に即した調査方法等を具体的に検討する．研究に基づいた授業実践や，質問紙調査，インタビュー調査，資料研究等を通じて得られたデータの解釈力を身に付け，卒業研究を進める．それらの研究結果・考察についてのプレゼンテーションとディスカッションを行い，課題解決能力を高める． 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （（科学的支援力，専門的な知識・教養））	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・学習指導要領の理解に基づいて，「保健体育」の授業づくりについての基礎的・基本的な要点や事項を説明できる． ・「保健体育」の授業づくりについて，保健体育科教育学的視点から，課題を見つけ，その解決法を提案する． ・保健体育科教育学的視点から設定したテーマに基づいて，分析や評価の方法を獲得する．	○		○	○			40
	■情意的領域	・「保健体育」に関連する様々なテーマについて自ら情報を収集し，思考を深め，自己の考えを形成した上で，他者に伝えようとしている． ・学校教育・保健体育に関わる現状や諸課題に目を向け，合理的解決に向けて理論を探求し，仲間と協力して取り組もうとしている． ・保健体育科教育学に関する最新の知見について興味・関心を持ち，研究計画に基づき，主体的に卒業研究に取り組もうとしている．	○						20
	■技能的領域	・保健体育科教育学的視点から設定した課題に対して，その解決方法について，資料を用いて説明することができる． ・適切な表現と構成で，論文を作成することができる． ・各自のテーマについて，設定された時間内で，パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行うことができる．	○		○	○			40

成績評価の基準	2，3年次では，授業の到達目標に基づき，レポートやディスカッション，プレゼンテーション等から，保健体育科教育学に関する知識の修得状況を判断する． 4年次では，3つの領域の授業の到達目標をもとに，授業への取組，作成された論文の内容，プレゼンテーション等から判断する．		
テキスト、教材 参　考　書	中学校学習指導要領解説　保健体育編，高等学校学習指導要領　保健体育編 タブレットまたはパソコンを持参すること		
履修条件・ 関連科目	中学校・高等学校の保健体育教師を目指している者	備考(教員メッセージ含む)	保健体育教師としての専門性を高め，即戦力として活躍できる実践的指導力の育成を目指し，学びの過程や成果を表現する場を数多く設ける．自己の学校教育・保健体育に関する今日的課題認識を基に，主体的に学習や研究に取り組み，自己の意見を発信できる学生を求む．
オフィス・アワー	随時：研究棟6階608教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	松永　武人	ゼミナールⅠ（2年次）1～30回 学習指導要領解説保健体育編の内容理解を踏まえ，「保健体育」の授業づくりに関する資料や文献等を収集し，テーマに基づいたディスカッションを行う．さらに，学習指導要領に基づいた模擬授業を通して，実践的指導力の向上を図る．	「保健体育」の授業づくりに関する資料や文献等の収集，プレゼンテーションの準備，学習指導案の作成，教材開発等
2	〃	ゼミナールⅡ（3年次）1～30回 卒業研究につながる内容について資料や文献等を収集し，予備調査等を実施して，プレゼンテーション及びディスカッションを行う．研究テーマを絞り込み，次年度へつなげる．	研究テーマに関する資料，文献の収集，予備調査，プレゼンテーションの作成，研究計画の作成等
3	〃	ゼミナールⅢ（4年次）1～30回 各自が設定した保健体育科教育学的視点に基づいた研究テーマについて，研究計画を基に，調査・研究した結果をプレゼンテーション及びディスカッションで発表する．さらに卒業研究の完成に向け，論文を作成し，他者に伝える機会の創出を通して，研究の深化を図る．	先行研究や各種調査結果，関係法令等の調査及びアンケート・インタビュー・授業実践，論文作成，プレゼンテーション作成等

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	菊地原　守			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	本ゼミナールでは、「教える人」や「教えるということ」についての見識を深め、研究をおこなう上での技法を学び、学修した成果を踏まえて卒業研究に取り組む。具体的にはまず、教師やスポーツ指導者、学校教育や体育教育に関する文献を読み、基礎的な知識を得る。その上で、各自の問題意識を明確にしてリサーチクエスチョンを生成し、「問い」を検証するための調査を計画・実施する。そして、得られたデータを分析してその成果を卒業論文としてまとめる。こうした一連の経験を通して、専門的知識を獲得するとともに、研究方法や効果的なプレゼンテーションの技法を学び、課題解決能力を高めることが期待される。 【授業に含まれる活動】○・・実施あり、×・・・実施なし、△・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（△）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	教育学や体育教育に関する基本的な知識を身につける。 社会調査や論文作成に必要な知識を身につける。	○		○	○			40
	■情意的領域	関心のあるテーマについて主体的に情報を収集する。 ゼミでの発表やディスカッションに積極的に参加する。	○			○			30
	■技能的領域	資料や文献の要点をわかりやすくまとめることができる。 適切な表現と技法を用いて文章を書くことができる。 パワーポイントを活用して明瞭な発表をすることができる。	○		○	○			30

成績評価の基準	ディスカッションへの参加状況、発表、レポートを総合的に評価します。		
テキスト、教材 参　考　書	テキストは受講者の関心に合わせて決定します。参考書は必要に応じて随時紹介します。		
履修条件・ 関連科目	教職課程科目を履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	担当教員の専門は教育学です。教師やスポーツ指導者、学校教育や体育教育に関心のある学生を歓迎します。また、関心があるテーマの学修や研究に対して、楽しく主体的に取り組める学生の参加を期待します。
オフィス・アワー	随時対応。事前にメールでアポを取ってください。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	菊地原　守	ゼミナールⅠ（２年次）１回～３０回 教育学や体育教育学に関する文献を読み、関連知識を習得する。 ゼミでの報告を通じて文献の読み方と要約・発表の技法を身につける。 自分の問題意識を見つめ直し、リサーチクエスチョンを考える方法を学ぶ。	授業の復習、発表準備、レポートの作成
2	〃	ゼミナールⅡ（３年次）１回～３０回 前期：教育学や体育教育学の文献を読み、関連知識を習得する。また、ゼミでの報告を通じて文献の読み方と要約・発表の技法を身につける。さらに、研究とは何か、リサーチクエスチョンはどのように設定するのか、調査や分析はどう行うのか、論文はどう書くのか、といった卒業論文の執筆に関わる基礎的な事項を学ぶ。 後期：各自の研究関心に沿った文献を検討し、問題意識を明確にする。さらにそれぞれの関心に基づいて基礎的な調査の企画・実施をおこない、得られた成果を報告する。	授業の復習、発表準備、レポートの作成
3	〃	ゼミナールⅢ（４年次）１回～３０回 各自の問題意識をもとに文献を読み、先行研究の到達点を知る。さらにリサーチクエスチョンを設定して、それを検証するための発展的な調査の企画・実施をおこない、その成果を卒業論文としてまとめる。	授業の復習、発表準備、レポートの作成

2026 年度

4

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	㉙	30		

5

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	・	1	2
③	④	⑤	⑥	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6

日	月	火	水	木	金	土
・	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

7

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	⑳	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	・	・	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	⑪	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9

日	月	火	水	木	金	土
・	・	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	㉑	㉒	㉓	24	25	26
27	28	29	30			

10

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	⑫	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

11

日	月	火	水	木	金	土
1	2	③	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	㉓	24	25	26	27	28
29	30					

12

日	月	火	水	木	金	土
・	・	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

1

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	・	①	2
3	4	5	6	7	8	9
10	⑪	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2

日	月	火	水	木	金	土
・	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	⑪	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	㉓	24	25	26	27
28						

3

日	月	火	水	木	金	土
・	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
㉑	㉒	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2027 年度

4

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	㉙	30	

5

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	・	・	1
2	③	④	⑤	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

6

日	月	火	水	木	金	土
・	・	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

7

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	⑲	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

8

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	⑪	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

9

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	⑳	21	22	㉓	24	25
26	27	28	29	30		

10

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	・	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	⑪	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

11

日	月	火	水	木	金	土
・	1	2	③	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	㉓	24	25	26	27
28	29	30				

12

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

1

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	・	・	①
2	3	4	5	6	7	8
9	⑩	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2

日	月	火	水	木	金	土
・	・	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	⑪	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	㉓	24	25	26
27	28	29				

3

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	⑳	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

〒891－2393　鹿児島県鹿屋市白水町１番地
鹿　屋　体　育　大　学
編集・発行：教務委員会
電話　0994 － 46 － 4865（教育支援係）